令 和 7 年 度

決算主要施策の成果報告書

和歌山県紀の川市

地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第２３３条第５項の規定により、令和７年度紀の川市一般会計及び特別会計決算に係る主要施策の成果等について、次のとおり報告します。

令和８年８月２８日

紀の川市長　　岸　本　　健

目　　次

１．令和７年度会計別決算収支の状況 ―――――― 1
２．令和７年度会計別歳入歳出決算の状況 ―――――― 1
３．令和７年度普通会計の状況 ―――――― 3
　１）決算収支の状況 ・・・・・・・・・・ 3
　２）歳入の状況 ・・・・・・・・・・ 5
　３）歳出の状況 ・・・・・・・・・・ 7
４．職員給与費の状況 ―――――― 11
５．地方債の状況 ―――――― 14
　１）地方債現在高の状況 ・・・・・・・・・・ 14
　２）地方債年度別償還予定の状況 ・・・・・・・・・・ 15
６．基金の状況 ―――――― 17
７．一般会計から他会計への繰出金等の状況 ―――――― 18
８．その他資料 ―――――― 19
　１）人口推移 ・・・・・・・・・・ 19
　２）学校別児童生徒数 ・・・・・・・・・・ 19
　３）保育施設別児童数 ・・・・・・・・・・ 20
　４）放課後児童クラブ別児童数 ・・・・・・・・・・ 20
９．一般会計主要施策の成果 ―――――― 21
　［歳入］市税等収納実績に関する科目 ・・・・・・・・・・ 21
　［歳出］　１款　議会費 ・・・・・・・・・・ 28
　　２款　総務費 ・・・・・・・・・・ 30
　　３款　民生費 ・・・・・・・・・・ 120
　　４款　衛生費 ・・・・・・・・・・ 176
　　５款　労働費 ・・・・・・・・・・ 209
　　６款　農林業費 ・・・・・・・・・・ 212
　　７款　商工費 ・・・・・・・・・・ 245
　　８款　土木費 ・・・・・・・・・・ 260
　　９款　消防費 ・・・・・・・・・・ 294
　　１０款　教育費 ・・・・・・・・・・ 305
　　１１款　災害復旧費 ・・・・・・・・・・ 352
10．特別会計主要施策の成果 ―――――― 355
　国民健康保険事業勘定特別会計 ・・・・・・・・・・ 355
　国民健康保険直営診療施設勘定特別会計 ・・・・・・・・・・ 360
　後期高齢者医療特別会計 ・・・・・・・・・・ 362
　介護保険事業勘定特別会計 ・・・・・・・・・・ 367
　財産区特別会計 ・・・・・・・・・・ 372

１．令和７年度会計別決算収支の状況

区　　分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)－(B) (C)	翌年度繰越財源 (D)	実質収支 (C)－(D) (E)
一般会計	36,864,785,762	35,150,870,109	1,713,915,653	470,432,684	1,243,482,969
土地取得事業特別会計	1,516,777	1,516,777			
国民健康保険事業勘定特別会計	7,288,410,787	7,231,986,378	56,424,409		56,424,409
国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	105,708,821	105,708,821			
後期高齢者医療特別会計	2,132,133,697	2,127,389,702	4,743,995		4,743,995
介護保険事業勘定特別会計	7,620,382,227	7,458,860,501	161,521,726		161,521,726
財産区特別会計	14,680,096	9,856,380	4,823,716		4,823,716

２．令和７年度会計別歳入歳出決算の状況

区　　分	令和７年度				
	予算現額(A)	歳入決算額(B)	収入率(B)÷(A)	歳出決算額(C)	執行率(C)÷(A)
一般会計	38,355,207,000	36,864,785,762	96.1	35,150,870,109	91.6
土地取得事業特別会計	1,600,000	1,516,777	94.8	1,516,777	94.8
国民健康保険事業勘定特別会計	7,625,561,000	7,288,410,787	95.6	7,231,986,378	94.8
国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	107,102,000	105,708,821	98.7	105,708,821	98.7
後期高齢者医療特別会計	2,146,246,000	2,132,133,697	99.3	2,127,389,702	99.1
介護保険事業勘定特別会計	7,605,899,000	7,620,382,227	100.2	7,458,860,501	98.1
財産区特別会計	16,610,000	14,680,096	88.4	9,856,380	59.3

（単位：円）

前年度実質収支 （F）	単年度収支 （E）－（F）　（G）	積立金積立額 （H）	繰上償還金 （I）	積立金取崩額 （J）	実質単年度収支 (G)+(H)+(I)-(J)
1,082,989,030	160,493,939	73,176,000			233,669,939
61,366,591	△ 4,942,182	933,000		22,710,000	△ 26,719,182
4,369,609	374,386				374,386
214,441,800	△ 52,920,074	58,209,000			5,288,926
6,216,453	△ 1,392,737	2,193,000		774,000	26,263

備考：１）普通会計に属さない特別会計の積立金積立額・取崩額は、全ての基金を考慮しています。

令　和　6　年　度		増　減　比　較			
歳入決算額(D)	歳出決算額(E)	歳入増減額(B)-(D)	歳入増減率	歳出増減額(C)-(E)	歳出増減率
34,818,813,112	33,490,606,082	2,045,972,650	5.9	1,660,264,027	5.0
9,889,318	9,889,318	△ 8,372,541	△ 84.7	△ 8,372,541	△ 84.7
7,364,537,217	7,303,170,626	△ 76,126,430	△ 1.0	△ 71,184,248	△ 1.0
79,879,305	77,814,205	25,829,516	32.3	27,894,616	35.8
2,045,972,959	2,041,603,350	86,160,738	4.2	85,786,352	4.2
7,568,587,695	7,354,145,895	51,794,532	0.7	104,714,606	1.4
21,426,944	15,210,491	△ 6,746,848	△ 31.5	△ 5,354,111	△ 35.2

３．令和７年度普通会計の状況　（地方財政状況調査の速報値）

１）決算収支の状況

区　　分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)－(B)　(C)	翌年度繰越財源　(D)	実質収支 (C)－(D)　(E)
令和７年度	36,856,766	35,142,850	1,713,916	470,433	1,243,483
令和６年度	34,811,032	33,482,825	1,328,207	245,218	1,082,989

◇ 普通会計決算における純計決算額の算定明細

		歳入		
		決　算　額	左のうち相互重複	
			相手会計名	金額
一　般　会　計		36,855,250		
計		ア 36,855,250		イ
普通会計を構成する特別会計	土地取得事業特別会計	1,516		
計		オ 1,516		カ
普　通　会　計		(ア-イ+オ-カ) 36,856,766		

備考：１）後期高齢者医療において、一般会計で処理した一部分が、「地方財政状況調査」の作成要項（取り扱い）と異なるため、歳入決算額および歳出決算額が実質数値と異なっています。

◇ 主な財政分析指標　（単位：%）

区　　分		令和７年度	令和６年度
実質収支比率		6.6	5.9
経常収支比率		95.3	96.6
うち	人件費	25.6	25.6
	物件費	14.5	15.0
	扶助費	10.3	11.0
	補助費等	16.7	16.7
	公債費	14.7	15.0
財政力指数		0.41	0.42

（単位：千円）

単年度収支 (F)	財政調整基金 積立額 (G)	繰上償還金 (H)	財政調整基金 取崩額 (I)	実質単年度収支 (F)+(G)+(H)-(I)
160,494	73,176			233,670
△ 92,408	123,649			31,241

（単位：千円）

歳出		
決算額	左のうち相互重複	
	相手会計名	金額
35,141,334		
ウ 35,141,334		エ
1,516		
キ 1,516		ク
(ウ-エ+キ-ク) 35,142,850		

◇ 将来にわたる財政負担　（単位：千円、％）

区分		令和７年度	令和６年度	増減率
地方債現在高 (A)		23,131,467	22,851,857	1.2
債務負担行為の翌年度以降支出予定額 (B)		4,848,451	6,831,654	△ 29.0
積立金現在高 (C)		14,083,964	14,083,547	0.0
うち	財政調整基金	6,341,891	6,268,715	1.2
	減債基金	3,480,260	3,269,441	6.4
	その他目的基金	4,261,813	4,545,391	△ 6.2
(A)＋(B)－(C) (D)		13,895,954	15,599,964	△ 10.9
標準財政規模 (E)		18,884,583	18,329,566	3.0
対標準財政規模	((A)＋(B))/(E)	1.5	1.6	
	(C)/(E)	0.7	0.8	
	(D)/(E)	0.7	0.9	

２）歳入の状況

区　　分	令　和　7　年　度						
	決　算　額 (A)	うち臨時的なもの(B)		差引経常的なもの (A)－(B)	左　の　内　訳		決算額構成比 (%)
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
１．地　方　税	7,249,127		355,087	6,894,040		6,894,040	19.7
２．地方譲与税	305,643			305,643		305,643	0.8
３．利子割交付金	15,761			15,761		15,761	0.0
４．配当割交付金	88,267			88,267		88,267	0.2
５．株式等譲渡所得割交付金	135,998			135,998		135,998	0.4
６．地方消費税交付金	1,576,116			1,576,116		1,576,116	4.3
７．ゴルフ場利用税交付金	27,699			27,699		27,699	0.1
８．自動車税環境性能割交付金	33,197			33,197		33,197	0.1
９．法人事業税交付金	86,990			86,990		86,990	0.2
１０．地方特例交付金等	58,257			58,257		58,257	0.2
１１．地方交付税	11,108,803		1,095,812	10,012,991		10,012,991	30.1
１２．交通安全対策特別交付金	3,789			3,789		3,789	0.0
１３．分担金及び負担金	187,358	37,980	105	149,273	149,273		0.5
１４．使　用　料	95,029	736	3,024	91,269	81,459	9,810	0.3
１５．手　数　料	134,041			134,041	134,041		0.4
１６．国庫支出金	5,181,303	735,033	696,800	3,749,470	3,749,470		14.1
１７．県支出金	2,519,117	492,132	69,697	1,957,288	1,957,288		6.8
１８．財産収入	95,016	43,780	19,093	32,143	12,696	19,447	0.3
１９．寄　附　金	2,079,246	10,000	2,069,246				5.6
２０．繰　入　金	1,097,575	677,575	420,000				3.0
２１．繰　越　金	1,328,207	195,925	1,132,282				3.6
２２．諸　収　入	419,427	21,028	199,262	199,137	118,287	80,850	1.1
内訳 収益事業収入							
内訳 貸付金元利収入	3,861		3,861				0.0
内訳 そ　の　他	415,566	21,028	195,401	199,137	118,287	80,850	1.1
２３．地　方　債	3,030,800	3,030,800					8.2
うち 県貸付金							
うち 減収補填債特例分							
うち 臨時財政対策債							
歳　入　合　計	36,856,766	5,244,989	6,060,408	25,551,369	6,202,514	19,348,855	100.0
歳入構成比　(%)	100.0	14.2	16.5	69.3	16.8	52.5	

（R6→R7、増減〔＋：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円）

令和6年度 決算額（C）	左のうち 経常一般財源	決算額構成比（%）	増減率 (A)－(C)／(C)（%）	主な増減内容
6,734,591	6,384,886	19.3	7.6	個人市民税（所得割、現年分）の増　2,228,395→2,567,345　＋338,950 法人市民税（法人税割、現年分）の減　207,294→198,112　△9,182
300,991	300,991	0.9	1.5	自動車重量譲与税額の増　203,698→210,045　＋6,347
3,958	3,958	0.0	298.2	利子課税額の増加による増
92,806	92,806	0.3	△4.9	配当課税額の減少による減
109,054	109,054	0.3	24.7	株式等譲渡所得課税額の増加による増
1,459,482	1,459,482	4.2	8.0	消費税・地方消費税額の増加による増
28,925	28,925	0.1	△4.2	ゴルフ場利用税額の減少による減
36,642	36,642	0.1	△9.4	自動車税環境性能割額の減少による減
88,096	88,096	0.2	△1.3	法人事業税額の減少による減
307,905	307,905	0.9	△81.1	定額減税減収補填特例交付金の減　242,124→833　△241,291
10,759,774	9,714,450	30.9	3.2	普通交付税の増　9,714,450→10,012,991　＋298,541 特別交付税の増　1,045,324→1,095,812　＋50,488
3,900	3,900	0.0	△2.8	交通反則金収入の減少による減
175,371		0.5	6.8	保育所保育料（私立、現年分）の増　29,945→40,416　＋10,471 県営農業競争力強化基盤整備事業分担金の減　24,750→20,850　△3,900
92,874	9,812	0.3	2.3	保育所保育料（公立、現年分）の増　22,579→27,304　＋4,725 改良住宅使用料の減　24,602→23,710　△892
144,193		0.4	△7.0	し尿処理手数料の減　41,948→37,452　△4,496 屋外広告物手数料の増　507→1,003　＋496
5,066,151		14.5	2.3	児童手当負担金の増　636,287→857,353　＋221,066 物価高対応子育て応援手当支給事業費補助金の増　0→155,020　＋155,020 国県支出金過年度収入の減　382,820→69,345　△313,475
2,353,071		6.8	7.1	障害者自立支援給付費負担金の増　440,192→498,938　＋58,746 公立学校給食費無償化事業補助金の増　43,488→95,728　＋52,240 防災重点農業用ため池緊急整備事業補助金の減　57,269→14,340　△42,929
97,226	19,653	0.3	△2.3	土地建物売払収入の減　40,036→13,824　△26,212 財政調整基金預金利子の増　1,444→7,874　＋6,430
1,357,161		3.9	53.2	ふるさとまちづくり寄附金の増　1,356,150→2,065,389　＋709,239
822,476		2.4	33.4	公共施設等整備基金繰入金の増　200,000→330,000　＋130,000 地域振興基金繰入金の増　183,000→293,000　＋110,000
2,038,011		5.8	△34.8	前年度繰越金の減
403,574	75,647	1.2	3.9	
7,205		0.0	△46.4	宅地取得資金元利収入の減　3,181→1,124　△2,057
396,369	75,647	1.1	4.8	雑入（企業立地促進助成金返還金）の増　0→28,259　＋28,259 岩室池機能回復補償金の増　0→14,286　＋14,286
2,334,800		6.7	29.8	田中小学校整備事業債の増　374,800→1,259,900　＋885,100 市営住宅整備事業債の増　0→146,400　＋146,400 現年発生公共土木施設災害復旧事業債の減　225,100→18,600　△206,500
48,300		0.1	△100.0	臨時財政対策債の減　48,300→0　△48,300
34,811,032	18,636,207	100.0	5.9	
100.0	53.5			

3）歳出の状況

◇ 目的別

区　　分	令和7年度					令和6年度		
	決算額 (A)	左の内訳 特定財源	左の内訳 一般財源	一般財源のうち投資的経費充当額	決算額構成比 (%)	決算額 (B)	左のうち一般財源	決算額構成比 (%)
１．議　会　費	220,069		220,069		0.6	216,359	216,359	0.6
２．総　務　費	5,858,036	757,749	5,100,287	61,870	16.7	5,303,392	4,675,869	15.8
３．民　生　費	12,308,674	5,803,810	6,504,864	4,191	35.0	12,223,563	7,013,630	36.5
４．衛　生　費	2,790,851	263,116	2,527,735	42,534	8.0	2,946,370	2,591,642	8.8
５．労　働　費	26,794		26,794		0.1	27,991	27,991	0.1
６．農林業費	1,134,686	510,930	623,756	125,519	3.2	1,145,364	620,250	3.5
７．商　工　費	664,751	126,039	538,712	91,471	1.9	499,694	411,371	1.5
８．土　木　費	2,644,826	1,020,661	1,624,165	251,716	7.5	2,396,188	1,714,291	7.2
９．消　防　費	1,434,288	206,781	1,227,507	18,067	4.1	1,307,625	1,108,622	3.9
１０．教　育　費	5,121,009	2,680,727	2,440,282	153,771	14.6	3,794,253	2,440,464	11.3
１１．災害復旧費	80,068	62,747	17,321	17,321	0.2	804,371	47,813	2.4
１２．公　債　費	2,858,798	14,943	2,843,855		8.1	2,817,655	2,802,670	8.4
１３．諸支出金								
１４．前年度繰上充用金								
歳　出　合　計	35,142,850	11,447,503	23,695,347	766,460	100.0	33,482,825	23,670,972	100.0

（R6→R7、増減〔＋：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円）

増減率 (A)－(B) / (B) (%)	主 な 増 減 内 容
1.7	議会秘書事業費の増　2,648→2,761　＋113 議会運営事業費の減　165,175→164,444　△731
10.5	公共施設等整備基金積立金の増　101,127→405,451　＋304,324 ふるさとまちづくり寄附金事業費の増　825,922→961,624　＋135,702 電算システム更新事業費の減　215,542→56,448　△159,094
0.7	定額減税補足給付金給付事業（不足額給付）費の増　0→247,959　＋247,959 児童手当給付事業費の増　849,433→1,075,120　＋225,687 低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業費の減　781,641→0　△781,641
△ 5.3	感染症対策事業費の減　314,051→212,943　△101,108 水道事業繰出金の減　157,229→114,228　△43,001 紀の海広域施設組合事業費の増　390,174→410,698　＋20,524
△ 4.3	働き方改革推進支援事業費の減　762→200　△562
△ 0.9	防災重点農業用ため池緊急整備事業費の減　62,853→17,945　△44,908 県営ため池等整備事業費の減　80,580→45,649　△34,931 農業水路等長寿命化・防災減災事業費の増　14,091→58,311　44,220
33.0	商工振興事業費の増　112,135→256,515　＋144,380 新事業用団地造成事業費の増　102,874→122,072　＋19,198 観光施設管理運営事業費の減　18,364→6,879　△11,485
10.4	市営住宅整備事業費の増　21,881→259,126　＋237,245 市道等維持修繕事業費の増　205,781→375,043　＋169,262 主要幹線道路整備事業費の減　150,462→65,202　△85,260
9.7	那賀消防組合事業費の増　718,441→803,160　＋84,719 消防施設整備事業費の増　74,220→137,472　＋63,252 危機管理対策事業費の減　72,031→27,640　△44,391
35.0	田中小学校改築事業費の増　516,129→1,899,297　＋1,383,168 小学校施設長寿命化事業費の増　31,626→129,702　＋98,076 中学校施設長寿命化事業費の減　132,640→17,458　△115,182
△ 90.0	土木施設災害復旧事業費の減　693,522→72,394　△621,128 農業用施設災害復旧事業費の減　61,652→0　△61,652
1.5	地方債管理事業（元金）費の増　2,728,644→2,751,190　＋22,546 地方債管理事業（利子）費の増　89,011→107,608　＋18,597
5.0	

◇ 性質別

区分	令和7年度							
	決算額 (A)	左のうち臨時的なもの(B)		差引経常的なもの (A)－(B)	左の内訳		決算額構成比 (%)	経常収支比率 (%)
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		
1．人件費 (ｱ)	5,520,201	113,577	160,972	5,245,652	290,243	4,955,409	15.7	25.6
2．物件費	5,206,223	368,373	1,593,450	3,244,400	435,749	2,808,651	14.8	14.5
3．維持補修費	245,618			245,618	21,889	223,729	0.7	1.2
4．扶助費	7,266,003	327,008	295,453	6,643,542	4,656,900	1,986,642	20.7	10.3
5．補助費等	4,362,322	140,685	771,716	3,449,921	210,307	3,239,614	12.4	16.7
内訳 一部事務組合に対するもの	1,535,225	21,200	35,172	1,478,853		1,478,853	4.4	7.6
内訳 その他のもの	2,827,097	119,485	736,544	1,971,068	210,307	1,760,761	8.0	9.1
6．公債費	2,858,798			2,858,798	14,943	2,843,855	8.1	14.7
内訳 元利償還金	2,858,798			2,858,798	14,943	2,843,855	8.1	14.7
内訳 一時借入金利子								
7．積立金	1,096,417	42,264	1,054,153				3.1	
8．投資及び出資金・貸付金	630,800	111,600	483,754	35,446		35,446	1.8	0.2
9．繰出金	3,056,042	7,516	122,412	2,926,114	572,483	2,353,631	8.7	12.2
10．前年度繰上充用金								
計 （1～10）	30,242,424	1,111,023	4,481,910	24,649,491	6,202,514	18,446,977	86.0	95.3
11．投資的経費	4,900,426	4,133,966	766,460				14.0	(4.0)
うち人件費 (ｲ)	110,061		110,061				0.3	(0.6)
（1）普通建設事業費	4,820,358	4,071,219	749,139				13.8	(3.9)
うち補助事業費	1,192,620	1,087,672	104,948				3.4	(0.5)
うち単独事業費	3,508,067	2,868,797	639,270				10.0	(3.3)
（2）災害復旧事業費	80,068	62,747	17,321				0.2	(0.1)
歳出合計	35,142,850	5,244,989	5,248,370	24,649,491	6,202,514	18,446,977	100.0	
うち人件費 (ｱ)＋(ｲ)	5,630,262	113,577	271,033	5,245,652	290,243	4,955,409	16.0	
歳出構成比 (%)	100.0	14.9	14.9	70.2	17.7	52.5		

（R6→R7、増減〔＋：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円）

令和6年度 決算額（C）	左のうち 経常一般財源	決算額構成比（%）	増減率 (A)－(C)／(C)（%）	主な増減内容
5,156,525	4,775,514	15.4	7.1	会計年度任用職員報酬の増　758,323→833,354　＋75,031 総合事務組合負担金（退職手当特別負担金）の増　55,225→125,055　＋69,830 扶養手当の減　48,128→45,290　△2,838
5,028,993	2,795,267	15.0	3.5	ふるさとまちづくり寄附金特産品等贈呈委託料の増　768,841→854,047　＋85,206 固定資産更新業務委託料の増　23,100→60,687　＋37,587 電算システム更新事業機械器具購入費の減　169,914→990　△168,924
175,084	145,942	0.5	40.3	水防事業施設・器具修繕料の増　0→74,688　＋74,688 市道等維持修繕事業施設・器具修繕料の増　0→10,524　＋10,524 保育所運営管理事業施設・器具修繕料の減　16,334→10,017　△6,317
7,385,961	2,057,230	22.1	△ 1.6	定額減税補足給付金の減　461,650→0　△461,650 低所得者支援給付金の減　290,050→0　△290,050 定額減税補足給付金（不足額給付）の増　0→226,850　＋226,850
4,145,582	3,120,835	12.4	5.2	
1,436,721	1,392,524	4.3	6.9	那賀消防組合負担金の増　718,441→803,160　＋84,719 五色台広域施設組合負担金の減　67,854→63,649　△4,205
2,708,861	1,728,311	8.1	4.4	こども未来応援デジタル商品券事業交付金の増　0→79,043　＋79,043 紀の川デマンド乗合交通運行補助金の増　3,881→20,891　＋17,010 予防接種健康被害救済給付費の減　44,681→0　△44,681
2,817,655	2,802,670	8.4	1.5	
2,817,655	2,802,670	8.4	1.5	地方債管理事業（元金）費の増　2,728,644→2,751,190　＋22,546 地方債管理事業（利子）費の増　89,011→107,608　＋18,597
927,127		2.8	18.3	公共施設等整備基金積立金の増　101,127→405,451　＋304,324 地域振興基金積立金の増　1,012→5,519　＋4,507 減債基金積立金の減　698,759→610,819　△87,940
688,663	34,812	2.1	△ 8.4	水道事業会計出資金の減　146,534→109,523　△37,011 下水道事業会計出資金の減　542,129→521,277　△20,852
3,021,690	2,325,257	9.0	1.1	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計繰出金の増　22,860→40,682　＋17,822 国民健康保険事業勘定特別会計繰出金の増　513,382→523,910　＋10,528 土地開発基金繰出金の減　9,889→1,516　△8,373
29,347,280	18,057,527	87.7	3.1	
4,135,545		12.3	18.5	
113,692		0.3	△ 3.2	土木施設災害復旧事業会計年度任用職員人件費の減　8,409→3,750　△4,659 道路橋りょう新設改良費人件費の減　30,341→27,160　△3,181
3,331,174		9.9	44.7	
706,111		2.1	68.9	田中小学校改築事業費（補助事業分）の増　63,603→301,431　＋237,828 市営住宅整備事業費の増　0→211,964　＋211,964 中学校施設長寿命化事業費の減　132,640→8,438　△124,202
2,470,872		7.3	42.0	田中小学校改築事業費（単独事業分）の増　452,526→1,597,531　＋1,145,005 市道等維持修繕事業費の増　99,701→226,928　＋127,227 体育施設管理運営事業費の減　150,171→16,309　△133,862
804,371		2.4	△ 90.0	土木施設災害復旧事業費の減　693,522→72,394　△621,128 農業用施設災害復旧事業費の減　61,652→0　△61,652
33,482,825	18,057,527	100.0	5.0	
5,270,217	4,775,514	15.7	6.8	
100.0	53.9			

４．職員給与費の状況

〔一般会計〕　　（単位：人、円）

区　　分			令和７年度	令和６年度	増　減
職員数			874	861	13
	特別職		3	3	0
	一般職		871	858	13
		会計年度任用職員以外の職員	502	502	0
		会計年度任用職員	369	356	13
総額			5,553,711,764	5,202,694,383	351,017,381
	報酬		838,625,221	768,191,231	70,433,990
		会計年度任用職員報酬	838,625,221	768,191,231	70,433,990
	給料		2,068,293,702	2,006,789,207	61,504,495
		特別職給	25,920,000	25,142,400	777,600
		一般職給	2,042,373,702	1,981,646,807	60,726,895
	手当		1,815,380,884	1,640,144,261	175,236,623
		扶養手当	49,577,008	53,623,975	△ 4,046,967
		住居手当	16,959,346	15,514,116	1,445,230
		特別職通勤手当	50,400	58,400	△ 8,000
		通勤手当	30,149,000	28,360,770	1,788,230
		単身赴任手当	648,000	648,000	0
		特殊勤務手当	1,792,000	2,168,000	△ 376,000
		時間外勤務手当	144,133,793	109,974,592	34,159,201
		管理職員特別勤務手当	210,500	922,000	△ 711,500
		管理職手当	108,300,000	101,280,000	7,020,000
		特別職期末手当	10,584,000	10,119,816	464,184
		期末手当	463,109,024	448,980,916	14,128,108
		会計年度任用職員期末手当	163,285,489	149,553,821	13,731,668
		勤勉手当	378,701,493	364,907,881	13,793,612
		会計年度任用職員勤勉手当	136,354,973	124,365,072	11,989,901
		児童手当	32,340,000	24,905,000	7,435,000
		総合事務組合負担金（退職手当特別職）	7,257,600	7,039,872	217,728
		総合事務組合負担金（退職手当）	144,288,919	140,149,285	4,139,634
		総合事務組合負担金（退職手当特別負担金）	125,055,379	55,224,603	69,830,776
		地域手当	2,583,960	2,348,142	235,818
	共済費		831,411,957	787,569,684	43,842,273
		職員共済組合負担金特別職	6,781,703	5,262,584	1,519,119
		職員共済組合負担金	630,412,355	602,791,137	27,621,218
		職員共済組合負担金追加費用	24,682,380	27,220,752	△ 2,538,372
		職員共済組合負担金払込金	11,267	67,123	△ 55,856
		職員共済組合負担金特定検診負担金	104,760	78,840	25,920
		会計年度任用職員共済組合負担金	66,176,850	60,531,485	5,645,365
		会計年度任用職員共済組合負担金特定検診負担金	56,454	41,464	14,990
		社会保険料負担金	103,186,188	91,576,299	11,609,889

備考：１）時間外勤務手当は、選挙事務に係る手当を含んでいます。

〔特別会計〕　（単位：人、円）

区　　分			令和７年度	令和６年度	増　減
職員数（一般職）			43	41	2
	会計年度任用職員以外の職員		7	7	0
	会計年度任用職員		36	34	2
総額			208,290,034	175,060,268	33,229,766
	報酬		101,030,297	85,259,488	15,770,809
		会計年度任用職員報酬	101,030,297	85,259,488	15,770,809
	給料		24,341,661	20,549,700	3,791,961
		一般職給	24,341,661	20,549,700	3,791,961
	手当		53,810,812	45,290,188	8,520,624
		扶養手当	484,890	396,000	88,890
		住居手当	383,500	0	383,500
		通勤手当	245,800	350,000	△ 104,200
		時間外勤務手当	2,202,640	1,222,764	979,876
		管理職手当	1,040,000	1,200,000	△ 160,000
		期末手当	5,383,091	4,884,570	498,521
		会計年度任用職員期末手当	20,573,977	17,455,156	3,118,821
		勤勉手当	4,444,613	3,864,408	580,205
		会計年度任用職員勤勉手当	16,872,835	14,123,815	2,749,020
		児童手当	360,000	240,000	120,000
		総合事務組合負担金（退職手当）	1,819,466	1,553,475	265,991
	共済費		29,107,264	23,960,892	5,146,372
		職員共済組合負担金	7,627,140	6,263,264	1,363,876
		会計年度任用職員共済組合負担金	8,539,467	7,189,723	1,349,744
		社会保険料負担金	12,940,657	10,507,905	2,432,752

備考：２）国民健康保険事業勘定特別会計および介護保険事業勘定特別会計が対象です。

〔公営企業会計〕　（単位：人、円）

区　　分			令和７年度	令和６年度	増　減
職員数（一般職）			30	31	△ 1
	会計年度任用職員以外の職員		29	30	△ 1
	会計年度任用職員		1	1	0
総額			247,376,504	238,441,971	8,934,533
	報酬		2,781,752	2,628,362	153,390
		会計年度任用職員報酬	2,781,752	2,628,362	153,390
	給料		121,786,853	118,845,585	2,941,268
		一般職給	121,786,853	118,845,585	2,941,268
		会計年度任用職員給	0	0	0
	手当		83,996,242	80,429,516	3,566,726
		扶養手当	5,444,000	4,717,430	726,570
		住居手当	756,000	1,213,200	△ 457,200
		通勤手当	1,338,400	1,617,900	△ 279,500
		会計年度任用職員通勤手当	0	0	0
		時間外勤務手当	3,605,638	2,964,026	641,612
		管理職員特別勤務手当	104,000	0	104,000
		管理職手当	7,800,000	7,800,000	0
		期末手当	28,613,284	27,510,156	1,103,128
		会計年度任用職員期末手当	615,039	581,851	33,188
		勤勉手当	22,979,913	22,283,708	696,205
		会計年度任用職員勤勉手当	492,031	488,755	3,276
		児童手当	3,680,000	2,860,000	820,000
		総合事務組合負担金（退職手当）	8,567,937	8,392,490	175,447
	共済費		38,811,657	36,538,508	2,273,149
		職員共済組合負担金	38,201,086	35,957,233	2,243,853
		会計年度任用職員共済組合負担金	241,012	238,058	2,954
		社会保険料負担金	369,559	343,217	26,342

備考：３）水道事業会計、工業用水道事業会計および下水道事業会計が対象です。

〔全会計〕　　（単位：人、円）

区　　分			令和７年度	令和６年度	増　減
職員数			947	933	14
	特別職		3	3	0
	一般職		944	930	14
		会計年度任用職員以外の職員	538	539	△ 1
		会計年度任用職員	406	391	15
総額			6,009,378,302	5,616,196,622	393,181,680
	報酬		942,437,270	856,079,081	86,358,189
		会計年度任用職員報酬	942,437,270	856,079,081	86,358,189
	給料		2,214,422,216	2,146,184,492	68,237,724
		特別職給	25,920,000	25,142,400	777,600
		一般職給	2,188,502,216	2,121,042,092	67,460,124
		会計年度任用職員給	0	0	0
	手当		1,953,187,938	1,765,863,965	187,323,973
		扶養手当	55,505,898	58,737,405	△ 3,231,507
		住居手当	18,098,846	16,727,316	1,371,530
		特別職通勤手当	50,400	58,400	△ 8,000
		通勤手当	31,733,200	30,328,670	1,404,530
		会計年度任用職員通勤手当	0	0	0
		単身赴任手当	648,000	648,000	0
		特殊勤務手当	1,792,000	2,168,000	△ 376,000
		時間外勤務手当	149,942,071	114,161,382	35,780,689
		管理職員特別勤務手当	314,500	922,000	△ 607,500
		管理職手当	117,140,000	110,280,000	6,860,000
		特別職期末手当	10,584,000	10,119,816	464,184
		期末手当	497,105,399	481,375,642	15,729,757
		会計年度任用職員期末手当	184,474,505	167,590,828	16,883,677
		勤勉手当	406,126,019	391,055,997	15,070,022
		会計年度任用職員勤勉手当	153,719,839	138,977,642	14,742,197
		児童手当	36,380,000	28,005,000	8,375,000
		総合事務組合負担金（退職手当特別職）	7,257,600	7,039,872	217,728
		総合事務組合負担金（退職手当）	154,676,322	150,095,250	4,581,072
		総合事務組合負担金（退職手当特別負担金）	125,055,379	55,224,603	69,830,776
		地域手当	2,583,960	2,348,142	235,818
	共済費		899,330,878	848,069,084	51,261,794
		職員共済組合負担金特別職	6,781,703	5,262,584	1,519,119
		職員共済組合負担金	676,240,581	645,011,634	31,228,947
		職員共済組合負担金追加費用	24,682,380	27,220,752	△ 2,538,372
		職員共済組合負担金払込金	11,267	67,123	△ 55,856
		職員共済組合負担金特定検診負担金	104,760	78,840	25,920
		会計年度任用職員共済組合負担金	74,957,329	67,959,266	6,998,063
		会計年度任用職員共済組合負担金特定検診負担金	56,454	41,464	14,990
		社会保険料負担金	116,496,404	102,427,421	14,068,983

〔職員給与費を構成する期末手当支給率等〕

区　　分	令和７年度	令和６年度	増　減
期末手当支給率	2.525月	2.50月	0.025月
勤勉手当支給率	2.125月	2.10月	0.025月
総合事務組合退職手当負担金率	70/1000	70/1000	0/1000
職員共済組合負担金率（40歳以上）	202.6639/1000	197.0353/1000	5.6286/1000
職員共済組合負担金率（40歳未満）	195.0639/1000	188.3353/1000	6.7286/1000
職員共済組合追加費用率	10.1/1000	11.1/1000	△1.0/1000

５．地方債の状況

１）地方債現在高の状況

〔 一般会計 〕

◇ 事業別

（単位：千円）

区　　分	令和６年度末 現　在　高	令和７年度 発　行　額	令和７年度 償　還　額	令和７年度末 現　在　高
１．公共事業等債	619,908	84,000	94,671	609,237
２．防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債	329,528	57,700	24,873	362,355
３．公営住宅建設事業債		164,400		164,400
４．災害復旧事業債	411,540	20,500	101,040	331,000
５．(旧)緊急防災・減災事業債				
６．全国防災事業債	131,950		13,675	118,275
７．教育・福祉施設等整備事業債	549,379	1,324,100	63,237	1,810,242
８．一般単独事業債	12,901,667	670,900	1,438,617	12,133,950
うち地域活性化事業債	273,660	5,700	52,850	226,510
うち防災対策事業債	8,400		550	7,850
うち合併特例事業債	11,071,525	205,400	1,151,960	10,124,965
うち(新)緊急防災・減災事業債	678,851	143,300	100,106	722,045
うち公共施設等適正管理推進事業債	653,790	61,600	80,480	634,910
うち緊急自然災害防止対策事業債	54,500	16,000	3,050	67,450
うち脱炭素化推進事業債	140,200	238,900	30,290	348,810
９．辺地対策事業債	72,400	29,700	8,905	93,195
１０．過疎対策事業債	2,440,790	601,000	275,920	2,765,870
１１．公共用地先行取得等事業債				
１２．行政改革推進債				
１３．厚生福祉施設整備事業債				
１４．退職手当債(～平成17年度分)				
１５．退職手当債(平成18年度～)				
１６．国の予算貸付・政府関係機関貸付債				
１７．地域改善対策特定事業債				
１８．財源対策債	365,886	78,500	34,488	409,898
１９．減収補填債	7,400		7,400	
２０．臨時財政特例債				
２１．公共事業等臨時特例債				
２２．減税補填債	11,947		8,440	3,507
２３．臨時税収補填債				
２４．臨時財政対策債	4,918,532		664,714	4,253,818
２５．調整債（令和1～5年度分）				
２６．減収補填債特例分				
２７．県貸付金				
２８．猶予特例債				
２９．特別減収対策債				
３０．その他	90,930		15,210	75,720
合　　計	22,851,857	3,030,800	2,751,190	23,131,467

備考：１）区分の分類は、地方財政状況調査（決算統計）に準じて作成しています。

◇ 予算説明別

（単位：千円）

区　　分	令和６年度末 現　在　高	令和７年度 発　行　額	令和７年度 償　還　額	令和７年度末 現　在　高
１．普　通　債	17,502,438	3,010,300	1,969,596	18,543,142
（１）総　務　債	1,720,525	254,500	238,040	1,736,985
（２）民　生　債	489,240	20,900	54,905	455,235
（３）衛　生　債	2,424,140	20,400	276,330	2,168,210
（４）農林業債	1,458,201	144,900	119,519	1,483,582
（５）商　工　債	33,110		4,165	28,945
（６）土　木　債	4,636,097	630,200	510,181	4,756,116
（７）消　防　債	580,005	149,800	67,050	662,755
（８）教　育　債	6,161,120	1,789,600	699,406	7,251,314
２．災害復旧債	411,540	20,500	101,040	331,000
（１）補助災害復旧事業債	168,300	17,200	45,940	139,560
（２）単独災害復旧事業債	243,240	3,300	55,100	191,440
３．そ　の　他	4,937,879		680,554	4,257,325
（１）減収補填債	7,400		7,400	
（２）減税補填債	11,947		8,440	3,507
（３）臨時財政対策債	4,918,532		664,714	4,253,818
合　　計	22,851,857	3,030,800	2,751,190	23,131,467

備考：２）区分の分類は、予算書の付属資料に準じて作成しています。

〔国民健康保険直営診療施設勘定特別会計〕　（単位：千円）

区　　分	令和６年度末 現　在　高	令和７年度 発　行　額	令和７年度 償　還　額	令和７年度末 現　在　高
１．辺地対策事業債	75,670	39,600	8,070	107,200
合　　計	75,670	39,600	8,070	107,200

備考：３）区分の分類は、地方財政状況調査（決算統計）に準じて作成しています。

２）地方債年度別償還予定の状況

〔一般会計〕

	令和８年度			令和９年度		
	元　金	利　子	計	元　金	利　子	計
１．政　府　資　金	1,146,471	83,516	1,229,987	1,044,818	83,735	1,128,553
２．地方公共団体金融機構資金	427,332	23,030	450,362	386,427	21,335	407,762
３．市中銀行その他金融機関	1,265,295	54,548	1,319,843	1,236,765	49,312	1,286,077
４．共　　済　　等						
合　　計	2,839,098	161,094	3,000,192	2,668,010	154,382	2,822,392

〔国民健康保険直営診療施設勘定特別会計〕

１．政　府　資　金	12,030	1,251	13,281	12,030	1,200	13,230
合　　計	12,030	1,251	13,281	12,030	1,200	13,230

特別会計合計	12,030	1,251	13,281	12,030	1,200	13,230

総　合　計	2,851,128	162,345	3,013,473	2,680,040	155,582	2,835,622

備考：１）償還予定額は、令和７年度までに借り入れた起債を基に算出しています。

２）資金区分の政府資金には財政融資資金および旧郵政公社資金を、地方公共団体金融機構資金には旧公営企業金融公庫資金および旧公営企業等金融機構資金を、また、ゆうちょ銀行資金は市中銀行欄にそれぞれ分類しています。

（単位：千円）

令和10年度			令和11年度			令和12年度		
元　金	利　子	計	元　金	利　子	計	元　金	利　子	計
960,846	75,682	1,036,528	877,305	67,716	945,021	795,458	60,041	855,499
367,845	18,834	386,679	365,388	16,334	381,722	336,065	13,885	349,950
1,186,825	42,757	1,229,582	1,108,485	36,430	1,144,915	1,045,535	30,253	1,075,788
2,515,516	137,273	2,652,789	2,351,178	120,480	2,471,658	2,177,058	104,179	2,281,237

（単位：千円）

12,030	1,052	13,082	12,030	905	12,935	12,030	757	12,787
12,030	1,052	13,082	12,030	905	12,935	12,030	757	12,787
12,030	1,052	13,082	12,030	905	12,935	12,030	757	12,787
2,527,546	138,325	2,665,871	2,363,208	121,385	2,484,593	2,189,088	104,936	2,294,024

６．基金の状況

（単位：円）

基　　金　　名		令和６年度末 現在高	令和７年度 取崩額	令和７年度 積立額	令和７年度末 現在高
財政調整基金		6,268,715,000	0	73,176,000	6,341,891,000
減債基金		3,269,441,000	400,000,000	610,819,000	3,480,260,000
特定目的基金	中山間ふるさと水と土保全対策基金	43,743,000	0	113,000	43,856,000
	都市計画事業基金	0	0	0	0
	医聖華岡青洲顕彰事業基金	1,988,000	0	5,000	1,993,000
	人材育成基金	23,363,000	9,000,000	61,000	14,424,000
	地域振興基金	2,035,352,000	293,000,000	5,519,000	1,747,871,000
	地域福祉基金	425,376,000	55,000,000	1,171,000	371,547,000
	公共施設等整備基金	1,961,174,000	330,000,000	405,451,000	2,036,625,000
	森林環境譲与税基金	54,395,000	9,000,000	102,000	45,497,000
定額運用基金	土地開発基金	742,016,587	0	1,516,777	743,533,364
	うち現金	544,844,836	0	1,516,777	546,361,613
	うち土地	197,171,751	0	0	197,171,751
普通会計　計		14,825,563,587	1,096,000,000	1,097,933,777	14,827,497,364
特別会計	国民健康保険事業運営基金	359,301,000	22,710,000	933,000	337,524,000
	介護給付費準備基金	587,522,000	0	58,209,000	645,731,000
	池田財産区財政調整基金	147,878,000	0	454,000	148,332,000
	田中財産区財政調整基金	67,197,000	0	598,000	67,795,000
	長田竜門財産区財政調整基金	9,160,000	371,000	20,000	8,809,000
	竜門財産区財政調整基金	261,000	0	13,000	274,000
	南北志野財産区財政調整基金	4,016,000	0	40,000	4,056,000
	飯盛財産区財政調整基金	9,288,000	0	22,000	9,310,000
	静川財産区財政調整基金	2,833,000	0	7,000	2,840,000
	最上、神田、市場、元財産区財政調整基金	28,692,000	0	69,000	28,761,000
	調月財産区財政調整基金	28,500,000	403,000	69,000	28,166,000
	丸栖財産区財政調整基金	21,738,000	0	388,000	22,126,000
	平池財産区財政調整基金	39,675,000	0	513,000	40,188,000
特別会計（普通会計以外）　計		1,306,061,000	23,484,000	61,335,000	1,343,912,000
総　　合　　計		16,131,624,587	1,119,484,000	1,159,268,777	16,171,409,364

７．一般会計から他会計への繰出金等の状況

（単位：千円）

区分	令和７年度	令和６年度	増減
総額	4,036,187	4,101,853	△ 65,666
特別会計	2,840,773	2,802,837	37,936
国民健康保険事業勘定特別会計	523,910	513,382	10,528
繰出金	523,910	513,382	10,528
国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	40,682	22,860	17,822
繰出金	40,682	22,860	17,822
後期高齢者医療特別会計	1,169,890	1,169,202	688
繰出金	1,169,890	1,169,202	688
介護保険事業勘定特別会計	1,106,291	1,097,393	8,898
繰出金	1,106,291	1,097,393	8,898
公営企業会計	1,195,414	1,299,016	△ 103,602
水道事業会計	223,751	303,763	△ 80,012
出資金	109,523	146,534	△ 37,011
負担金	3,627	4,804	△ 1,177
補助金	110,601	56,793	53,808
補助金（繰越明許）	0	95,632	△ 95,632
下水道事業会計	971,663	995,253	△ 23,590
公共下水道事業	928,512	950,700	△ 22,188
出資金	497,777	491,223	6,554
出資金（繰越明許）	0	24,300	△ 24,300
補助金	430,735	435,177	△ 4,442
農業集落排水事業	43,151	44,553	△ 1,402
出資金	23,500	26,606	△ 3,106
補助金	19,651	17,947	1,704

８．その他資料

１）人口推移（住民基本台帳人口：３月末日現在）

（単位：人）

区　　分	人　　口			世帯数	１世帯当たり人口
	男	女	計		
平成１７年	33,759	36,786	70,545	24,010	2.94
平成１８年	33,568	36,606	70,174	24,306	2.89
平成１９年	33,368	36,473	69,841	24,663	2.83
平成２０年	33,051	36,159	69,210	24,795	2.79
平成２１年	32,749	35,902	68,651	24,978	2.75
平成２２年	32,537	35,710	68,247	25,237	2.70
平成２３年	32,252	35,471	67,723	25,465	2.66
平成２４年	32,011	35,184	67,195	25,624	2.62
平成２５年	31,774	35,088	66,862	25,903	2.58
平成２６年	31,467	34,784	66,251	26,055	2.54
平成２７年	31,249	34,510	65,759	26,196	2.51
平成２８年	30,881	34,127	65,008	26,275	2.47
平成２９年	30,508	33,621	64,129	26,346	2.43
平成３０年	30,115	33,160	63,275	26,412	2.40
平成３１年	29,702	32,682	62,384	26,447	2.36
令和２年	29,292	32,210	61,502	26,510	2.32
令和３年	29,011	31,867	60,878	26,576	2.29
令和４年	28,713	31,592	60,305	26,691	2.26
令和５年	28,481	31,322	59,803	26,910	2.22
令和６年	28,278	31,084	59,362	27,159	2.19
令和７年	27,907	30,736	58,643	27,222	2.15
令和８年	27,638	30,419	58,057	27,368	2.12

２）学校別児童生徒数（令和７年５月１日　学校基本調査）

〔小学校〕　（単位：人）

	１年	２年	３年	４年	５年	６年	計
池田小学校	71	61	63	57	65	66	383
田中小学校	75	84	82	73	96	74	484
長田小学校	13	17	14	15	12	17	88
粉河小学校	29	31	32	32	47	37	208
竜門小学校	8	17	12	19	10	14	80
川原小学校	2	3	9	6	7	11	38
名手小学校	38	21	22	30	27	30	168
上名手小学校	0	2	7	5	6	6	26
麻生津小学校	0	0	2	3	6	1	12
安楽川小学校	43	38	42	43	43	43	252
調月小学校	7	6	13	8	8	7	49
中貴志小学校	28	52	30	52	47	54	263
東貴志小学校	8	15	18	15	15	18	89
西貴志小学校	36	39	61	41	59	47	283
丸栖小学校	19	18	15	21	24	22	119
合　計	377	404	422	420	472	447	2,542

〔中学校〕　（単位：人）

	１年	２年	３年	計
打田中学校	132	116	137	385
打田中学校(仙渓分校)	0	3	3	6
粉河中学校	84	73	79	236
那賀中学校	45	40	44	129
荒川中学校	44	59	58	161
貴志川中学校	131	145	154	430
合　計	436	436	475	1,347

3）保育施設別児童数（令和８年３月１日現在）

〔公立（保育所）〕　（単位：人）

	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計	参考(定員)
なるき保育所			16	29	32	28	105	144
こばと保育所	6	20	30	43	44	48	191	252
八王子保育所			4	9	9	11	33	52
中貴志保育所			10	18	21	24	73	90
東貴志保育所		10	11	9	6	7	43	90
西貴志保育所				18	8	20	46	72
丸栖保育所		8	11	8	14	11	52	88
合　計	6	38	82	134	134	149	543	788

〔私立（保育園）〕　（単位：人）

	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計	参考(定員)
粉河保育園	9	21	30	38	41	38	177	240
名手保育園	9	19	15	23	23	30	119	130
安楽川保育園	3	24	26	27	38	30	148	204
山の子共同保育園		4	3	3	2	5	17	20
つたのは保育園	4	8	6				18	20
合　計	25	76	80	91	104	103	479	614

〔私立（認定こども園）〕　（単位：人）

	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計	参考(定員)
レイモンドこども園	6	18	18	20	23	21	106	115
愛の光幼稚園		5	6	14	18	18	61	72
あおば幼稚園			10	23	23	25	81	100
ながやまこども園	6	17	25	26	30	29	133	170
合　計	12	40	59	83	94	93	381	457

〔私立（小規模保育施設）〕　（単位：人）

	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計	参考(定員)
未来保育園		6	6				12	18
ニチイキッズきのかわ保育園	5	8	8				21	19
合　計	5	14	14	0	0	0	33	37

〔私立（幼稚園）〕　（単位：人）

	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計	参考(定員)
智徳幼稚園			3	17	21	21	62	95
合　計	0	0	3	17	21	21	62	95

保育施設合計	48	168	238	325	353	366	1,498	1,991

備考：１）児童数には他市町村からの広域入所を含んでいません。

4）放課後児童クラブ別児童数（令和８年３月１日現在）

（単位：人）

	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	計	参考(定員)
てのひら	32	23	16	11	5	1	88	75
太陽の子	27	31	25	2			85	90
粉河アットホームクラブ	20	19	14	6			59	70
チャレンジ児童クラブ	22	15	13	9			59	80
あらかわ放課後児童クラブ	24	13	12	1			50	60
ももやま放課後児童クラブ	3	3	2	3		2	13	25
こどもくらぶ	11	19	7	4	3	1	45	70
ほたるっこ	5	5	6		2		18	30
西貴志こどもくらぶ	22	11	16	2	1		52	60
丸栖っ子クラブ	9	3	2	1			15	25
合　計	175	142	113	39	11	4	484	585

９．一般会計主要施策の成果

備考：１）「事務事業の概要」欄において、長期総合計画体系に該当しない場合は、政策目標から基本施策までを「99 ***」、取組方針を「9 その他」で表示しています。

備考：２）「指標の実績」欄の各指標において、事前に目標設定することになじまない事務事業は、目標値を設定していません。

備考：３）「コストの実績」欄は、地方財政状況調査（決算統計）における報告値としています。ただし、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金及びデジタル基盤改革支援補助金は、調査上、一般財源であるところ、それぞれ「国庫支出金」、「その他」と表示しています。

R7 年度決算額（単位：千円）は、節説明ごとに円単位の支出済額を千円単位に調整し集計しているため、決算書に記載の事務事業決算額と若干の差異が生じる場合があります。

［歳入］市税等収納実績に関する科目

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
1－1－1 市民税　個人	税務課	2,617,000,000	2,655,899,299	◎個人市民税　現年課税分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
個人均等割	89,339,600	88,554,253	99.1%	—	—
個人所得割	2,586,536,521	2,567,345,046	99.3%	—	—
合　　計	2,675,876,121	2,655,899,299	99.3%	—	—

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
個人均等割	88,580,300	87,857,199	99.2%	—	—
個人所得割	2,244,354,615	2,228,395,278	99.3%	—	—
合　　計	2,332,934,915	2,316,252,477	99.3%	—	—

・対前年度14.7%の増、税額にして339,646,822円の増。

				◎個人市民税　滞納繰越分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	49,666,722	20,381,683	41.0%	2,671,535	185件
令和6年度	52,369,184	16,580,680	31.7%	3,092,007	224件

・対前年度22.9%の増、税額にして3,801,003円の増。

1－1－2 市民税　法人	税務課	321,000,000	321,365,800	◎法人市民税　現年課税分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
法人均等割	123,840,000	123,254,000	99.5%	—	—
法人税割	198,266,200	198,111,800	99.9%	—	—
合　　計	322,106,200	321,365,800	99.8%	—	—

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
法人均等割	120,823,900	120,437,873	99.7%	—	—
法人税割	207,381,200	207,294,300	99.9%	—	—
合　　計	328,205,100	327,732,173	99.9%	—	—

・対前年度1.9%の減、税額にして6,366,373円の減。

				◎法人市民税　滞納繰越分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	845,445	526,827	62.3%	278,618	6件
令和6年度	939,257	308,800	32.9%	251,839	6件

・対前年度70.6%の増、税額にして218,027円の増。

1－2－1 固定資産税	税務課	3,205,000,000	3,204,550,187	◎固定資産税　現年課税分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
固定（土地）	829,483,669	819,312,913	98.8%	—	—
固定（家屋）	1,448,095,665	1,432,862,275	98.9%	—	—
固定（償却）	952,802,789	952,374,999	99.9%	—	—
合　　計	3,230,382,123	3,204,550,187	99.2%	—	—

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
固定（土地）	830,298,438	820,504,407	98.8%	—	—
固定（家屋）	1,410,149,606	1,395,915,752	99.0%	—	—
固定（償却）	821,209,897	820,473,041	99.9%	—	—
合　　計	3,061,657,941	3,036,893,200	99.2%	—	—

・対前年度5.5%の増、税額にして167,656,987円の増。

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
	収納対策課	19,300,000	19,943,745	◎固定資産税　滞納繰越分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	72,637,668	19,943,745	27.5%	9,091,552	968件
令和6年度	75,828,196	17,582,993	23.2%	10,528,000	973件

・対前年度13.4%の増、税額にして2,360,752円の増。

1－2－2

国有資産等所在市町村交付金　税務課　5,425,000　5,425,700　◎国有資産等所在市町村交付金

年度	調定額	収入済額	収納率
令和7年度	5,425,700	5,425,700	100%
令和6年度	5,657,800	5,657,800	100%

1－3－1

軽自動車税　環境性能割　税務課　27,000,000　22,107,300　◎環境性能割

年度	調定額	収入済額	収納率
令和7年度	22,107,300	22,107,300	100%
令和6年度	20,685,300	20,685,300	100%

・対前年度6.9%の増、税額にして1,422,000円の増。

1－3－2

軽自動車税　種別割　税務課　286,000,000　286,600,605　◎種別割　現年課税分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	289,623,100	286,600,605	99.0%	—	—
令和6年度	284,791,600	281,675,686	98.9%	—	—

・対前年度1.7%の増、税額にして4,924,919円の増。

収納対策課　2,600,000　2,706,562　◎種別割　滞納繰越分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	10,544,561	2,706,562	25.7%	816,864	111件
令和6年度	11,691,204	2,494,295	21.3%	1,701,362	306件

・対前年度8.5%の増、税額にして212,267円の増。

1－4－1

たばこ税　税務課　350,000,000　354,532,217　◎たばこ税　現年課税分

年度	種別	本数（本）	収入済額	収納率
令和7年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	54,110,534	354,532,217	100%
	手持品課税分	—	—	—
	合計	54,110,534	354,532,217	100%

年度	種別	本数（本）	収入済額	収納率
令和6年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	54,778,763	358,910,458	100%
	手持品課税分	—	—	—
	合計	54,778,763	358,910,458	100%

・対前年度1.2%の減、税額にして4,378,241円の減。

1－5－1

都市計画税　税務課　352,000,000　352,052,474　◎都市計画税　現年課税分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
都計（土地）	145,169,588	143,491,685	98.8%	—	—
都計（家屋）	210,679,789	208,560,789	99.0%	—	—
合計	355,849,377	352,052,474	98.9%	—	—

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
都計（土地）	145,413,667	143,618,921	98.8%	—	—
都計（家屋）	205,360,992	203,365,593	99.0%	—	—
合計	350,774,659	346,984,514	98.9%	—	—

・対前年度1.5%の増、税額にして5,067,960円の増。

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
	収納対策課	2,900,000	3,034,458	◎都市計画税　滞納繰越分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	10,918,510	3,034,458	27.8%	1,398,253	968件
令和6年度	11,306,083	2,719,879	24.1%	1,407,734	973件

・対前年度11.6%の増、税額にして314,579円の増。

※都市計画税は、都市計画事業等に要する経費に充てるために課される目的税です。

【都市計画税の充当事業】　（単位：千円）

充当事業	充当額
街路費	0
公園費（運動公園管理運営事業など）	49,895
下水道費（公共下水道事業など）	241,943
区画整理費等（都市計画推進事業など）	15,964
公債費	47,285

2 －3 －1
森林環境譲与税　財政課　32,382,000　32,382,000　◎森林環境譲与税

年度	調定額	収入済額	収納率
令和7年度	32,382,000	32,382,000	100%
令和6年度	30,731,000	30,731,000	100%

※森林環境譲与税は、森林整備及びその促進に要する経費に充てています。

【森林環境譲与税の充当事業】　（単位：千円）

充当事業	充当額
森林経営管理事業など	32,382

7 －1 －1
地方消費税交付金　税務課　1,576,116,000　1,576,116,000　◎地方消費税交付金

年度	調定額	収入済額	収納率	収入済額のうち社会保障財源化分
令和7年度	1,576,116,000	1,576,116,000	100%	895,928,000
令和6年度	1,459,482,000	1,459,482,000	100%	829,611,000

・対前年度8.0%の増、税額にして116,634,000円の増。

※地方消費税交付金のうち、社会保障財源化分は、社会保障施策に要する経費に充てています。

【地方消費税交付金（社会保障財源化分）の充当事業】（単位：千円）

充当事業	充当額
社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）	364,430
社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）	368,317
保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）	163,181

1 1 －1 －1
地方交付税　財政課　普通交付税 10,012,991,000　10,012,991,000　◎普通交付税

年度	調定額	収入済額	収納率
令和7年度	10,012,991,000	10,012,991,000	100%
令和6年度	9,714,450,000	9,714,450,000	100%

・対前年度3.1%の増、金額にして298,541,000円の増。

【普通交付税の算定】　（単位：千円）

区分	令和7年度	令和6年度
基準財政需要額　①	17,103,975	16,559,340
基準財政収入額　②	7,090,984	6,844,890
交付基準額　③（①-②）	10,012,991	9,714,450
調整額　④	0	0
普通交付税決定額　⑤（③-④）	10,012,991	9,714,450
臨時財政対策債発行可能額　⑥	0	48,338
実質交付税額　⑤+⑥	10,012,991	9,762,788

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
13－2－2 民生費負担金	保育課	放課後児童クラブ負担金（現年分） 44,029,000	41,210,000	◎放課後児童クラブ負担金　現年度分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	41,298,000	41,210,000	99.8%	—	—
令和6年度	38,420,000	38,362,000	99.8%	—	—

放課後児童クラブ負担金（過年分）
184,000　58,000

◎放課後児童クラブ負担金　滞納繰越分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	58,000	58,000	100%	—	—
令和6年度	144,000	144,000	100%	—	—

保育所保育料（現年分）
50,595,000　67,720,250

◎保育料　現年度分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	67,786,250	67,666,250	99.8%	—	—
令和6年度	52,516,550	52,423,750	99.8%	—	—

一時保育料　4件　54,000 円

保育所保育料（過年分）
250,000　99,110

◎保育料　滞納繰越分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	99,110	99,110	100%	—	—
令和6年度	404,920	398,610	98.4%	—	—

延長保育料（現年分）
532,000　461,400

◎延長保育料　現年度分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	461,400	461,400	100%	—	—
令和6年度	578,400	547,990	94.7%	—	—

延長保育料（過年分）
8,000　30,410

◎延長保育料　滞納繰越分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	30,410	30,410	100%	—	—
令和6年度	8,500	8,500	100%	—	—

14－1－6
土木使用料　住宅政策課　29,416,000　28,632,400

◎住宅使用料　現年度分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
駐車場使用料	1,554,000	1,458,000	93.8%	—	—
市営住宅使用料	4,405,600	3,289,900	74.7%	—	—
改良住宅使用料	25,833,600	23,392,100	90.5%	—	—
合　計	31,793,200	28,140,000	88.5%	—	—

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
駐車場使用料	1,688,000	1,610,000	95.4%	—	—
市営住宅使用料	4,223,400	3,397,000	80.4%	—	—
改良住宅使用料	25,490,200	24,132,000	94.7%	—	—
合　計	31,401,600	29,139,000	92.8%	—	—

◎住宅使用料　滞納繰越分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
駐車場使用料	665,720	45,000	6.8%	—	—
市営住宅使用料	12,241,784	128,900	1.1%	—	—
改良住宅使用料	25,860,247	318,500	1.2%	433,000	64
合　計	38,767,751	492,400	1.3%	—	—

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
駐車場使用料	707,220	119,500	16.9%	—	—
市営住宅使用料	11,657,584	242,200	2.1%	—	—
改良住宅使用料	24,972,147	470,100	1.9%	—	—
合　計	37,336,951	831,800	2.2%	—	—

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
15－2－1 総務費国庫補助金	企画経営課	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 961,442,000	456,943,752	◎物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金

年度	調定額	収入済額	収納率
令和7年度	456,943,752	456,943,752	100%
令和6年度(繰越)	68,819,129	68,819,129	100%

【充当事業（令和7年度）】　（単位：円）

歳出款項目	充当事業	充当額
3-1-14	定額減税補足給付金給付事業（不足額給付）	247,800,752
7-1-2	商工振興事業（デジタル商品券事業）	54,627,000
7-1-2	商工振興事業（こども未来応援デジタル商品券事業）	94,510,000
10-1-3	学校教育総務管理事業（学校給食費等補助金）	7,382,000
4-1-7	水道事業会計繰出金（水道事業会計補助金）	51,072,000
3-1-15	物価高騰対応生活支援給付金給付事業	1,552,000

【充当事業（令和6年度（繰越））】　（単位：円）

歳出款項目	充当事業	充当額
3-1-13	低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業	68,819,129

17－2－1 不動産売払収入	公共施設マネジメント課	土地建物売払収入 13,824,000	13,824,129	◎土地建物売払収入

年度	調定額	収入済額	収納率
令和7年度	13,824,129	13,824,129	100%
令和6年度	40,035,475	40,035,475	100%

【土地建物売払の内訳】

区分	所在地番（施設名称等）	面積(㎡)	収入済額
土地	紀の川市古和田631番1、634番1地先（法定外公共物(里道)）	23.53	17,082
土地	紀の川市打田916番1地先 他（法定外公共物(水路)）	216.80	602,270
土地	紀の川市荒見185番8地先（法定外公共物(水路)）	47.32	851
土地	紀の川市桃山町元296番3地先 他（法定外公共物(里道)）	42.62	216,467
土地	紀の川市名手市場418番7（普通財産（宅地））	9.36	59,417
土地	紀の川市貴志川町長山277番997（普通財産（宅地））	59.66	245,202
土地	紀の川市中鞆渕1226番18（普通財産（宅地））	166.67	1,400,000
土地	紀の川市長田中129番8（普通財産（宅地））	173.63	1,805,000
土地	紀の川市北勢田1117番3、1118番3（普通財産（宅地））	226.92	335,840
土地	紀の川市名手市場1063番7（普通財産（宅地））	52.48	298,000
土地	紀の川市藤崎147番1（普通財産（田））	344.00	357,000
土地	紀の川市名手市場1151番1（普通財産（田））	2,906.00	3,719,000
土地	紀の川市長田中129番20（普通財産（宅地））	176.80	1,768,000
土地	紀の川市貴志川町岸小野207番他（あおば幼稚園用地、分割納付49回30回目）	3,310.98	3,000,000

面積（㎡）は、土地の地積、建物の総面積です。

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
１７－２－２ 物品売払収入	那賀支所 危機管理消防課 廃棄物対策課	1,867,000	4,888,840	◎物品売払収入

年度	調定額	収入済額	収納率
令和7年度	4,888,840	4,888,840	100%
令和6年度	4,748,420	4,748,420	100%

【物品売払の内訳】

区分	数量	収入済額
貨物自動車	2	1,410,000
消防自動車	5	983,840
清掃運搬車	2	1,175,000
し尿運搬車	1	1,320,000

１８－１－１ 一般寄附金	地域創生課	ふるさとまちづくり寄附金 2,021,000,000	2,065,389,573	◎ふるさと納税寄附金

年度	収入済額	件数
令和7年度	2,060,589,573	149,922件
令和6年度	1,353,449,800	94,117件

◎企業版ふるさと納税寄附金

年度	収入済額	件数
令和7年度	4,800,000	8件
令和6年度	2,700,000	5件

【ふるさと納税寄附金の地域別件数】

地域	令和7年度	令和6年度
北海道	4,727件	2,684件
東北	2,817件	1,620件
関東	67,417件	42,070件
中部	20,739件	12,375件
近畿	35,679件	24,509件
中国・四国	6,740件	4,198件
九州・沖縄	11,803件	6,661件

【ふるさと納税寄附金の返礼品別寄附実績】

返礼品	令和7年度		令和6年度	
	件数	寄附額	件数	寄附額
果物	97.6%	97.7%	94.7%	95.2%
桃	86.5%	89.7%	79.9%	83.2%
柿	3.2%	2.0%	2.9%	2.3%
八朔	1.5%	1.0%	2.1%	1.5%
いちご	0.4%	0.3%	0.8%	0.7%
いちじく	1.4%	1.2%	2.4%	2.0%
キウイ	0.6%	0.5%	1.1%	0.9%
その他	4.0%	3.0%	5.5%	4.6%
飲料類	0.4%	0.4%	1.0%	0.9%
加工品	0.8%	0.8%	1.9%	1.5%
肉類	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%
その他	1.1%	1.0%	2.3%	2.2%

２１－３－１ 土木費貸付金元利収入	住宅政策課	5,345,000	3,861,398	◎貸付金元利収入　滞納繰越分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
住宅新築資金(国)	114,458,023	2,644,613	2.3%	—	—
住宅新築資金(県)	17,284,138	93,000	0.5%	—	—
宅地取得資金(国)	61,163,743	1,123,785	1.8%	—	—
宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—
住宅改修資金(国)	12,608,176	0	0.0%	—	—
合　　計	205,514,080	3,861,398	1.9%	—	—

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
住宅新築資金(国)	118,284,281	3,938,148	3.3%	—	—
住宅新築資金(県)	17,302,582	66,000	0.4%	—	—
宅地取得資金(国)	64,287,018	3,180,435	4.9%	—	—
宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—
住宅改修資金(国)	12,552,217	20,000	0.2%	—	—
合　　計	212,426,098	7,204,583	3.4%	—	—

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
２２－１－１～８ 市債	財政課	3,595,700,000	3,030,800,000	◎借入先、借入金額 借入先：借入金額 財政融資資金：2,347,000,000 地方公共団体金融機構：214,300,000 市中銀行：469,500,000 ◎償還期間、借入利率 財政融資資金、地方公共団体金融機構 償還期間：借入利率 ５年：1.1%、1.5%、1.6% １０年：1.4%、1.8%、2.1% １５年：2.2%、2.5% ２０年：2.5%、2.8% 市中銀行 償還期間：借入利率 ５年：1.390%、1.438% １０年：1.790% ２０年：2.533%

事務事業の概要

事務事業名	議会秘書事業	担当課	議事調査課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	433

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	1 議　会　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	1 議　会　費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	1 議　会　費		取組方針	9	その他

事業概要	議員が円滑に議会活動が行えるように、日程の調整、随行、関連団体への参画を支援する事業

事務事業を構成する細事業					
①	秘書業務	⑤	全国高速自動車道市議会協議会負担金	⑨	
②	全国市議会議長会負担金	⑥		⑩	
③	近畿市議会議長会負担金	⑦		⑪	
④	県市議会議長会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 議会交際費支出件数	件	目標						市議会を代表して行う表敬や外部との渉外、慶弔などに要する必要経費であり、目標値の設定になじまない。 合理的かつ必要最小限の支出にとどめるよう努めている。
		実績	14	9	13			
＜指標の計算方法＞	交際費の支出件数							
成果指標 議会公務等件数	件	目標						目標値の設定になじまないため、議長等が公務等に出席した件数を実績値とする。
		実績	145	152	140			
＜指標の計算方法＞	議長等が公務等に出席した件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,761						2,761

事業の実績

①秘書業務
・慶弔　1件
・賛助、協賛　0件
・会費　8件
・接遇、土産　1件
・その他　3件

②全国市議会議長会負担金
・定期総会等　1回
・研究フォーラム　1回

③近畿市議会議長会負担金
・定期総会等　2回
・研修会　4回

④県市議会議長会負担金
・定期総会等　2回
・研修会　3回

⑤全国高速自動車道市議会協議会負担金
・定期総会等　1回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・議会を代表して行う議員の公務日程の調整、また、公的活動のための調査研究・情報収集などを通して側面から支える議会秘書業務は、市議会が円滑に機能するための事業であり、その実施は妥当である。
・議会交際費は、市議会が対外的な活動をするために要する必要経費であり、性質上、目標値の設定になじまない。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・議会を代表して行う議員の公務日程の調整や渉外、また、公的活動のための情報収集・資料作成などの事務を通して議員の円滑な公務を支えており、有効性は高い。
・議員の議会活動を補佐する議会秘書事業は、性質上、目標値の設定になじまない。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・議会を代表して行う議員の公務日程の調整、また、公的活動のための調査研究・情報収集などの支援を通して支える専門的な事業であり、効率性の面で改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	議会運営事業	担当課	議事調査課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	437
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	1 議　会　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	1 議　会　費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	1 議　会　費		取組方針	9	その他
事業概要	市議会の適正な運営と市民にわかりやすく開かれた議会づくりに取り組むとともに、定例会、委員会等の開催や議会広報紙の発行を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	議員報酬・共済	⑤	議事調査業務	⑨	
②	本会議運営	⑥		⑩	
③	委員会等運営	⑦		⑪	
④	議会広報・HP編集業務	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	本会議・委員会等開催回数	回	目標	120	120	120	120	120	定例会議のほか、諸課題への対応や緊急の案件により随時開催される会議があるため、開催回数は年度ごとに差異がある。 目標どおりである。
			実績	148	125	140			
	＜指標の計算方法＞	定例会・臨時会・議会運営委員会・常任委員会・特別委員会・研修会・その他会議の件数							
成果指標	委員会・議員提出議案件数	件	目標	3	3	3	3	3	議員又は委員会が提出する議案の立案補助や、情報の調査収集等の支援業務を遂行できた。
			実績	1	2	3			
	＜指標の計算方法＞	委員会提出議案・議員提出議案の件数							
活動指標	議会広報紙配布部数	部	目標	104,400	105,600	105,600	105,600	105,600	議会広報特別委員会主体による編集のもと、編集補助や連絡調整等を行い滞りなく発行できた。 目標どおりである。
			実績	105,600	105,600	105,600			
	＜指標の計算方法＞	年4回発行、1回につき26,400部印刷							
成果指標	傍聴者数	人	目標	50	50	50	50	50	目標どおりである。
			実績	166	64	162			
	＜指標の計算方法＞	定例会・各種委員会の傍聴者数（議員の傍聴は除く。）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
164,444						164,444

事業の実績

①議員報酬・共済
・毎月の報酬　　期末手当
議長　480,000円　6月期　2.30月
副議長　440,000円　12月期　2.35月
議員　400,000円　年　4.65月

②本会議運営
・議案等処理状況
予算　37件
条例案（議員提出）　1件
条例案（委員会提出）　1件
条例案（市長提出）　28件
議決案　7件
任命（選任）同意　17件
認定　10件
専決の承認（予算）　4件
専決の承認（条例）　4件
専決の承認（契約等）　0件
諮問案　3件
議会会議規則案　0件
意見書案　1件
決議案　0件

③委員会等運営
・会議等開催状況
議会運営委員会　19回
総務文教常任委員会　7回
厚生常任委員会　5回
産業建設常任委員会　5回
予算決算常任委員会　5回
予算決算常任委員会(総務文教分科会)6回
予算決算常任委員会(厚生分科会)　6回
予算決算常任委員会(産業建設分科会)5回
予算決算常任委員会(予算小委員会)　4回
予算決算常任委員会(決算小委員会)　4回
議会広報特別委員会　21回
議会広報特別委員会行政視察
5/13 徳島県鳴門市議会
5/14 徳島県勝浦町議会

④議会広報・HP編集業務
・1回につき26,400部印刷
・年4回発行（5月、8月、11月、3月）
・本会議の録画配信の運用
（アクセス数3,348回）
・会議録検索システムの運用
（アクセス数2,196件）

⑤議事調査業務
・全議員研修会　1回
・初当選議員研修　1回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・憲法及び地方自治法に基づき設置された議会が、市民の代表機関としてその機能を適切に発揮するための根本的な事業である。地方公共団体の意思決定機関である議会が公正かつ円滑に運営されることは、市民の市政への信頼を高め、健全な自治体運営に繋がるものであり、事業実施は妥当かつ不可欠である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・本会議･委員会等が滞りなく開催され議決が行われたことは、議会運営が円滑に行われた証であり、事業実施は有効かつ適切である。
・議会広報紙の配布は、議会と市民との情報共有を促進し、市民に議会に関心を持っていただくきっかけづくりとなるものである。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・法令に基づき、議会の機能を円滑かつ適正に遂行するために必要な事業であり、効率性の面で改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	行政秘書事業	担当課	秘書課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	445

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
予算科目 目	1 一般管理費		取組方針	9	その他

事業概要	市長、副市長が円滑に公務を遂行できるように、日程の調整や随行、関連団体へ参画する事業

事務事業を構成する細事業					
	① 秘書・渉外業務	⑤ 県市長会負担金	⑨		
	② 栄典・表彰業務（地方自治功労）	⑥ 東京事務所運営事業	⑩		
	③ 全国市長会負担金	⑦	⑪		
	④ 近畿市長会負担金	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 市長交際費支出件数	件	目標						市政の円滑な運営と発展のため、式典や大会への市長交際費の支出件数。令和７年度は、昨年度並みの件数となっている。
		実績	61	64	71			
＜指標の計算方法＞	交際費の年間支出件数							
活動指標 地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦件数	件	目標						叙勲等の受章条件を満たす者が限られるため、該当者の漏れがないよう、各部署と情報を共有し細心の注意を払い候補者の推薦事務を行った結果6件となった。
		実績	2		6			
＜指標の計算方法＞	年間の推薦件数							
活動指標 市長会会議随行日数	日	目標	10	10	10	33	31	全国市長会・近畿市長会・県市長会の会議が計画通り開催され、出席に伴う随行ができた。
		実績	10	8	9			
＜指標の計算方法＞	年間の市長会会議随行日数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
21,111						21,111

事業の実績

①秘書・渉外業務
市長、副市長の円滑な公務遂行を補助。

「交際費執行状況」

・慶弔	慶祝	2件	34,000円
	弔慰	2件	22,000円
	見舞い	0件	0円
・会費		27件	260,000円
・激励		8件	71,517円
・賛助、協賛、協力		1件	5,000円
・渉外、接遇		31件	675,016円
・その他		0件	0円
	合計	71件	1,067,533円

②栄典・表彰業務（地方自治功労）
地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦を行う。

・叙勲	6
・褒章	0
・高齢者叙勲	0
・死亡叙勲	0
・叙位	0
・県知事表彰	0
・その他	0
推薦件数合計	6件

③全国市長会負担金
会議随行日数： 2日
④近畿市長会負担金
会議随行日数： 4日
⑤県市長会負担金
会議随行日数： 3日

※市政の円滑なる運営と進展に資するため、各市との連携を図り、政府等に対して要望活動を行う。

⑥東京事務所運営事業
長期総合計画の推進や効率・効果的な行財政運営の実現に向け、首都圏での要望活動を行う。

・国等への要望活動	14回
・各省庁等訪問	26回
合計	40回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・行政秘書事業は市長・副市長が公務を円滑に遂行するための事業であり、市が実施することが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・市長・副市長の公務管理・執行補助は的確にできている。
・突発的な公務が発生した場合でも、スケジュールを調整できる体制を構築できている。
・社会情勢の急速な変化による、複雑化・多様化する行政問題に対し、豊富な経験と実務経験など専門性の高い業務を迅速に反映させるための人材が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・来客対応や対外公務等では、突発的な対応を要する場合もあるが、効率的に業務を行うことができている。

事務事業の概要

事務事業名	総務庶務事業	担当課	総務課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	448
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標 5 地域づくり・行政経営		
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標 3 市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策 4 将来を見据えた行政経営の推進		
予算科目 目	1 一般管理費		取組方針 9 その他		
事業概要	市が効率的な行政運営をするために、庁内総務業務の処理を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	防火管理協議会負担金	⑤	自動車臨時運行許可	⑨	
②	平和首長会議メンバーシップ負担金	⑥	一般寄附金受入	⑩	
③	公印・市章管理	⑦	北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金	⑪	
④	自衛官募集	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 自動車臨時運行許可件数	件	目標						令和6年度と比較し増加した。
		実績	397	375	391			
＜指標の計算方法＞	許可件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,732	45				4,472	215

事業の実績

①防火管理協議会負担金　12,000円
消防操法大会参加

②平和首長会議メンバーシップ負担金
核のない世界恒久平和の実現に向けた国際世論を醸成

③公印・市章管理
市長印の使用確認、市章の使用申請の許可

④自衛官募集
・市広報紙へ年4回掲載
（5月号・7月号・10月号・2月号）
・自衛隊への名簿提供にかかる除外申請を受付（2件）

⑤自動車臨時運行許可
未登録自動車・検査証の有効期間満了車を、車検・登録などの目的で運行させる必要があるとき、申請に基づき仮ナンバーを交付

⑥一般寄附金受入
6件　13,856,958円

⑦北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金　5,000円
・北方領土返還要求運動和歌山県民会議総会及び研修会
和歌山市で開催（職員1名参加）
・北方領土返還要求和歌山県民大会
橋本市で開催（職員2名参加）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市として行わなければならない、又は行うことが望ましい業務である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・市として対外的に必要な業務、内務事務で必要な業務や住民サービス関係の業務等を支障なく運用することができている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・複数の部署で処理するよりも、総務課が取りまとめて処理することにより、無駄のない運用ができている。

事務事業の概要

事務事業名	法制事業	担当課	総務課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	450

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	1 一般管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	市が法令に基づき適正な事務を執行するために、条例等の制定や改廃についての審査や管理等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	例規審査	⑤		⑨	
②	例規管理	⑥		⑩	
③	公示・公告式・官報管理	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 条例等の制定改廃件数	件	目標						令和5年度は、機構改革等の影響により実績値が大幅に増加したものの、令和6年度以降は例年並となった。
		実績	304	202	224			
＜指標の計算方法＞	条例、規則、訓令、告示等の制定改廃件数							
成果指標 例規管理システムへの登録件数	件	目標						廃止した例規より新規に制定した例規の方が多かったため、増加した。
		実績	1,049	1,056	1,059			
＜指標の計算方法＞	例規管理システムに登録している例規の件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,450						3,450

事業の実績

①例規審査
　制定改廃件数　224件

②例規管理
　システム登録件数　1,059件

③公示・公告式・官報管理
　紀の川市公告式条例に基づき適正に実施

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市の施策及び事業を規定する事務は行政運営上必要不可欠であり、民間その他の機関で実施できるものではない。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・外部の法制研修への参加をはじめ、例規システム委託業者への相談、質問等を積極的に行い、法制知識の向上や例規の充実に努めている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・主として例規システムの使用料及び例規データの更新費用のため、経費の削減は困難である。

事務事業の概要

事務事業名	顧問弁護士相談事業	担当課	総務課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	449
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
予算科目 目	1 一般管理費		取組方針	9	その他
事業概要	市が問題の適切な対応及び解決を図るために、顧問弁護士に法的問題に関連する相談を行い、助言を受ける事業				

事務事業を構成する細事業					
①	法律相談	⑤		⑨	
②	訴訟等対応	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 法律相談件数	件	目標						法律相談件数は横ばいである。
		実績	41	28	29			
＜指標の計算方法＞	法律相談件数							
成果指標 訴訟等件数	件	目標	0	0	0	0	0	訴訟等件数はなかった。
		実績	1	1	0			
＜指標の計算方法＞	訴訟、調停、和解等の事件数（提訴した事件を除く。）							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,092						2,092

事業の実績

①法律相談
15部署から相談事案があり相談時間は延べ800分

②訴訟等対応
訴訟等件数　0件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・業務を行う上で生じる法的問題に適切に対応するため、本事業は不可欠である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・法の専門家である弁護士の助言を受けて問題に対処することで、最善の方法で、説得力のある対応ができる。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・顧問弁護士に相談した上で案件の解決に取り組むことで、悪化を防ぎ、早期解決に役立っている。

事務事業の概要

事務事業名	行政手続制度整備事業	担当課	総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1045

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	1 一般管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	行政処分の公正の確保と透明性の向上を図るために、申請に対する処分の審査基準等や不利益処分の基準等を整備し、公表する事業 処分…法令等に基づく行政庁の処分その他公権力の行使に当たる行為 不利益処分…行政庁が、法令等に基づき、特定の者に対して、直接に義務を課し、又はその権利を制限する処分

事務事業を構成する細事業					
①	制度整備	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 法令に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標						適正に処理し公表している。
		実績	287	306	305			
＜指標の計算方法＞ 法令に基づく申請に対する処分公表件数								
成果指標 法令に基づく不利益処分公表件数	件	目標						適正に処理し公表している。
		実績	273	293	297			
＜指標の計算方法＞ 法令に基づく不利益処分公表件数								
成果指標 例規に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標						適正に処理し公表している。
		実績	164	166	162			
＜指標の計算方法＞ 例規に基づく申請に対する処分公表件数								
成果指標 例規に基づく不利益処分公表件数	件	目標						適正に処理し公表している。
		実績	134	136	132			
＜指標の計算方法＞ 例規に基づく不利益処分公表件数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
396						396

事業の実績

①制度整備
・行政手続制度整備の点検作業を行うために、委託業者による説明会を実施した。
・法令及び例規に基づく申請に対する処分と不利益処分の個票を追加、削除、更新を行い、市ホームページで公表した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・行政手続法及び紀の川市行政手続条例に基づき処分基準等を公表する必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・行政手続法及び紀の川市行政手続条例に基づき処分基準等を公表している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・各処分担当課による処分の見直し及び更新を行えば業務委託は不要となるが、取りまとめに要する時間及び精度の保持を考慮すると業務委託により実施することが効率的と考える。

事務事業の概要

事務事業名	行政不服審査事業	担当課	総務課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1064

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	1 一般管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	行政不服審査法に基づき、審査請求の受理から裁決に至るまでの一連の手続を適正に執行する事業

事務事業を構成する細事業					
①	行政不服審査	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 審査請求件数	回	目標	0	0	0	0	0	令和5年度から令和7年度までは審査請求なし。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	審査請求件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
6						6

事業の実績

①行政不服審査
市の処分等に関して不服があり、審査請求が提出された場合、その処分等について審査を実施する。
審査請求件数　0件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・行政不服審査法に基づき、市が適切に運用する必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・市が行う処分に対し、不服を申し立てることができる制度である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・不服申立てを審査する審理員について、弁護士を臨時的に任用することで事務を効率的に進めることができている。

事務事業の概要

事務事業名	情報公開・個人情報保護事業	担当課	総務課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1066
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標 5	地域づくり・行政経営	
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標 3	市民サービスの向上・財政経営・職員育成	
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策 4	将来を見据えた行政経営の推進	
予算科目 目	1 一般管理費		取組方針 5	情報公開・個人情報保護制度の適正な運用	
事業概要	関連法令等に基づき、公文書の開示等の対応や個人情報の取扱い等を適切に行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	情報公開	⑤		⑨	
②	個人情報保護	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	公文書開示請求による審査請求に係る審査会開催数	回	目標	0	0	0	0	0	公文書開示請求による審査請求に係る情報公開・個人情報保護審査会の開催はなし。
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	公文書開示請求による審査請求に係る審査会の開催回数							
成果指標	公文書開示請求件数	件	目標						令和5年度は、特定の請求者が多くの件数を請求したため公文書開示請求件数が増加したが、令和6年度及び令和7年度はそのような請求がなかった。
			実績	123	25	31			
	＜指標の計算方法＞	公文書開示請求件数							
活動指標	個人情報開示請求による審査請求に係る審査会開催数	回	目標	0	0	0	0	0	個人情報開示請求による審査請求に係る情報公開・個人情報保護審査会の開催はなし。
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	個人情報開示請求による審査請求に係る審査会の開催回数							
成果指標	個人情報開示請求件数	件	目標						個人情報開示請求件数は令和6年度と比べて増加した。
			実績	27	17	21			
	＜指標の計算方法＞	個人情報開示請求件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
81						81

事業の実績

①情報公開
市が保有している公文書についての開示請求書及び任意開示申出書の受付

②個人情報保護
市が保有している自己情報についての開示請求書の受付

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・個人情報の保護に配慮しつつ、市が保有している情報を公開している。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・自己情報のコントロール権を保障し、市の説明責任を果たすことは、開かれた市政の実現を目指す手段として有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・必要最小限のコストで事務を行っているため、改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	文書管理事業	担当課	総務課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	460

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
予算科目 目	1 一般管理費		取組方針	9	その他

事業概要	公文書の適正な管理や利用ができるように、公文書の登録から廃棄までを一元管理した効率的な運用を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	文書等収受・発送・配付	⑤		⑨	
②	文書管理	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 文書管理作業日数	日	目標	174	176	176	176	176	当初の予定通り文書管理作業を進めることができた。
		実績	202	175.5	176			
＜指標の計算方法＞	日数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
11,260						11,260

事業の実績

①文書等収受・発送・配付
- 各課からの通知文書を取りまとめ発送
- 郵送されてきた文書の収受を行い、各課へ配付し、各支所についてはメール便で配付

②文書管理

登録	12,656件
修正	8,380件
削除（廃棄分は除く）	693件
書庫移管	7,693件(1,297箱)
廃棄	11,276件(862箱)
廃棄年度延長	2,245件
廃棄年度延長の統廃合	1,920件(470箱)

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・事務及び業務を適正に実施するために、文書取扱規則に基づき継続する必要がある事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・事業実施により、職員が公文書を適正に管理・利用することができる。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・職員自ら確認する必要があることから、現状の一部委託の状態が効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	監察業務事業	担当課	人材マネジメント課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	840
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実
予算科目 目	1 一般管理費		取組方針	9	その他
事業概要	廉潔で透明性のある市政を実現するために、職員の法令遵守を推進し、監察、調査、指導を行い、また、市への不当要求行為対策に協力する事業				

事務事業を構成する細事業					
①	監察業務	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 業務指導・相談件数	件	目標						令和6年度と比較して減少している。
		実績	48	84	53			
＜指標の計算方法＞	監察監が実施した職員の業務指導・相談の件数							
活動指標 カスタマーハラスメント対応件数	件	目標						令和6年度と比較して減少している。
		実績	5	31	25			
＜指標の計算方法＞	監察監が対応したカスタマーハラスメントの件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
6,919						6,919

事業の実績

①監察業務
・業務指導・相談　53件
　うちカスタマーハラスメント　25件
　（うち不当要求行為　9件）
・新任課長対象公務員倫理等研修　1回
・新規採用職員対象公務員倫理等研修　1回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・公正かつ民主的な市政の運営のため、職員の法令遵守を推進する事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・市政に対する市民の信頼を得るには有効な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・専門知識や経験のある者を任用することで効率性は向上する。

事務事業の概要

事務事業名	職員人事管理事業	担当課	人材マネジメント課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	3

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	2 人事管理費		基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実
			取組方針	1	人材の確保と適正な人員配置による組織力の向上

事業概要	組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員の就業管理、定員管理、人事異動を実施する事業

事務事業を構成する細事業					
①	職員人事管理	⑤		⑨	
②	職員勤務・休暇管理	⑥		⑩	
③	年末調整事務	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	平均年次有給休暇取得日数	日	目標	10	14	14	14	14	平均年次有給休暇の取得日数が、12日台で推移している。
			実績	12.1	12.2	12.1			
	＜指標の計算方法＞	全職員の年次有給休暇取得日数÷職員数							
成果指標	職員数	人	目標	537	536	536	536	536	職員数は、職員適正化計画の計画目標数値内(最大541人)となっている。
			実績	533	537	537			
	＜指標の計算方法＞	4月1日職員数							
活動指標	職場巡視実施及び周知・啓発回数	回	目標	13	13	4	4	4	過重労働に対する啓発のための夜間職場巡視を3回実施した。
			実績	4	3	3			
	＜指標の計算方法＞	職場巡視実施及び周知・啓発回数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,519						3,519

事業の実績

①職員人事管理
・職員の人事異動　236人
（令和8年度に向けての異動準備）
・令和7年度退職者　22人
・人事院勧告に伴う条例、規則等を改正
②職員勤務・休暇管理
・育児休業取得者　24人
（うち男性　6人）
・産前産後休暇取得者 4人
・病気休暇取得者　54人
③年末調整事務
・年末調整事務（特別職を含む正職員）
540人
・年末調整事務（会計年度任用職員）
359人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・人事異動によって限られた人員で最大の成果を得る体制をつくるための事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・人事異動により適材適所に職員を配置し職員の能力を十分に発揮することは、市民サービスの向上に繋がる。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・本来業務の事務効率の向上を図るため、定型業務などの民間企業が実施可能な業務については、民間委託への転換を推進している。

事務事業の概要

事務事業名	職員給与管理事業	担当課	人材マネジメント課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	451

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	2	総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
	項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
	目	2	人事管理費		基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実
					取組方針	9	その他

事業概要	職員が適正な給与を受け取れるように、給与、手当の支給を行う事業

事務事業を構成する細事業							
①	特別職報酬等審議会	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 特別職報酬等審議会開催回数	回	目標	0	0	0	0	0	令和7年度は未開催であった。
		実績	0	2	0			
＜指標の計算方法＞	審議会の開催回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績

①特別職報酬等審議会
・未開催

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・適正な給与及び議員報酬を公正に決定する事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・特別職報酬等審議会については、学識経験者を構成委員としている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・事業自体の効率性を評価すべき事業ではない。

事務事業の概要

事務事業名	人材育成研修事業	担当課	人材マネジメント課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	452

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	2 人事管理費		基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実
			取組方針	2	人材育成の推進

事業概要	職員の能力の向上を図るために、各種研修や人事評価等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 職員採用	⑤	県市町村職員研修協議会負担金	⑨	
	② 職員研修	⑥	全国市町村国際文化研修所等	⑩	
	③ 職員派遣	⑦		⑪	
	④ 人事評価	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 職員研修開催回数（市主催研修）	回	目標	20	20	20	30	30	令和6年度より回数が減少した。
		実績	29	32	31			
＜指標の計算方法＞	市が主催する研修の回数							
成果指標 職員研修延べ受講者数	人	目標	1,000	1,000	1,100	1,200	1,200	令和6年度より受講者数が減少した。
		実績	1,125	1,337	1,217			
＜指標の計算方法＞	市主催研修+和歌山県市町村職員研修協議会主催研修+民間機関等主催研修の受講者数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,827					253	5,574

事業の実績

①職員採用
- 事務職
  受験者数 169人
  採用者数　16人
- 土木職
  受験者数　2人
  採用者数　1人
- 建築職
  受験者数　1人
  採用者数　1人
- 保育士
  受験者数　14人
  採用者数　3人
- 保健師
  受験者数　2人
  採用者数　1人
- 社会福祉士
  受験者数　2人
  採用者数　2人

②職員研修
- 階層別研修　5回
- 新規採用職員研修（スタートアップ研修、プレゼンテーション研修、フォローアップ研修、メンター制度等）　5回
- 職員提案制度研修　1回

○職員研修延べ受講者数　901人

③職員派遣
- 和歌山県後期高齢者医療広域連合　1人

④人事評価
- 令和7年4月から令和8年3月までにかけて業績評価及び能力評価を実施

⑤県市町村職員研修協議会負担金
- 一般研修　112人受講
- 専門研修　168人受講
- 特別研修　26人受講

⑥全国市町村国際文化研修所等　10人受講

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地方公務員法により職員に研修機会を提供する義務があるため実施する事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・職員個々の能力向上により、組織力向上を図るため研修内容の更なる充実を図っている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・「人材育成体系基本計画」に基づいて階層別研修を推進していく。

事務事業の概要

事務事業名	職員福利厚生事業	担当課	人材マネジメント課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	456

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成	
予算科目 目	2 人事管理費	基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実	
		取組方針	3	良好な職場環境の整備・充実	

事業概要	職員の福利厚生の充実を図るために、共済や公務災害補償に関する諸手続きや健康管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	職員共済組合事務	⑤		⑨	
②	公務災害補償事務	⑥		⑩	
③	職員健康・安全管理	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 健康診断受検率	%	目標	100	100	100	100	100	妊娠等以外の職員はほぼ全員が健康診断又は人間ドックを受検した。
		実績	97	96.4	97.6			
＜指標の計算方法＞	職員の健康診断・人間ドックの受検率（3役を含む）							
成果指標 公務災害の発生件数	件	目標						令和6年度と比較して減少している。
		実績	8	7	2			
＜指標の計算方法＞	正職員の公務災害発生件数							
成果指標 非常勤公務災害の発生件数	件	目標						令和6年度と比較して増加している。
		実績	4	1	2			
＜指標の計算方法＞	会計年度任用職員（非常勤職員）の公務災害発生件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
13,767						13,767

事業の実績

①職員共済組合事務
（会計年度任用職員含む）
保険得喪手続き　279件
貸付手続き　9件
貯金手続き　137件
インフルエンザ助成手続き　129件
②公務災害補償事務
地方公務員災害補償　2件
非常勤職員公務災害補償　2件
③職員健康・安全管理
職員健康診断　190人受検
会計年度任用職員健康診断　173人受検
人間ドック・脳ドック
１日人間ドック　174人
２日人間ドック　165人
脳ドック　2人
ストレスチェック
対象職員814人(会計年度任用職員含む)
ストレスチェック受検者　724人
高ストレス判定者　96人

心の健康相談　26人相談

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・職員の安全と健康を確保する事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・職員の健康や生活設計に関する相談に応じ、福利厚生の充実を推進している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・主に職員の健康管理をする事業で、医療的な専門業務については外部委託をしている。

事務事業の概要

事務事業名	会計年度任用職員人事管理事業	担当課	人材マネジメント課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	455

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実
予算科目 目	2 人事管理費		取組方針	1	人材の確保と適正な人員配置による組織力の向上

事業概要	職員が組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員（会計年度任用職員）の就業管理、定員管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	会計年度任用職員人事管理	⑤		⑨	
②	会計年度任用職員給与支払	⑥		⑩	
③	労働災害補償事務	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 労働災害の発生件数	件	目標						令和6年度と同件数であった。
		実績	6	4	4			
＜指標の計算方法＞	会計年度任用職員の労働災害発生件数							
活動指標 会計年度任用職員数	人	目標						市民ニーズの多様化に対応するため、増加傾向にある。
		実績	340	364	389			
＜指標の計算方法＞	4月1日会計年度任用職員数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
30,310						30,310

事業の実績

①会計年度任用職員人事管理
　各課の繁忙期に定型業務を行い、事務の効率化を図るため機動的配置臨時職員2人を年間22部署へ派遣
②会計年度任用職員給与支払
　・報酬　12回
　・期末手当　2回
　・人事院勧告等による報酬等　1回
③労働災害補償事務
　・労働災害補償　4件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・限られた人員で最大の成果を得るための体制を構築する事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・機動的配置臨時職員の任用により、繁忙期における職員の定型業務の負担が軽減されている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・定型業務を会計年度任用職員に移行することにより、職員の本来業務の効率を向上させている。

事務事業の概要

事務事業名	広報事業	担当課	広報課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	4

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総務費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	3 広報費		基本施策	2	市政情報の発信と市政参加の促進
			取組方針	1	広報活動の充実

事業概要	市民、報道機関、市の情報を求める人に必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらうために、行政情報や市の魅力を発信する事業				
事務事業を構成する細事業	①広報紙発行業務	⑤ラジオ・テレビ等情報発信業務	⑨町史（誌）販売管理業務		
	②広報紙等配布委託	⑥日本広報協会負担金	⑩		
	③メール配信サービス	⑦県広報協会負担金	⑪		
	④HP・Instagram・LINE情報発信業務	⑧報道発表・報道機関対応業務	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 ホームページへの年間アクセス数	件	目標		2,100,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000	合併20周年記念事業の実施により、アクセス数が増加したと考える。また、LINEからのアクセスや市の情報発信ツールに、二次元コードで簡単にアクセス可能なポスターを関係施設に掲示するなど、市のホームページへのアクセス増加に務めた。
		実績	2,022,892	1,895,355	2,006,674			
＜指標の計算方法＞	ホームページへの年間アクセス数							
成果指標 行政の広報活動の満足率	%	目標	50	50	50	50	50	広報活動の満足率低下の要因として、情報発信手段が多様化する中で、年代やライフスタイルに応じた情報発信が十分でなかったことが満足率低下の要因の一つと思われる。
		実績	28	40.6	29.5			
＜指標の計算方法＞	紀の川市市民意識調査							
成果指標 メール配信サービス登録者数	人	目標	5,600	5,700	5,800	5,800	5,800	合併20周年記念事業の実施により、登録者数が増加したと考える。市の情報発信ツールに、二次元コードで簡単にアクセス可能なポスターを関係施設に掲示するなど、メール配信サービスの登録者数の増加に務めた。
		実績	5,628	5,694	5,786			
＜指標の計算方法＞	登録メールアドレス数							
活動指標 報道発表件数	件	目標	120	120	120	130	140	各課からの情報発信内容を集約し、市の施策、イベントなどを報道機関へ提供。合併20周年記念事業が多く、報道の機会が増え、新聞などへの掲載にもつながっており、市内外への情報発信に有効であった。
		実績	114	136	151			
＜指標の計算方法＞	報道発表件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
30,200		2,959			1,116	26,125

事業の実績

①広報紙発行業務
広報「紀の川」の発行
・発行部数　26,800部/月(12回)

②広報紙等配布委託
業者委託による広報紙の各戸配布
・配布実績　延べ307,405戸(年間)

③メール配信サービス
防災、防犯、交通安全、観光、行政など日常生活に役立つ情報をメールで提供。
・メールアドレス登録者数　5,786人

④HP・Instagram・LINE情報発信業務
市内外への行政情報配信や紀の川市のPRを実施
・HP年間アクセス件数　2,006,674件
・Instagram情報発信件数　43件
・LINE情報発信件数　263件

⑤ラジオ・テレビ等情報発信業務
和歌山放送ラジオ(WBS) の番組内で「紀の川とっておき情報」のコーナーを設け、イベント・施策・特産品情報などを放送し、紀の川市のPRを実施
第１木曜日　13:30～ (約4分間)
・放送回数　12回(年間)

⑥日本広報協会負担金
国、都道府県、市町村の間を縦と横につなぐ広報研究連絡団体(公益社団法人)
・年会費　24,000円

⑦県広報協会負担金
県内の市町村の広報力の向上を目的として設立された協会
・年会費　7,000円

⑧報道発表・報道機関対応業務
メディアにプレスリリースすることにより、市の内外に、紀の川市の魅力、施策のPRを実施
・発信件数　151件(年間)

⑨町史（誌）販売管理業務
残存する町史（誌）を後世に残すため販売管理を実施　販売1冊　寄贈0冊(年間)

・打田町史 1巻なし 2巻211冊 3巻477冊
・粉河町史 1巻1,200冊 2巻384冊　3巻371冊 4巻468冊 5巻1,113冊
・那賀町史 1巻820冊
・桃山町誌 525冊
・貴志川町史 1,2,3巻なし

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・広報事業は、市民をはじめ、市の情報を求める人に対して情報を発信し、必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらう事業であり、市が主体的に行う事業として妥当性がある。また、行政の説明責任や透明性確保の観点からも重要性は高い。
・市民意識調査では、約8割の人が広報紙により情報を得ており、さらに第2位は市公式LINEとなっている。このことからも、市政情報を入手してもらう事業として妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・広報事業では、広報紙やホームページ、またSNSを活用して情報発信を行っており、市民や市の情報を求める人が、情報を得るために有効な事業であり、災害時の迅速な情報提供手段としても重要性は高い。
・今後も市の魅力発信や市政への理解を深めてもらえるよう、アクセシビリティに配慮し、見易さや内容の充実に務める。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・広報事業は、広報紙やウェブサイト、SNS等の多様な媒体を活用し、限られた経費の中で情報発信を行っているが、更に効果的かつ広範囲に情報発信を行っていく必要がある。
・自課内のパソコンで編集を行うことで、広報紙の紙面構成をスリム化するなど、コストを抑えた広報活動を実施している。

事務事業の概要

事務事業名	財政運営事業	担当課	財政課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	5

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	2	総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
	項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
	目	4	財政管理費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
					取組方針	1	財政計画に基づいた計画的な財政運営

事業概要	市財政を効率的・効果的に健全化を維持するために、財政計画に基づき計画的な財政運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	①	予算編成	⑤	地方債発行	⑨
	②	予算執行管理	⑥	財政計画	⑩
	③	決算（決算統計・成果表）	⑦	財政事情の公表（公会計・健全化判断比率）	⑪
	④	地方交付税・地方譲与税	⑧		⑫

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	予算編成回数（一般会計）	回	目標	6	6	6	6	6	県知事選挙、衆議院議員総選挙、定額減税補足給付金・くらし応援給付金の給付、エネルギー・食料品価格等の物価高騰などに対応する予算を編成する必要が生じたため、既定の予算編成回数を大きく上回った。
			実績	10	10	11			
	＜指標の計算方法＞	当初予算1回、補正予算5回を想定							
成果指標	経常収支比率	%	目標	93.5	94.1	93.2	93.2	93.8	近年は90%台後半で推移している。令和7年度は、人件費や補助費等、維持補修費などの経常経費が増加したものの、地方交付税や市税などの経常一般財源が増加したことで、指数が下降（良化）した。
			実績	94.6	96.6	95.3			
	＜指標の計算方法＞	地方財政状況調査　（経常経費充当一般財源÷経常一般財源）×100							
成果指標	財政力指数（３か年平均）		目標	0.41	0.42	0.42	0.42	0.42	数値に大きな変動はない。令和7年度は、基準財政収入額及び基準財政需要額に大きな増減差がなかったため、指数が横ばいとなった。
			実績	0.41	0.42	0.41			
	＜指標の計算方法＞	地方交付税算定台帳　基準財政収入額÷基準財政需要額							
成果指標	積立基金現在高比率	%	目標	70.4	62.2	53.6	62.2	58.4	近年は、70%台後半で推移している。普通交付税の追加交付など財源超過分を基金に積み立てることで基金残高は微増となったが、それ以上に標準財政規模が増加したことにより比率が下降した。
			実績	77.8	76.8	74.6			
	＜指標の計算方法＞	標準財政規模に対する基金残高の割合							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,619						1,619

事業の実績

①予算編成
・令和7年度補正予算編成
各会計予算が円滑に執行できるよう所要の補正措置を講じた。
一般会計10回
特別会計（6会計）1回～3回
公営企業会計（3会計）水道3回、工業用水道2回、下水道3回
・令和8年度当初予算編成
「住みたい」「住み続けたい」を実現する、安心と希望を両立させる予算として、物価高騰対策、長期総合計画後期基本計画に掲げる目標人口6万人を目指すための「呼び込む」「稼ぐ」「育む」「未来をつくる」の4つの重点プロジェクトについて、重点的に配分を行う予算を編成した。
・令和8年度当初予算書作成
一般会計、特別会計及び公営企業会計の当初予算書の作成について外注を取りやめ、内製化により業務スケジュールに余裕を持つとともに費用の抑制に努めた。
予算書　75部、予算説明書　75部

②予算執行管理
予算執行方針を定め、適宜、庁内に周知することで、予算の適正かつ厳正な執行の確保に努めた。

③決算（決算統計・成果表）
令和6年度各会計別決算の状況、基金・地方債の状況、一般会計・特別会計の主要施策の成果を取りまとめた。
決算主要施策の成果報告書　160部

④地方交付税・地方譲与税
基礎数値等を県へ報告し、地方交付税・地方譲与税の交付を受けた。
【主な交付実績】
・地方揮発油譲与税　63,216千円
・自動車重量譲与税　210,045千円
・地方特例交付金　53,099千円
・普通交付税　10,012,991千円
・特別交付税　1,095,812千円

⑤地方債発行
地方債を財源として行う事業の対象経費を取りまとめ、県との協議を経て、同意を受け、金融機関等から資金の借入れを行った。
・地方債発行額（一般会計）3,030,800千円

⑥財政計画
令和4年度に策定した紀の川市財政計画（計画期間：令和5年度～令和8年度）の収支見通しに令和7年10月時点の修正を加え、市ホームページで公表した。

⑦財政事情の公表(公会計・健全化判断比率)
統一的な基準による財務書類や健全化判断比率を調製し、市の財政状況を公表した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地方自治体の行政活動で財政運営は基幹を成す業務であることから、財政部局が内部管理を行い全庁を取りまとめて実施することが適当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・長期総合計画の実現に向け、中長期的な視点に立った財政収支見通しによる財政運営を行っている。
・持続可能な行政運営をしていく中で、財政状況に応じた効率的な予算編成手法を取り入れる必要がある。
・財政運営と行政評価の連携を深めることで、各事業の妥当性、有効性、効率性を客観的に把握し、より効果的な予算編成に取り組む必要がある。
・合併特例債の活用終了を見据え、事業内容に応じて合併特例債に代わる交付税算入率が高い地方債への転換に取り組んだ。とりわけ一部過疎地域を対象とした過疎対策事業債や照明のＬＥＤ化などの脱炭素化事業を対象とした脱炭素化推進事業債の有効活用を行った。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・地方自治体の基幹業務として内部管理を行う事業であるため、事業全体として代替手段を導入する余地はない。
・当初予算書の印刷では、外注を行わず職員で作成したことで、業務スケジュールに余裕を持つとともに、費用の抑制に努めた。
・財務書類の作成は、専門的な知識を要することから作成支援の委託範囲を最小限に留め、費用の抑制に努めた。

事務事業の概要

事務事業名	出納管理事業	担当課	会計課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	6

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	5 会計管理費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
			取組方針	3	公金の適正な管理の推進

事業概要	市民（債権者、納税義務者）等に対して公金に係る適正な事務処理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	出納業務	⑤	日計表作成業務	⑨	
②	県会計職員連絡協議会負担金	⑥		⑩	
③	口座振替納入依頼書等受付事務	⑦		⑪	
④	債権者登録業務	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 収納件数	件	目標						年次ごとの微増減があるが、概ね例年通りの推移である。
		実績	731,086	735,089	740,090			
＜指標の計算方法＞	1年間の収納件数							
活動指標 支払件数	件	目標						年次ごとの微増減があるが、概ね例年通りの推移である。
		実績	57,458	60,863	60,546			
＜指標の計算方法＞	1年間の支払調書件数							
活動指標 口座振替納入依頼書受付件数	件	目標						Web申込（625件）への移行が進行している。
		実績	2,522	2,551	2,211			
＜指標の計算方法＞	1年間の受付件数							
活動指標 指定金融機関検査件数	件	目標						紀の川市指定金融機関等検査実施要領により実施した。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	1年間の検査件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
12,314						12,314

事業の実績

①出納業務
・全会計歳入処理件数…　740,090件
・全会計歳出処理件数…　60,546件
・会計課からのお知らせを職員掲示板に月1回掲示

②県会計職員連絡協議会負担金
・会計管理者定例会　　R7.5.17開催
・会計職員事務研修会　R8.2.5開催

③口座振替納入依頼書等受付事務
・受付件数…　2,211件

④債権者登録業務
・登録件数…　3,038件

⑤日計表作成業務
・各会計の収入額と支払額の確定及び残高の確認

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市以外が実施主体になりえない事務事業であり、財務規則に基づき継続する必要性が高い事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性及び能力開発のための対策として、引き続き課員全員で情報共有に努め、組織全体の能力向上を図った。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・実施方法の変更等でコスト削減が難しい事業であるが、事業過程に無駄がないか定期的に検証し、引き続き業務の効率化とコスト削減（人件費）に努めた。

事務事業の概要

事務事業名	会計審査事業	担当課	会計課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	462

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成	
予算科目 目	5 会計管理費	基本施策	3	健全な財政運営の確立	
		取組方針	9	その他	

事業概要：公金事務処理の審査を行い、市民等に行政への信頼を高めてもらう事業

事務事業を構成する細事業					
①	会計審査	⑤		⑨	
②	決算業務	⑥		⑩	
③	源泉徴収審査支払業務	⑦		⑪	
④	監査受検	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 決算書作成回数	回	目標						地方自治法第233条第1項に基づき作成した。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞ 作成回数								
活動指標 源泉徴収票発行件数	件	目標						年次ごとの微増減があるが、概ね例年通りの推移である。
		実績	2,577	2,442	2,602			
＜指標の計算方法＞ 1年間の発行件数								
活動指標 支払調書発行件数	件	目標						年次ごとの微増減があるが、概ね例年通りの推移である。
		実績	368	393	413			
＜指標の計算方法＞ 1年間の発行件数								
活動指標 監査受検回数	回	目標						紀の川市監査計画に基づき受検した。
		実績	13	13	13			
＜指標の計算方法＞ 例月出納検査・決算審査の受検回数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
432						432

事業の実績

①会計審査
・紀の川市財務規則による支出命令書等の審査
・新規採用職員研修実施（会計事務について）

②決算業務
・決算書の作成…　一般会計 180部
　特別会計 115部

③源泉徴収審査支払業務
・源泉徴収票　発行件数　2,602件
　源泉額　142,707,475円

・報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書　発行件数　305件
　源泉額　13,400,491円

・不動産の使用料等の支払調書　発行件数　108件

支払額　67,993,518円

④監査受検
・監査受検のための資料作成

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・財務規則に基づき市以外が実施主体になりえない事務事業であり、今後も継続する必要性が極めて高い事業である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性向上及び能力開発のため、担当者だけでなく課員全員での積極的な情報共有に努め、組織全体の審査能力を維持・向上させた。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・実施方法の変更等で直接的なコスト削減は難しい事業であるが、審査過程における無駄の排除を定期的に検証し、業務の効率化と適切な人件費管理（時間外勤務の抑制等）に努めた。

事務事業の概要

事務事業名	庁舎管理事業	担当課	契約管財課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	7
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
予算科目 目	6 財産管理費		取組方針	9	その他
事業概要	市民、職員が庁舎等を安全、快適に利用できるように、庁舎の適正な管理を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	本庁舎等施設管理	⑤		⑨	
②	職員駐車場料金徴収	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 日常目視点検	日	目標	243	243	242	241	243	市役所開庁日は、職員もしくは設備管理委託業者による目視点検を実施。
		実績	243	243	242			
＜指標の計算方法＞	市役所開庁日における職員若しくは設備管理員による目視点検実施日							
成果指標 前年度に対する光熱水費の比率	%	目標	98	98	98	98	98	電気使用量の減少により令和6年度より減少した。
		実績	96	111	98			
＜指標の計算方法＞	前年度に支出した電気、ガス、水道費の合計に対する割合							
成果指標 庁舎内無事故日数	日	目標	366	365	365	365	366	年間を通じ、庁舎管理上の瑕疵による事故は発生しなかった。
		実績	366	365	365			
＜指標の計算方法＞	庁舎管理上の瑕疵による事故日のカウント							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
196,404					38,943	157,461

事業の実績

①本庁舎等施設管理
・修繕件数31件
・庁舎総合管理業務委託
・機械警備業務委託
・植栽管理業務委託
・ホール田園音響・照明操作管理業務委託
・本庁電気自動車充電設備等（東駐車場）電気保安管理業務委託
・本庁舎非常用発電設備燃料油成分分析業務委託
・南別館ホール田園電動式移動観覧席緊急調査業務委託
・法定外公共物用途廃止申請図面作成業務
・職員駐車場用地借上業務
・大井寺池駐車場区画線補修工事
・紀の川市役所東駐車場区画線補修工事

②職員駐車場料金徴収
収納額　37,947,800円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

市民、職員等が安全で快適に利用するためには、適正な維持管理が必要であり、妥当性があると考える。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・引き続き現状の庁舎管理業務の仕様にて成果指標の目標達成を図り、施設を適正に維持するため、修繕等の必要が生じた場合は速やかに修繕を行う。
・電気使用量は減少しているが、電気料金は社会情勢により大きく変動するため、設備機器の省エネに取り組む必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・照明のLED化や空調設備の修繕を実施するなど、コスト削減に取り組んでいる。
・公共施設個別計画に基づいた長寿命化を図り、建築物の予防保全について取り組む必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	公用車管理事業	担当課	契約管財課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	464

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総務費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	6 財産管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	職員が公用車を安全で快適に使用できるように、公用車の適切な管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	公用車管理	⑤		⑨	
②	マイクロバス運転及び整備管理	⑥		⑩	
③	自動車保険加入	⑦		⑪	
④	公用車有料広告掲載	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 公用車稼働率	%	目標	80	80	80	80	80	稼働率については令和6年度と同値で、ほぼ目標どおり稼働している。
		実績	80	79	79			
＜指標の計算方法＞	公用車管理棟で管理している車両（二輪車以外）の稼働率【（毎月：平日稼働日数÷平日日数）の年間平均】							
成果指標 市保有の公用車台数	台	目標	330	330	330	330	330	令和7年度末時点の保有台数は増加しているが、これは車両の入庫時期によるもので、実際は横ばいである。
		実績	326	319	321			
＜指標の計算方法＞	上下水道部車両、特殊車両（乗用草刈機等）、他団体車両を除く市保有の公用車の台数【基準日：年度末3月31日】							
成果指標 自動車保険請求件数	件	目標						稼働率は令和6年度と同値だが、保険請求件数は減少した。職員の安全運転意識向上のため安全運転啓発や安全運転講習を継続する。
		実績	17	33	23			
＜指標の計算方法＞	事故等（風水害、偶発的事由を除く）により自動車保険を請求した件数【基準日：年度末3月31日】							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
104,052			36,000		81	67,971

事業の実績

①公用車管理
・公用車事務（車両情報の管理、リース料や燃料費等支払事務と情報管理、整備業者や燃料業者への連絡等）
・車両運行管理業務（運行前後の点検、清掃と自主点検をはじめ車検や修繕の手配、稼働率の算出、自動車事故の報告や対応等）
・アルコール検知器による、運転前後の酒気帯びチェックを実施
・大雪に備えて、一部スタッドレスタイヤへの入替を実施
・電気自動車を導入、充電設備設置工事（普通充電設備1基（2口）、コンセント型13基及びキュービクル式高圧受電変電設備）を実施

②マイクロバス運転及び整備管理
・マイクロバス運転及び整備管理業務委託（マイクロバスの運転、点検、整備管理及び清掃等）

③自動車保険加入
・乗用草刈機等の特殊車両を含む公用車の自動車損害共済保険加入業務

④公用車有料広告掲載
・公用車を媒体とした有料広告事業の募集を実施（実績：1件3台81,000円）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・職員が公用車を安全で快適に使用するためには、本事業による適正な管理、運営が必要であるため、妥当性は高い。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・稼働率調査や経過年数、走行距離、使用目的に基づき、車両入替や配車等を行うことで、適正な維持管理を実施している。また、公用車は、災害時等緊急時にも必要なことから有効性は高い。
・類似団体等の状況を参考に、当市の使用状況等を検証したうえで、適正な保有台数を設置する必要がある。
・職員の安全運転意識の向上や適正な予約の啓発を継続して行う必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・老朽化した車両の入替、稼働率や使用目的に応じた配車を行うことで適正な配置を進め、修繕等の縮減を図っているため、効率性は高い。
・公用車を適正かつ安全に使用するため、車両の管理等に関する知識や技術を有する業者へ業務委託を行っており、引き続き業務内容等を精査し、効率性を高める必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	入札契約事業	担当課	契約管財課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	468

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	6 財産管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	市が入札、契約事務における公平性、透明性、競争性を確保するために、事業者の適正な事業者登録や入札・契約事務を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	工事等検査	⑤		⑨	
②	指名登録業者管理	⑥		⑩	
③	入札・契約	⑦		⑪	
④	契約管理・成績評価システム	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	一般競争（指名競争）入札成立件数	件	目標	320	320	300	250	250	発注課の入札希望数により変動する件数である。令和7年度は、少額随契できる限度額が増加したため、件数が60件程減少した。
			実績	295	302	245			
	＜指標の計算方法＞	建設工事等の入札が成立した件数							
活動指標	工事検査件数	件	目標	200	200	200	200	200	発注課の建設工事の完成数により変動する件数である。令和7年度は、大雨災害復旧工事の検査が少なかったため、令和6年度に比べて大きく減少した。
			実績	153	277	201			
	＜指標の計算方法＞	契約管財課に検査依頼があり検査員が工事等検査を行った件数							
成果指標	入札等参加資格登録業者数	者	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	登録項目において指定の登録期間があり、時期により変動する件数である。
			実績	1,995	2,027	2,054			
	＜指標の計算方法＞	建設工事、測量・建設コンサルタント等、物品・その他製造等の業者数（4/1現在）							
成果指標	建設工事早期発注率	%	目標	60	60	60	60	60	発注課の入札希望数及び契約締結時期により変動する件数である。令和7年度は、令和6年度と同水準となった。
			実績	44.6	68.3	68.4			
	＜指標の計算方法＞	上半期（4月から9月）の工事契約件数÷年間の工事契約件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
10,235						10,235

事業の実績

①工事等検査
発注課の依頼に基づき契約管財課所属の検査員が工事検査を実施した。
・工事検査件数　98件

②指名登録業者管理
入札等参加資格登録業者の登録・管理を行った。
・建設工事　606者
・測量・建設コンサルタント等　357者
・物品、その他製造等　1,091者

③入札・契約
(1)発注課の依頼に基づき、事業案件の入札方法、選定業者案等について、建設工事等請負業者選定審査会を開催した。
・審査会開催日数　20日
・審査会審査件数　252件
（内訳）工事請負　161件
業務委託　69件
物品購入　22件
(2)審査会で決定した入札方法及び選定業者により入札を執行した(入札取り止め案件2件を除く)。
指名業者の入札辞退等により5件が不成立となった。不成立となった案件は、後日随意契約で対応、又は令和8年度に再度入札予定となった。
・入札執行日数　21日
・入札執行件数　250件
（内訳）条件付一般競争入札　16件
指名競争入札　234件
(3)入札において落札した業者と契約を締結した。
・入札成立件数　245件
・契約締結件数　245件
（内訳）
工事請負業者　市内 157件、市外 1件
業務委託業者　市内 44件、市外 24件
物品購入業者　市内 12件、市外 7件

④契約管理・成績評価システム
・業者管理、入札・契約関連事務及び工事成績評定を全庁的にシステムで運用した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・発注課依頼の入札案件等について、入札・契約・検査に関する事務等を適正に執行するものである。実施主体は、関係法令において透明性・公平性・競争性の確保、不正行為の排除、品質の確保等が厳格に義務付けられている事業であることから、市で実施することが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・発注課からの入札案件等について、適正な事務の執行ができている。大きな災害等がなかったこともあり令和7年度の入札早期発注率は、令和6年度と同水準となった。今後も目標値を維持できるように継続的に早期の入札執行を促していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・市の適正な予算執行（入札・契約・検査）に直接的に関わるため、業務委託は困難な事業である。
・令和7年度は、入札等参加資格審査システムを本格導入したことにより、資格審査申請にかかる業務時間が短縮した。
・今後も事務工程の見直しや契約管理・工事成績評定システム、入札等参加資格審査システムの活用により事業の効率化を進めるとともに人的コストの削減も図っていく。

事務事業の概要

事務事業名	物品集中調達事業	担当課	契約管財課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	466

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	6 財産管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	職員が物品を効率的に活用できるように、物品を適正に調達し、管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	調達（発注・契約）	⑤		⑨	
②	物品管理	⑥		⑩	
③	事務機器管理	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 コピー用紙発注箱数	箱	目標	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	本庁、南別館で使用するコピー用紙は、コピー機の使用増加により、増加傾向にある。発注数については、在庫数の調整により微増した。
		実績	2,425	2,459	2,467			
＜指標の計算方法＞	本庁・南別館で使用するコピー用紙の発注箱数							
成果指標 集中調達物品種類数	種類	目標	200	200	200	200	200	物品集中調達の種類は、配付品目の精査及び類似品目の廃止また、要望に応じ追加品目があったため1種類減少となった。今後も、要望に応じた品目の増減が見込まれる。
		実績	195	199	198			
＜指標の計算方法＞	契約管財課で集中調達し、各部署へ配付する事務用品・日用品の種類数							
成果指標 事務機器台数（契約管財課管理分）	台	目標	7	7	6	8	9	契約管財課で管理している事務機器台数は、入れ替えがあったものの増減なしとなった。
		実績	6	7	7			
＜指標の計算方法＞	本庁・南別館で使用する事務機器（コピー機・輪転機）の台数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
14,232						14,232

事業の実績

①調達（発注・契約）
・物品を集中調達し、各部署の要望に応じ適正に配付した。
再生紙　Ａ４（1箱　2,500枚）　2,265箱
　　Ａ３（1箱　1,500枚）　159箱
　　Ｂ５（1箱　2,500枚）　0箱
　　Ｂ４（1箱　2,500枚）　0箱
兼用紙　Ａ４（1箱　2,500枚）　32箱
　　Ａ３（1箱　1,500枚）　11箱
　　計　2,467箱

②物品管理
・集中調達物品の種類を見直し、調達にかかる種類を再構成した。　198種類

③事務機器管理
・職員が効率よく事務機器を使えるよう管理
・運用及び次年度に向けた台数の調整を行った。　7台（契約管財課で予算執行している台数）

・来庁者の利便を図るため、本庁舎1階に有料コピー機を設置している。
モノクロ　4,263枚
カラー　260枚
計　4,523枚

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市が各事業に取り組むうえで物品調達及び管理を一括で行うことにより、市全体として事務効率化及び経費削減を図っており、妥当性は十分ある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・物品の調達及び管理を一括で行うことにより、市全体の事務効率化及び経費削減に貢献している事業である。要望等により集中調達物品の種類の充実を図っている。
・高速プリンターの印刷初期設定を両面印刷することにより、コピー用紙使用の抑制を図っている。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・市の予算執行（契約事務）に直接的に関わるため、業務委託は困難な事業である。
・コピー用紙の発注数については、在庫数での調整を行っている。
・職員が使用する物品やコピー用紙をまとめて購入することで、コスト削減でき、効率性を図っている。
・故障等により事務に支障がないようバックアップ機器の確保に取り組むことで事務作業時間が短縮され人件費の抑制に繋がる。

事務事業の概要

事務事業名	公共施設マネジメント推進事業	担当課	公共施設マネジメント課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	962

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	6 財産管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	3	市有財産の効率的・効果的な管理運営

事業概要	市民に提供する施設サービスを適切に維持するため、施設全体を統括的に企画、管理することで、計画的な保全による長寿命化や施設保有量の最適化を図る事業

事務事業を構成する細事業					
	① 公共施設マネジメント検討委員会運営	⑤ 指定管理者選定委員会運営	⑨		
	② 公共施設マネジメント計画推進	⑥ 市有建築物等の営繕	⑩		
	③ 個別施設計画推進	⑦	⑪		
	④ 市有施設維持・保全支援	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 公共施設マネジメント検討委員会開催数	回	目標	3	3	3	3	3	目標開催数以上を開催した。案件付議申請に対しても柔軟に開催し対応できている。
		実績	5	6	9			
＜指標の計算方法＞	年間開催数							
成果指標 解体、統廃合による減少面積	㎡	目標	-2,412.5	-2,412.5	-2,412.5	-2,412.5	-2,412.5	行政利用を終えた施設の解体1件、払下げ１件、また鞆渕複合施設新設に伴い出張所及び診療所の延床面積の増減などにより、トータルでは減少となったが、目標達成には至らなかった。
		実績	82	-316	-182			
＜指標の計算方法＞	目標＝公共施設マネジメント計画の縮減目標面積▲96,500㎡÷40年、実績＝延床面積の減少面積（財産に関する調書から抽出）							
成果指標 依頼を受けた営繕業務の支援実施率	%	目標	100	100	100	100	100	依頼を受けた業務は124件と令和6年度より13件増加した。支援依頼件数は年々増加しているが、100%の支援を実施した。
		実績	100	100	100			
＜指標の計算方法＞	支援業務件数÷依頼を受けた業務件数×100							
活動指標 指定管理者選定委員会開催数	回	目標	3	3	3	3	3	目標開催数どおり開催し、紀の川市青洲の里及び紀の川市青洲の里農産物直売所施設に係る指定管理者の候補者選定、その他指定管理者制度導入施設のモニタリング検証を実施した。
		実績	3	2	3			
＜指標の計算方法＞	年間開催数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
18,183						18,183

事業の実績

①公共施設マネジメント検討委員会運営
・開催数　9回
・案件付議数　13件
学校再編に伴う学校跡地利活用に関する検討のため、案件付議数が増加

②公共施設マネジメント計画推進
・各政策分野の施設面の取組について関連する計画や財政運営との連携・調整を行い各施設の実態に応じた整備を推進

③個別施設計画推進
・「紀の川市公共施設個別施設計画」を改訂
・建物劣化調査のサイクル（実施方針）及び自主点検マニュアルを整備
・公共施設マネジメントシステムを活用し、各施設のコスト情報や建物劣化度等を管理

④市有施設維持・保全支援
・施設保全経費として長寿命化を図るための修繕・更新、大規模改修事業に係る予算要求内容について、専門部会による内容確認と助言を行った。
・市有施設を適切に建築・維持・保全していくため、計画・設計・工事に際し、営繕班による施設所管課への支援を実施した。

⑤指定管理者選定委員会運営
・開催数　3回
・案件付議数　5件
・指定管理者の候補者選定　2件
・既に指定管理者制度導入施設（6施設）のモニタリング結果（業務履行状況及び評価等）を報告

⑥市有建築物等の営繕
・市有建築物の新築（改築）工事や改修工事に係る設計協議、及び工事監督を担った。
・支援実施件数（124件）

内訳・・・設計21件、工事28件、事業費等算出45件、企画・検討30件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・施設の長寿命化及び施設保有量の最適化を図ることを目的とし、市民に提供する施設サービスを適切に維持するために市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・延床面積の縮減については、施設の状態や利用状況を踏まえ、引き続き再配置や統廃合の検討を進める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・長寿命化を図る施設については、マネジメントシステム等を活用し適切な改修計画を推進する。また、所管課で実施できるよう自主点検マニュアルを見直し、早期対応することで適切な維持管理を推進する。

事務事業の概要

事務事業名	市有財産管理事業	担当課	公共施設マネジメント課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	465
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
予算科目 目	6 財産管理費		取組方針	3	市有財産の効率的・効果的な管理運営
事業概要	市が市有財産の効果的な活用を図るために、市有財産の適正な管理を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	保険加入	⑤	公共施設等の利活用に関する民間提案制度	⑨	
②	市有財産管理	⑥	公共施設跡地等利活用の検討	⑩	
③	財産処分・払下	⑦		⑪	
④	未利用財産の活用	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	不動産鑑定委託件数	件	目標	5	5	5	5	5	一般競争入札による売払い対象地の不動産鑑定を実施した。新規物件を出すことができたため実績値は令和6年度より増加した。
			実績	10	9	11			
	＜指標の計算方法＞	市有財産の効果的な活用を図るために実施した不動産鑑定委託件数							
活動指標	公共施設マネジメント検討委員会付議件数	件	目標	5	5	5	5	5	例年付議している一般競争入札による市有財産売却、公共施設跡地等利活用に係る付議件数が増加したことにより実績値は令和6年度より増加した。
			実績	3	12	13			
	＜指標の計算方法＞	公共施設マネジメント検討委員会への市有財産の有効活用に関する付議件数							
成果指標	効率的に処分・払下した資産の件数	件	目標	10	10	10	10	10	法定外公共物の払下げや一般競争入札による売却件数は減少したが、随意売却の件数が増加したため実績値は令和6年度より増加した。
			実績	18	12	13			
	＜指標の計算方法＞	土地・建物の処分・払下件数のうち有償であったもの							
成果指標	市有財産賃貸借件数	件	目標	30	30	30	30	30	賃貸借物件について実績値の増減はなかった。今後も賃貸借物件の売却等を進めて行く方向性であるため、件数は減少していく見込みである。
			実績	27	23	23			
	＜指標の計算方法＞	土地及び建物賃貸借件数（事務所、携帯電話基地局等使用許可含むが、電柱、支線等使用許可は除く）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
25,538					24	25,514

事業の実績

①保険加入
・建物総合損害共済保険加入施設数　541件
（一般 450件、水道 63件、下水道 28件）
・総合賠償補償保険への加入

②市有財産管理
・財産台帳登録
土地　2,808件　合　計　8,232,346.20㎡
建物　　806件　延面積　　265,357.37㎡
・雑草等刈取業務委託
市有地　27箇所　4,520,880円
・黒土市有地雑木伐採業務
・貴志川町丸栖市有地雑木伐採整地業務
・名手市場地内
南部公園ロータリー内桜剪定業務
・貴志川町岸小野市有地雑木伐採業務
・桃山町調月市有地雑木伐採業務
・黒土市有地竹等伐採業務
・貴志川町長山地内
長山団地市有地竹等伐採業務

③財産処分・払下
・一般競争入札実施物件数　9件
・一般競争入札応札件数　0件
・随意契約による売払い　9件
・普通財産払下げ　4件
（うち有償のもの）　4件
・不動産鑑定委託　11件
・土地売却に係る調査・登記等業務　3件
（境界点確認、復元測量、分筆、合筆等）

④未利用財産の活用
・土地　市有地貸付　15件
携帯等基地局　7件
・建物　庁舎等貸付　1件

⑤公共施設等の利活用に関する民間提案制度
・対象物件数　3件
・応募件数　0件

⑥公共施設跡地等利活用の検討
・庁内検討部会開催数　8回
・地域代表者との検討部会開催数
3地区　計9回
(内容)学校適正規模適正配置「第1次実施計画」に伴い廃校となる川原小学校、上名手小学校、麻生津小学校の跡地利活用の方向性について関係各課及び各地域代表者と検討協議し、利活用のイメージ案を共有した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市有財産の管理業務であり、適正な管理・運用・処分等を行うためにも市が実施すべき事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・普通財産の一般競争入札を継続的に実施し、未利用財産の処分を推進していく。
・「公共施設等の利活用に関する民間提案制度」も活用し、未利用市有地の有効活用を推進していく。
・所管課不明の市有財産について適切に財産を分類した上で、関係各課協力のもと円滑な調査を実施し、所管課を明確にして財産台帳システムに適切に反映させる。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・草刈等の委託可能業務について、外部委託をすることで効率的に業務を進めている。

事務事業の概要

事務事業名	鞆渕地区公共施設等再編事業	担当課	公共施設マネジメント課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R１～R７）
				事業番号	1112

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	6 財産管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	3	市有財産の効率的・効果的な管理運営

事業概要：鞆渕地区の公共施設の再編を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	鞆渕地区公共施設等再編	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 集約した施設数	棟	目標	3	3	3	0	0	出張所、診療所、消防施設の機能を集約し、計画どおり事業を完了した。 令和8年1月より施設の運用を開始した。
		実績	0	0	3			
＜指標の計算方法＞	再編し集約した施設数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
121,132			104,500		1,522	15,110

事業の実績

①鞆渕地区公共施設等再編
　令和5年度に着手した建築工事を完了し、再編事業を完了した。
　再編した施設の内容は次のとおり。
・出張所、診療所棟
　・木造平屋建て
　・床面積＝468㎡
・消防施設棟
　・木造平屋建て
　・床面積＝102㎡
・土のう作業棟
　・床面積＝13㎡

新施設床面積計＝583㎡
（旧施設床面積計＝992㎡
　409㎡の床面積削減）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・老朽化した各施設を集約し、地域の中心に利便性の高い施設を建設する事業であるため、妥当性がある。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・施設の機能性、利便性及び安全性を向上する計画に基づいた事業であるため、有効性がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・複数の担当部署で実施すべき事業を、当課で一括して進めるため、効率性は高いといえる。

事務事業の概要

事務事業名	施策計画管理事業	担当課	企画経営課		事業区分	内部管理事業	
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	479
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進		
予算科目 目	7 企画経営費		取組方針	1	効率的・効果的な行政サービスの提供		
事業概要	行政評価による行政経営システムを運用し、限りある資源を有効に活用し、計画的に行政経営を行う事業						

事務事業を構成する細事業			
① まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営	⑤ 市民意識調査業務	⑨ 紀の川インターチェンジ周辺地域整備検討業務
② 庁議・部長会運営	⑥ 施策評価・事務事業評価	⑩ 大学誘致調査業務
③ 施策調整・調査研究業務	⑦ 市長会要望	⑪ ドローン社会実装推進業務
④ 和歌山社会経済研究所負担金	⑧ パブリックコメント	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 庁議付議件数	件	目標						令和7年度は協定締結の付議案件が前年より少なかった影響を受け、付議案件数は減少した。目標設定はなじまないため設定していない。
		実績	39	41	34			
＜指標の計算方法＞ 庁議へ付議された審議案件の件数								
活動指標 パブリックコメント実施件数	件	目標						市手続要綱に基づき、令和7年度における実施件数は3件で意見は55件あった。実施しなかった3件については、実施機関として裁量の余地がないもの、内部管理に関するもの等、担当課で除外対象とした。目標設定はなじまないため設定していない。
		実績	7	4	3			
＜指標の計算方法＞ 各種計画策定時等に実施したパブリックコメント（市民意見募集手続）の件数								
活動指標 行政評価研修開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	令和7年度は行政経営アドバイザーによる研修に代え、評価における要点を整理した講評によるPDCAサイクルの向上を図った。
		実績	2	2	0			
＜指標の計算方法＞ 職員対象に実施した行政評価制度に関する研修会の回数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
33,649						33,649

事業の実績

①まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営
・第1回審議会（令和8年2月20日）
　総合戦略の進捗・改訂

②庁議・部長会運営
・庁議（13回）、部長会議（12回）を開催
・計画等の策定・改定（計7件）、協定の締結（計3件）、条例の制定・改正（計20件）
・令和8年度当初予算編成について　等

③施策調整・調査研究業務
・屋内遊び場の視察や、官民共創窓口の設立に向けた調査等を実施した。

④和歌山社会経済研究所負担金
・調査・研究成果の情報提供を受けた。

⑤市民意識調査業務
・令和7年12月5日から8年1月9日まで実施
・対象者：1,500人（18歳以上）
・回答率：35.6％

⑥施策評価・事務事業評価
・施策単位及び事務事業単位で評価を実施。
・アドバイザーから全事務事業と施策評価シートの指導と総括を受け、精度を高めた。
・事務事業評価を決算主要施策の成果報告書として活用した。

⑦市長会要望
・市単独で解決が難しい課題等について、県市長会を通じて、国や県に要望を実施した。

⑧パブリックコメント
・市政に市民意見を反映させるためパブリックコメントを実施。（件数3件、意見55件）

⑨紀の川インターチェンジ周辺地域整備検討業務
・開発拠点における導入機能や付加価値、整備・運営スキームの検討、民間事業者の参入意向や立地可能性について意向調査を実施。

⑩大学誘致調査業務
・誘致候補機関等の情報収集・意向調査を行うとともに、連携の可能性がある大学との関係強化に向けた連携事業を実施した。
・サテライト講義を2回実施（10/27、3/3）
・学生フィールドワークを2回実施（9/1～3、9/4～5）

⑪ドローン社会実装推進業務
・市とソフトバンク（株）が共に設立発起人となり、紀の川市ドローン社会実装推進コンソーシアムを令和7年7月25日に設立。令和7年度末時点で産官学から38社が参画。
・分科会として物流・防災・農業ワーキンググループを組成し、防災総合訓練と連動した実証を開催した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・総合計画、総合戦略などに基づき、健全な財政運営を行い、質の高い住民サービス提供を持続可能とする行政運営に努める事業であるため、妥当性に問題はない。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・平成22年度から行政評価制度を活用・更新し、施策及び事務事業の進行管理を行っているが、総合計画と個別計画及び各事務事業の紐づけが全庁的に意識されているとは言えない。また、事業の進捗度合いを確認するための適切な指標を設定し、PDCAサイクルに基づき、次年度への成果を意識した事務事業の見直しや廃止、拡大、成果や事業費、人員の方向性を検討することについて、全庁的に活用できているとは言えないため、引き続き制度の周知と活用を促す取組を進める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・人口減少・高齢化、多様化複雑化する住民ニーズ、健全な財政運営を意識した行政経営に取り組んでいるが、事業担当部署において、官民連携やDXの活用についてさらに理解を進める必要がある。そのため、適切な情報提供や業務支援・提案を行い、各事務事業の成果を意識した有効性の向上を進める必要がある。定型業務においては効率性向上の取組を進めるため、好事例を横展開するなど庁内連携を行う必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	広域連携事業	担当課	企画経営課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	476

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成	
予算科目 目	7 企画経営費	基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進	
		取組方針	1	効率的・効果的な行政サービスの提供	

事業概要	広域的な課題の解決や施策の推進を図るために、近隣市町村と共通課題等の情報・意見交換や連携を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	広域連携のあり方に関する意見交換会	⑤	全国半島振興市町村協議会	⑨	
②	吉野川・紀の川流域協議会	⑥	全国過疎地域連盟	⑩	
③	自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会	⑦		⑪	
④	紀淡連絡道路実現期成同盟会	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席	回	目標						幹事会はオンラインでの開催となったが、定例総会は九度山町において開催された。
		実績	2	3	3			
＜指標の計算方法＞	吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席							
成果指標 吉野川・紀の川流域協議会自主事業への参加者合計	人	目標	20	20	20	20	20	高野町において紙すき体験会が開催された。全52人の参加者のうち紀の川市に在住の方は10人であった。
		実績	0	6	10			
＜指標の計算方法＞	自主事業への参加者の合計							
活動指標 自転車活用に係る会議やイベント等への参加回数	回	目標						6月4日に総会が開催され、当市は委任状を提出した。
		実績						
＜指標の計算方法＞	自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会への参加回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
186						186

事業の実績

①広域連携のあり方に関する意見交換会
- 広域連携に係る4市1町（和歌山市、海南市、紀の川市、岩出市、紀美野町）での意見交換会であるが、コロナ禍以降、参集での開催が難しくなり、開催されていない。

②吉野川・紀の川流域協議会
- 吉野川・紀の川流域の奈良県1市3町3村、和歌山県4市3町で構成する協議会
- 定例総会（8/29、九度山町で開催）
  総会終了後に和歌山河川国道事務所の講演に参加した。
- 幹事会（5/22、3/25オンライン開催）
- 負担金支出
- 高野町にて体験学習会が開催され、紀の川市からは10人の方が参加した。

③自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会
- 全国426自治体で構成する会
- 定例総会（6/4：欠席（委任状提出））
- 役員による要望活動
- 負担金を支出

④紀淡連絡道路実現期成同盟会
- 和歌山県、大阪府、淡路島の16市7町で構成する会
- 課長会（7/23　オンライン開催）
- 総会（書面会議）
- 役員による要望活動（11/10）

⑤全国半島振興市町村協議会
- 半島振興法の適用を受ける全国の市町村で構成される協議会
- 負担金を支出

⑥全国過疎地域連盟
- 総会2回（6/23：委任状提出、11/17：委任状提出）
- 負担金を支出

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・老朽化するインフラ施設の増加、技術系職員や建設業者等の担い手不足など、近隣市町が広域で連携し、共通課題の解決や施策の推進を図ることで、市民サービスの質の向上・持続可能な市民サービスの提供につながることを前提とした取組であり、市の関与は妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・広域連携のあり方については、共通課題の解決につながるため有効であり、近隣市町村等との情報・意見交換を通じて、共通課題に対する認識を共有し、広域的な連携体制の構築や共同事業の実施に繋がり、施策推進に一定の効果を得ることができた。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・最小限度の費用負担であり、改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	土地利用計画事業	担当課	企画経営課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	475

会計	一般会計	長期総合計画体系		
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	7 企画経営費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備
		取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進

事業概要	法に基づく適正な土地利用などを行うため、土地売買等届出書の受理や無届土地取引の調査等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	国土利用計画	⑤		⑨	
②	近郊緑地保全区域	⑥		⑩	
③	公有地拡大推進	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 土地売買等届出書の届出件数	件	目標						令和6年度の1件に対し、令和7年度は6件に増加した。用途は多様であり、特定の開発に偏ることなく土地利用全般において取引が活性化したことが要因と考えられる。
		実績	7	1	6			
＜指標の計算方法＞	制度に基づき提出された土地売買等届出書の届出件数							
活動指標 土地売買等届出制度の周知回数	回	目標	3	3	3	3	3	届出が必要な要件、期限等を周知することで無届取引や遅延届出の防止を図るもので、4月にホームページ、土地月間である10月にホームページとポスター掲示により周知を行った。
		実績	3	3	3			
＜指標の計算方法＞	広報紙・ホームページ等での土地売買等届出制度の周知回数							
成果指標 無届取引等把握調査で判明した無届件数	件	目標						令和7年度においても依然として無届件数が生じているため、引き続き制度の周知に努めると同時に、効果的な周知方法も検討する必要がある。
		実績	7	3	5			
＜指標の計算方法＞	無届取引等把握調査で判明した無届件数							
活動指標 近郊緑地保全区域内行為（変更）届出件数	件	目標						和泉葛城区域として、紀の川市の一部が指定されている。山林が主体であり、開発需要も限定的であることから届出数は少数で推移している。
		実績		1				
＜指標の計算方法＞	近郊緑地保全区域内行為（変更）届出件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
36		26				10

事業の実績

①国土利用計画
・国土利用計画法に基づく土地売買等届出書の受理、無届土地取引の調査等で、令和7年度は届出件数6件であった。
また、土地月間である10月には広報紙などで制度啓発を行った。

②近郊緑地保全区域
・近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づき指定される保全区域（和泉葛城区域）における開発に関する届出書の受理であるが、令和7年度は0件であった。

③公有地拡大推進
・公有地の拡大の推進に関する法律に基づく届出等の受理で、令和7年度は0件であった。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・国土利用計画法など法に基づく事業である。一部の事務について和歌山県から権限が移譲され市で事務を行っている。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・制度周知を継続して行い、民間事業者との連携など期限後の届出及び無届取引を減らす必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・届出事務は不定期に発生し、件数が少ないことから、業務スキルの蓄積が行われにくい。事務を円滑に遂行できるようマニュアルを更新し、定期的な研修等を実施する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	空港活性化促進事業	担当課	企画経営課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	489

会計	一般会計	長期総合計画体系		
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政経営・職員育成
予算科目 目	7 企画経営費	基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
		取組方針	1	効率的・効果的な行政サービスの提供

事業概要	関西国際空港周辺の自治体と連携し、空港活性化のための事業を行い、関西国際空港の利用者数の増加を図る事業

事務事業を構成する細事業					
①	空港活性化促進業務	⑤		⑨	
②	関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 中央要望回数	回	目標	1	1	1	1	1	国土交通省及び和歌山県・大阪府選出の国会議員を訪問し、要望内容の説明および要望書を手渡した。関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会の重要事業である。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	地元選出国会議員、国土交通省等への南ルートの実現等に関する要望回数							
活動指標 空港に関する総会・会議出席回数	回	目標						関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会として開催される総会（1回）、幹事会（1回）に出席した。令和6年度は幹事会が2回開催されたため、回数が多い。
		実績	2	3	2			
＜指標の計算方法＞	空港に関する総会・幹事会等会議への出席回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
83						83

事業の実績

①空港活性化促進業務
・関西国際空港全体構想促進協議会総会へは、委任状を提出し、総会は欠席した。

②関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会
・大阪府4市2町、和歌山県4市で構成する期成会
・幹事会（5/2）
・総会（8/6）
・中央要望（11/25）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・関西国際空港は市民にとって一番身近な空港である。利用促進や空港の活性化自体は本来運営会社が担うべきものであるが、利用者の増加やインバウンドなど地域経済にもたらす効果、また中央要望への自治体関与の必要性を考えれば、市の関与も現時点では妥当と考える。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・関西国際空港連絡南ルートの実現など、現時点では具体化されていない要望段階であるが、空港アクセスのリスクマネジメント、市の利便性向上、地域の活性化に繋がる取組であるため、今後も社会的動向に注視しながら期成会への参画を通じ、関係自治体との連携を図りながら早期実現に向け活動を継続していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・空港活性化に向けて要望活動など最小限の経費で実施している。

事務事業の概要

事務事業名	行財政改革推進事業	担当課	企画経営課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	963

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	7 企画経営費	基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
		取組方針	2	行財政改革の推進

事業概要	将来にわたって引続き質の高い市民サービスの維持・向上を目指すため、官民連携や証拠に基づく政策立案（EBPM）、DXの視点を取り入れた業務改革の推進など従来の手法にとらわれない柔軟な考えのもと持続可能な行政経営を目指し、行財政改革を一層推進する事業

事務事業を構成する細事業					
	① 行財政改革推進委員会運営	⑤ 職員提案制度	⑨		
	② 行財政改革推進本部運営	⑥ 地方分権推進業務	⑩		
	③ 行財政改革専門部会運営	⑦ 組織機構改革業務	⑪		
	④ 民間委託・官民連携推進業務	⑧ 有料広告審査業務	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 行財政改革推進委員会開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	行財政改革推進計画における令和6年度進捗状況の報告、令和7年度推進事項について審議いただくため、委員会を1回開催した。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞ 行財政改革推進委員会年間開催回数								
成果指標 職員提案制度の提案採択件数	件	目標	4	4	4	4	4	提案件数は6件で、うち4件が採用3年目研修として実施された。市長採択となったのは1件だが、他の5件についても保留とし、継続して研究するよう指示があった。
		実績	3	1	1			
＜指標の計算方法＞ 職員提案制度の提案採択件数								
成果指標 行財政改革大綱推進項目の達成率	%	目標	100	100	100	100	100	第4次行財政改革大綱の推進項目23項目のうち、19項目について重点推進項目を設定し、11項目で目標を達成した。
		実績	61	53	58			
＜指標の計算方法＞ 行財政改革大綱推進項目の達成率								
活動指標 行財政改革の進捗状況の公表	件	目標	1	1	1	1	1	進捗状況は、市ホームページで公表した。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞ 行財政改革の進捗状況の公表件数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,729						3,729

事業の実績

①行財政改革推進委員会運営
行財政改革の調査及び審議を行う委員会。学識経験者8人。
・第1回推進委員会（8/12）
令和6年度行財政改革推進計画の進捗状況、令和7年度重点推進項目について審議し、市長に提言を行った。

②行財政改革推進本部運営
行財政改革推進計画の進捗を審議する内部組織。
・第1回推進本部会議（7/2）
令和6年度行財政改革推進計画の進捗状況、令和7年度重点推進項目、庁内における機運醸成について審議した。

③行財政改革専門部会運営
・第1回専門部会（5/21）
令和6年度行財政改革推進計画の進捗状況、令和7年度重点推進項目について審議した。

④民間委託・官民連携推進業務
・市の各種事業や取組を効果的に推進するため日本生命保険相互会社との包括連携協定を締結した。

⑤職員提案制度
・近畿経済産業局と連携した政策立案に向けたデータ利活用(RESAS)研修を実施。
・6件の職員提案があり、1件を採択した。
（予約システム上で公用車予約状況を把握できる体制・予約ルールの見直し）

⑥地方分権推進業務
・「和歌山県の事務処理の特例に関する条例」に基づき権限移譲を受けた事務について、交付金の交付を受けた。

⑦組織機構改革業務
・令和7年4月1日施行の組織機構改革は実施しなかった。

⑧有料広告審査業務
・公用車広告、介護保険冊子、総合インフォメーション、子育てガイドブック、暮らしのガイドブック、市税納税通知書送付用封筒への広告掲載について審査した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・今後の人口推移や社会情勢などを踏まえ、限りある経営財源を有効活用し、持続可能な行政経営と地域社会の実現を図ることは、自治体運営をしていく中で必須事項である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・第4次大綱では、5つの専門部会による取組を進めてきたが、全庁的な取組に繋がっていないことから、次期大綱では業務改善に繋がる取組の横展開を図ることが必要である。
・先進的な事例や民間の知見も参考にしながら、次期大綱策定に向け、人員管理・業務改善・財政効果額の創出など、より有効な手法を検討する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・人口減少や少子高齢化の進行をはじめ、社会情勢の変化に対応するためには、更なる業務改善、効率化を図る取組の検討が必要である。
・今後、人口減少や市民サービスの多様化や複雑化により、経営資源（カネ、ヒト、モノ）を適切に配分しなければ対応が困難となることが予想されるため、次期大綱の策定を行い、より効率的な行財政運営が求められる。

事務事業の概要

事務事業名	合併２０周年記念啓発事業	担当課	企画経営課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ
				事業番号	1245

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	7 企画経営費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	市全体が一体となって更なる飛躍を目指すため、市内外を問わず広く、合併20周年を啓発する事業

事務事業を構成する細事業					
①	基本方針策定	⑤		⑨	
②	啓発物資作成	⑥		⑩	
③	市民参画推進	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 啓発物資の作成アイテム数	件	目標		9				令和6年度に事業を完了している。
		実績		9				
＜指標の計算方法＞	合併20周年の機運を高めるために作成した啓発物資数							
成果指標 合併20周年記念キャッチフレーズ応募件数	件	目標		100				令和6年度に事業を完了している。
		実績		167				
＜指標の計算方法＞	募集要領に基づき応募いただいた総件数							
成果指標 合併20周年記念ロゴマーク等の使用許可申請件数	件	目標			5			市民団体等からのロゴマーク使用許可申請について、HP等で周知したことにより、目標を上回り達成することができ、合併20周年の機運の醸成に繋がった。
		実績			7			
＜指標の計算方法＞	合併20周年記念冠事業取扱要綱に基づき記念ロゴマーク等の使用申請の提出件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績

①基本方針策定
・令和6年度に策定済。

②啓発物資作成
（のぼり・卓上ミニのぼり）
・令和7年3月から4月にかけ、市内の公共施設（支所・出張所、学習センター、公民館・図書館、スポーツ施設等）に配置した。
・大相撲紀の川場所等の市内イベント時に、のぼり等の啓発物資を配置した。
・地域の事業者にのぼりの設置を依頼した。

（懸垂幕）
・本庁舎、粉河支所、那賀支所、桃山支所、貴志川支所の5か所に懸垂幕を設置した。

（缶・ピンバッジ）
・職員全員（会計年度を含む）に缶バッジを配布し、名札等に着用するよう依頼した。
・市長・副市長・部長級職員にピンバッジを配布し、着用を依頼した。
・小学生や中学生向けのイベントに参加し、児童・生徒に、缶バッジを配布した。

（ポスター）
・各地区の区長会に出席し、各区長に向けて合併20周年の啓発を行うとともに、各地区掲示板にポスターを掲示するように依頼した。
・官民連携協定を締結している事業者に、ポスターの掲示の協力を依頼した。

（車両用マグネット）
・各課所有の公用車（パッカー車等も含む）に、車両用マグネットを貼付した。マグネット大は側面、マグネット小は背面に貼付した。

（郵便局車両用ステッカー）
・郵便局が所有している車両・バイクにステッカーの貼付を依頼した。

（郵便物用ステッカー）
・ふるさと小包の発送時に、市のHP等のQRコードを記載したステッカーを貼付て発送してもらった。

③市民参画推進
・市民への合併20周年の認知度を高めるため、各地区区長会において各区長に合併20周年について説明し、住民への周知の協力を依頼した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・これまで築き上げてきた市の歴史を大切にしながら、市全体で祝うことで改めてこのまちを愛し、誇りに思う機会とするとともに、次世代を担う人材に夢や希望を与える機会を創出する事業であり、市が実施すべき事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・合併20周年を市民とともに祝うという観点からもより多くの市民、各種団体、事業者の参画が必要であるため、啓発物資等を活用して合併20周年の機運の醸成に努めた。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・啓発物資の配布と回収に想定以上の時間と労力がかかったため、今後は啓発物資の内容や個数について検討する必要がある。
・使い終わったのぼりのポールや土台は、他部署で活用できないか確認し、可能な限り再利用に努めた。

事務事業の概要

事務事業名	長期総合計画等策定事業	担当課	企画経営課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 6 ～ R 8）	事業番号	975

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	2	総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
	項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
	目	7	企画経営費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
					取組方針	9	その他

事業概要：市民と共創し、市の将来像とまちづくりの目標を定め、まちづくりのビジョンとなる第3次長期総合計画（基本構想：計画期間8年、令和9年度から令和16年度。前期基本計画：計画期間4年、令和9年度から令和12年度）を、令和6年度から8年度までの3か年で策定する事業

事務事業を構成する細事業

①	紀の川市長期総合計画審議会	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 第3次長期総合計画策定支援業務に係るプロポーザル審査委員会開催回数	回	目標		3	0	0		令和6年度でプロポーザルは完了した。
		実績		3	0			
＜指標の計算方法＞ 会議の開催回数								
活動指標 長期総合計画審議会の開催回数	回	目標			4	4		審議会を計4回開催した。
		実績			4			
＜指標の計算方法＞ 会議の開催回数								
活動指標 長期総合計画本部会の開催回数	回	目標			4	4		本部会議を5回を開催し、基本構想パブリックコメントを実施した。
		実績			5			
＜指標の計算方法＞ 会議の開催回数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
15,652						15,652

事業の実績

①紀の川市長期総合計画審議会
開催状況と主な内容
第1回：令和7年9月1日
・策定方針決定
・市民アンケート経過報告
第2回：令和7年10月29日
・基礎調査結果まとめ（速報）報告
・市民アンケート結果まとめ（速報）報告
・ワークショップ経過報告
第3回：令和8年1月21日
・基礎調査結果まとめ（速報）報告
・市民アンケート結果まとめ（速報報告）
・基本構想骨子案について
第4回：令和8年2月20日
・基本構想（素案）
・職員ワークショップについて

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
地方自治法に基づく策定義務はなくなったが、市民と行政が目線合わせをし、共創により策定した長期総合計画は、市の将来像やまちづくりの目標として市政運営上欠かすことのできないものであり、議会の議決を得るものとして定めているため、妥当性に改善の余地はない。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
審議会を開催することで専門分野の知見や市民としての意見を聴取することができ、市の将来像や直面する課題について、事務局の提示するデータや案を活用し、客観的な審議を反映した計画策定につながっている。庁内における全庁体制での計画策定や審議会委員間の意見交換や活性化については改善の余地がある。

効率性
評価結果：改善の余地がややある
限られた期間と人員で策定業務を行うため、策定支援業務委託業者の活用や全庁体制で策定を行っているが、計画策定の目的や担当している事務事業との関係や計画への反映方法など、職員の正しい理解と積極的な参画をさらに図る必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	粉河支所運営事業	担当課	粉河支所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1052

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	2	総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
	項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
	目	8	支所及び出張所費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
					取組方針	9	その他

事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、粉河支所を開設、運営する事業

事務事業を構成する細事業							
	①	窓口対応	⑤		⑨		
	②	各団体支援	⑥		⑩		
	③		⑦		⑪		
	④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 各種支援団体数	団体	目標	6	6	6	6	6	支所が事務局となっているすべての団体等に支援した。
		実績	6	6	6			
＜指標の計算方法＞ 区長会、消防団、交通指導員会、民生委員、敬老会実行委員会、民生委員推薦準備会								
成果指標 支援実施数	回	目標	119	120	120	120	120	敬老会実行委員会等、支援が減少したものもあるが、民生委員児童委員の一斉改選の年であったため、民生委員推薦準備会に対する支援回数が増加し、全体では令和6年度と同程度の支援実施となった。
		実績	126	159	162			
＜指標の計算方法＞ 各団体への会議、活動等の支援回数								
活動指標 業務対応件数	件	目標	22,000	21,000	22,000	22,000	22,000	民生委員児童委員の一斉改選の年であったこと及び選挙が多かったため、対応件数が増加している。 選挙対応を除く各係別の対応件数は、証明書等のコンビニ交付キャンペーンなどにより減少している。
		実績	18,712	20,023	25,558			
＜指標の計算方法＞ 来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,471						5,471

事業の実績

①窓口対応(25,558件)
〔 主な業務 〕
- 交通防犯、消防、区長会関係業務
- 建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付
- 市道等の維持補修、あき地適正管理指導
- 農業委員会業務の受付、相談
- 指定ゴミ袋等販売
- 出生届、婚姻届、死亡届など各種届出
- 印鑑登録、印鑑登録証明
- 戸籍謄・抄本、住民票の発行
- 埋火葬許可証発行
- 税関係各種証明書発行、税務相談
- 学校施設借用申請受付
- マイナンバーカード受付
- 期日前投票所の開設・運営
- 生活保護相談
- 身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付
- 各種福祉手当の申請受付
- 要介護等申請受付、相談
- 福祉医療関係相談、受付
- 国民健康保険加入受付、各種届出受理
- 後期高齢者医療各種届出受理
- 国民年金加入、喪失等各種手続き

②各団体支援(162回)
- 交通指導員会　29回
- 消防団　27回
- 区長会　11回
- 民生委員児童委員協議会　43回
- 敬老会実行委員会　33回
- 民生委員推薦準備会　19回

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

- 生活と密着した地域に市役所の出先機関である支所があることは、地域住民にとって必要性が高い。

有効性

評価結果：改善の余地がない

- 高齢者や身体に不自由がある方など、移動に制限のある方へのサービス提供に特に有効である。
- 「デマンド乗合交通」が実施されたことに伴い、支所への来庁手段が拡充され利便性が向上した。

効率性

評価結果：改善の余地がない

- 多岐にわたり複雑化している住民ニーズや事案の対応を出先機関に設けることは、地域住民の利便性向上となるため効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	粉河支所施設管理事業	担当課	粉河支所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1053

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
予算科目 目	8 支所及び出張所費		取組方針	9	その他

事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、粉河支所の適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	粉河支所施設管理	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 施設目視点検	日	目標	243	243	242	241	243	開庁日の就業時間前に、支所入口付近を中心に安全点検を行っている。
		実績	243	243	242			
＜指標の計算方法＞	開庁日に施設内の目視点検を行う日数							
成果指標 点検不足による事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	支所入口(自動ドア)から窓口カウンターの間をスロープ状に段差を解消しているため、黒黄色の注意喚起シール及び手すりの設置等の安全対策を行っている。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	支所内事故発生件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
419						419

事業の実績

①粉河支所施設管理
粉河ふるさとセンター内にある支所の維持管理を適切に行った。
・粉河ふるさとセンター北側に設置している懸垂幕装置「メディアタワー」の巻き上げ装置が故障していたため修理した。
・施設管理用の草刈機１機を修繕不可のため買い替えた。

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・来庁者に安全・快適に支所を利用していただくために必要である。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・支所内で事故もなく、来庁者からの施設・設備に対する苦情等もない。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・必要に応じて改修・修繕を行いながら計画的に維持管理を行っている。	

事務事業の概要

事務事業名	那賀支所運営事業	担当課	那賀支所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1054

会計				長期総合計画体系			
会計		一般会計			政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目	款	2	総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
	項	1	総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
	目	8	支所及び出張所費		取組方針	9	その他

事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、那賀支所を開設、運営する事業

事務事業を構成する細事業					
①	窓口対応	⑤		⑨	
②	各団体支援	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 各種支援団体数	団体	目標	5	5	6	5	5	支所が事務局となっているすべての団体の支援を行っている。
		実績	5	5	6			
＜指標の計算方法＞	交通指導員会、消防団、区長会、民生児童委員協議会、民生委員推薦準備会、敬老会実行委員会							
成果指標 支援実施数	回	目標	80	80	80	80	80	各団体が従来通りの活動を行い、民生委員児童委員の改選に伴い支援回数が増加している。
		実績	107	106	102			
＜指標の計算方法＞	各団体への会議、活動等の支援回数							
活動指標 業務対応件数	件	目標	15,000	15,000	21,000	21,000	21,000	令和6年度と比べ、マイナンバーカードに係る事務が増加したため、市民生活係の「市民課」業務の対応件数が増加している。
		実績	22,911	23,742	30,305			
＜指標の計算方法＞	来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
9,822	2,841					6,981

事業の実績

①窓口対応　　30,305件
（主な業務）
・交通防犯、消防、区長会関係業務
・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付
・市道等の維持修繕、あき地適正管理指導
・農業委員会業務の受付、相談
・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出
・印鑑登録、印鑑登録証明
・戸籍簿・抄本、住民票の発行
・埋火葬許可証発行
・税関係各種証明書発行、税務相談
・学校施設借用申請受付
・指定ゴミ袋等販売
・生活保護相談
・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付
・各種福祉手当の申請交付
・要介護等申請受付、相談
・福祉医療関係相談、受付
・国民健康保険加入受付、各種届出受理
・後期高齢者医療各種届出受理
・国民年金加入、喪失等各種手続き
・マイナンバーカード受付
・浄化槽設置整備事業現場立会い
・期日前投票所の開設・運営

②各団体支援
・交通指導員会　　19 回
・消防団　12　回
・区長会　　9 回
・民生委員児童委員協議会　54 回
・那賀民生委員推薦準備会　3回
・敬老会実行委員会　5　回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、地域住民生活に直接影響を及ぼす事業であるため、継続して実施すべきである。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・高齢者や障害者等移動が困難な方への対応に有効であるが、窓口対応が複雑化していく中、専門的な対応が困難になっているため、各所管課の窓口業務処理に対する専門性を持った人材を活用することが難しい。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・多種多様な住民ニーズに対応するため、現体制で可能な限り対応する。

事務事業の概要

事務事業名	那賀支所施設管理事業	担当課	那賀支所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1055

会計	一般会計	長期総合計画体系		
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	8 支所及び出張所費	基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
		取組方針	9	その他

事業概要：市民が支所を安全で快適に利用できるように、那賀支所の適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	那賀支所施設管理	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 那賀保健福祉センター施設管理業務	件	目標	9	8	9	9	9	施設の維持と経費削減を図りつつ、安全かつ快適に利用できるよう維持管理及び修繕等を行っている。
		実績	10	13	18			
＜指標の計算方法＞	施設の維持管理・保守、修繕の件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
10,591						10,591

事業の実績

①那賀支所施設管理

業務委託
- 機械警備業務
- 清掃業務（日常）
- 清掃業務（定期）
- 空調設備保守点検業務
- 電気保安業務
- エレベーター保守点検業務
- 消防設備保守点検業務
- 特殊建築物建築設備定期検査業務
- 特殊建築物防火設備定期検査業務
- 貯水槽清掃等業務
- 特定建築物定期調査
- 浄化槽保守点検業務

施設修繕
- 車いす修理
- トイレ便器取替修繕
- 給湯室蛇口取替修繕
- 調理室の火災感知器修繕
- 受水槽電磁弁等の修繕

施設部品
- 那賀支所電話設備

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

- 紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、市民が安全に施設を利用していくために、施設管理に必要な修繕等を行う事業。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

- 施設管理の業務委託を実施していくことで、良好に維持できており来庁者からの苦情もない。
- 事故もなく来訪者から苦情もないが、耐用年数が経過している機器設備がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

- 今後も計画的な修繕を実施していくことで効率性を高めると考えられる。

事務事業の概要

事務事業名	桃山支所運営事業	担当課	桃山支所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1056

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	2	総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
	項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
	目	8	支所及び出張所費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
					取組方針	9	その他

事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、桃山支所を開設、運営する事業

事務事業を構成する細事業						
①	窓口対応	⑤		⑨		
②	各団体支援	⑥		⑩		
③		⑦		⑪		
④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 各種支援団体数	団体	目標	8	8	8	7	7	民生委員の改選時期にあたり、推薦準備委員会を実施した。各団体について、目標どおり支援を実施することができた。
		実績	7	7	8			
＜指標の計算方法＞	区長会、消防団、交通指導員、民生委員、敬老会実行委員会、あら川の桃振興協議会、中国研修生受入協議会、民生委員推薦準備会							
成果指標 支援実施数	回	目標	150	150	150	150	140	中国研修生受入協議会については、令和7年度において活動を休止した。他の団体については、従来どおりの活動を行い、目標に近い支援を行うことができた。
		実績	147	148	142			
＜指標の計算方法＞	各団体への会議、活動等の支援回数							
活動指標 業務対応件数	件	目標	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	期日前投票の実施により、対応件数が増加した。
		実績	18,139	16,263	19,529			
＜指標の計算方法＞	来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
11,492	1,619					9,873

事業の実績

①窓口対応　19,529件
（主な業務）
・交通防犯、消防、区長会関係業務
・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付
・市道等の維持補修、あき地適正管理指導
・農業委員会業務の受付、相談
・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出
・印鑑登録、印鑑登録証明
・戸籍謄・抄本、住民票の発行
・埋火葬許可証発行
・税関係各種証明書発行、税務相談
・学校施設借用申請受付
・指定ゴミ袋等販売
・生活保護相談
・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付
・各種福祉手当の申請受付
・要介護等申請受付、相談
・福祉医療関係相談、受付
・国民健康保険加入受付、各種届出受理
・後期高齢者医療各種届出受理
・国民年金加入、喪失等各種手続き
・マイナンバーカード受付
・期日前投票所の開設・運営

②各団体支援（142回）
交通指導員会　29回
消防団　19回
区長会　11回
民生委員児童委員協議会　43回
あら川の桃振興協議会　32回
中国研修生受入協議会　1回
敬老会実行委員会　6回
民生委員推薦準備会　1回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川支所及び出張所設置条例に基づき行政サービスを行うため、市が実施する以外に検討する余地はない。また、地域住民に利便性の高い場所で窓口業務等の行政サービスを行うことは、住民のニーズにかなったものである。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・予定していた指標をおおむね達成できている。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・多岐にわたる住民ニーズに対応する必要があり、専門性の高い業務においては時間を要する場合もある。

事務事業の概要

事務事業名	桃山支所施設管理事業	担当課	桃山支所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1057
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
予算科目 目	8 支所及び出張所費		取組方針	9	その他

事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、桃山支所の適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	桃山支所施設管理	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 桃山支所施設管理業務	件	目標	10	10	10	10	10	支所利用者に不便をかけないよう、専門資格の必要な業務については業務委託を行い、修繕が必要な箇所は早急に対応した。
		実績	13	16	14			
＜指標の計算方法＞	施設維持管理のための対応件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
35,445			25,600			9,845

事業の実績

①桃山支所施設管理

業務委託
- 定期清掃業務
- 機械警備業務
- 電気保安業務
- エレベーター保守点検業務
- 消防設備保守点検業務
- 照明LED化工事監理業務
- トイレ改修工事設計監理業務

修繕
- 誘導灯修繕
- エレベーター修繕
- 火災報知器設備バッテリー交換修繕
- 機械警備機器修繕

工事
- 照明LED化工事
- トイレ改修工事
- 屋上防水改修工事

備品
- 空調服　2セット
- シュレッダー

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、行政サービスの出先機関として、利用者に安心して快適に支所を利用いただくために必要である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・庁舎の長寿命化を図るため、今後改修を要する設備等がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・予算内で施設の維持管理を実施できている。

事務事業の概要

事務事業名	貴志川支所運営事業	担当課	貴志川支所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1059

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	8 支所及び出張所費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要：市民が市民サービスを受けられるように、貴志川支所を開設、運営する事業

事務事業を構成する細事業					
①	窓口対応	⑤		⑨	
②	各団体支援	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 各種支援団体数	団体	目標	6	6	6	6	6	支所が事務局となっている団体の支援をしている。令和7年度は民生委員児童委員の改選があったため民生委員推薦準備会が開催された。
		実績	5	5	6			
＜指標の計算方法＞	区長会、消防団、交通指導員会、民生委員児童委員協議会、敬老会実行委員会、民生委員推薦準備会							
活動指標 支援実施数	回	目標	100	100	100	100	100	各団体が従来通りの活動を行うことで、目標値に近づいている。
		実績	58	87	88			
＜指標の計算方法＞	各団体への会議、活動等の支援回数							
成果指標 業務対応件数	件	目標	43,000	43,000	43,000	43,000	43,000	令和6年度と比較し、コンビニ証明交付手数料10円の推進により、住民票、印鑑証明、所得証明等の件数は減少したが、マイナンバーカード事務及び期日前投票事務の件数が増加し、全体として増加した。
		実績	38,299	40,139	52,095			
＜指標の計算方法＞	来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
10,387	3,638					6,749

事業の実績

①窓口対応　52,095件
（主な業務）
・交通防犯、消防、区長会関係業務
・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付
・市道等の維持補修、あき地適正管理指導
・農業委員会業務の受付、相談
・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出
・印鑑登録、印鑑登録証明
・戸籍謄・抄本、住民票の発行
・マイナンバーカード受付
・埋火葬許可証発行
・税関係各種証明書発行、税務相談
・学校施設借用申請受付
・指定ごみ袋等販売
・生活保護相談
・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付
・各種福祉手当の申請受付
・要介護等申請受付、相談
・福祉医療関係相談、受付
・国民健康保険加入受付、各種届出受理
・後期高齢者医療各種届出受理
・国民年金加入、喪失等各種手続き
・期日前投票所の開設・運営

②各団体支援　88回
・区長会　10回
・消防団　21回
・交通指導員会　27回
・民生委員児童委員協議会　24回
・民生委員推薦準備会　1回
・敬老会実行委員会　5回

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がややある

・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、生活と密着した地域に市役所の出先機関があることは地域住民にとって必要性が高く、市が実施するのは妥当である。コンビニ交付などを推進する一方、支所の窓口業務が幅広く複雑になり専門性も求められる中で、住民ニーズや制度等の変化に対応して支所業務を見直していく必要もある。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・年少者や高齢者、また身体に不自由がある方など移動に制約のある方へのサービス提供に特に有効である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・サービス拠点を分散して身近に設けることは周辺住民の利便性を高め効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	貴志川支所施設管理事業	担当課	貴志川支所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1060

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	8 支所及び出張所費	基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
		取組方針	9	その他

事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、貴志川支所の適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	貴志川支所施設管理	⑤		⑨	
②	未利用財産の活用	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 貴志川支所施設管理業務	件	目標	25	25	25	25	25	施設の長寿命化と経費削減を図りつつ、安全かつ快適に利用できるよう維持管理及び修繕等を行っている。
		実績	31	41	39			
＜指標の計算方法＞	支所の維持管理とメンテナンス							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
55,603			31,600			24,003

事業の実績

①貴志川支所施設管理
【業務委託等】
・定期清掃業務
・貯水槽清掃業務
・機械警備業務
・電気保安管理業務
・空調設備保守点検業務
・エレベーター保守点検業務
・消防設備保守点検業務
・浄化槽保守点検業務
・浄化槽法定検査
・雑草等刈取業務
【施設修繕等】
支所（貴志川保健福祉センター）
・AHDレコーダーHDD(防犯カメラ用)交換修繕
・1階男子トイレ換気扇修繕
・貴志川支所駐車場防犯灯LED取替修繕
・2階研修室ワイヤレス音響機器修繕
・3階EV機械室排気シャッター修繕
・3階女子トイレ換気扇修繕
・3階男子トイレ換気扇修繕
・JAわかやま貴志川ふれあい市場西側倉庫雨漏り修繕
・会所蓋修繕
・2階研修室カーテンウォールガラス割替修繕
・給湯配管緊急修繕
・屋外汚水管つまり緊急修繕
・2階クッキングルーム排水トラップ修繕
河南図書館
・階段室他雨漏り修繕
・浄化槽フロート取替修繕
・浄化槽電磁開閉器取替修繕
・3階ドア（そらまめサポート）修繕
・メールボックスナンバー鍵取替修繕
・そらまめサポート事務室空調修繕
・浄化槽原水槽電磁開閉器取替修繕
・消火ポンプユニット修繕
・トイレ詰まり修繕
・マンホール取替修繕
【工事請負】
支所（貴志川保健福祉センター）
・貴志川支所照明LED化工事監理
・貴志川支所照明LED化工事
・貴志川支所旧公文書庫1階事務室空調機器故障に係る緊急工事
・貴志川支所カーブミラー設置工事（西側駐車場）
河南図書館
・河南図書館2階事務室C空調機器故障に係る工事
【備品購入】
・もえるゴミ用集積所　2台

②未利用財産の活用
・建物
庁舎等貸付7件
河南図書館2階3階　4件
公文書庫　2件
支所　1件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、施設を有効に活用するための維持管理及び修繕は必要である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・令和7年度は貴志川支所照明LED化工事を実施したが、今後も施設の長寿命化に取り組む必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・必要に応じて修繕等を実施しながら計画的に維持管理することが効果的である。

事務事業の概要

事務事業名	鞆渕出張所運営事業	担当課	鞆渕出張所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1062

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
予算科目 目	8 支所及び出張所費		取組方針	9	その他

事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、鞆渕出張所を開設、運営する事業

事務事業を構成する細事業					
①	窓口対応	⑤		⑨	
②	各団体支援	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	各種支援団体数	団体	目標	3	3	3	3	3	鞆渕地域特有の団体を含め、目標どおりの団体支援を実施できた。
			実績	3	3	3			
	＜指標の計算方法＞	区長会、県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会、真国川を美しくする会							
成果指標	支援実施数	回	目標	200	30	30	30	30	各種支援団体の活動や会議は、ほぼ予定どおり行われた。
			実績	241	32	32			
	＜指標の計算方法＞	各種団体等への会議、活動等の支援回数							
活動指標	業務対応件数	件	目標	2,700	1,000	1,000	1,000	1,000	地域住民の減少により、窓口対応も減少しつつある。
			実績	3,122	994	989			
	＜指標の計算方法＞	来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談等の対応件数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,226						5,226

事業の実績

①窓口対応　989件
（主な業務）
- 交通防犯、消防、区長会関係業務
- 建設部、農林商工部の各種補助事業相談申請受付
- 市道等の維持補修、あき地適正管理指導
- 農業委員会業務の受付、相談
- 出生届、婚姻届、死亡届など各種届出
- 印鑑登録、印鑑登録証明
- 戸籍謄・抄本、住民票の発行
- 埋火葬許可証発行
- 税関係各種証明書発行、税務相談
- 学校施設借用申請受付
- 指定ゴミ袋等販売
- 生活保護相談
- 身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付
- 各種福祉手当の申請受付
- 要介護等申請受付、相談
- 福祉医療関係相談、受付
- 国民健康保険加入受付、各種届出受理
- 後期高齢者医療各種届出受理
- 国民年金加入、喪失等各種手続き
- マイナンバーカード受付
- 鞆渕山林財産区議会

②各団体支援
- 区長会（民生委員児童委員、招魂祭、敬老会関係含む）　18回
- 県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会　10回
- 真国川を美しくする会　4回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

- 鞆渕地区において行政サービスを行うため、市が実施する以外に考える余地はない。

有効性

評価結果　改善の余地がない

- 他の施設まで遠く交通も不便な高齢化が進む地域において、窓口設置は住民サービスを行う上で有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

- 多岐にわたる業務を一般職員2名、会計年度任用職員1名の体制で対応している。

事務事業の概要

事務事業名	鞆渕出張所施設管理事業	担当課	鞆渕出張所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1063

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
予算科目 目	8 支所及び出張所費		取組方針	9	その他

事業概要：市民が出張所を安全で快適に利用できるように、鞆渕出張所の適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	鞆渕出張所施設管理	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 出張所施設管理業務	件	目標	3	3	3	8	8	来庁者に安全で快適に利用していただけるよう保守点検、修繕等を実施し、施設の維持や管理を行っている。令和7年9月新出張所完成により、管理委託業務が増えている。
		実績	3	3	5			
＜指標の計算方法＞	出張所の維持管理実施件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,256					51	3,205

事業の実績

①鞆渕出張所施設管理
業務委託
・消防設備保守点検業務委託
・浄化槽保守点検業務委託
・浄化槽法定検査
・電気保安管理業務委託（R7.8～）
・機械警備業務委託（R7.12～）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・行政サービスの出先機関として、来庁者に快適に安心して出張所を利用いただくために必要な業務である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・利用者に安心して施設を利用いただくために必要な業務である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・随所老朽化が目立つ施設を必要最小限の経費で維持管理を行った。なお、令和8年1月に鞆渕地区公共施設等を統合し新たな維持管理についても効率性を心掛け実施した。

事務事業の概要

事務事業名	公平委員会運営事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	10

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	2	総　務　費		政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
	項	1	総務管理費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
	目	9	公平委員会費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
					取組方針	9	その他

事業概要	職員の利益の保護と公正な人事権が行使保障されるように、公平委員会に審査請求や措置要求がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業

事務事業を構成する細事業						
①	公平委員会運営	⑤		⑨		
②	全国公平委員会連合会負担金	⑥		⑩		
③	近畿公平委員会連合会負担金	⑦		⑪		
④	県公平委員会連合会負担金	⑧		⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 審査請求件数	回	目標						令和3年度以降審査請求なし。
		実績						
＜指標の計算方法＞ 審査請求件数								
活動指標 措置要求件数	回	目標						措置要求が1件あり、審査中
		実績			1			
＜指標の計算方法＞ 措置要求件数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
323						323

事業の実績

①公平委員会運営
　措置要求があったため、委員会を1回開催
②全国公平委員会連合会負担金
・5/22～5/23　第1回理事会
　　石川県金沢市で開催
　　（委員長参加）
・7/24～7/25　本部研究会
　　東京都千代田区で開催
　　（委員長・職員1名参加）
・10/30～10/31　第2回理事会及び通常総会
　　東京都千代田区で開催
　　（委員長・職員1名参加）
③近畿公平委員会連合会負担金
・第1回理事会
　書面決議
・7/9　第2回理事会、総会及び事務研究会
　　滋賀県大津市で開催
　　（委員長参加）
④県公平委員会連合会負担金
・第1回理事会及び総会
　書面決議
・11/19　第2回理事会
　　紀の川市で開催(委員長・職員2名参加)

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・地方自治法で設置が定められている委員会である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・職員の利益の保護と公正な人事権の行使・保障に寄与している。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・公平委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。

事務事業の概要

事務事業名	自治振興事業	担当課	総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	504

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興
予算科目 目	10 自治振興費	基本施策	1	地域コミュニティの充実と協働の推進
		取組方針	1	自治会活動における持続可能性の向上

事業概要	自治区が「地域の絆」を強め、地域コミュニティの分野で中心的な役割を担えるように、自治区や認可地縁団体の運営への支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 集会所整備補助金	⑤ 自治区運営補助金	⑨		
	② 自治連絡協議会運営	⑥ 区長会補助金	⑩		
	③ 区長会運営	⑦ 自治区加入促進	⑪		
	④ 一般行政事務委託	⑧ 認可地縁団体活動支援	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 自治区加入率	%	目標	80	80	80	73	73	自治区加入率については、人口減少・高齢化による加入世帯の減少だけでなく、分母となる総世帯数が世帯分離などにより増加傾向(R6年度27,222世帯、R7年度27,368世帯)であるため減少している。
		実績	71.8	70.7	69.8			
＜指標の計算方法＞	自治区加入世帯数／住民基本台帳世帯数							
活動指標 自治区補助団体数	団体	目標	199	199	199	199	199	199自治区に対し、自治区運営補助金の交付を実施した。
		実績	198	199	199			
＜指標の計算方法＞	自治区補助団体数							
活動指標 集会所整備補助件数	件	目標	28	28	28	28	28	自治区からの令和6年度要望分10件全てと緊急対応分15件に対し、地区集会所整備事業補助金の交付を実施した。
		実績	23	28	25			
＜指標の計算方法＞	集会所整備補助件数							
活動指標 補助事業の啓発回数	回	目標	6	6	6	6	6	各地区区長会、全体区長会において啓発を実施した。
		実績	6	6	6			
＜指標の計算方法＞	補助事業の啓発回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
47,071					3	47,068

事業の実績

①集会所整備補助金
地区集会所の整備に対する補助
25件　4,350,000円
内訳　改修12件：2,724,000円
　　備品13件：1,626,000円

②自治連絡協議会運営
・自治連絡協議会を年2回開催し、協議を行った。（R7.5.13・R8.2.26）
・全体区長会を行った。（R7.6.7）
・視察研修会を行った。（R8.2.19）

③区長会運営
5地区区長会の運営・支援を行った。

④一般行政事務委託
199自治区区長に周知文書の配布等の委託

⑤自治区運営補助金
199自治区に地域活動への補助
19,097世帯×1,000円＝19,097,000円

⑥区長会補助金
打田区長会　：269,051円
粉河区長会　：573,352円
那賀区長会　：277,558円
桃山区長会　：290,000円
貴志川区長会：195,093円

⑦自治区加入促進
転入者に対しチラシを活用し、啓発活動を実施した。

⑧認可地縁団体活動支援
52団体に対し告示事項変更の支援、2団体に設立の支援を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・一般行政事務委託事業、自治区運営補助事業については、市から自治区へ市政情報などの伝達、自治区から市へ各種要望などの伝達をスムーズに行うため、市が実施することは妥当である。
・集会所整備事業は、改修等整備に対する補助事業であるため、市が実施することは妥当である。
・その他事業等についても、市が実施することは妥当であり、改善の余地はない。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・自治区運営補助金は集会所の維持費や行事の開催費など「地域の絆」形成に寄与している。
・転入者等に自治区への加入について広報・啓発し、加入促進を図っていくことは有効であるが、周知方法を検討する必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・自治区の円滑な運営に寄与し、効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	移住・定住推進事業	担当課	地域創生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	990

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	2	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興
予算科目 目	11 地域創生費	基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実
		取組方針	2	移住・定住支援

事業概要	移住・定住を促すためのシティプロモーションや移住者支援を行うことで、人口増加を目指す事業

事務事業を構成する細事業					
①	移住・定住推進業務	⑤		⑨	
②	移住・定住推進補助金	⑥		⑩	
③	シティプロモーション推進業務	⑦		⑪	
④	和歌山県人会業務	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	ワンストップ窓口を活用した移住者	人	目標	25	30	30	30	30	ワンストップ窓口を活用した移住者数は年々減少傾向にあり、移住希望者のニーズが多様化する中で行政のサポートを使わず、自身で情報収集や手続きを行い、移住するケースが増えている。
			実績	16	8	5			
	＜指標の計算方法＞	ワンストップ窓口に移住相談をし、年度内に移住した人の数							
成果指標	地域推奨意欲	点	目標	6	6	6	6	6	推奨意欲を0～10で回答してもらい、回答者数を加味した値である。令和6年度と同様「5」が最多で、次いで「7」が選ばれている。
			実績	5.4	5.6	5.2			
	＜指標の計算方法＞	市民意識調査で「紀の川市の魅力を誰かにおすすめしたいと思う」に対する回答の平均（0～10点）							
活動指標	ワンストップ窓口を活用した移住相談件数	件	目標	300	300	300	300	300	相談件数は減少傾向にあるが、現地案内や移住相談会等のイベント参加者は一定数あり、行政のサポートを使わず、自身で情報収集や手続きを行うケースが増えている。
			実績	269	219	193			
	＜指標の計算方法＞	ワンストップ窓口を活用した移住相談件数							
活動指標	きのかわ市民クリエイター養成塾参加者数	人	目標	35	40	45	45	45	安定した参加者数を維持できているが、さらに参加者の募集に取り組む。
			実績	35	37	34			
	＜指標の計算方法＞	フォトライター、動画制作などの講座の参加者数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
10,972						10,972

事業の実績

①移住・定住推進業務
○移住相談件数 193件
メール・電話での相談 114件
面談件数 79件
・移住フェア等出展…7/26大阪、8/16和歌山市、10/26東京、11/22東京、2/28大阪、計5回、39件（東京の10/26は東京事務所出展）
・地域創生課窓口 40件
ワンストップ窓口を活用した移住者5名

○移住体験バスツアー
開催日:11/8（土）9:00～17:00
参加者:9組17名
…事前アンケートで要望の多かった農業体験・スーパー巡りを中心に市内５地区を巡る。
【ツアーの内容】
紀ノ川農協など訪問、農家との交流
空き家バンク制度の説明
先輩移住者との交流　など

○紀の川市「暮らし・移住情報」メディア：「Ｇｏｏｄ　Ｌｉｆｅ　ｗｉｔｈ　Ｋｉｎｏｋａｗａ」の運営。

②移住・定住推進補助金
・移住支援金　該当なし
・移住促進支援事業補助金：2件 35,180円

③シティプロモーション推進業務
・きのかわ市民クリエイター養成塾
○フォトライターコース
参加者数：18人
開催期間：6月1日～3月31日　全10回
写真や文章の技術を実践形式で学ぶ。
フリーペーパー「KINOKAWA STYLE」制作…2,000部
○動画制作コース
参加者数：16人
開催期間：8月23日～12月20日　全12回
TikTokやYouTube動画の制作方法を映像制作のプロから学び、課題として2チームに分かれて市内PR動画を制作。
・フリーペーパー「まいなぁが」、「まいとん」にPR記事を掲載
4月号「住みたい！紀の川市」
・20周年記念事業「20年後の郷土料理を考えるプロジェクト」実施、併せて小学生向けの歴史冊子「紀の川人vol.2」を制作…1,000部

④和歌山県人会業務
・堺、大阪、京都、東海、近畿連合和歌山県人会に出席。観光・ふるさと納税等を中心に市のPRを実施した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・人口減少が進む中、移住・定住施策に取り組むとともに、市のPR活動を行うことで関係人口の創出を目指す本事業の必要性は高く、市が取り組むことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・移住促進ポータルサイトによる情報発信などは利用者数を捉えることで事業の効果が確認でき、現在の実施内容について有効性は認められる。
・各自治体が人口減少問題の解決策の一つとして移住推進施策を充実させ、また、様々な形で情報発信に努めていることから、さらに、従来の施策・情報発信手段のブラッシュアップに努める。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・クリエイター養成塾の出身者など広く人材を活用していくことで、より効果的な移住相談・市のPR活動に繋がると考える。

事務事業の概要

事務事業名	空き家バンク運営事業	担当課	地域創生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1247

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興
予算科目 目	11 地域創生費		基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実
			取組方針	2	移住・定住支援

事業概要	空き家バンクを運営し、空き家バンクの利用者に補助金を交付することで空き家の利活用を促す事業

事務事業を構成する細事業					
①	空き家バンク管理・運営業務	⑤		⑨	
②	空き家バンク関係補助金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 空き家所有者からの相談件数	件	目標			100	100	100	固定資産税納税通知書に「空き家の窓口」の周知チラシを同封した効果もあり、相談件数は増加傾向にある。
		実績			70			
＜指標の計算方法＞ 空き家所有者からの相談件数								
活動指標 空き家バンクへの空き家登録件数	件	目標			20	20	20	空き家所有者からの相談件数は増加傾向にあるが、相続の関係や物件の状態等で、空き家バンク登録に至った件数は目標に達しなかった。
		実績			10			
＜指標の計算方法＞ 紀の川市空き家バンクへの空き家登録件数（単年）								
成果指標 空き家バンクの利用者登録件数	件	目標			80	80	80	移住相談等においても空き家を求めるニーズが多く、利用者登録件数も増加傾向にある。
		実績			45			
＜指標の計算方法＞ 紀の川市空き家バンクの利用希望者を登録した件数								
成果指標 売買・賃貸借契約成立件数	件	目標			10	10	10	成約件数は目標に達しなかったが、空き家バンクに登録されていた物件が民間流通で成約するケースも見られる。
		実績			9			
＜指標の計算方法＞ 紀の川市空き家バンクを通じて売買・賃貸借契約が成立した件数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
14,620						14,620

事業の実績

①空き家バンク管理・運営業務
- 空き家バンク登録件数：10件
  打田2件、粉河2件、那賀3件、桃山1件、貴志川2件
- 空き家バンク利用者登録件数：45件
- 空き家の窓口への相談件数
  新規所有者：70件
  新規利用者：257件
- 空き家対策相談会開催
  （所有者対象）
  2/5本庁1階ロビー　7組対応
- 空き家総合相談窓口として、粉河地区とんまか通りに「紀の川市空き家の窓口」を常設
- その他の啓発
  全体区長会での空き家予防対策周知
  新任民生委員研修会での周知　など

②空き家バンク関係補助金
- 建物状況調査奨励金：2件 60,000円
- 定住促進支援事業補助金
  リフォーム補助：3件　1,800,000円
  引っ越し補助：3件　299,000円
  空き家片付け支援：3件 292,400円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・空き家は個人資産であり管理監督責任はあくまでも個人にあるが、利活用に供されない空き家は管理不全空き家となる恐れがあり、空き家状態を放置せず、利活用可能な状態のうちに次の利用者をマッチングすることを目的とする本事業は、市が取り組むべき妥当性の高い事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・空き家所有者相談件数や利用希望登録者数等から事業の効果を確認でき、また成約によって空き家状態の解消に繋がっていることから、現在の実施内容について有効性は認められる。
・慢性的な登録物件不足の状態にあるため、空き家所有者への周知活動に一層の注力が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・空き家バンク運営、空き家総合相談窓口は専門的なノウハウを持った民間事業者を活用できているため、今後はより多くの分野での効果的な連携を進め、施策を推進していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	まちづくり推進事業	担当課	地域創生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1248

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興	
予算科目 目	11 地域創生費	基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実	
		取組方針	2	移住・定住支援	

事業概要	地域おこし協力隊等の制度を活用して、地域資源の活用や空き家の活用を通じた地域活性化を促す事業				
事務事業を構成する細事業	① 地域おこし協力隊制度	⑤		⑨	
	② 地域活性化起業人制度	⑥		⑩	
	③	⑦		⑪	
	④	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 地域おこし協力隊等の人員数	人	目標			10	10	10	地域おこし協力隊フェア等において募集に努めたが、適任者が見つからず、目標人員には達しなかった。引き続き人員募集を強化する。
		実績			9			
＜指標の計算方法＞ 地域おこし協力隊及び地域活性化起業人の人員数								
活動指標 地域おこし協力隊等の取組事例数	件	目標			11	15	15	地域活性化起業人提案事業をはじめ、マルシェの開催など地域活性化に向けた取り組みを進めた。
		実績			11			
＜指標の計算方法＞ 地域おこし協力隊・地域活性化起業人が企画・実施した地域資源や空き家を活用した地域活性化の取組事例数								
成果指標 地域おこし協力隊等退任後の定住人数	人	目標			4	5	6	令和6年度以前の定住人数が1名。令和7年度においては定住に至らなかった。
		実績			1			
＜指標の計算方法＞ 地域おこし協力隊・地域活性化起業人退任後の定住人数（延べ人数）								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
48,656						48,656

事業の実績

①地域おこし協力隊制度
・打田エリア：2名(個人委託型)
1. 交流拠点「メリーズハウス」、「みんとしょ」、アトリエ「タネノバ」の運営
2. 「打田駅前手作りマルシェ」開催
3回(11/1,11/30,3/7)

・粉河エリア：3名（(株)ｴﾝｼﾞｮｲﾜｰｸｽ）
1. 交流拠点「MIKASAKAN」の運営
2. 「粉河つなぐマルシェ」開催
10回(4/13,5/11,6/8,7/13,9/14,10/12,12/14,1/11,2/8,3/8)

・紀の川流域カンパニー：1名
1. 「とうもろこし収穫体験」の開催
（期間：6/28～7/13）
2. 「柿収穫体験」の開催
（日程：9/27,9/28）
3. 教育研修（探究フィールドワーク）の受入
10/12～13　早稲田大阪高校

②地域活性化起業人制度
・粉河エリア：1名　((株)ｴﾝｼﾞｮｲﾜｰｸｽ)
提案事業…2件
1. 食のネットワーク事業
果樹栽培が根づく本市において、ガストロノミーツーリズムを通じた、食・自然・文化・人の営みを一体的に体験できる仕組み作りの可能性を検討。モニターツアーの実施を経て、令和8年度からMIKASAKANにて販売予定。
2. まちづくり協議会基盤構築事業
粉河とんまかエリアを対象に、遊休不動産の発掘や活用等を目的としたワークショップを開催。地域住民や既存事業者と繋がりをつくることができる場や機会を設け、ネットワークを構築した。

・紀の川流域カンパニー：2名
((株)MISOSOUP)
提案事業…2件
1. ふるさと未来カレッジトライアル事業
「東大生地方創生コンソーシアム」に所属する学生達が、市内フィールドワークを通して地域課題を体感。学生が自ら考える教育旅行プログラムを企画・検証した。令和8年度提案事業での実施に向け検討を継続。
2. 地域教養を身につける共同研修トライアル事業
地域教養として地域社会が直面するテーマ、今回は「福祉」を題材として、先進事例の研修会・事業現場視察・連携取り組みの検討を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・国の地域おこし協力隊・地域活性化起業人制度を活用し、自治体が実施主体となって地域活性化を目的に実施する事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・地域外の人材を積極的に誘致して、定住・定着を図ることは、地域活性化をはじめ地域力の維持・強化に資する取り組みとして有効な事業と考える。
・地域おこし協力隊等の活動は、隊員等の資質、行政及び受け入れ地域のサポートが不可欠であり、隊員着任後のフォローや地域との関係構築には、向上の余地がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・人件費、事業費ともに特別交付税措置を活用した事業実施を進めており、事業の効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	若者定住促進事業	担当課	地域創生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1151

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興	
予算科目 目	11 地域創生費	基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実	
		取組方針	2	移住・定住支援	

事業概要	市内で住宅を取得・賃借する若者や奨学金を返還している若者を対象に補助金を交付することで、転入促進と転出抑制を図り、市内定住を促す事業

事務事業を構成する細事業					
①	若者定住促進住宅取得奨励事業	⑤		⑨	
②	奨学金返還支援事業	⑥		⑩	
③	結婚新生活支援事業	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 若者定住促進住宅取得奨励金交付件数	件	目標	240	240	240	200	200	建築費の高騰や住宅金利の上昇等により、全体として新築着工件数が減少していることが要因と考える。
		実績	183	169	155			
＜指標の計算方法＞	交付件数							
成果指標 本事業が住宅取得の誘因となったと回答した交付者数の割合	%	目標	60	60	60	60	60	交付対象者のうち、過半数以上は、本制度が住宅取得の誘因となったと回答。近隣自治体の制度と比較し本市に決めたとの回答も複数あり。
		実績	50.8	52.1	58.7			
＜指標の計算方法＞	アンケートで「本事業が住宅取得の誘因となった」と回答した数÷交付件数							
活動指標 奨学金返還助成金交付件数	件	目標	140	180	180	180	180	交付件数は順調に増加しており、引き続き周知活動を継続したい。
		実績	118	148	166			
＜指標の計算方法＞	交付件数							
活動指標 結婚新生活支援事業補助金交付件数	件	目標		30	20	20	20	結婚当初は賃貸物件に居住するカップルが多いことから、一定数の交付件数は維持されていると考える。
		実績		16	12			
＜指標の計算方法＞	交付件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
83,965		1,006	15,700			67,259

事業の実績

①若者定住促進住宅取得奨励事業
・対象…住宅の登記受付年月日が令和7年1月1日から令和7年12月31日までの間であって、当該登記日において45歳未満であり、工事請負契約又は売買契約により市内に自己の居住用として住宅を取得した等の要件を満たす者
・交付件数　155件
・交付金額　66,800,000円
基本交付のみ：300,000円×19件
＝ 5,700,000円
児童加算のみ：400,000円×41件
＝16,400,000円
転入加算のみ：400,000円×28件
＝11,200,000円
児童及び転入加算：500,000円×67件
＝33,500,000円
・交付対象世帯員数　467人
・住宅種別
新築130件
中古25件
・住宅所在地
打田地区　76件
粉河地区　15件
那賀地区　7件
桃山地区　14件
貴志川地区　43件
・住宅取得者の年齢層
24歳以下　10人
25歳～29歳　43人
30歳～34歳　45人
35歳～39歳　36人
40歳～44歳　21人

Q:直近の住所（上位3位）
A:紀の川市 43%
岩出市 19%
和歌山市 14%

②奨学金返還支援事業
・対象…大学などを卒業し、令和2年4月1日以降に奨学金の返還を開始し、市内在住で就業している等の要件を満たす者
・交付件数…166件
・交付金額…14,945,000円

③結婚新生活支援事業
・対象…令和7年1月1日から令和8年3月31日までに婚姻し（パートナーシップの宣誓を含む。）、婚姻日において夫婦ともに39歳以下、直近の年の夫婦の合計所得が500万円未満である等の要件を満たす者
・交付件数　12件
・交付金額　2,012,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・若者世代の転入促進と転出抑制を図る市の施策として、市内に住宅を購入・婚姻に伴い賃借しようとする若年層や奨学金を返還している若年層を対象に補助金等を交付することは妥当性がある。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・若者定住促進住宅取得奨励金が住宅取得のきっかけになったと答えた割合が半数以上であり、若者世代の住宅取得において有効性が認められる。
・指標数値は低調となったが、若者を取り巻く環境は厳しさを増しており、住宅購入や結婚に踏み切れない若者が増加していることが推察され、より効果的な制度内容について検証することが必要である。
・奨学金返還支援事業が紀の川市居住の要因になったとするアンケートの回答が非常に多いことから、若年層市民の市外転出抑制に効果があったと考えられ、有効性は高い。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・近隣自治体の類似事業と比較しても奨励金、補助金は妥当な金額といえる。また事務執行にかかるコストも最低限に抑えられている。

事務事業の概要

事務事業名	ふるさとまちづくり寄附金事業	担当課	地域創生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	971

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興	
予算科目 目	11 地域創生費	基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実	
		取組方針	1	ふるさと納税制度による活性化	

事業概要	ふるさと納税の寄附の獲得を通じ、市民の稼ぐ力を高め、市の魅力を発信する事業

事務事業を構成する細事業					
①	寄附額増加対策業務	⑤		⑨	
②	寄附者管理業務	⑥		⑩	
③	企業版ふるさと納税業務	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	寄附申出件数	件	目標	120,000	140,000	140,000	140,000	140,000	ポータルサイトの増設、ＷＥＢ広告戦略の実行など、寄附金増加対策に取り組んだ成果やポータルサイトにおけるポイント還元サービスの終了に伴う「駆け込み寄附」等を増加の要因と考えている。
			実績	160,771	94,117	149,922			
	＜指標の計算方法＞	寄附申出件数の実績を計上							
成果指標	ふるさと納税寄附金額	千円	目標	1,400,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	ポータルサイトの増設、ＷＥＢ広告戦略の実行など、寄附金増加対策に取り組んだ成果やポータルサイトにおけるポイント還元サービスの終了に伴う「駆け込み寄附」等を増加の要因と考えている。
			実績	1,906,609	1,353,450	2,060,590			
	＜指標の計算方法＞	ふるさと納税の寄附金額							
活動指標	返礼品取扱事業者数（各年度末時点）	件	目標	150	220	220	220	220	事業者の募集・啓発により、再登録を保留していた事業者や、新規事業者が増加した。
			実績	213	171	186			
	＜指標の計算方法＞	寄附者に対し返礼品を送付している事業者数							
活動指標	返礼品数	品	目標	800	1,100	1,100	1,100	1,100	返礼品取扱事業者数の増加に伴い、返礼品数も増加した。
			実績	1,096	729	1,108			
	＜指標の計算方法＞	登録返礼品数（総務省への申請数）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
961,624					10,000	951,624

事業の実績

①寄附額増加対策業務

・ポータルサイト（18サイト）

ふるさとチョイス	126,557千円
楽天	1,366,353千円
ふるさとプレミアム	4,100千円
ａｕＰＡＹ	14,326千円
ふるなび	107,442千円
ＡＮＡ	9,853千円
ＪＡＬ	66,293千円
ＪＲＥ	6,492千円
ふるさと納税百選	17,123千円
Ａｍａｚｏｎ	30,601千円
どこでも納税	81千円
さとふる	250,252千円
Ｙａｈｏｏ！	19,285千円
三越伊勢丹	34,110千円
ポケットマルシェ	1,808千円
一休	70千円
ファミマ	3千円
きのちょく等（直接寄附）	5,841千円

・事業者対象の説明会開催
　-4月15日　19組参加
・関東圏での返礼品プロモーション
　-5月19日～6月30日・9月1～30日
　　森トラスト（CoCoLounge）
・手渡返礼品による1,000円寄附促進
　-9月24～26日森トラスト(いちじく)
　-3月14～15日トラベルランド
　　（はっさく）
　-3月20～21日南紀白浜マリオット
　　ホテル(はっさく)
・イベントでのプロモーション
　-5月21～23日森トラスト(はっさく)
　-10月8～10日森トラスト(柿)
　-10月16～17日TIC TOKYO(柿)
　-11月29～30日ことちか広場(GCF)
・サンクスレターの送付
・返礼品覆面調査（返礼品Gメン）の実施
　-7月15日　9事業者9品

大阪府羽曳野市、岡山県浅口市と合同
・行政版クラウドファンディング（桃農家支援）を3サイトにて実施（ふるさとチョイス・ふるなび・JAL）
　寄附額19,704,000円　寄附件数1,258件
　※寄附金を財源として、JA和歌山紀の里　地域本部に補助金を交付

②寄附者管理業務
・寄附金受領証明書の送付
・ワンストップ特例制度の対応
　対応件数：54,752件（1～12月分）
　-うち、オンラインワンストップ
　　対応件数：44,358件
　-うち、書面申請
　　対応件数：10,394件

③企業版ふるさと納税業務
・寄附金額　4,800,000円
・寄附件数　8件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市民の稼ぐ力を高めるとともに市の歳入に関する重要な事業であり、市以外が主体となり得ない事業であることから妥当性には問題がない。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・寄附金実績の維持・向上を目指すためには、品目、数量の確保や効果的な広告戦略、また、競争力のある新たな返礼品の開発・発掘に取り組む必要がある。
・返礼品取扱事業者や中間管理事業者といった専門性を持った事業者との連携を継続する。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・寄附管理システムやアルバイト（ワンストップ特例申請書受付協力員）の活用により、効率的に事務を遂行できている。

事務事業の概要

事務事業名	大学連携事業	担当課	地域創生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	8

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興	
予算科目 目	11 地域創生費	基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実	
		取組方針	5	大学との連携と高等教育機関の誘致	

事業概要	地域・大学が共に活性化できるように、大学と各種取組で連携する事業

事務事業を構成する細事業					
①	連携推進業務	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 大学と連携している事業数	事業	目標	100	100	100	100	100	和歌山信愛短期大学が開講する２つの講義を紀の川市で開催したことにより、事業数が増加した。また近畿大学食品安全工学科の学生で構成される団体「食べガク」との連携事業を積極的に進めたため、事業数が増加した。
		実績	30	38	53			
＜指標の計算方法＞	市の事業のうち大学の教職員や学生が参画もしくは定例的に参加する事業数（インターン受入れは総じて1）							
活動指標 大学との連携会議の開催回数	回	目標	10	10	10	10	10	20周年記念事業（郷土料理を考えるプロジェクト）と本事業を連携実施するため、近畿大学や和歌山信愛短期大学との協議が増加した。
		実績	10	11	12			
＜指標の計算方法＞	連携強化のための大学・地域創生課間における会議開催回数							
活動指標 大学生が参画した地域活動の数	件	目標	5	5	10	10	10	学生の視点や発想を参考に、めっけもん広場での事業実施や、産業まつりへの参画、地域おこし協力隊との連携などにも繋がり、地域への交流機会が増加した。
		実績	15	20	35			
＜指標の計算方法＞	大学生と市民等（市民、企業、市）の交流が生まれた取組の数							
成果指標 市の活動に参加した大学生の延べ人数	人	目標	260	260	260	260	260	近畿大学からの学生数が前年度比約277%に拡大。「郷土料理を考えるプロジェクト」において積極的に連携。食品安全工学科の学生で構成される団体「食べガク」との良好な関係が構築できた。
		実績	300	245	320			
＜指標の計算方法＞	市と連携した事業や取組に携わった学生数（1人の学生でも活動日や活動内容が違えば延べで計算）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
110						110

事業の実績

①連携推進業務
▼会議の内容と回数
・近畿大学
(1)1年生を対象とした1コマ講義
-(株)エンジョイワークスが実施
(2)就職情報室との連携協議
-2月26日学内業界研究会に参加
(3)次年度の連携内容協議
-引続き1コマ講義を引受ける方向
(4)学生団体「食べガク」指導教員協議
-団体の目的や連携の方向性（郷土料理を考えるプロジェクトとの連携）を確認
(5)学生団体「食べガク」大学事務協議
-活動の共有を実施
(6)建築学部教員との連携事業協議
-紀州材と市内産織布を活用したマルシェ屋台作りとその活用
(7)学生寮設置の実現可能性協議
-(株)エンジョイワークスが手がける粉河とんまかエリアでの空き家活用と学生の市内滞在を目指した協議を実施
・和歌山大学
※当年度連携事業なし
・和歌山信愛短期大学
(8)国民健康・栄養調査に基づく研究
-和歌山県が保有する「県民健康・栄養調査」を活用した野菜消費拡大に向けた連携について協議
(9)プロジェクト実践演習Ⅰ協議
-郷土料理プロジェクトとの連携により、「柿カレー」考案
(10)プロジェクト実践演習Ⅱ協議
-めっけもん広場への来客を対象に野菜摂取量の調査
(11)20周年記念事業の連携協議
-「郷土料理を考えるプロジェクト」でメニューの考案・監修を引き受けていただいた。
・和歌山県立医科大学
(12)薬学部の活動支援協議
-薬学部生の地域活動に関して協議

▼市の活動に参加した大学生の延べ人数
・交流できた学生の延べ数は320人
近畿大学：230人
和歌山大学：1人
和歌山信愛短期大学：89人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・本市をフィールドに学生が活動することで、市の取組・事業がメディアへの露出に繋がっている。
・社会貢献を主眼に置いた学生活動の支援として本市が関わる妥当性は充分にある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・学生の大半が他自治体出身者であるため、本市に関わる基本理解を醸成するまでの時間を要する。
・コンサルタントのような企業に地域課題解決の調査を委託するわけではないため、学生の意識・能力はもちろん、市職員や大学教職員の関わり方によっても成果が左右される。
・事業の成果が大学側や地域内での学生受入フィールドとの人脈形成に依存する部分が多く、属人的な事業になりやすい。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・20周年記念事業（郷土料理を考えるプロジェクト）や、市民クリエイター養成塾といった他事業との連携が生まれた。
・最小限度の経費で事業実施しており、効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	市民活動支援事業	担当課	地域創生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	12

会計			一般会計
予算科目	款	2	総　務　費
	項	1	総務管理費
	目	11	地域創生費

長期総合計画体系			
政策目標	5	地域づくり・行政経営	
施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興	
基本施策	1	地域コミュニティの充実と協働の推進	
取組方針	2	地域コミュニティ活動の活性化	

事業概要：市民、市民団体が自主的な社会貢献活動を活発に実施してもらえるように、活動の支援や補助を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	NPO団体活動支援	⑤		⑨	
②	花いっぱい運動推進	⑥		⑩	
③	花いっぱい運動補助金	⑦		⑪	
④	市民協働提案事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 認証ＮＰＯ法人数	法人	目標	23	23	23	23	23	市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数は20団体であり、法人数に増減はない。
		実績	16	20	20			
＜指標の計算方法＞	市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数							
成果指標 花いっぱい運動参加団体数	団体	目標	35	35	35	35	35	構成員の高齢化等により、活動を維持できなくなった団体が活動を休止し、2団体の減少となった。
		実績	29	24	22			
＜指標の計算方法＞	花いっぱい運動参加団体数							
成果指標 花いっぱい運動参加人数	人	目標	630	630	630	630	630	花いっぱい運動参加団体数の減少に伴い、令和6年度と比較して参加人数も減少した。
		実績	540	516	446			
＜指標の計算方法＞	花いっぱい運動参加人数							
成果指標 市民活動団体登録数	団体	目標	20	20	20	20	20	1団体が新規登録され、1団体が解散となったため、令和6年度と比較して登録数に変更はない。
		実績	16	19	19			
＜指標の計算方法＞	市民活動団体登録数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,349						1,349

事業の実績

①NPO団体活動支援
・市ホームページ掲載19団体が対象
県認証NPO：8法人
その他：11団体

②花いっぱい運動推進
・花を愛する県民の集い
(10/18、紀の川市)
功労者感謝状受賞
「いちごサロン」
「西貴志小学校育友会」
「桃山町美化推進協議会野田原支部」
貴志川高等学校生徒会による事例発表

③花いっぱい運動補助金
・補助金交付申請受付、交付決定など
・看板等の配布
・現地確認

④市民協働提案事業
・昨年度採択事業の実施…
「キーボードを使用した音楽グループレッスン（クレア・ピアノ）」
・市登録団体を対象に協働提案を募集
…提案団体なし

事業の事後評価

妥当性　評価結果：改善の余地がない

・自主的な社会貢献活動を実施する市民団体に対して支援策を講ずることの妥当性は高い。
・主体的な市民登録団体の活動により、市は後方支援に注力することができている。

有効性　評価結果：改善の余地がややある

・構成員の高齢化等により花いっぱい運動の参加団体数と参加人数について減少傾向が続くことが予想されるため、継続して新規団体の参入を促す必要がある。

効率性　評価結果：改善の余地がない

・花いっぱい運動に対する補助では、花苗代や肥料等にかかる費用を補助対象としており、団体の活動はボランティアである。

事務事業の概要

事務事業名	国際交流事業	担当課	地域創生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	470

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	観光・交流
予算科目 目	11 地域創生費		基本施策	2	国際交流・多文化共生の推進
			取組方針	1	国際交流の推進

事業概要	姉妹都市、友好都市等と良好な関係を築くとともに、外国人住民と市民が互いに地域の一員として尊重しあえるよう交流を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	姉妹都市・友好都市等との交流	⑤		⑨	
②	国際交流員受入	⑥		⑩	
③	多文化共生の推進	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 姉妹都市・友好都市等との交流事業開催回数	回	目標	6	6	6	6	6	都市相互に計画性をもって実施する中学生国際交流事業を含め、交流事業開催回数に増減はなかった。
		実績	12	5	5			
＜指標の計算方法＞	公式行事の回数							
成果指標 姉妹都市・友好都市等への訪問団（職員等を除く）の人数	人	目標	20	20	20	20	20	姉妹都市・友好都市等への派遣は中学生国際交流事業のみの実施となったが、募集人数を増加させたことにより、実績が向上した。
		実績	25	15	21			
＜指標の計算方法＞	公式行事による姉妹都市・友好都市等への訪問団（職員等を除く）の人数							
活動指標 日本語教室等開催支援補助金交付団体数	団体	目標	5	5	5	5	5	外国人住民に対し日本語教室を実施している団体の支援を目的とし、前年度と比較して1団体減少の2団体に対し補助金を交付した。
		実績	2	3	2			
＜指標の計算方法＞	日本語教室等開催支援補助金を交付した団体の数							
成果指標 多文化共生事業への参加者数	人	目標	200	200	200	200	200	日本語教室等開催支援補助金交付団体数の減少に伴い、日本語教室への参加者数に減少が生じた。
		実績	204	211	115			
＜指標の計算方法＞	市が主催もしくは協力する日本語教室等のイベントへの延べ参加者数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,093				1,000	945	3,148

事業の実績

①姉妹都市・友好都市等との交流
(西帰浦市)
・西帰浦市師弟同行海外文化体験訪問団受入
6/13　70名(うち中学生47名)
・紀の川市中学生国際交流訪問団派遣
8/23～26　27名(うち中学生21名)
・西帰浦市中学生国際交流訪問団受入
9/11～14　27名(うち中学生21名)
・中学生国際交流オンライン報告会　12/8
・紀の川市合併20周年記念式典に西帰浦市訪問団を招待　11/7～9　6名
(濱州市)
※令和7年度は交流活動なし
(クアンナム省)
※令和7年度は交流活動なし

②国際交流員受入
・姉妹都市韓国西帰浦市から国際交流員受入
帰国　令和7年3月～令和7年12月
チョ・エロク氏
受入　なし

③多文化共生の推進
・日本語教室実施団体の運営を支援する目的で、2団体に補助金交付を行った。
「にほんで日本語～てにをは」
「MEW いっしょに日本語」
・外国人住民を対象に相談や地域の方々との交流を目的として市民団体主体で実施される「ゼロエンマーケット」に協力した。
5/11(第7回：打田生涯学習センター)
10/5(第8回：桃山会館)
・特定技能所属機関による協力確認書の提出
…42機関（事業所）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・姉妹都市、友好都市等と築いてきた友好関係のもと、身近な国際交流の機会を市民に提供できるため、市が実施することに一定の妥当性がある。
・外国人住民が国籍に関係なく地域の一員として、安心して暮らせるよう多文化共生を推進することは、市の取組として妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・中学生国際交流事業では相互の学生に貴重な国際交流経験を提供できているが、それ以外での、姉妹都市・友好都市等との民間事業者や市民同士の交流等を推進し、事業の認知向上に努める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・地域のボランティア団体や市民団体が外国人住民を対象に実施する活動に対し支援を行うことで、外国人住民に日本語学習や相談の機会を提供している。
・相互訪問による交流が不定期に発生するので、コストを最小限に抑える必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	細野簡易郵便局運営事業	担当課	地域創生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（ ～ R10）
				事業番号	494

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興
予算科目 目	11 地域創生費		基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実
			取組方針	9	その他

事業概要	地域住民が郵便局関連のサービスの提供が受けられるように、細野簡易郵便局の運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	細野簡易郵便局運営	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 郵便取扱い件数	件	目標	50	50	50	50	50	細野簡易郵便局を利用する地域における人口減少や高齢化の影響、料金の値上げ等を減少の要因と考える。
		実績	27	18	7			
＜指標の計算方法＞	取扱い件数を計上							
活動指標 貯金取扱い件数	件	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	細野簡易郵便局を利用する地域における人口減少や高齢化の影響を受け、取扱い件数は減少の傾向にある。
		実績	853	838	805			
＜指標の計算方法＞	取扱い件数を計上							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,200					3,200	

事業の実績

①細野簡易郵便局運営
郵便取扱い件数　　7件
貯金取扱い件数　805件

事務取扱者として臨時職員が交代で郵便局運営を行っており、令和5年度よりスポット対応職員を含め4名体制である。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地が大きい

・細野生活改善センター施設の地元への移管協議に併せて、市による簡易郵便局事業の運営を見直す内容で地元と協議を進めた結果、地元の合意が得られ、令和11年3月末で市による簡易郵便局事業の運営を解除する旨の届出を日本郵便株式会社に提出、今後、早急に受託者の募集を進める。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・地域住民にとっての唯一の金融機関として利用されているが、郵便及び貯金の取扱い件数は減少傾向にある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・郵便業務の研修を受講した臨時職員が円滑に事務を行っており、日本郵便株式会社からの取扱い手数料で人件費や施設の維持管理費を賄えている。

事務事業の概要

事務事業名	バス運行支援事業	担当課	交通政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	485

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	12 交通政策費		基本施策	3	公共交通ネットワークの充実
			取組方針	1	公共交通の維持・確保・充実

事業概要：市民がバスや乗合タクシーでスムーズに移動できるように、バス会社やタクシー会社に対し運行支援を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	地域巡回バス運行補助金（乗合タクシー路線含む）	⑤	紀の川デマンド乗合交通運行補助金	⑨	
②	紀の川コミュニティバス運行補助金	⑥		⑩	
③	粉河・熊取線バス運行補助金	⑦		⑪	
④	紀の川デマンド乗合交通管理運営	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 年間利用者数（地域巡回バス）	人	目標	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	バス運転者の労働時間等の改善のため令和7年4月1日に早朝・夜間便(計5便)を減便したことにより、令和6年度に比べ利用者がわずかに減少した。
		実績	28,474	31,519	31,431			
＜指標の計算方法＞ 地域巡回バスの年間利用者数								
成果指標 年間利用者数（紀の川コミュニティバス）	人	目標	20,600	20,600	20,600	20,600	20,600	令和6年度に比べ利用者が増加。発着地の貴志川支所や那賀病院での乗降が増加した一方、岩出駅や貴志川高校前での利用が減少した。
		実績	20,635	21,341	22,194			
＜指標の計算方法＞ 紀の川コミュニティバスの年間利用者数								
成果指標 年間利用者数（粉河熊取線）	人	目標	70,000	51,000	51,000	51,000	51,000	令和6年度に比べ利用者が減少。路線沿線事業所への通勤等の利用が減少したことが要因となっている。
		実績	48,386	61,750	54,520			
＜指標の計算方法＞ 粉河熊取線の年間利用者数								
成果指標 年間利用者数（紀の川デマンド乗合交通）	人	目標		1,000	5,800	9,300	9,300	4月～12月（運行日数222日）：2台で2,703人 1月～ 3月（運行日数 70日）：4台で1,547人
		実績		656	4,250			
＜指標の計算方法＞ 紀の川デマンド乗合交通の年間利用者数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
196,624	30,086					166,538

事業の実績

①地域巡回バス運行補助金（乗合タクシー路線含む）
〈地域巡回バス運行補助金〉
・和歌山バス那賀株式会社：61,667,496円
全10コース
（名手上那賀支所・川原西脇・赤尾藤井・長田竜門・北勢田・三谷・黒土高野・打田貴志川・東貴志丸栖・西貴志コース）
・株式会社有交紀北：15,928,550円
全2コース
（桃山鞆渕・細野貴志川コース）
〈デマンド型乗合タクシー運行補助金〉
・株式会社有交紀北：96,600円
赤沼田名手駅前路線
年間利用者数：36人

②紀の川コミュニティバス運行補助金
・和歌山バス那賀株式会社：20,521,898円
市西部地域と岩出市を巡回する路線バス

③粉河・熊取線バス運行補助金
・和歌山バス那賀株式会社：21,143,142円
JR粉河駅とJR熊取駅を結ぶ路線バス

④紀の川デマンド乗合交通管理運営
河南エリア導入業務
7月：「AIオンデマンド交通河南エリア拡大業務」契約
7～10月：システム構築・運行準備
10月：運行車両2台納車（10人乗り）
地域公共交通活性化再生協議会承認
11月：運輸局へ事業申請
12月：乗降ポイント設置（277箇所）
住民向け利用説明会（6回）
事業認可（一般乗合旅客自動車運送事業　区域運行）
1月：利用案内冊子を各戸配布（広報1月号配布時）
1/5 新3エリア（西・東・南）によるサービス開始乗車体験会（2回）

⑤紀の川デマンド乗合交通運行補助金
・株式会社有交紀北：10,544,115円
河北西エリア（4～12月）6,470,333円
西エリア（1～3月）4,073,782円
・和歌山バス那賀株式会社：10,346,566円
河北東エリア（4～12月）6,318,734円
東・南エリア（1～3月）4,027,832円
・利用登録者数：1,402人（令和7年度末）
・令和7年度新規登録788人
・乗客数：4,250人
河北西エリア（4～12月･1台）:1,846人
河北東エリア（4～12月･1台）:857人
西エリア（1～3月･2台）：943人
東エリア（1～3月･1台）：388人
南エリア（1～3月･1台）：216人
・乗合率：1.28人/便
・予約方法：電話：60%、LINE：18%、アプリ：22%

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・地域巡回バス・紀の川コミュニティバス・紀の川デマンド乗合交通は、地域住民や来訪者の移動手段確保のための路線であり、収益性が低いため、市が支援を行い運行を維持することは妥当である。
・地域公共交通の再編等は地域住民に与える影響が大きく、路線の調整や合意形成手続きに相当な時間を要することから、迅速な対応とまでは困難な状況である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・紀の川市地域公共交通計画に基づき、地域特性に応じた適材適所のサービスの導入を進めることが有効であり、少子高齢化や人口減少により利用者が減少傾向となることが予想される中、運行の見直しによる利便性の向上や、情報発信・利用促進等により利用者の増加を図る必要がある。
・紀の川コミュニティバスの路線・ダイヤ改正を令和8年4月1日に実施することで、懸案となっていた田中小学校の通学手段や、岩出市内のショッピングモール乗入による利用者増加対策を行った。
・紀の川デマンド乗合交通は、令和8年1月から河南エリアにも拡大し、西・東・南の3エリアで運行しており、これまで公共交通にアクセスできなかった層の移動需要の掘り起こしに繋がっているものの、なお一層の利用者周知を図る必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・本市における地域公共交通の担い手である交通事業者は限られており、事業者と良好な関係性を構築することは持続可能な公共交通網の形成には不可欠である中、限られた資源（運転手・車両）を効率的に活用し、サービスを提供できるように費用対効果を検証しながら支援する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	鉄道運行支援事業	担当課	交通政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	488

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	12 交通政策費		基本施策	3	公共交通ネットワークの充実
			取組方針	1	公共交通の維持・確保・充実

事業概要：市民が鉄道でスムーズに移動できるように、鉄道事業者、関係機関と協力、連携して運行に対する支援を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	和歌山線活性化検討委員会	⑤	貴志川線安全輸送に係る設備整備支援事業補助金	⑨	
②	貴志川線運営協議会	⑥	貴志川線利用促進事業負担金	⑩	
③	貴志川線運営委員会	⑦		⑪	
④	貴志川線存続支援事業補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 1日当たりの乗降客数（和歌山線）	人/日	目標	5,400	4,800	4,800	4,800	4,800	令和6年度に比べ微増した。特に下井阪駅の乗降客数が増加した。
		実績	4,670	4,670	4,696			
＜指標の計算方法＞	事業者から提供された資料を基に市内5駅の合計値を算出							
成果指標 1日当たりの乗降客数（貴志川線）	人/日	目標	2,600	1,800	1,800	1,800	1,800	インバウンドを含む定期外利用について令和6年度に比べ増加傾向にあり、貴志駅の乗降客数が増加した。
		実績	1,516	1,607	1,856			
＜指標の計算方法＞	事業者から提供された資料を基に市内4駅の合計値を算出							
活動指標 和歌山線活性化検討委員会担当者会議開催回数	回	目標	1	6	6	6	6	初めて高校生クイズを実施した令和6年度に比べ効率的に打ち合わせを行えたため開催回数が減少した。
		実績	6	13	8			
＜指標の計算方法＞	和歌山線活性化検討委員会の担当者会議開催回数							
活動指標 貴志川線運営委員会出席回数	回	目標	12	12	12	12	12	貴志川線の運営状況や利用促進などを和歌山電鐵・県・和歌山市・その他関係者と協議した。
		実績	12	12	12			
＜指標の計算方法＞	毎月1回開催される運営委員会の出席回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
54,729				9,000		45,729

事業の実績

①和歌山線活性化検討委員会
・幹事会：2回、総会：1回
利用促進事業の実施
・WESTERウオーキング部を活用したハイキングイベント
・子供向け出前講座
・ノベルティグッズ制作
・高校生クイズイベント
・構成団体
会長：紀の川市
副会長：和歌山市、橋本市
理事：和歌山県、JR西日本和歌山支社
監事：岩出市、かつらぎ町

②貴志川線運営協議会
運営協議会：2回
運営協議会幹事会：4回
今後の貴志川線存続に関する方針の決定
・完全上下分離に向けた検討・協議
（10月7日）和歌山電鐵・和歌山県・和歌山市・紀の川市の4者で協議し、完全上下分離方式への運営体制移行について確認
（11月24日）貴志川線の鉄道存続に向けた合意書を締結し、4者で令和10年4月1日からの完全上下分離方式での運行開始を目指すことについて合意
・利用促進事業の実施
和歌山電鐵開業20周年関連利用促進事業の実施等
・構成団体
和歌山市、紀の川市、和歌山県（参与）

③貴志川線運営委員会
・毎月1回開催される運営委員会に出席
貴志川線の運営状況や利用促進などについて関係者で協議を実施

④貴志川線存続支援事業補助金
・県及び和歌山市と共同で貴志川線存続に関する基本合意書に基づく設備更新に対する補助金を交付
交付金：9,665,000円

⑤貴志川線安全輸送に係る設備整備支援事業補助金
・貴志川線の安全な運行継続を図るための設備修繕に係る費用に対して、県及び和歌山市と共同で補助金を交付
災害復旧交付金：6,674,000円
修繕費交付金：36,510,891円

⑥貴志川線利用促進事業負担金
・和歌山市、紀の川市の70歳以上の住民を対象とした和歌山電鐵の利用促進事業「70おでかけ回数券」に係る費用に対して、和歌山市と共同で負担金を支出
販売実績：2,292冊（1冊10枚綴り）
うち紀の川市民：756冊
負担金：1,529,432円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・地域公共交通において、和歌山線及び貴志川線の鉄道は必要不可欠な移動手段であることから、市が存続支援することは妥当である。
・コロナ禍を契機とした利用者の激減、その後の物価高騰による運営費の増大により、和歌山電鐵貴志川線は鉄道事業者の経営努力のみでは、今後、地域鉄道の安全な輸送の提供が困難となってくることから、施設の維持管理を行政が受け持ち、運行事業者が運行に専念することで安全な輸送や利便性向上につなげる上下分離体制への移行が必要となっている。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・沿線人口の減少や道路網の整備等により、鉄道を取り巻く状況は依然として厳しい状況が続くことが予想される。
・鉄道事業者や関係者と定期的に会議を開いており、利用者数や運営状況は適切に把握している中、今後の鉄道維持のためには、鉄道事業者や沿線自治体、沿線住民が一体となった利用促進に向けた取り組みが必要である。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・貴志川線は、インバウンドによる利用は回復しつつあるものの、日本への渡航自粛の影響等による利用減少のリスクを抱えている。また、通勤・通学の利用者の減少が著しく、特に通学利用は、沿線高校の生徒数減少や沿線大学の閉学予定などにより更なる減少が予想され、運営状況は厳しさを増している。
・貴志川線存続に向けて、完全上下分離方式への移行を決定し、施設の維持管理については行政が負担することで持続可能な運行体制への再構築を図っていく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	パークアンドライド推進事業	担当課	交通政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	490

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	12 交通政策費		基本施策	3	公共交通ネットワークの充実
			取組方針	3	利用環境の充実

事業概要：市民が電車、バスを利用しやすくするために、駐輪場、駐車場の整備、管理を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	市営駐車場管理運営	⑤		⑨	
②	駅駐輪場管理運営	⑥		⑩	
③	駅駐輪場整備	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 市営駐車場使用料	円	目標						令和7年度は一般利用者の微増と短期間利用の事業者が増加した。
		実績	2,406,200	2,126,000	2,271,200			
＜指標の計算方法＞	市営駐車場使用料の年間合計							
成果指標 月極駐車場使用率	%	目標	50	45	45	45	45	令和7年度は一般利用者の微増と短期間利用の事業者が増加した。
		実績	38.7	33.4	35.2			
＜指標の計算方法＞	1箇月あたりの駐車台数の平均値／収容台数×100							
活動指標 利用促進年間啓発回数	回	目標	1	2	2	2	2	パークアンドライドの利用促進のため、広報紙により市民に向けた周知・啓発を行った。
		実績	2	3	1			
＜指標の計算方法＞	パークアンドライドの推進に関する啓発活動の実施回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
21,759				20,000	1,759	

事業の実績

①市営駐車場管理運営
・管理委託：紀の川市商工会
(株)アース・カー
委託内容：使用料収納、施設管理等
・利用台数（1箇月あたり平均）
市営第1（月極）：21.8台
（収容台数：64台）
市営第2（月極）：12.0台
（収容台数：32台）
市営第1（日極）：7.9台
（収容台数：10台）
市営第2（日極）：18.8台
（収容台数：3台）
・月極契約者にアンケート調査
利用目的（有効回答数：30件）
通勤（鉄道）：50%、（バス）：3%
（近隣）：0%
通学（鉄道）：7%、（バス）：0%
自宅等駐車場：27%、その他：13%
・駐車場維持修繕
草刈除草：2回
維持清掃：1回
看板修繕：2カ所
・利用促進の年間啓発回数：1回
（広報9月号に掲載）

②駅駐輪場管理運営
・駐輪場収容台数
打田駅第1：100台
第2：70台
下井阪駅：150台
粉河駅第1：70台
第2：10台
紀伊長田駅：20台
名手駅第1：100台
第2：150台
貴志駅：130台
甘露寺前駅：50台
西山口駅第1：6台
第2：20台
大池遊園駅：25台
・駐輪場維持修繕
粉河駅草刈除草：2回
名手駅草刈除草：2回
名手駅維持清掃：1回

③駅駐輪場整備
・駐輪場整備工事
粉河駅第3（サイクルポート自転車48台相当、単車10台相当、駐輪区画線、照明）
紀伊長田駅（サイクルポート13台相当、駐輪区画線、照明）

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・地域住民の長距離移動手段である鉄道や路線バスを利用してもらいやすくするため、市が駅前の駐車場及び駐輪場を確保して運営管理することは妥当である。
・各駅駐輪場のサイクルラック、サイクルポート整備により利用者の利便性を高めることは妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・市営駐車場の日極駐車について、鉄道や路線バスを利用したおでかけを促進するため、市民に向けた周知・啓発をより一層図る必要がある。
・市営駐車場のWEB予約制日極駐車区画の導入は、自家用車所有者に対する鉄道や路線バスの利用促進の手段として有効である。
・各駅駐輪場の整備工事は、鉄道利用のために自転車やバイクで駅に訪れる市民の利便性を高めるため、駐輪スペースの確保策として有効である。

効率性
評価結果：改善の余地がややある
・市営駐車場について、場所が近く管理が行き届く事業者に委託することは効率的である中、利用者の増加による利用料の増収を図る必要がある。
・市営駐車場のWEB予約制日極駐車区画について、管理運営に係るノウハウと実績がある専門事業者に業務委託することは効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	地域公共交通活性化再生事業	担当課	交通政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1125

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	12 交通政策費	基本施策	3	公共交通ネットワークの充実
		取組方針	1	公共交通の維持・確保・充実

事業概要：地域公共交通の活性化及び再生に関する利用促進等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）	⑤		⑨	
②	モビリティマネジメント実施	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標：紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）開催回数	回	目標	3	3	3	3	3	紀の川デマンド乗合交通の河南地域への運行エリア拡大や、紀の川コミュニティバスの路線・ダイヤ改正等について協議した。
		実績	5	3	4			
＜指標の計算方法＞ 法定協議会の開催回数								
成果指標：日常生活において交通手段に不便と感じている市民の割合	%	目標	53	52	51	50	50	令和6年度と比べ増加し、居住地や年代を問わず割合が高い傾向にある。紀の川デマンド乗合交通の周知による利用者層拡大や地域巡回バスの再編を図っていく。
		実績	51.8	51.6	56.2			
＜指標の計算方法＞ 市民意識調査で「感じる」「どちらかといえば、感じる」と回答した市民の割合								
活動指標：モビリティマネジメント実施回数	回	目標	6	20	20	10	10	紀の川デマンド乗合交通の使い方に関する出前講座を各地域で開催したことにより増加した。
		実績	9	22	39			
＜指標の計算方法＞ 地域公共交通に関する理解醸成及び利用促進の実施回数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
344						344

事業の実績

①紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）
- 協議会：3回
  6月24日
  「国庫補助申請に係る承認事項について」等
  10月28日
  「紀の川デマンド乗合交通の河南地域拡大について」等
  1月26日（書面）
  「紀の川コミュニティバスの路線・ダイヤ改正について」等
- 協議会部会：1回
  10月20日（書面）
  「運賃協議部会の開催を要しない軽微な事案の位置づけについて」等

②モビリティマネジメント実施
- 市内高校の新入生へバス時刻表配布（2回）
  粉河高校、貴志川高校
- 貴志川高校の体験入学参加者に公共交通利用説明資料の配布（1回）
- 紀の川コミュニティバスの路線・ダイヤ改正に伴う影響地区に資料回覧（1回）
- 紀の川デマンド乗合交通説明会（4回）
  10月：粉河・那賀・桃山・貴志川地区区長会
  52名出席。欠席者94名に資料送付
  12月：住民向け利用説明会（6回）
  141名参加
  通年：個別利用説明会（20回）
  440名参加
- 紀の川デマンド乗合交通乗車体験会（2回）
  1月：貴志川地区、桃山地区
  26名参加
- 意見交換会（1回）
  7月：紀の川市に乗り合いタクシーを走らせる会
- 広報紙（2回）
  12月：紀の川デマンド乗合交通のエリア拡大周知
  1月：紀の川デマンド乗合交通利用案内冊子と利用登録票を市内全戸に配布

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・人口減少や高齢化社会が進行する中、市民が利用しやすく、かつ持続可能な公共交通ネットワークの実現に向けて、市が地域情勢の変化に伴う市民ニーズの変化に対応した地域公共交通のあり方について、関係自治体と関係機関が連携して検討・見直していくことは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・市民意識調査で「公共交通ネットワークの充実」に対し、「不満」「やや不満」と回答した市民の割合が高い状態が続いている。令和7年1月から導入した紀の川デマンド乗合交通の利用者の約3割が80代以上となっており、指標改善に向けては幅広い年代層に選択肢として認知されることが必要である。
・地域公共交通の関係者間で、現在の利用状況や地域ニーズを踏まえて協議を重ね、利用しやすい公共交通ネットワークとなるよう見直しを行うとともに、モビリティマネジメントの実施により、満足度の向上に取り組む必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・より多くの方に地域公共交通を利用してもらえるように、利便性の向上やモビリティマネジメント等による利用促進を図りながら、併せて費用対効果の検証や運行の効率化を図り、持続可能な公共交通ネットワークの形を検討し続ける必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	交通安全推進事業	担当課	交通政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	496

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	12 交通政策費	基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進
		取組方針	1	交通安全対策の推進

事業概要	市民が交通安全意識を高め、円滑な道路交通で生活できるように、市民(特に児童・高齢者）に街頭啓発や交通安全教室等の開催を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 交通指導員設置	⑤ 那賀地方交通指導員会連絡会負担金	⑨ 紀の川市交通大学
	② 交通安全啓発	⑥ 交通安全母の会補助金	⑩
	③ 交通安全施設整備申請	⑦ 交通安全推進連絡協議会補助金	⑪
	④ 地域交通安全活動推進委員協議会負担金	⑧ 交通安全教室	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 交通安全教室実施回数	回	目標	10	6	6	6	6	市内保育所・保育園において、園児を対象に実施した。
		実績	9	6	6			
＜指標の計算方法＞ 交通安全教室実施回数								
活動指標 交通安全啓発実施回数	回	目標	12	5	5	5	5	四季の交通安全運動に伴う啓発活動などを実施した。
		実績	7	5	5			
＜指標の計算方法＞ 交通安全啓発実施回数								
成果指標 交通事故発生件数	件	目標	90	90	90	90	90	令和6年度に比べ減少となり、近年では徐々に減少傾向にある。
		実績	100	82	80			
＜指標の計算方法＞ 紀の川市管内の人身交通事故件数								
成果指標 交通事故発生件数（うち高齢者）	件	目標	40	40	40	40	40	令和6年度に比べ増加となり、高齢化に伴い増加することが懸念される。
		実績	40	25	33			
＜指標の計算方法＞ 紀の川市管内の人身交通事故件数（うち高齢者）								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,000						4,000

事業の実績

①交通指導員設置
指導員数：51名（令和8年3月末）
（地区別内訳）
打田地区：14名、粉河地区：15名、
那賀地区：9名、桃山地区：6名、
貴志川地区：7名

②交通安全啓発
啓発活動：5回
（啓発内訳）
四季の交通安全運動啓発：4回
（岩出警察署管内商業施設等）
ヘルメット着用啓発：1回
（打田中学校）

③交通安全施設整備申請
飛び出し注意看板要望：28件
（看板41枚、土台34個配付）
ストップマーク要望：3件
（マーク56枚配布）

④地域交通安全活動推進委員協議会負担金
・交通安全運動への参加
・幼児・児童に対する安全教育

⑤那賀地方交通指導員会連絡会負担金
・交通安全運動への参加
・啓発物資の配布

⑥交通安全母の会補助金
・交通安全運動への参加
・各支部での啓発活動
・啓発物資の配布

⑦交通安全推進連絡協議会補助金
・交通安全運動への参加
・交通大学の実施
・啓発物資の配布

⑧交通安全教室
市内保育所・保育園：6回
・岩出警察署交通課による横断歩道や踏切の渡り方等の指導

⑨紀の川市交通大学
7回開催：学生17名
・開校式
・交通安全講話（岩出警察署）
・認知機能訓練（岩出自動車学院）
・応急救護措置要領（那賀消防組合）
・夜間視認性実験（岩出警察署）
・身体機能測定体験
（県警本部交通センター）
・交通安全講話（包括連携協定事業者）
修了式

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市が主体となって交通安全の関係機関・団体との連携を強化し、交通安全活動を継続的に活性化させていくことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・交通情勢の変化に合わせて事業内容を調整しつつ、関係機関・団体と連携を図りながら交通ルールや交通マナーを守ってもらえるように啓発を継続的に実施する必要がある。
・交通指導員の高齢化や成り手不足の状況が続いており、交通安全の啓発・指導における人員確保が課題となっている。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・交通指導員や各種交通安全の関係機関・団体が一丸となって、交通安全意識の向上を啓発することは効率的である

事務事業の概要

事務事業名	放棄車両対策事業	担当課	交通政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	15

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	12 交通政策費	基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進
		取組方針	2	放置自転車対策の推進

事業概要	市民が放棄車両の無い円滑な道路交通で生活できるように、放置車両の所有者に啓発、警告を行い、放置車両の撤去、保管、廃棄を行う事業				
事務事業を構成する細事業	① 放棄自動車等対策	⑤		⑨	
	②	⑥		⑩	
	③	⑦		⑪	
	④	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 車両調査台数	台	目標						通報数が減少したことに伴い調査台数が大きく減少した。
		実績	5	8	2			
＜指標の計算方法＞	通報があり調査対応した自動車と原動機付自転車の台数							
活動指標 放置自転車警告台数	台	目標						打田駅、粉河駅及び下井阪駅の駐輪場整備により警告台数が減少した。
		実績	94	116	31			
＜指標の計算方法＞	警告札を取り付けた放置自転車の台数							
活動指標 放棄自動車台数	台	目標						放棄自動車は無かった。
		実績	1	1				
＜指標の計算方法＞	放棄自動車の撤去保管台数							
成果指標 放置自転車台数	台	目標						駅駐輪場整備や見回りを強化したことにより減少した。
		実績	78	64	28			
＜指標の計算方法＞	放置自転車の移動保管台数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績

①放棄自動車等対策
・処分した放棄自動車等
自転車：34台、処分費：0円
（放棄場所の内訳）
下井阪駅：18台、粉河駅：6台、
その他：10台
（紀の海クリーンセンターで処分）
原動機付自転車：0台、処分費：0円
自動車：0台、処分費：0円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市が主体となって地域の美観を保持するとともに、市民の快適な生活環境の維持を図ることは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・放置自転車について、各駅駐輪場の定期的な見回りなどにより、盗難防止や放置されにくい環境づくりに取り組む必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・放置自転車の対応について、市職員による移動保管等の作業は負担となっているが、業務委託等は費用対効果として効率的とは言えないことから、関係支所に一部の業務分散を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	電算システム管理運営事業	担当課	デジタル推進室	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	11

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	13 情報システム管理費		基本施策	1	デジタル化の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	電算システムを安全かつ安定的に稼動させることで、職員が効率的に業務を行い、市民に安定した行政サービスを提供する事業

事務事業を構成する細事業					
①	情報系システム管理	⑤		⑨	
②	基幹系システム管理	⑥		⑩	
③	セキュリティ対策	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	情報系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	致命的な停止はなく、安定稼働している。
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	実数による件数							
成果指標	基幹系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	基本システム更改による計画停止を除き、システム障害による短時間(10分～20分)の停止が6回あった。
			実績	0	0	6			
	＜指標の計算方法＞	実数による件数							
成果指標	情報漏えい事故発生件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から、現状の三層分離による高いセキュリティ対策に加え、職員が情報セキュリティポリシーを意識して安全にシステムを利用できていることがわかる。
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	実数による件数							
活動指標	サービスデスク受付件数	件	目標	3,350	3,300	3,400	3,400	3,400	基本システムの更改により、操作方法等の受付件数が大幅に増加した。
			実績	3,346	3,730	4,254			
	＜指標の計算方法＞	実数による件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
193,874	4,129				550	189,195

事業の実績

①情報系システム管理
- 京セラ製プリンタ修繕　4台
- NECパソコン修繕　11台
- ハードウェア保守の実施
- ソフトウェア保守の実施
- ネットワーク保守の実施
- システム運用支援の実施
- サービスデスク業務の外部委託実施
- 東京事務所イーサネットVPN移設

②基幹系システム管理
- ハードウェア保守の実施
- ソフトウェア保守の実施
- 帳票印刷の外部委託実施
- 自治体共同クラウドの利用
- サービスデスク業務の外部委託実施

③セキュリティ対策
- 全職員に対するe-ラーニングを実施
- 自治体情報セキュリティクラウドの利用

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・質の高い行政サービスを提供するためには、電算システムの安定した稼働が必要不可欠であるため、本業務は妥当であると考える。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・情報系システムにおいては重大なインシデントが発生しておらず、本年度には基本システムの更改も実施し、より安定した運営が可能になるため本事業は有効であると考える。
・基幹系システムにおいては標準準拠システムへの移行がベンダ都合により延伸しているため、古いシステムによるシステム障害が発生しているが、次年度に対策予定である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・サービスデスク業務や帳票印刷BPOなど外部委託により人的・時間的な効率化を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	電算システム更新事業	担当課	デジタル推進室	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	497

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	13 情報システム管理費		基本施策	1	デジタル化の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	電算システムを安全に、安定的に稼動させ、市民に安定した行政サービスを提供できるように電算システムを更新する事業

事務事業を構成する細事業					
①	情報系システム更新	⑤		⑨	
②	基幹系システム更新	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 情報系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	基本システム更改による計画停止を除き、障害等による致命的な停止はなく、安定して稼働しているといえる。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	実数による件数							
成果指標 基幹系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	基本システム更改による計画停止を除き、システム障害による短時間(10分～20分)の停止が6回あった。
		実績	0	0	6			
＜指標の計算方法＞	実数による件数							
成果指標 情報漏えい事故発生件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から、現状の三層分離による高いセキュリティ対策に加え、職員が情報セキュリティポリシーを意識して安全にシステムを利用できていることがわかる。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	実数による件数							
活動指標 基幹システム稼働業務数	業務	目標	53	57	57	57	57	指標の実績から安定稼働していると判断できる。
		実績	57	57	57			
＜指標の計算方法＞	稼働業務数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
56,448					37,643	18,805

事業の実績

①情報系システム更新
・基本ネットワークシステムの更新
（サーバ、スイッチ、FW等）

②基幹系システム更新
・ＯＣＲ機器更新
（読取装置、専用PC）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・質の高い行政サービスを提供するためには、電算システムの安定した運営が必要であり、その基盤となる機器等の定期的な更改は必須である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・電算システムの基盤である基本ネットワークの更改を実施し、より安全で安定したシステム運営が可能となっているため有効であると考える。
・基幹系システムにおいては、先行してＯＣＲ機器のサポート終了に伴う更新を行ったが、標準準拠システムへの移行がベンダ都合により延伸している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・効率的なシステム運営のために、利便性、安全性、コストを重視した基本システム更改を実施した。
・基幹系システムで使用するＯＣＲ機器の更改はメーカサポート終了に伴うもので、改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	行政情報化推進事業	担当課	デジタル推進室	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	498

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	3	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	14 デジタル推進費		基本施策	1	デジタル化の推進
			取組方針	1	行政サービスにおける利便性の向上

事業概要	行政分野への情報通信技術の活用により、DX化を推進していくことで市民の利便性の向上と行政運営の効率化を図り、また関係団体、関係機関に負担金の支出や運営へ参加する事業

事務事業を構成する細事業					
	① 県情報化推進協議会負担金	⑤ 統合型ＧＩＳ(地理情報システム)管理	⑨		
	② 地方公共団体情報システム機構負担金	⑥ 電子申請推進	⑩		
	③ 県電子自治体推進協議会参画	⑦ デジタルデバイド対策	⑪		
	④ 業務自動化促進等	⑧ デジタル化推進	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 業務自動化ソフトウェア(RPA)等による削減業務時間数	時間	目標	850	900	950	1,000	1,500	RPAにおける新規稼働はないが通年安定稼働しており、昨年度と同程度の業務削減効果を得られた。また、生成AIの通年稼働により、1,000時間以上の業務削減効果が得られた。
		実績	960	1,602	2,918			
＜指標の計算方法＞ 削減された業務時間数の合計								
活動指標 継続実施している情報化推進施策数	個	目標	5	6	7	8	8	統合型地理情報システム、RPAの運用、オープンデータ用カタログサイト運営、テレワークシステム運用、電子申請、スマートフォン教室･相談窓口、書かない窓口、生成AIシステムの継続実施。
		実績	7	8	8			
＜指標の計算方法＞ 実施中の情報化施策数（前年度以前からの継続実施を含む）								
成果指標 電子申請件数	件	目標	180	180	180	180	170	コンビニ交付手数料を10円としたことにより、コンビニ交付が大きく増加したため、電子申請件数は昨年度より減少している。課税証明に関しては、コンビニ交付開始の影響で減少を予想したが、昨年度と同等の申請件数となった。
		実績	220	174	159			
＜指標の計算方法＞ 住民票の写しや戸籍謄本等の証明書交付を電子申請で受けた件数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
58,189	792				268	57,129

事業の実績

①県情報化推進協議会負担金
②地方公共団体情報システム機構負担金
③県電子自治体推進協議会参画

④業務自動化促進等
◇RPA(業務自動化ソフト)活用
・障害福祉課　420時間削減
・教育総務課　52時間削減
・高齢介護課　85時間削減
・契約管財課　44時間削減
・給食センター　150時間削減
・企画経営課　844時間削減
◇生成AI活用　1,323時間削減

⑤統合型ＧＩＳ(地理情報システム)管理
⑥電子申請推進
住民票の写し　7件
戸籍謄本・抄本　38件
戸籍の附票の写し　6件
独身証明書　17件
身分証明書　39件
課税証明書　36件
納税証明書　16件

⑦デジタルデバイド対策
◇スマートフォン教室
24回開催　80名参加
◇スマートフォン相談窓口
22回開催　126名参加

⑧デジタル化推進
◇職員向け研修会の開催
・生成AI活用研修　4回開催　38名参加
・GIS研修　2回開催　10名参加
・LoGoフォーム(電子申請作成ソフト)研修
1回開催　4名参加
・自治体DX研修　1回開催　44名参加
管理職を対象に元金沢市長(現石川県知事）山野之義氏を講師に招き、DXの先進地事例について学ぶ講演会を開催

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・DX等の情報化施策は、職員の生産性向上や業務効率化、住民サービスの向上に寄与し、庁内外への影響も大きいため、本事業を実施する妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・デジタル推進監（民間のデジタル人材）からの助言も参考に情報化推進施策を実施している。また、指標の通り、継続実施している情報化推進施策が計画値をおおむね上回っているため有効性がある。
ただし、システム間で競合している部分があるものにおいては、その限りではない。その為、選定後のサービスについても定期的な見直しや再評価が求められている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・DXを進める上では複数のサービス等を比較検討し、コストとパフォーマンスのバランスのとれたサービスを選定しているため効率性がある。ただし、本分野は変化が著しいため、選定後のサービスについても定期的な見直しや再評価が求められている。

事務事業の概要

事務事業名	地域情報通信基盤管理運営事業	担当課	デジタル推進室	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	402

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	14 デジタル推進費	基本施策	1	デジタル化の推進
		取組方針	3	地域社会のデジタル化とデジタルデバイドへの対応

事業概要

市民（難視聴エリア）の市内における情報格差の是正を図るために、施設整備や情報・通信サービスの提供、対策を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	設備管理	⑤		⑨	
②	設備更新	⑥		⑩	
③	難視聴・不感対策	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	設備適正管理施設数	箇所	目標	5	5	5	5	5	難視聴地域にテレビ放送を提供するため、５箇所に放送用機材を設置している。故障や老朽化を未然に防ぐため、定期保守や機器更新を行う必要がある。
			実績	5	5	5			
	＜指標の計算方法＞	管理施設の内、耐用年数超えの機器が存在しない施設数							
成果指標	ケーブルテレビ放送送信停止	回	目標	0	0	0	0	0	適切に保守や機器更新を行った結果、ケーブルの断線や放送機器の故障を発生させず、放送を停止させることなく運営できた。
			実績	1	0	0			
	＜指標の計算方法＞	ケーブルテレビ放送機器故障等による放送停止回数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
84,792			41,100		12,696	30,996

事業の実績

①設備管理
- ケーブルテレビ加入世帯数
  （加入率：加入世帯数／地域世帯数）
  562世帯（84.9%）
- インターネット加入世帯数
  （加入率：加入世帯数／地域世帯数）
  268世帯（40.5%）
  ※地域世帯数662世帯
- 設備保守
  スポット保守　6件
  支障移転　3件
  修繕　2件
  材料購入 3件
- 芯線貸出
  ＮＴＴドコモ　5拠点
  ソフトバンク　7拠点
- 吊線貸出
  ZTV　329箇所
  オプテージ　41箇所
  KDDI　86箇所

②設備更新
- メインセンター及びサブセンター内
  電源装置交換工事
- 放送ＦＴＴＨ光送信機及び光アンプ
  ユニット更新

③難視聴・不感対策
- 携帯電話鉄塔管理
  不感エリア3箇所
  （中畑・鳥渕・久保地区）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・採算性の観点から今後も民間事業者の参入が見込めず、地域情報通信基盤施設がないとテレビ、インターネットが利用できないなど大きな情報格差が発生するため、設備を管理運営しサービスを安定的に提供する必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・インターネット接続事業者及びケーブルテレビ会社に地域情報通信基盤施設を貸し出し、市民に必要な通信・情報サービスを提供している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・一般的な地域同様に民間事業者が参入しサービスを提供すれば、市のコスト削減も見込めるが、将来的にもその可能性は低く、提供地域に住む住民にとって代替手段がない。

事務事業の概要

事務事業名	地域防犯推進事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	500

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	15 地域安全対策費		基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進
			取組方針	3	地域防犯対策の推進

事業概要：市民、自治区の防犯力の向上を図るために、防犯啓発、防犯教室の実施や防犯設備の設置に対する補助を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	防犯灯設置費補助金	⑤	県水上安全協会負担金	⑨	
②	防犯カメラ設置費補助金	⑥	那賀地区防犯協議会負担金	⑩	
③	防犯カメラ管理	⑦	生活安全・暴力追放推進協議会補助金	⑪	
④	行方不明者対応	⑧	電気用品安全法	⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	防犯啓発実施回数	回	目標	3	3	3	3	3	地域安全運動に伴う街灯啓発活動を実施し、防犯について周知している。適切な実施回数について検討が必要。
			実績	1	1	1			
	＜指標の計算方法＞	実施回数							
活動指標	防犯教室実施回数	回	目標	5	5	5	5	5	和歌山県警察の出前講座を活用し、市の出前講座として登録する形で周知している。令和6年度は講座の開始年度であったため、市民の関心も高く、複数回の開催となったと思われる。
			実績	0	3	1			
	＜指標の計算方法＞	実施回数							
活動指標	補助事業の啓発回数	回	目標	6	6	6	6	6	補助事業の啓発を、各地区区長会および全体区長会にて実施している。
			実績	6	6	6			
	＜指標の計算方法＞	啓発活動の延べ回数							
成果指標	防犯灯の設置支援基数	基	目標	620	725	525	525	525	既設蛍光灯防犯灯からLED防犯灯への器具取替えが主な補助対象となる。蛍光灯照明器具が令和9年末に製造中止となることを受け、増加傾向にある。
			実績	398	489	552			
	＜指標の計算方法＞	防犯灯設置事業費補助金の支援実績（基数）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
13,731						13,731

事業の実績

①防犯灯設置費補助金
【LED新設】
既存の電柱等に設置　42基
支柱も同時に設置　3基
【器具取替え】
既設蛍光灯からLED　503基
既設LEDからLED　2基
器具と支柱の取替（蛍光灯→LED）2基
器具と支柱の取替（LED→LED）　0基
既設LEDの支柱取替え　0基

②防犯カメラ設置費補助金
設置区 4区、設置台数 6台

③防犯カメラ管理
設置台数 7台
設置場所 打田駅、粉河駅、名手駅、下井阪駅(2台)、貴志駅、甘露寺前駅

④行方不明者対応　4件

⑤県水上安全協会負担金
295,000円
水の事故防止を呼び掛けるため、竹房橋、諸井橋に横断幕の設置を行った。

⑥那賀地区防犯協議会負担金
414,000円
通学路パトロールや特殊詐欺被害防止、犯罪被害防止、薬物乱用防止、万引き防止のための街頭啓発活動や、小学校における防犯訓練などを実施

⑦生活安全・暴力追放推進協議会補助金
248,000円
啓発 1回、教室 1回

⑧電気用品安全法
立ち入り店舗　1店舗、該当品目取扱い無し

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・公共性が有り、市が率先する事業として妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・市民の防犯意識をさらに向上させる方法について検討する必要がある。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・監察監を通じて、県警察の特殊詐欺被害防止アドバイザーと連携を図り、詐欺防止の出前講座は効率的に実施出来ている。

事務事業の概要

事務事業名	合併２０周年記念式典等開催事業	担当課	総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度（R 6 ～ R 7）
				事業番号	1246

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	17 合併２０周年記念事業費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	合併20周年を記念した式典等を開催する事業				
事務事業を構成する細事業	① 大相撲紀の川場所実行委員会補助金	⑤		⑨	
	② 紀の川市合併20周年記念式典	⑥		⑩	
	③	⑦		⑪	
	④	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 大相撲紀の川場所実行委員会構成員数	人	目標		21	21			市関係者をはじめ、観光協会、商工会等、市と関わりの深い団体が構成員となった。
		実績		21	21			
＜指標の計算方法＞	大相撲紀の川場所実行委員会構成員数							
成果指標 紀の川市合併20周年記念式典参加者数（来賓・一般参加者）	人	目標						式典へ来場した来賓（国会議員、県議会議員、他市町長、他市町議会議長等）、市議会議員、行政委員、各種団体、自治区長等の合計
		実績			174			
＜指標の計算方法＞	式典へ来場した来賓、市議会議員、行政委員、各種団体、自治区長等の合計							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,856				1,000		1,856

事業の実績

①大相撲紀の川場所実行委員会補助金
1,371,817円
・合併20周年記念特別事業「大相撲紀の川場所」を紀の川市民体育館で4月1日に開催した。

②紀の川市合併20周年記念式典
・紀の川市合併20周年記念式典をホール田園で11月8日に開催した。
第Ⅰ部　記念式典
第Ⅱ部　書道パフォーマンス
（粉河中学校生徒7名・
貴志川中学校生徒10名）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・大相撲紀の川場所は、開催に関して実行委員会を立ち上げ、集客だけでなくマルシェの開催を通じて地域の活性化を図っており、市が関与する妥当性がある。
・合併20周年記念式典は、市の周年事業であり、市が主体となり実施することに妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・大相撲紀の川場所の開催は、20周年を盛り上げ、賑わいの創出、地域振興の取組として有効である。
・合併20周年記念式典の開催は、20周年の節目を祝い、未来へ更なる発展と成長をつなげていく機会として有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・大相撲紀の川場所の会場運営等に関する業務は、実行委員会が外部に委託しており、効率化が図られている。
・合併20周年記念式典は、業務のスケジュールに余裕を持つとともに、費用の抑制に努めた。

事務事業の概要

事務事業名	税務行政推進事業	担当課	税務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	510

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総務費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	2 徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	1 税務総務費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
			取組方針	9	その他

事業概要

市の円滑な税務行政を推進するために、関連団体への負担金支出やその運営に参画する事業

事務事業を構成する細事業

① 近畿都市税務協議会負担金	⑤ 橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金	⑨ 資産評価システム研究センター負担金
② 県租税教育推進連絡協議会負担金	⑥ 確定申告書発送経費負担金	⑩
③ 伊那税務協議会負担金	⑦ 年末調整関係書類封入発送経費負担金	⑪
④ 軽自動車税申告事務経費負担金	⑧ 地方税共同機構負担金	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 租税教室開催件数（粉河税務署管内）	回	目標	50	50	50	50	50	粉河税務署管内において実施している事業であり、社会科教育の一環として小中学校に対し租税教室の開催を要請し、税務署等が講師の派遣等を行っている。令和7年度は目標以上の数値を達成している。
		実績	48	54	55			
＜指標の計算方法＞	小中学校へ税務署・県・市の職員、税理士等が講師となり開催した教室の回数							
成果指標 税についての作文応募件数（粉河税務署管内）	件	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	税に関心を持ち、理解を深めるきっかけとして作文の募集を行っている。年度によって応募件数には増減があるが、参加する学校が1校増えたため増加となった。
		実績	1,511	1,787	2,023			
＜指標の計算方法＞	税の作文に応募があった件数（中学生の部・高校生の部の合計）							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
6,056						6,056

事業の実績

①近畿都市税務協議会負担金
適正な都市税務制度の確立とその運営に関する相互の円滑な連絡を図ることを目的として設立された団体への負担金（0円）
※協議会で令和6年度より不要となった。

②県租税教育推進連絡協議会負担金
粉河税務署の管轄区域内における児童・生徒及び一般社会人に対して、租税教育を推進することを目的として設立された団体への負担金（13,400円）

③伊那税務協議会負担金
粉河税務署の管轄区域内における税務行政の運営にあたり緊密な協力体制を確立し、併せてその連絡協調を図ることを目的として設立された団体への負担金（23,750円）

④軽自動車税申告事務経費負担金
軽自動車税の申告事務に要する経費について、市町村の登録台数に応じて負担
（971,000円）

⑤橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金
次代を担う児童・生徒を中心に租税教室の開催や税に関する作文の募集等を通じて、税の意義や役割の正しい理解を促進するために設立された団体への負担金
（10,372円）

⑥確定申告書発送経費負担金
確定申告書の発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担
（17,249円）

⑦年末調整関係書類封入発送経費負担金
年末調整関係書類の封入・発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担（65,751円）

⑧地方税共同機構負担金
地方公共団体の相互協力を基本理念として地方税の電子化を推進することにより、納税者の利便性の向上を図るとともに地方税務行政の高度化及び効率化に寄与することを目的として設立された団体への負担金
（4,859,108円）

⑨資産評価システム研究センター負担金
固定資産に係る課税及び評価に関する調査研究事業、地方公共団体における固定資産評価技術の向上のための研修事業等を中心とした事業を実施し、固定資産評価の均衡化、適正化を推進することを目的として設立された団体への負担金（90,000円）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・次の世代を担う子供たちに税の役割や使い道について考え、関心を深めてもらう機会づくりは、将来の納税意識の醸成に寄与するため、市が関連団体の活動に参画（負担金支出）することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・関連団体の調査研究成果を活用することで、市の課税業務の適正化や高度化につながっている。
・関連団体の活動により、地方税の電子化が推進されており、納税者の利便性向上につながっている。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・確定申告書や年末調整等の関連書類を共同で作成・発送することで事務経費の節減につながっている。

事務事業の概要

事務事業名	固定資産評価審査委員会運営事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	509

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	2 徴　税　費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	1 税務総務費		取組方針	9	その他

事業概要	固定資産の評価に不服がある者の評価が適正か否かを判断するため、固定資産評価審査委員会へ審査の申出がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	固定資産評価審査委員会運営	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 固定資産評価審査委員会運営研修会への参加	回	目標	1	1	1	1	1	令和7年度のオンライン研修については不参加
		実績	1	1	0			
＜指標の計算方法＞	研修会参加件数							
活動指標 審査の申出に係る固定資産評価審査委員会の開催	回	目標						審査請求に係る固定資産評価審査委員会の開催はなし。
		実績						
＜指標の計算方法＞	審査委員会開催件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
21						21

事業の実績

①固定資産評価審査委員会運営
・昨年と同じ内容であったため、オンライン研修については不参加

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地方自治法に基づき設置が義務付けられている委員会である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・固定資産評価審査委員会が中立的な立場から審査・裁決を行うことで、公平・適正な価格の決定を保証している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・固定資産評価審査委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。法律の定めにより事務を行うため、改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	賦課総務事業	担当課	税務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	520
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	2 徴　税　費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
予算科目 目	2 賦　課　費		取組方針	9	その他

事業概要	市が円滑に賦課業務をすすめられるように庶務業務の調整を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	賦課総務事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	専門研修派遣人数	人	目標	3	3	3	3	3	専門的知識の習得のため研修に参加し、実務遂行能力の向上に努めている。令和7年度は3名参加した。
			実績	1	2	3			
	＜指標の計算方法＞	全国市町村国際文化研修所における研修参加人数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
7,153					1,792	5,361

事業の実績

①賦課総務事業
・各税に共通する庶務業務の調整

・職員研修
全国市町村国際文化研修所（大津市）
参加3名。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地方税法に基づく課税事務を円滑に行うために必要となる事業であり、市が関与することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・専門職員研修等を通じて、担当職員の専門的知識の習得及び実務遂行能力の向上に繋がっている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・公的機関を活用することで、最小限の経費で研修に参加できている。
・賦課業務に必要な消耗品等を一括して購入するなど、効率的な経費の執行に努めている。

事務事業の概要

事務事業名	個人市県民税賦課事業	担当課	税務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	511

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総務費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	2 徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	2 賦課費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
			取組方針	9	その他

事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（市民）の申告に基づき、適正な課税を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	個人市県民税賦課	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 市県民税申告書送付件数	件	目標	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	令和6年度に市県民税申告書及び国保税用申告書を提出した市民に対して送付している。 人口減少と高齢化による公的年金受給者の増加に伴い申告が不要になった方が増加したことで減少傾向にあるものと考える。
		実績	5,125	4,896	4,804			
＜指標の計算方法＞	市県民税申告を促した数							
活動指標 申告会場における申告書受付件数	件	目標	3,300	3,300	3,300	3,000	3,300	電子申請の普及により、申告会場での受付件数は減少傾向にある。
		実績	2,885	2,845	2,810			
＜指標の計算方法＞	申告相談にて受け付けた数							
活動指標 給与支払総括表送付件数	件	目標	7,000	7,000	6,800	6,800	6,800	令和6年度に給与支払報告書の提出があった事業者に対して送付している。 ほぼ横ばいで推移している。
		実績	6,802	6,871	6,985			
＜指標の計算方法＞	特別徴収義務者に課税資料（給与支払報告書）の提出を促した数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
18,457					150	18,307

事業の実績

①個人市県民税賦課
・令和7年分所得税確定申告・市県民税申告事務の対応

税務課、収納対策課、国保年金課、支所職員及び税務経験職員による協力体制を確立し、2月5日から3月16日まで本庁及び各地域会場で申告相談事務を行った。

【受付件数】
打田会場 1,167件
粉河会場 213件
那賀会場 200件
桃山会場 315件
貴志川会場 892件
鞆渕会場 23件
総受付件数 2,810件

【従事職員数】 187人

・納税義務者数 29,744人
特別徴収納税義務者数（給与） 19,396人
特別徴収納税義務者数（年金） 5,993人
普通徴収納税義務者数 4,355人

・特別徴収義務者数（事業所） 5,536社

・納税通知書作成及び封入封緘業務（普通徴収） 11,397件

事業の事後評価

妥当性

評価結果 改善の余地がない

・自主財源確保のため地方税法に基づいて行う事務事業である。

有効性

評価結果 改善の余地がない

・国税連携による確定申告データ取り込み数を増やすため、税務署と連携して電子申告を推進している。
・公平な課税ができるよう所得の内容確認や扶養重複確認などを実施し、適正な課税に努めている。
・適正課税のもと、自主財源の比率向上に貢献している。

効率性

評価結果 改善の余地がややある

・当市では、住民からの申告受付における提出方法が手書き申請が大多数を占める中、令和7年の税制改革に伴い申告手続きが益々複雑化したため、申告受付が煩雑になることが予想された。しかし、申告受付方法をこれまでの手書き申請から、外部委託も含めた職員によるパソコン受付としたため、申請者の負担軽減と税務課から市職員への協力依頼数の低減を図ることができた。このことから今後も引き続き、業務効率の向上に取り組んでいく。

事務事業の概要

事務事業名	法人市民税賦課徴収事業	担当課	税務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	512

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	2 徴　税　費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
予算科目 目	2 賦　課　費		取組方針	9	その他

事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（法人）の申告に基づき、適正な課税や徴収を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	法人市民税賦課事業	⑤		⑨	
②	法人市民税徴収事業	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 申告依頼書送付件数	件	目標	1,300	1,300	1,400	1,400	1,500	各法人の決算時期に応じて適時に申告依頼書を送付し、申告納付を促している。他の官公庁等からの様々な情報を活用し、未登録法人の捕捉に努めており、微増傾向にある。
		実績	1,490	1,501	1,512			
＜指標の計算方法＞	対象法人に対し、申告を促した件数							
活動指標 未申告法人に対する申告依頼書送付件数	件	目標	20	20	20	20	20	未申告の法人に対し、申告期限の翌々月10日前後に申告案内を再送し、適正な申告納付を求めている。
		実績	23	18	23			
＜指標の計算方法＞	申告期限までに申告がない法人に対し、再度申告を促した件数							
活動指標 督促状送付件数	件	目標	40	40	40	40	40	申告後、納期限までに納付がない法人に対して、納期限の翌月に督促状を送付している。
		実績	33	51	52			
＜指標の計算方法＞	納期限までに納付がない法人に対し、納付を促した件数							
成果指標 法人税調定額	千円	目標						全体としての調定額は社会経済情勢に左右されることから、納税義務者は増加しているが、法人市民税は減少となった。
		実績	306,805	328,205	322,106			
＜指標の計算方法＞	現年課税分の調定額							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
14,831						14,831

事業の実績

①法人市民税賦課事業
・納税義務者数　1,155社

【内訳】
9号（50億円超・50人超）　9社
8号（10億円超50億円以下・50人超）　1社
7号（10億円超・50人以下）　43社
6号（1億円超10億円以下・50人超）　7社
5号（1億円超10億円以下・50人以下）　31社
4号（1千万円超1億円以下・50人超）　20社
3号（1千万円超1億円以下・50人以下）196社
2号（1千万円以下・50人超）　7社
1号（上記以外の法人）　841社

②法人市民税徴収事業

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・自主財源確保のため、地方税法に基づいて行う事務である。
・適正課税による自主財源の確保は、効率的な行財政運営を行うために必要な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・適正に課税事務を行うことで歳入確保につながり、自主財源比率の向上に貢献している。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・納税者の利便性向上と事務の効率化を図るため、電子申告を推進している。
・電子申告データの取込等により効率化できるが、精度の低い申告データも多く課題となっている。

事務事業の概要

事務事業名	固定資産税・都市計画税賦課事業	担当課	税務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	517

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総務費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	2 徴税費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
予算科目 目	2 賦課費		取組方針	9	その他

事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（土地・家屋・償却資産所有者）の固定資産所有状況を確認し、適正な課税を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	固定資産税・都市計画税（土地）賦課	⑤		⑨	
②	固定資産税・都市計画税（家屋）賦課	⑥		⑩	
③	固定資産税（償却資産）賦課	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 固定資産評価審査委員会への審査申出件数	件	目標	0	0	0	0	0	申出がなかったことから、市民からの信頼を得た適正課税が行えたことと言える。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞ 審査申出の件数								
活動指標 新増築家屋件数	件	目標						旧打田町地域では宅地開発が盛んに行われており、新増築件数が増加しているが、紀の川市全体では減少傾向にある。なお、令和7年中に評価した物件は令和8年度からの課税となる。
		実績	301	264	210			
＜指標の計算方法＞ 1月から12月中に新増築され、評価した件数（概要調書より）								
活動指標 滅失家屋件数	件	目標						建替えや老朽化により取壊された件数である。なお、令和7年中に取壊された物件の反映は令和8年度となる。
		実績	299	378	307			
＜指標の計算方法＞ 1月から12月中に滅失された件数（概要調書より）								
成果指標 固定資産税・都市計画税調定額	千円	目標						令和6年度は評価替えによる在来分家屋の減価により全体で減少となっていた。令和7年度については、新増築家屋分及び設備投資による償却資産の増により増加となっている。
		実績	3,438,766	3,412,433	3,586,232			
＜指標の計算方法＞ 現年課税分の調定額								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
92,535						92,535

事業の実績

①固定資産税・都市計画税（土地）賦課
・地番図更新（令和7年中異動分）
・令和8年度用標準宅地時点修正鑑定
（R7.7.1基準日）
・令和9年度評価替えに係る標準宅地見直し
・令和9年度評価替えに係る標準宅地鑑定
（R8.1.1基準日）
・納税義務者数（令和7年度）
（土地：免税点未満含む）
固定資産税：32,547人
都市計画税：24,330人

②固定資産税・都市計画税（家屋）賦課
・家屋図更新（令和7年中異動分）
・家屋評価件数（令和8年度課税に反映）
木　造：178 棟
非木造：32 棟
・納税義務者数（令和7年度）
（家屋：免税点未満含む）
固定資産税：26,327人
都市計画税：24,993人

③固定資産税（償却資産）賦課
・納税義務者数（令和7年度）
（償却：免税点未満含む）
固定資産税：1,382人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・自主財源確保のため地方税法に基づいて行う事務である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・適正な課税事務を行うことで歳入確保につながっている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・登記異動に係る課税への反映や、土地及び家屋評価システムの導入により事務の効率化に取り組んでいる。

事務事業の概要

事務事業名	軽自動車税賦課事業	担当課	税務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	18

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総務費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	2 徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	2 賦課費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
			取組方針	9	その他

事業概要：市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（軽自動車所有者）の軽自動車所有状況を確認し、適正な課税を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	軽自動車税賦課	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 小型特殊車両の登録啓発回数	回	目標	2	2	2	1	1	周知徹底のため6月号の市広報へ掲載を行っている。
		実績	2	2	1			
＜指標の計算方法＞ 広報紙等を通じて登録啓発を行った回数								
成果指標 小型特殊車両の登録台数	台	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,400	農耕作業用車両を中心に、小型特殊車両にも登録が必要であるという認識が浸透しつつある影響と思われる。
		実績	1,286	1,317	1,373			
＜指標の計算方法＞ 小型特殊車両登録台数（決算時）								
成果指標 課税台数	台	目標						人口の減少が原因と思われる。
		実績	40,978	40,968	40,898			
＜指標の計算方法＞ 課税台数（決算時）								
成果指標 軽自動車税調定額	千円	目標						主に軽四輪乗用（自家用）の増加によるものと思われる。
		実績	279,752	284,792	289,623			
＜指標の計算方法＞ 現年課税分の調定額								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,284						5,284

事業の実績

①軽自動車税賦課

・原動機付自転車等標識登録・廃車 1,846件

・陸運支局・軽自協での登録・廃車 9,802件

・登録台数 41,146台
【内訳】

特定原付	14台
原付 50cc以下	5,141台
原付 90cc以下	590台
原付125cc以下	1,141台
ミニカー	77台
軽二輪	1,005台
軽四輪乗用（営業用）	9台
軽四輪乗用（自家用）	19,941台
軽四輪貨物（営業用）	114台
軽四輪貨物（自家用）	10,710台
小型特殊（農耕用）	1,172台
小型特殊（その他）	201台
小型二輪	1,031台

・登録台数のうち非課税、免除台数 839台
【内訳】

非課税	219台
課税保留	29台
身体障害者減免（税条例90条）	477台
施設減免（税規則55条）	98台
構造減免（税条例90条）	16台

・納税通知書作成・封入封緘業務 35,922件

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・自主財源の確保のため地方税法に基づいて行う事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・適正な課税事務を行うことで歳入確保につながっている。
・小型特殊車両は、公道走行の有無に関わらず課税対象となることから、周知徹底のため広報に取り組んでいる。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・軽四輪と125ccを超える二輪については、軽自動車検査協会から送付されるデータの電子化により、迅速かつ確実な申告書情報の収受ができており、賦課誤りを軽減するとともに事務の効率化が図られている。

事務事業の概要

事務事業名	市税等収納事業	担当課	収納対策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	523

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	2 徴　税　費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成	
予算科目 目	3 徴　税　費	基本施策	3	健全な財政運営の確立	
		取組方針	2	歳入確保のための取組の推進	

事業概要：市が歳入を適正に確保するために、市税等の収納状況の管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	収納管理業務	⑤		⑨	
②	口座振替・コンビニ収納等業務	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 市税収納率	%	目標	97.5	97.6	97.7	97.8	97.9	納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、納税意識が高まり、収納率が向上したと考える。
		実績	97.7	97.7	98			
＜指標の計算方法＞	市税現年分、過年分を合算した収納率							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
42,592						42,592

事業の実績

①収納管理業務
・市税等の収納管理
・地方税共通納税システムの運用管理

②口座振替・コンビニ収納等業務
・口座振替利用件数及び利用率
利用件数 20,916件
利用率　25.69%（参考：R6 26.11%）
・コンビニ収納利用件数及び利用率
利用件数 59,839件
利用率　32.58%（参考：R6 31.64%）
・スマホ収納利用件数及び利用率
利用件数 13,001件
利用率　7.08%（参考：R6 6.39%）

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・自主財源の根幹となる市税を確保するために収納管理を的確に行う事業であり、事業の妥当性は高く、改善の余地はない。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・納付方法の多様化に対応し、納付環境は充実してきたが、今後も引き続き納付方法の周知や口座振替の推進を図る必要がある。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・外部委託できる業務は、現時点ではこれ以上ないため、改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	市税等滞納整理事業	担当課	収納対策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	521

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 項	2 徴　税　費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
予算科目 目	3 徴　税　費		取組方針	2	歳入確保のための取組の推進

事業概要	市民の税等の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、滞納者に滞納処分を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 督促・催告業務	⑤ 債権管理対策本部運営業務	⑨		
	② 財産調査業務	⑥ 納税意識向上対策業務	⑩		
	③ 滞納整理業務（市税分）	⑦ 納税猶予関連業務	⑪		
	④ 滞納整理業務（強制徴収公債権分）	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 市税収納率	%	目標	97.5	97.6	97.7	97.8	97.9	納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、納税意識が高まり、収納率が向上したと考える。
		実績	97.7	97.7	98			
＜指標の計算方法＞	市税現年分、過年分を合算した収納率							
成果指標 強制徴収公債権収納率	%	目標	30	30	30	30	30	保育料、公共下水道使用料、公共下水道受益者負担金、介護保険料、後期高齢者医療保険料、国民健康保険税の滞納繰越収納率
		実績	31.94	30.24	32.75			
＜指標の計算方法＞	強制徴収公債権過年分の収納率							
活動指標 滞納処分の執行停止処理件数	件	目標	40	40	50	50	60	地方税法第15条の7第1項他（3年執停及び即時消滅）
		実績	53	107	121			
＜指標の計算方法＞	滞納処分の執行停止（3年執行停止、即時消滅）の合計件数							
活動指標 強制徴収公債権滞納処分件数	件	目標	90	100	110	110	110	徴収困難案件の増加により、処分件数が減少したと考える。
		実績	153	148	134			
＜指標の計算方法＞	強制徴収公債権について滞納処分を行った件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,616					34	5,582

事業の実績

①督促・催告業務
・催告書発送件数
(6月:2,162通、12月:2,659通)
・督促状発送件数
13,099通

②財産調査業務
・預貯金等調査延べ件数:78,514件
・生命保険調査延べ件数:15,750件

③滞納整理業務（市税分）
・差押件数 647件
(内訳　単位: 件)
給与:19、年金:5、所得税還付金:9
生命保険等解約金:26、不動産:12、
無体財産権:10、
預貯金等:537、報酬:21、その他:8
換価額　33,466,109円
差押解除の効果額　3,433,023円
※効果額とは、差押することで完納となった額
・交付要求の配当件数 20件
・捜索件数 5件（差押:0件）
・滞納処分執行停止件数 121件
（内訳）即時:110件　3年:11件
・夜間納付相談窓口の開設
利用者 129人
納付額 2,102,008円
※上記の全ての額は、県民税を含む額

④滞納整理業務（強制徴収公債権分）
・滞納処分件数　134件
（内訳　単位：件）
介護:83、後期:49、下水:2
・差押債権数　126件
（内訳　単位：件）
生命保険等解約金:1、預貯金:124
その他:1
換価額　3,488,255円
差押解除の効果額　245,100円
・交付要求の配当件数　0件
・捜索件数　0件（差押:0件）
・滞納処分執行停止件数　1件
（内訳　単位：件）
即時:1、3年:0

⑤債権管理対策本部運営業務
・債権管理対策本部会議　　実施せず
・強制徴収公債権検討部会　実施せず
・債権管理研修会　実施せず
・各債権担当者打合せ　随時
・ヒアリング（4所管課）

⑥納税意識向上対策業務
・中学生及び高校生を対象とした税についての作文の優秀作品の掲示
・市長賞として中学生及び高校生各１名を表彰

⑦納税猶予関連業務
・徴収の猶予
許可件数　1件　猶予額　957,600円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市税及び強制徴収公債権の負担の公平性を確保するとともに、自主財源の確保を図るための事業であり、改善の余地はない。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・健全な財政運営の確立及び税負担の公平性の確保の観点から、本事業の有効性は高い。
・成果向上のため、基本業務を徹底して行い、滞納処分の執行停止についても適切に対応する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・遠方の滞納者に対し、債権回収の専門業者に現地訪問調査を委託し、居住の実態や生活状況等の確認を行った。応接可能な滞納者については、納税を促し、自主納付につながる成果もあり、効率性は向上した。

事務事業の概要

事務事業名	和歌山地方税回収機構連携事業	担当課	収納対策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	19

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	2 徴　税　費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	3 徴　税　費		基本施策	3	健全な財政運営の確立
			取組方針	2	歳入確保のための取組の推進

事業概要	市民の税の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、和歌山地方税回収機構の運営へ参画する事業

事務事業を構成する細事業					
①	和歌山地方税回収機構負担金	⑤		⑨	
②	移管業務	⑥		⑩	
③	合同公売業務(不動産等)	⑦		⑪	
④	和歌山地方税回収機構運営会議	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	市税収納率	%	目標	97.5	97.6	97.7	97.8	97.9	納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、納税意識が高まり、収納率が向上したと考える。
			実績	97.7	97.7	98			
	＜指標の計算方法＞	市税現年分、過年分を合算した収納率							
成果指標	回収機構徴収金額（本税）	千円	目標	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	令和6年度を上回る徴収実績を達成できたのは、移管者選考を十分に行ったことが要因と考える。
			実績	12,622	12,447	13,690			
	＜指標の計算方法＞	回収機構移管分の徴収実績（本税）							
活動指標	滞納者移管数	人	目標	45	45	45	45	45	予定人数を移管した。
			実績	45	45	45			
	＜指標の計算方法＞	市より回収機構へ移管した滞納者の人数							
活動指標	実務研修(派遣)人数	人	目標	1	1	1	1	1	令和7年度は短期派遣を行わなかった。令和8年度については、状況により判断する。
			実績	1	1	0			
	＜指標の計算方法＞	回収機構へ実務研修に派遣した職員数(短期派遣含む)							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,831						5,831

事業の実績

①和歌山地方税回収機構負担金
・移管人数　45人
・徴収実績　17,649,858円
（内訳）
市県民税　：5,336,435円
固定資産税　：1,555,948円
軽自動車税　：　416,614円
（参考　国民健康保険税：6,380,658円）
〈小計〉　13,689,655円
督促手数料　：　11,431円
（うち国保　5,714円）
延滞金　：3,948,772円
（うち国保　：2,431,681円）
《合計》　17,649,858円

②移管業務
・移管催告の発送　162件
・45件（人）の移管データを作成

③合同公売業務(不動産等)
・不動産公売　2回　2件
令和7年5月27日（火）　1件
令和7年11月18日（火）　1件
入札なし

④和歌山地方税回収機構運営会議
・第1回運営会議（R7.4.30）、書面開催
令和6年度活動報告、令和7年度予算概要、活動方針ほか
・第2回運営会議（R8.2.9）
令和8年度移管提示件数、令和7年度活動状況ほか

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・困難な滞納案件を解消することで市税負担の公平性が確保でき、市の自主財源の確保を図るためにも本事業の実施には妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・地方税回収機構への移管催告及び移管が、新規滞納者への抑止力となっている。
・地方税回収機構が主となり不動産公売を実施することで、市は広報や会場手配の負担がなく、容易に参加できる。また、定期的に実施されるため、市としても公売の計画が立てやすい。
・幅広い調査や捜索等、調査・処分が困難な遠方の滞納者について、移管することにより市の負担が少なく滞納処分することができる。
・派遣された職員が滞納整理を実務研修できる場となっている。また、市が抱える困難案件について相談することができる。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・負担金は発生するが、徴収実績や移管催告の効果など、効率性の面でも必要不可欠な事業である。
・これまで地方税回収機構に長期・短期で派遣された職員が多数在籍しており、滞納処分のノウハウを実践できることにより、効率性は向上する。
・徴収できる可能性の高い案件を厳選して移管することにより、コストに対する効率性は向上する。

事務事業の概要

事務事業名	住民基本台帳事業	担当課	市民課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	439

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	3 戸籍住民基本台帳費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成	
予算科目 目	1 戸籍住民基本台帳費	基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進	
		取組方針	9	その他	

事業概要	市民（異動者）が住民異動に関する諸手続きなどが円滑に行えるように、住民基本台帳を適正に登録をして、証明書等の発行を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	住民基本台帳管理	⑤	マイナンバーカード	⑨	
②	証明書発行・閲覧	⑥		⑩	
③	特別永住者・中長期在留者管理	⑦		⑪	
④	住民基本台帳ネットワークシステム管理	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 住民票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付件数は減少傾向にある。
		実績	25,449	24,485	23,704			
＜指標の計算方法＞	住民票の写しの交付件数（公用を含む）							
活動指標 戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付件数は令和6年度に比べ減少傾向にある。
		実績	3,972	4,049	3,546			
＜指標の計算方法＞	戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）							
活動指標 マイナンバーカード保有枚数	枚	目標						健康保険証やコンビニでの証明書取得の際に利用されていることから年々増加している。
		実績	47,245	48,760	49,436			
＜指標の計算方法＞	マイナンバーカードの保有状況（総務省）							
成果指標 マイナンバーカード保有枚数率	%	目標						全国のマイナンバーカード保有枚数率（82.1%）を上回っている。
		実績	78.8	81.8	83.9			
＜指標の計算方法＞	マイナンバーカードの保有状況（総務省）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
63,685	42,309				3,386	17,990

事業の実績

①住民基本台帳管理
住民異動　転入者数（県外805人・県内775人）1,580人
転出者数（県外837人・県内760人）1,597人
出生者数　279人
死亡者数　849人
転居件数　594件
世帯変更等　3,527件

②証明書発行・閲覧
住民票の写し等の交付
窓口　9,926件
郵送　1,572件
公用　1,373件
ｺﾝﾋﾞﾆ　8,951件
ﾏﾙﾁｺﾋﾟｰ機　1,877件
ｵﾝﾗｲﾝ申請　5件
戸籍附票の写しの交付
窓口　705件
郵送　672件
公用　1,944件
ｺﾝﾋﾞﾆ　162件
ﾏﾙﾁｺﾋﾟｰ機　58件
ｵﾝﾗｲﾝ申請　5件
住民基本台帳閲覧　108件
公用　329件

③特別永住者・中長期在留者管理
令和8年3月31日 現在
日本人住民　男 27,256人　女 30,062人
計 57,318人（26,812世帯）
外国人住民　男 382人　女 357人
計 739人（556世帯）

④住民基本台帳ネットワークシステム管理
住基ネットシステム保守委託料
2,992,000円
住基ネットシステム機器保守委託料
392,898円
住基ネット共同利用サービス利用料
2,508,000円

⑤マイナンバーカード
交付数　7,655枚
休日ｻｰﾋﾞｽ12回（毎月第4日曜日）228件
夜間ｻｰﾋﾞｽ12回（毎月第2木曜日）　59件
マイナンバーカード交付事務支援委託料
29,040,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・住民基本台帳法、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等に定める事務である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・コンビニでの証明発行サービスやオンライン申請システム、休日・夜間サービスの実施等市民サービスの向上につなげている。
・令和6年1月から開始した「書かない窓口システム」については、庁内関係課が連携しているところであるが、さらに市民の利便性を高めるための取組を進める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・書かない窓口システムの効果や運用方法を、関係課で検証し発展させていく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	印鑑登録事業	担当課	市民課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	440

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	3 戸籍住民基本台帳費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	1 戸籍住民基本台帳費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要：市民が目的に応じて証明書を利用できるように、印鑑の登録・管理を行い、証明書の発行を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	印鑑登録管理	⑤		⑨	
②	印鑑証明発行	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 印鑑登録証明書交付件数（公用を含む）	件	目標						印鑑登録証明書交付件数は減少傾向にある。
		実績	15,161	15,023	14,400			
＜指標の計算方法＞	印鑑登録証明書交付件数（公用を含む）							
活動指標 印鑑登録証無料交換件数	件	目標						劣化の激しい印鑑登録証の交換は順調に進んでいる。
		実績	594	423	228			
＜指標の計算方法＞	印鑑登録切替申請件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
9					9	

事業の実績

①印鑑登録管理
令和8年3月31日現在　40,329人

②印鑑証明発行
窓口　6,753件
公用　93件
コンビニ　6,141件
ﾏﾙﾁｺﾋﾟｰ機　1,413件

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・紀の川市印鑑条例に基づき、印鑑登録証明書を必要とする市民のために、市が行わなければならない事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・あらかじめの予約により、日曜日に証明書を交付している。
・コンビニでの証明書発行サービスやマルチコピー機の導入により、市民サービスの利便性の向上につながっている。
・印鑑登録証明書交付時におけるマイナンバーカード提示による本人申請が可能になったことや、令和6年1月から書かない窓口のシステムを導入したことにより、市民の負担軽減及び利便性の向上につながっている。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・窓口での印鑑登録証明書の交付や申請手続きにおいて、書かない窓口の運用により事業の効率性がさらに高まっている。

事務事業の概要

事務事業名	戸籍事業	担当課	市民課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	441

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	3 戸籍住民基本台帳費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
予算科目 目	1 戸籍住民基本台帳費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	本籍人及びその親族・利害関係人が諸手続きなどを円滑に行えるように、本籍人の戸籍を適正に登録をして、証明書の発行を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 戸籍管理	⑤ 戸籍システム管理	⑨		
	② 戸籍謄・抄本等発行	⑥ 県連合戸籍事務協議会負担金	⑩		
	③ 埋火葬許可証発行	⑦ 和歌山戸籍事務協議会負担金	⑪		
	④ 人口動態事務	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）	件	目標						交付件数は減少傾向にある。
		実績	27,151	25,976	23,631			
＜指標の計算方法＞	戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）							
活動指標 埋火葬許可証の交付件数	件	目標						年度によって増減はあるものの、長期的に見ると横ばいである。
		実績	828	911	834			
＜指標の計算方法＞	埋火葬許可証の交付件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
49,546	9,475	57			21,276	18,738

事業の実績

①戸籍管理
戸籍届出処理件数
出生　462件（内送付　187件）
婚姻　654件（内送付　488件）
離婚　161件（内送付　75件）
死亡　1,154件（内送付　309件）
他　544件（内送付　213件）
計　2,975件（内送付 1,272件）
新戸籍編製　360戸籍
戸籍全部消除　588戸籍
令和8年3月31日 現在
本籍数　30,091戸籍
本籍人口　69,911人

②戸籍謄・抄本等発行
戸籍証明書等交付　窓口　11,146件
郵送　3,005件
公用　6,695件
ｺﾝﾋﾞﾆ　1,872件
ｵﾝﾗｲﾝ申請　47件
ﾏﾙﾁｺﾋﾟｰ機　866件

③埋火葬許可証発行　834件

④人口動態事務　令和7年度分　1,355件

⑤戸籍システム管理
戸籍システムの維持管理
戸籍総合システムクラウド利用料
4～9月分　3,818,100円
10～3月分　4,055,700円
法改正に伴うシステム開発委託料
814,000円
戸籍・戸籍附票標準化移行業務
8,998,000円
戸籍総合システム機器等更改業務
14,051,576円
戸籍附票システム中継サーバの維持管理
（紀の川市・岩出市の共同利用）
※岩出市負担分を共同利用負担金として
3,332,257円受入
戸籍附票システム中継サーバ保守業務委託料　477,840円
戸籍附票システム中継サーバ設置に係る施設借上料　2,376,000円
戸籍附票APサーバ機器更改費用
4,245,131円
戸籍事務遠隔入力支援サービス入力業務委託料　929,192円

⑥県連合戸籍事務協議会負担金　21,824円
全国で各都道府県ごとに組織している協議会であり、戸籍事務等の意見交換、法令の研究、事務取扱の統一改善を図る。

⑦和歌山戸籍事務協議会負担金　15,957円
和歌山地方法務局本局が管轄する市町の職員を会員とし戸籍等の事務統一を図る。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・戸籍事務は、戸籍法、墓地・埋葬法等に定められた、人の出生から死亡に至るまでの親族関係を登録公証するもので、日本国民について編製され日本国籍を公証する唯一の制度であり、全国統一的に戸籍法に則って行われる事務である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・コンビニでの証明書発行サービスやオンライン申請システム、マルチコピー機での証明書交付により、市民サービスの利便性の向上につながっている。
・戸籍記載チェック体制を充実させるべく、戸籍についての知識や経験等のある人材の充実が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・窓口での戸籍証明書の交付や申請手続きにおいて、市民の利便性の向上と事務の効率化を図るため、令和6年1月から書かない窓口のシステムを導入した。今後このシステムの効果や運用方法を庁内関係各課で検証し、発展させていく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	市民窓口事業	担当課	市民課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	443

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	2	総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
	項	3	戸籍住民基本台帳費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
	目	1	戸籍住民基本台帳費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
					取組方針	4	市民窓口サービスの充実

事業概要：市民が持つ様々な問題の解決につなげてもらうために、各種相談、相談案内を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	弁護士相談	⑤		⑨	
②	行政相談	⑥		⑩	
③	住民相談	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 弁護士相談開催回数	回	目標	12	12	12	12	12	年間計画に基づく実施回数は目標どおり達成した。
		実績	12	12	12			
＜指標の計算方法＞	月1回開催している無料法律相談の回数							
成果指標 弁護士相談件数	人	目標	84	84	84	84	84	予約時は毎回定員に達しているが、当日キャンセルがあったため目標を達成することができなかった。
		実績	81	76	77			
＜指標の計算方法＞	無料法律相談の相談者数							
活動指標 弁護士相談開催広報回数	回	目標	12	12	12	12	12	弁護士相談に関する広報については、広報紙への掲載により年間計画どおりの情報発信ができ目標どおり達成した。
		実績	12	12	12			
＜指標の計算方法＞	広報紙への掲載回数							
活動指標 行政相談開催広報回数	回	目標	12	12	12	12	12	行政相談に関する広報については、広報紙への掲載により年間計画どおりの情報発信ができ目標どおり達成した。
		実績	12	12	12			
＜指標の計算方法＞	広報紙への掲載回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
554						554

事業の実績

①弁護士相談
　年12回開催　相談件数　77件

②行政相談
　総務大臣に委嘱された行政相談委員による相談業務
　年12回開催　相談件数　12件

③住民相談
　相談件数　11件
　（市民課で相談を受けた分のみ）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・市民が持つ様々な問題解決につなげてもらうため、市が主体となって行う必要がある。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・無料弁護士相談は市の顧問弁護士に委託し、毎回定員に達している。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・無料弁護士相談の市顧問弁護士への委託料は、他市町村と比較して同額程度である。
・行政相談は、総務大臣から委嘱を受けた行政相談委員が対応しているが、市の費用負担はない。
・住民相談は、市職員が対応しているため、直接的な費用負担はない。

事務事業の概要

事務事業名	コンビニ証明書交付事業	担当課	市民課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1029

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費	政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目 項	3 戸籍住民基本台帳費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成	
予算科目 目	1 戸籍住民基本台帳費	基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進	
		取組方針	4	市民窓口サービスの充実	

事業概要	市民、本籍人が目的に応じた証明書を市役所外で取得できるように、住民票写し、印鑑証明書、戸籍証明書、及び所得（非）課税証明書などをコンビニで交付するシステムの維持管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	J-LIS負担金	⑤		⑨	
②	システム管理	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 システム稼動日数	日	目標	360	358	359	359	359	メンテナンス等によるシステムの停止や、年末年始の長期休暇の影響があったため、目標を達成できなかった。
		実績	358	357	345			
＜指標の計算方法＞	メンテナンス日と年末年始（12/27～1/4）を除く毎日							
成果指標 コンビニ証明書交付件数	件	目標						マイナンバーカードの普及と証明書発行手数料を10円にしたことにより、コンビニ証明書交付件数は著しく増加した。
		実績	8,914	10,209	23,305			
＜指標の計算方法＞	住民票・戸籍附票の写し、印鑑登録証明書、戸籍謄抄本、所得（非）課税証明書のコンビニ証明書交付件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
11,015					1,827	9,188

事業の実績

①J-LIS負担金
J-LIS証明書交付センターへ団体規模に応じて運営負担金を支払う。
2,728,000円（市人口5万以上～15万未満）

②システム管理
コンビニ交付に関係するシステム会社に利用料及び保守料等を支払う。
・コンビニ交付クラウドサービス利用料
4,263,600円
・コンビニ交付システム保守委託料
924,000円
・コンビニ交付手数料
2,726,765円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・証明書のコンビニ交付サービスは、市民・本籍人の証明書取得の利便性向上のための行政サービスであり、市しか実施できない。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・時間や場所にとらわれず証明書を取得できる点において、住民の利便性向上に有効に機能している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・国民の82.1%が取得しているマイナンバーカードを利用したサービスに対する維持管理費用であり、これ以上の負担軽減は困難である。

事務事業の概要

事務事業名	選挙管理委員会運営事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	525

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 総　務　費		政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	4 選　挙　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	1 選挙管理委員会費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
			取組方針	9	その他

事業概要	選挙権を有する者の意思を正しく政治・行政に反映するために、選挙管理委員会が適正な選挙の管理・執行を行う事業				
事務事業を構成する細事業	① 選挙管理委員会運営	⑤		⑨	
	② 全国市区選挙管理委員会負担金	⑥		⑩	
	③ 近畿都市選挙管理委員会連合会負担金	⑦		⑪	
	④ 県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	選挙執行回数	回	目標	2	1	3	1	2	県知事選挙、参議院議員通常選挙、市議会議員一般選挙、市長選挙及び衆議院議員総選挙を執行した。
			実績	2	2	5			
	＜指標の計算方法＞	選挙が執行された回数（無投票を含む）							
活動指標	選挙管理委員会開催回数	回	目標	5	5	10	5	5	定時登録及び選挙時登録に係る委員会に加え、市議会議員一般選挙における異議申出があったため、例年より多く委員会を開催した。
			実績	5	11	17			
	＜指標の計算方法＞	定時登録、選挙時登録等の委員会を開催した回数							
成果指標	選挙管理執行上のミス	回	目標	0	0	0	0	0	なし
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	管理執行上の問題となったミスの件数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,374		1				1,373

事業の実績

①選挙管理委員会運営
・選挙管理委員会の開催　17回
・2/2　和歌山県選挙管理委員会大会(衆議院解散のため中止)
②全国市区選挙管理委員会負担金
・参加なし
③近畿都市選挙管理委員会連合会負担金
・5/9　総会
　京都府福知山市で開催(県知事選挙執行のため欠席)
・12/24　事務研究会
　和歌山県新宮市で開催(市議会議員選挙事務のため欠席)
④県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金
・理事会及び総会(県知事選挙執行のため書面決議)
・10/31　県都市選挙管理委員会連絡協議会事務局長会議(全国公平委員会連合会と同日のため欠席)

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・公職選挙法に定められた事務的事業であり妥当である。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・適正に管理執行されており、現状を維持することが有効である。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・選挙管理委員会委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。	

事務事業の概要

事務事業名	参議院議員通常選挙事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ
				事業番号	866

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	4 選　挙　費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	2 参議院議員通常選挙費		取組方針	9	その他

事業概要：参議院議員通常選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	参議院議員通常選挙運営	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 投票率（選挙区選出議員選挙）	%	目標			50.93			前回の選挙（令和4年7月10日執行）の投票率50.93%から上昇している。
		実績			57.36			
＜指標の計算方法＞	当日有権者数に対する投票者数の割合							
成果指標 投票率（比例代表選出議員選挙）	%	目標			50.93			前回の選挙（令和4年7月10日執行）の投票率50.93%から上昇している。
		実績			57.35			
＜指標の計算方法＞	当日有権者数に対する投票者数の割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
39,569		38,600				969

事業の実績

①参議院議員通常選挙運営
・参議院議員通常選挙（令和7年7月20日執行）
有権者数：50,414人
投票者数（和歌山県選挙区選出議員選挙）
28,915人（57.36%）
投票者数（比例代表選出議員選挙）
28,913人（57.35%）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・公職選挙法に基づき選挙の管理執行を行っており妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・法に基づき執行する事業であり、廃止や休止はできない。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・開票事務では読取分類機等を導入し、人員の削減と時間の短縮を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	市長選挙事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ	事業番号	1250
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	4 選　挙　費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	3 市長選挙費		取組方針	9	その他
事業概要	市長選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	市長選挙運営	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 投票率	%	目標			55.16			立候補者が１名であったため、無投票になった。
		実績						
＜指標の計算方法＞	当日有権者数に対する投票者数の割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
6,274						6,274

事業の実績

①市長選挙運営
・市長選挙(令和8年2月1日執行)
立候補受付の結果、無投票

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・公職選挙法に基づき選挙の管理執行を行っており妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・法に基づき執行する事業であり、廃止や休止はできない。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・投開票事務の経費削減に取り組んでいる。

事務事業の概要

事務事業名	市議会議員一般選挙事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ	事業番号	1249

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	4 選　挙　費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	4 市議会議員選挙費		取組方針	9	その他

事業概要：市議会議員一般選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	市会議員一般選挙運営	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 投票率	%	目標			58.84			前回の選挙（令和3年12月5日執行）の投票率58.84%から低下している。
		実績			52.32			
＜指標の計算方法＞	当日有権者数に対する投票者数の割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
56,501						56,501

事業の実績

①市議会議員一般選挙運営
・市議会議員一般選挙（令和7年11月16日執行）
有権者数：49,794人
投票者数：26,053人（52.32%）

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・公職選挙法に基づき選挙の管理執行を行っており妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・法に基づき執行する事業であり、廃止や休止はできない。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・開票事務では読取分類機等を導入し、人員の削減と時間の短縮を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	龍王財産区議会議員一般選挙事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ
				事業番号	902

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	4 選　挙　費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	5 龍王財産区議会議員一般選挙費		取組方針	9	その他

事業概要	龍王財産区議会議員一般選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	龍王財産区議会議員一般選挙運営	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 投票率	%	目標				60		
		実績						
＜指標の計算方法＞	当日有権者数に対する投票者数の割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
137				137		

事業の実績

①龍王財産区議会議員一般選挙運営
・龍王財産区議会議員一般選挙（令和8年4月19日執行）
選挙執行準備：立候補予定者説明会を実施

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・公職選挙法に基づき選挙の管理執行を行っており妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・法に基づき執行する事業であり、廃止や休止はできない。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・有投票になることも想定し、経費の節減に努めている。

事務事業の概要

事務事業名	県知事選挙事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ
				事業番号	901

会計			一般会計
予算科目	款	2	総　務　費
	項	4	選　挙　費
	目	6	県知事選挙費

長期総合計画体系			
	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
	施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
	基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊
	取組方針	0	＊＊＊＊＊＊＊＊＊

事業概要	県知事選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	県知事選挙運営	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 投票率	%	目標			40.87			前回の選挙（令和4年11月27日執行）の投票率40.87%から低下している。
		実績			39.7			
＜指標の計算方法＞	当日有権者数に対する投票者数の割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳				
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
33,959		33,338				621

事業の実績

①県知事選挙運営
・県知事選挙（令和7年6月1日執行）
有権者数：49,823人
投票者数：19,779人（39.70%）

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・公職選挙法に基づき選挙の管理執行を行っており妥当である。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・法に基づき執行する事業であり、廃止や休止はできない。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・開票事務では読取分類機等を導入し、人員の削減と時間の短縮を図っている。	

事務事業の概要

事務事業名	衆議院議員総選挙事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ
				事業番号	865

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	4 選　挙　費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	7 衆議院議員総選挙費		取組方針	9	その他

事業概要	衆議院議員総選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	衆議院議員総選挙運営	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 投票率（小選挙区選出議員選挙）	%	目標		58.93	55.04			前回の選挙（令和6年10月27日執行）の投票率55.04%から上昇している。
		実績		55.04	55.79			
＜指標の計算方法＞	当日有権者数に対する投票者数の割合							
成果指標 投票率（比例代表選出議員選挙）	%	目標		58.93	55.04			前回の選挙（令和6年10月27日執行）の投票率55.04%から上昇している。
		実績		55.04	55.79			
＜指標の計算方法＞	当日有権者数に対する投票者数の割合							
成果指標 投票率（最高裁判所裁判官国民審査）	%	目標		58.87	54.96			前回の審査（令和6年10月27日執行）の投票率54.96%から低下している。
		実績		54.96	54.08			
＜指標の計算方法＞	当日有権者数に対する投票者数の割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
34,119		34,119				

事業の実績

①衆議院議員総選挙運営
・衆議院議員総選挙（令和8年2月8日執行）
有権者数：50,033 人
投票者数（小選挙区選出議員選挙）
27,911人（55.79%）
投票者数（比例代表選出議員選挙）
27,913人（55.79%）
投票者数（最高裁判所裁判官国民審査）
27,060人（54.08%）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・公職選挙法に基づき選挙の管理執行を行っており妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・法に基づき執行する事業であり、廃止や休止はできない。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・開票事務では読取分類機等を導入し、人員の削減と時間の短縮を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	統計行政推進事業	担当課	総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	528

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	2	総　務　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
	項	5	統計調査費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成
	目	1	統計調査総務費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進
					取組方針	9	その他

事業概要	市の統計行政の推進を図るために、関連団体の活動へ参画する事業

事務事業を構成する細事業						
①	近畿都市統計協議会負担金	⑤		⑨		
②	県市長会統計部会負担金	⑥		⑩		
③		⑦		⑪		
④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 近畿都市統計協議会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	1	開催されなかったため参加なし
		実績	1	1	0			
＜指標の計算方法＞	近畿都市統計協議会講習会への参加回数							
活動指標 県市長会統計部会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	1	オンライン研修に参加
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	県市長会統計部会講習会への参加回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績

①近畿都市統計協議会負担金
　総会　：書面開催（R7.5.22）
　講習会：国勢調査実施年で多忙のため中止
　※議案の承認に伴い令和7年度負担金なし

②県市長会統計部会負担金
　理事会：書面開催（R7.4.28・R8.3.16）
　講習会：オンライン研修（R8.3.18）
　※議案の承認に伴い令和7年度負担金なし

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・統計資料を通して、各行政施策の基礎資料とするため、各関連団体に参画することは妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・各行政施策の基礎資料として、各関連団体が取りまとめる資料を提供している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・関連団体の総会が書面で開催されたことにより、送付資料等で負担金の運用状況を確認している。

事務事業の概要

事務事業名	基幹統計調査事業	担当課	総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	26

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	2	総　務　費		政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
	項	5	統計調査費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
	目	2	基幹統計調査費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
					取組方針	9	その他

事業概要	市、統計情報を必要とする者が統計情報を活用できるように、各種基幹統計の調査を行う事業

事務事業を構成する細事業						
①	学校基本調査	⑤		⑨		
②	令和７年国勢調査	⑥		⑩		
③		⑦		⑪		
④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 統計調査実施中の事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	説明会で、事故等の注意喚起を行い、事故なく調査を完了することができた。
		実績	1	0	0			
＜指標の計算方法＞ 統計調査実施中に問題となった事故件数								
成果指標 基幹統計実施件数	件	目標						基幹統計【学校基本調査・令和7年国勢調査】について、国・県の指定するスケジュールどおりに調査を完了することができた。
		実績	2	3	2			
＜指標の計算方法＞ 基幹統計を実施した件数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
28,735		28,710				25

事業の実績

①学校基本調査
（令和7年5月1日調査基準日）
調査対象：小学校17、中学校7
幼稚園等5

②令和7年国勢調査
（令和7年10月1日調査基準日）
調査対象：市内に居住するすべての人(外国人を含む）及び世帯

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・統計法に基づき、継続して実施する必要がある事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・各統計調査において得た情報は、国の各種施策の立案等の重要な資料となる。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・各種統計調査の実施時に、回答者の負担軽減及び調査員・事務担当者の業務量削減を目的とし、インターネットの回答率を高めるよう、引き続き、調査員等と協力していくことが必要である。
・各年度により統計調査の内容や規模が異なるため、回答率の推移を一連の指標として出すことは困難である。

事務事業の概要

事務事業名	監査事業	担当課	総合行政委員会事務局	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	27

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	2 総　務　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	6 監査委員費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	1 監査委員費		取組方針	9	その他

事業概要	市が適正に予算・事務の執行を図るために、監査委員が出納検査や監査を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	監査事務	⑤		⑨	
②	全国都市監査委員会負担金	⑥		⑩	
③	近畿地区都市監査委員会負担金	⑦		⑪	
④	県下都市監査委員会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 例月出納検査回数	回	目標	12	12	12	12	12	月1回例月出納検査を実施している。
		実績	12	12	12			
＜指標の計算方法＞ 例月出納検査実施回数								
活動指標 定期監査回数	回	目標	5	5	5	5	5	各課に対する定期監査を実施している。
		実績	5	5	5			
＜指標の計算方法＞ 定期監査実施回数								
活動指標 監査結果報告書等の発行回数	回	目標	20	20	20	20	20	各監査等（例月出納検査12回、決算審査1回、定期監査5回、財政援助団体等監査1回、工事監査1回）を実施した結果の報告等を行っている。
		実績	20	20	20			
＜指標の計算方法＞ 各監査・審査・検査等の報告書等発行回数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,612						2,612

事業の実績

①監査事務
・例月出納検査　12回
・令和6年度決算審査・健全化判断比率審査　1回
・定期監査（財務審査）5回
・財政援助団体等監査　1回
・工事監査　1回
・1/22～1/23：北陸・東海・近畿三地区共催都市監査事務研修会（欠席）
②全国都市監査委員会負担金
・8/28～8/29　総会及び研修会
　長崎県長崎市で開催（欠席）
③近畿地区都市監査委員会負担金
・5/23　総会及び研修会
　兵庫県洲本市で開催(欠席)
④県下都市監査委員会負担金
・定例会（書面決議）
・11/5　事務局長会議及び研修会
　新宮市で開催(事務局長参加)

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

地方自治法等により、監査委員が実施するよう定められている事務である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

適正な財務処理に寄与している。

効率性

評価結果：改善の余地がない

監査委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。

事務事業の概要

事務事業名	地域福祉推進事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	587

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民生費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	1 社会福祉総務費		基本施策	1	地域福祉の推進
			取組方針	2	地域におけるつながりの構築・強化

事業概要	市民が地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会を築いてもらうために、社会福祉協議会等の地域福祉を推進する主体に対する運営支援や地域福祉計画に基づく普及・啓発活動を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 第3次紀の川市地域福祉計画の推進	⑤ 社会福祉協議会補助金	⑨		
	② 社会福祉法人監査	⑥ 市民団体活動支援事業補助金	⑩		
	③ 近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会負担金	⑦ ボランティア連絡協議会補助金	⑪		
	④ 県都市福祉事務所長連絡協議会負担金	⑧ 赤十字奉仕団補助金	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 社会福祉協議会における住民相談件数	件	目標	150	150	150	150	150	毎週火曜日、心配ごと相談を開設し、弁護士相談を月1回開催している。例年どおり防災行政無線・広報紙・メール配信サービスにより周知を行った。内訳では、令和6年度と比べて弁護士相談の件数が増加した。
		実績	120	117	124			
＜指標の計算方法＞ 年間延べ件数（心配ごと相談・弁護士相談）								
成果指標 ボランティア団体活動回数	回	目標	110	180	180	190	190	地域活動や研修回数の増加により、令和6年度より回数が増加した。
		実績	175	180	188			
＜指標の計算方法＞ 市・各支部の年間活動回数								
成果指標 赤十字奉仕団活動回数	回	目標	50	70	70	70	70	地域活動や研修を実施したが、令和7年度は献血事業の回数が減少した。
		実績	69	64	61			
＜指標の計算方法＞ 市・各地区赤十字奉仕団の年間活動回数								
	回	目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
173,509						173,509

事業の実績

①第3次紀の川市地域福祉計画の推進
「みんなが安心して暮らせる　きのかわ～みんなではぐくむ地域のつながり～」を基本理念として令和5年3月に策定された計画に基づき、それぞれの施策に取り組む。

②社会福祉法人監査
紀の川市が所管する社会福祉法人を対象に指導監査を実施する。
実施件数　2件

③近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会負担金
近畿の市福祉事務所の協議会であり、福祉に関する国への要望事項を集約し、検討課題についての研修を行う。
総会　1回
研修会　1回

④県都市福祉事務所長連絡協議会負担金
県内の市福祉事務所の協議会であり、福祉に関する国への要望事項を集約し、課題の検討を行う。
総会　1回
研修会　1回

⑤社会福祉協議会補助金
運営費及び事業費（住民相談、福祉サービスの提供、ボランティアの支援・育成など）に対する補助を行い地域における福祉の向上を図る。
138,538,364円

⑥市民団体活動支援事業補助金
社会福祉協議会による福祉団体支援を目的とするために補助を行う。
33,419,218円

⑦ボランティア連絡協議会補助金
市内ボランティア団体のつながりを強めるとともに、地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会の構築のための活動に対し補助を行う。
621,000円
会員数　668名（令和7年度末）

⑧赤十字奉仕団補助金
日本赤十字奉仕団規則の定めるところに基づき、すべての人々の幸せを願い、明るい住みよい社会を築き上げていくための活動に対し、各赤十字奉仕団に補助を行う。
279,000円
団員数　1,206名（令和7年度末）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・第３次紀の川市地域福祉計画に基づく事業である。
・少子高齢化や核家族化、地域の支え合いが希薄化する中で、福祉問題が多様化する可能性があることから、市民のニーズを的確に把握し、適切に反映させる必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・社会福祉協議会が行う相談の目標値は、指標の性質上設定しづらいが、今後も相談件数は増加すると考えられるため、継続は必要である。
・地域共生社会の実現のためには、社会福祉協議会と密に地域の情報を共有し、高齢者や生活困窮者などへ寄り添った支援を行っていく必要がある。
・市民が市民活動に取り組むことは、地域づくりを進める上で不可欠なものであることから、市民活動団体を支援することは重要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・地域福祉事業については、市が推進すべき事業であるが、社会福祉協議会や民間事業者との事業分担や外部委託についても検討、実施が必要である。
・補助金事業については、会員数の減少により事業等の運営が困難になることも考えられるため、補助金が有効活用され、目的に沿って事業を推進しているか常に検証する必要性がある。

事務事業の概要

事務事業名	民生委員児童委員活動支援事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	577

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民生費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉	
予算科目 目	1 社会福祉総務費	基本施策	1	地域福祉の推進	
		取組方針	2	地域におけるつながりの構築・強化	

事業概要：市民が適切な福祉サービスを受けられるように、民生委員児童委員の円滑な活動を支援する事業

事務事業を構成する細事業

①	市民生委員児童委員連絡協議会活動	⑤		⑨	
②	単位民生委員児童委員協議会活動	⑥		⑩	
③	単位民生委員児童委員協議会活動費補助金	⑦		⑪	
④	民生委員児童委員協議会の互助事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 民生委員児童委員協議会定例会・研修会の開催回数	回	目標	60	60	60	60	60	民生委員児童委員の一斉改選があり、会議の回数や新任委員を対象とした研修などが増加している。
		実績	58	62	70			
＜指標の計算方法＞ 市民生委員児童委員連絡協議会・各単位民生委員児童委員協議会の年間活動回数								
成果指標 民生委員児童委員数	人	目標	181	181	182	182	182	任期途中での退任による後任者を決めることができず、1名欠員となった。
		実績	181	180	181			
＜指標の計算方法＞ 紀の川市民生委員児童委員数（定数182人）								
成果指標 民生委員児童委員年間相談・支援件数	件	目標						各民生委員児童委員からの毎月の活動報告書の合計数を計上している。福祉ニーズが多様化・複雑化する中で、相談・支援件数が増加している。
		実績	2,223	2,115	2,766			
＜指標の計算方法＞ 各民生委員児童委員からの活動報告書に基づく年間相談・支援件数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
22,176		12,355				9,821

事業の実績

①市民生委員児童委員連絡協議会活動
各単位民生委員児童委員協議会の情報や意見交換を行うため役員会、研修会を行う。

②単位民生委員児童委員協議会活動
委員それぞれの活動を通じて把握する地域の課題を共有し、解決方法について検討する。定例会、研修会を開催し、地域福祉の推進に取り組む。

③単位民生委員児童委員協議会活動費補助金
・打田　4,096,947円
・粉河　4,630,231円
・那賀　3,457,852円
・桃山　3,303,925円
・貴志川　3,948,680円

④民生委員児童委員協議会の互助事業
県が主催する会議、研修に参加し、他市町村の民生委員児童委員協議会と情報や意見交換を行う。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・社会福祉協議会が事務局を担当している市町村もあるが、民生委員法に基づき委嘱された民生委員児童委員の活動を支援するための事業であり、市が実施主体となることは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・地域を見守り、地域住民の身近な相談相手、専門機関へのつなぎ役として活動しているが、社会情勢の変化とともに問題が多様化、複雑化し、住民の相談内容が多岐にわたっている。令和7年度は主任児童委員とともに教育機関をまわり、関係者と交流を深めた。また、防災に関しても、民生委員児童委員協議会全体で市と協力して取り組めた。今後さらに活動内容の充実に向け検討を重ねる必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・民生委員児童委員協議会が組織として委員を支え、その活動の強化を図るために関係機関、団体と連携、協働できるように支援するとともに、各種研修会を開催し、委員の資質向上にも努めているため、その効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	戦争被害者等援護事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	585

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉	
予算科目 目	1 社会福祉総務費	基本施策	1	地域福祉の推進	
		取組方針	1	多様なニーズに対応できる支援体制の構築	

事業概要：戦没者を追悼し、市民（戦争被害者）の福祉の増進を図るため、式典運営を委託する事業

事務事業を構成する細事業					
①	戦没者追悼式	⑤		⑨	
②	遺族会補助金	⑥		⑩	
③	原子爆弾被爆者見舞金	⑦		⑪	
④	戦傷病者等支援・恩給業務	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 戦没者追悼式参列者数	人	目標		200	200	200	200	戦没者追悼式は一般の方にも広く参加を呼びかけたが、遺族会の参加者が減少し、全体の参列者数も令和6年度より減少した。
		実績	171	195	157			
＜指標の計算方法＞	戦没者追悼式参列者数							
活動指標 遺族会活動回数	回	目標	50	50	50	50	50	支部活動で、慰霊塔の巡拝や清掃活動の回数が増えたことにより、年間の活動回数が増加した。
		実績	37	37	40			
＜指標の計算方法＞	市・各支部の年間活動回数（重複事業は除く）							
成果指標 原子爆弾被爆者見舞金支給率	%	目標	100	100	100	100	100	岩出保健所へ対象者を確認し、申請から支給までの事務を円滑に実施している。
		実績	100	100	100			
＜指標の計算方法＞	支給件数／対象件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,261		51				2,210

事業の実績

①戦没者追悼式
日時：令和7年8月29日（金）
場所：粉河ふるさとセンター　小ホール
参列者：157名

②遺族会補助金
927,000円
会員数：740人（令和7年度末）
＊戦没者家族の福利増進、慰謝救済の途を講ずるとともに平和日本の建設に貢献することを目的にした遺族会の活動を補助する。

③原子爆弾被爆者見舞金
1件あたり　20,000円
支給件数　3件
支給額計　60,000円
＊7月1日現在の被爆者健康手帳所持者を岩出保健所へ調査依頼している。

④戦傷病者等支援・恩給業務
第12回特別弔慰金受付件数　345件
＊戦没者等の遺族から申請受付を行い、県へ進達し、裁定後、国債を交付する。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・市として先の大戦で犠牲となられた方々に追悼の意を表し、市民に対し平和の尊さを訴え、市民意識の醸成を図ることは必要と考える。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・遺族が参列するだけでなく、式典等について市民に広報し、広く市民に平和の尊さを訴える機会となるよう検討する余地がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・追悼式典等を委託することにより、事務の効率化を図ることが出来ている。

事務事業の概要

事務事業名	心身障害児（者）医療費助成事業	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	30

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	2	健康・医療	
予算科目 目	2 障害者医療費	基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実	
		取組方針	3	福祉医療費助成の実施	

事業概要	市民（心身障害児・者）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分に対し助成を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	受給資格管理	⑤		⑨	
②	心身障害児（者）医療費助成	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 1人あたりの医療費助成額	円	目標						助成対象者の減少により、医療費助成額は減少傾向にあり、1人あたりの医療費助成額も減少している。
		実績	143,498	147,075	133,311			
＜指標の計算方法＞	医療費助成額÷助成対象者数							
活動指標 助成対象者数	人	目標						令和6年度と比較して減少している。
		実績	1,696	1,660	1,641			
＜指標の計算方法＞	助成対象者数							
活動指標 医療費助成額	千円	目標						助成対象者の減少により、医療費助成額は減少傾向にある。
		実績	243,373	244,145	218,764			
＜指標の計算方法＞	医療費助成額							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
223,540		52,417				171,123

事業の実績

①受給資格管理
・県補助対象資格
身体障害者手帳1～2級
3級入院のみ（住民税非課税世帯）
療育手帳A1、A2
特別児童扶養手当1級
精神障害者保健福祉手帳1級
・市単独対象資格
身体障害者手帳3級
療育手帳B1,B2
特別児童扶養手当2級
障害年金1～2級受給者
・所得制限有り（特別児童扶養手当準用）
・県補助対象者数　707人
・市単独対象者数　934人
（※身障手帳3級非課税者95人含む）
合　計　1,641人
※R8.3月末時点の数値

②心身障害児（者）医療費助成
・医療費助成内訳

県補助対象			
（入　　院）	1,060件	31,296,063円	
（外　　来）	11,360件	43,470,900円	
（歯科入院）	2件	159,121円	
（歯科外来）	1,996件	6,266,887円	
（調　　剤）	6,625件	24,128,024円	
（訪問看護）	764件	20,381,058円	
（そ の 他）	503件	1,666,990円	
（戻　　入）		△18,125,394円	
（合　　計）	22,310件	109,243,649円	
市単独対象			
（入　　院）	768件	26,019,602円	
（外　　来）	15,085件	42,776,920円	
（歯科入院）	3件	157,281円	
（歯科外来）	2,276件	8,650,379円	
（調　　剤）	8,756件	27,351,583円	
（訪問看護）	894件	12,256,571円	
（そ の 他）	615件	1,508,337円	
（戻　　入）		△9,200,629円	
（合　　計）	28,397件	109,520,044円	
総　合　計	50,707件	218,763,693円	

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者が医療機関等で支払う自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関等を受診することができるため、福祉の向上と支援の観点から妥当な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・医療費助成は、心身障害児（者）世帯の経済的負担の軽減につながっており、障害者の福祉向上の観点から有効な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・助成対象者が和歌山県内の医療機関等において受診した際は、本来負担すべき医療費の保険適用後の自己負担分を国民健康保険団体連合会または社会保険診療報酬支払基金へ一ヶ月毎にまとめて支払うことで、効率的に事務を行うことができている。
・大量印刷物（受給者証の区分更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業の効率化は図られている。
・今後、国が進める医療費助成のオンライン化システム連携に参加することで、資格喪失後受診及び現在現物給付できない県外受診の償還払等の事務が減少し、より一層事務の効率化が期待できる。

事務事業の概要

事務事業名	老人医療費助成事業	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	33

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	3 民　生　費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 項	1 社会福祉費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
予算科目 目	3 老人医療費		取組方針	3	福祉医療費助成の実施

事業概要	市民（67歳以上70歳に達した日の属する月の末日まで）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、一定の条件を満たす対象者の医療費の自己負担分の一部に対し助成を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	受給資格管理	⑤		⑨	
②	老人医療費助成	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 1人あたりの医療費助成額	円	目標						助成対象者は1人であった。
		実績		6,539	5,992			
＜指標の計算方法＞	医療費助成額÷助成対象者数							
活動指標 助成対象者数	人	目標						助成対象者は1人であった。
		実績		1	1			
＜指標の計算方法＞	助成対象者数							
活動指標 医療費助成額	円	目標						助成対象者は1人であった。
		実績		6,539	5,992			
＜指標の計算方法＞	医療費助成額							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
7		4				3

事業の実績

①受給資格管理
◎受給資格
・対象者が67歳以上70歳未満
・住民税非課税世帯
・世帯員の前年収入が100万円以下
（2人以上は加算あり）
・対象者の金融資産350万円以下、かつ世帯員の金融資産の合計額350万円以下
・対象者が世帯内外を含め扶養を受けていない　・・・など
◎助成額
医療保険法令に規定する医療の給付における費用の１割
◎助成対象者数　1人

②老人医療費助成
◎医療費助成内訳

（入　院）	0件	0円
（外　来）	10件	5,992円
（歯　科）	0件	0円
（調　剤）	0件	0円
（その他）	0件	0円
（合　計）	10件	5,992円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者が医療機関等で支払う自己負担分の一部に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診することができるため、福祉向上の観点からも妥当な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・医療費助成は、助成対象者の経済的負担の軽減につながっており、福祉向上の観点からも有効な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・助成対象者が和歌山県内の医療機関等において受診した際は、本来負担すべき医療費の保険適用後の自己負担分の一部を国民健康保険団体連合会または社会保険診療報酬支払基金へ一ヶ月毎にまとめて支払うことで、効率的に事務を行うことができている。

事務事業の概要

事務事業名	国民年金受付事業	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	469

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民生費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 目	4 国民年金費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
			取組方針	9	その他

事業概要：国民年金制度に基づき、市民が年金を安心して受給できるように、各種届出・申請書の受付等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	国民年金受付	⑤		⑨	
②	国民年金等相談対応	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 受付進達件数	件	目標						受付進達件数は減少傾向にある。
		実績	3,282	3,165	2,852			
＜指標の計算方法＞	受付件数							
活動指標 相談件数	件	目標						相談件数は減少傾向にある。
		実績	6,153	5,614	4,905			
＜指標の計算方法＞	相談件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,186	581					605

事業の実績

①国民年金受付
各種届出・申請書の受付を行った。

◎国民年金第1号被保険者の異動届・免除申請等の受付、送付
・異動に関する届 1,096件
・免除等に関する申請 989件
・死亡一時金請求 9件

◎国民年金裁定請求の受付、送付
・裁定請求（老齢・障害・遺族） 74件

◎年金受給者死亡後の未支給請求の受付、送付
・未支給請求（死亡届含む） 509件

◎年金受給者に関する届の受付、送付
・住所変更届等 57件
・障害状態確認届（現況届含む） 19件

◎年金生活者支援給付金請求の受付、送付
・異動・裁定等による給付金請求 99件

＜国民年金受付・送付件数計＞ 2,852件

②国民年金等相談対応
各種相談に対応した。

◎国民年金に関する相談対応等 4,732件
◎年金生活者支援給付金に関する相談対応等 173件

＜国民年金等相談対応件数計＞ 4,905件

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・国民年金市町村事務処理基準に基づき実施している事業であり妥当性がある。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・年金事務所まで行かずに手続きができることから、利便性があり有効な事業である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・令和6年度から社会保険オンラインシステム可搬型窓口装置を設置しており、事務処理はシステム化されより一層効率化が図られているため、事業効率の改善については余地がない状況である。

事務事業の概要

事務事業名	高齢者保健事業	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1220

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 目	5 高齢者保健費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防
			取組方針	9	その他

事業概要	和歌山県後期高齢者医療広域連合との委託契約に基づき、高齢者の保健事業と介護予防を庁内関係課が連携し一体的に行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	高齢者保健事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 高齢者に対する個別的支援（ハイリスクアプローチ）指導利用率	%	目標	30	30	30	30	30	対象者要件の見直しにより、対象者数が増加したことも影響し、指導利用率が低下した。訪問等により対象者の状況把握は行っているが、個別指導利用には繋がりにくい状況である。引き続き利用勧奨等を実施し、専門職による個別指導等により、健康状態の改善や重症化予防に繋がるよう取り組んでいく必要がある。
		実績	14	14.3	5.8			
＜指標の計算方法＞	指導利用人数÷対象者							
成果指標 高齢者に対する個別的支援（ハイリスクアプローチ）健康状態把握率	%	目標	100	100	100	100	100	アンケート調査や個別訪問等により健康状態を把握し、フレイル予防等を周知するとともに、健康課題がある人に対しては医療機関の受診勧奨等、必要な支援を行うことが出来た。
		実績	68.3	90.4	90.7			
＜指標の計算方法＞	健康状態把握人数÷対象者							
活動指標 通いの場等への積極的な関与（ポピュレーションアプローチ）実施回数	回	目標	40	40	40	40	40	講座の申込みが減少したことにより、実施回数も減少した。引き続き、関係課や専門職講師と連携し、講座内容等の工夫や、周知方法の見直し等検討していく必要がある。
		実績	28	30	14			
＜指標の計算方法＞	講座等開催回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,863					3,852	11

事業の実績

①高齢者保健事業
◎ハイリスクアプローチ
（個別相談・指導）
対象者：189人　利用者：11人(5.8%)
（内訳）
・低栄養に関する相談・指導
対象者： 69人　利用者： 4人
・口腔に関する相談・指導
対象者： 57人　利用者： 2人
・服薬に関する相談・指導
対象者： 58人　利用者： 0人
・糖尿病性腎症重症化予防に関する相談・指導
（受診勧奨）
対象者： 1人　受診者： 1人
（保健指導）
対象者： 4人　利用者： 4人

◎ハイリスクアプローチ
（健康状態不明者の状態把握）
対象者：118人
・アンケート調査、訪問等による把握：107人（90.7%）

◎ポピュレーションアプローチ
（集団健康教育）
実施回数：14回　参加人数：延べ155人
（内訳）
・栄養に関する講座： 6回　66人
・口腔に関する講座： 5回　66人
・服薬に関する講座： 1回　 7人
・疾病に関する講座： 2回　16人

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・医療保険制度の適正かつ効率的な運営を図るための健康保険法等の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、和歌山県後期高齢者医療広域連合より委託を受けて実施する事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・和歌山県後期高齢者医療広域連合からの受託により、庁内関係課や関係機関と連携し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組むことは高齢者の健康の保持増進に有効である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・和歌山県後期高齢者医療広域連合からの受託により、庁内関係課や関係機関と連携し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組むことは効率性が高い。

事務事業の概要

事務事業名	後期高齢者医療事業	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	463

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	3	民　生　費		政策目標	1	安全・安心
	項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療
	目	7	後期高齢者医療費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
					取組方針	9	その他

事業概要	和歌山県後期高齢者医療広域連合が円滑で安定的な運営が行えるように、事務費等を負担する事業

事務事業を構成する細事業							
①	後期高齢者医療広域連合負担金	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	後期高齢者医療広域連合事務費負担金	千円	目標						和歌山県後期高齢者医療広域連合における事務に係る費用を、規約で定める割合（均等割10%、後期高齢者人口割45%、人口割45%）で県内各市町村が負担している。
			実績	11,508	11,576	11,928			
	＜指標の計算方法＞	後期高齢者人口割、人口割、均等割にて各市町村が負担（後期高齢者医療広域連合にて計算）							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
11,928						11,928

事業の実績

①後期高齢者医療広域連合負担金
・和歌山県後期高齢者医療広域連合の事務的運営経費（一般会計分）として、均等割10%、後期高齢者人口割45%、人口割45%で算出される負担割合で負担金を拠出する。

※和歌山県後期高齢者医療広域連合一般会計の事務的運営経費所要額は、194,695,000円で、県内30市町村が負担割合に応じて按分し負担している。

◎紀の川市負担金
・後期高齢者人口割（45%）
11,168人（県全体176,212人）
占有率　6.338%　負担割合　2.852%
・人口割（45%）
59,362人（県全体908,172人）
占有率　6.536%　負担割合　2.941%
・均等割（10%）
負担割合　0.333%

※後期高齢者人口割、人口割はR6.3月末時点の数値にて算定

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・和歌山県後期高齢者医療広域連合規約に基づく事務であり、高齢者の医療を確保するために市が実施する事業であるため、妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・高齢者の医療の確保に関する法律に基づき設立された和歌山県後期高齢者医療広域連合における事務に係る費用を、県内各市町村が規約に基づき負担しており、広域連合を運営していくために有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・後期高齢者医療制度の運営は都道府県単位で実施していることから効率的な事務を行えている。その事務に係る費用を県内各市町村で負担しているため効率性については改善の余地がない。

事務事業の概要

事務事業名	障害児者支援事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	601

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	8 障害者福祉費		基本施策	3	障害者の自立支援
			取組方針	2	地域で自立した生活をするための支援

事業概要	障害児者、障害児者の家族が快適に地域生活を送ってもらえるように、各種サービスの給付・助成を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	障害者手帳等交付	⑤	身体障害者自動車改造費助成	⑨	
②	福祉タクシー利用・自動車燃料費助成	⑥	個別避難計画作成	⑩	
③	訪問理容サービス利用助成	⑦		⑪	
④	難聴児補聴器購入費助成	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 障害者手帳所持者数	人	目標	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	身体障害者手帳の所持者数は減少傾向にある一方、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の所持者数は増加傾向である。特に精神障害者保健福祉手帳の増加が顕著となっている。
		実績	4,594	4,547	4,509			
＜指標の計算方法＞	毎年3月31日現在の3障害（身体・療育・精神保健）手帳所持者の合計							
成果指標 福祉タクシー利用・自動車燃料費助成券申請者数	人	目標	950	980	1,000	1,050	1,070	広報やホームページ等により周知を行うとともに、手帳交付時に丁寧な案内を行い申請に繋げている。また年度途中に対象となる人についても月割りで助成券を発行。対象者の利便性向上を図るため郵送での交付から窓口交付に切り替え対応を行っている。
		実績	896	1,009	1,030			
＜指標の計算方法＞	助成券の交付申請をした人数							
成果指標 訪問理容サービス利用申請者数	人	目標	11	11	11	10	10	重度障害のある方で理容店に出向くことが困難な方を対象としている。なお、65歳以上で要介護3以上の方については高齢介護課において実施している事業の対象となる。そのため年度初めに広報での周知を図ったものの、新規申請の拡大には繋がらなかった。
		実績	8	7	5			
＜指標の計算方法＞	訪問理容サービスの利用申請をした障害のある人の人数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
14,317		93				14,224

事業の実績

①障害者手帳等交付
・障害者手帳所持者数
　身体障害者手帳　2,964人
　療育手帳　854人
　精神障害者保健福祉手帳　691人
　計　4,509人

②福祉タクシー利用・自動車燃料費助成
・申請者数
　福祉タクシー利用券　135人
　（初乗り料金24回分／人）
　自動車燃料券　895人
　（ガソリン48L分／人）
　計　1,030人

③訪問理容サービス利用助成
・申請者数　5人（延べ利用回数17回）

④難聴児補聴器購入費助成
・受給者数　4人（購入 2人、修理 2人）

⑤身体障害者自動車改造費助成
・受給者数　0人

⑥個別避難計画作成
・作成者数　3人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・障害のある人が住み慣れた地域で日常生活を営むことができるよう、利用者のニーズに寄り添い、必要なサービスの提供に努めている。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・障害のある人の社会参加の促進及び生活の質の向上、並びにその家族の自己負担の軽減に繋がっている。
・福祉タクシー及び自動車燃料費の助成について、4月2日から翌年2月末日の間で新たな助成対象者が各支所にて申請した場合、後日障害福祉課から助成券を書留による郵送としていたが、受け取られず返戻されるケースが多くみられた。そのため、市民の利便性向上を図る観点から、即日交付を行うよう対応方法を変更した。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・地域社会の動向に応じ、障害のある人の社会参加の促進と生活の質の向上に資するため、必要なサービスの提供体制を整える必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	障害児者手当等給付事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	605

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉	
予算科目 目	8 障害者福祉費	基本施策	3	障害者の自立支援	
		取組方針	2	地域で自立した生活をするための支援	

事業概要	障害児者、障害児者の家族の経済的負担の軽減を図り、自立した生活を送ってもらえるように、各種手当の給付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 特別障害者手当給付	⑤ 特別児童扶養手当給付	⑨		
	② 福祉手当給付（経過措置分）	⑥	⑩		
	③ 障害児福祉手当給付	⑦	⑪		
	④ 心身障害児扶養手当給付	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 特別障害者手当受給者数	人	目標	50	50	50	50	50	重複障害者など、重度の障害を持つ人に限定されている。令和7年度は、死亡により数件の喪失があり、令和6年度と比較すると受給者数は少し減少している。
		実績	42	41	39			
＜指標の計算方法＞ 特別障害者手当受給者数(3月末現在)								
成果指標 障害児福祉手当受給者数	人	目標	23	20	20	20	20	重度の障害を持つ児童が対象で、受給者が限定されている。令和7年度も新規申請が無く、20歳到達のための資格喪失に伴い受給者数は減少している。
		実績	13	11	9			
＜指標の計算方法＞ 障害児福祉手当受給者数（3月末現在）								
成果指標 心身障害児扶養手当受給者数	人	目標	145	145	145	145	145	小児慢性特定疾病等の対象者は、保健所との連携が上手く図れており申請に繋がっている。特別児童扶養手当の認定により扶養手当受給資格を喪失するため、受給者数は増減なし。
		実績	140	140	140			
＜指標の計算方法＞ 心身障害児扶養手当受給者数（3月末現在）								
成果指標 特別児童扶養手当受給者数	人	目標	130	140	150	190	195	知的・精神障害等の申請が増加しており、従来の療育手帳判定時の案内に加え、障害理解等により受診が進み医療機関からの案内により新規認定受給者の増加に繋がっている。
		実績	148	166	186			
＜指標の計算方法＞ 特別児童扶養手当事務取扱交付金の算定対象件数（12月31日現在）								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
23,821	12,496					11,325

事業の実績

①特別障害者手当給付
「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく特別障害者手当を支給
・受給者数(3月末現在)：39人

②福祉手当給付（経過措置分）
「国民年金法等の一部を改正する法律」に基づく福祉手当を支給
・受給者数(3月末現在)：0人

③障害児福祉手当給付
「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく障害児福祉手当を支給
・受給者数(3月末現在)：9人

④心身障害児扶養手当給付
　障害等のある人の経済的負担を軽減するため、市単独の手当を支給
・受給者数(3月末現在):140人
　身体1･2級,療育A1･A2,精神1級:1人
　身体3～6級,療育B1･B2,精神2･3級:119人
　指定難病,小児慢性特定疾患等:25人
　（うち重複障害児5名）

⑤特別児童扶養手当給付
　申請書の受理及び認定通知等の交付の事務を処理
・受給者数(12月末現在)：186人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・特別障害者手当、福祉手当（経過措置）、障害児福祉手当、特別児童扶養手当はそれぞれ法定手当であり実施は妥当である。
・心身障害児扶養手当は、法定手当の受給資格に該当しない障害児やその家族の経済的負担の軽減に繋がっている。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・障害を持ちながら在宅で生活している障害児者や障害児者の家族の経済的負担が軽減される。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・受給資格を有する障害児者に対し、手当の申請案内を確実に実施するとともに、申請時には手帳の判定や意見書を精査することで適正な手当の受給に繋げることができている。

事務事業の概要

事務事業名	障害者団体運営支援事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	611

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉
予算科目 目	8 障害者福祉費	基本施策	3	障害者の自立支援
		取組方針	1	理解の促進と支え合う体制づくり

事業概要：障害児者、障害児者の家族が各種団体活動や社会活動に参画できるように、障害者団体の活動に対する補助や支援を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	身体障害者連盟補助金	⑤		⑨	
②	精神障害者家族会補助金	⑥		⑩	
③	障害児者父母の会補助金	⑦		⑪	
④	聴覚障害者協会補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	身体障害者連盟への交付補助金額	円	目標	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	講演会やスポーツ大会を開催し、会員相互や地域の小・中学校の児童と交流を図り、事業の充実に努めている。事業に要する費用は令和6年度と比較して増加した。
			実績	673,000	549,000	660,000			
	＜指標の計算方法＞	身体障害者連盟への補助金額							
活動指標	障害児者父母の会への交付補助金額	円	目標	1,388,000	1,388,000	1,388,000	1,388,000	1,388,000	県や市の親子のつどいや研修会、季節行事等が開催された。会員相互の交流、親睦を活発に行った。事業に要する費用は令和6年度と同額となった。
			実績	1,379,000	1,387,000	1,387,000			
	＜指標の計算方法＞	障害児障害者父母の会への補助金額							
成果指標	身体障害者連盟の会員数	人	目標	550	550	550	550	550	市役所窓口において入会案内チラシでの周知を行っているものの、新規加入には至らず、会員の高齢化に伴い会員数は減少した。
			実績	328	302	261			
	＜指標の計算方法＞	身体障害者連盟の会費徴収対象となる会員数							
成果指標	障害児者父母の会の会員数	家族	目標	60	60	60	60	60	支援学校での啓発活動等や市役所窓口において入会案内チラシでの周知を行っているが、会員数の増加には繋がっておらず、減少している。
			実績	50	46	43			
	＜指標の計算方法＞	障害児者父母の会の会費徴収対象となる会員数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,381						2,381

事業の実績

①身体障害者連盟補助金
・会員数　261人

②精神障害者家族会補助金
・会員数　25人

③障害児者父母の会補助金
・会員数　43人

④聴覚障害者協会補助金
・会員数　13人

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・障害者の会員相互の交流や親睦を図り、社会参加の促進と福祉の向上に繋がる事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・障害者の社会参加の促進と福祉の向上に一定の効果をあげている。
・「身体障害者連盟」「障害児者父母の会」への若年層の参加を促すため、地域の学校や支援学校等での啓発活動を見直し、さらなる活動内容の充実等を促進していく必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・各団体の会員数が減少している状況を踏まえ、事務局と協議の上、事業内容等の見直しを図り、障害者の社会参加の促進及び福祉の向上に資する活動を推進する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	障害者基本計画策定事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度（R 7 ～ R 8）
				事業番号	598

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	8 障害者福祉費		基本施策	3	障害者の自立支援
			取組方針	1	理解の促進と支え合う体制づくり

事業概要	障害者基本法に基づき、障害者施策を総合的、計画的に進めるため、学識経験者や市民などで構成される障害者基本計画等策定委員会において障害者基本計画の策定を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	障害者基本計画策定事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 障害者基本計画等策定に係るアンケート調査回答者数	人	目標			750			障害者手帳所持者等へのアンケート調査を実施することで現状把握を行う。
		実績			665			
＜指標の計算方法＞	障害者基本計画等策定に係るアンケート調査の回答者数							
活動指標 障害者基本計画等策定委員会開催回数	回	目標			2	3		定期的に障害者基本計画等策定委員会を開催することで、委員への進捗報告、意見等の反映を行う。
		実績			2			
＜指標の計算方法＞	障害者基本計画等策定委員会の開催回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,640						2,640

事業の実績

①障害者基本計画策定事業
・障害者基本計画等策定委員会
　○第1回　令和7年10月24日開催
　　計画策定の概要、アンケート調査について
　○第2回　令和8年3月16日開催
　　アンケート調査結果、グループインタビューについて

・障害者手帳所持者等へのアンケート調査
　○対象者 1,500人
　　回収数　665人
　　回収率　44.3%

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・障害者基本計画については、市の障害者施策全般に係る基本的な考え方や方針を明らかにし、具体的な取り組みを示すものである。また、障害福祉計画・障害児福祉計画については、障害福祉サービス及び障害児通所支援を提供するための体制の確保が計画的に図られるようにするもので、障害者・障害児の地域生活を支援するためのサービス基盤整備等を確保するための数値目標等を設定するとともに、目標達成に向けた量的な指標を示す実施計画であるため妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・広く関係者の意見を伺い、また市民の意見を反映するという観点から、学識経験者、障害福祉関係機関や障害者当事者団体の代表、市民などで構成される策定委員会において討議し計画を策定する。
・障害のある市民の実情やニーズ等を把握し、計画に反映する基礎資料として活用するため、アンケート調査を実施する。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・計画策定には国の基本指針・県の紀の国障害者プラン・市の関連計画等との整合性や今後の政策動向・情勢変化等において、専門的な知識や経験が不可欠であるため、時間・コスト・クオリティ等あらゆる面において、計画策定業務を外部委託することは最適である。

事務事業の概要

事務事業名	障害福祉サービス等給付事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	614

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	9 障害者総合支援費		基本施策	3	障害者の自立支援
			取組方針	2	地域で自立した生活をするための支援

事業概要	障害児者が地域で自立した生活を送ってもらえるように、障害福祉サービスの給付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	障害支援区分認定審査会運営	⑤	障害者補装具給付	⑨	
②	認定調査業務	⑥		⑩	
③	障害福祉サービス給付	⑦		⑪	
④	高額障害福祉サービス等給付	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 認定調査件数	件	目標	200	210	220	220	220	区分更新による認定調査の件数が令和6年度より若干少なくなっているが、障害福祉サービスの新規利用者の数は増加している。
		実績	234	208	201			
＜指標の計算方法＞ 年間認定調査件数								
成果指標 障害福祉サービスの延べ利用者数	人	目標	10,200	10,500	11,000	13,000	14,000	障害福祉サービスの認知度が向上しており、障害福祉サービス利用者は増加している。特に就労継続支援Ｂ型や居宅介護利用者が増加している。
		実績	10,950	11,933	12,493			
＜指標の計算方法＞ 障害福祉サービスの延べ利用者数								
成果指標 就労移行支援の利用者数	人	目標	21	25	25	30	30	障害のある人の社会参加の状況を測る指標であり、事業内容が広く認知されてきたことで、一定数が利用している。利用者数はほぼ横ばいで大きな変化はない。
		実績	26	26	28			
＜指標の計算方法＞ 就労移行支援の実利用者数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,909,288	901,545	453,920				553,823

事業の実績

①障害支援区分認定審査会運営

・審査委員　10人（1班 5人、2班 5人）
・開催回数　12回（月1回）
・審査件数　162件
　（内訳）身体　33件、知的　72件、
　　精神　56件、難病　1件
・主治医意見書依頼件数　162件

②認定調査業務
・認定調査員（職員）5人
　（内会計年度任用職員　1名）
・認定調査件数（児童除く）　201件
　（内相談事業所委託分　134件）
　（内訳）一次判定分　39件
　　二次判定分　162件（審査会）

③障害福祉サービス給付
・障害福祉サービス利用者数
　実利用者・延べ利用者

	実利用者	延べ利用者
居宅介護	306人	1,934人
重度訪問介護	7人	71人
行動援護	3人	30人
同行援護	16人	141人
生活介護	176人	2,014人
療養介護（福祉分）	13人	156人
短期入所	35人	267人
共同生活援助	107人	1,056人
施設入所支援	64人	678人
就労移行支援	28人	145人
就労継続支援A型	110人	1,060人
就労継続支援B型	249人	2,583人
就労定着支援	7人	42人
自立訓練（機能訓練）	0人	0人
自立訓練（生活訓練）	16人	123人
宿泊型自立訓練	0人	0人
自立生活援助	0人	0人
計画相談支援	659人	2,193人
地域相談支援	1人	0人

④高額障害福祉サービス等給付
・高額障害福祉サービス等給付
　実受給者　7人（延べ受給者　41人）
・新高額障害福祉サービス等給付
　実受給者　7人（延べ受給者　68人）

⑤障害者補装具給付
・補装具給付件数

	購入	修理	借受
義肢（義足、義手等）	3件	2件	0件
装具（下肢、体幹等）	14件	5件	0件
姿勢保持装置(椅子含む)	6件	5件	0件
視覚障害者安全つえ等	6件	0件	0件
眼鏡	4件	2件	0件
補聴器	16件	16件	0件
車いす（電動含む）	12件	14件	0件
その他補装具	0件	1件	0件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス給付事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・障害児者の自立と社会参加の促進、障害児者を抱える家族の負担軽減に繋がっている。
・複雑多様化している相談業務に対応するため、適切なケアマネジメントを行い、より専門的な相談支援の実施を図り、相談体制の充実に努める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・障害児者への支援内容や請求等について、サービス提供事業者へ適宜指導を行い、不適切なサービス提供を防止し、事業コストの効率化に繋げる必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	障害児通所給付事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	847

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉
予算科目 目	9 障害者総合支援費	基本施策	3	障害者の自立支援
		取組方針	2	地域で自立した生活をするための支援

事業概要：障害児が早期からの療育を受け、自立した生活を送ってもらえるように、支援施設への通所サービスの給付を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	障害児通所給付	⑤		⑨	
②	高額障害児通所給付	⑥		⑩	
③	児童発達支援センター利用者負担減額助成	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 児童調査件数	件	目標	70	70	70	80	80	新規申請者数はここ近年の実績数や見込み人数を上回る。乳幼児期からの発達支援として早期の療育に繋がっている。
		実績	62	56	77			
＜指標の計算方法＞ 障害児通所給付の新規申請児童に対する調査件数								
成果指標 児童発達支援利用者数	人	目標	140	130	130	130	130	児童発達支援事業の利用者数は横ばいである。療育が必要な児童が早期に利用できている。
		実績	99	101	99			
＜指標の計算方法＞ 児童発達支援を利用した実人数								
成果指標 障害児相談支援利用者数	人	目標	190	200	230	330	330	障害児相談支援利用者数は年々増加傾向にある。セルフプランではなく、幼児期から利用する事により個人にあった障害児通所給付に繋がっていると考えられる。
		実績	257	286	324			
＜指標の計算方法＞ 障害児相談支援を利用した実人数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
556,443	277,102	138,736				140,605

事業の実績

①障害児通所給付
障害または発達に遅れのある児童に、通所等による適正な療育サービスを給付
・児童調査件数　　76件
・障害児通所給付利用者数
　　実利用者（延利用者）
　児童発達支援　　99人（944人）
　放課後等ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ　242人（2,588人）
　保育所等訪問支援　　38人（62人）
　障害児相談支援　　324人（753人）
②高額障害児通所給付
・実支給者　　8人（延べ受給者　41人）

③児童発達支援センター利用者負担減額助成
・実受給者　　13人
（児童発達支援センター利用者の内、助成対象者は13人で、副食費の助成に該当。）

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・児童福祉法で定められている事業である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・障害児または発達の遅れのある児童の早期療育に繋げられている。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・障害児または発達の遅れのある児童の早期療育や発達支援として適切な支援内容であり、サービス利用計画にて精査し、効率的な事業の実施に繋げる。

事務事業の概要

事務事業名	障害者地域生活支援事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	982

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	9 障害者総合支援費		基本施策	3	障害者の自立支援
			取組方針	2	地域で自立した生活をするための支援

事業概要	障害児者、障害児者の家族が住み慣れた地域で自立した生活を送ってもらえるように、相談、各種サービス給付等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	地域生活支援事業給付	⑤	巡回支援専門員整備	⑨	
②	高額地域生活支援給付	⑥	重度障害者日常生活用具給付	⑩	
③	障害者相談支援事業委託	⑦	訪問入浴サービス事業	⑪	
④	障害者地域活動支援センター運営委託	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	地域生活支援事業支給決定者数	人	目標	290	290	290	290	290	継続して利用される利用者が多く、令和6年度からの大きな変化はない。
			実績	262	254	246			
	＜指標の計算方法＞	地域生活支援事業支給決定者数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの12月時点における決定者数の合計）							
成果指標	地域生活支援事業実利用者数	人	目標	220	220	220	220	220	支給決定者と実利用者に差が生じるのは、自立に向かい利用を必要としなくなった者、精神障害等の悪化、障害や難病で入院して利用を中断したものと考える。
			実績	156	160	150			
	＜指標の計算方法＞	地域生活支援事業を利用した人数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの利用人数の合計）							
活動指標	巡回支援専門員整備事業巡回回数	回	目標	30	30	30	30	30	巡回を希望した保育所（園）・幼稚園の全てに対応でき、研修会については、保育所（園）・幼稚園の現状を踏まえた内容で実施できた。今後も引き続き同様の目標値を見込む。
			実績	17	20	20			
	＜指標の計算方法＞	巡回支援専門員が巡回した保育所（園）・幼稚園の延べ箇所数							
成果指標	基幹相談センター相談人数	人	目標	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	基幹相談支援センターとして、必要に応じ、各指定特定相談支援事業所の相談に応じている。相談件数は令和6年度より増加したが目標数に達していない。
			実績	6,649	6,341	6,813			
	＜指標の計算方法＞	年間延べ相談人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
98,116	22,764	21,060				54,292

事業の実績

①地域生活支援事業給付
・障害者移動支援事業
　実利用者　　120人
　延べ利用時間　8,624.5H
・日中一時支援事業
　実利用者　　15人
　延べ利用時間　1,425H
・障害者生活支援事業
　実利用者　　15人
　延べ利用時間　935H

②高額地域生活支援給付
　実受給者　　0人（延べ受給者　0人）

③障害者相談支援事業委託
　障害者地域生活相談支援業務及び紀の川市基幹相談支援センター業務を委託。
・開所日数　239日
・実相談者　359人（延べ相談者6,813人）
・委 託 先　（社福）一麦会
・設置場所　麦の郷紀の川生活支援センター
・人員体制　5人
　（常勤専従3人、常勤兼務2人）

④障害者地域活動支援センター運営委託
　創作的活動や生産活動、地域との交流促進等の活動を支援する場として、地域活動支援センターを開設し、その運営を委託。
・開所日数　236日
・実利用者　68人(延べ利用者 5,800人)
・委 託 先　（社福）一麦会
・設置場所　麦の郷紀の川生活支援センター
・人員体制　5人
　（常勤専従2人、常勤兼務3人）

⑤巡回支援専門員整備
　発達障害の専門知識を有する専門員が、保育所等の施設を巡回し、施設の担当職員に対し、障害の早期発見や早期対応のための助言等の支援を行う。
・巡回対象施設　　市内の保育所・幼稚園
・専門員巡回回数　（延べ　18回）
・研修会の開催　　（延べ　2回）

⑥重度障害者日常生活用具給付
・給付件数

ストーマ用装具	1,084件
紙おむつ	430件
電気式たん吸引器	7件
入浴補助用具	1件
情報通信支援用具	11件
特殊寝台	3件
その他生活用具	7件
住宅改修	3件
合計	1,546件

⑦訪問入浴サービス事業
・実人数　3人　（延べ　194回）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・障害者及び障害児が基本的人権を享受する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じ、柔軟な形態により市が計画的に実施する事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・障害児者の自立と社会参加の促進、障害児者を抱える家族の負担軽減に繋がっている。
・複雑多様化している相談業務に対応するため、適切なケアマネジメントを行い、より専門的な相談支援の実施を図り、相談体制の充実に努める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・障害児者への支援内容や請求内容等について、サービス提供事業所へ適宜指導を行い、不適切なサービス提供を防止し、業務の効率化に繋げる必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	障害者権利擁護事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	631

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉
予算科目 目	9 障害者総合支援費	基本施策	3	障害者の自立支援
		取組方針	1	理解の促進と支え合う体制づくり

事業概要：障害児者の権利や財産を擁護するために各種支援を行い、市民に対し障害者理解のための広報や啓発を行う事業

事務事業を構成する細事業

① 成年後見制度利用支援	⑤ 障害者差別解消	⑨ 相談員設置
② 障害者虐待防止対策支援事業	⑥ 障害者意思疎通支援	⑩
③ 理解促進研修・啓発事業	⑦ 手話奉仕員養成・手話啓発普及	⑪
④ 自発的活動支援事業	⑧ 障害者相談	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 権利擁護センターへの65歳未満の相談件数	件	目標	25	30	40	40	40	8050問題等が考えられる中、今後権利擁護センターへの相談は増加していくことが見込まれるが、年度により増減がある。
		実績	27	32	18			
＜指標の計算方法＞ 権利擁護センターへの相談件数								
活動指標 手話奉仕員養成に関する講座数	講座	目標	4	4	4	4	4	令和7年度も講座を岩出市と合同開催し、受講しやすいように両市で相互受講を可能とした。また、手話通訳者の養成に力を入れ、市単独で夜間及び土曜にステップアップ講座を2講座実施した。
		実績	4	4	4			
＜指標の計算方法＞ 入門講座、基礎講座、ステップアップ講座などの講座数								
成果指標 手話奉仕員養成講座修了者の割合	%	目標	100	100	100	100	100	ブルーライトアップやデフリンピックのイベント等に手話コーラスで参加。受講生を積極的に巻き込んだ結果、例年に比べ修了者数の割合が増加し9割以上の受講生が修了できている。
		実績	89	83	93			
＜指標の計算方法＞ 手話奉仕員養成講座（入門課程・基礎課程）の受講修了者／受講者数								
成果指標 理解促進研修・啓発事業の参加者数	人	目標	800	800	800	500	500	障害がある人への理解促進を図るため啓発方法や内容を工夫し、参加者数を増やしていくため、今後も事業を充実させていく必要がある。防災部会が発展的解消のため講演会参加者数が減少となった。
		実績	282	403	168			
＜指標の計算方法＞ 理解促進研修・啓発事業の参加合計人数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,531	681	634				3,216

事業の実績

①成年後見制度利用支援
・市長審判請求支援件数　1件
・成年後見人等報酬助成金給付　0件
②障害者虐待防止対策支援事業
通報件数7件（内虐待認定件数1件）
③理解促進研修・啓発事業
○開催日　令和7年7月7日
テーマ　障害特性を学ぶ
参加者　35名
○開催日　令和7年8月20日
テーマ　高校内居場所カフェって？
参加者　54名
○開催日　令和7年10月30日
テーマ　重症心身障がい児・者の口腔の特徴とケアについて～健康は歯から口から笑顔から～
参加者　26名
○開催日　令和7年11月15日
テーマ　こどもの発達について～不登校・行きしぶりを考える～
参加者　53名
④自発的活動支援事業
実施なし
⑤障害者差別解消
・那賀圏域障害者差別解消支援地域協議会
○開催日　令和7年11月27日
テーマ　障害者虐待の県下の現状について
参加者　35名
⑥障害者意思疎通支援
・手話通訳士職員配置　2人
（支援件数　687件）
・意思疎通支援者の派遣
手話通訳士（者）支援件数　134件
要約筆記者支援件数　22件
⑦手話奉仕員養成・手話啓発普及
・手話奉仕員養成講座入門課程
受講者　24人（内修了者22人）
・手話奉仕員養成講座基礎課程
受講者　18人（内修了者17人）
・ステップアップ講座
受講者　昼コース　9人
夜コース　11人
・夏休み手話教室（2日間）　受講者　11人
・手話出前講座　32件　受講者　499人
⑧障害者相談
・来所：55件　訪問：9件　電話：360件
⑨相談員設置
・身体障害者相談員 7人(延べ相談件数9件)
・知的障害者相談員 5人(延べ相談件数10件)

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がややある

・専門性の高い手話通訳者の養成は県が必須事業となっているが、その育成を着実に進めるためには、受講生が継続して受講しやすい体制作りが必要である。従来、レベル分けをし講座を行っていたが、レベルの枠にとらわれず「昼の部」「夜の部」で柔軟に受け入れを行い、各受講生の習熟度に応じた目標を設定しながら講座を進めている。
・地域社会全体に、障害児者の理解を促進することで、障害者差別の解消や障害者虐待の防止に繋げ、障害児者の人権と福祉の向上を図る事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・障害児者の権利擁護を促進するため、中核機関である紀の川市社会福祉協議会と連携し、より有効的な成年後見制度や合理的配慮の普及啓発を行うことが求められる。
・手話を続けて学ぼうとする意欲を持ち続けてもらうために、定期的な周知および学習機会の場を提供していく必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・外部講師に依頼することで、準備期間に時間を取られることなく手話学習の場を提供できる。ステップアップ講座の内容をより充実させるため、継続して外部講師に依頼し、講師自身のスキルアップおよび地域のろう者の意識改革を求めなければならない。

事務事業の概要

事務事業名	障害者自立支援医療費等給付事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	638

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉	
予算科目 目	9 障害者総合支援費	基本施策	3	障害者の自立支援	
		取組方針	2	地域で自立した生活をするための支援	

事業概要：障害児者が必要な治療を受け、地域で健康的に暮らしていけるように、医療費の一部助成を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	更生医療給付	⑤		⑨	
②	育成医療給付	⑥		⑩	
③	療養介護医療給付	⑦		⑪	
④	精神通院医療給付	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 更生医療給付決定件数	件	目標	430	430	430	430	430	医療機関と連携を図りながら給付決定を行っている。更生医療を必要とする申請者数は令和6年度と比較し、大きな変化はない。
		実績	384	368	372			
＜指標の計算方法＞ 更生医療給付決定件数（実績報告）								
成果指標 育成医療給付決定件数	件	目標	20	20	20	20	20	疾患や治療内容で給付対象が限定されており、育成医療を必要とする申請者数は申請状況によって増減する。
		実績	12	14	11			
＜指標の計算方法＞ 育成医療給付決定件数（実績報告）								
成果指標 療養介護給付受給者数	人	目標	14	14	14	13	13	病院等で長期入院による医療に加え、常時介護が必要な重度の障害者が受給対象者と限定されており、目標値及び実績値に大きな増減はなし。
		実績	15	13	13			
＜指標の計算方法＞ 療養介護給付受給者数（実績報告）								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
49,465	31,268	12,234				5,963

事業の実績

①更生医療給付
　身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付
・給付決定件数（実受給者）
　内臓障害(心臓)　　63件（ 54人）
　内臓障害(腎臓)　　254件（223人）
　肢体不自由　　49件（ 35人）
　免疫機能障害　　6件（ 5人）

②育成医療給付
　児童の身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付
・給付決定件数（実受給者）
　視覚障害　　2件（2人）
　聴覚・平衡機能障害　　0件（0人）
　音声・言語・そしゃく機能障害　　7件（8人）
　肢体不自由　　0件（0人）
　内臓障害（その他）　　2件（2人）

③療養介護医療給付
　医療機関で機能訓練や療養上の管理、看護、介護及び日常生活支援を受けた場合の医療にかかる費用を給付
・受給件数　156件（実受給者　13人）

④精神通院医療給付
　各種申請を受け付け、県の支給認定を受けた後、受給者証の交付を実施
・申請等受付状況
　新規　　135件
　更新　　774件
　変更　　267件

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・心身の障害を除去及び軽減するための医療について、医療費の自己負担額を軽減する公費負担医療制度に基づく事業である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・心身上の障害を取り除いたり、軽減して日常生活を容易にするための医療費に係る自己負担額が軽減できている。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・申請書だけでなく医療機関からの意見書及び所得等により、市で判定を行っている。また、内容によっては県へ判定依頼等を行い、適正に実施することが出来ている。

事務事業の概要

事務事業名	障害者施設運営等支援事業	担当課	障害福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	634

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	9 障害者総合支援費		基本施策	3	障害者の自立支援
			取組方針	2	地域で自立した生活をするための支援

事業概要	ひきこもり状態にある人や障害者等の相談に応じるとともに、居場所を確保するための障害者等の施設の運営支援や補助を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	ひきこもり支援ステーション事業	⑤		⑨	
②	障害者グループホーム等整備事業補助金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 ひきこもり支援ステーション事業の居場所利用者数	人	目標	20	20	20	20	20	ひきこもり者の居場所として、個々の状態に合わせた様々な取り組みが実施されている。居場所利用者は若干増加した。
		実績	13	14	16			
＜指標の計算方法＞	市が委託するひきこもり支援ステーション事業の居場所を利用した実人数							
活動指標 ひきこもり支援ステーション事業における相談等延べ人数	人	目標	600	600	700	850	850	ひきこもり者やその家族からの相談内容は様々であり、長時間のかかわりが必要である。相談等延べ人数は増加しており、今後も相談のニーズは高いと考えられる。
		実績	588	704	820			
＜指標の計算方法＞	市が委託するひきこもり支援ステーション事業の相談・支援延べ人数							
成果指標 障害者グループホーム定員数	人	目標	110	110	110	130	130	市内に新規設立グループホームは2件であり、また既存グループホームで施設増設により受入人員を増やした施設が1件ある。
		実績	107	117	126			
＜指標の計算方法＞	市内の障害者グループホームの定員数							
成果指標 障害者グループホーム新設数	箇所	目標	1	1	1	1	1	市内に新規設立のグループホームが2件あった。また、災害に備え施設を増設し、既存施設受入人員を移動させている施設が1件あった。
		実績	0	0	2			
＜指標の計算方法＞	市内の障害者グループホーム新設数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
11,008	4,004					7,004

事業の実績

①ひきこもり支援ステーション事業
　ひきこもり状態にある者及びその家族に対する支援を実施
・事業内容　ひきこもり相談、居場所提供、
　　地域ネットワークの構築
　　自立・就労コーディネート
・事業委託先（社福）一麦会
・設置場所　麦の郷 ハートフルハウス創
　　（粉河853-3）
・利用者数　ひきこもり相談（実）　32人
　　（延）820人
　　居場所の利用　（実）　16人
　　（延）592人

②障害者グループホーム等整備事業補助金
　　補助件数　　1件
　※補助対象外のグループホーム新設
　　2箇所
　既存のグループホーム増設
　　1箇所

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・ひきこもり状態のある人の居場所としての役割は大きい。今後も多様な相談に応じ、ひきこもり状態にある人の社会参加を支援する事業として継続していく必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・ひきこもり状態にある人とその家族への支援は、面談だけでなく訪問やメールなど個々のニーズに応じて様々な方法で実施しているが、長期的なかかわりが必要であり、関係機関と連携しながら継続して支援していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・生活困窮者就労準備支援事業費等補助金の国庫補助を活用し、ひきこもり支援ステーション事業として効率的に事業実施ができている。

事務事業の概要

事務事業名	老人福祉施設入所支援事業	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	640

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	3 民　生　費		施策目標	3	福祉
予算科目 項	1 社会福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
予算科目 目	10 老人福祉費		取組方針	3	高齢者の尊厳への配慮と安全・安心な生活環境の確保

事業概要	市民（入所対象者等）が安心して生活を送れるように、老人福祉施設への入所に関する支援や拠点施設の運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	老人ホーム入所判定委員会運営	⑤	高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金	⑨	
②	老人福祉施設入所者負担金徴収	⑥		⑩	
③	生活支援ハウス運営事業委託	⑦		⑪	
④	老人福祉施設入所者措置	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 生活支援ハウス利用率	%	目標						令和7年度は入所者が2名増え、合計3名となり入所率は令和6年度並みとなった。
		実績	33.8	17.2	17			
＜指標の計算方法＞	年間延べ利用日数÷（365日×施設定員数（10人））							
活動指標 高齢者向け優良賃貸住宅利用率	%	目標						令和7年度は1名が退去し2名が入居したため、利用率は増加した。令和7年9月末時点では18/20（部屋）の利用状況で、補助制度は終了となった。
		実績	73.9	82.2	92.16			
＜指標の計算方法＞	年間延べ利用日数÷（365日×施設定員数（20人））							
活動指標 養護老人ホーム入所者措置数	人	目標						入居者2名、死亡による退去者8名、入院継続等の退去者は3名となり、措置者は減少となったが、虐待や緊急処置により急増することも考えられる。
		実績	37	31	22			
＜指標の計算方法＞	養護、特別養護老人ホームへの入所措置数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
68,037	980				8,251	58,806

事業の実績

①老人ホーム入所判定委員会運営
　入所措置、措置継続の要否判定
　委員数　8人・入所措置　2人

②老人福祉施設入所者負担金徴収
　収入申告による負担金決定と徴収

③生活支援ハウス運営事業委託
　利用者承認、生活支援ハウス運営委託
　・3月末実人数　3人
　・実利用人数　3人
　・延べ利用日数　619日

④老人福祉施設入所者措置
　3月末措置者数（4施設）　22人
　・養護老人ホーム　白水園　17人
　・養護老人ホーム　喜望園　1人
　・養護老人ホーム　橘寮　0人
　・養護老人ホーム　大日山荘　4人
　年間入所者　2人
　退所者　11人

⑤高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金
　高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金交付
　・9月末実人数　18人
　・延べ利用日数 3,373日

＊平成17年に高齢者向け優良賃貸住宅制度に沿って建設された施設であり、20年間の補助期間が令和7年9月末を持って終了となったため、市からの補助も終了。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・老人福祉法に基づき事業を実施しており、市が事業主体となるのは妥当である。
・「地域包括ケアシステム」の構築には、「医療」「介護」「介護予防」「住まい」「生活支援」のサービスが一体的に切れ目なく提供される必要があるが、本事業においては「住まい」の部分で欠かすことの出来ない事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・高齢者虐待や家庭事情などにより、居宅での生活が困難と判断した高齢者に対し、安心安全な生活を確保する上で有効である。
・生活全般に自立している方は、本人の自立度により「生活支援ハウス」を活用してもらえるように支援していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・措置費等については、国や県の基準に基づき設定され、収入等に応じた受益者負担を求めている。
・事業実施にあたっては、必要最小限の人員で対応している。

事務事業の概要

事務事業名	介護予防・高齢者自立支援事業	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	649

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉	
予算科目 目	10 老人福祉費	基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進	
		取組方針	1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進	

事業概要：市民（高齢者）が住み慣れた地域で自立した日常生活を送れるように、各種サービスの提供を行う事業

事務事業を構成する細事業

① 生活管理指導短期宿泊	⑤ 通信機能電球整備	⑨ 介護予防事業委託
② 外出支援サービス	⑥ 高齢者居宅改修補助金	⑩ 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業
③ 防災力向上事業	⑦ 老人日常生活用具給付	⑪ フレイル予防推進事業
④ 緊急通報体制整備	⑧ 高齢者訪問理容サービス利用助成券給付	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 外出支援サービス利用者数	人	目標	50	50	50	50	50	一般公共交通機関を利用することができない要介護4・5と認定された方を自宅から医療機関へ送迎するサービス。利用者数は減少している。
		実績	33	29	12			
＜指標の計算方法＞	年間利用実人数							
成果指標 救急情報キット配布数	世帯	目標	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	防災力の向上のため、65歳到達者の介護保険被保険者証送付時に案内チラシを同封し、希望者に救急キットを配布。また、災害時要援護者の個別計画作成の際、周知啓発を行い希望者に配布している。
		実績	8,155	8,203	8,261			
＜指標の計算方法＞	年度末配布済累計数（65歳以上の高齢者がいる全世帯対象）							
活動指標 緊急通報システム設置数	台	目標	350	350	350	350	350	設置台数は減少傾向。見守り付き高齢者住宅や有料老人ホームの整備が進み、それら施設への入所や死亡等により新規登録者数よりも撤去数が多くなったこと、また近所付き合いが希薄な状況から、協力員の確保が出来ないことが考えられる。
		実績	256	234	217			
＜指標の計算方法＞	年度末設置台数							
活動指標 高齢者訪問理容サービス利用助成券給付	人	目標	30	30	30	30	30	要介護3～5の在宅生活をする高齢者宅を訪問して理容サービスを提供する事業。令和6年度よりも新規利用者が増加した。
		実績	16	14	18			
＜指標の計算方法＞	年間利用実人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
31,219						31,219

事業の実績

①生活管理指導短期宿泊
利用者数　2人

②外出支援サービス
延べ人数　13人　延べ利用回数　15回

③防災力向上事業
希望者に救急情報キット配布　58個

④緊急通報体制整備
3月末設置台数　217台
延べ利用回数　35回

⑤通信機能電球整備
3月末設置台数　27台
延べ利用回数　51回

⑥高齢者居宅改修補助金
実績　0件

⑦老人日常生活用具給付
実績　1件（電磁調理器1件）

⑧高齢者訪問理容サービス利用助成券給付
実人数　18人
延べ利用回数　27回

⑨介護予防事業委託
介護予防拠点施設「蛍の里」において、生きがい活動支援等の介護予防活動を社会福祉協議会に委託して実施
延べ利用者数　988人

⑩認知症高齢者等個人賠償責任保険事業
保険加入決定者数　52人

⑪フレイル予防推進事業
きのかわフレイル予防ポイント（アプリ）
登録者数　892人（新アプリ移行に伴う退会者数は不明）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・対象者の審査に関して、所得状況、身体状況、家族形態等の個人情報が必要となるため、市が事業主体となるのは妥当である。
・認知症高齢者等個人賠償責任保険事業実施要綱に基づき、認知症の方やその家族が地域で安心して生活することができるよう環境づくりをし、支援することは妥当である。
・高齢者等への健康づくり支援とフレイル予防対策に取組むことは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・介護保険事業での給付費、保険料の抑制を図るための事業で有効性は高い。
・認知症の方やその家族が地域で安心して生活することができる環境を整備することは有効である。
・心身機能や運動機能の低下がみられる高齢者等に対し、健康づくりやフレイル予防等を強化するための取組を充実させることにより有効性を高めた。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・事業実施については、すべて社会福祉法人等に民間委託し効率化を図っているが、利用が極端に少ない事業については、広報等で周知し利用を図っていく。
・認知症高齢者等個人賠償責任保険加入の場合は、地域支援事業で実施のほっと安心ネットワーク事業への登録を必須としていることから、早期発見、早期対応や事故等の未然防止につながるため効率性は非常に高い。
・高齢者等に対し、継続して効率的にフレイル予防の取組の推進ができた。

事務事業の概要

事務事業名	高齢者生きがいづくり事業	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	668

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉	
予算科目 目	10 老人福祉費	基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進	
		取組方針	1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進	

事業概要：市民（高齢者）に更なる健康と長寿の意欲を持ってもらえるように、長寿祝金の支給、敬老会の開催補助、高齢者団体の活動支援を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	長寿祝金支給	⑤		⑨	
②	敬老会補助金	⑥		⑩	
③	老人クラブ補助金	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 長寿祝金等支給人数	人	目標						対象者（88歳・100歳・最高齢者男女各１名）に「長寿祝金」等を郵送や訪問により贈呈し、更なる健康と長寿を目指す。
		実績	400	447	432			
＜指標の計算方法＞ 年度末人数								
成果指標 敬老会参加者数	人	目標						旧町単位で実行委員会を中心としてイベント形式での敬老会を開催した。参加者数は横ばいであるが、高齢者の生きがいに繋がっていると考える。
		実績	2,903	2,928	2,991			
＜指標の計算方法＞ 敬老会行事（旧町単位開催）への参加者数								
活動指標 老人クラブ補助金対象者数	人	目標						対象者が生きがいを持ち、健康で生き生きとした活動ができるよう、対象人数に応じた補助金を交付。高齢化により役員のなり手不足のため休会する地区などが増え会員数が減少している。
		実績	9,139	8,171	7,888			
＜指標の計算方法＞ 老人クラブ会員数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
25,819		3,525		10,000		12,294

事業の実績

①長寿祝金支給
対象者　（ 88歳　398人）
　　（100歳　32人）
　　（最高齢　男女各1名）
・88歳（5千円相当商品券）
・100歳（3万円と記念品）
・最高齢（5万円と記念写真）

②敬老会補助金
実行委員会を中心とした敬老行事実施に対する補助金を交付
　70歳以上対象者 16,826人

③老人クラブ補助金
老人クラブ会員が行う活動（清掃活動やペタンク・グラウンドゴルフ大会等）に対する補助金を交付
　142クラブ
（30人以上109クラブ、30人未満33クラブ）

事業の事後評価

妥当性　評価結果：改善の余地がない

・今日の日本社会の礎を築き、多年にわたり社会に貢献されてきた高齢者に対し、感謝の意を表し、敬意の心を持ってその長寿を祝うための行事を催すことは、行政として一定の妥当性がある。

有効性　評価結果：改善の余地がややある

・高齢者が清掃やスポーツ大会を通じて自ら地域福祉の増進を目的とし、活性化を図る事業であり有効である。

効率性　評価結果：改善の余地がややある

・敬老会補助金は、高齢化が進むにつれて、補助対象者の範囲の縮小等の見直しの検討が必要である。

事務事業の概要

事務事業名	地域見守り支援事業	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1114

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉
予算科目 目	10 老人福祉費	基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
		取組方針	1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進

事業概要	市民が地域で支え合い、安全・安心に暮らせるように、地域見守り協力員による見守り活動を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	地域見守り活動準備事業	⑤		⑨	
②	地域見守り活動事業	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	見守り活動（フレイルチェック）実施回数	回	目標	145	45	45	45	45	活動目標としている週1回程度の開催を、ほぼ目標どおり実施できた。
			実績	40	42	44			
	＜指標の計算方法＞	紀の川歩（てくてく）体操活動拠点においてフレイルチェックを実施した回数							
成果指標	地域見守り協力員数	人	目標	200	200	200	200	200	広報等で事業内容の周知やフレイルサポーター養成講座の開催等で、新たな協力員の加入に繋がった。
			実績	121	144	149			
	＜指標の計算方法＞	フレイルサポーター数、募集による協力員登録者数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
861		861				

事業の実績

①地域見守り活動準備事業
・広報等で事業内容の周知
・フレイルサポーター養成講座の開催
・地域見守り協力員数 延べ149人（内フレイルサポーター数　87人）

②地域見守り活動事業
・日常生活の中で地域の見守りをしていただき、気付いた点を報告してもらう等、連携を取った。
・地域見守り活動委託料
・見守り活動実施回数　44回
（フレイルチェックによる地域の見守り活動を行った）
・地域見守り協力員報償金

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・県地域見守り協力員制度実施要綱により市町村実施に関する役割が定められている。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・広報等や区長会等で、事業紹介を行い、またフレイルサポーター養成講座を行い新たな協力員の増員に繋げる。目標値を下回っているため、引き続き周知する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・県補助金を活用した事業で効率性は非常に高い。

事務事業の概要

事務事業名	災害時要援護者対策事業	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	672

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民生費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	10 老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
			取組方針	3	高齢者の尊厳への配慮と安全・安心な生活環境の確保

事業概要：要援護者が円滑に避難できるように、対象者の把握と受入施設の確保を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	災害時要援護者把握	⑤		⑨	
②	災害時要援護者受入対策	⑥		⑩	
③	個別避難計画作成業務	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	災害時要援護者登録者数	人	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	登録者の死亡、転出、施設入所等は少なからずあったが、新たに名簿登載条件になった対象者への意思確認を実施したところ、名簿登録同意者が増加し、令和6年度より微増となった。
			実績	1,064	1,027	1,069			
	＜指標の計算方法＞	年度末登録者数							
活動指標	登録者名簿提供に関する説明回数	回	目標	10	10	10	10	10	区長会は4月、民生委員児童委員協議会では、1月～2月においてそれぞれ旧5町の総会、定例会で制度説明と協力依頼を行った。
			実績	1	10	10			
	＜指標の計算方法＞	区長会、民生委員定例会開催時説明回数							
成果指標	災害時要援護者受入対策協定施設数	施設	目標						協定先は主に市内の福祉施設等であり、令和6年度で協定を取り止めた施設と令和7年度において再度協定の締結をしたため、新規施設１件の増加となった。
			実績			1			
	＜指標の計算方法＞	年度内協定締結数（新規）							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
990						990

事業の実績

①災害時要援護者把握
災害時要援護者避難支援システム保守
4回/年（7月・10月・12月・3月）更新
対象者の異動情報等により、名簿や自宅位置の地図の更新作業を実施
ハザードマップを基に危険地域内の要援護者数を把握

②災害時要援護者受入対策
令和7年度末協定施設数　22施設
受入可能人数　長期 28人、短期　104人

③個別避難計画作成業務
ハザードマップを基に危険地域等に居住する方を優先度の高い要援護者として個別避難計画作成の意思確認を行い作成。
令和７年度
個別避難計画作成意思確認対象者数　81件
・当課にて確認　33件
・居宅介護支援事業所に委託　48件

個別避難計画作成数　16件
・当課にて作成　4件
・居宅介護支援事業所に委託　12件

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・市の地域防災計画に基づく事業であるため、市が実施主体となるのは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・平時から行政及び各地域において、市内に在住する災害時要援護者情報を把握し、地域内や関係機関と情報共有することにより、災害発生時等での迅速な対応に繋げることが出来るため有効である。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・システムの整備により、要援護者の把握は出来ているが、個別避難計画については時間を要するため、整備を進めるのは容易ではないことから、令和6年度より居宅介護支援事業所に一部委託し、福祉専門職の参画により対象者情報のとりまとめ等が効率的に進められ進捗が図られた。
・本来は災害時要援護者名簿に登録されるべき要介護度3以上等の住民であっても、本人及び家族の同意がない場合は、名簿に登録されないため、潜在的な要援護者が多く存在すると思われる。

事務事業の概要

事務事業名	高齢者福祉施設管理運営事業	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	35

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉	
予算科目 目	10 老人福祉費	基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進	
		取組方針	1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進	

事業概要	市民が高齢者福祉施設を安全で快適に利用できるように、適正な維持管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	介護予防施設管理（蛍の里）	⑤		⑨	
②	老人憩の家施設管理	⑥		⑩	
③	旧白水園多目的ホール施設管理	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 介護予防拠点施設利用者数	人	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	高齢者に介護予防と健康増進のため活用してもらえるよう施設の維持管理を行っている。利用者数は、ほぼ横ばいである。
		実績	992	1,098	988			
＜指標の計算方法＞	年間延べ利用者数							
成果指標 老人憩の家利用者数	人	目標	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	高齢者の交流の場として開放しているが、継続して利用する人が固定化している。新規利用者が増えていないことが減少した要因である。
		実績	403	131	95			
＜指標の計算方法＞	年間延べ利用者数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,327						3,327

事業の実績

①介護予防施設管理（蛍の里）
・電気設備点検
・施設劣化調査
・各種施設管理委託
・簡易な施設修繕
・延べ利用者数　988人

②老人憩の家施設管理
・延べ利用者数　95人

③旧白水園多目的ホール施設管理
・従来行なわれている高齢者介護予防体操拠点継続のため施設の維持管理を実施

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地域福祉を目的とした事業を実施する施設であるため、施設の維持管理等を市が主体となって実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・高齢者の生きがいづくりの場として、また、地域に密着した事業を実施していくために必要な施設である。
・施設の適正な維持管理を行うことにより、地域住民が安心して集まることができる場所を確保することができるため有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・随時必要とされる維持管理を実施しているため効率性はよい。

事務事業の概要

事務事業名	社会福祉法人利用者負担助成事業	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1077

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 社会福祉費	施策目標	3	福祉	
予算科目 目	11 介護保険費	基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進	
		取組方針	1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進	

事業概要：市民（低所得の高齢者）が安心して介護サービスを利用できるように、社会福祉法人等が行う介護サービスの利用者負担の軽減に対する支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	社会福祉法人利用者負担助成事業補助金	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 利用法人数	法人	目標	5	5	5	5	5	助成事業を利用した法人等の数は令和6年度と比較して1法人増加した。利用者負担の軽減を実施しているが、利用者負担の軽減を満たさなかった、または社会福祉法人の社会的役割として軽減分を負担し助成を受けていない場合があると考えられる。
		実績	1	2	3			
＜指標の計算方法＞	社会福祉法人利用者負担助成事業補助金の交付法人数							
活動指標 社会福祉法人等利用者負担軽減対象確認証発行数	件	目標						低所得で生計維持が困難と認められる者であるか等の要件を確認し、該当する場合は確認証を発行・交付する。交付状況は近年横ばいである。
		実績	24	29	25			
＜指標の計算方法＞	年度末発行数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
316		237				79

事業の実績

①社会福祉法人利用者負担助成事業補助金

・交付法人及び対象者数
社会福祉法人健正福祉会　1人
社会福祉法人紀の国福樹会　3人
社会福祉法人喜成会　2人

・補助金交付額
社会福祉法人健正福祉会　95,114円
社会福祉法人紀の国福樹会　196,191円
社会福祉法人喜成会　24,455円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・低所得で生計困難である利用者に対し、介護サービスを提供する社会福祉法人等がその社会的役割として利用者負担の軽減を図ることにより、利用者の介護サービスの利用促進が図られている。その際の財政的な負担を軽減するため、市で助成を行う事業であり、妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・低所得で生計困難である利用者が、サービス利用時に確認証を提示することにより、利用する社会福祉法人等がその負担を軽減することにより、利用者が経済的な制限を受けることなく必要なサービスを利用することが可能となっている。
・軽減対象である利用者は横ばいながらも一定数あるが、補助金の交付を申請した法人は、数年前と比較すると少ないため、周知に努める。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・軽減を受ける利用者は、社会福祉法人等から利用者負担額（自己負担額）を請求される際、すでに軽減を受けた分が請求されるため、利用者の手間の負担はない。
・社会福祉法人等から市への助成申請等については、申請から交付までの手順の効率化を図っている。
・助成は、国費及び県費を活用し、市の財政的負担の軽減を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	介護保険施設等整備補助事業	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ
				事業番号	1100

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	3 民　生　費		施策目標	3	福祉
予算科目 項	1 社会福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
予算科目 目	11 介護保険費		取組方針	4	介護保険制度の持続可能性の確保

事業概要	介護保険施設の整備等を行う介護サービス事業所等に対し、その費用の一部を補助する事業

事務事業を構成する細事業					
①	介護施設等の施設開設準備経費等支援事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 申請件数	件	目標						本事業を活用した法人は2法人、申請件数は3件となった。グループホームの開設準備やICT等の導入を支援した。
		実績			3			
＜指標の計算方法＞	申請件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
23,581		23,581				

事業の実績

①介護施設等の施設開設準備経費等支援事業

・グループホーム開設準備
　社会福祉法人　聖アンナ福祉会
　　ネスティベース
　　補助額　5,761,000円

・施設等の大規模修繕時に行うICT等の導入
　社会福祉法人　渉久会
　　グループホーム桃の庵
　　補助額　8,910,000円
　　グループホーム自然の郷
　　補助額　8,910,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地域の実情に応じた介護サービス提供体制の整備の促進を図るため、介護施設等における開設やＩＣＴ化への支援を行う事業であり、妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・介護施設等における開設やＩＣＴ化への支援を行うことで、介護サービス提供体制の整備を促進することができ、高齢者（利用者）が住み慣れた地域で継続的に日常生活を営むことができる。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・全額県費補助金を活用し事業を実施しており、市の財政負担は無いため効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	人権推進事業	担当課	人権施策推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	684

会計				長期総合計画体系			
一般会計				政策目標	5	地域づくり・行政経営	
予算科目	款	3	民　生　費	施策目標	1	人権尊重	
	項	1	社会福祉費	基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現	
	目	12	人権推進費	取組方針	2	人権啓発・教育の推進	

事業概要	差別のない明るいまちづくりを目指すために、関係団体、関係機関と連携、協力を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	人権施策推進懇話会運営	⑤	人権委員会補助金	⑨	
②	人権委員会運営	⑥		⑩	
③	人権推進活動	⑦		⑪	
④	和歌山人権研究所負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 人権委員会理事会・代議員会の開催回数	回	目標	4	4	4	4	4	全てのイベントを開催するにあたり、目標どおり開催することができた。
		実績	2	4	4			
＜指標の計算方法＞	年間開催回数							
成果指標 人権推進活動における参加者数	人	目標	500	750	750	500	500	市民ニーズに合わせ、さまざまな人権を対象とした人権研修を実施しており、まだまだ目標値には及ばないが、継続して実施していきたい。
		実績	238	308	214			
＜指標の計算方法＞	年間参加者数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
9,001		1,000				8,001

事業の実績

①人権施策推進懇話会運営
・第1回（5/13）：人権施策基本方針に基づく施策の取組状況について各課からのヒアリング報告とフィードバック
・第2回（6/24）：紀の川市人権施策基本方針（第3次改定版）の素案について
・第3回（8/19）：紀の川市人権施策基本方針（第3次改定版）の素案について
・第4回（10/1）：紀の川市人権施策基本方針（第3次改定版）の素案について
・第5回（12/9）：紀の川市人権施策基本方針（第3次改定版）案について
・パブリックコメント
募集期間：令和7年11月7日～12月5日
意見2件

②人権委員会運営
・駅頭、街頭啓発および市内企業を訪問して人権啓発活動を実施：130社
・懸垂幕およびのぼりの設置(市内54ヶ所)
・同和運動推進月間（11/1～11/30）
・人権を考える強調月間（11/11～12/10）

③人権推進活動
人権教育指導員、井阪文化会館長による人権研修を実施
・5/2　庁内人権推進検討委員会　16名
・6/3　新任課長研修　12名
・9/16　庁内人権推進検討委員会　16名
・9/30　新規採用職員研修　27名
・10/28・29　稲穂会病院研修　50名
・11/22　人権研修カレッジ　54名
・2/10　農業委員会研修　15名
・2/16　企業立地連絡協議会研修　24名

④和歌山人権研究所負担金　15,000円
人権問題およびあらゆる差別に関する調査研究、人権啓発研究集会の開催

⑤人権委員会補助金　1,636,000円

基本的人権が尊重され、差別のない社会を実現するための啓発活動に補助
5支部　150名以内で組織

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・人権意識の高揚を図るための施策、その他人権尊重のまちづくりに関する施策を積極的に推進する必要があるため、関係機関等と連携・協力し、事業を行うことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・人権委員会による企業啓発を実施するにあたり、委員のスキルアップに努めるとともに、人権教育指導員等による人権研修の機会を増やせるよう検討する必要がある。
・人権推進活動への参加者を増やすために、庁内各課の各種団体等への啓発活動及び研修への参加を呼びかけ、人権の推進に取り組みたい。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・教育委員会や関係機関等と連携し、人権施策の推進に取り組んでいる。

事務事業の概要

事務事業名	人権啓発活動事業	担当課	人権施策推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	527

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	1	人権尊重
予算科目 目	12 人権推進費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現
			取組方針	2	人権啓発・教育の推進

事業概要	市民の人権意識の高揚を図るために、啓発活動や学習機会の提供を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	人権啓発活動	⑤	人権啓発活動補助金	⑨	
②	人権講演会・映画会	⑥	インターネット上の人権侵害情報のモニタリング	⑩	
③	県人権啓発センター負担金	⑦		⑪	
④	人権教育啓発推進センター負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 人権擁護委員の日並びに人権週間時の啓発箇所	箇所	目標	16	16	16	16	16	6/3と12/4の特設人権相談終了後、市内8ヶ所において啓発活動を実施した。（打田2、粉河2、那賀2、桃山1、貴志川1）×2回
		実績	16	16	16			
＜指標の計算方法＞	人権擁護委員による啓発活動の実施回数							
活動指標 人権を考える強調月間及び同和運動推進月間時の啓発箇所	箇所	目標	10	10	10	10	10	人権を考える強調月間および同和運動推進月間に駅頭等で啓発活動を実施した。（打田4、粉河1、那賀1、桃山1、貴志川3）
		実績	10	10	10			
＜指標の計算方法＞	人権委員による啓発活動の実施							
成果指標 人権講演会・映画会参加延べ人数	人	目標	800	800	800	800	800	今年度は合併20周年記念事業として開催し、人権講演会、人権映画会ともに多くの方に来場していただけた。
		実績	292	576	803			
＜指標の計算方法＞	人権講演会・映画会参加者数（定員400名）							
成果指標 市内イベント啓発活動延べ動員人数	人	目標	150	150	150	150	150	流し雛啓発が悪天候により開催できなかったこともあり目標には届かなかったが、どのイベント会場でも多くの来場者に啓発活動を実施することができた。
		実績	90	69	100			
＜指標の計算方法＞	イベント時の人権委員啓発活動数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
6,300		980				5,320

事業の実績

①人権啓発活動
・人権委員によるまつり会場等での啓発活動を実施
4/5　桃山まつり啓発（桃山支部）
8/24　市民まつり啓発（打田支部）
10/25　文化祭啓発（粉河支部）
10/26　青洲まつり啓発（那賀支部）
11/1　文化祭啓発（打田・桃山支部）
11/23　産業まつり啓発（貴志川支部）
3/3　流し雛啓発（粉河支部）雨天中止
・統一啓発での駅頭・街頭啓発啓発及び市内企業啓発を実施（各支部）
・人権擁護委員による特設人権相談終了後の啓発活動を実施
・人権月間中に、本庁1階にてパネル展示

②人権講演会・映画会（ホール田園）
・7/19　人権映画会「梅切らぬバカ」
参加者：421名
・11/8　人権講演会　講師：堀ちえみ氏
「ステージⅣの舌ガンを乗り越えて生きる」参加者：382名

③県人権啓発センター負担金　78,000円
人権に関する情報の収集・提供及び人権啓発活動

④人権教育啓発推進センター負担金
40,000円
人権に関する国際的・国内的動向を踏まえ、人権教育・啓発活動を行う各種団体への支援及び情報提供

⑤人権啓発活動補助金　100,000円
人権講座
・5/30　講師：鳥渕朋子氏　参加者77名
「企業の社会的責任、役割と人権地域社会の実現」
・11/14　講師：黒川みどり氏 参加者67名
「部落差別の歴史と現状と課題」

⑥インターネット上の人権侵害情報のモニタリング実施状況
削除依頼件数：12件　削除件数：5件

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・紀の川市人権尊重のまちづくり条例に定められているとおり、人権意識の高揚を図るための施策、その他人権尊重のまちづくりに関する施策を積極的に推進する必要があるため、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・インターネットモニタリングを実施し、悪質な差別書込み等の早期発見、拡散防止に努め、インターネット上での人権侵害等を防止するための啓発活動を実施している。
・人権講演会、人権映画会を開催し、多くの参加者に人権施策を推進しているが、更なる啓発活動の検討も必要である。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・県の助成制度を活用して啓発物資の購入を行っており、啓発活動についても人権委員会と協力して実施している。また、教育委員会や関係機関とも連携し、効率的な事業を実施していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	人権擁護事業	担当課	人権施策推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1069
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標 5 地域づくり・行政経営		
予算科目 款	3 民　生　費		施策目標 1 人権尊重		
予算科目 項	1 社会福祉費		基本施策 1 人権が尊重された差別のない社会の実現		
予算科目 目	12 人権推進費		取組方針 1 人権擁護・保護の充実		
事業概要	市民を人権侵害から守るために、関係団体、関係機関の活動支援を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	人権相談	⑤	更生保護女性会補助金	⑨	
②	県人権擁護委員協議会負担金	⑥	人権擁護委員会補助金	⑩	
③	県更生保護協会負担金	⑦		⑪	
④	保護司会補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 人権相談開設回数	回	目標	22	22	20	20	20	6月と12月の特設相談（市内5か所）とそれ以外の毎月開催（市内1か所）の人権相談は、予定どおり開催することができた。
		実績	22	21	20			
＜指標の計算方法＞ 人権擁護委員による人権相談回数								
成果指標 人権相談件数	件	目標						相談件数は少ないことが望ましいが、今後も人権相談において、安心して相談できる環境をつくるとともに、相談体制の充実、周知に努める。
		実績	6	2	5			
＜指標の計算方法＞ 人権擁護委員による相談件数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,132						1,132

事業の実績

①人権相談
人権擁護委員による人権相談の実施
相談件数　5件

②県人権擁護委員協議会負担金　323,000円
人権尊重思想の普及高揚を図るための各種啓発事業を実施

③県更生保護協会負担金　10,800円
犯罪や非行を防止するとともに、更生保護事業を推進

④保護司会補助金　452,000円
犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える活動に補助
第75回「社会を明るくする運動」の展開

⑤更生保護女性会補助金　251,000円
犯罪予防や青少年の健全育成のための活動に補助
第75回「社会を明るくする運動」の展開

⑥人権擁護委員会補助金　95,000円
法務局と連携し、人権相談や被害者の救済等、人権啓発活動に補助
毎月人権相談所を開設し、人権相談を実施

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・「紀の川市人権尊重のまちづくり条例」を全部改正し、相談支援体制の充実を図ることを重点施策とし、市が積極的に関与していくことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・インターネット上への悪質な差別書込み等の対応が課題となっている中、新たな法律が施行され、関係機関と連携しながら相談支援業務を充実させるよう事業を進めている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・複雑・多様化する人権課題の解決に取り組むため、関係団体等への支援を行うことで、協力・連携を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	男女共同参画推進事業	担当課	人権施策推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	474

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	1	人権尊重
予算科目 目	12 人権推進費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現
			取組方針	3	男女共同参画のまちづくりの推進

事業概要	市民の男女共同参画意識の醸成を図るために、啓発活動や研修会の開催を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	女性会議運営	⑤		⑨	
②	女性会議補助金	⑥		⑩	
③	男女共同参画推進	⑦		⑪	
④	パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 市の行政機関等における委員会等の女性登用率	%	目標	35	35	35	35	35	女性委員数に増減はないが、委員の総数が増加したため割合が減少した。
		実績	8.8	11.8	11.4			
＜指標の計算方法＞	市で設置している審議会・委員会委員の総数に対する女性の割合							
成果指標 研修会等の参加者数	人	目標	50	50	50	50	50	目標人数には及ばなかったが、参加者数は増加傾向であり、各団体の交流と男女共同参画推進への意識向上につながっている。
		実績	23	29	29			
＜指標の計算方法＞	紀の川市女性会議が開催する研修会に参加した人数　(延べ人数)							
活動指標 啓発活動	回	目標	2	2	2	2	2	6月の「男女共同参画週間」、11月の「女性に対する暴力をなくす運動」期間ともに、多くの方に啓発活動を実施することができた。
		実績	2	2	2			
＜指標の計算方法＞	県と合同で実施する啓発活動の回数							
活動指標 研修会の開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	講義型研修および視察研修は計画どおり開催でき、各団体の交流と男女共同参画推進への意識向上につながった。
		実績	2	2	2			
＜指標の計算方法＞	紀の川市女性会議が開催した回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
181						181

事業の実績

①女性会議運営
・5/22　講義型研修実施（12名参加）
・11/21　県外研修実施（17名参加）

②女性会議補助金　135,000円
9団体
相互の連携を深め、協調して女性の地位向上と福祉の増進を図るための実践活動を推進

③男女共同参画推進
・県と合同で市内店頭啓発を実施
・男女共同参画週間（6/23～6/29）
・女性に対する暴力をなくす運動
（11/12～11/25）
・パープルライトアップ
実施日：令和7年11月25日
場　所：青洲の里

④パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度（令和7年4月1日開始）
・宣誓組数　0件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・男女共同参画推進プランに沿って、あらゆる世代の人が性別に関わりなく、社会の一員としてお互いを認め、それぞれの個性と能力を発揮できる社会の実現のため、市民や各種団体が主体的に活動を実施していくことが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・男女共同参画のまちの実現に向け、広報紙・ホームページなどを活用し、広く情報提供していくとともに、市民への理解や意識改革を浸透させるよう、街頭啓発等を実施して事業を推進していく必要がある。
・パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の活用可能なサービスの拡大に努めるとともに、制度の周知方法についても検討する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・関係各課との情報の共有及び連携の強化を図るとともに、市民ニーズを把握しながら事業を推進していく。

事務事業の概要

事務事業名	隣保館運営事業	担当課	人権施策推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	685
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	3 民生費		施策目標	1	人権尊重
予算科目 項	1 社会福祉費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現
予算科目 目	12 人権推進費		取組方針	2	人権啓発・教育の推進
事業概要	市民の生活や文化の向上につなげるために、各種教室の開催や相談業務等を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	隣保館運営	⑤	県隣保館連絡協議会負担金	⑨	
②	隣保館施設管理	⑥		⑩	
③	地域交流業務	⑦		⑪	
④	県社会福祉協議会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	受講者数	人	目標	2,040	2,040	2,040	2,040	2,040	受講者の高齢化及び新規受講者の減少により受講者数が減少傾向となった。
			実績	1,523	1,458	1,424			
	＜指標の計算方法＞	古和田会館・井阪文化会館における各教室の受講者数(延べ人数)							
活動指標	各教室開催数	回	目標	180	180	180	195	195	井阪文化会館において、令和7年度より新たにストレッチ教室を開催したため、教室開催数が増加した。
			実績	179	180	192			
	＜指標の計算方法＞	古和田会館・井阪文化会館における各教室の開催数							
成果指標	健康増進機器利用者数	人	目標	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700	利用者がほぼ固定化し、利用者数は横ばい状態である。
			実績	7,308	7,063	7,040			
	＜指標の計算方法＞	古和田会館・井阪文化会館における健康増進機器の利用者数(延べ人数)							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
16,918		4,277			140	12,501

事業の実績

①隣保館運営
・各種相談事業
　職業相談の実績
　　古和田会館　12回　0件
　　井阪文化会館　12回　0件
・「会館だより」の発行（年4回）
　　6月　165部
　　9月　178部
　　12月　165部
　　3月　165部

②隣保館施設管理
・古和田会館会議室排煙窓オペレーター修繕
・古和田会館分電盤修繕
・古和田会館配線修繕
・古和田会館擁壁修繕
・老人憩いの家瓦屋根雨漏り修繕
・井阪文化会館浄化槽ブロワー修繕
・井阪文化会館相談室アコーデオンカーテン修繕

③地域交流業務
・各種教室を開催
　※古和田会館
　　書道　：12回　80人
　　太極拳　：24回　182人
　　ストレッチ：24回　113人
　　男性料理　：12回　80人
　　女性料理　：10回　54人
　　脳トレ健康：12回　228人
　　英会話　：13回　93人
　　歩き方　：12回　132人
　※井阪文化会館
　　編み物　：12回　68人
　　料理　：13回　69人
　　手芸　：12回　69人
　　子ども硬筆：24回　120人
　　ストレッチ：12回　136人
・健康増進機器の利用者数
　※古和田会館　4,096人
　※井阪文化会館　2,944人

④県社会福祉協議会負担金
・他の行政機関との連携を図る

⑤県隣保館連絡協議会負担金
・隣保館事業についての調査研究及び情報交換

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・隣保館は部落差別をはじめとするあらゆる人権問題の解決に向けて、人権啓発の推進、周辺地域との交流や相談事業、各種事業を展開していくことが目的であるため、市が運営していくことが望ましい。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・交流促進事業として各教室を開催することに加え、新たな教室開催に向けた利用者アンケート結果を参考にし、ストレッチ教室を開催することができた。
・職業相談や人権相談などの事業について、利用者を増やすためのよりよい周知方法を考える必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・隣保館事業については、補助金を活用することで効果的に実施した。
・効果的かつ効率的な運営を心掛け、コストの削減を図りながら、多様化する住民のニーズにも対応した事業の展開が必要である。

事務事業の概要

事務事業名	低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 6 ～ R 7）
				事業番号	1251

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	3 民　生　費		施策目標	3	福祉
予算科目 項	1 社会福祉費		基本施策	1	地域福祉の推進
予算科目 目	13 低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業費		取組方針	9	その他

事業概要	「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」を踏まえ、令和6年度住民税非課税世帯へ給付金を給付する事業

事務事業を構成する細事業					
①	低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業（非課税）	⑤		⑨	
②	低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業（こども加算）	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 非課税世帯給付件数	世帯	目標						支給対象世帯に迅速に給付することができた。
		実績		4,834	1,837			
＜指標の計算方法＞	非課税世帯給付件数							
成果指標 非課税世帯の内こども加算対象世帯数	世帯	目標						支給対象世帯に迅速に給付することができた。
		実績		364	127			
＜指標の計算方法＞	非課税世帯の内こども加算対象世帯数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
68,819	68,819					

事業の実績

①低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業（非課税）
・非課税世帯給付件数　1,837世帯

②低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業（こども加算）
・こども加算世帯給付件数 127世帯（202人）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・国の制度に基づく事業であるため、市が実施主体となることは妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」を踏まえ、住民税非課税世帯へ給付金を支給することには有効性がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・給付金額、事務費については、全額が国からの補助でありコスト面での改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	定額減税補足給付金給付事業（不足額給付）	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ	事業番号	1252

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	14 定額減税補足給付金給付事業費		基本施策	1	地域福祉の推進
			取組方針	9	その他

事業概要	令和6年度に定額減税を補足するため実施した調整給付金について、令和6年所得等の実績が確定したことで、本来給付すべき額と実際の給付額に差額が生じた人に対し、不足額を給付する事業

事務事業を構成する細事業					
①	定額減税補足給付金給付事業（不足額給付）	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
不足額給付件数	人	目標						支給対象者に迅速に支給することができた。
		実績			7,510			
＜指標の計算方法＞	不足額給付件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
247,959	247,801					158

事業の実績

①定額減税補足給付金給付事業（不足額給付）
・不足額給付件数
7,510人　226,850,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

国の制度に基づく事業であるため、市が実施主体となることは妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

「デフレ完全脱却のための総合経済対策」を踏まえ、支給対象者へ給付金を支給することには有効性がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

給付金額、事務費については、国からの補助金を最大限活用している。

事務事業の概要

事務事業名	物価高騰対応生活支援給付金給付事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度（R 7 ～ R 8）
				事業番号	1257

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	15 物価高騰対応生活支援給付金給付事業費		基本施策	1	地域福祉の推進
			取組方針	9	その他

事業概要：国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、物価高対策の一環として、1人につき1万2千円を給付する事業

事務事業を構成する細事業

①	物価高騰対応生活支援給付金給付事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 対象世帯支給件数	世帯	目標						支給対象世帯に、支給の案内を行うことができた。給付は、令和8年度に行う。
		実績						
＜指標の計算方法＞	対象世帯支給件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,689	1,552					1,137

事業の実績

①物価高騰対応生活支援給付金給付事業
・通知送付対象世帯数（R7.12.1現在）
27,324世帯（58,332人）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・国の重点支援地方交付金を活用した事業であるため、市が実施することは妥当性がある。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・国の重点支援地方交付金を活用し、支給対象世帯に給付金を支給することは有効性がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・給付金額、事務費については、国からの補助金を最大限活用している。
・経費率も3%であるため適正な水準である。

事務事業の概要

事務事業名	児童相談・虐待防止事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	708

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	1 児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援
			取組方針	2	児童虐待防止対策の強化

事業概要	児童への虐待を防止するために、家庭児童相談・支援、防止啓発を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	児童相談	⑤		⑨	
②	児童虐待防止対策	⑥		⑩	
③	子育て支援プログラム	⑦		⑪	
④	要保護児童支援ネットワーク事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 要保護児童支援ネットワーク会議	回数	目標	11	13	13	13	13	令和5年度から和歌山児童家庭支援センターによるアドバイザー事業を導入し会議を実施している。児童虐待通告人数は依然として増加傾向にあることから会議の開催回数を維持し実施した。
		実績	11	13	13			
＜指標の計算方法＞	会議の開催回数							
活動指標 児童虐待防止・子育て支援講演会	回数	目標	1	1	1	1	1	要保護児童対策地域協議会の委員を対象に、里親制度について支援体制の強化に繋がる講演会を実施した。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	講演会の開催回数							
成果指標 子育て支援プログラム（トリプルP）受講者	人	目標	6	6	6	6	6	各子育て支援センターおよび市の広報紙等を通して募集に努め目標値を上回った。
		実績	7	5	8			
＜指標の計算方法＞	受講人数							
成果指標 児童虐待新規受理人数	人	目標	0	0	0	0	0	全国的な傾向と同様に増加傾向にあり、令和7年度は増加となった。
		実績	222	178	245			
＜指標の計算方法＞	年度内新規受理人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
38,327	16,985	1,519				19,823

事業の実績

①児童相談
・職員体制
虐待対応専門員2人
子ども家庭支援員2人　(週5日勤務)
子ども家庭支援員1人　(週2日勤務)
保健師1人
事務職3人
・養護相談(児童虐待)　245人
身体的虐待　82人
心理的虐待　82人
性的虐待　10人
ネグレクト　71人
養護相談(その他)　137人
保健相談　0人
障害相談　0人
非行相談　0人
育成相談　0人
不登校相談　0人
適正相談　0人
発達相談　0人
その他相談　0人

②児童虐待防止対策
(実施状況)
・子どもの居場所づくり事業
(貴志川会場)
期間：令和7年4月～令和8年3月
回数：35回
参加人数：延べ428人
(那賀会場)
期間：令和7年5月～令和8年3月
回数：22回
参加人数：延べ1,098人
(桃山会場)
期間：令和7年5月～令和8年3月
回数：21回
参加人数：延べ564人
・リーフレット配布
紀の川市内の幼稚園・保育園等、小・中学校の全児童の保護者宛に配布
・ポスター掲示
・啓発コーナー設置
場所：紀の川市役所打田生涯学習センター
・オレンジリボンライトアップ
場所：道の駅「青洲の里」屋外
期間：令和7年11月10日～11月21日

③子育て支援プログラム
公募で申し込みがあった8人の市民を対象に前向き子育てプログラムを実施

④要保護児童支援ネットワーク事業
・代表者会議と実務者会議の合同会議を1回開催
・実務者会議を12回開催
合同会議の際に里親制度について講演会(受講者41人)を実施

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・児童福祉法及び児童虐待の防止に関する法律において、児童の福祉に関する家庭相談に応じ、必要な虐待対応を行うことは市の責務と規定されており、市が事業を実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・家庭児童相談とその対応には、その要因も多様化、複雑化しているため、対応できる知識と多様な経験が求められ、今後さらなる専門性を持った人材の配置が必要であり、相談体制の充実と専門性の強化に取り組んでいく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・児童虐待の対応に追われる状況であり、有効で効率的なケースワークへつなぐことが難しい。
・令和6年度から子どもの居場所づくり事業を実施しているが、より効率的な支援策を検討していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	子育て支援事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	704

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	1 児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援
			取組方針	1	安心して子供を産み育てることができる支援の充実

事業概要	安心して子育てができる環境整備を図るため、子育て支援センターやファミリーサポートセンターを拠点に、地域の団体や市民と協働で、相談や教室、子どもの送迎や預かり等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 地域子育て支援センター運営	⑤ ファミリーサポートセンター運営	⑨		
	② 地域子育て支援センター事業補助金	⑥ 助産扶助	⑩		
	③ 子育てサークル支援補助金	⑦ 子育て世帯訪問支援事業	⑪		
	④ 子育て短期支援	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 ファミリーサポートセンター登録会員数	人	目標	430	430	500	500	500	SNSによる発信など、会員数の増加に努めており、年々増加している。
		実績	490	521	524			
＜指標の計算方法＞ 利用会員＋スタッフ会員＋両方会員								
成果指標 子育て支援センター年間利用延べ人数	人	目標	10,700	10,700	10,000	12,000	12,000	在宅育児中の保護者にとって貴重な居場所（交流・相談）となっており、年々増加している。
		実績	9,307	11,187	12,356			
＜指標の計算方法＞ 子育て支援センター（3箇所）の年間延べ利用人数								
成果指標 ファミリーサポートセンター利用件数	件	目標	650	650	540	530	520	預かり、送迎ともに継続利用世帯があり、依頼件数が増加した。
		実績	493	581	628			
＜指標の計算方法＞ ファミリーサポートセンターのサービス利用件数								
成果指標 子育て短期支援事業利用日数	日	目標	28	28	66	66	66	利用件数は大きく変化していないが、育児疲れによるレスパイト利用が増加している。
		実績	30	31	42			
＜指標の計算方法＞ 子育て短期支援事業（ショート・ステイ）の利用日数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
47,521	11,474	11,366			7,443	17,238

事業の実績

①地域子育て支援センター運営
子育て支援センター年間延利用者数
・桃山子育て支援センター
　延べ　5,015人（2,361組）
・那賀子育て支援センター
　延べ　2,817人（1,288組）
・レイモンド子育て支援センター
　延べ　4,524人（2,147組）
・子育て教室　　27回　268組
・赤ちゃん広場　40回　338組

②地域子育て支援センター事業補助金
ながやまこども園子育て支援センターへの運営補助金

③子育てサークル支援補助金
補助金申請サークル　0団体

④子育て短期支援
延利用日数　42日

⑤ファミリーサポートセンター運営
〈R8.3月現在〉
利用会員　　435人
スタッフ会員　71人
両方会員　　18人
（活動状況）
・病児・病後児の預かり　0人
・宿泊を伴う預かり　0人
・緊急度の高い預かり　0人
・緊急度の高い送迎　0人
・保育施設の保育開始時や終了後の子どもの預かり　16人
・保育施設までの送迎　0人
・放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり　3人
・保育施設の休日の預かり　28人
・未就園児の預かり　105人
・習い事の送迎　370人
・その他　106人
（活動件数）　628件

⑥助産扶助
経済的に困窮し、健康保険等に加入していない妊婦に対し、出産にかかる費用を公費負担する制度　1件

⑦子育て世帯訪問支援事業
利用件数　0件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地域で必要とされている子育て支援は多様化しており、市民が安心して子育てできる環境を整え、支援を充実させるためには、市が実施主体となることは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・各施策が市民の抱えている子育ての悩みや負担の軽減につながっているため、有効性は高い。
・多様化が進む市民のニーズに対応するため、各支援の受け皿となる委託先の拡充を引き続き図る必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・子育て支援センター事業やファミリー・サポート・センター事業など、法人に委託することで効率的に事業を実施できている。
・地域子育て支援センター事業補助金については、市民のニーズと費用対効果を再検証し、新たな事業展開を模索していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	ひとり親家庭支援事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	739

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	3	民　生　費	政策目標	2	子育て・教育	
	項	2	児童福祉費	施策目標	1	子育て環境・保育サービス	
	目	1	児童福祉総務費	基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援	
				取組方針	1	安心して子供を産み育てることができる支援の充実	

事業概要	市民（ひとり親世帯）が自立した生活を営めるように、就業支援や経済的援助を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	母子生活支援施設措置	⑤		⑨	
②	母子寡婦福祉連合会補助金	⑥		⑩	
③	母子家庭自立支援給付	⑦		⑪	
④	養育費確保支援給付	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 母子生活支援施設入所世帯数	世帯	目標	6	6	4	4	4	短期間での社会的自立を目指して指導及び支援を行っており、入所と退所が繰り返されている。
		実績	2	3	2			
＜指標の計算方法＞ 母子生活支援施設へ入所措置している世帯数（各年度末）								
成果指標 母子寡婦福祉連合会 会員数	人	目標	250	250	250	220	220	高齢化が進み、会員数は減少傾向にある。
		実績	206	204	204			
＜指標の計算方法＞ 年度末会員数								
成果指標 ひとり親家庭自立支援給付金 受給者数	人	目標	6	10	8	8	8	令和6年度以降高等職業訓練促進給付金の新規申請がなく、受給者数は大きく減少した。
		実績	10	7	3			
＜指標の計算方法＞ 高等職業訓練促進給付金・自立支援教育訓練給付金の受給者数								
	人	目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
20,454	9,027	3,201			18	8,208

事業の実績

①母子生活支援施設措置
- 令和6年度末在籍者数　3世帯　7人
- 令和7年度入所者数　0世帯　0人
- 令和7年度退所者数　1世帯　3人
- 令和7年度末在籍者数　2世帯　4人

②母子寡婦福祉連合会補助金
交付実績額　204,000円

③母子家庭自立支援給付
- 高等職業訓練促進給付金　2件
  （支給月数　延べ 24ヶ月）
- 高等職業訓練修了支援給付金　1件
- 自立支援教育訓練給付金　1件
- ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業　0件

④養育費確保支援給付
- 公正証書等作成費用　9人
- 養育費保証契約締結費用　0人
- 養育費強制執行費用　0人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・ひとり親家庭を取り巻く状況は多様化しており、国からの補助金を活用しながら次々に繰り出される施策に迅速に対応するため、現行のとおり市が実施することが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・この事業の施策は単なる経済的支援ではなく、就業（資格取得）支援や母子生活支援施設での生活支援など、ひとり親世帯が社会的に自立するための支援であり、将来的な安定につなげる有効的な施策である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・ひとり親家庭の自立に向けた支援の低下と直結するため、事業費の削減は適当ではない。
・制度で定められた以上の受益者負担をひとり親家庭に求めるのは適当ではない。

事務事業の概要

事務事業名	那賀児童福祉施設組合事業	担当課	こども課	事業区分	一部事務組合
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	712

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	1 児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援
			取組方針	9	その他

事業概要	経済的支援を受けることのできない母子家庭の自立を支援するため、生活拠点となる母子生活支援施設を、岩出市と共に組織した那賀児童福祉施設組合で運営管理する事業

事務事業を構成する細事業					
①	那賀児童福祉施設組合負担金	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 入所世帯数	世帯	目標	18	18	18	18	18	虐待件数の増加、母子家庭の貧困化により、常に一定数の母子世帯が措置されている状況である。
		実績	19	19	17			
＜指標の計算方法＞	那賀児童福祉施設組合、母子生活支援施設「粉河むつみホーム」の入所世帯数（3月1日現在）							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
709						709

事業の実績

①那賀児童福祉施設組合負担金
紀の川市負担率　63.22%

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川市と岩出市で運営している一部事務組合「那賀児童福祉施設組合」の運営事業であり、両市が定められた負担割合により運営費を負担するのは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・母子生活支援施設は、生活困窮者やＤＶ被害者の母子家庭の生活の安定と自立を支援するための施設であり、体制を整え、適正な運営を行うために必要な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・負担金は、20%が均等割、30%が人口割、50%が利用割とし、両市の人口と当該施設使用数で負担率を産出しており、現状の実施方法が適当である。
・専門職の配置など措置費増額の対象となる取組を推進し、負担金の減少に努めている。

事務事業の概要

事務事業名	子育て計画策定・推進事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	709

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	3	民　生　費		政策目標	2	子育て・教育
	項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
	目	1	児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援
					取組方針	9	その他

事業概要	幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進し、子育て世帯に適切なサービスを提供するために、子育てに関する事業計画を策定し、進捗状況の管理を行う事業

事務事業を構成する細事業						
①	子ども・子育て会議運営	⑤		⑨		
②	子ども・子育て支援事業計画進行管理	⑥		⑩		
③		⑦		⑪		
④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	子ども･子育て会議の開催	回	目標	3	3	2	3	2	計画策定年度ではなく、また緊急の議題もなかったため、会議の開催は減少した。
			実績	1	3	1			
	＜指標の計算方法＞	会議の開催回数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
69						69

事業の実績

①子ども・子育て会議運営
令和7年12月3日開催

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・子ども・子育て支援事業計画の策定は子ども・子育て支援法第61条で義務付けられており妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・子ども・子育て会議において計画の策定から事業の進捗まで審議しており、有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

専門的な知識が必要であるため、時間・コスト両面において計画策定業務を委託することが最善である。

事務事業の概要

事務事業名	出産・子育て応援事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1233

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	1 児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援
			取組方針	3	子育て世帯への経済的負担の軽減

事業概要	妊娠届出時から妊婦や低年齢期の子育て家庭に寄り添い、出産・育児の面談等を通じて必要な支援につなぐ伴走型相談支援に合わせて、妊婦や子育て家庭への経済的支援を一体的に実施する事業

事務事業を構成する細事業					
①	妊婦支援給付金	⑤		⑨	
②	赤ちゃん応援給付金	⑥		⑩	
③	子育て応援給付金	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 出産応援給付金支給件数	件	目標						制度終了により給付件数が皆減となっている。
		実績	353	284				
＜指標の計算方法＞	出産応援給付金の実支給件数							
成果指標 子育て応援給付金支給件数	件	目標						制度終了に伴い、令和７年度出生児のみ対象となり給付件数が減少している。
		実績	320	262	58			
＜指標の計算方法＞	子育て応援給付金の実支給件数							
成果指標 赤ちゃん応援給付金支給件数	件	目標						性質上、目標は設定しない。出生数の増加に伴い給付件数も増となっている。
		実績	282	264	279			
＜指標の計算方法＞	赤ちゃん応援給付金の実支給件数							
成果指標 妊婦支援給付金給付件数	件	目標						性質上、目標は設定しない。新制度が開始され、令和7年度より給付件数を指標として設定している。
		実績			568			
＜指標の計算方法＞	妊婦支援給付金の実給付件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
64,130	32,692	1,401				30,037

事業の実績

①妊婦支援給付金
（１回目）
・支給件数　281件
・支給金額　14,050,000円
（２回目）
・支給件数　287件
・支給金額　14,350,000円

②赤ちゃん応援給付金
・支給件数　279件
・支給金額　27,900,000円

③子育て応援給付金
・支給件数　58件
・支給金額　2,900,000円

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・制度に基づく事業であり、市以外では実施できない。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・給付対象者、給付金額など実施要綱により定まった事業である。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・現時点で現金給付が最適な支給方法である。	

事務事業の概要

事務事業名	放課後児童健全育成事業	担当課	保育課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	740

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民生費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	1 児童福祉総務費		基本施策	2	保育環境の充実
			取組方針	2	保育サービスの充実

事業概要：昼間保護者のいない家庭の小学生の健全な育成を図るため、遊びを主とする活動を行う地域組織として児童クラブ（学童保育）を設置し、運営を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	放課後児童健全育成事業運営	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 学童保育クラブ数	クラブ	目標	10	10	10	10	10	那賀・粉河地区に1クラブずつ、打田・桃山・貴志川地区は学校単位に1クラブずつ、合計10クラブを維持している。
		実績	10	10	10			
＜指標の計算方法＞	放課後児童健全育成事業の実施箇所数（学童クラブ数）							
活動指標 年間開設日数	日	目標	280	280	280	280	280	日曜・祝日・盆正月休み以外は開所。
		実績	275	270	273			
＜指標の計算方法＞	合計年間開設日数／10クラブ							
成果指標 学童保育クラブ入所児童数	人	目標	590	590	590	620	620	全体的に低学年の入所希望者が多い傾向がある。各学校児童数に応じた申込状況となっている。
		実績	449	435	484			
＜指標の計算方法＞	学童保育クラブ入所児童数（目標値：入所受付時の定員、実績値：3月現在の児童数）							
成果指標 障害児受入人数	人	目標	5	5	5	5	5	療育手帳等の認定はされていないが、診断書等で支援を必要とする児童が増加している。
		実績	12	13	16			
＜指標の計算方法＞	障害児受入人数（3月実績数）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
201,373	47,645	47,645	4,000		41,268	60,815

事業の実績

①放課後児童健全育成事業運営
・児童クラブの年間開設日、月平均児童数

てのひら	287日、	92人
太陽の子	283日、	89人
粉河アットホームクラブ	285日、	61人
チャレンジ児童クラブ	286日、	67人
あらかわ放課後児童クラブ	287日、	53人
ももやま放課後児童クラブ	242日、	14人
こどもくらぶ	285日、	47人
ほたるっこ	269日、	18人
西貴志こどもくらぶ	261日、	56人
丸栖っ子クラブ	245日、	18人

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・ひとり親家庭の増加や保護者の就労形態の多様化により学童保育は必要であり、児童の放課後の居場所づくりの観点からも事業は妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・放課後児童健全育成事業を受託する民間事業者が支援員に対して定期的に研修を実施することで、近年の傾向や専門知識を習得して保育に携わることができている。
・支援員の確保についても民間のノウハウを生かして安定して確保することができており、適正な支援員数を維持することができている。
・支援の必要な児童に対し、必要に応じて支援員の加配を行っている。
・引き続き利用者へのアンケート等を実施することによりサービスの向上を目指していく必要がある。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・民間委託することで支援員や保護者への運営業務による負担を軽減することができている。
・登校園システムの導入や夏休みなどの長期休暇中の弁当の手配等、民間ならではのサービスを提供できている。

事務事業の概要

事務事業名	子ども医療費助成事業	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	427

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	3 民　生　費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 項	2 児童福祉費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
予算科目 目	2 子ども医療費		取組方針	3	福祉医療費助成の実施

事業概要	市民（子育て世代）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分（大学生等は入院に係る医療費の自己負担分）に対し助成を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	受給資格管理	⑤		⑨	
②	子ども医療費助成	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 1人あたりの医療費助成額（大学生等を除く）	円	目標						医療費助成額は令和6年度と比較してほぼ横ばい状況を推移しているが、助成対象者が減少しているため、1人あたりの医療助成額は増加している。
		実績	30,855	32,234	32,796			
＜指標の計算方法＞	医療費助成額÷助成対象者数（大学生等を除く）							
活動指標 1人あたりの医療費助成額（大学生等）	円	目標						入院日数などの状況により増減が生じるが、令和6年度と比較して減少している。
		実績	71,570	93,289	78,118			
＜指標の計算方法＞	医療費助成額÷助成者数（大学生等）							
活動指標 助成対象者数（大学生等を除く）	人	目標						市の人口が減少傾向にあるため、助成対象者も減少している。
		実績	7,495	7,295	7,176			
＜指標の計算方法＞	助成対象者数（大学生等を除く）							
活動指標 医療費助成額	千円	目標						令和6年度と比較するとやや減少しているが、ほぼ横ばい状況にある。
		実績	231,545	236,825	235,967			
＜指標の計算方法＞	医療費助成額							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
243,485		33,891		169,000		40,594

事業の実績

①受給資格管理
・助成対象者数（大学生を除く）R8.3月末
未就学児(入院・通院助成)　2,182人
小学生(入院・通院助成)　2,318人
中学生(入院・通院助成)　1,357人
高校生相当(入院・通院助成)　1,319人
合　計　7,176人
・助成者数（大学生等）
大学生等(実績/入院助成)　8人
※大学生等については、実際に申請のあった人数を記載している。

②子ども医療費助成
・医療費助成内訳

未就学児		
（入　院）	301件	10,645,507円
（外　来）	21,090件	36,512,449円
（歯科入院）	2件	100,622円
（歯科外来）	3,649件	7,047,991円
（調　剤）	12,232件	11,475,676円
（その他）	114件	1,614,421円
（戻　入）		△801,178円
（合　計）	37,388件	66,595,488円

小学生		
（入　院）	71件	3,895,132円
（外　来）	18,068件	38,614,804円
（歯科入院）	6件	415,546円
（歯科外来）	8,147件	22,516,812円
（調　剤）	9,597件	14,833,299円
（その他）	541件	1,819,353円
（戻　入）		△51,260円
（合　計）	36,430件	82,043,686円

中学生		
（入　院）	50件	3,627,356円
（外　来）	9,382件	21,895,486円
（歯科入院）	3件	172,838円
（歯科外来）	2,459件	7,798,571円
（調　剤）	4,736件	9,949,835円
（その他）	783件	1,519,003円
（戻　入）		△125,522円
（合　計）	17,413件	44,837,567円

高校生相当		
（入　院）	59件	3,749,546円
（外　来）	7,883件	20,321,222円
（歯科入院）	2件	86,294円
（歯科外来）	1,976件	7,221,386円
（調　剤）	3,959件	9,569,383円
（その他）	726件	1,112,243円
（戻　入）		△194,347円
（合　計）	14,605件	41,865,727円

大学生等を除く合計		
	105,836件	235,342,468円

大学生等		
（入　院）	11件	534,397円
（歯科入院）	2件	90,550円
（戻　入）		0円
（合　計）	13件	624,947円
総 合 計	105,849件	235,967,415円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者が医療機関等で支払う自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関等を受診することができるため、子どもの福祉の向上と支援の観点から妥当な事業である。
・国の責任において、乳幼児・子ども医療費の無料化制度を創設するとともに、子どもの医療費負担軽減措置の充実と対象年齢の拡大を図ることを要望していく。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・医療費助成は、子育て世帯の経済的負担の軽減につながっており、子どもの福祉の向上と子育て支援の観点から有効な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・助成対象者が和歌山県内の医療機関等において受診した際は、本来負担すべき医療費の保険適用後の自己負担分を国民健康保険団体連合会または社会保険診療報酬支払基金へ一ヶ月毎にまとめて支払うことで、効率的に事務を行うことができている。
・大量印刷物（受給者証の区分更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業の効率化は図られている。
・今後、国が進める医療費助成のオンライン化システム連携に参加することで、資格喪失後受診及び現在現物給付できない県外受診の償還払等の事務が減少し、より一層事務の効率化が期待できる。

事務事業の概要

事務事業名	ひとり親家庭医療費助成事業	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	45

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	2 児童福祉費	施策目標	2	健康・医療	
予算科目 目	3 ひとり親家庭医療費	基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実	
		取組方針	3	福祉医療費助成の実施	

事業概要	市民（ひとり親家庭）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分に対し助成を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	受給資格管理	⑤		⑨	
②	ひとり親家庭医療費助成	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 1人あたりの医療費助成額	円	目標						令和6年度と比較して医療費助成額の増加に伴い、1人あたりの医療助成額も増加している。
		実績	42,985	40,600	43,645			
＜指標の計算方法＞	医療費助成額÷助成対象者数							
活動指標 助成対象者数	人	目標						市の人口は減少傾向にあるが、助成対象者数は、ここ数年はほぼ横ばい状況で推移している。
		実績	1,278	1,301	1,286			
＜指標の計算方法＞	助成対象者数							
活動指標 医療費助成額	千円	目標						令和6年度と比較して微増しているが、ほぼ横ばい状況で推移している。
		実績	54,935	52,820	56,127			
＜指標の計算方法＞	医療費助成額							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
61,102		29,263				31,839

事業の実績

①受給資格管理
・助成対象世帯数　506世帯
・助成対象者数　1,286人
（内訳）
保護者　504人
未就学児　145人
小学生　270人
中学生　172人
高校生相当　195人
※助成対象世帯数及び対象者数は、R8.3月末時点の数値

②ひとり親家庭医療費助成
・医療費助成内訳

（入　院）	81件	3,851,603円
（外　来）	10,728件	26,876,623円
（歯科入院）	2件	135,464円
（歯科外来）	2,838件	10,512,711円
（調　剤）	5,525件	12,620,036円
（その他）	949件	2,951,904円
（戻　入）		△821,181円
（合　計）	20,123件	56,127,160円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者が医療機関等で支払う自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関等を受診することができるため、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から妥当な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・医療費助成は、ひとり親家庭の経済的負担の軽減につながっており、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から有効な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・助成対象者が和歌山県内の医療機関等において受診した際は、本来負担すべき医療費の保険適用後の自己負担分を国民健康保険団体連合会または社会保険診療報酬支払基金へ一ヶ月毎にまとめて支払うことで、効率的に事務を行うことができている。
・大量印刷物（受給者証の区分更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業の効率化は図られている。
・今後、国が進める医療費助成のオンライン化システム連携に参加することで、資格喪失後受診及び現在現物給付できない県外受診の償還払等の事務が減少し、より一層事務の効率化が期待できる。

事務事業の概要

事務事業名	児童手当給付事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	43

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	2	子育て・教育	
予算科目 項	2 児童福祉費	施策目標	1	子育て環境・保育サービス	
予算科目 目	4 児童手当費	基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援	
		取組方針	3	子育て世帯への経済的負担の軽減	

事業概要	児童を養育する家庭や施設の子育てにかかる経費の負担を軽減し、あわせて児童の健やかな成長に資することを目的に児童手当の給付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	児童手当給付	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 児童手当等受給者数	人	目標						性質上、目標は設定しない。少子化により、児童手当受給者数は減少している。
		実績	3,356	3,893	3,881			
＜指標の計算方法＞	支給状況報告（一般・施設受給者）の受給者数（2月末現在）							
活動指標 児童手当等支給対象児童数	人	目標						性質上、目標は設定しない。少子化により、支給対象児童数は減少している。
		実績	5,713	6,929	6,818			
＜指標の計算方法＞	支給状況報告（一般・施設受給者）の支給対象児童数（2月末現在）							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,075,120	857,137	102,546				115,437

事業の実績

①児童手当給付
支給延べ月数
・3歳未満児童
被用者　7,310月
非被用者　1,662月
・3歳以上小学校修了前児童
被用者　31,141月
非被用者　8,929月
・小学校修了後中学校修了前児童
被用者　12,497月
非被用者　3,754月
・高校生年代児童
被用者　12,304月
非被用者　3,248月

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・児童手当法に基づく法定受託事務であるため、対象者に手当を給付することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・子育ての経済的負担を軽減しているため有効性は高い。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・事務費はほとんどなく、経費の大半は扶助費であり、コスト面での削減余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	児童扶養手当給付事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	44

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	子育て・教育	
予算科目 項	2 児童福祉費	施策目標	1	子育て環境・保育サービス	
予算科目 目	5 児童扶養手当費	基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援	
		取組方針	3	子育て世帯への経済的負担の軽減	

事業概要	父または母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立を助け、児童の福祉の増進を図ることを目的として児童扶養手当の給付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	児童扶養手当給付	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 受給資格者数	人	目標						性質上、目標は設定していない。少子化にともない、受給資格者数は年々減少していく見込み。
		実績	539	537	535			
＜指標の計算方法＞	福祉行政報告例第15表（3月末現在）							
活動指標 受給対象児童数	人	目標						性質上、目標は設定していない。受給者数に比例して、受給対象児童数も年々減少していく見込み。
		実績	709	719	704			
＜指標の計算方法＞	福祉行政報告例第15表（3月末現在）							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
272,246	90,036					182,210

事業の実績

①児童扶養手当給付
・受給資格者数　535人
・受給対象児童数　704人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・児童扶養手当法に基づく法定受託事務であるため、対象者に手当を給付することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・ひとり親家庭等の経済的負担を軽減する支援事業であり、こどもの貧困対策としても有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

事務費はほとんどなく経費の大半は扶助費であり、コスト面での削減余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	教育・保育施設入所管理事業	担当課	保育課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	743

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育
予算科目 款	3 民　生　費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 項	2 児童福祉費		基本施策	2	保育環境の充実
予算科目 目	6 保育所費		取組方針	2	保育サービスの充実

事業概要：就学前の児童に対し、教育・保育施設への適正な入所管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	入所	⑤	第2子以降保育料等無料化	⑨	
②	支給認定（保育所・幼稚園・こども園）	⑥		⑩	
③	広域保育	⑦		⑪	
④	保育料賦課・徴収	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 入所児童数	人	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	少子化により、認可保育所（園）等利用者数全体は減少傾向である。
		実績	1,531	1,508	1,471			
＜指標の計算方法＞ 対象児童数（各年3月1日現在）広域保育委託分含む								
活動指標 広域入所児童数(受託)	人	目標	15	15	15	15	15	広域入所については、受託市町村と協議を行い受け入れを進めているが、市内の保育ニーズの高まりにより低年齢児の受入れについては余裕が少ないことから、市外からの受入れには厳しい現状がある。
		実績	18	19	11			
＜指標の計算方法＞ 対象児童数（年間総受託者数）								
成果指標 待機児童数	人	目標	0	0	0	0	0	3月時点において紀の川市全体での待機児童は生じていない。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞ 対象児童数（各年3月1日現在）								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
34,948	11,042	7,091			1,191	15,624

事業の実績

①入所
②支給認定（保育所・幼稚園・こども園）
公立保育所　543人
私立保育園　479人
小規模保育事業所　33人
認定こども園　381人
※R8.3.1現在（広域保育受託分除く）
③広域保育
委託分　42人 ※年間総委託者数
(R8.3.1現在 35人)
④保育料賦課・徴収
保育料徴収額
・現年度分　67,666,250円（2,373件）
収納率　99.9%
一時保育料　54,000円（4件）
・過年度分　92,800円　（11件）
収納率　100%
※R8.5.31時点

⑤第2子以降保育料等無料化
(2子)　3歳未満 40人
(3子以降)3歳未満 62人、3歳以上 157人
(認可外保育施設：3子以降) 3歳未満 2人
(COCOともいくえん、ひまわり保育園)

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・共働き世帯の増加や保護者の疾病など、家庭において保育が困難な児童を受け入れるため、保育の実施は妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・入所児童数は減少傾向にあるが、転入世帯や早期の育休復帰など、低年齢児の保育ニーズは依然として高く、転入超過地区での施設に申込が集中するなど、希望の施設に入所ができない可能性がある。
・入所希望保育所への入所に向けて、定員数の調整等による改善の余地がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・支援が必要な児童も増える中、安全な保育を実施するための加配保育士を含め、職員の配置基準に準じた人員配置をしており、人件費の軽減の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	子どものための教育・保育給付事業	担当課	保育課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	750

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	6 保育所費		基本施策	2	保育環境の充実
			取組方針	2	保育サービスの充実

事業概要：子ども・子育て支援新制度に基づき、私立教育・保育施設に対する財政支援を行う事業

事務事業を構成する細事業

①認可業務・指導監査	⑤私立保育園障害児保育補助金	⑨一時預かり補助金
②私立保育園運営委託	⑥延長保育事業補助金	⑩補足給付費
③地域型保育給付	⑦病児保育事業補助金	⑪
④施設型給付	⑧私立保育園自動車借上補助金	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 私立入所園児数	人	目標	1,099	1,099	1,099	1,099	1,099	少子化により入所児童数は減少傾向である。
		実績	965	962	918			
＜指標の計算方法＞	対象児童数（各年3月1日現在）広域保育受託分含む							
活動指標 私立教育・保育施設数	園	目標	10	11	11	11	11	私立の認可保育施設数については令和6年度以降11施設を維持している。
		実績	10	11	11			
＜指標の計算方法＞	対象施設数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,273,453	640,808	288,980			40,447	303,218

事業の実績

①認可業務・指導監査
・認可施設
粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、山の子共同保育園、つたのは保育園、未来保育園、ニチイキッズきのかわ保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園、ながやまこども園
・認可外施設
イチゴ保育所、貴志川センター保育室、ひかり保育園、ふたば保育園、そらな保育園、だるま保育園
②私立保育園運営委託
支出済額　606,183,980円
粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、山の子共同保育園、つたのは保育園
③地域型保育給付
支出済額　86,433,930円
未来保育園、ニチイキッズきのかわ保育園
④施設型給付
支出済額　487,628,885円
レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園、ながやまこども園
⑤私立保育園障害児保育補助金
支出済額　44,211,000円
粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園
つたのは保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、ながやまこども園
対象園児　56名
⑥延長保育事業補助金
支出済額　3,080,000円
粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、レイモンドこども園、ながやまこども園
⑦病児保育事業補助金
支出済額　8,992,000円
粉河保育園、名手保育園
⑧私立保育園自動車借上補助金
支出済額　2,529,000円
粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、ながやまこども園
⑨一時預かり補助金
支出済額　2,312,050円
レイモンドこども園、ながやまこども園、おひさまこども園、聖心幼稚園、愛徳幼稚園
⑩補足給付費
支出済額　383,535円
智徳幼稚園、おのみなと紀泉台幼稚園、和歌山中央幼稚園、和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・民間保育施設の安定運営を図るために市が補助を行うことは妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・民間保育施設の安定運営を図ることにより、園児の安定した受け入れ人数を確保している。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・国の基準に基づき、給付費等を支給しているため改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	保育所運営管理事業	担当課	保育課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	744

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	2	子育て・教育	
予算科目 項	2 児童福祉費	施策目標	1	子育て環境・保育サービス	
予算科目 目	6 保育所費	基本施策	2	保育環境の充実	
		取組方針	2	保育サービスの充実	

事業概要	保育所施設の運営維持管理を行い、市民（児童・保護者）が円滑に利用できるよう、保育サービスの提供を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 保育職員研修・管理育成	⑤ 県社会福祉協議会保育士会負担金	⑨		
	② 給食管理	⑥ 施設整備	⑩		
	③ 送迎バス運行	⑦ 備品購入	⑪		
	④ 災害共済加入	⑧ 保育業務支援システム運用	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 保育職員研修受講者数	人	目標	200	200	200	200	200	多くの保育士が受講できるよう、録画配信なども引き続き実施する。
		実績	226	191	231			
＜指標の計算方法＞	受講者数							
成果指標 保育業務支援システム登録児童数	人	目標	390	370	540	540	540	令和7年度は公立全7保育所での導入が完了し、保護者の利便性が向上した。
		実績	392	374	545			
＜指標の計算方法＞	登録者数（3月末現在）							
成果指標 施設整備不十分による事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	施設整備不備による事故はなかった。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	施設整備不十分による事故件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
59,600	3,752				747	55,101

事業の実績

①保育職員研修・管理育成
　録画配信にて１回実施

②給食管理

③送迎バス運行
　鞆渕地区送迎バス運行

④災害共済加入
　日本スポーツ振興センター負担金

⑤県社会福祉協議会保育士会負担金

⑥施設整備
　修繕51件

⑦備品購入
　50件

⑧保育業務支援システム運用
　登録児童数545人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・各保育所の児童数や施設の特徴を踏まえた必要な改修を行い、児童が安心して保育生活を送れる環境を整える必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・児童福祉法により市町村は保育を必要とする児童を保育しなければならないとされており、職員配置や施設整備の充実により、安定した児童の定員の確保ができている。
・保育業務支援システムの導入により、保護者の利便性が向上している。
・施設の老朽化や管理運営の効率化を考慮して、公立保育所の再編を進める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・保育業務支援システムの運用が円滑に進んでおり、業務が効率化されている。

事務事業の概要

事務事業名	公立保育所保育事業	担当課	保育課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	752

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	6 保育所費		基本施策	2	保育環境の充実
			取組方針	2	保育サービスの充実

事業概要	市民（児童・保護者）に適切な教育・保育を提供するために、各公立保育所が効率的な保育所運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① こばと保育所運営	⑤ 東貴志保育所運営	⑨		
	② なるき保育所運営	⑥ 西貴志保育所運営	⑩		
	③ 八王子保育所運営	⑦ 丸栖保育所運営	⑪		
	④ 中貴志保育所運営	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 公立保育所数	箇所	目標	7	7	7	7	7	施設数に増減はないが、児童数は減少傾向にあり再編が完了していないため再編、統廃合を進めることが必要である。
		実績	7	7	7			
＜指標の計算方法＞	対象施設数							
活動指標 公立入所園児数	人	目標	788	788	788	764	764	令和7年度は令和6年度と比べて低年齢児の保育ニーズの高まりが増加したが少子化により年々減少傾向にある。
		実績	564	541	545			
＜指標の計算方法＞	対象園児数（各年3月1日現在）広域保育受託分含む							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
553,643					30,276	523,367

事業の実績

①こばと保育所運営　3月園児数　191名
②なるき保育所運営　3月園児数　105名
③八王子保育所運営　3月園児数　33名
④中貴志保育所運営　3月園児数　73名
⑤東貴志保育所運営　3月園児数　43名
⑥西貴志保育所運営　3月園児数　47名
⑦丸栖保育所運営　3月園児数　53名
※R8.3.1現在（広域保育受託分含む）

各施設の運営
会計年度任用職員の任用、健康診断の実施、施設の維持管理、消耗品の購入等

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・公立保育所として利用者のニーズは高く、今後も公立保育所の運営は必要と考える。

有効性

評価結果　改善の余地が大きい

・公立保育所の特徴を活かしながら多様な保育ニーズに対応し、民間保育施設と連携を図りながら積極的に運営を行うことは有効である。
・施設の統廃合により、保育の集団効果が高まる。

効率性

評価結果　改善の余地が大きい

・施設の統廃合により保育環境の充実及びコストの軽減が見込まれることから、打田、貴志川地区において公立保育所の再編を進めることが必要。

事務事業の概要

事務事業名	児童館管理運営事業	担当課	保育課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	47

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	7 児童館費		基本施策	2	保育環境の充実
			取組方針	9	その他

事業概要	旧児童館施設を適切に維持管理するため、保守や解体を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	西井阪児童館施設管理	⑤		⑨	
②	粉河児童館施設管理	⑥		⑩	
③	名手児童館施設管理	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 開館日数	日	目標	600	300	0	0	0	令和7年3月末で紀の川市児童館条例を廃止したため、令和7年4月1日より閉館となりました。
		実績	612	308	0			
＜指標の計算方法＞	児童館の開館日数計							
成果指標 年間利用者数	人	目標	1,000	500	0	0	0	令和7年3月末で紀の川児童館条例を廃止したため、令和7年4月1日より閉館となったことに伴い利用者はありません。
		実績	749	35	0			
＜指標の計算方法＞	児童館の延べ児童利用者数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
21,180			16,900			4,280

事業の実績

①西井阪児童館施設管理
西井阪児童館：解体撤去工事を実施、解体撤去工事に伴う監理業務を委託し、解体済み。更地は、普通財産として公共施設マネジメント課へ移管した。

②粉河児童館施設管理
粉河児童館：解体撤去工事に伴う設計業務とアスベスト調査業務の委託を行った。令和8年度解体予定

③名手児童館施設管理
名手児童館：令和7年4月1日より廃館

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・施設の老朽化や利用者ニーズの変化により、施設の解体撤去や適切な部署への移管は妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・公民館や集会所としての利用実態に基づき、生涯学習課や地元へ移管することで施設の有効利用を促進する。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・施設の老朽化が激しい西井阪児童館は令和7年度に解体撤去工事を完了し、粉河児童館は令和8年度に解体撤去工事の実施に向けて進めている。

事務事業の概要

事務事業名	物価高対応子育て応援手当支給事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度（R 7 ～ R 8）
				事業番号	1256

予算科目				長期総合計画体系			
会計			一般会計		政策目標	2	子育て・教育
	款	3	民　生　費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
	項	2	児童福祉費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援
	目	8	物価高対応子育て応援手当支給事業費		取組方針	9	その他

事業概要	物価高騰の影響を強く受けている子育て世代を支援するため、児童手当支給対象児童を養育する父母等に対して子育て応援手当を支給する事業

事務事業を構成する細事業						
①	物価高対応子育て応援手当	⑤		⑨		
②		⑥		⑩		
③		⑦		⑪		
④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 手当支給決定児童数	人	目標						性質上、目標は設定しない。 児童1人につき2万円を支給。
		実績			7,751			
＜指標の計算方法＞	実績報告による支給決定児童数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
157,794	157,794					

事業の実績

①物価高対応子育て応援手当
　支給対象児童数
　　プッシュ型による支給　6,757人
　　申請による支給　994人
　※令和8年2月末までの申請（保留分除く）

　令和8年3月以降の申請については、
　令和8年度での支給となる。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・国が実施する突発的かつ迅速対応が必要な事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・物価高騰の影響を強く受けた子育て世帯に手当を支給することで、経済的負担の軽減につながるため有効性が高い。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・国からの補助金で実施する事業であるため、コスト面で市の負担はない。

事務事業の概要

事務事業名	生活保護適正実施推進事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	758

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	3 生活保護費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	1 生活保護総務費		基本施策	1	地域福祉の推進
			取組方針	4	さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護

事業概要：市が生活保護制度の適正運用を図るために、調査や審査、システムの運営等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	生活保護適正実施推進	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 生活保護受給者の就労支援件数	件	目標	60	60	60	60	60	生活保護新規決定や保護廃止による被保護者の支援変更により就労支援者数が減少したため、令和6年度よりも件数が減少した。
		実績	75	54	52			
＜指標の計算方法＞	担当職員による延べ件数							
活動指標 レセプト点検	件	目標						令和6年度までは増加していたが、令和7年度のレセプト点検件数は減少した。
		実績	9,660	10,114	9,801			
＜指標の計算方法＞	延べ点検件数							
活動指標 担当職員の研修会参加	回	目標	6	6	6	6	6	令和7年度は、4回研修会に参加を行った。
		実績	3	6	4			
＜指標の計算方法＞	職員の参加回数							
成果指標 就労支援により自立（保護を廃止）した世帯数	世帯	目標	5	5	5	5	5	社会の経済状態悪化が継続し、就職難状態のため、就労支援により自立に繋がったケースが4件となった。
		実績	1	3	4			
＜指標の計算方法＞	実世帯数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
18,034	4,935					13,099

事業の実績

①生活保護適正実施推進
生活保護の開始・廃止の状況
（統計基準日における件数の累計）

保護開始　75世帯　93人
開始理由
- 世帯主・員の傷病　5世帯
- 離婚・世帯分離　1世帯
- 収入の減少　2世帯
- 失業・倒産　4世帯
- 仕送りの減少　0世帯
- 手持金の減少　57世帯
- 職務権限　0世帯
- 施設入所等　1世帯
- 他管内からの転入　4世帯
- 葬祭扶助のみ　0世帯
- その他　1世帯

保護廃止　53世帯　70人
廃止理由
- 死亡　21世帯
- 施設入所　0世帯
- 他管内へ転出　10世帯
- 手持金の増加　6世帯
- 就労収入の取得・増　4世帯
- 保護辞退　2世帯
- 扶養義務履行　3世帯
- 他法他施策　4世帯
- その他　3世帯

・就労支援件数　52件
　自立件数　4世帯　5人

・研修会参加
- 生活保護関係職員新任者研修
- 社会福祉主事資格認定通信課程（スクーリング集団研修）
- 都市福祉事務所長連絡協議会特別研修会
- 生活保護査察指導員会議

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・法定受託事務であるので、市が実施主体となる。法律に従い適正に業務を遂行出来ている。
・本事業の意図は、適正な生活保護運営であり、その対象、手段、意図ともに妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・就労支援員の配置により、保護受給者等に対する自立・就労支援が総合的に実施出来ている。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・法に基づく適正な実施により、受益者負担は生じないため、生活保護者に不利益が生じないよう引続き事務の適正に努める。
・開催された研修会（オンライン含む）には積極的に参加し、知識向上に努めることにより、効率的な業務の遂行が出来ている。

事務事業の概要

事務事業名	生活保護扶助事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	49

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民生費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	3 生活保護費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	2 扶助費		基本施策	1	地域福祉の推進
			取組方針	4	さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護

事業概要	市民（生活困窮者）の自立を支援するために、生活保護法に基づく扶助費の支給を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	生活保護扶助	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 人口1千人あたりの生活保護受給者数	人	目標						近年増加傾向にあり、令和7年度は令和6年度と比べて0.27‰の増加となった。
		実績	7.54	7.53	7.8			
＜指標の計算方法＞	年度末における人口1千人あたりの生活保護受給者数							
活動指標 生活保護受給世帯数	世帯	目標						近年増加傾向にあり、令和7年度は令和6年度と比べて18世帯の増加となった。
		実績	351	351	369			
＜指標の計算方法＞	年度末生活保護受給世帯数							
活動指標 生活保護受給人員	人	目標						近年増加傾向にあり、令和7年度は令和6年度と比べて11人の増加となった。
		実績	435	431	442			
＜指標の計算方法＞	年度末生活保護受給人員							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
782,757	528,755	1,199				252,803

事業の実績

①生活保護扶助

・生活保護受給状況（令和8年3月31日）
369世帯　442人

人口1千人あたりの生活保護受給者数
7.80人

・各扶助実施状況
（令和8年3月現在）

生活扶助	303世帯	363人
住宅扶助	243世帯	294人
教育扶助	9世帯	14人
介護扶助	112世帯	115人
医療扶助	335世帯	383人
生業扶助	5世帯	6人
施設事務費	16世帯	16人

（令和7年度分）

出産扶助	0世帯	0人
葬祭扶助	7世帯	7人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・生活保護に関する業務は、法定受託業務である。法令に基づき、経済の状況や雇用の情勢など地域の状況について、身近な立場から実態を把握し、客観的な対応が出来るため妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・法令に基づき運用を実施し、ケースワーカーや就労支援員など専門性を持った人材を活用し、生活保護受給者に対して生活の向上や自立に向け支援を行っている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・生活保護業務に関わるケースワーカーは、社会福祉法により、被保護世帯80世帯に所員の定数を1名とし配置している。
・被保護者の増加が予想されるため、相談・調査・訪問等を効率よく進めている。

事務事業の概要

事務事業名	生活困窮者自立支援事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	944

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民生費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	3 生活保護費		施策目標	3	福祉
予算科目 目	3 援助費		基本施策	1	地域福祉の推進
			取組方針	4	さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護

事業概要：市民（生活困窮者）の自立を包括的に支援するとともに、給付金の支給を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	生活困窮者支援	⑤		⑨	
②	住居確保給付金の支給	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	生活困窮者相談	件	目標	20	20	200	200	200	令和7年度も継続してアウトリーチによる相談支援を進めたが、生活困窮者の相談件数は減少した。
			実績	107	312	219			
	＜指標の計算方法＞	相談受付数							
活動指標	支援プラン作成数	人	目標	5	5	5	5	5	令和7年度の支援プラン作成件数は、1件であった。
			実績	0	0	1			
	＜指標の計算方法＞	支援プラン作成数							
活動指標	住居確保給付金支給件数	件	目標	3	3	3	3	3	支給件数は、0件であった。
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	住居確保給付金支給件数							
活動指標	生活困窮者・被保護者就労準備支援件数	人	目標	1	1	1	1	1	令和7年度は事業所が辞退したため、支給件数は0件となった。
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	生活困窮者・被保護者就労準備支援件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
20,465	9,605					10,860

事業の実績

①生活困窮者支援
・相談支援件数　219件
【生活】
生活福祉資金貸付に関すること　37件
家計相談に関すること　5件
借金に関すること　5件
生活保護制度に関すること　3件
その他（住居確保給付金・生活困窮自立支援金等）に関すること　160件
【就労他】
求職活動に関すること　1件
転職に関すること　1件
住宅に関すること　4件
医療に関すること　2件
教育に関すること　1件

・支援プラン作成に至った件数　1件

支援プラン
生活困窮者からの相談を受け、抱えている課題を評価・分析し、そのニーズを把握するとともに、ニーズに応じた支援が、計画的かつ継続的に行われるよう作成するもの。

②住居確保給付金の支給　0件

65歳未満の離職後2年以内の者であって就労意欲のある者のうち、住宅を喪失または喪失するおそれのある者に対して住居確保給付金を支給するとともに、就労支援を実施することにより、住宅及び就労機会の確保に向けて支援を行う事業。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・生活困窮者自立支援法に基づき実施するべき事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・法に定めた事業に取組むことで支援の幅が広がり、委託先である社会福祉協議会の専門的な知識を持った支援員により自立に向けた支援プランの実効性が高まっている。
・生活困窮者の状況に応じた支援の実施や支援プラン作成まで「継続支援」「伴走支援」の強化が必要である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・生活困窮者自立支援事業を社会福祉協議会に委託することで、専門的な知識を持った支援員により、自立に向けた支援プランを立て関係機関と連携をとることにより、効率よく幅広い事業の展開が出来ている。

事務事業の概要

事務事業名	行旅人援護事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	768

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	3 民生費		施策目標	3	福祉
予算科目 項	3 生活保護費		基本施策	1	地域福祉の推進
予算科目 目	3 援助費		取組方針	4	さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護

事業概要	行旅人・行旅病人・行旅死亡人へ最低限の援護を行うために、旅費の支給、医療費の支給、葬祭の執行等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	法定外援助	⑤		⑨	
②	行旅死亡人対応	⑥		⑩	
③	墓地、埋葬等に関する法律による死亡人対応	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 行旅人旅費支給件数	件	目標						行旅人旅費支給件数は2件であった。
		実績		1	2			
＜指標の計算方法＞	行旅人旅費支給件数							
活動指標 行旅死亡人等取扱件数	件	目標						行旅死亡人取扱件数はなかった。
		実績						
＜指標の計算方法＞	行旅病人・行旅死亡人取扱件数							
活動指標 墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数	件	目標						墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数は2件であった。
		実績	1	4	2			
＜指標の計算方法＞	墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
310						310

事業の実績

①法定外援助
・行旅人に対して、最低限の旅費を支払う。
　旅費支給件数　2件

②行旅死亡人対応
・行旅中、住所不明者が病気で倒れ、又は死亡した時は、救護、葬祭を行う。
　行旅病人取扱件数　　0件
　行旅死亡人葬祭件数　　0件

③墓地、埋葬等に関する法律による死亡人対応
・取扱件数　2件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・行旅途中において所持金の消費又は紛失などにより救護を求めた者（行旅困窮者）については、法外援護金（行旅人旅費）取扱要綱、市内で行旅中に病気で歩行できなくなり、治療を受けられない者（行旅病人）、身元不明のまま発見された者（行旅死亡人）については、行旅病人及び行旅死亡人取扱法に基づく事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・行旅人、行旅病人、行旅死亡人の対応の必要がある場合は、人道的見地から対象者の福祉を優先的に考え、救護及び火葬を効果的に行っている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・当該事業は、いつ発生するか予測のつかないものであるため、案件が発生した時に担当者が効果的に事業を進めており、コスト面では、行旅死亡人に遺留品があれば、法に基づいた取扱いにより費用に充当することになっている。

事務事業の概要

事務事業名	災害被害者援護事業	担当課	社会福祉課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	52

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	3 民　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	4 災害救助費	施策目標	3	福祉	
予算科目 目	1 災害救助費	基本施策	1	地域福祉の推進	
		取組方針	1	多様なニーズに対応できる支援体制の構築	

事業概要：市民（災害被害者）の経済的負担を軽減するために、災害見舞金の支給を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	災害見舞金支給	⑤	住家被害認定士の派遣	⑨	
②	災害救助法事務	⑥		⑩	
③	義援金	⑦		⑪	
④	住家被害認定士研修	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	災害見舞金取扱件数	件	目標						令和7年度は、火災による災害見舞金の支給対象世帯のみである。
			実績	123	5	7			
	＜指標の計算方法＞	年間取扱件数							
活動指標	災害見舞金支給率	%	目標						火災による災害見舞金の対象世帯に100%支給できている。
			実績	100	100	100			
	＜指標の計算方法＞	支給件数／対象件数							
活動指標	義援金箱設置場所数	箇所	目標						市役所本庁（1箇所）、各支所(4箇所）出張所(1箇所）に義援金箱を設置し受付を行っている。
			実績	6	6	6			
	＜指標の計算方法＞	義援金箱設置場所数							
成果指標	住家被害認定士研修参加者数	人	目標						各研修会に参加者を募り、住家被害認定士のスキルアップを図ることができた。令和7年度は新規受講者対象の研修はなく、スキルアップを目的としたものへの参加のみとなったため、参加者数は減少した。
			実績	3	31	21			
	＜指標の計算方法＞	住家被害認定士研修参加者数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,133						1,133

事業の実績

①災害見舞金支給
・火災7件
（全焼5件、部分焼2件）

②災害救助法事務
災害に対して国に応急的に必要な救助を行ってもらうために、被害状況を把握し、県に適用申請を行う。
・実績なし

③義援金
・前年度から継続受付、送金
　ウクライナ人道危機に対する義援金
　令和6年能登半島地震災害義援金
　令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金
（6/30受付終了）

④住家被害認定士研修
・日本不動産鑑定士協会連合会住家被害認定調査等研修会（水害編）13名参加
・関西広域連合家屋被害認定業務研修プログラム　8名参加

⑤住家被害認定士の派遣
・実績なし

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・災害見舞金の支給は、要綱により対象世帯に迅速に支給する必要があり、関係機関と連携しながら実施している。
・災害救助法適用時に係る事務事業は、法律により実施主体が市であるため、改善の余地がない。
・義援金に係る事務事業は、被災地において必要な支援のために行われるものであり、改善の余地はない
・住家被害認定士の養成は、頻発する自然災害に備えるため必須であり、研修の機会を設け、多くの職員が受講している。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・災害見舞金の支給は、要綱により支給基準が明確にされており、成果が目的ではない。
・住家被害認定は、内閣府から示された運用基準に基づいて実施している。
・研修会等へ継続的に参加し、知識向上に努めることで、実際に災害が発生した際の認定業務実施に対し、より有効性を高めることができる。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

和歌山県、関西広域連合、その他の団体が実施する住家被害認定業務研修に参加し、住家被害認定士のスキルアップや新たな人材育成を図ることで、災害時の調査においてより効率性を高めることができる。

事務事業の概要

事務事業名	医療体制整備構築事業	担当課	健康推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	776

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	健康・医療
予算科目 目	1 保健衛生総務費	基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
		取組方針	1	地域医療体制の充実

事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、医療機関、関係機関と医療体制の整備、構築などを行う事業

事務事業を構成する細事業			
① 災害時医療支援	⑤ 那賀歯科医師会負担金	⑨ 妊婦通院支援給付金の支給
② 献血	⑥ 小児救急医療支援事業負担金	⑩ 熱中症対策
③ 県救急医療情報システム負担金	⑦ 骨髄等移植ドナー登録の関係活動	⑪
④ 那賀救急医療対策協議会負担金	⑧ 産婦人科医院の誘致	⑫

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	年間献血受付者数	人	目標	2,500	2,500	2,500	2,500	2,300	広報紙やメール配信サービス等で周知・啓発を行っているが、開催ごとの受付人数が減少した。今後は目標を達成できるよう、引き続き周知・啓発を行っていく。
			実績	2,155	2,217	2,046			
	＜指標の計算方法＞	年間の献血の受付者数							
活動指標	年間献血箇所数	箇所	目標	60	60	60	60	60	献血箇所は徐々に増加傾向にある。献血に協力いただける企業や回数を維持することが重要である。
			実績	49	53	54			
	＜指標の計算方法＞	年間の献血実施箇所数							
成果指標	妊婦通院支援給付金助成率	%	目標	100	100	100	100	100	対象者全員に制度の案内を行った。申請が遅れている方に対しては、速やかに申請してもらえるように勧奨を行っている。
			実績	99.3	99	99.3			
	＜指標の計算方法＞	助成率の計算方法：申請者数/母子健康手帳交付者および転入者のうち妊産婦健康診査受診票交付者							
活動指標	献血併行型ドナー登録会開催回数	回	目標	10	10	10	10	10	登録会説明員である岩出保健所の情報を得て、調整をはかりながら、目標を達成できるよう努める。
			実績	5	12	9			
	＜指標の計算方法＞	献血併行型ドナー登録会の開催回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
12,958						12,958

事業の実績

①災害時医療支援
・医薬品を備蓄から協定による供給に変更
・期限切れ間近医療消耗品を他組織へ譲渡
・那賀地域災害医療対応訓練への参加
・災害用トイレを防災訓練等に貸し出し

②献血　　採血者合計人数　1,811人
200cc　109人、400cc　1,702人
不採血者人数　　235人

③県救急医療情報システム負担金
救急医療体制を情報面から支援するための救急医療情報システム運営負担金

④那賀救急医療対策協議会負担金
紀の川市、岩出市における救急体制の整備及び円滑な運営を目的とした会の運営負担金

⑤那賀歯科医師会負担金
休日の歯科救急診療に係る人件費の負担金

⑥小児救急医療支援事業負担金
公立那賀病院の休日などの小児二次救急にかかる小児科医師の人件費の負担金

⑦骨髄等移植ドナー登録の関係活動
・骨髄等移植ドナー助成
助成人数：1人
・献血併行型ドナー登録会
実施回数：9回
登録者数：31人
実施場所：4ヵ所
（和歌山県立高等看護学院、近畿大学生物理工学部、紀の川市役所南別館、紀の川市役所貴志川支所）
・骨髄等移植ドナー登録の広報活動
事業周知チラシを献血併行型ドナー登録会での説明時に配布
広報「紀の川」への掲載（5・10月号）

⑧産婦人科医院の誘致
産科医療施設の整備のため開設費用の一部助成制度を令和5年度より実施。制度見直しのため近隣産婦人科院長に聞き取りを実施。
助成件数：0件

⑨妊婦通院支援給付金の支給
市内に分娩可能な医療機関がないため、市外で妊婦健診を受診する際の交通費助成として、令和5年度より実施
助成人数：298人
対象者数：300人

⑩熱中症対策
・防災行政無線による熱中症予防の啓発
5月～9月の週2回11時頃に放送
・クーリングシェルターの指定
市関係施設22ヵ所
民間施設2ヵ所

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・広域的な地域医療体制の充実及び救急医療体制の構築を図ることで、市民が安心して暮らせるように努める必要がある。
・献血事業は、血液センターが事業者であり、市は場所の確保、広報活動、粗品の提供等が主な業務である。生命と直結する血液を集める業務は救急医療体制のひとつであり、公的にも取り組む必要がある。
・骨髄等移植ドナー助成は、ドナーの負担を軽減し移植に用いる骨髄等の適切な提供を推進するため妥当である。
・産婦人科医院誘致開業支援補助金制度について、市内に分娩可能な医療機関がない状況を踏まえ、開設に係る費用の一部助成を行うことは妥当である。
・妊婦通院支援給付金制度について、市外での妊婦健診受診の交通費助成として、市が妊婦の経済的負担の軽減に努めることは必要である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・新型コロナウイルス感染症の影響で献血協力がなかった事業所も、実施を再開するところが増えており、コロナ禍前の献血箇所数に戻りつつある。今後も献血人数の維持・増加に努める。
・新規採用職員研修時に岩出保健所職員による献血に係る研修を実施し、献血者数の割合が比較的少ない若年層の献血への意識を高めることができた。
・献血併行型ドナー登録会について、岩出保健所との調整により開催回数を維持しているが、登録者が急激に増えることはないため、継続して開催することが重要である。
・市内に分娩可能な医療機関がない状態が続いており、市民が安心して産み育てる環境づくりのため、効果的な取組を引き続き検討する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・広報紙やホームページ、LINE、メール配信を通じて市民へ献血の必要性を啓発し、今後も継続的に献血者数を維持・確保する必要がある。
・今後もドナーの経済的負担を軽減し、またドナー登録者を増加させることで、移植に用いる骨髄等の適切な提供を推進していく必要があり、血液センターや岩出保健所と連携し、継続的に実施する必要がある。
・妊婦通院支援給付金の申請については、母子健康手帳交付時または転入者への妊産婦健康診査受診票交付時に案内することで、できる限り漏れなく申請を促すことができている。

事務事業の概要

事務事業名	いのち支える自殺対策推進事業	担当課	健康推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1128

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	健康・医療
予算科目 目	1 保健衛生総務費	基本施策	1	健康づくりと疾病予防
		取組方針	3	自殺対策の推進

事業概要	誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、自殺対策計画に基づき地域全体でいのちを支える取組を推進する事業

事務事業を構成する細事業					
①	地域におけるネットワークの強化	⑤		⑨	
②	人材の養成及び確保	⑥		⑩	
③	啓発及び教育の充実	⑦		⑪	
④	相談体制の充実	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 自殺死亡率（人口10万人あたり）	10万対	目標	16.5	16.5	13.4	13.4	13.4	令和7年の自殺死亡率は、10.2と令和6年より大きく減少し、単年では第2期紀の川市いのち支える自殺対策計画の目標を達成した。
		実績	20	16.8	10.2			
＜指標の計算方法＞	厚生労働省の地域における自殺の基礎資料による数値(暦年)							
活動指標 ゲートキーパー養成講座受講者数	人	目標	50	50	50	50	50	市民を対象にゲートキーパー養成講座を実施。定員50名に対し申込み64人、当日の参加者47人だった。目標に近い養成者数となった。
		実績	64	22	47			
＜指標の計算方法＞	研修参加者数							
活動指標 紀の川市いのち支える自殺対策担当委員会議開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	令和7年度は、10月1日に庁内担当委員を対象に庁内連携ツールである「つなぐシート」活用のための勉強会を1回開催した。
		実績		1	1			
＜指標の計算方法＞	年間開催回数							
活動指標 いのち支える自殺対策協議会開催回数	回	目標	1	2	1	1	1	令和7年3月に作成した第2期紀の川市いのち支える自殺対策計画の各所属機関の進捗状況を共有し、令和8年度の計画を協議した。
		実績	1	2	1			
＜指標の計算方法＞	いのち支える自殺対策協議会開催回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
474		276				198

事業の実績

①地域におけるネットワークの強化
・いのち支える自殺対策協議会を1回、本部会を1回開催した。

②人材の養成及び確保
・市民を対象に高野山大学の森崎雅好教授を講師に招き、ゲートキーパー養成講座を1回実施した。
・市役所内の自殺対策担当委員に対し、研修会を1回開催した。（48名中33名が参加）
・健康推進課担当職員が、県主催の研修会、日本自殺総合対策学会、メンタルヘルスに関する研修会に参加した。

③啓発及び教育の充実
・9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間には、庁内各課窓口に卓上のぼりを設置した。また、相談支援先を広報紀の川とホームページに掲載し、LINE掲載、メール配信をした。3月には、庁舎外に懸垂幕を設置した。
・小学5年生472人にしおり型リーフレットを教育委員会の協力を得て配布した。
・小学4年生17クラス414人にいのちの尊さを知ってもらう「いのちの授業」を実施した。

④相談体制の充実
・全庁体制で情報共有し、悩みを抱える来庁者を適切な窓口へつなぐことができる手段となる「つなぐシート」「つなぎ先シート」を見直し、活用の為の勉強会を実施した。
・自殺対策に関連した情報や相談先・対応方法を庁内メールや庁内掲示板にて職員に発信し職員の意識改革を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・自殺は、個人情報保護法の関係で、自殺に至った原因が把握出来ず、自殺対策が成果にどのように影響しているかの評価には限界がある。しかし、市が市民に身近な立場で実施する取組として重要な役割を担っており、実施内容は計画の目的に沿ったものであると考えられることから、目標達成に向けた取組として一定の妥当性が認められる。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・自殺死亡率については、人口規模の影響により、年次変動が大きく、事業の成果として単年で評価することは適当ではない。そのため、ゲートキーパー養成者数や研修会参加、啓発回数など把握可能な事業実績を成果として評価している。また、毎年各課の関連する事業の取りまとめをすることが、有効性に一定の役割を担っているものと考える。今後は、より効果的な取組となるよう実施方法の工夫を検討する余地がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・和歌山県自殺対策強化補助金を活用し計画を進めており、一定の効率性は確保されていると考える。今後も補助金を活用しつつ、限られた資源の中で効率的な実施を検討していく。また、SNSでの個別相談や消防・警察・医療機関との連携などは、国や県が広域的に実施する事が効率的と考えられるため、社会背景も考慮しつつ、今後さらに国や県の施策を活用していく事に改善の余地がある。

事務事業の概要

事務事業名	公立那賀病院経営事務組合事業	担当課	健康推進課	事業区分	一部事務組合
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1073

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	健康・医療	
予算科目 目	1 保健衛生総務費	基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実	
		取組方針	1	地域医療体制の充実	

事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、公立那賀病院の運営に参画する事業

事務事業を構成する細事業					
①	公立那賀病院経営事務組合負担金	⑤		⑨	
②	病院運営の審査	⑥		⑩	
③	一部事務組合定例会（議会）	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 入院患者数(全体)	人	目標	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000	全体において、長期入院患者の増加により、延べ入院患者数が増加した。
		実績	77,896	75,131	77,464			
＜指標の計算方法＞	公立那賀病院へ入院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)							
成果指標 外来患者数(全体)	人	目標	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	コロナ禍以来減少していた外来患者数が下げ止まり、増加となった。
		実績	106,623	103,768	104,679			
＜指標の計算方法＞	公立那賀病院へ外来通院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)							
成果指標 入院患者数(紀の川市)	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	紀の川市民において、長期入院患者の減少により、延べ入院患者数が減少した。
		実績	37,316	37,940	36,134			
＜指標の計算方法＞	公立那賀病院へ入院された紀の川市民の年間患者数(延)							
成果指標 外来患者数(紀の川市)	人	目標	66,000	66,000	66,000	66,000	66,000	コロナ禍以来減少していた外来患者数が下げ止まった。
		実績	55,841	53,748	53,733			
＜指標の計算方法＞	公立那賀病院へ外来通院された紀の川市民の年間患者数(延)							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
601,766						601,766

事業の実績

①公立那賀病院経営事務組合負担金
紀の川市と岩出市の負担割合等を精査し支出した。
紀の川市負担率　57.44%
（均等割　50.00%）
（人口割　52.41%）
（利用割　63.43%）

②病院運営の審査
岩出市と共に病院運営に係る予算決算についてヒアリングおよび精査を行った。

③一部事務組合定例会（議会）
8月、3月定例会（議会）
・令和7年8月18日
議案第8号　令和6年度公立那賀病院経営事務組合事業会計決算の認定について

・令和8年3月26日
報告第1号　専決処分の承認を求めることについて（職員の勤務時間その他の勤務条件に関する条例及び職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について）
報告第2号　専決処分の承認を求めることについて（公立那賀病院職員給与条例等の一部を改正する条例の制定について）
議案第1号　監査委員の選任について
議案第2号　公平委員の選任について
議案第3号　公立那賀病院職員給与条例の一部改正について
議案第4号　令和7年度公立那賀病院経営事務組合事業会計補正予算（第1号）について
議案第5号　令和8年度公立那賀病院経営事務組合事業会計予算について

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・公立那賀病院は那賀保健医療圏域において唯一の総合病院であり、地域医療の確保に大きな役割を果たしている。県が策定する地域医療構想を基に効率的かつ質の高い医療提供体制を構築することが求められる中にあって、負担は妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・産科の医師不足により、令和2年9月末より分娩が休止しており、市内で分娩のできる医療機関がないことから、安心して子どもを産み育てる環境づくりの推進のため、早期の産科の再開が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・岩出市とともに共同で適切に業務の処理ができており、効率性において改善の余地がない。

事務事業の概要

事務事業名	那賀休日急患診療所経営事務組合事業	担当課	健康推進課	事業区分	一部事務組合
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1074

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	4 衛　生　費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 項	1 保健衛生費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
予算科目 目	1 保健衛生総務費		取組方針	2	救急医療体制の充実

事業概要：市民が安心して医療を受けられるように、休日急患診療所の運営に参画する事業

事務事業を構成する細事業

①	那賀休日急患診療所経営事務組合負担金	⑤		⑨	
②	一部事務組合定例会（議会）	⑥		⑩	
③	那賀休日急患診療所経営の審査	⑦		⑪	
④	那賀医師会との連絡調整	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 診療所利用者数(紀の川市民・岩出市民・その他)	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	インフルエンザ等の検査人数が令和6年度より減少した。（令和7年度1,517人、令和6年度1,904人）
		実績	2,277	2,371	1,915			
＜指標の計算方法＞	休日、祝祭日及び季節性インフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される市民(紀の川市・岩出市)の診療所年間利用者数							
成果指標 診療所利用者数(紀の川市民)	人	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	インフルエンザ等の検査人数が令和6年度より減少した。
		実績	1,170	1,226	1,014			
＜指標の計算方法＞	休日、祝祭日及び季節性インフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される紀の川市民の診療所年間利用者数							
活動指標 診療所開設の広報掲載回数	回	目標	12	12	12	12	12	診療所の診察時間及び電話番号を市広報紙に掲載して案内できている。
		実績	12	12	12			
＜指標の計算方法＞	診療所開院期間及び時間の案内を紀の川広報等を利用した啓発回数							
活動指標 夜間診療の開設日数	日	目標	40	40	40	40	40	委託先の那賀医師会の判断により、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ流行期の対応として、令和7年12月20日から令和8年3月1日までの土日祝日と年末年始の期間、夜間診療を実施した。
		実績	26	28	30			
＜指標の計算方法＞	季節性インフルエンザ等流行期の土曜日・日曜日・祝祭日（年末年始含む）の夜間診療開設日数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
19,218						19,218

事業の実績

①那賀休日急患診療所経営事務組合負担金
・那賀休日急患診療所経営事務組合の運営に対し負担金を支出した。
紀の川市負担率　52.83%
（　均等割　50.00%）
（　人口割　52.41%）
（利用者割　55.71%）
（人件費割　50.00%）

②一部事務組合定例会（議会）
・8月、3月の議会に事務局員として出席。
・令和7年8月18日
議案第5号　令和6年度那賀休日急患診療所経営事務組合一般会計歳入歳出決算の認定について
議案第6号　令和7年度那賀休日急患診療所経営事務組合一般会計補正予算（第1号）について

・令和8年3月26日
報告第1号　専決処分の承認を求めることについて（那賀休日急患診療所経営事務組合会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について）
報告第2号　専決処分の承認を求めることについて（令和7年度那賀休日急患診療所経営事務組合一般会計補正予算（第2号）について）
議案第1号　監査委員の選任について
議案第2号　那賀休日急患診療所経営事務組合会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について
議案第3号　令和8年度那賀休日急患診療所経営事務組合一般会計予算について

③那賀休日急患診療所経営の審査
・岩出市と共に診療所運営に係る予算決算についてヒアリングおよび精査を行った。

④那賀医師会との連絡調整
・休日急患診療所の運営に関して、那賀医師会長と連絡を密にし、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ流行期に看護師等を増員し対応した。

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・那賀休日急患診療所は、休日の一次救急において大きな役割を担っており、市民が安心して生活する上で必要不可欠なサービスである。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・那賀休日急患診療所が公立那賀病院近隣の救急患者を受け入れる一次救急の役割を担うことにより、公立那賀病院の二次救急の負担軽減につながっている。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・那賀休日急患診療所経営事務組合負担金については、両市（紀の川市・岩出市）で取り決めた「規約」に基づいて負担し、運営の補助を行っている。

事務事業の概要

事務事業名	那賀広域事務組合事業	担当課	健康推進課	事業区分	一部事務組合
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1075

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	健康・医療
予算科目 目	1 保健衛生総務費	基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
		取組方針	2	救急医療体制の充実

事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、那賀広域事務組合の運営に参画する事業

事務事業を構成する細事業					
①	那賀広域事務組合負担金	⑤		⑨	
②	病院群輪番制運営の審査	⑥		⑩	
③	一部事務組合定例会（議会）	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 病院群輪番制病院利用者数(全体)	人	目標	1,100	1,100	1,100	700	700	新型コロナウイルス感染症の収束により、検査目的の利用者数が減少した。
		実績	890	861	744			
＜指標の計算方法＞	病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市・岩出市・他地区)							
成果指標 病院群輪番制病院利用者数(紀の川市)	人	目標	500	500	500	300	300	新型コロナウイルス感染症の収束により、検査目的の利用者数が減少した。
		実績	425	375	318			
＜指標の計算方法＞	病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市)							
活動指標 病院群輪番制病院数	医院	目標	6	6	6	6	6	公立那賀病院を含む那賀地域（紀の川市・岩出市）の6病院輪番制で二次救急に対応している。
		実績	6	6	6			
＜指標の計算方法＞	病院群輪番制病院の数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,781						4,781

事業の実績

①那賀広域事務組合負担金
・病院群輪番制による休日及び祝祭日の二次救急医療提供のため、負担金の支出を実施した。
紀の川市負担率　54.68%
（　均等割　50.00%）
（　人口割　52.41%）
（利用者割　57.90%）

②病院群輪番制運営の審査
・病院群輪番制参加医療機関　6ヵ所
(1)公立那賀病院
(2)医療法人 殿田会 殿田胃腸肛門病院
(3)医療法人 富田会 富田病院
(4)医療法人 共栄会 名手病院
(5)社会医療法人 三車会
貴志川リハビリテーション病院
(6)医療法人 稲穂会 稲穂会病院

③一部事務組合定例会（議会）
8月、3月定例会（議会）開催
・令和7年8月18日
議案第4号　令和6年度那賀広域事務組合一般会計歳入歳出決算の認定について
議案第5号　令和7年度那賀広域事務組合一般会計補正予算（第1号）について

・令和8年3月26日
議案第1号　監査委員の選任について
議案第2号　令和8年度那賀広域事務組合一般会計当初予算について

事業の事後評価

妥当性
評価結果　改善の余地がない
・病院群輪番制は那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、市費による負担（負担金）は妥当である。

有効性
評価結果　改善の余地がない
・市民がいつでも安心して医療を受けられるようにするためには、休日における診療体制を確保することが必要不可欠であり、有効性が高い。

効率性
評価結果　改善の余地がない
・病院群輪番制は那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、現状の体制を維持する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	母子健康管理事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	781

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	2	子育て・教育	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	1	子育て環境・保育サービス	
予算科目 目	2 母子保健費	基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援	
		取組方針	1	安心して子供を産み育てることができる支援の充実	

事業概要	妊産婦、乳幼児の健康管理を支援するために、乳幼児健診や妊産婦健康診査等を行う事業				
事務事業を構成する細事業	① 妊産婦健診等助成	⑤ 産前産後サポート事業		⑨	
	② 乳幼児健診・訪問指導	⑥		⑩	
	③ 母子健康手帳交付	⑦		⑪	
	④ 妊娠判定助成事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 乳幼児健診受診率	%	目標	99	99	99	99	99	受診者に対して、別日でも乳幼児健診を受診できるように、丁寧な個別対応を行うことで、受診率は目標値を達成している。
		実績	98.2	98	99.5			
＜指標の計算方法＞	乳幼児健診受診者／乳幼児健診対象者							
成果指標 乳幼児健診において子育てに支援を要する子ども家庭の件数	件	目標	310	310	310	310	310	支援を要する家庭の件数は増加傾向である。
		実績	217	217	233			
＜指標の計算方法＞	すこやか親子アンケートに基づく子育てに支援を要する子ども家庭の件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
51,210	4,962	393				45,855

事業の実績

①妊産婦健診等助成
- 妊婦健診
  - 受診件数　6,032件
  - 受診実人数　434人
- 妊婦歯科健診
  - 受診件数　123件
- 産婦健診
  - 受診件数　340件
  - 受診実人数　235人

②乳幼児健診・訪問指導
- 乳幼児健診　対象者数　1,222人
  - 受診者数　1,216人
  - 受診率　99.5%
  - ※受診率は各健診の平均
- 訪問指導　妊産婦　354件
  - （延件数）新生児　27件
  - 乳児　415件
  - 幼児　31件
- ブックスタート
  - 絵本配布　292件（4か月児）
  - 266件（1歳児）

③母子健康手帳交付
- 妊娠届出数　269件

④妊娠判定助成事業
- 助成件数　257件

⑤産前産後サポート事業
- 訪問相談　26件
- プレパパママ教室
  - （休日集団）参加者数（組）40組
  - （平日個別）参加者数（組）27組
- はぐくみサロン（集団実施）
  - 参加者数（組）41組

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

- 自治体関与が求められる法定対象の事業で妥当性がある。
- 法定健診以外の市独自の乳幼児健診についても、全国的に広く実施されている月齢の乳幼児が対象となっている。
- 実施主体として、市が行うべき事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

- 母子の健康状態の把握や疾病の早期発見・治療につなげるために必要な手段である。
- 妊娠期からの伴走支援が求められており、保健師等の知識や技術の向上を図ると共に、専門職の人材確保が必要である。
- 国においては5歳児健診の実施が推奨されており、現在の乳幼児健診の実施方法と共に今後検討が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

- 乳幼児健診の実施体制や実施内容を検討し、効率性を高めていく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	母子保健医療給付事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	857

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	2	子育て・教育	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	1	子育て環境・保育サービス	
予算科目 目	2 母子保健費	基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援	
		取組方針	1	安心して子供を産み育てることができる支援の充実	

事業概要	未熟児、疾病のある子どもが安心して医療を受けられるように、医療費、日常生活用具の給付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	未熟児養育医療給付	⑤		⑨	
②	小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 未熟児養育医療給付件数	件	目標	25	25	25	25	25	未熟児養育医療での治療が必要な新生児等が対象となるため、実績値にばらつきがある。
		実績	22	31	34			
＜指標の計算方法＞	未熟児養育医療給付件数							
成果指標 小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付件数	件	目標	1	1	1	1	1	小児慢性特定疾病医療受給者が日常生活において生活用具の給付が必要な場合のみ給付を行うため、給付件数が極めて少なく、年度によって実績値にばらつきがある。
		実績	0	1	0			
＜指標の計算方法＞	小児慢性特定疾病児童日常用生活用具助成件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,791	2,378	793			619	1

事業の実績

①未熟児養育医療給付
　給付実人員　　14人
　医療給付件数　34件

②小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付
　給付実人員　　0人（申請無し）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・国及び県制度に基づく事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・公費負担医療の制度である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・公費負担医療の制度であり、事業内容の改善余地はなく、事務手順についても件数も少ないため、改善は困難である。

事務事業の概要

事務事業名	母子健全育成事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	782

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	2	子育て・教育	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	1	子育て環境・保育サービス	
予算科目 目	2 母子保健費	基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援	
		取組方針	1	安心して子供を産み育てることができる支援の充実	

事業概要	乳幼児が健やかに成長できるように、保護者に親子教室、発達相談等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	親子教室	⑤		⑨	
②	発達相談	⑥		⑩	
③	小児成育医療支援	⑦		⑪	
④	母子保健推進員活動	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 親子教室参加率	%	目標	50	50	50	50	50	今年度は児童発達支援事業等の他の支援サービスへの移行が少なかったため、参加率は上昇したが、目標値の達成には至らなかった。
		実績	42.6	36.3	47			
＜指標の計算方法＞	親子教室参加者数／親子教室述べ対象者数							
成果指標 発達相談利用者延べ人数	人	目標	300	300	300	300	300	保護者が就学を見通す中で相談を希望するケースが増えたことが影響し、4歳児、5歳児の新規相談が増加したため全体の人数が増加し目標を達成した。
		実績	285	274	300			
＜指標の計算方法＞	発達相談利用者の延べ人数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
8,241						8,241

事業の実績

①親子教室
　1歳児　参加延べ人数　662人
　2歳児　参加延べ人数　442人
　（※親と子の参加人数の合計）

②発達相談
　新規相談数　152件
　継続相談数　148件

③小児成育医療支援
　新規相談件数　18件
　継続相談件数　190件

④母子保健推進員活動
　・4か月児健診時ブックスタート事業の協力　11回
　・子育て支援センターへの協力　21回
　　赤ちゃん広場（0歳児）
　　子育て教室（2歳児）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

法に基づく乳幼児健診後のフォローアップの位置づけであり、市以外が主体と成り得ない事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・成長発達に支援を要するこども、またこどもの成長発達に不安を抱える保護者に対し、必要な支援や相談を行うことにより、こどもの成長を促すとともに、保護者の育児不安の軽減につながる事業である。
・相談を必要とする児の増加へ対応するため、専門的な知識を持つ発達相談員の増員が必要である。
・母子保健推進員の活動については、近年の社会情勢の変化に応じた活動の内容の見直しが必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・事業実施については、一部を事業者へ委託して実施しており、コスト削減を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	不妊治療助成事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	835

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	1 保健衛生費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	2 母子保健費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援
			取組方針	1	安心して子供を産み育てることができる支援の充実

事業概要	市民が安心して不妊治療を受けられるように、不妊治療に要する費用の一部の助成を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	一般不妊治療費助成金	⑤		⑨	
②	生殖補助医療先進医療費助成金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 一般不妊治療費助成申請数	件	目標	35	35	35	35		早めの治療の有効性が認知されてきており、令和6年度並みの申請数となった。
		実績	29	47	45			
＜指標の計算方法＞	一般不妊治療費の助成申請件数							
活動指標 生殖補助医療費助成申請数	件	目標	30	1	1	1	0	対象治療に対する自己負担分の大半が県事業の助成範囲内で収まっているため、市への申請件数は少ない。
		実績	1	0	1			
＜指標の計算方法＞	生殖補助医療先進医療費助成申請件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,822		540				1,282

事業の実績

①一般不妊治療費助成金
助成件数　45件

②生殖補助医療先進医療費助成金
助成件数　1件

※県事業の生殖補助医療に上乗せ給付として市事業を行っているが、対象数は少ない。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・国、県、市で財源負担しながら実施している事業であり、市が実施すべき事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・不妊治療にかかる費用は高額であり経済的負担が大きいため、負担軽減のために有効な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・現在の実施方法が最適であり、事務費等の削減は困難である。

事務事業の概要

事務事業名	母子相談支援事業	担当課	こども課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1030

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	1	子育て・教育	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	1	子育て環境・保育サービス	
予算科目 目	2 母子保健費	基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援	
		取組方針	1	安心して子供を産み育てることができる支援の充実	

事業概要	子ども家庭センターの母子保健機能の役割を果たすため、妊娠期から出産、子育て期にわたる切れ目ない支援体制を確保し、様々な相談に対応し、安心・安全で健やかな妊娠・出産・産後をサポートする事業

事務事業を構成する細事業					
①	母子相談支援事業	⑤		⑨	
②	乳児家庭全戸訪問事業	⑥		⑩	
③	産後ケア事業	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 妊娠届出時の妊婦アンケートに基づく妊婦の心身等の状況把握率	%	目標	100	100	100	100	100	妊娠届出時全ての妊婦に対して面談を実施できたため、全妊婦の状況把握を行うことができている。
		実績	100	100	100			
＜指標の計算方法＞	妊婦アンケート時の面談数／妊娠届出数							
成果指標 妊産婦、乳幼児への支援・相談件数	件	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	令和6年度で子育て世代包括支援センターが終了したため、令和7年度からはこども家庭センターの母子保健機能における、妊産婦、乳幼児への支援、相談件数を設定している。
		実績	1,818	1,576	2,173			
＜指標の計算方法＞	助産師・保健師が実施した妊産婦への支援・相談等件数							
成果指標 産後の産婦・乳児に係る訪問率	%	目標	99	99	99	99	99	訪問率は高い水準を維持している。妊娠や出生届出時の際に丁寧な周知をしており、訪問の受け入れは良好である。
		実績	99	99	100			
＜指標の計算方法＞	助産師・保健師による訪問数／出生した世帯数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
30,123	16,766	5,828				7,529

事業の実績

①母子相談支援事業
妊娠届出時の面談数　298件
（内）転入時の面談数　29件

相談件数
電話（着）　339件
電話（発）　869件
来所相談　965件

②乳児家庭全戸訪問事業　279件

③産後ケア事業
宿泊型
利用回数　55回
デイサービス型
利用回数　86回
訪問型
利用回数　154回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・母子相談支援事業は、こども家庭センターの相談支援業務として位置づけられており、こども家庭センターの設置運営は市町村の努力義務とされていることから、市以外が実施主体となりえない事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・専門職（助産師、保健師等）が妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行い、妊娠出産や子育てなどの様々な不安に対応することで、児童虐待のリスクの早期発見、安心して子育てできる相談体制の受け皿としても有効性の高い事業である。
・社会情勢の変化とともに相談内容も複雑化している。こども家庭センターの機能の充実に向けて、専門職の確保や体制等を見直し、充実させていくことが必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・専門職の人件費が事業の大部分を占めており、人員を減らすと効果も低くなることから、現在の事業実施方法が最適である。

事務事業の概要

事務事業名	感染症対策事業	担当課	健康推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	54

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 保健衛生費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 目	3 予　防　費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防
			取組方針	2	がん対策の推進

事業概要	市民の感染症の予防、拡大防止につなげるために、予防接種の実施、予防接種に対する助成を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 定期接種（子ども、高齢者）	⑤ 予防接種副反応報告		⑨ 食中毒、感染症の注意報対応	
	② 風しん追加的対策	⑥ 予防接種後健康被害救済		⑩	
	③ 予防接種勧奨	⑦ 予防接種費助成		⑪	
	④ 予防接種検討委員会	⑧ 感染症対策物品の整備		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 MR2期の接種率	%	目標	95	95	95	95	95	令和6年度にワクチンの偏在が生じ、接種期間が2年間延長となったため、接種できなかった人が令和7年度に接種することができた。また、年3回の接種勧奨を実施することで目標を達成できた。
		実績	94.7	90.4	95.3			
＜指標の計算方法＞	接種率の計算方法：接種者数／対象者数(年長児)							
成果指標 2種混合(DT)の接種率	%	目標	85	85	85	85	85	接種期間が13歳までのため、令和7年4月以降の接種に先延ばしした人もいたと考えられる。また、年3回の接種勧奨を実施することで目標を達成することができた。
		実績	80.3	85.5	86			
＜指標の計算方法＞	接種率の計算方法：接種者数／対象者数(小学6年生)							
活動指標 広報掲載回数	回	目標	24	21	15	15	15	同一内容の掲載に制限がかかったため、掲載回数は減少したが、掲載内容を工夫し周知したため、目標を上回った。
		実績	24	23	19			
＜指標の計算方法＞	広報「紀の川」への感染症対策事業に関する記事掲載回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
212,943		15		45,000	166	167,762

事業の実績

①定期接種（子ども、高齢者）

予防接種名	対象者数(人)	接種者数(人)	接種率
（MR2期,DT2期,子宮頸がんの対象者数は接種案内数の延べ人数、その他の予防接種対象者数は年度末の対象年齢者の延べ人数）			
BCG	281	287	102.1%
MR1期(麻しん,風しん)	267	276	103.4%
MR2期(麻しん,風しん)	386	368	95.3%
4種混合(ジフテリア,百日せき,破傷風,不活化ポリオ)	1,110	157	14.1%
ヒブ	1,110	15	1.4%
5種混合(ジフテリア,百日せき,破傷風,不活化ポリオ,ヒブ)※令和6年4月から導入	1,110	1,087	97.9%
2種混合（DT：ジフテリア,破傷風）	456	392	86.0%
日本脳炎	1,456	1,370	94.1%
小児用肺炎球菌	1,110	1,125	101.4%
子宮頸がん（定期）	1,773	284	16.0%
子宮頸がん（キャッチアップ）救済措置	5,138	190	3.7%
水痘	534	565	105.8%
B型肝炎	843	850	100.8%
ロタウィルス	784	758	96.7%
高齢者インフルエンザ	20,464	11,653	56.9%
高齢者肺炎球菌	775	211	27.2%
高齢者新型コロナウイルス感染症	20,591	2,114	10.3%
高齢者帯状疱疹	7,074	1,991	28.1%

②風しん追加的対策

対象者数(人)	接種者数(人)	接種率
77	3	3.9%

③予防接種勧奨
- MR2期勧奨通知 3回
- MR1期,2期延長(2年間)通知 1回
- 2種混合(DT)勧奨通知 3回
- 日本脳炎2期勧奨通知 1回
- 子宮頸がん勧奨通知 3回
- RSウイルス案内通知 1回
- 高齢者インフルエンザ案内通知 1回
- 高齢者肺炎球菌案内通知 2回
- 高齢者新型コロナ感染症案内通知 1回
- 高齢者帯状疱疹案内通知 1回

④予防接種検討委員会
- 令和8年2月12日(那賀医師会、岩出市)
- 令和8年3月3日(那賀病院、岩出市)

⑤予防接種副反応報告 0件

⑥予防接種後健康被害救済 給付0件,申請2件

⑦予防接種費助成 定期48件、任意2件（県外医療機関等での接種費用の助成）

⑧感染症対策物品の整備
- 追加物品(アルコール等)の購入

⑨食中毒、感染症の注意報対応

【食中毒】
- 市広報掲載 2回
- メール配信,防災行政無線 0回

【感染症】
- メール配信 3回

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・予防接種については、予防接種法に基づき行っており、感染症のまん延防止が必要であるため、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・対象者に努力義務が課せられているA類疾病を予防する子どもの定期予防接種については、接種開始時の案内通知をはじめ、未接種者への接種勧奨通知や健康診査時の声かけ等、接種率向上に努めている。
・努力義務の無いB類疾病を予防する高齢者の定期予防接種についても、対象者へ案内通知を行い情報提供を行っている。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・機動的なワクチン接種が実施できる体制整備のため、国が勧める電子予診票を用いた予防接種事務のデジタル化に向けて準備する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	健康づくり事業	担当課	健康推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	55

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	4 衛　生　費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 項	1 保健衛生費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防
予算科目 目	4 保健事業費		取組方針	1	健康づくりの推進

事業概要：市民が健康的な生活を送れるように、紀の川市健康増進計画に基づき、地域と連携しながら健康づくりを行う事業

事務事業を構成する細事業

①	身体活動向上推進	⑤	食生活改善推進協議会補助金	⑨	
②	健康推進員活動支援	⑥	健康増進計画策定・進行管理	⑩	
③	保健師研修･育成	⑦	紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部	⑪	
④	市町村保健師協議会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 食生活改善推進事業参加者数	人	目標	1,000	700	700	700	700	新型コロナウイルス感染症拡大で自粛となっていた各事業（禁煙啓発等）の再開等により、参加者数が増加傾向にある。
		実績	320	362	730			
＜指標の計算方法＞	食生活改善推進事業の一般参加者の合計人数							
成果指標 健康増進に係る事業参加者数(チャレンジ100万歩事業)	人	目標	500					参加者の大半を市職員が占めたこと、1か月のみの実施であるため運動習慣が身につかなかったことなどを踏まえ、実施内容を一新した市民向け事業を立ち上げることとし、当事業を第10回（令和5年度）をもって終了とした。
		実績	599					
＜指標の計算方法＞	チャレンジ100万歩参加者数							
成果指標 健康増進に係る事業参加者数(紀の川ウォーク)	人	目標		70	500	550	550	参加対象者について令和6年度は市内の健康に関心のある企業従業員に限定したが、令和7年度は市内企業従業員と市民を対象としたため、大幅に増加した。
		実績		71	544			
＜指標の計算方法＞	紀の川ウォーク参加者数							
活動指標 紀の川市民健康づくり11か条（概要版）配布部数	部数	目標	500	26,150	500	500	500	「健康づくり11か条」の出前講座と庁内職員向けに啓発を実施した。
		実績	810	25,597	555			
＜指標の計算方法＞	健康づくり11か条（概要版）配布部数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,237		117				2,120

事業の実績

①身体活動向上推進
・紀の川ウォーク2025事業
実施期間　10月、11月、12月（3か月間）
申込者591人・参加者544名
（うち目標達成者221名）

②健康推進員活動支援
・健康推進員登録者数　66人

③保健師研修･育成
・研修参加回数13回

④和歌山県市町村保健師協議会負担金
・30,000円＋2,000円×20人（保健師数）
新任も含めた県内保健師研修を6回、支部内での研究会6回を実施、各種検討会や協議会に出席し、常に新しい情報の共有に努めている。また、公衆衛生学会等への参加も助成される。

⑤食生活改善推進協議会補助金
・会員52人
「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに全国で活動するボランティア団体に対する補助。

⑥健康増進計画策定・進行管理
・健康づくり推進協議会の開催　1回

⑦紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部
・10月乳がん月間の集団検診や各イベントにて自己触診の方法についてのチラシや青洲グッズによる募金など、がん検診の重要性について啓発活動を実施。

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・健康づくり事業は、国の健康日本21及び和歌山県健康増進計画に対応した紀の川市健康増進計画に基づく健康増進事業であり、市民が健康づくりに関心を持ち、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むきっかけとなるよう、市全体での環境づくりが重要となるため、市が主体となって実施することは妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・市民一人ひとりが、楽しみながら、主体的かつ継続的に健康づくりに取り組むことが紀の川市健康増進計画の基本理念であり、継続的な健康づくり活動のきっかけとして、紀の川ウォークを実施。イベント後の参加者へのアンケート調査で、約90%の者が運動等に対する関心が高まったと回答を得た。

効率性
評価結果：改善の余地がややある
・紀の川ウォークについて、令和7年度から市民も対象としたイベントとなり、初年度はチラシを全戸配布したが、令和8年度は広報紙や公式LINE等のSNSを通じた周知方法を予定している。

事務事業の概要

事務事業名	がん対策事業	担当課	健康推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	792

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	4 衛　生　費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 項	1 保健衛生費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防
予算科目 目	4 保健事業費		取組方針	2	がん対策の推進

事業概要：市民のがんの予防や早期発見につなげるために、がん検診や受診啓発を行う事業

事務事業を構成する細事業

①がん検診	⑤検診部会運営	⑨健康管理システム標準化移行対応
②個別胃がん検診二次読影	⑥がん検診受診勧奨	⑩アピアランスケア助成金
③個別肺がん検診二次読影	⑦がん検診結果入力・確認	⑪妊孕性温存後生殖補助医療費助成金
④乳がん検診精度管理委員会運営	⑧がん検診精密検査受診勧奨	⑫和歌山県がん検診推進支援事業補助金

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 集団検診申込者数	人	目標	25,000	25,000	25,000	10,000	10,000	令和5年度より集団検診を1ヶ所に集約し、受診しやすい個別検診の受診者が定着し、集団検診の申込者数は減少した。
		実績	12,584	11,179	9,686			
＜指標の計算方法＞	集団検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)の申込者数の合計							
成果指標 集団検診受診者数	人	目標	17,500	17,500	17,500	8,000	8,000	集団検診の申込みをwebでもできるようにし、また、開催日の中で自由に受診日の日程変更をできるようにしたことで、集団検診の受診率は上昇している。(R5年度70.1%、R6年度75.5%、R7年度76.7%)
		実績	8,827	8,439	7,431			
＜指標の計算方法＞	集団検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)の受診者数の合計（令和5年度から子宮頸がん検診追加）							
成果指標 個別検診受診者数	人	目標	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	各種がん検診が、集団検診か個別検診か選択して受診することが出来るようにしているが、令和7年度は、子宮頸がん検診の協力医療機関が12月に急遽閉院したため、後半の受診者数に影響を与えた。
		実績	11,350	11,798	11,553			
＜指標の計算方法＞	個別検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)の受診者数の合計							
成果指標 乳がん検診受診率	%	目標	30	30	30	30	30	定期的な受診勧奨と未受診者勧奨にて、受診率は上昇していたが、令和7年度はがん検診全体的にやや減少している。
		実績	21.8	22.3	20.3			
＜指標の計算方法＞	乳がん検診(集団・個別)の受診者数÷対象年齢の全住民×100							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
102,524	768	3,977			440	97,339

事業の実績

①がん検診
〔集団検診〕　〔受診者数/対象者数〕
胃がん検診(40～74歳)　1,072人/27,810人
大腸がん検診(40歳以上)　2,633人/39,547人
肺がん検診(40歳以上)　2,663人/39,547人
喀痰検診（50歳以上・喫煙指数600以上）
18人/317人
乳がん検診(40歳以上偶数年齢)
1,000人/10,738人
子宮頸がん検診(20歳以上偶数年齢)
63人/13,114人
〔個別検診〕　〔受診者数/対象者数〕
胃がん検診(40歳以上)　1,657人/39,547人
大腸がん検診(40歳以上)　3,179人/39,547人
肺がん検診（40歳以上）　3,352人/39,547人
喀痰検診（50歳以上・喫煙指数600以上）
171人/480人
乳がん検診(40歳以上偶数年齢)
1,181人/10,738人
子宮頸がん検診(20歳以上偶数年齢)
2,184人/13,114人
（※内97人は妊婦健診で受診）
〔総受診者数、受診率、がん発見者数〕
（がん発見者数は令和8年4月17日時点）
・胃がん検診　2,729人(6.9%)（6人）
・大腸がん検診　5,812人(14.7%)（8人）
・肺がん検診　6,015人(15.2%)（4人）
・乳がん検診　2,181人(20.3%)（14人）
・子宮頸がん検診 2,247人(17.1%)（3人）
②個別胃がん検診二次読影
・二次読影は、一次検査データを受け取ってから、おおむね10日以内に完了できている。
③個別肺がん検診二次読影
・二次読影は、一次検査データを受け取ってから、おおむね10日以内に完了できている。
④乳がん検診精度管理委員会運営　1回
⑤検診部会運営　1回
⑥がん検診受診勧奨
・集団検診（胃がん・肺がん・大腸がん）申込者でいずれかの検診未受診者（40～69歳）448人に対し1回実施、集団検診において57人受診（受診率12.7%）
・乳がん検診未受診者(40～69歳)5,012人に実施し、783人が受診。(受診率15.6%)
・子宮頸がん検診未受診者(20～69歳)7,366人に実施し、1,081人が受診。(受診率14.7%)
⑦がん検診結果入力・確認
・検診受診履歴等をデータベースで経年蓄積管理している。
⑧がん検診精密検査受診勧奨　3回/年
⑨健康管理システム標準化移行対応
・システム標準化移行導入に向け、業者と打合せを行った。
⑩アピアランスケア助成金
・ウィッグ　26件(内1件毛付き帽子、1件帽子)
・乳房補整具　5件
⑪妊孕性温存後生殖補助医療費助成金　0件
⑫和歌山県がん検診推進支援事業補助金
・要綱に則り、補助金の交付申請をした。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・がん対策事業は、健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業として市が実施する事業であり、がんによる死亡率を低下させるため科学的根拠のある国の指針にそって、全市民に受診機会を提供するため、市が主体となって実施することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・がん検診は、死亡率減少効果が科学的に示されている検診であり、有効性は確立されている。一方で、紀の川市民の死亡率の減少効果については、直接評価することが困難であるため、受診率等のプロセス指標を用いて間接的な評価に留まる。国から職域検診等での受診者の把握を求められる中で、適切な対象者への受診勧奨が求められている。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・がん検診の受診率向上には、個別通知が最も有効と考えられるが、印刷資材や郵送にかかる費用対効果を検証することは難しく、限られた予算の中で、効果的・効率的な受診勧奨方法を検討している。

事務事業の概要

事務事業名	成人保健事業	担当課	健康推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	791
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	4 衛　生　費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 項	1 保健衛生費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防
予算科目 目	4 保健事業費		取組方針	2	がん対策の推進
事業概要	健康増進法に基づき、市民の健康維持と生活習慣病予防を目的として実施する健康増進事業				

事務事業を構成する細事業					
	① 肝炎ウイルス検診	⑤ 健康手帳発行	⑨		
	② 歯周疾患検診	⑥ ヘルスアップ健診	⑩		
	③ 骨粗しょう症検診	⑦ 健康増進事業費補助金	⑪		
	④ 健康教室・相談	⑧	⑫		

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	歯周疾患検診受診率	%	目標	10	10	14	14	14	令和7年度から国の指針により対象者が40～70歳（10歳刻み）から20～70歳（10歳刻み）に変更され対象者数が増加したが、若い世代の歯周病に対する関心があまり高くないためか受診率は減少している。
			実績	10.8	14.1	11.3			
	＜指標の計算方法＞	年間歯周疾患検診受診者数／年間歯周疾患検診の対象者数×100							
活動指標	肝炎ウイルス検診申込者数	人	目標	1,000	600	600	300	300	肝炎ウイルス検診の申込者数は減少している。過去に検診を受けたことがない人が対象であるため、全体の母数の減少に伴い、申込者数が減少していると考えられる。引き続き、未受診者への受診勧奨を行う必要がある。
			実績	477	308	243			
	＜指標の計算方法＞	年間肝炎ウイルス検診申込者数							
成果指標	肝炎ウイルス検診受診者数	人	目標	500	500	500	200	200	肝炎ウイルス検診の受診者数は減少している。申込が実際の受診に繋がっていないことも要因にあげられる。引き続き、未受診者への受診勧奨を行う必要がある。
			実績	251	213	164			
	＜指標の計算方法＞	年間肝炎ウイルス検診の受診者数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,309		2,131				3,178

事業の実績

①肝炎ウイルス検診
実施内容：血液検査によるB型・C型肝炎ウイルス抗体検査
自己負担：無料
対象者：40歳以上で過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがないもの
〔個別検診〕
受診者：54人　申込者(41歳以上):25人
集団検診申込者を除く40歳全員(596人)に個別勧奨実施し、39人受診
〔集団検診〕
受診者：110人　申込者：218人
受診率：50.5%
②歯周疾患検診
実施場所：県内協力医療機関
自己負担：無料
対象者：20,30,40,50,60,70歳
受診者：463人　対象者：4,099人
受診率：11.3%
③骨粗しょう症検診
対象者：40,45,50,55,60,65,70歳
受診者：280人　　申込者：356人
受診率：78.7%
④健康教室・相談
電話や面談等で個別相談にて対応(随時)
骨粗しょう症講座：2回実施
(10月：27人　　2月：10人)
出前講座：1回実施（4月：35人）
⑤健康手帳発行
検診の記録等自己管理をしてもらうため、集団検診時、希望者に健康手帳を発行。
⑥ヘルスアップ健診
対象：40歳以上の生活保護受給者
対象者：341人　（令和8年3月12日時点）
受診者：3人
受診率：0.9%
⑦健康増進事業費補助金
和歌山県健康増進事業費補助金交付要綱に則り、肝炎ウイルス検診、歯周疾患検診、骨粗しょう症検診、ヘルスアップ健診の経費に対する補助金の交付申請をした。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・国の健康増進事業に基づく事業であり、市が実施する事業として妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・歯周疾患検診では対象者への個別通知や広報での周知を実施したが、対象者の受診行動を導くためには、受診勧奨の方法を検討する必要がある。
・ヘルスアップ健診（生活保護受給者対象）は令和6年度と比べて減少している。生活習慣病の高リスク者に対する早期発見・重症化予防を目的とした事業であり、有効性は高いため、引き続き社会福祉課と連携し、受診勧奨や結果に応じた保健指導を実施していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・肝炎ウイルス検診、歯周疾患検診、骨粗しょう症検診およびヘルスアップ健診は健康増進事業であり、県の補助対象事業である。
・受診率において歯周疾患検診、肝炎ウイルス検診、ヘルスアップ健診は減少傾向である。より多くの人の受診行動を促すため、受診勧奨方法について検討する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	保健福祉センター管理運営事業	担当課	健康推進課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	57

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	健康・医療
予算科目 目	5 保健福祉センター費	基本施策	1	健康づくりと疾病予防
		取組方針	1	健康づくりの推進

事業概要	市民が保健福祉センターを安全で快適に利用できるように、施設の維持管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	桃山保健福祉センター維持管理	⑤		⑨	
②	桃山保健福祉センターピーチホール等施設の貸出	⑥		⑩	
③	桃山保健福祉センター各種委託	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 ピーチホールの使用回数	回	目標	215	215	215	215	215	令和7年度は危機管理消防課による総合防災訓練等の実施や、社会福祉協議会の関連団体による総会等の実施により、使用回数が増加している。
		実績	194	160	202			
＜指標の計算方法＞	ピーチホールの使用回数（午前・午後・夜間：各1回、全日利用：3回）							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
12,820					3,902	8,918

事業の実績

①桃山保健福祉センター維持管理
- 消防用設備保守点検で要是正となった非常用放送設備の取替修繕の実施
- 消防用設備保守点検で要是正となった火災報知設備等の取替修繕の実施
- 1階自動ドア修繕の実施
- 1階和室エアコン取替修繕の実施
- 特殊建築物定期調査で要是正となった排煙窓の修繕の実施

②桃山保健福祉センターピーチホール等施設の貸出
- 令和7年度は外部へのピーチホールの貸出なし

③桃山保健福祉センター各種委託
- 清掃委託業務
- 機械警備委託業務
- 貯水槽清掃等委託業務
- 電気保安管理委託業務
- エレベーター保守点検委託業務
- 消防用設備保守点検委託業務
- 防火設備点検委託業務
- 敷地内管理委託業務
- 調理室害虫駆除委託業務
- 特殊建築物設備定期検査委託業務
- 特殊建築物定期調査委託業務
- 浄化槽保守点検委託業務

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・災害による避難所の役割も兼ねているため、市民が安全で快適に利用できるように、市が施設管理を行うことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地が大きい

・施設の利活用について、企画経営課、公共施設マネジメント課、危機管理消防課などの関係各課と、今後の方向性の協議を継続していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・今後も施設の老朽化や設備の経年劣化による工事および修繕が増加することが予想されるが、定期検査や設備の保守点検を適切に実施し、施設の維持管理を効率的に進めていくことが重要である。

事務事業の概要

事務事業名	環境保全事業	担当課	環境衛生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	804

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会	
予算科目 目	6 環境衛生費	基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進	
		取組方針	1	環境保全の推進	

事業概要：市民に快適な環境の中で生活を営んでもらうために、産業廃棄物処理施設等の設置申請の意見具申やあき地の適正管理の指導、周知、啓発を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	環境保全審議会運営	⑤	空き地管理	⑨	
②	そ族昆虫対策	⑥	休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金	⑩	
③	公害対策・発生防止	⑦	騒音・振動・悪臭対策	⑪	
④	温暖化・省エネルギー対策	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 空き地管理指導に対する対処件数	件	目標	170	170	170	170	170	対処件数こそ目標値を上回ることができたが、長期も含む未対応案件が増加傾向にあるため、引き続き適正管理、指導に務める。
		実績	179	156	180			
＜指標の計算方法＞	指導に対する対処件数							
成果指標 空き地管理指導に対する対処率	%	目標	85	85	85	85	85	令和7年度は令和5,6年度に比べて約1.2倍の空き地管理指導に関する要望が寄せられた。長期のものも含む未対応案件が増加しており、対処率は令和6年度比で約4%低下している。
		実績	81	69.96	65.69			
＜指標の計算方法＞	対処件数/管理指導件数							
活動指標 空き地管理指導件数	件	目標	200	200	200	250	250	急増した理由については不明だが、異常気象により草木の生育が早く苦情につながるケースが多く見られる。今年度より土地登記簿による最新の所有者情報に基づいた指導に取り組んでおり、正しい管理者に指導を実施できている。
		実績	221	223	274			
＜指標の計算方法＞	空き地管理指導件数							
活動指標 地球温暖化対策に係る啓発回数	回	目標	2	5	5	5	5	広報紙への掲載、チラシの配布、親子での学習機会を設ける等、地球温暖化対策に係る様々な啓発活動に取り組んでいる。
		実績	2	5	5			
＜指標の計算方法＞	地球温暖化対策に係る啓発回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,056						2,056

事業の実績

①環境保全審議会運営
・今年度開催なし

②そ族昆虫対策
・蜂の防護服貸出状況　65件
（打）21（粉）　9（那）7
（桃）　5（貴）19（鞆）4

③公害対策・発生防止
・各種苦情対応 18件
（大気汚染）3（水質汚濁）0（騒音）0
（悪臭）2　　（不法投棄）1
（動物）2　　（土地管理）0（そ族昆虫）4
（その他）4

④温暖化・省エネルギー対策
・事業所として紀の川市役所の年間エネルギー使用量合計の原油換算値が1,500kl以上のため提出
・エネルギー使用量
（熱　　量）　149,683GJ
（原油換算値）　3,862kl
・温室効果ガス排出量
（二酸化炭素換算）　7,524t-CO2
（定期報告書）　国へ提出
（中長期報告書）　国へ提出
（排出抑制・計画等報告書）　県へ提出
・啓発事業
・課HPにおける各種脱炭素系補助金等周知(通年)
・啓発物品の作成(クリアボトルを作成。11月に開催された産業まつり及び1月に開催されたはたちのつどいにて配布)
・市民向け啓発チラシ(広報7月号に折り込みで全戸配布)
・小学生向け工作教室と環境教育(パナソニック㈱エレクトリックワークス社に依頼し12月6日に実施)

⑤空き地管理
・対処数　180件／指導数　274件
・対処率　65.69%

⑥休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金
・抗廃水処理補助対象経費　7,758,325円
・紀の川市補助金　646,000円
（補助率）国：9/12、県：2/12、市：1/12

⑦騒音・振動・悪臭対策
・騒音調査委託事例　0件
・臭気調査委託事例　0件

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・市民からの申し出や相談により、周辺の生活環境を損なっている土地所有者への改善の指導、悪臭や騒音等の生活環境を損なう様々な要因に対し、現状改善に向けて中立の立場で対応することで、市民がより良い環境で生活できるようにするため、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・土地所有者に対する指導や、様々な事案の現場に出向き、現状改善を図ることには有効性がある。
・土地所有者に現状改善の指導通知を郵送する際、和海紀森林組合やシルバー人材センターのチラシを同封し、改善手段の参考になるように周知している。
・近年、土地所有者の高齢化や相続人の市外流出等により現状改善が図られない土地が多くなってきており、管理不全土地の管理、現状改善のための対処等の指導が課題となっている。
・「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の構築」に向け、「ゼロカーボンシティ宣言」のもと、次世代エネルギーを題材にした体験機会の提供、各世帯への啓発チラシの配布、広報紙へ定期的に啓発記事を掲載することで市民・事業者の意識の高揚に取り組む必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・土地所有者の情報について、土地登記簿に記載されている住所以外不明な事例が多く、「自身が所有する土地は、自身において適正管理しなければならない」という意識を強く持ってもらえるよう郵送による通知により指導を行っている。しかしながら、即効性があるとは言い難く、現在の郵送による通知の継続と並行し、土地管理者への直接訪問や、市道隣接地等は市道管理担当課と合同で伐採を行うなど、様々な手段を講じて対処している。

事務事業の概要

事務事業名	地域美化事業	担当課	環境衛生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	809

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会	
予算科目 目	6 環境衛生費	基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進	
		取組方針	2	地域環境美化の推進	

事業概要：市民が快適な環境の中で生活を営んでもらうために、市民、行政が連携して地域環境の美化活動を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	都市下水路管理	⑤	地域一斉清掃補助金	⑨	
②	廃棄物処理（汚泥・死骸）	⑥		⑩	
③	美化啓発	⑦		⑪	
④	廃棄物処理負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 水路清掃参加世帯数	世帯	目標	15,600	15,600	13,510	13,370	13,370	令和7年度においては参加自治区数及び自治区1区あたりでの参加世帯数が前年度と比べ減少した。これは少子高齢化によるものと推測され、今後は参加数が減少していくと見込んでいる。
		実績	12,172	12,296	12,182			
＜指標の計算方法＞	水路清掃参加世帯数							
活動指標 水路清掃補助件数	件	目標	199	199	199	199	199	自治区の補助件数は前年度より5件増加した。今後も参加自治区は増加し、自治区に対する補助件数も増加すると見込んでいる。
		実績	113	112	117			
＜指標の計算方法＞	水路清掃補助件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
10,683						10,683

事業の実績

①都市下水路管理
・水路清掃
　・粉河駅～旧紀陽銀行粉河支店
　・旧紀陽銀行粉河支店～天福荘
　　(R7.11.6実施)
・マンホール会所清掃
　・市道小田井線　(33箇所)
　・市道粉河井田線(13箇所)
　　(R8.3.3実施)
　・県道粉河寺線(23箇所):未実施
　　(R8実施予定)
　※H30から県道と市道のマンホール会所部分の浚渫作業を隔年で実施
②廃棄物処理（汚泥・死骸）
・20kg以上の大型動物死骸処理業務を委託
　委託先：㈱岸化学
　1頭処理（ﾀﾇｷ 0頭、鹿 1頭、犬 0頭）
・休日の動物死骸収集運搬業務及び野焼き苦情現場確認業務を委託
　委託先：㈱共立ｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ
　55回出動（55回処理）
　・動物死骸処理　47件、野焼き対応　8件
③美化啓発
・「犬のフン防止看板」や「ごみポイ捨て禁止看板」等を購入し、再発防止と地域環境美化の啓発
④廃棄物処理負担金
・自治区水路清掃から出る土砂について、受託業者の最終処分場が三重県伊賀市となり、処分場に地方公共団体から搬入される一般廃棄物に対し、環境保全負担金を支出
・伊賀市（R2年度より）　1,000円/t（草木及び土砂）
　※以前、草木は和泉市に搬入していたが、焼却炉が廃炉となったため伊賀市に搬入している。
　処理実績
　・（土砂）237.47t：伊賀市へ搬入処分
　・（草木）　7.22t：伊賀市へ搬入処分
　※緊急対応時のために、伊賀市へ枠取り（土砂:350t、草木:50t）の協定を締結
⑤地域一斉清掃補助金
・各自治区水路清実施
　・［打田・粉河・那賀］自治区
　　搬入期間：令和7年4月27日～7月6日
　　（年間通し受入可）
　　搬入場所：大栄環境㈱ 粉河ﾘｻｲｸﾙｾﾝﾀｰ
　　実績：（土砂）238.10t（草木）6.60t
　・［桃山・貴志川］自治区
　　搬入期間：令和7年4月27日～5月25日
　　（年間通し受入可）
　　搬入場所：（土砂）旧貴桃CC不燃物処理場
　　（草木）紀の海ｸﾘｰﾝｾﾝﾀｰ
　　実績：（土砂）99.43t（草木）17.73t
・各自治区水路清掃補助
　※参加1世帯につき、100円を補助
　・参加世帯数 12,182世帯
　・参加自治区数 117自治区

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・各自治区が実施する水路清掃は、地域住民と行政がともにきれいで衛生的なまちづくりを行うための意識を共有することを目的としている。清掃時に生じる土砂、草等は自治区において処分することが困難であるため、市が処分費等を支出し支援するとともに水路清掃参加世帯数に応じて補助金を交付することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・各自治区において実施される水路清掃に対し、参加世帯数に応じて補助金を交付し、衛生的な生活環境への意識の高揚を促すための事業として位置づけている。
・今後、高齢化等により清掃が困難となる自治区の増加も予想されることから、官・民の連携をより一層深めるとともに自治区を超えた地域美化・環境保全について検討する必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・自主的に行われる地域住民の水路清掃活動に対し支援する土砂・草等の処理費及び参加補助金は、官・民連携による地域美化の活動費であり、活動実績に応じた補助費用であることから効率的に実施できている。

事務事業の概要

事務事業名	不法投棄防止事業	担当課	環境衛生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	815

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 目	6 環境衛生費	基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進
		取組方針	2	地域環境美化の推進

事業概要：市民に自然環境や生活環境の保全された中で生活を営んでもらうために、不法投棄の未然の防止や迅速な回収を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	不法投棄防止啓発・パトロール	⑤		⑨	
②	不法投棄物撤去・処理	⑥		⑩	
③	監視カメラ貸出	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 不法投棄発見件数	件	目標	150	150	150	150	150	令和6年度から会計年度任用職員による不法投棄監視パトロールに正職員1名を随伴させ2名体制となったことにより、不法投棄を未然に防止し、再発を抑制されたため、不法投棄発見数は大きく減少した。
		実績	143	265	202			
＜指標の計算方法＞	不法投棄発見件数							
活動指標 不法投棄監視パトロール件数	件	目標	250	250	250	250	250	環境衛生課職員によるパトロール件数が例年より増加したため、総件数も増加した。
		実績	255	247	258			
＜指標の計算方法＞	不法投棄監視パトロール件数							
活動指標 不法投棄防止広報紙掲載回数	回	目標	3	3	3	1	1	広報紙に掲載することで、不法投棄防止の啓発を行っているが、広報紙掲載ルールの変更により同種類記事の掲載が年1回までとなったことから年3回から1回へ減少した。
		実績	3	3	1			
＜指標の計算方法＞	広報紙掲載回数							
活動指標 監視カメラ貸出回数	回	目標						不法投棄防止のため監視カメラを貸出・設置していたが、令和7年度は課業務の重要事案監視のため使用していたため貸し出しを行うことができなかった。
		実績	2	3				
＜指標の計算方法＞	監視カメラ貸出回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
7,718						7,718

事業の実績

①不法投棄防止啓発・パトロール
・広報紙による不法投棄防止啓発
・不法投棄防止啓発看板・のぼりを配布
・会計年度任用職員・正職員でパトロール
・年2回（6月・12月）、岩出保健所、各支所合同でパトロール

②不法投棄物撤去・処理
・不法投棄監視パトロール撤去回数　162回
・環境衛生課職員撤去回数　40回

③監視カメラ貸出
・カメラ貸出回数　0回
（自治区　0回、庁内　0回）
環境衛生課の案件で使用していたため、貸出件数は0となった。

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・不法投棄は依然として多く、通行の妨げや新たな不法投棄を誘発する可能性のあるものには早期発見・早期撤去が望ましく、市がきれいな街づくりをすることは妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・不法投棄監視パトロールを2名体制で実施することにより、不法投棄を未然に防止し、再発を抑制することで環境保全が維持できるだけでなく、事故防止・事件防止にも繋がるため、有効性は高まった。
・過去の実績をもとに手法やコースの再検討を行い、より効果的な不法投棄監視パトロールにする必要がある。

効率性
評価結果：改善の余地がややある
・会計年度任用職員による不法投棄監視パトロールにおいて、2名体制で行うことにより、作業範囲の拡大、安全で効率的な体制構築を図り、更なる不法投棄防止に努めていく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	水質保全事業	担当課	環境衛生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	813

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会	
予算科目 目	6 環境衛生費	基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進	
		取組方針	3	生活衛生の向上	

事業概要	市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市内河川等の水質検査及び浄化槽維持管理の適正化を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	水質検査	⑤		⑨	
②	貴志川水質保全対策連絡協議会負担金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 水質検査箇所数（紀の川市内河川33箇所）	箇所	目標	33	33	33	33	33	水質検査箇所数は紀の川市内33箇所予定どおりの箇所で検査できている。
		実績	33	33	33			
＜指標の計算方法＞	水質検査箇所数（紀の川市内河川33箇所）							
活動指標 水質検査箇所数（貴志川水質保全対策連絡協議会）	箇所	目標	6	6	6	6	6	水質検査箇所数は紀の川市内6箇所予定どおりの箇所で検査できている。
		実績	6	6	6			
＜指標の計算方法＞	水質検査箇所数（貴志川水質保全対策連絡協議会）							
活動指標 浄化槽の適正な維持管理の啓発回数	回	目標	4	4	4	4	4	浄化槽の適正な維持管理は、管理講習会で啓発を行っており、予定の4回全て開催することができ、十分に啓発することができた。
		実績	4	4	4			
＜指標の計算方法＞	浄化槽の適正な維持管理の啓発回数							
成果指標 汚水処理人口普及率	%	目標	80	80	90	90	90	市の汚水処理人口普及率は、合併処理浄化槽設置及び公共下水道の供用開始区域の拡充に伴い年々上昇している。
		実績	79.6	81.7	83.4			
＜指標の計算方法＞	総人口に占める汚水処理施設の処理人口の割合							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
612						612

事業の実績

①水質検査
・水質検査の実施（夏季分）
・令和7年8月28日、29日
・紀の川市内河川　33箇所
（水質検査の結果）
全ての検査項目で基準値内

・水質検査の実施（冬季分）
・令和8年2月17日、18日
・紀の川市内河川　33箇所
（水質検査の結果）
全ての検査項目で基準値内

②貴志川水質保全対策連絡協議会
・水質検査の実施（夏季分）
（貴志川水質保全対策連絡協議会として）
・令和7年9月29日
・貴志川水系（紀の川市内分）6箇所
（水質検査の結果）
全て大腸菌数が基準値を少し上回っている。
他の検査項目は基準値内

・水質検査の実施（冬季分）
（貴志川水質保全対策連絡協議会として）
・令和8年2月27日
・貴志川水系（紀の川市内分）4箇所
※6箇所中2箇所はふん便性大腸菌群数のみ検査のため冬季は実施せず。
（水質検査の結果）
全て大腸菌数が基準値を少し上回っている。
他の検査項目は基準値内

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市内河川33箇所（生活環境・健康に関する検査17項目）及び貴志川水系6箇所（生活環境に関する検査5項目）の水質検査を実施する事業である。公共用水域の水質汚濁の防止を図り、市民が快適で衛生的な生活が送れるように水環境の保全を行うことを目的としているため市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・水質検査は、ほぼ全ての箇所において検査項目が基準値内となっている。なお、33箇所のうち数箇所で河川の水の透視度が若干悪い箇所が見受けられたが、特に問題がない状況である。
・貴志川水系は検査時において、水浴に不適な箇所はなく、河川の環境基準値を充分に満たしており正常な状態である。今後も引き続き良好な水質保全を保ち続けていくために、市のホームページで検査結果を公表し、良好な河川の水質保全について、更なる通知・啓発をしていく必要がある。
・より良い水環境の保全に向けて、汚水処理人口普及率の向上及び合併処理浄化槽の適正管理に向けた啓発等に取り組むとともに、常に河川の状況を把握しておくことは重要なことである。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・民間業者に水質検査を委託することで精度の高い検査を実施することができ、また検査結果の状況を確認できることで、より良い水環境の保全に努めることができるため効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	浄化槽普及促進事業	担当課	環境衛生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	810

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 目	6 環境衛生費	基本施策	3	適切な生活排水対策の推進
		取組方針	1	合併処理浄化槽の普及促進と適正な維持管理の推進

事業概要	市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市民（合併処理浄化槽設置者）に合併浄化槽設置に関する補助金の交付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	浄化槽普及促進協議会負担金	⑤		⑨	
②	浄化槽設置整備事業補助金	⑥		⑩	
③	浄化槽台帳整備	⑦		⑪	
④	県水質保全センター負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	合併処理浄化槽人口普及率	%	目標	60	61	62	64	66	新築及び単独処理浄化槽又は汲み取り便槽から合併処理浄化槽への転換に伴い普及率が増加している。
			実績	61.6	63.3	64.6			
	＜指標の計算方法＞	合併処理浄化槽人口普及率							
活動指標	浄化槽補助基数	基	目標	230	230	230	210	210	昨年度に比べ補助基数は上昇しているが、新設の件数については、昨年度より下回った。
			実績	196	151	172			
	＜指標の計算方法＞	浄化槽補助基数							
活動指標	単独転換補助基数	基	目標	10	10	10	20	20	単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換について、昨年度より件数が増加しており、転換への啓発を継続して行う。
			実績	7	5	9			
	＜指標の計算方法＞	単独転換補助基数							
活動指標	配管工事補助基数	基	目標	85	85	50	50	50	単独処理浄化槽又は汲み取り便槽から、合併処理浄化槽への転換に伴う配管工事の件数は昨年度に比べて１件増加した。
			実績	51	37	38			
	＜指標の計算方法＞	配管工事補助基数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
72,481	11,562	24,115				36,804

事業の実績

①浄化槽普及促進協議会負担金
浄化槽の普及促進、その設置並びに維持管理の適正化を図り、水質汚濁の防止、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に寄与
・基本会費　20,000円
・事業割会費　42,000円

②浄化槽設置整備事業補助金
・浄化槽設置整備補助件数・補助金額
・5人槽　150件　49,800,000円
・7人槽　20件　8,280,000円
・10人槽　2件　1,096,000円
計　172件　59,176,000円

・単独処理浄化槽撤去補助件数・補助金額
・5人槽　4件、7人槽　2件
計　6件　720,000円

・くみ取り便槽撤去補助件数・補助金額
・5人槽　8件、7人槽　6件
計　14件　1,260,000円

・単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への配管工事補助件数・補助金額
・5人槽　6件、7人槽　3件
計　9件　2,700,000円

・くみ取り便槽から合併処理浄化槽への配管工事補助件数・補助金額
・5人槽　16件、7人槽　13件
計　29件　8,490,000円

③浄化槽台帳整備
・浄化槽管理システム利用料
令和6年1月分よりデジタル推進室で一括払いのため、実績額なし。
(参考)
15,000円/月×12ヵ月×1.10＝198,000円
台帳システムのデータ整備を継続実施している。

④県水質保全センター負担金
浄化槽の普及促進、その設置並びに維持管理の適正化を図り、水質汚濁の防止、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に寄与
・会　費　10,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・合併処理浄化槽設置を推進し普及促進することにより、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するとともに、市民が快適で衛生的な生活が行えるようにすることを目的としている。
・新たな住宅へ合併処理浄化槽を設置する者、また既存便槽を合併処理浄化槽へ転換する者に対し補助金を交付することは、設置者の費用負担の軽減が図られるため、市で実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・過去には浄化槽補助件数は減少傾向であったが、平成30年度より単独処理浄化槽又はくみ取り便槽から合併処理浄化槽へ転換する場合の配管工事が補助対象となったことから補助件数は増加傾向にある。
・補助金申請者には浄化槽管講習会の受講を義務付け、浄化槽の保守点検・清掃・法定検査（水質検査）を遵守し適正な管理に努めるよう指導・啓発を行い、生活排水による公共用水域の水質汚濁の防止を図るとともに汚水処理人口普及率の向上に努めていく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・単独処理浄化槽やくみ取り便槽の方々に対して、従来からの補助金に加え、平成30年度から導入した配管工事の補助金を活用して普及・啓発に取り組んだことにより、合併処理浄化槽への転換が進んでいる。今後も、汚水処理人口普及率の向上に向け、引き続き合併処理浄化槽への転換、普及啓発が必要である。

事務事業の概要

事務事業名	畜犬管理事業	担当課	環境衛生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	814

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会	
予算科目 目	6 環境衛生費	基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進	
		取組方針	3	生活衛生の向上	

事業概要：市民（飼い主）にペットの衛生的に適切な飼育を行ってもらうために、飼い犬の登録、予防接種を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	犬登録・管理	⑤		⑨	
②	狂犬病予防注射	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	予防注射接種件数	件	目標	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	ほぼ横ばいであるが、令和6年度から減少となった。狂犬病予防注射の必要性を飼い主に理解してもらうための啓発を行っている。
			実績	2,091	2,099	1,977			
	＜指標の計算方法＞	畜犬の予防接種件数							
活動指標	新規犬登録件数	件	目標	240	240	240	240	240	ほぼ横ばいであったが、令和6年度からは減少となった。市民に対し犬の登録の必要性について周知を図るとともに、新規登録受付時は予防接種の必要性をはじめ、飼育に関するモラルについて啓発を行っている。
			実績	246	242	198			
	＜指標の計算方法＞	新規犬登録件数							
活動指標	予防注射通知件数	件	目標	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	令和6年度と比べ同等程度となった。狂犬病予防集合注射の案内はがきは実施2週間前を目途に、登録している畜犬の飼い主に対して送付している。
			実績	3,459	3,183	3,131			
	＜指標の計算方法＞	はがき発送件数							
成果指標	予防注射接種率	%	目標	100	100	100	100	100	令和6年度と比べると大きく減少した。接種件数も減少傾向であるため、飼い主の意識の高揚を促すための啓発を行う必要がある。
			実績	55.64	60.09	52.28			
	＜指標の計算方法＞	予防注射接種件数／犬総登録件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,250					1,250	

事業の実績

①犬登録・管理
・畜犬登録手数料（3,000円）を徴収し、鑑札を交付（紀の川市・岩出市内の動物病院でも登録可能）
・総登録件数　3,512頭

②狂犬病予防注射
・狂犬病予防集合注射を令和7年4月中旬に、各地区1日、延べ5日間：36箇所で実施
　・打田地区　　84件
　・粉河地区　　79件
　・那賀地区　　67件
　・桃山鞆渕地区　46件
　・貴志川地区　　53件（計329件）
・狂犬病予防注射済票交付手数料（550円）を徴収し、年度ごとの注射済票を交付

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・狂犬病予防法に則った事業であるため、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・狂犬病予防注射の接種率が低く、飼い主に意識の高揚を促すための更なる啓発等が必要である。市が狂犬病予防集合注射を実施することによって、飼い主に注射接種の機会を提供することができるため、接種箇所の見直しを行いながら、市が実施することは有効である。
・近年獣医師が不足してきており、集合注射における獣医師の確保が問題になってきていることから、獣医師会と協議のうえ確実に実施できるよう調整していく必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・近年獣医師が不足してきており、集合注射における獣医師の確保が問題になってきていることから、日程・実施場所等、獣医師会と協議し、効率的な実施を検討する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	墓地管理運営事業	担当課	環境衛生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	59

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	1 保健衛生費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会	
予算科目 目	6 環境衛生費	基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進	
		取組方針	3	生活衛生の向上	

事業概要：市民が墓地等を安心して快適に利用できるように、施設の維持管理や運営を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業

①	市営墓地運営	⑤		⑨	
②	市営墓地施設管理	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 市営墓地草刈委託回数	回	目標	6	6	6	6	6	安心して快適な環境で市営墓地を使用してもらうため、草刈り・修繕による維持管理を実施している。
		実績	6	6	6			
＜指標の計算方法＞	市営墓地草刈委託回数							
成果指標 市営墓地公募区画数	区画	目標						市営墓地台帳更新整備中のため、令和4年度から公募を中断している。 墓地台帳の整備状況を見ながら公募の再開を検討する。
		実績						
＜指標の計算方法＞	市営墓地公募区画数							
成果指標 改葬許可件数	件	目標						現在使用している紀の川市内の墓地等から遺骨を移動させる必要が生じた際、申請に基づいて改葬許可証を発行している。
		実績	63	51	47			
＜指標の計算方法＞	改葬許可件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,546					25	1,521

事業の実績

①市営墓地運営
・墓地、納骨堂又は火葬場経営等の許可及び変更・廃止許可申請　0件

・市営墓地の承継　8区画
　・矢倉墓地　　5区画
　・那賀第1墓地　2区画
　・那賀第2墓地　1区画

・改葬許可申請　47件（124名分）
　埋葬した死体を他の墳墓に移し、又は埋蔵し、若しくは収蔵した焼骨を、他の墳墓又は納骨堂に移すために市長が許可を行う

・市営墓地台帳更新整備
　・使用者調査票の送付、とりまとめ
　・連絡先不明区画への立て札設置、回収
　・墓地台帳の入力、更新

②市営墓地施設管理
・修繕工事　0件

・墓地区画整備　0区画

・市営墓地草刈業務委託　計6回
　・矢倉墓地（進入路）1回
　・矢倉墓地（地内）　1回
　・小坂墓地（夏季）　1回
　・小坂墓地（冬季）　1回
　・那賀第2墓地　　1回
　・那賀斎場跡地　　1回

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・市営墓地内を適切に清掃管理して良好な状態に保つことは、快適な環境維持及び生活衛生の向上と密接に結びついている。
・墓地経営には永続性・非営利性が求められることから、市(地方公共団体)が市営墓地の経営を行うことは、安定的な墓地経営に取り組むうえで妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・市営墓地の維持管理は、適切な管理運営のために不可欠である。
・墓地管理台帳の完成後も、墓地使用者が安心して快適な環境で墓所を永続的に使用できる体制づくりの継続的な検討が必要である。
・公募による市営墓地空き区画の使用を目指すうえで、日々の維持管理・台帳更新を適宜実施していくことは有効である。

効率性
評価結果：改善の余地がややある
・墓地の維持管理に必要不可欠な草刈・修繕を実施しており、実施費用は可能な限り削減されたものである。
・市営墓地の運営全般について、今後の業務効率を考慮した検討が必要である。

事務事業の概要

事務事業名	五色台広域施設組合事業	担当課	環境衛生課	事業区分	一部事務組合
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	819
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 款	4 衛　生　費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 項	1 保健衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進
予算科目 目	6 環境衛生費		取組方針	3	生活衛生の向上
事業概要	市民が滞りなく葬祭、火葬を行えるように、五色台広域施設組合の運営に参画する事業				

事務事業を構成する細事業					
①	五色台広域施設組合負担金	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 火葬件数（紀の川市管内）	件	目標						令和7年度は令和5年及び6年度の実績値を下回る件数で推移した。
		実績	851	913	828			
＜指標の計算方法＞	五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の火葬件数							
成果指標 火葬件数（五色台聖苑全体）	件	目標						令和7年度は令和5年及び6年度の実績値を下回る件数で推移した。
		実績	1,659	1,712	1,516			
＜指標の計算方法＞	五色台聖苑にて実施した火葬総件数							
成果指標 葬祭件数（紀の川市管内）	件	目標						令和7年度は令和5年及び6年度の実績値を少し下回る程度の件数で推移した。
		実績	28	29	24			
＜指標の計算方法＞	五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の葬祭件数							
成果指標 葬祭件数（五色台聖苑全体）	件	目標						令和7年度は令和5年及び6年度の実績値を少し下回る程度の件数で推移した。
		実績	230	207	151			
＜指標の計算方法＞	五色台聖苑にて実施した葬祭総件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
63,649						63,649

事業の実績

①五色台広域施設組合負担金
・紀の川市負担金　63,649,000円
・紀の川市負担率　54.40%

（内訳）
・管理運営負担金（負担率54.46%）
113,295,000円×（28.49%＋25.97%）
＝61,700,000円
・人口割（50%）　50%×56.98%＝28.49%
令和6年9月末住基人口（103,612人）
紀の川市 59,045人、海南市 36,804人
紀美野町　7,763人
・使用割（50%）　50%×51.94%＝25.97%
令和5年度使用件数（1,565件）
紀の川市 813件、海南市 562件
紀美野町 190件

・施設建設負担金（負担率52.64%）
3,702,000円×（5.00%＋47.64%）
＝1,949,000円
・均等割（15%）　15%×1/3＝5.00%
紀の川市 1/3、海南市 1/3
紀美野町 1/3
・人口割（85%）　85%×56.05%＝47.64%
令和2年国調人口（104,935人）
紀の川市 58,816人、海南市 37,863人
紀美野町　8,256人

・参与会　3回
・R7.7.11　R7.7.28開催臨時議会提出議案協議
・条例改正
・R7.10.24　R711.7開催R7第2回定例会提出議案協議
・R6決算の認定
・火葬の受付事務
・R8.1.29　R8.2.12開催R8第1回定例会提出議案協議
・条例改正
・R7補正予算
・R8当初予算
・火葬の受付事務
・火葬炉設備更新工事公募型プロポーザル方式業者選定委員会について

・定例会　2回
・R7.11.7　R7第2回定例会
・R6決算の認定
・R8.2.12　R8第1回定例会
・条例改正
・R7補正予算
・R8当初予算
・監査委員の選任

・臨時会　1回
・R7.7.28　R7第1回臨時会
・条例改正

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・紀の川市、海南市、紀美野町で運営している一部事務組合の運営事業であることから、規定に基づいた負担率で算出された運営費を支出することは妥当である。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・紀の川市内に火葬を行う施設がなく、すべての火葬業務を五色台聖苑で執り行っていることから、市民生活に必要な事業である。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・負担金は、管理運営負担金と施設建設負担金で構成され、構成市町の人口や利用件数等で負担率を算出していることから現状の施設運営方法が最も効率的である。	

事務事業の概要

事務事業名	地元管理飲料水供給施設整備補助事業	担当課	環境衛生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	60

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 款	4 衛　生　費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 項	1 保健衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進
予算科目 目	7 水道事業費		取組方針	3	生活衛生の向上

事業概要	市民（飲料水供給施設利用者）が安全・安心な飲料水の確保と安定供給を享受するために、飲料水供給施設の新設・改修及び維持管理について補助金の交付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	地元管理飲料水供給施設事業補助金	⑤		⑨	
②	飲料水供給施設定期巡回指導	⑥		⑩	
③	地元管理飲料水供給施設運営特別助成金	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	飲料水安定供給世帯数	世帯	目標	315	315	315	315	315	地元管理飲料水供給施設の給水世帯数は、ほぼ横ばい傾向にある。
			実績	317	316	315			
	＜指標の計算方法＞	飲料水安定供給世帯数							
活動指標	飲料水供給施設補助件数	件	目標	4	4	4	4	4	令和7年度は、施設の修繕の件数が少なく、補助件数は減少した。水質検査についても補助の申請は減少した。
			実績	3	8	3			
	＜指標の計算方法＞	飲料水供給施設補助件数							
活動指標	飲料水供給施設定期巡回指導件数	件	目標	6	6	6	6	6	岩出保健所と共同で実施する事業。令和7年度は巡回先施設、岩出保健所、当課の日程が折り合わず、実施できなかったため、令和8年度前期に実施を予定している。
			実績	4	3	0			
	＜指標の計算方法＞	飲料水供給施設定期巡回指導件数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,225						1,225

事業の実績

①地元管理飲料水供給施設事業補助金
・施設改修補助金
　・東垣内水道組合　256,000円
　・東杉原水道組合　210,000円

・維持管理補助金
　・荒見東地区簡易水道組合　4,000円

②飲料水供給施設定期巡回指導
　今年度は実績なし。

③地元管理飲料水供給施設運営特別助成金
　・中尾飲料水供給施設　30,000円
　・広口簡易水道名手上支部　42,500円
　・新田簡易上水道利用組合　27,500円
　・東垣内水道組合　10,000円
　・荒見東地区簡易水道組合　120,000円
　・遠方西水道組合　50,000円
　・西杉原南部簡易水道組合　120,000円
　・下勝神水道組合　15,000円
　・東杉原水道組合　135,000円
　・名手上大松水道組合　12,500円
　・五百谷簡易水道組合　25,000円
　・遠方中垣内水道組合　65,000円
　・露谷水道組合　20,000円
　・槇尾簡易水道組合　65,000円
　・神田741自治会　17,500円
　（15組合　補助金総額　755,000円）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・水道未普及地域において、地元管理飲料水供給施設は地域住民の重要なライフラインであり、地元のみでの事業実施及び施設の運営管理となると負担が大きくなることから、飲料水を安心・安全に供給するために市が事業を補助することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・各組合施設の改修・維持管理補助は、要望件数の全てに補助しており、施設の運営管理に寄与できていると考える。令和7年度は、施設の修繕件数が少なかったが、施設の老朽化等が進んでいることから、施設の大規模修繕は避けられず有効であると考えられる。
・岩出保健所主体で地元管理飲料水供給施設組合に対して定期巡回指導を行い、受益者が安心・安全な飲料水を供給できるようするための啓発を行うことは有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・地元管理飲料水供給施設の経年劣化又は突発的な故障により改修が必要となった場合、修復には緊急を要することから改修などは地元で行うのが望ましい。飲料水を安心・安全に供給するため、地元の費用負担も考慮して施設改修費等に要する費用の一部補助は効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	ごみ適正排出推進事業	担当課	廃棄物対策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	828

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	2 清　掃　費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会	
予算科目 目	1 清掃総務費	基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理	
		取組方針	1	ごみの減量や資源化の推進	

事業概要	市が効率的にごみ処理ができるように、市民にごみの適正な処理・排出方法の啓発や周知を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 指定ごみ袋作成管理	⑤ 資源ごみ持ち去りパトロール	⑨		
	② 啓発物資作成（カレンダー等）	⑥	⑩		
	③ 啓発活動	⑦	⑪		
	④ ごみ集積施設設置補助金	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 ごみ集積所箇所数	箇所	目標	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	宅地開発に伴い設置した数が集約した数を上回ったことにより、集積所数が増加した。
		実績	2,624	2,628	2,630			
＜指標の計算方法＞	ごみ集積所の箇所数							
成果指標 ごみ集積所設置補助基数	基	目標	50	50	50	50	50	令和6年度と比べ補助基数は減少し、それに伴い交付した補助金額も減少した。
		実績	20	22	20			
＜指標の計算方法＞	補助金交付を行った集積所ボックス新設・修繕基数　（目標：建て替え修繕30基/年、集約新設20基/年）							
活動指標 資源ごみパトロール回数	回	目標	80	80	80	80	80	令和6年度と比べ回数がやや減少したが、令和7年度は例年並みの回数となった。
		実績	52	63	60			
＜指標の計算方法＞	資源ごみパトロール回数							
成果指標 ごみ資源化率	%	目標	13	13	13	13	13	令和6年度と比べ資源化率がやや低下した。民間での資源品回収・リサイクルの推進に伴い、ごみ資源化量が減少しているものと考えられる。
		実績	10.8	10.2	9.5			
＜指標の計算方法＞	ごみ資源化量÷ごみ処理量（集団回収量を含む、事業系ごみは除く）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
56,488						56,488

事業の実績

①指定ごみ袋作成管理
ごみ袋を作成しました。
・家庭用もやす(大)　1,900,000枚
・家庭用もやす(小)　700,000枚
・家庭用資源(大)　220,000枚
・家庭用資源(小)　196,000枚
・家庭用もやす(極小)　80,000枚

②啓発物資作成（カレンダー等）
家庭用ごみ収集日程表(カレンダー)を作成し、各家庭に配布しました。
・印刷部数　27,500部

③啓発活動
・出前講座開催数　9回
ふれあい収集事業や小学生を対象にごみの分別方法・リサイクルの啓発を行いました。
・集約化協力依頼通知　62地区
ごみ集積所の集約化に向けて、集約化が進んでいない自治区に対し、集約化の協力依頼を行いました。

④ごみ集積施設設置補助金
各自治区から申請のあったごみ集積施設設置費用の1/2の補助を行いました。
（新設 12基、建替 0基、改修 8基）
上記のうち、ごみ集積施設集約化設置補助1地区（粉河 1地区 2基）

⑤資源ごみ持ち去りパトロール
・パトロール回数　60回
・パトロール実施日数　24日
・パトロール実施者数　119人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・廃棄物処理法では、一般廃棄物の処理は市町村の責務であると規定されており、ごみの適正な処理及び排出方法やごみの排出量の抑制、ごみ集積所の集約化は一般廃棄物処理基本計画に基づいて取り組むもので、市で実施すべきものであり、啓発、周知を行うことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・ごみの分別について、「ごみの出し方ルールとマナー」やごみ収集カレンダー等で周知を行っており、家庭から出るごみの適正排出及び資源の有効活用につながっている。しかし、未だ分別不十分なごみの排出が発生しているため、引き続き市民への周知を行っていく必要がある。
・出前講座による啓発活動は市民の分別意識の向上に有効であると考えられるので、引き続き実施し、ごみ資源化率の向上に努めていく必要がある。
・ごみ集積所の集約は市民の理解と協力が不可欠であるため、区長会等を通じて集約の依頼を行っている。しかし、依然として地域によって集約状況に格差が生じているため、市民の理解と協力を得られるよう引き続き推進していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・ごみ集積所の集約化はごみ収集の効率化や費用抑制に繋がるものであり、市民の理解と協力が不可欠なため、引き続き推進していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	ごみ対策事業	担当課	廃棄物対策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	829

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 款	4 衛　生　費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 項	2 清　掃　費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理
予算科目 目	1 清掃総務費		取組方針	4	ごみの適正処理

事業概要	市が循環型社会の構築に寄与するために、一般廃棄物処理計画に基づく施策の推進を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	廃棄物処理業許認可業務	⑤		⑨	
②	一般廃棄物処理計画進行管理	⑥		⑩	
③	汚染負荷量賦課金負担金	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 事業系一般廃棄物収集量	トン	目標	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	令和6年度と比べ収集量が微増した。
		実績	1,758.3	1,727.79	1,814.93			
＜指標の計算方法＞	事業系一般廃棄物を収集運搬許可業者が収集し、紀の海クリーンセンターへ搬入した量							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
130						130

事業の実績

①廃棄物処理業許認可業務
・一般廃棄物処理業新規許可　1件
・一般廃棄物処理業許可更新　1件

②一般廃棄物処理計画進行管理
紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画を策定し、告示しました。

③汚染負荷量賦課金負担金
公害健康被害の補償等に関する法律に基づき、公害健康被害者への補償給付等のための負担金を支払いました。
70,800円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いは各法で定められていることから、市で実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いについて、各法で定められているとおり適正に処理できている。
・一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の見直し検討は、ごみの効率的な収集・処理を行うことで、より適切な家庭ごみの処理・リサイクルが可能になり今後も引き続き行っていく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・一般廃棄物の処理は、廃棄物処理法において市町村の責務とされていることから、ごみ処理事業(収集運搬も含む)は、適正かつ効率的な運営に取り組む必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	最終処分事業	担当課	廃棄物対策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1068

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	2 清　掃　費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 目	1 清掃総務費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理
			取組方針	4	ごみの適正処理

事業概要

市が最終処分場の整備や確保を進めるために、関連団体の運営に参画する事業

事務事業を構成する細事業

①	大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 最終処分量	トン	目標	2,535	2,505	2,475	2,445	2,415	市民のごみ分別意識の向上による生活ごみ排出量の減少が要因と考えられる。
		実績	2,295	2,063	2,035			
＜指標の計算方法＞	焼却灰、不燃粗大ごみ、ばいじん量							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,261						3,261

事業の実績

①大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金

大阪湾広域臨海環境整備センターは、近畿圏の一般廃棄物や産業廃棄物を受け入れる広域最終処分場を整備し、生活環境の保全及び地域の均衡ある発展に資することを目的とする。

・上半期分　1,957,000円
・下半期分　1,304,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・一般廃棄物の処理は廃棄物処理法において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正かつ能率的に運営するよう努めなければならない事が定められており、処分場を確保しなければならないため、大阪湾広域臨海環境整備センターで実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度で効率的な処理や環境負荷の軽減が可能となるため有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・国土交通省、港湾管理者が主体となる事業であり、市町村や府県域を超えた関係者が共同で利用することができる廃棄物の最終処分場を確保し、圏域全体の長期的で安定的な廃棄物の処分を図ることができ、かつ、民間の処分場と比較すると安価で処分することができることから、コスト面において効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	紀の海広域施設組合事業	担当課	廃棄物対策課	事業区分	一部事務組合
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	830

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	2 清　掃　費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会	
予算科目 目	1 清掃総務費	基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理	
		取組方針	4	ごみの適正処理	

事業概要：市民が滞りなくごみ処理を行えるように、紀の海広域施設組合の運営に参画する事業

事務事業を構成する細事業					
①	紀の海広域施設組合負担金	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	もやすごみ処理量	トン	目標						令和6年度実績と比較すると、95t（0.7%）微増したが、近年は、人口減少に伴い生活ごみの排出量も減少するため、処理量は横ばいから減少傾向にある。
			実績	14,827	14,424	14,519			
	＜指標の計算方法＞	年間処理量							
活動指標	資源ごみ処理量	トン	目標						令和6年度実績と比較すると、42t（3.7%）減少している。人口減少に伴う生活ごみ排出量の減少や、民間での資源品回収・リサイクルの推進に伴い搬入量が減少しているものと考えられる。
			実績	1,194	1,144	1,102			
	＜指標の計算方法＞	年間処理量							
活動指標	粗大ごみ処理量	トン	目標						令和6年度実績と比較すると、56t（4.5%）減少している。人口減少に伴う生活ごみ排出量の減少や、民間でのリユース・リサイクルの推進に伴い搬入量が減少しているものと考えられる。
			実績	1,192	1,243	1,187			
	＜指標の計算方法＞	年間処理量							
活動指標	埋立ごみ処理量	トン	目標						令和6年度実績と比較すると、7t（7.4%）減少している。人口減少に伴う生活ごみ排出量の減少も要因と考えられる。
			実績	104	94	87			
	＜指標の計算方法＞	年間処理量							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
410,698						410,698

事業の実績

①紀の海広域施設組合負担金

◎ 施設管理運営負担金、市負担率
- 熱回収施設　253,203,000円(49.32%)
- ﾘｻｲｸﾙ施設　136,990,000円(82.50%)
- 洗車施設　2,940,000円(51.40%)

※管理運営負担割合
均等割　10%
人口割　20%
処理量割 70%

◎ 施設建設負担金、市負担率
周辺整備
- 熱回収施設　6,865,000円(45.94%)

※建設負担割合
均等割　15%
人口割　50%
処理量割 35%

◎ 災害復旧負担金、市負担率
- 災害復旧負担金(公債費)
10,700,000円(49.32%)

※熱回収施設管理運営負担割合
均等割　10%
人口割　20%
処理量割 70%

◎ 定例会　2回
- R7.10.14　R7第2回定例会
条例改正
R6決算の認定
R7補正予算
- R8.2.13　R8第1回定例会
条例改正
R8当初予算

◎ 臨時会　1回
- R7.6.30　R7第1回臨時会
監査委員の選任
R7補正予算

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となることから、紀の海広域施設組合で実施することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となることから、紀の海広域施設組合で実施することは有効である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、安定的かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストが縮減となり効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	ごみ収集事業	担当課	廃棄物対策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	821

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	2 清　掃　費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 目	2 塵芥処理費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理
			取組方針	1	ごみの減量や資源化の推進

事業概要：市民が衛生的な生活を送れるように、市民、企業等が排出したごみの収集を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	ごみ収集（もやす・資源）	⑤	ごみ出し困窮家庭支援	⑨	
②	ごみ収集（粗大）	⑥	ごみ収集車管理	⑩	
③	ペットボトル拠点回収	⑦	ごみ収集事務所施設管理	⑪	
④	廃油回収	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 1人1日当たりのごみ搬出量	g	目標	780	780	780	780	780	令和6年度と比べ微増しているが、ごみ搬出量は年々減少傾向にある。市民のごみ減量に対する意識の高まりが、各家庭からの排出量減少につながっていると考えられる。
		実績	797	789	797			
＜指標の計算方法＞	ごみの総排出量÷365日÷人口							
成果指標 もやすごみ収集量	トン	目標	16,400	16,200	16,000	15,800	15,600	令和6年度と比べ微増しているが、分別についての細分化に伴い、収集量が適正化されるとともに年々減少傾向にあり、例年目標値は達成されている。
		実績	14,827	14,424	14,519			
＜指標の計算方法＞	もやすごみ収集量							
成果指標 資源ごみ収集量	トン	目標	1,480	1,480	1,480	1,480	1,480	分別についての細分化に伴い、収集量が適正化されているように見受けられるが、民間でのリサイクルの推進も進んでいるため、民間に資源ごみが流れている状況も考えられる。
		実績	1,194	1,144	1,102			
＜指標の計算方法＞	資源ごみ収集量							
成果指標 粗大ごみ収集量	個	目標	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	各家庭への戸別収集における粗大ごみの収集個数については、減少傾向である。
		実績	5,243	4,702	4,497			
＜指標の計算方法＞	粗大ごみ戸別回収収集個数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
272,693			3,000		78,527	191,166

事業の実績

①ごみ収集（もやす・資源）
・年間収集日数 258日

②ごみ収集（粗大）
粗大ごみ戸別回収実績
・収集件数　1,601件
・収集個数　4,497個
・うち24個をリユース品として産業まつりにて無償提供した。

③ペットボトル拠点回収
・拠点回収箇所　36箇所

④廃油回収
・廃油回収量　4,752ℓ

⑤ごみ出し困窮家庭支援（ふれあい収集）
・令和7年度申請件数　14件（累計84件）
・利用件数　36件（令和7年度末）

⑥ごみ収集車管理
・収集車両購入
購入額 2tダンプ車　1台 5,610,000円
・収集車両売却
売却額 2tパッカー車 2台 1,175,000円
2tダンプ車　1台 530,000円

⑦ごみ収集事務所施設管理
令和6年4月1日から、ごみ収集業務を一元化した収集事務所の運用を開始した。
業務委託
・機械警備業務
・電気保安管理業務
・消防設備保守点検業務
・浄化槽保守点検業務
・雑草等刈取業務
・受水槽清掃業務

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・一般廃棄物の処理等に関しては、法令等により市で行わなければならないため妥当である。
・市民の生活環境の維持及び限られた資源の有効活用を図るため、「ごみの出し方ルールとマナー」をもとに、分別を徹底し、排出量の抑制や効率化等を図るうえで必要な事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・ごみの排出量は年々減少傾向にあり、ごみの排出抑制の効果は見受けられている。令和2年度には新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛などの影響から家の片付けをする人が多くなったことにより直接、紀の海クリーンセンターへ持ち込まれる粗大ごみなどの量が一時的に増加したが、令和3年度以降は例年並みに減少している。
・ごみの排出抑制に向けた取組は、ごみ収集業務に携わる職員に年数回研修を行い、スキルの向上を図っている。
また、今後はより一層講習会および研修会を受講および実施し、さらなる住民サービスの向上を図りたい。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・ごみ収集業務を民間委託しても必ずしもコストダウンに繋がらない。さらに、住民サービスの低下に繋がる可能性があり、費用対効果を含めて慎重に検討していく必要がある。
・効率性及び人件費を含めたコスト削減について、様々な点に考慮しながら、収集計画及び収集体制の見直しを検討していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	廃棄物処理施設跡地管理事業	担当課	廃棄物対策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1147

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	2 清　掃　費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 目	2 塵芥処理費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理
			取組方針	9	その他

事業概要：市で運営していた一般廃棄物処理施設の跡地を適正かつ安全な管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	旧施設管理	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 跡地管理施設箇所数	箇所	目標	2	3	1	1	1	施設の閉鎖から長期間経過した跡地2か所の管理業務を令和6年度で終了したため、跡地管理施設箇所数は1か所に減少した。
		実績	2	3	1			
＜指標の計算方法＞	跡地管理施設箇所数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
73						73

事業の実績

①旧施設管理
・雑草等刈取作業委託
　麻生津中地内5,231㎡
　委託金額　72,450円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・市の廃棄物処理施設の跡地管理は市が責任を持って安全かつ適正に管理する必要があり妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・市の廃棄物処理施設の跡地管理は、周辺地域の環境及び景観の悪化など、安全かつ適正に継続事業として取り組む必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・市の廃棄物処理施設の跡地を今後も長期間にわたり安全かつ適正に管理していくにあたり、草刈り等の委託可能業務について、外部委託することで効率的に業務を進めている。

事務事業の概要

事務事業名	し尿処理事業	担当課	那賀支所	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	817

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	2 清　掃　費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 目	3 し尿処理費		基本施策	3	適切な生活排水対策の推進
			取組方針	2	し尿の適正処理

事業概要	市民が衛生的な生活を送れるように、那賀地区のし尿の収集を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	し尿収集	⑤		⑨	
②	し尿処理収集車管理	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	し尿汲取り件数	件	目標	3,900	3,800	3,800	3,700	3,700	合併浄化槽の普及や人口の減少により減少傾向にある。
			実績	3,881	3,836	3,511			
	＜指標の計算方法＞	し尿汲取り件数							
活動指標	し尿収集車保有台数	台	目標	4	4	4	4	4	老朽化した車両を入れ替え、4台を維持する。
			実績	4	4	4			
	＜指標の計算方法＞	し尿収集車保有台数							
成果指標	収集使用料滞納件数	件	目標	0	0	0	0	0	滞納者無しを維持する。
			実績	0	1	1			
	＜指標の計算方法＞	収集使用料滞納件数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
38,341			17,400		20,772	169

事業の実績

①し尿収集
〈し尿汲取り件数〉
・一般（普通）便槽：2,976件
・合併浄化槽：359 件
・単独浄化槽：176件
〈那賀衛生環境整備組合処理量〉
・生し尿：　1,271kl
・浄化槽汚泥：　1,551kl

②し尿処理収集車管理
・4台（3トン車2台、2トン車2台）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地域住民・企業等の浄化槽清掃・維持管理の為、し尿収集業務を行い、公衆衛生の向上に務める。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・地域住民・企業等の浄化槽のし尿収集申込に対し、迅速に対応することにより満足度が高く、衛生的な生活環境を満たしている。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・現状の実績等からすれば、人員については適正と考える。申込に対する電話対応は、支所職員全員で行っている。
・収集体制は、地域の実情を把握し、適正な料金設定が必要と考えられる。

事務事業の概要

事務事業名	し尿くみ取り料補助事業	担当課	環境衛生課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1238

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	2 清　掃　費	施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会	
予算科目 目	3 し尿処理費	基本施策	3	適切な生活排水対策の推進	
		取組方針	2	し尿の適正処理	

事業概要：市内に居住する者のし尿便槽（浄化槽を除く）が雨水や河川氾濫等の災害により浸水した場合に限り、その被災世帯に対し、補助金の交付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	し尿くみ取り料補助金	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	くみ取り料金補助件数	件	目標						令和7年度は本事業の対象となる災害が発生しなかったため交付申請も無く補助件数も無かった。
			実績	63	2				
	＜指標の計算方法＞	くみ取り料金補助件数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績

①し尿くみ取り料補助金
・1世帯につき、5,000円を限度に補助
・地区別・補助件数・補助金額

・打田地区	0件	0円
・粉河地区	0件	0円
・那賀地区	0件	0円
・桃山地区	0件	0円
・貴志川地区	0件	0円
計	0件	0円

※令和7年度は本事業の対象となる災害が発生しなかったため、交付申請がなかった。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・浸水した住宅のし尿をくみ取ることにより、公共用水域の水質汚濁を防止するとともに、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、市民が快適で衛生的な生活が行えるようにすることを目的としている。
・浸水被害により被災した世帯に対し補助金を交付することは、くみ取り料金の費用負担の軽減を図る災害支援となり市補助することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・災害被害に対する補助であるため、市が浸水状況を把握し浸水被害によるくみ取りを実施した被災世帯に対し補助金を交付する災害支援は有効である。
・紀の川市職員防災マニュアルや被災受援計画シートに掲載し、災害が発生した時に市職員が迅速に対応できるように準備しておくことは有効である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・今後も災害支援の補助事業として、市広報紙やホームページなどに掲載することで市民に周知・啓発を進め、浸水被害が発生した時には対象世帯に対し1日でも早く補助金を交付できるように努めることが効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	那賀衛生環境整備組合事業	担当課	環境衛生課	事業区分	一部事務組合
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	818

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	4 衛　生　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	2 清　掃　費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会
予算科目 目	3 し尿処理費		基本施策	3	適切な生活排水対策の推進
			取組方針	2	し尿の適正処理

事業概要	市民が衛生的な生活を送れるように、那賀衛生環境整備組合の運営に参画する事業

事務事業を構成する細事業					
①	那賀衛生環境整備組合負担金	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	し尿搬入量	kl	目標	16,800	16,200	15,600	15,240	15,240	浄化槽の普及と公共下水道への接続を要因とし、し尿搬入量は年々減少傾向にある。今後においても同様の理由により搬入量は減少すると予想される。
			実績	14,888.46	14,171.17	13,716.15			
	＜指標の計算方法＞	し尿搬入量							
活動指標	浄化槽汚泥搬入量	kl	目標	21,900	21,900	21,900	21,900	21,900	浄化槽の普及によりし尿搬入量はが減少し浄化槽汚泥搬入量が増加傾向にある。今後においては合併処理浄化槽設置に補助金を交付し設置を推進していることもあり搬入量は増加すると予想される。
			実績	21,749.38	22,118.05	21,105.7			
	＜指標の計算方法＞	浄化槽汚泥搬入量							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
220,854						220,854

事業の実績

①那賀衛生環境整備組合負担金
・紀の川市負担金　220,854,000円
・紀の川市負担率　55.56%
（交付税算入分を除く）

（内訳）
・均等割（20%）
397,520,000円×20%×1/2＝39,752,000円
紀の川市 1/2、岩出市 1/2

・人口割（30%）
397,520,000円×30%×52.41%
＝62,502,000円
令和6年3月末住基人口（113,258人）
紀の川市　59,362人、岩出市　53,896人

・利用割（50%）
397,520,000円×50%×59.67%
＝118,600,000円
令和5年度処理実績（61,403kl）
紀の川市　36,638kl、岩出市　24,765kl

・定例会　2回
・R7.8.18　R7第2回定例会
・監査委員の選任
・条例改正
・R6決算の認定
・R7補正予算
・R8.3.26　R8第1回定例会
・専決処分の承認
・公平委員会委員の選任
・条例改正
・R8当初予算

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川市と岩出市で運営している一部事務組合の運営事業であることから、規定に基づいた負担率で算出された運営費を支出することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設であることから、衛生的な市民生活のために必要な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・負担金は、均等割、人口割、利用割で構成され、両市の人口や利用件数等で負担率を算出していることから現状の施設運営方法が効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	雇用対策事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	64

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	5 労　働　費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 労働諸費		施策目標	2	雇用・就労
予算科目 目	1 労働諸費		基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興
			取組方針	2	労働人材確保と就労の支援

事業概要：市民の就業を支援するために、職業相談室の開設や運営を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	合併20周年記念企業見学バスツアー	⑤	合同説明会(就職フェア開催事業)	⑨	
②	地元企業見学事業(バスツアー)	⑥	紀の川市合同企業説明会	⑩	
③	ママジョブマルシェ開催事業	⑦	マザーズ就活準備セミナー	⑪	
④	地域職業相談室開設事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 地域職業相談室年間紹介成功率	%	目標	35	40	40	40	40	インターネット活用により窓口での就職相談が減少傾向であるが、依然として求職者と雇用者のマッチングの機会となり就職促進に繋がり年間紹介成功率が上昇した。
		実績	38.7	35.6	38.3			
＜指標の計算方法＞ 地域職業相談室で紹介した求人先に就職した割合								
活動指標 市内実施の企業説明会における参加者数	人	目標	100	100	100	100	100	インターネットによる企業情報の収集が主流となっているため、対面による説明会への参加者は少ない状況が続いているが、周知方法を工夫したことから増加した。
		実績	43	49	82			
＜指標の計算方法＞ 合同開催した企業説明会参加者に加え、市単独で開催した企業説明会参加者数								
成果指標 市内実施の企業説明会における市内在住者の内定者数	人	目標	15	15	15	15	15	参加者数は昨年を上回ったが、市内在住の参加者数は依然として少なく、内定者数も低水準で推移している。
		実績	3	1	1			
＜指標の計算方法＞ 合同開催した企業説明会時の内定者に加え、市単独で開催した企業説明会時の内定者数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
494						494

事業の実績

①合併20周年記念企業見学バスツアー
開催日　8月22日 14:00～16:00
訪問先　パナソニック エナジー(株)
　　和歌山工場
参加人数　一般市民33名

②地元企業見学事業(バスツアー)
開催日　12月9日 9:30～11:30
訪問先　デュプロ精工㈱
参加人数　貴志川高校2年生43人

③ママジョブマルシェ開催事業
開催日　　3月15日 10:00～12:00
参加企業　10企業(全て市内事業者)
参加人数　15人(市内在住14人)

④地域職業相談室開設事業
・ワークサロン貴志川職業相談
職業相談件数　　3,541件
紹介件数　　817件
就職件数　　313件(成功率38.3%)

⑤合同説明会(就職フェア開催事業)
・就職支援セミナー(合同開催)
開催日 10月16日 14：00～15：30
会　場　紀の川市役所402会議室
参加者　13名

・岩出･紀の川就職フェア
開催日 10月26日 13:00～16:00
会　場　岩出市総合保健福祉センター
参加企業 28社(市内企業17社)
参加者　58人(市内在住者17人 内1人内定)

⑥紀の川市合同企業説明会
開催日 3月12日 13:00～16:00
会　場　打田生涯学習センター
参加企業 11社(全て市内企業)
参加者　9人(市内在住者7人)

⑦マザーズ就活準備セミナー
開催日 3月15日 9:30～10:30
会　場　打田生涯学習センター
参加者　9人(市内在住者5人)

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・雇用施策の充実と拡充について和歌山労働局と雇用対策協定に基づき事業計画を策定しているとともに、市内企業に対する支援策でもあることから市が関与することは妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地が大きい
・いずれの就職説明会も参加者数は前年を上回ったものの、集客に苦労している。また、企業側も人手不足が引き続き課題となっていることから課題解決には至っていない。
・相談会を経て採用に至っていることから成果は得られている。
・集客については、今回からSNSを活用したものの参加者数は伸びなかったが、就職を希望する年齢層がSNSを活用しているため、就職説明会における魅力を全面に発信するなど、対象となる参加者への集客方法を再度検討する必要がある。
・説明会だけでなくWEBによる就活など多様化するなか、さらに効果的な手法を検討する必要がある。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・中、高校生を対象とした地元企業への就職の動機喚起事業や、子育て世帯の女性を対象とした就職説明会など多岐に渡る事業展開であるが、労働局やハローワークなどと連携し効率的なコストパフォーマンスで実施できている。

事務事業の概要

事務事業名	働き方改革推進支援事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1121

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	5 労　働　費	政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 労働諸費	施策目標	2	雇用・就労
予算科目 目	1 労働諸費	基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興
		取組方針	3	多様性のある雇用・職場環境づくりの推進

事業概要	労働環境の改善と雇用問題に対して、ワークライフバランスの必要性を啓発するとともに、働き方改革への取組を一層強化する事業

事務事業を構成する細事業					
①	一般事業主行動計画策定支援事業	⑤		⑨	
②	優良取組事例選定事業	⑥		⑩	
③	副業人材獲得啓発事業	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 一般事業主行動計画策定事業者数	事業者	目標	2	2	2	2	2	労働局にも啓発協力頂いたことにより当初計画していた目標件数を超え達成した。
		実績	1	2	4			
＜指標の計算方法＞	一般事業主行動計画を市の補助により策定した事業者の数							
成果指標 「くるみん」認定事業者数	事業者	目標	1	1	1	1	1	新たに「くるみん」認定を受けた企業は無かった。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	実績値による							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
200						200

事業の実績

①一般事業主行動計画策定支援事業

申請者 ㈱ウィア
業　種 整骨院
社員数 1人(男1人)
期　間 令和6年6月1日～令和8年5月31日
(2年間)

申請者 ㈱貴望工業
業　種 省力化機械設計製作・部品加工
社員数 22人(男17人 女5人)
期　間 令和7年3月17日～令和10年3月16日
(3年間)

申請者 ㈱阪中緑化資材
業　種 資材製造・販売業
社員数 9人(男4人 女5人)
期　間 令和7年4月1日～令和9年3月31日
(2年間)

申請者 チリ化成㈱
業　種 製造業
社員数 29人(男10人 女19人)
期　間 令和7年4月1日～令和12年3月31日
(5年間)

②優良取組事例選定事業

「くるみん」の認定はなかった。

③副業人材獲得啓発事業

市内企業に対し農業サポート企業の募集及び副業プロ人材の活用について案内を送付した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・労働施策において国が推進していることから市の関与は妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地が大きい

・一般事業主行動計画については、補助制度に関して認知されてきたが、引き続き和歌山労働局と連携し推進していく必要がある。
・「くるみん」認定は近年取得実績がなく、「健康優良企業」認定等、他省庁による企業認定制度が増加していることから、取得を推進する企業認定制度を拡充する必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・事業経費を最大限抑制しているため効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	シルバー人材センター運営支援事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	726

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流
予算科目 款	5 労　働　費		施策目標	2	雇用・就労
予算科目 項	1 労働諸費		基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興
予算科目 目	1 労働諸費		取組方針	2	労働人材確保と就労の支援

事業概要：市民（高齢者）の就業機会の創出と生きがいづくりを促進するために、シルバー人材センター、関係機関に運営に対する補助や負担金の支出を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	シルバー人材センター運営支援事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 加入会員数	人	目標	400	400	400	410	410	岩出市501人 橋本市483人 入会説明会や入会促進チラシの配布による新規入会者の増加により会員数も増加した。
		実績	374	372	402			
＜指標の計算方法＞	シルバー人材センターへ入会登録している会員（3月31日時点）							
成果指標 加入会員の就業率	%	目標	85	85	85	85	85	岩出市87.5% 橋本市75.5% 会員が希望する業務とセンターが受注した業務にミスマッチが生じているため就業率が低下した。
		実績	75.4	78.4	72.9			
＜指標の計算方法＞	会員数に対する就業実人員の割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
26,100						26,100

事業の実績

①シルバー人材センター運営支援事業
・運営補助金25,900,000円
　5月20日　第1回理事会
　6月21日　定時総会及び第2回理事会
　9月22日　第3回理事会
　1月30日　第4回理事会
　3月25日　第5回理事会
・組織概要(R8.3.31現在)
　職員11人(事務局長1人/職員2人/嘱託4人/臨時4人)
・会員状況
　会員数 402人(男性245人/女性157人)
　　請負委任会員402人 労働派遣会員140人
　　※上記は重複ありの延べ数
　会員の平均年齢 74.4才
　年会費　2,000円
　　但し初年度加入者については、
　　4月～9月加入 2,000円
　　10月～3月加入 1,000円
　会員の職歴　事務系　99人
　　技術系 118人
　　その他 156人
　　自営業　24人
　　無職　　5人
・新規会員の入会動機
　社会的 77%(男性20人/女性25人)
　健康的　8%(男性 3人/女性 2人)
　経済的 15%(男性 4人/女性 5人)
・受注状況
　請負、委任　2,431件（113,908,211円）
　労働派遣　　126件（ 60,007,065円）
　　計　　2,557件（173,915,276円）
・契約状況
　公共事業　　212件
　一般企業　　357件
　個人　　1,988件
　　計　　2,557件
・就業率
　請負、委任
　　就業人数209人÷会員数402人=52.0%
　労働派遣
　　就業人数108人÷会員数140人=77.1%
　総合
　　就業人数293人÷会員数402人=72.9%
　(請負、委任就業人数209人＋労働派遣就業人数108人－重複就業人数24人=293人)
　就業年間延べ人数 28,401人
・事故発生件数
　19件(傷害保険 4件/賠償責任保険 15件)
・デジタル化進捗状況
　会員専用サイト「Smile to Smile(スマイル トゥ スマイル)」の登録状況
　　登録人数227人÷会員数402人
　　=登録率56.5%

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・高齢者の自立支援と生きがい対策の一環として行っている福祉的要因を含む就労対策であり、本市の高齢化率を踏まえれば市が関与することが妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・令和6年度実績より女性会員が大幅に増加したことにより加入会員数が目標値に達成した。
・センターが受注する業務は、会員が希望する比較的軽作業が主な労働派遣業務より、経験・体力・専門スキルが求められる請負、委任業務が多いためミスマッチが生じ、就業率の低下を招いている。

効率性
評価結果：改善の余地がややある
・会員と事務局との事務を効率化する会員専用サイトの更なる登録率の向上が必要である。
・加入会員数や就業率を高めるため、会員が求める業種を把握する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	農業委員会運営事業	担当課	農業委員会事務局	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	811

会計				長期総合計画体系			
予算科目	款	6	農林業費		政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
	項	1	農　業　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
	目	1	農業委員会費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
					取組方針	9	その他

事業概要	農地の権利移動の許可、転用許可の意見決定業務や「農地等の利用の最適化」に関する業務（農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進）などを行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	農業委員会運営	⑤	許認可事務	⑨	
②	農地利用最適化推進委員会運営	⑥		⑩	
③	農地情報整備管理	⑦		⑪	
④	県農業会議負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 総会の開催回数	回	目標	12	12	12	12	12	計画どおり月1回の総会を開催することができた。
		実績	12	12	12			
＜指標の計算方法＞ 農業委員会総会の開催回数								
活動指標 農地の権利移動及び転用の審査	件	目標						農地法第3条の権利移動が18件減少、農地法第4条の転用件数が7件減少、農地法第5条の転用件数が16件減少した。主に太陽光パネル設置、駐車場、資材置場への転用申請件数が減少傾向にある。
		実績	279	252	211			
＜指標の計算方法＞ 農地の権利移動（農地法第3条）及び転用（農地法第4条・第5条）の審査件数								
活動指標 農地中間管理権（貸借）設定	件	目標	400	400	400	400	400	件数は減少したが目標値を上回っている。令和7年度の法改正で貸主と借主の間に農地中間管理機構が入っての3者契約による農地中間管理権設定での農地貸借となっている。
		実績	453	475	433			
＜指標の計算方法＞ 農地中間管理権（貸借）設定件数								
活動指標 農地の適正管理指導	件	目標						農地の適正管理指導の件数は、気候や気象の条件も関係し変動するものと思われるが、例年300件を超えている。
		実績	323	311	305			
＜指標の計算方法＞ 農地の適正管理指導件数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
24,107		3,701				20,406

事業の実績

①農業委員会運営
　総会　　12回開催

②農地利用最適化推進委員会運営
・推進委員会　打田地区　12回開催
　　粉河地区　12回開催
　　那賀地区　12回開催
　　桃山地区　12回開催
　　貴志川地区　12回開催

③農地情報整備管理
・農地情報の変更に伴い農地台帳等の整備を行った。

④県農業会議負担金
・農業委員等に対する講習及び研修、その他農業委員会への支援などを行う和歌山県農業会議に負担金を支出した。

⑤許認可事務
・法令等に基づき適正な事務処理を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・法定事務であり、市民ニーズや社会環境の変化に影響を受ける事業ではない。
・耕作者の地位の安定と農業生産の増大を図り、食糧の安定供給の確保を目的に、農地法に基づき農地を農地以外のものにすることを規制し、農地を効率的に利用する耕作者へ権利の取得の促進など農業上の利用を確保するための措置を講じる事業であるため、農業者を代表する公的機関として農業委員会が実施していることは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・農業生産力の向上による農業経営の安定、農地の有効利用など農業経営の健全な発展に寄与するため有効な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・事務処理にかかるコストは、殆どが人件費のため削減の余地はない。
・許認可事務については、個人情報を多く含む事務であり、公平性や守秘義務の観点から民間等への委託は適さない。なお、遊休農地の適正管理指導については、民間委託をし、職員の負担を軽減することが可能である。

事務事業の概要

事務事業名	農業者年金事業	担当課	農業委員会事務局	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1079

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	1 農業委員会費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
			取組方針	9	その他

事業概要	市民（農業者）が農業者年金に加入し、将来適正に受給し、安定した生活を送ることができるように、加入促進、各種届出の受付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	農業者年金加入・相談	⑤		⑨	
②	資格管理	⑥		⑩	
③	農業者年金業務委託手数料	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	新規加入者数	人	目標	10	10	10	10	10	農業委員や推進委員からの情報提供や広報等の制度周知により加入推進を実施した。農業者年金の特徴とメリット等の理解は得られたと思うが、保険料の負担が課題として加入者が目標に至らなかった。
			実績	1	4	5			
	＜指標の計算方法＞	農業者年金の新規加入者数							
活動指標	個別相談会の開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	県農業会議と連携し、農業者年金加入者を対象とした受給手続きに係る個別相談会を計画どおり開催した。
			実績	1	1	1			
	＜指標の計算方法＞	農業者年金加入者を対象とした受給手続きに係る個別相談会の開催回数							
活動指標	現況届の受付件数	件	目標						新規加入者の減少と年金受給者の死亡により件数が減少している。
			実績	351	323	289			
	＜指標の計算方法＞	現況届の受付件数							
活動指標	年金加入推進ＰＲ活動回数（ＤＭ発送回数）	回	目標	1	1	1	1	1	加入推進を強化するため、ＤＭ発送によるＰＲ活動を実施した。
			実績	1	1	1			
	＜指標の計算方法＞	農業者年金の加入推進を図るためのＰＲ活動回数（ＤＭ発送回数）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
122						122

事業の実績

①農業者年金加入・相談
・農業委員や農地利用最適化推進委員とともに個別訪問を実施し、加入推進を図った。

②資格管理
・被保険者の資格及び保険料関係書類の受付や農業者年金受給のための裁定請求の手続きを行った。

③農業者年金業務委託手数料
・農業者年金業務委託契約に基づき、独立行政法人農業者年金基金に手数料の請求を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・独立行政法人農業者年金基金法の規定による委託契約に基づく事業で、農業者の老後の安定した生活のために必要な事業であり、妥当性が高いといえる。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・加入の相談に適切に対応できるよう農業委員会で制度についての研修を行い、農業委員、農地利用最適化推進委員とともに加入推進を実施している。
・農業者が加入できる公的年金で、国民年金の上乗せとして老後の安心を支える有効な事業であるため、加入促進を図る必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・独立行政法人農業者年金基金の定めた事務取扱要綱に基づき、適切に事業を実施しており、コスト削減や実施手段の適正化の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	農業活動事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	805

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	6	農林業費	政策目標	3	産業・交流
	項	1	農　業　費	施策目標	1	農業振興・産業振興
	目	2	農業総務費	基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
				取組方針	1	魅力ある農業の振興

事業概要	那賀地方の農業従事者等が活気に満ち、持続可能な安定した農業経営ができるように、協議会への負担金の交付や、様々な普及活動や農業者支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	農業振興事務	⑤	クビアカツヤカミキリ防除対策補助金	⑨	
②	那賀農業改良普及推進協議会負担金	⑥	クビアカツヤカミキリまん延防止対策補助金	⑩	
③	都市農村交流（民泊）事務	⑦		⑪	
④	那賀地方病害虫防除対策協議会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 農業士の新規認定者数	人	目標	3	3	3	3	3	県知事が認定する農業士は、近年、新規認定を受ける農業者が減少しているが、目標数（3人）は達成している。
		実績	5	2	3			
＜指標の計算方法＞	農業振興と農村社会の活性化を図るため、地域農業の中核者として活動している農業者に対し、県が毎年認定する農業士数							
成果指標 農業士の総数	人	目標	120	120	120	120	120	農業士の総数は、新規認定者よりも年齢要件による解除者の方が上回る状況が続いているため減少傾向にある。
		実績	105	97	89			
＜指標の計算方法＞	指導農業士、地域農業士、青年農業士の総数							
成果指標 クビアカツヤカミキリ防除対策補助金交付件数	件	目標						被害件数の増加に伴い、年々増加の傾向にある。
		実績	11	28	66			
＜指標の計算方法＞	補助金交付件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
17,513						17,513

事業の実績

①農業振興事務
指導農業士　新規認定 0名
地域農業士　新規認定 2名
青年農業士　新規認定 1名

②那賀農業改良普及推進協議会負担金
農業振興や農業改良普及推進のため、那賀地方で構成された協議会に負担金を支出した。

③都市農村交流（民泊）事務
農家民泊施設　4施設

④那賀地方病害虫防除対策協議会負担金
農業振興や農業改良普及推進のため、那賀地方で構成された協議会に負担金を支出した。

⑤クビアカツヤカミキリ防除対策補助金
クビアカツヤカミキリの被害を受けた樹木の伐採や抜根、ネット根覆い等の措置に対して補助金を交付した。

被害状況　169園地943本
桃 124園地584本、スモモ 17園地171本
梅 28園地188本

補助件数
伐採・抜根　32件（295本）
伐採・根覆い　37件（233本）
ネット被覆　0件（0本）
※補助金を交付した対象者は66人

⑥クビアカツヤカミキリまん延防止対策補助金
クビアカツヤカミキリのまん延を防止するために、地域が一体となって成虫の防除に効果のある農薬を散布する防除の取組に対して補助金を交付した。

農薬購入補助　3,436本

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・本事業は本市を含む那賀地方の農業振興に寄与するものであるため、市が実施することは妥当である。
・クビアカツヤカミキリ等の病害虫被害が拡大している現状であり、産地を維持していくためにも行政が補助・啓発をしていく必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・農業士には年齢要件があり、認定を受けても一定の年齢（65歳）に達すると認定解除となる。本市の農業振興を推進するためにも目標以上に新規農業士数を増加させる必要がある。
・クビアカツヤカミキリ等の病害虫被害が拡大している現状に対して、被害拡大を防ぐ手段として補助制度を運用することは有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・本事業に要する事業費は、事務費や負担金、補助金であるため、これ以上の削減の余地はないと考える。
・業務量についても、本事業の遂行にかかる最低限度であるため、現時点で効率性を改善する余地はないと考える。

事務事業の概要

事務事業名	畜産・水産事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	808

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費	政策目標	3	産業・交流	
予算科目 項	1 農　業　費	施策目標	1	農業振興・産業振興	
予算科目 目	2 農業総務費	基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興	
		取組方針	2	農業経営の安定と生産体制の強化	

事業概要：畜産農家に安定した経営をしてもらうために、畜産農家、関係団体に負担金の交付や関連事務を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	畜産振興事務	⑤		⑨	
②	県畜産協会負担金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 肉用子牛個体登録頭数	頭	目標	50	50	50	50	50	肉用子牛の登録数は近年、減少傾向で推移している。 登録事由は自家生産と外部導入（市場購入等による子牛の転入）があるが、令和7年度は一部の畜産農家において導入が減少した。
		実績	117	93	56			
＜指標の計算方法＞	肉用子牛の個体登録を行った頭数							
活動指標 畜産農家訪問回数	回	目標	12	12	12	12	12	12月齢となる飼育牛の保留確認のため、家畜保健衛生所と共に畜産農家を訪問している。 保留確認は基本的に毎月行うが、該当する飼育牛がない月もあるため年間訪問回数は増減する。令和7年度はほぼ毎月訪問した。
		実績	9	11	10			
＜指標の計算方法＞	牛舎等へ訪問を行った回数							
成果指標 肉用牛飼養農家数	軒	目標	7	6	6	6	6	令和5年度に畜産農家1戸が高齢により廃業したが、他の農家では後継者が畜産経営を行っているため、飼育農家数は現状維持となっている。
		実績	6	6	6			
＜指標の計算方法＞	市内で肉用牛を飼養している農家の数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
70						70

事業の実績

①畜産振興事務
肉用牛肥育経営安定交付金制度及び肉用子牛生産者補給金制度に基づく事務について、畜産農家の事務支援を行った。
また、田辺市で定期開催される熊野牛子牛市場の運営補助を行った。
熊野牛子牛市場出荷頭数　54頭

②県畜産協会負担金
家畜・畜産物を生産する事業者の経営診断や各種基金等を安定的に運営するため、また、消費者へ「食の安全・安心」を正しく啓発することなどを目的に、県下市町村、関係機関及び会員団体で構成された協会に負担金を支出した。
負担金額　60,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・「公益社団法人畜産協会わかやま」が指定する事務委託先の一つが市町村となっており、市が事務を受託することは妥当であるといえる。
・畜産農家の自助努力を補うことで畜産振興を図ろうとする事務事業であるため、市が関与することは妥当であるといえる。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・市が「公益社団法人畜産協会わかやま」から畜産関係事務を受託することで、畜産農家の事務負担の軽減を図っている。
・農家訪問は経営状況の把握にも繋がっており、事業は効果的に実施できている。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・事業費規模は小さく、事務も定型的なものであるため事務改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	農業振興団体活動支援事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	69

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 目	3 農業振興費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
			取組方針	1	魅力ある農業の振興

事業概要	農業振興団体の自立を促し、地域農業の振興や活性化を図るために、補助金の交付や団体活動の支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 農業士会補助金	⑤ 生活研究グループ連絡協議会補助金	⑨		
	② ４Ｈクラブ補助金	⑥ あら川の桃振興協議会補助金	⑩		
	③ 青年農業経営者協議会補助金	⑦ 鞆渕地域活性化実行委員会活動支援	⑪		
	④ 営農研究会補助金	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 補助団体の会員数	人	目標	926	926	926	800	800	補助団体の会員の高齢化や後継者不足により、会員数が減少傾向にある。
		実績	782	777	757			
＜指標の計算方法＞	各農業振興団体の会員数総計							
成果指標 補助団体の活動数	回	目標	164	164	164	100	100	営農研究会に加盟する4支部の解散や中国実習生受入協議会の休止により、活動数の総計が減少したことが主な要因である。
		実績	110	94	84			
＜指標の計算方法＞	各農業振興団体の年間活動数総計							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,309						2,309

事業の実績

①農業士会補助金
補助金額　335,000円
会員数　89人
活動数　18回

②４Ｈクラブ補助金
補助金額　230,000円
会員数　16人
活動数　14回

③青年農業経営者協議会補助金
補助金額　187,284円
会員数　19人
活動数　3回

④営農研究会補助金
補助金額　339,000円
会員数　4支部（1,015人）
活動数　11回

⑤生活研究グループ連絡協議会補助金
補助金額　545,000円
会員数　7団体（71人）
活動数　18回

⑥あら川の桃振興協議会補助金
補助金額　673,000円
会員数　622人
活動数　20回

⑦鞆渕地域活性化実行委員会活動支援
黒豆の収穫体験等のイベント時に運営活動支援を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市が団体に対して活動支援補助金を交付することで、それぞれの農業振興団体の主体的活動が活発化することは、団体のみならず地域農業の活性化と農業生産性の向上にも繋がるため、市が実施することは妥当であると考える。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・農業従事者の高齢化や担い手不足などにより会員数は減少傾向にあるが、農業を取り巻く厳しい状況のなかでは、団体活動を通じて本市の農業振興に一定の効果をもたらしている。
・会員数を増加させるためにも定例となっている活動を見直し、新しい事業活動を取り入れるなど、団体活動をより魅力的なものにしていくことが必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・各団体において、会員数、活動回数、活動内容によって補助金の額を見直していく必要がある。
・団体に自主性を持たせるためにも、事務局を担っている市職員の立場や役割を見直していくことも必要である。

事務事業の概要

事務事業名	農業経営安定化事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	797

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流
予算科目 款	6 農林業費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 項	1 農　業　費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
予算科目 目	3 農業振興費		取組方針	2	農業経営の安定と生産体制の強化

事業概要	農業従事者等の融資負担軽減に対する利子補給、ハウス整備に対する補助及び水田活用を推進する経営所得安定対策事業を行い、農業経営の安定化を図る事業

事務事業を構成する細事業					
	① 農業経営基盤強化資金利子補給金	⑤ モモせん孔細菌病対策事業補助金	⑨		
	② 生活営農資金利子補給金	⑥ ハウス整備支援事業補助金	⑩		
	③ 特別融資制度推進会議運営	⑦ 農業再生協議会補助金	⑪		
	④ 農業振興資金利子補給金	⑧ 経営所得安定対策等事業	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 生活営農資金利子補給件数	件	目標						平成30年度の台風被害による利子補給金の償還期間の満了や繰上償還があったため件数が減少した。
		実績	113	71	45			
＜指標の計算方法＞	紀の川市生活営農資金利子補給金交付要綱に基づき利子補給した件数							
活動指標 ハウス整備支援事業補助件数	件	目標						農業用ハウスの建設については、例年、申請件数に増減がある。
		実績	20	12	10			
＜指標の計算方法＞	補助対象となった事業の件数							
成果指標 経営所得安定対策等事業交付金の申請者数	人	目標						高齢化に伴う農業者の減少により、近年の事業申請者数は減少傾向で推移している。
		実績	600	544	527			
＜指標の計算方法＞	経営所得安定対策等事業交付金（水田活用の直接支払交付金）の申請者数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
25,948		5,656			4,610	15,682

事業の実績

①農業経営基盤強化資金利子補給金
0件

②生活営農資金利子補給金
H30年台風20,21,24号対策　34件
R5年台風2号対策　11件

③特別融資制度推進会議運営
対象となる融資がなかったため会議を開催しなかった。

④農業振興資金利子補給金
H30年台風20,21号対策　0件

⑤モモせん孔細菌病対策事業補助金
申請件数　1件
受益面積　0.1ha

⑥ハウス整備支援事業補助金
申請件数　10件
整備面積　93.3a

⑦農業再生協議会補助金
農業経営の安定と地域農業の発展に向けた取組をしている紀の川市農業再生協議会に対して補助金を交付した。

推進事業補助金　国庫　5,656千円
市　280千円

⑧経営所得安定対策等事業
交付申請者数　527名

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・農業経営の安定化を図るために農業用施設の整備支援や融資の利子補給を行うことは、長期総合計画の基本計画にも貢献するものであるので妥当といえる。
・桃の防風ネットの設置や農業用ハウスの整備は、国においても補助制度があるが、採択要件が異なるため重複するものではない。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・モモせん孔細菌病の最も有効的な対策であり生産性の確保につながる桃の防風ネットの設置や台風による甚大な被害を減少し、農業の効率化を高める農業用ハウスの導入は、市が補助金を交付して支援を図ることは有効であるといえる。
・経営所得安定対策等事業の実施に際し、農業者から作付計画書の提出を受けることで営農状況の把握や水田台帳の整備や管理ができている。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・要綱に基づき運用しているため、コスト削減等について改善の余地がない。
・農業用ハウスの整備及び桃の防風ネットは県事業と合わせての補助率であり、負担割合は適正なものと考える。
・経営所得安定対策等事業については、事業対象となる水田の筆数も多くデータ入力等の作業量が多大となっているが、事務経験のある会計年度任用職員を通年雇用することで効率的な事務遂行に繋がった。

事務事業の概要

事務事業名	農産物等ブランド推進事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	801

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 目	3 農業振興費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
			取組方針	4	農を起点としたブランド創出の推進

事業概要	農業従事者等の新商品の開発、販路開拓の促進及び国内外に向けて効果的に情報発信を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	産業まつり補助金	⑤	海外販路開拓支援事業	⑨	
②	農産物等販売促進事業	⑥		⑩	
③	6次産業化支援事業補助金	⑦		⑪	
④	認定ブランド支援事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	産業まつり来場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	目標の来場者数を達成したが、会場規模、駐車場不足が課題である。
			実績	6,500	6,500	7,000			
	＜指標の計算方法＞	産業まつり会場への来場者数							
活動指標	農産物等の販売促進イベント実施回数	回	目標	10	10	10	10	10	販売促進イベントの実施回数は、新たな企画イベント「紀の川はっさくマッチデー」の実施により増加した。
			実績	13	11	12			
	＜指標の計算方法＞	農産物等の販売促進イベント年間実施回数							
成果指標	市認定ブランド商品の販売金額	千円	目標	1,925	3,000	4,000	4,500	5,000	新たに2商品を認定商品に加えたことで販売金額は増加したが、一部商品の製造調整等により目標金額を達成することができなかった。
			実績	1,136	1,864	2,908			
	＜指標の計算方法＞	市認定ブランド商品の販売金額の総額							
成果指標	農産物等の海外輸出金額	千円	目標	300,000	320,000	340,000	360,000	380,000	海外販路開拓支援事業の効果により、市場を介した輸出だけでなく直接輸出も大きく増加した。
			実績	316,235	354,958	394,317			
	＜指標の計算方法＞	管内JA等の海外輸出金額の総額							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
36,542						36,542

事業の実績

①産業まつり補助金
開催日:11/23　場所:貴志川体育館・駐車場
来場者数:7,000人　出店数:56団体
②農産物等販売促進事業
■トップセールスの実施
・桃(7/1)、いちじく(8/21)
場所：大阪市中央卸売市場
・柿(9/25)、キウイ・中晩柑(1/27)
場所：東京都中央卸売市場大田市場
■農産物等直売・PRイベントの実施
【紀の川マルシェ】
・桃(6/10)、八朔(2/17)PR販売を実施
場所：大阪駅地下街ディーズスクエア(大阪)
【Peach Aviation(株)】
・関西国際空港に到着した乗客を対象に桃配布PRイベント(6/24)を実施
場所：関西国際空港第2ターミナル(大阪)
【森トラスト・ホテルズ&リゾーツ(株)】
・ふるさと納税と連携し、柑橘(5/21-23)、いちじく(9/24-26)、柿(10/8-10、10/16-17)PR販売を実施
場所：神谷町・丸の内トラストタワー(東京)
【サントリーホールディングス(株)】
・サントリーサンバーズ大阪主催試合で、紀の川はっさくマッチデー(2/28-3/1)を開催
場所：Asueアリーナ大阪(大阪)
■企業等と連携した商品・メニュー開発
【フォションホテル京都(京都)】
・桃を使用したメニュー(7/1-9/23)、八朔を使用したメニュー(3/1-5/6)を提供
【阪急阪神ビルマネジメント(株)(大阪)】
・グラングリーン大阪のレストラン13店舗で八朔を使用したメニュー(2/13-28)を提供
【(株)ふたこ麦麦公社(東京)】
・八朔を使用したフルーツビール「はっさくホワイト」を限定数量で販売
③6次産業化支援事業補助金
新商品開発や販路開拓に対し補助金を交付
商品開発：3件　販路開拓：1件
④認定ブランド支援事業
認定に向けた事業説明会等を開催し、認定ブランドに新たに2商品を認定
・事業説明会の開催　参加者：18名
・商品・事業改善スクール(2回)、定例会(6回)の開催　参加者：9名
・合同展示会大日本市に出展(2/4-6)
場所：恵比寿ガーデンプレイス(東京)
・生協まつりでPR販売(10/5)
場所：和歌山城砂の丸広場(和歌山)
・うめだマルシェでPR販売(1/14-18)
場所：阪急うめだ本店(大阪)
⑤海外販路開拓支援事業
JAわかやまと連携し、現地でのテストマーケティングやプロモーション等を実施
・対象国：シンガポール、マレーシア、タイ市内生産者向けに輸出セミナー等を実施
・輸出セミナー(2回)の開催　参加者：各16名、8名
・輸出商談会(1/28-29)に参加　参加者：2名
場所：インテックス大阪(大阪)

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・国内外で市産農産物の認知度を向上させ、ブランド化や産地化の推進を図ることは、農業従事者の生産力及び所得向上に繋がるとともに、市の主要産業である農業の振興を図るうえでも市の関与は必要である。
・農業従事者の多くが出荷するＪＡわかやま紀の里地域本部と連携することは、実施主体としても適当である。
・6次産業化は農産物の価値を高め、農業従事者の所得向上に繋がる取組であるため、市の支援が必要である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・市場や小売店との信頼関係を築くトップセールスや消費者の認知度向上、消費拡大を図る直売イベントの実施は、農業従事者の所得向上に繋がるため、継続して実施することが有効である。
・人口の減少による国内市場の縮小を見据え、販路の一つとして海外販路の拡大に取り組んでおくことは必要である。
・市認定ブランドへの商品認定は、6次産業化ビジネスの実践に繋がるため、引き続き効果的な事業を展開することが必要である。
・商工業者や食品加工会社と連携し、6次産業化ビジネスをより実践しやすい環境にすることが必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・シティプロモーションやふるさと納税、観光施策等と連携し、効率的・効果的な事業を継続して実施することが必要である。
・市産農産物や市認定ブランドの認知度向上や販路拡大は、業務委託や外部組織の形成により効率化を図っていくことも必要である。

事務事業の概要

事務事業名	農業経営基盤強化促進事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	787

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流
予算科目 款	6 農林業費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 項	1 農　業　費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
予算科目 目	3 農業振興費		取組方針	3	担い手の確保と育成

事業概要	意欲ある農業従事者及び新たに就農する青年等の農業経営基礎の確立を図るために、農業経営の改善及び安定化・効率化の促進等の支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	農業経営改善計画等認定審査会運営	⑤		⑨	
②	認定農業者・認定新規就農者支援	⑥		⑩	
③	農地利用促進	⑦		⑪	
④	農業経営管理合理化推進事業補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	農業経営改善計画等認定審査会の開催回数	回	目標	4	4	4	4	4	認定農業者及び認定新規就農者の計画認定申請を受け、認定審査会を年4回開催した。
			実績	4	4	4			
	＜指標の計算方法＞	認定農業者及び認定新規就農者の認定機関（法第12条第5項及び第14条の4第3項）である審査会の開催回数							
成果指標	認定農業者数	人	目標	279	279	279	279	279	高齢化等で認定農業者数が減少していたが、農業経営管理合理化推進事業補助金の拡充により、農業経営の改善に取り組もうとする意欲のある農業者が認定を申請したことで増加しているものと考える。
			実績	275	304	315			
	＜指標の計算方法＞	市等から農業経営改善計画の認定を受けた農業者数							
活動指標	農業経営管理合理化推進事業の実施件数	件	目標	40	40	60	60	60	実施件数は目標値を下回ったものの過去3年間は50件を超えていることから、認定農業者に対する支援制度が浸透してきた結果と考えられる。
			実績	53	66	54			
	＜指標の計算方法＞	認定農業者等が農業経営改善計画等の目標達成に必要な農業用機械や設備の導入に対して補助金を交付した件数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
22,538						22,538

事業の実績

①農業経営改善計画等認定審査会運営
　認定審査会を4回開催

②認定農業者・認定新規就農者支援
　農業経営の改善や新規就農への相談対応、各種支援制度の説明などを随時行った。

③農地利用促進
　農地中間管理事業による農地の貸借件数
　485件（1,019筆）

④農業経営管理合理化推進事業補助金
　農業用機械　48件
　農業用設備　6件
　スマート農業用機械　0件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・持続可能な農業を実現させるためには、人と農地の問題を一体的に考える必要がある。さらには地域農業の将来の担い手となる農業者を育成し確保していくためには、市が積極的に関与していく必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・令和5年度に農業経営管理合理化推進事業補助金の拡充を行ったことで、申請者数や認定農業者数が増加傾向にあるが、農業者における農業経営の強化促進については今後も継続し、実績等による効果検証を行いながら事業展開を図っていく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・新規就農や農業経営支援などで多くの方が相談に来庁されるため、対応できる農業の専門的知識を有した職員の配置が必要である。

事務事業の概要

事務事業名	担い手育成支援事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1129

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 目	3 農業振興費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
			取組方針	3	担い手の確保と育成

事業概要：農業の担い手の確保・育成や、就農後の定着支援など就農者数の増加を目指した取組によって、地域農業の振興を図る事業

事務事業を構成する細事業

①	親元就農助成金	⑤	農業次世代人材投資資金の交付	⑨	
②	新規就農者受入協議会	⑥		⑩	
③	紀の川アグリカレッジ事業	⑦		⑪	
④	新規就農者育成総合対策事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 担い手育成支援事業審査委員会の開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	経営開始資金、親元就農助成金の交付を採択するための審査委員会が定期的に開催できている。
		実績	2	2	2			
＜指標の計算方法＞ 経営開始資金、親元就農助成金の採択を審査する審査委員会の年間開催回数								
活動指標 研修生受入数	人	目標	3	3	3	3	3	研修受入後、体調不良により研修を辞退された研修生がおり目標値を下回った。
		実績	3	2	1			
＜指標の計算方法＞ 紀の川アグリカレッジ研修生の受入人数								
成果指標 経営開始資金の新規採択者数	人	目標	10	10	10	10	10	目標値に達していないが、今後も研修修了生に加え紀の川市で新規就農する方からの申請が見込まれる。
		実績	7	15	5			
＜指標の計算方法＞ 新規就農者育成総合対策（経営開始資金）の新規採択者数								
成果指標 親元就農助成金の新規採択者数	人	目標	8	8	8	8	8	年度によって申請者数にばらつきがあるが令和7年度は目標値を下回った。
		実績	9	1	4			
＜指標の計算方法＞ 親元就農助成金の新規採択者数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
85,585		70,969				14,616

事業の実績

①親元就農助成金
・親元就農助成金の交付
交付対象者数　9名（継続5名、新規4名）

②新規就農者受入協議会
・ＪＡわかやま、紀ノ川農協、市がそれぞれ実施する農業研修機関が連携を図り、一体となって新規就農を希望する研修生の受入れに取り組み、支援を行った。
研修生と新規就農者との情報交換会など交流の場を設けた。

③紀の川アグリカレッジ事業
・いちご農家として本市で就農を目指す方を募集し、研修生として受入れを行った。
令和7年度（第4期生）　1名
研修期間　2年間
・研修を修了し、市内で新規就農した。
令和7年度（第2期生）　3名
・事業内容を協議する検討委員会の開催回数
3回

④新規就農者育成総合対策事業
・経営開始資金等の交付
交付者数　33名（うち新規5名、うち夫婦型1組2名）
・経営発展支援事業補助金の交付
交付者数　7名

⑤農業次世代人材投資資金の交付
・経営開始型の交付
交付者数　6名（継続者のみ）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・新たな担い手農業者の育成と確保を図る事業であり、長期総合計画の基本施策に適合している。
・新規就農者の就農初期の不安定な経営を支えるために、国の制度を活用して市が資金の交付等を行う事業であり、市の関与は妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・親の農業を継承する者に対して支援を図ることで、農業経営を円滑に継承し地域農業の新たな担い手となることが期待できるため、有効な事業である。
・他産業からの就農希望者を積極的に確保するため、引き続き紀の川アグリカレッジ事業を実施し、令和７年度（第5期生）は4名の受入を決定した。今後も研修生が将来、新規就農者として安定した農業経営ができるよう支援を図る。あわせて、卒業した研修生の経営安定化が図られるように、支援していく必要がある。
・経営開始資金等の交付については、国の要綱に準じて運用しており、国が事業の有効性を検証して制度の見直しや改善などを行っているため、市の裁量はない。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・新規就農希望者や親元就農者からの問合せや相談件数は増加傾向にあり、その対応、助言等の支援、県や関係団体との連携が必要であり、対応できる人員の確保が必要である。

事務事業の概要

事務事業名	地産地消・食育推進事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	74

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 目	3 農業振興費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
			取組方針	1	魅力ある農業の振興

事業概要	市民に市産農産物を使った健全な食生活を実践してもらうために、地産地消と食育推進の普及啓発を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 食育推進会議運営	⑤ 地場産農産物給食授業の開催	⑨		
	② 食育フェアの開催	⑥ 野菜フェスタ参加負担金	⑩		
	③ 食育料理教室の開催	⑦	⑪		
	④ 食育おはなし教室の開催	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 食育料理教室の開催数	回	目標	7	7	7	7	7	食育推進会議主催の開催回数は目標値より少ない結果となったが、開催した教室は大変好評であった。
		実績	5	2	4			
＜指標の計算方法＞ 料理教室の開催回数								
成果指標 食育フェア来場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	令和6年度より来場者数が増加し、目標の来場者数に達した。ただし、会場、駐車場の規模的に増加は難しい。
		実績	6,500	6,500	7,000			
＜指標の計算方法＞ 合同で開催している産業まつりへの集客も含んだ来場者数								
成果指標 食育に関心を持っている成年の割合	%	目標	90	90	90	90	90	次回の調査は第4次食育推進計画の中間調査において、令和8年度に実施予定。
		実績	81					
＜指標の計算方法＞ 紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出								
成果指標 三食規則正しく食べる成年の割合	%	目標	80	80	80	80	80	次回の調査は第4次食育推進計画の中間調査において、令和8年度に実施予定。
		実績	73.8					
＜指標の計算方法＞ 紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,952					9	2,943

事業の実績

①食育推進会議運営
開催日：令和7年6月25日（水）
内容：前年度実績報告、収支決算報告及び当年度事業計画、収支予算について

②食育フェアの開催
開催日：令和7年11月23日（日）
来場者数：7,000人
取組内容：各種体験ブース
ステージイベント等

③食育料理教室の開催
・親子料理教室
対象：保育所（園）年長児及びその保護者
回数：1回
参加人数：20組40人（保護者含む）
・学生生活応援料理教室
対象：大学生
開催日：令和8年1月15日（木）
参加人数：10人
・親子で始めるチャレンジクッキング
対象：保育所（園）年長児、小学1・2年生及びその保護者
1回目開催日：令和8年3月8日（日）
参加人数：11組22人（保護者含む）
2回目開催日：令和8年3月15日（日）
参加人数：7組14人（保護者含む）

④食育おはなし教室の開催
対象：保育所（園）年中児・年長児
回数：8回（公立7回、私立1回）
参加人数：298人

⑤地場産農産物給食授業の開催
対象：小学6年生
校数：5校
回数：各校1回
※併せて生産者交流会も各校で実施

⑥野菜フェスタ参加負担金
「食育のまち紀の川市」の取組を多くの方々に知っていただくことを目的に、令和7年11月9日に開催された野菜フェスタに参加し、広報活動を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・海外からの輸入農産物の増加や食品の産地偽装など、食を取り巻く環境が大きく変化する中、食への関心は依然として高く、本事業継続の必要性は高いと考える。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・本市の食育推進への取組として、広く市民を対象とした事業が少なく、新規事業の実施を検討する必要がある。また、食育推進の啓発や広報についても様々なツールを活用した取組を行う必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・関係団体との連携強化により、効率的な事業の実施が考えられる。

事務事業の概要

事務事業名	環境保全型農業推進事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	831

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費	政策目標	3	産業・交流	
予算科目 項	1 農　業　費	施策目標	1	農業振興・産業振興	
予算科目 目	3 農業振興費	基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興	
		取組方針	1	魅力ある農業の振興	

事業概要	化学肥料や農薬の使用低減に向けたエコ農業や環境保全型農業など環境にやさしい農業に取組む農業者に対して支援を図る事業

事務事業を構成する細事業					
①	環境保全型農業直接支払交付金事業	⑤		⑨	
②	環境保全型農業直接支払推進事業	⑥		⑩	
③	環境保全型農業グループ補助金	⑦		⑪	
④	オーガニックビレッジ準備会補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 取組団体数	件	目標	5	5	5	5	5	取組団体数については、令和4年度より変動がなく積極的な事業周知を図っていく必要がある。
		実績	5	5	5			
＜指標の計算方法＞	環境保全型農業直接支払交付金を受け活動を行う団体等の総数							
成果指標 取組面積	a	目標	1,300	1,300	1,400	1,500	1,500	取組面積については、取組者の高齢化が進む中で新規の取組者も現れており、令和7年度は微減したが増加傾向にある。
		実績	1,296	1,418	1,415			
＜指標の計算方法＞	環境保全型農業直接支払交付金を受け活動を行う団体等の取組総面積							
成果指標 推進活動回数	回	目標	9	9	9	10	10	取組回数については、横ばいではあるが、新しい活動に内容を変更するなど積極的に推進活動が行われている。
		実績	9	8	10			
＜指標の計算方法＞	環境保全型農業直接支払交付金を受け活動を行う団体等の推進活動の総回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,317		1,526				1,791

事業の実績

①環境保全型農業直接支払交付金事業
地球温暖化防止、生物多様性保全等に貢献していくため、より環境保全に効果の高い営農活動を行う農業者団体等に補助を行った。

・取組団体数：5団体
・構成員人数：26人
・取組面積：1,415ａ
・推進活動数：10回

②環境保全型農業直接支払推進事業
環境保全型農業直接支払交付金事業の適正かつ円滑な実施の促進に資するため、推進事業を実施した。

・実施状況の確認事務　26件
・有機質肥料施用、低農薬防除の推進

③環境保全型農業グループ補助金
補助金額　390,000円
会員数　　73人
活動数　　48回

④オーガニックビレッジ準備会補助金
有機農業の推進や普及活動を行うために関係機関や団体で構成した「紀の川市オーガニックビレッジ準備会」の活動を行った。
補助金額　860,000円
会員数　　10人（団体）
活動数　　7回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律では、農業の有する多面的機能は国民に多くの恵沢をもたらすものであり、国、県、市が集中的かつ効果的に支援を行うこととされている。
・法令に基づき、農業の持続的発展と多面的機能の発揮を図るために、環境保全に効果の高い営農活動に対して支援を行っている。
・国施策の「みどりの食料システム戦略」に掲げる目標の達成に向けて、有機農業への新規参入や転換に係る農家負担の低減を図るため本事業の積極的な活用を行う必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・本市ではまだまだ慣行栽培が主流で、リスクを伴う環境保全型農業に取り組む農業者が少ないことが現状であるが、農業の有する多面的機能の発揮を促進するためにも、積極的な事業周知を図っていく必要がある。
・有機農業の推進を通じて農業に由来する環境負荷の低減を図るとともに、有機農業の普及の推進に努めていく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・事業の実施は、国の定める実施要綱、要領に基づき実施している。
・負担割合についても要綱に基づき実施している。

事務事業の概要

事務事業名	農業振興地域整備計画事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	77

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 目	3 農業振興費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
			取組方針	1	魅力ある農業の振興

事業概要	農地の無秩序な開発の防止や良好な営農環境の確保を図るために、農業振興地域内の農用地の変更申出の審査及び農用地利用計画の変更を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	農業振興地域整備促進協議会運営	⑤		⑨	
②	農業振興地域整備計画管理	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 農用地区域変更件数	件	目標						土地所有者からの申し出が主であるため、年度毎でばらつきがある。
		実績	51	59	37			
＜指標の計算方法＞	農用地区域変更申出を精査し受付した件数の内、県同意を得て変更した件数							
成果指標 農用地区域除外面積	a	目標						土地所有者からの申し出が主であるため、年度毎でばらつきがある。
		実績	695	485	817			
＜指標の計算方法＞	農用地区域からの変更で除外した農用地面積							
成果指標 農用地区域編入面積	a	目標						土地所有者からの申し出が主であるため、年度毎でばらつきがある。
		実績		155	115			
＜指標の計算方法＞	農用地区域からの変更で編入した農用地面積							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
322					3	319

事業の実績

①農業振興地域整備促進協議会運営
　農業振興地域整備促進協議会　3回開催

②農業振興地域整備計画管理
　計画変更回数　　3回
　農用地区域への編入　4件　115ａ
　農用地区域から除外　33件　817ａ

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・本事業は、農業振興地域の整備に関する法律及び関連法令に基づく義務的事務であるため、市が実施主体となることは妥当である。
・良好な農業環境を守りながら市民の農地転用のニーズに適正に応えるため、農地と農地以外の土地の合理的な利活用の調整を図る業務でもあり、継続する必要性が高い業務である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・宅地化が進んでいる地域では、年々、計画と現況との乖離が大きくなるため、農業振興地域整備計画の定期的な見直しが必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・専門的な業務以外の事務処理を会計年度任用職員に置き換えるなどコスト削減の余地はある。
・農地転用及び農用地からの除外見込み有無についての問い合わせには農業委員会と連携して判断するため、担当者不在の場合は回答が遅くなる。
・庁内統合型ＧＩＳシステムを活用することで作業の効率化が図れるが、地番図データが最新版ではないためレイヤーの加工が必要など、処理に時間がかかることもある。

事務事業の概要

事務事業名	有害獣被害防止対策事業	担当課	林務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	798

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費	政策目標	1	産業・交流	
予算科目 項	1 農　業　費	施策目標	1	農業振興・産業振興	
予算科目 目	3 農業振興費	基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興	
		取組方針	2	農業経営の安定と生産体制の強化	

事業概要	有害鳥獣による農作物被害を防止し、農家の経営安定と生産振興を図るため、紀の川市内の農地に設置する防護柵等の設置費用の一部に補助を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	有害獣被害防止対策事業補助金	⑤		⑨	
②	農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成	⑥		⑩	
③	野生鳥獣による農作物の被害状況調査	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数	人	目標	1	1	1	1	1	令和7年度も2名のアドバイザーを育成したことにより、農作物の被害軽減のための知識を習得し、職員も有害捕獲対応が可能となった。
		実績	2	2	2			
＜指標の計算方法＞	市職員の農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数							
活動指標 防護柵等設置面積（市単・県単）	ha	目標	50	50	20	20	20	目標達成には至らなかったが、令和7年度より補助率を上げたが目標は達成できなかった。しかし、補助件数は増加しており、今後の啓発の強化が必要である。
		実績	10.03	21.15	13.42			
＜指標の計算方法＞	市補助及び県補助により防護柵等を設置した面積							
成果指標 有害獣による農作物被害額（イノシシ）	千円	目標	11,209	10,619	10,029	11,235	10,644	鳥獣被害防止計画の被害実績値を毎年5%減らすため、目標値を設定して相当数の捕獲を行っているが、依然として高い被害額で推移している。なお、令和7年度に鳥獣被害防止計画を見直したことで、令和8年度以降の目標数値を更新している。
		実績	19,907	11,827	7,377			
＜指標の計算方法＞	野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,702						3,702

事業の実績

①有害獣被害防止対策事業補助金
61件　13.42ha

②農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成
アドバイザー取得者数　2名

③野生鳥獣による農作物の被害状況調査
ＪＡ紀の里・和歌山県農業共済組合より
被害状況聞取り結果
イノシシによる農作物被害額　7,377千円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・有害鳥獣による農作物の被害軽減を図ることは、農業経営の安定化につながり長期総合計画の基本施策に適合している。
・農作物の被害防止対策は、農業従事者の自主的な取組だけでは限界があり、行政や地域での一体となった取組が必要である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・農作物の被害状況は依然として高い数値となっているため、防護柵の有効性や補助事業を広報等で周知し、防止対策を推進していくことが必要である。
・防護柵の設置は被害対策として有効であるため、農業従事者の生産意欲の低下につながらないよう継続していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・地域一体で被害対策に取組むことで、より効果が向上することが見込まれる。

事務事業の概要

事務事業名	農作物被害防止対策事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度（R 7 ～ R 8）
				事業番号	888

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 目	3 農業振興費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
			取組方針	2	農業経営の安定と生産体制の強化

事業概要	異常気象等による災害に対して、農作物被害防止及び被害軽減並びに被害復旧を図り、農業者の被害を軽減する事業

事務事業を構成する細事業					
①	干ばつ対策本部運営	⑤		⑨	
②	干ばつ対策事業	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 干ばつ対策揚水機場開設箇所数	箇所	目標						干ばつ対策本部の決定に基づき、農業者からの要望のとおり開設することができた。
		実績			14			
＜指標の計算方法＞	干ばつ対策揚水機場開設箇所数							
活動指標 干ばつ対策揚水機場設置候補場所調査	箇所	目標				1		令和8年度に1箇所調査を実施する予定である。
		実績						
＜指標の計算方法＞	干ばつ対策揚水機場設置候補場所調査箇所数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,807					1,403	1,404

事業の実績

①干ばつ対策本部運営
　降雨がない日が続き農作物被害が予測されたため、干ばつ対策本部を設置し、関係者を招集のうえ会議を開催した。

　第1回：令和7年7月15日（火）
　第2回：令和7年9月18日（木）

②干ばつ対策事業
　干ばつ対策本部の決定に基づき、3箇所に干ばつ対策揚水機場を開設した。

　粉河地区(2箇所)
　那賀地区(3箇所)
　桃山地区(9箇所)

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・異常気象等による災害に対して、農作物被害防止及び被害軽減並びに被害復旧を図ることは市の農業振興には必要なことである。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・干ばつ被害対策として、干ばつ対策揚水機場を設置することは有効な手段である。
・毎年干ばつ対応が必要になる可能性があるので常設箇所増加の必要性を検討する。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・緊急性が高く、迅速な対応が迫られているものであるが、市と農業者とが十分に連携して取り組めている。

事務事業の概要

事務事業名	農業振興施設管理運営事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	790

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 目	4 農業施設費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興
			取組方針	1	魅力ある農業の振興

事業概要	農業振興施設が農業振興や住民の公共の福祉に寄与するために、施設管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	桃源郷学習体験館施設管理	⑤	西の池かんがい用水施設管理	⑨	
②	農村改善センター施設管理	⑥		⑩	
③	農村婦人の家施設管理	⑦		⑪	
④	共同作業所等管理	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 桃源郷学習体験館施設利用回数	回	目標	170	170	170	170	170	利用団体構成員の高齢化等により利用回数は減少傾向にある。
		実績	109	104	92			
＜指標の計算方法＞	有料施設使用許可申請書受付枚数							
成果指標 農村改善センター施設利用回数	回	目標	380	380	0	0	0	施設老朽化による廃止に伴い、施設貸出はなし。
		実績	393	449	0			
＜指標の計算方法＞	農村改善センター貸出予定及び実績報告書における施設利用回数							
成果指標 農村婦人の家施設利用回数	回	目標	190	190	190	190	190	施設老朽化や利用団体構成員の高齢化等により、利用回数や利用者数は減少傾向にある。
		実績	211	214	162			
＜指標の計算方法＞	農村婦人の家使用予定表における施設利用回数							
成果指標 桃源郷学習体験館一般来場者数	人	目標	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	多少の変動はあるが、例年ほぼ1,500人程度で横ばいである。
		実績	1,580	1,473	1,529			
＜指標の計算方法＞	桃源郷学習体験館一般来場者数による来場者数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
9,898			2,900		89	6,909

事業の実績

①桃源郷学習体験館施設管理
　施設利用回数　92回
　一般来場者数　1,529名

②農村改善センター施設管理
　解体にかかる設計を行った。

③農村婦人の家施設管理
　施設利用回数　162回

④共同作業所等管理
　消防点検立会や利用状況にかかる管理を行った。

⑤西の池かんがい用水施設管理
　電気設備の保安管理を委託した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地が大きい

・農村婦人の家は、利用実態は地域活動が多いが、耐震性が無く老朽化が進んでいることもあり、統廃合の検討が必要である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・農村婦人の家は、農業経営や生活の改善、農村在住者の健康増進と住民相互の親睦を図り、住みよい地域づくりを目的に設置されているが、建設当初と比べ住民の生活環境も大きく変化していることから、農業振興施設と位置づけた場合にはその効果に疑問がある。

効率性

評価結果　改善の余地が大きい

・農村改善センターは令和6年度末で廃止となり、解体工事に向けて進めている。
・農村婦人の家も耐震性が無く老朽化が進んでいることから、令和10年3月末までの使用となっているが、地元移管など今後のあり方について関係部署と検討を行っていく。

事務事業の概要

事務事業名	青洲の里管理運営事業	担当課	農業振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	972

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費	政策目標	3	産業・交流	
予算科目 項	1 農　業　費	施策目標	1	農業振興・産業振興	
予算科目 目	4 農業施設費	基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興	
		取組方針	1	魅力ある農業の振興	

事業概要	利用者に情報発信・休憩・地域交流をはじめとする各種サービス・機能の提供を行うために、青洲の里の施設管理及び広報活動を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	青洲の里施設管理	⑤		⑨	
②	青洲の里管理運営委託	⑥		⑩	
③	全国道の駅連絡会負担金	⑦		⑪	
④	近畿道の駅連絡会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	フラワーヒルミュージアム年間入場者数	人	目標	50,000	50,000	50,000	60,000	60,000	レストランの運営団体誘致に成功し、魅力あるメニューを提供できるようになったことで、多くのお客様が来られることとなり、目標値を約2,000人（4.1%）上回った。
			実績	35,514	32,307	52,098			
	＜指標の計算方法＞	青洲の里フラワーヒルミュージアムへの年間入場者数							
成果指標	春林軒年間入場者数	人	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	テレビ・ラジオ・新聞社からの取材が増えたことに伴いメディア露出が増えたとともに顕彰活動を拡大した効果もあり、令和6年度の実績を約35%上回り、平成28年度以来10,000人を上回った。
			実績	8,286	8,401	11,389			
	＜指標の計算方法＞	春林軒・展示室の年間入場者数							
成果指標	ＥＶ充電器利用回数	回	目標	1,380	1,380	1,380			利用ユーザー数は（令和6年度：214、令和7年度（4～10月）：169）であった。耐用年数が経過したため、令和7年10月までは市が運営していたが、12月より民間事業者が設置・運営を開始したため、令和8年以降の目標数値を設定していない。
			実績	971	716	329			
	＜指標の計算方法＞	青洲の里駐車場ＥＶステーション利用回数							
活動指標	情報発信回数	回	目標	100	100	100	200	200	華岡青洲の顕彰事業、各種イベントなど情報発信が増えている。（インスタグラム208回、フェイスブック207回、X68回）
			実績	162	151	483			
	＜指標の計算方法＞	青洲の里SNS等更新回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
43,263			17,500		190	25,573

事業の実績

①青洲の里施設管理
・管理
　EV急速充電機（R7.11月撤去）
　Wi-Fi等
・ふれあい公園トイレ他改修工事
・ふれあい公園トイレ他改修工事監理
・春林軒母屋白蟻駆除業務

②青洲の里管理運営委託
・一般財団法人青洲の里と青洲の里の管理及び運営に関する基本協定に基づく年度協定を締結し、指定管理者による管理運営業務を実施した。
　期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日
・和歌山県農業協同組合と農産物直売所の管理及び運営に関する基本協定に基づく年度協定を締結し、指定管理者による管理運営業務を実施した。
　年度協定：令和7年4月1日～令和8年3月31日

③全国道の駅連絡会負担金
　負担金　20,000円

④近畿道の駅連絡会負担金
　負担金　27,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・農業振興と地域住民のコミュニティ活動及び市民と都市住民の交流等の拠点としての位置づけのもと、医聖華岡青洲の顕彰拠点であり、市が管理運営することは妥当である。
・道の駅に登録された施設であり、借地を購入することで継続的に公共の用に供することができる。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・指定管理者制度の導入により民間のノウハウや経営手腕が発揮されつつある状況である。
・さらなる集客力を高める取組を実施していく必要がある。
・春林軒及び展示室の活用について、関係機関と協議し、企画展示等を発案していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・道の駅としての機能を確保し、施設の適正管理を図り、集客のための取組を一体として運営するため、指定管理者制度を導入している。
・指定管理料は、指定管理者の自主事業収入の増加や経常的経費の低下などができれば縮減の余地がある。

事務事業の概要

事務事業名	農業施設整備事業	担当課	農地整備課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	756

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 目	5 農　地　費		基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備
			取組方針	1	農業生産基盤整備の推進

事業概要：農業従事者等が利用する農業用施設の長寿命化や農業基盤の整備充実を図るために、関連団体への補助金の交付や農道の維持管理等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	県土地改良事業団体連合会負担金	⑤	冬期通水負担金	⑨	
②	水利施設管理強化事業負担金	⑥	農業用施設整備補助金	⑩	
③	県ため池保全整備連絡協議会負担金	⑦		⑪	
④	県棚田等保全連絡協議会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 農業用施設整備補助金の補助件数	件	目標	50	50	50	50	50	年度途中の追加認定および申請取り下げにより変動した。
		実績	59	81	91			
＜指標の計算方法＞ 交付要綱に基づき補助金を交付した件数								
成果指標 整備箇所全体延長【農道・水路】	m	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	年度途中の追加認定および申請取り下げにより変動した。
		実績	1,296	1,537	1,523			
＜指標の計算方法＞ 整備した農道、水路の延長								
成果指標 整備箇所全体箇所【ため池・農業用施設】	箇所	目標	7	7	7	7	7	年度途中の追加認定および申請取り下げにより変動した。
		実績	13	14	25			
＜指標の計算方法＞ 整備したため池、農業用施設の箇所数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
62,624					14,286	48,338

事業の実績

①県土地改良事業団体連合会負担金
②水利施設管理強化事業負担金
③県ため池保全整備連絡協議会負担金
④県棚田等保全連絡協議会負担金
⑤冬期通水負担金
・小田井土地改良区、荒見井土地改良区、藤崎井土地改良区、安楽川井土地改良区、貴志川土地改良区に冬季通水負担金を支出した。

⑥農業用施設整備補助金
・補助金交付件数　91件
整備実績

農道	19件	426.8m
水路	47件	1096.5m
ため池	16件	16箇所
施設	9件	9箇所

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・農業用施設を維持するにあたり、国・県の採択条件に満たない事業であり、施設の老朽化や豪雨により破損した箇所を早急に修繕したい旨の要望が多く、迅速に対応ができる事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・緊急性が高い地元要望については、年度途中においても追加事業採択を行い早急に改修し、農産物の生産性・農業経営の安定が図られる。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・本事業は農業用施設補修等の工事に対し補助金を交付する事業であり、地元関係者の認知度は高く要望も多い。修繕箇所の早期解消に向けて、手順良く事業活用を進めている。

事務事業の概要

事務事業名	農村公園管理事業	担当課	農地整備課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1085

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費	政策目標	3	産業・交流	
予算科目 項	1 農　業　費	施策目標	1	農業振興・産業振興	
予算科目 目	5 農　地　費	基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備	
		取組方針	2	農村地域の多面的な保全活動の推進	

事業概要：市民の憩いの場として有効活用するために、農村公園の施設管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	農村公園等管理業務	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 現地確認回数	回	目標	24	24	24	24	24	月2回ペースの巡回点検を継続したことで、施設の問題点や故障を迅速に把握することができた。
		実績	24	24	24			
＜指標の計算方法＞ 現地確認回数								
活動指標 修繕件数	件	目標						老朽化や不具合が生じた箇所に対し、適切な維持管理を行うことで、利用者の安全と利便性を確保した。 令和7年度は、ベンチや外灯、浄化槽蓋の修繕を計5件実施。
		実績	3	3	5			
＜指標の計算方法＞ 公園施設の修繕件数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,621						4,621

事業の実績

①農村公園等管理業務
○桜づつみ公園・北涌農村公園
場所：名手西野・北涌地内
業務内容：草刈(年2回)
消毒(年2回)
トイレ清掃・施設清掃
剪定
修繕箇所：
・桜づつみ公園女子トイレ漏水修繕

○水と土ふれあい公園
場所：南中地内
業務内容：草刈(年4回)
消毒(年2回)
トイレ清掃・施設清掃
修繕箇所：
・ベンチ修繕(4基)
・外灯修繕(1基)
・浄化槽蓋修繕(1基)

○曽池ふれあい公園
場所：桃山町調月地内
業務内容：清掃・草刈・消毒

○はりま池公園
場所：貴志川町丸栖地内
修繕箇所：
・外灯修繕(1基)

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・市が設置している公園施設であり、利用者が安全・快適に利用できるよう、市による適切な維持管理は必要である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・月2回の定期点検を目標として行うことにより、故障箇所の早期発見と迅速な対処が可能となり、安全で快適な利用環境を確保できている。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・はりま池公園の管理については、地元で管理しており、定期点検時に消耗品の補充と修繕を行っている。
・北涌農村公園、桜づつみ公園、水と土ふれあい公園の管理については、シルバー人材センターに委託しているため、公園での問題点が発生した場合には早急に対応している。
・曽池ふれあい公園の維持管理については、清掃、草刈り、消毒作業を地元へ委託している。

事務事業の概要

事務事業名	県営ため池等整備事業	担当課	農地整備課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	763

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 農　業　費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	5 農　地　費		基本施策	3	災害に強いまちの形成
			取組方針	3	農地・農業用施設の災害対策の推進

事業概要	ため池下流の市民に対して地震、豪雨等の災害による被害を未然に防止出来るよう、県営工事により、ため池の改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	県土地改良事業団体連合会負担金	⑤		⑨	
②	県営ため池等整備事業負担金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	年度毎事業実施地区数	地区	目標	11	15				全面改修工事7箇所、部分改修工事2箇所また早期着手するため測量設計を3箇所を追加し、令和7年度は12箇所に対し実施・工事着手している。県の動向に合わせて進めているため、令和7年度以降は目標設定は行わない。
			実績	12	15	12			
	＜指標の計算方法＞	測量設計及び改修工事を実施した地区数							
成果指標	年度毎改修工事完了地区数	地区	目標	4	7				令和7年度については、改修工事完了地区は、竹の池、地獄谷池、滝谷池の3箇所となった。県の動向に合わせて進めているため、令和7年度以降は目標設定を行わない。
			実績	2	2	3			
	＜指標の計算方法＞	改修工事が完了した地区数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
45,649		308	43,100			2,241

事業の実績

①県土地改良事業団体連合会負担金
・事業費に応じた負担金を支出した。
　改修ため池　12箇所

②県営ため池等整備事業負担金
　◎全面改修工事
・山田池（切畑）
　堤体工・洪水吐工　一式
・髭谷池（貴志川町高尾）
　堤体工・洪水吐工・取水施設　一式
・月差池（馬宿）
　堤体工・取水施設　一式
・池ノ谷池（東山田）
　取水施設・仮設工　一式
・狩場池（貴志川町高尾）
　取水施設・仮設工　一式
・名手下池（名手下）
　堤体工・洪水吐工　一式
・新池（北勢田）
　堤体工・取水施設・仮設工　一式

　◎部分改修工事
・三ツ池中池（荒見）
　洪水吐工・仮設工　一式
・小田ノ池（古和田）
　堤体工・取水施設・仮設工　一式

　◎測量設計業務
　（全面改修）
・平野上池（平野）
　測量設計　一式
　（部分改修）
・皿池（尼寺）
　測量設計　一式
・下新池（荒見）
　測量設計　一式

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・近年多発する集中豪雨や近い将来発生が懸念されている大地震によるため池の決壊を防止する目的として、ため池の各施設の改修や防災対策等のハード事業としては効果的である。
・令和2年度より防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法に基づき防災工事を受益面積5ha以上、貯水量1,000㎥以上のため池について県営事業で実施している。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・本事業は県営事業であり、県の各種事業計画・推進整備計画に基づいて実施している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・ため池の改修及び防災対策事業の中で受益者及び市の負担が最も軽減できる事業であり、事業効果も大きいことから現状で妥当と考える。県主体で事業を行っており、地元調整についても県・市が連携しながら効果的に行っている。

事務事業の概要

事務事業名	県営農業競争力強化基盤整備事業（尼寺地区）	担当課	農地整備課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（H30 ～ R 8）
				事業番号	1011

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流
予算科目 款	6 農林業費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 項	1 農　業　費		基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備
予算科目 目	5 農　地　費		取組方針	1	農業生産基盤整備の推進

事業概要：農業従事者等が農業競争力の強化を図れるように、県営工事で尼寺地区のほ場整備や農道整備を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	県土地改良事業団体連合会負担金	⑤		⑨	
②	県営農業競争力強化基盤整備事業負担金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 事業進捗率	%	目標	58.5	68.8	83.7			事業の早期完了に向け、国の補正予算の活用や地元委員会と事業量の調整を図った結果、目標値を達成することが出来た。県の動向に合わせて進めているため、令和7年度以降の目標設定を行わない。
		実績	68.8	76.5	90.5			
＜指標の計算方法＞	実施事業費÷全体事業費×100							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
42,431			20,100		20,850	1,481

事業の実績

①県土地改良事業団体連合会負担金
・事業費に応じた負担金を支出した。

②県営農業競争力強化基盤整備事業負担金
・ほ場整備工　4.3ha(累計整備面積22.3ha)

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・本地区は、まとまりのある未整備農地を区画整理して、農業経営の担い手への農地利用集積を図ることで地域農業の安定を目指すものであり、農業者の営農作業効率を高めることで生産性向上を目指すことを目的とした事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・長期間継続していく事業であり、事業計画による事業効果発現の面からも早急に事業を完了することが有効な効果を生むため、現状を維持し事業を進めることが必要である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・本事業については県営事業であり、県と市が連携をとりながら調整することにより、事業の進捗率向上が図られている。

事務事業の概要

事務事業名	国営総合農地防災事業	担当課	農地整備課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（H26 ～ R10）
				事業番号	905

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	6 農林業費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 項	1 農　業　費		基本施策	3	災害に強いまちの形成
予算科目 目	5 農　地　費		取組方針	3	農地・農業用施設の災害対策の推進

事業概要：市民が農業地域の湛水被害から安全が確保されるように、国営事業により湛水被害の軽減を図る事業

事務事業を構成する細事業

①	水路清掃委託料	⑤		⑨	
②	県土地改良事業団体連合会負担金	⑥		⑩	
③	国営総合農地防災事業負担金	⑦		⑪	
④	国営総合農地防災関連事業（県営）負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 年度事業実施箇所数	箇所	目標	1	1	1	1	1	事業計画を基に事業に着手した。
		実績	1	1	2			
＜指標の計算方法＞	測量設計及び改修工事実施数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
40,695			31,600			9,095

事業の実績

①水路清掃委託料
・岡田排水路清掃業務委託
排水路内土砂等清掃　3.52t

②県土地改良事業団体連合会負担金
事業費に応じた負担金を支出した。

③国営総合農地防災事業負担金
事業費に応じた負担金を支出した。

④国営総合農地防災関連事業（県営）負担金
・県営前田排水機場　測量設計一式
・県営丸栖排水機場　遊水地整備等一式

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・国主体の防災事業及び関連県営事業であり、近年頻発する豪雨による湛水被害の軽減を目的とした事業であるため必要である。また、県営附帯事業として丸栖北地区および前田地区における排水機場事業についても湛水被害の軽減を図るため、国営・県営事業に対して負担金の支出が必要。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・本事業は国営・県営事業であり、国・県の事業計画で定められた計画に基づき実施されている。現在の進捗も計画通りに進んでいる。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・国・県の防災対策事業で市の負担が少なくなる事業であり、国・県の同時施工により事業効果が大きく影響する。

事務事業の概要

事務事業名	多面的機能支払交付金事業	担当課	農地整備課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	770

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流
予算科目 款	6 農林業費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 項	1 農　業　費		基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備
予算科目 目	5 農　地　費		取組方針	9	その他

事業概要：農業従事者等が農業・農村が有する多面的機能を適切に維持・発揮できるように、対象地域の各活動組織に対して交付金の交付を行い、地域の共同活動の支援を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	多面的機能支払推進事業	⑤		⑨	
②	多面的機能支払交付金事業	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 事業認定面積	a	目標	188,800	188,800	188,800	188,800	188,800	耕作放棄地解消への取組により、新たに認定される面積が増加している。その一方で、農地転用による面積の減少も発生している状況である。令和7年度は、新たな認定よりも農地転用による減少が上回った。
		実績	196,222	196,912	193,338			
＜指標の計算方法＞	事業認定面積の実績（農地維持支払）							
活動指標 活動組織数	組織	目標	56	56	56	56	56	18組織が再認定を受けて活動を継続している。しかし、2組織が活動継続を断念し、解散・終了した。
		実績	58	57	55			
＜指標の計算方法＞	活動組織数							
活動指標 個別説明会、個別相談の開催回数	回	目標	5	5	5	5	5	制度の説明及び再認定の手続きについて丁寧に説明を行った。また、新規に取り組もうとしている組織に対しても、引き続き事業内容を周知し、参加を促していく必要がある。
		実績	6	5	5			
＜指標の計算方法＞	個別説明会、個別相談の開催回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
118,567		88,007			748	29,812

事業の実績

①多面的機能支払推進事業
・活動内容の指導　55組織
・現地確認の実施　55組織
R7年度【再認定18組織】

②多面的機能支払交付金事業

活動内容	組織数	認定面積
・農地維持支払	55組織	193,338a
・資源向上支払（共同活動）	51組織	182,186a
・資源向上支払（長寿命化）	52組織	187,181a

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・法制化された国の事業であり、草刈りや泥上げ等の地域の環境保全活動を市が支援することは必要である。
・国の予算不足から資源向上支払(長寿命化)交付金が満額交付できていないため、各活動組織の事業計画に影響を与えることにもなり、交付金減額分への補填・拡充等を検討する必要がある。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・農業用施設の維持管理や景観活動を通じ、地域住民の参加による一体感や農業者と非農業者とのコミュニケーションの機会が増加するなど、地域の結びつきも強くなっている。
・中山間地域の農業振興や活性化についても、交付金が有効に使えるような仕組みになっている。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・国からの要綱・要領に基づいて事業を行っており、事業費の削減の余地はない。
・活動組織の事務処理能力を向上させることで、提出された書類審査などの時間の短縮を図る。

事務事業の概要

事務事業名	中山間地域等直接支払事業	担当課	農地整備課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	73

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流
予算科目 款	6 農林業費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 項	1 農　業　費		基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備
予算科目 目	5 農　地　費		取組方針	9	その他

事業概要：中山間地域の協定者が農業生産活動の促進を図るために、交付金の交付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	中山間地域等直接支払推進事業	⑤		⑨	
②	中山間地域等直接支払交付金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 協定面積	a	目標	42,095	42,109	42,030	37,169	37,169	高齢化や担い手不足により、維持困難な農地が除外されたことで、全体の協定面積は減少になった
		実績	42,109	42,030	37,169			
＜指標の計算方法＞	制度の対象農用地の合計面積							
活動指標 協定件数	件	目標	44	44	44	38	38	令和7年度は第6期対策の初年度で、高齢化や担い手不足により5年間の継続が困難といった影響を受け、協定数が減少した。減少傾向に歯止めをかけるため、現在の協定数を下回らないよう、現状維持に向けた推進が必要である。
		実績	44	44	38			
＜指標の計算方法＞	中山間地域の農用地を維持・管理していくための協定を締結している集落数							
活動指標 協定参加人数	人	目標	532	528	527	430	430	高齢化や担い手不足による離脱者に代わる参加者が確保できず、総参加人数は減少した。
		実績	528	527	430			
＜指標の計算方法＞	5年間農業生産活動等を継続する農業者の合計数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
52,116		39,296			209	12,611

事業の実績

①中山間地域等直接支払推進事業
・活動内容の指導　38件
・現地確認の実績　38件

②中山間地域等直接支払交付金
・地区名　協定数　参加人数　協定面積

打田	3件	23人	1,692a
粉河	22件	254人	20,550a
那賀	8件	136人	12,501a
桃山	2件	9人	1,259a
貴志川	3件	8人	1,167a
合計	38件	430人	37,169a

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・国の要綱に基づき、中山間地域の多面的機能を有する農地の維持・管理を条件に交付金を支払うものであり、市が実施すべき必要不可欠な事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・農業従事者の高齢化や担い手不足等により、農地の維持・管理が困難な中、泥上げや草刈り等の共同活動を行うことで、協定内の結びつきを強化し、耕作放棄地の発生防止につながっている。
・中山間地域等の農地維持のため、農作業の軽減につながる支援を提案するとともに、若者や非農業者が協定活動に参加できる体制や、複数の協定が互いに協力し合う仕組みづくりを提案し、集落協定数の維持に向けて取り組む。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・国の要綱により農地条件に応じた交付額が定められており、事業費削減の余地はなく、適正な執行がなされている。

事務事業の概要

事務事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業	担当課	農地整備課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1111

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	6 農林業費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 項	1 農　業　費		基本施策	3	災害に強いまちの形成
予算科目 目	5 農　地　費		取組方針	3	農地・農業用施設の災害対策の推進

事業概要	農業活動の基盤となる農業水利施設の長寿命化及び防災減災対策を推進する事業

事務事業を構成する細事業					
①	ため池廃止事業	⑤		⑨	
②	農業用ため池管理システム事業	⑥		⑩	
③	県土地改良事業団体連合会負担金	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 ため池廃止数	箇所	目標	2	2	2	1	1	令和6年度からの繰越工事と令和7年度工事分を合わせてため池廃止は5箇所となる。
		実績	2	0	5			
＜指標の計算方法＞	不用なため池の廃止件数							
成果指標 ため池管理システム設置箇所数	箇所	目標	1					事業の推進はしているが、管理費やメンテナンス費が負担となり要望がない状態である。
		実績	1					
＜指標の計算方法＞	農業用ため池で管理システムを設置したため池数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
58,311		58,000			80	231

事業の実績

①ため池廃止事業
ため池廃止工事（繰越）
　横谷大池（横谷）
　荒見下池その1（荒見）

ため池廃止工事（現年）
　横谷大池その2（横谷）
　荒見下池その2（荒見）
　荒見上池（荒見）
　蛭池（岸小野）
　山谷池（野田原）
　山谷池その2（野田原）

②農業用ため池管理システム事業
　地元要望がないため設置箇所数0箇所

③県土地改良事業団体連合会負担金
　事業費に応じた負担金を支出した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・利用していないため池について廃止工事を行い少しでも災害リスクを少なくする。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・農家戸数の減少に伴い利用していない農業用ため池については増加傾向にあり、このようなため池の貯水機能を廃止することにより下流部の浸水被害が軽減されることから必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・現地特性・設計基準に沿った内容で実施し、効率的な事業の実施に努めている。

事務事業の概要

事務事業名	防災重点農業用ため池緊急整備事業	担当課	農地整備課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1160

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	6 農林業費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 項	1 農　業　費		基本施策	3	災害に強いまちの形成
予算科目 目	5 農　地　費		取組方針	3	農地・農業用施設の災害対策の推進

事業概要：防災重点農業用ため池について、堤体や洪水吐、樋管などの劣化状況評価及び豪雨耐性評価をするとともに、防災工事が必要と判断したため池について推進計画を策定し、整備を推進する事業

事務事業を構成する細事業

①	調査業務	⑤		⑨	
②	測量設計委託	⑥		⑩	
③	工事請負費	⑦		⑪	
④	県土地改良事業団体連合会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 優先度評価の実施ため池数	箇所	目標	32	199	8	8	0	防災重点農業用ため池の構造・水利機能等の劣化状況を把握し、防災工事の必要性を判断するための評価したもののうち8箇所において優先度評価を実施する予定であったが、令和7年度県補正予算対応となったため、令和8年度に繰越して実施予定となった。
		実績	31	199	0			
＜指標の計算方法＞ 劣化を受けて優先度比較評価を行ったため池数								
成果指標 ため池改修計画策定箇所数	箇所	目標						令和7年度県補正予算対応となったため、ため池1箇所において令和8年度に繰越して計画書策定実施予定となった。 県動向に合わせて実施するため、目標値を設定しない。
		実績	10	1				
＜指標の計算方法＞ ため池改修計画書を作成した箇所数								
成果指標 ため池管理システム設置箇所数	箇所	目標	0	0	0	0	0	事業の推進はしているが、管理費やメンテナンス費が負担となり、要望がない状態である。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞ 防災重点農業用ため池で管理システムを設置したため池数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳				
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
17,945		14,340	3,200			405

事業の実績

①調査業務
ため池優先度評価　8箇所
・県補正予算により令和8年度繰越措置で着手予定

②測量設計委託
ため池整備計画策定　1池　中ノ池(古和田)
・県補正予算により令和8年度繰越措置で着手予定

③工事請負費
　明見池改修(その1)工事

④県土地改良事業団体連合会負担金
　事業費に応じた負担金を支出した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・ため池改修計画を進めるために、ため池の現状を評価し、効果的・効率的な防災減災対策を計画するための重要な基礎資料をさらに多角的な視点で事業実施の優先度を検討するため必要。
・ため池の改修事業の基礎となる事業計画策定を推進することで災害リスクを軽減する。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・評価内容を基に、今後の改修事業の優先順位を検討すること。またそれを基に事業実施主体である県との擦り合わせ協議を行うことから有効な事業である。
・ため池管理システムについては、関係者による従来通りの管理方法が根強いこと、維持管理コスト高も含めて導入難であること等を踏まえ、丁寧な説明で導入を推進している。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・市民の安全・安心を確保していく上でため池の現状を知ることが重要であり、調査過程において管理者の方々に施設の聞き取りを行うことで、日常の維持管理の啓発にも繋がっている。
・測量設計時において、現地特性・設計書籍に沿った内容で実施し、積算時においてもコスト比較を行い安価で効果的な事業の実施に努めている。

事務事業の概要

事務事業名	小規模土地改良事業	担当課	農地整備課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	80

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	6	農林業費		政策目標	3	産業・交流
	項	1	農　業　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
	目	5	農　地　費		基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備
					取組方針	1	農業生産基盤整備の推進

事業概要	農業従事者等の営農労力の軽減を図り農業経営を改善するために、地域の実情に即した生産基盤の整備を行う事業

事務事業を構成する細事業						
①	改良工事	⑤		⑨		
②		⑥		⑩		
③		⑦		⑪		
④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	改良地区数	箇所	目標	3					国の採択要件に満たない改良等の事業について、地元から要望を受け施工した。地元からの要望に基づき実施するため目標値は設定しないこととした。
			実績	3	4	2			
	＜指標の計算方法＞	実施箇所							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
11,546		2,796	5,700		2,309	741

事業の実績

①改良工事
・別所池護岸改良工事(東山田)
護岸工　L= 54m
・東三谷排水路測量設計業務(東三谷)
排水路工　L= 55m

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・国の採択要件に満たない事業であり、県からの補助金を受けることで地元負担の軽減を図り、農業施設の改修を行うことが出来ている。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・事業を進める上で既存施設の改修については、地元要望に沿った柔軟で適切な計画が検討でき、また早期着手による効果が発揮できることから事業を実施することが必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・地元要望事業であり、県費補助を活用することで地元負担の軽減も図り、また、早期事業に取り掛かれることが可能なため、緊急的な事業については効率的に解消することが出来ている。

事務事業の概要

事務事業名	県営紀の川フルーツライン整備事業	担当課	農地整備課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 6 ～ R 8）
				事業番号	1243

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流
予算科目 款	6 農林業費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 項	1 農　業　費		基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備
予算科目 目	5 農　地　費		取組方針	1	農業生産基盤整備の推進

事業概要：紀の川市の道路ネットワークの一役を担う市道と広域農道を一体的に整備し市内の道路ネットワークを強化することで、農業の労働生産性向上を図るとともに市内への効率的な人の流れをつくり、フルーツを中心とした農業や観光産業の活性化を図る。

事務事業を構成する細事業

①	県土地改良事業団体連合会負担金	⑤		⑨	
②	県営紀の川フルーツライン整備事業負担金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 事業進歩率	%	目標		10	60			事業初年度で詳細設計を行い、のり面工事に2か年を要することとしていたが、単年で工事完成に至った。
		実績		10	100			
＜指標の計算方法＞	実施事業費/総事業費							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
14,469			12,800			1,669

事業の実績

①県土地改良事業団体連合会負担金
・事業費に応じた負担金を支出した

②県営紀の川フルーツライン整備事業負担金
・のり面工　　一式

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・本事業は県営事業で実施しており、事業主体である県と地元との調整を図り事業を進める必要がある。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・紀の川市の道路ネットワークの一役を担う市道と広域農道を一体的に整備し市内の道路ネットワークを強化することで、農業の労働生産性向上を図るとともに市内への効率的な人の流れをつくり、フルーツを中心とした農業や観光産業の活性化を図ることができる。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・県営事業であることから、最も効率的に事業を進められる。

事務事業の概要

事務事業名	緑化推進事業	担当課	林務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	741

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	6	農林業費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
	項	2	林　業　費		施策目標	3	自然環境
	目	1	林業総務費		基本施策	1	豊かな自然環境の保全
					取組方針	1	森林環境の保全

事業概要：市民が緑ある環境づくりを進めることができるように、緑の募金等を通じて、緑化の推進を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	緑化推進（緑の募金）	⑤		⑨	
②	紀の国ふるさとづくり協議会負担金	⑥		⑩	
③	企業の森	⑦		⑪	
④	キノピー教室	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 緑の募金額	千円	目標	1,700	1,700	1,600	1,600	1,600	少子高齢化や地域のつながりが希薄になっていることに加え、募金に協力していただける家庭が減少してきているため目標は達成できていないが、県内2番目の募金額で協力いただいている。
		実績	1,643	1,550	1,506			
＜指標の計算方法＞	自治会等よりの募金額							
活動指標 キノピー教室実施回数	回	目標	17	17	17	21	21	受入年齢が生後０歳児からの施設を除いていたが、Ｒ８から全ての施設を対象にしたため、Ｒ８とＲ９の目標値が増加した。
		実績	14	15	14			
＜指標の計算方法＞	保育所等でのキノピー教室の実施回数							
成果指標 企業の森協定件数	件	目標	1	1	1	1	0	森林環境保全に関心を持つ企業があったため、目標を達成することができた。
		実績	0	1	1			
＜指標の計算方法＞	協定件数							
成果指標 緑の募金活用事業数	件	目標	1	1	1	1	0	緑化事業に意欲のある団体が減少しているため、令和7年度の実施はなかった。
		実績	1	0	0			
＜指標の計算方法＞	事業件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
10						10

事業の実績

①緑化推進（緑の募金）
・緑の募金（家庭募金）を実施した。

②紀の国ふるさとづくり協議会負担金
・山村の役割・魅力を普及・啓発するため、和歌山県内の市町村及び和歌山県で構成された協議会に負担金を支出し、運営に参画した。

③企業の森
・ザ・パック株式会社と切畑地区において「ザ・パックフォレスト紀の川の森」の協定を締結した。

⑤キノピー教室
・14回開催

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・豊かな自然環境を保全し次世代につなげていくため市民と行政が一体となって取組む必要がある。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・緑化推進は緑の募金事業を活用して、自治区や団体等の自主活動が主な推進事業となっている。効果を向上させる観点からは、緑の募金事業の活用の啓発を図っていくことが考えられる。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・当該事業に要する事業費は、事務費や負担金のみの少額であることから、これ以上の削減の余地はないものと考える。
・職員の業務量（人件費）についても、当該事業の執行にかかる最低限度の業務量であることから、現時点で効率性を改善する余地はないものと考える。

事務事業の概要

事務事業名	林業対策事業	担当課	林務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	734

会計			一般会計
予算科目	款	6	農林業費
	項	2	林　業　費
	目	2	林業振興費

長期総合計画体系			
政策目標	4	都市基盤・生活環境	
施策目標	3	自然環境	
基本施策	1	豊かな自然環境の保全	
取組方針	1	森林環境の保全	

事業概要	市民、森林所有者、林業従事者が林業の活性化による森林の健全化や森林の多面的機能の維持を図れるように、森林の適切な整備・管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 森林病害虫防除委託	⑤ 間伐材流通支援補助金	⑨ 和歌山県森林クラウドシステム運用負担金
	② 林業労働力確保支援センター負担金	⑥ 森林保全対策	⑩ ハイランドパーク粉河イベント補助金
	③ 山村振興対策協議会負担金	⑦ 森林台帳整備・管理	⑪
	④ 葛城高原まつり補助金	⑧ 林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 防除面積	ha	目標	121	121	121	121	121	面積及び伐採材積は、県知事命令により指示されているので、増減はない。
		実績	121	121	121			
＜指標の計算方法＞	松くい虫の防除面積							
活動指標 伐倒材積	m^3	目標	50	50	50	50	50	県の予算により増減するが、令和7年度においては駆除材積が減少した。
		実績	26	40	29			
＜指標の計算方法＞	松くい虫の伐倒駆除材積							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
21,569		8,952		1,438		11,179

事業の実績

①森林病害虫防除委託
・鎌垣・龍王両財産区有林内の松林の松枯れを防止するため、松くい虫の防除作業を実施した。
　特別防除　116 ha
　地上散布　　5 ha
　伐倒駆除　　29㎥

②林業労働力確保支援センター負担金
・林業労働者の安定した雇用の促進と林業の健全な発展のため、負担金を支出し運営に参画した。

③山村振興対策協議会負担金
・山村のあり方と安全で快適な生活基盤を形成するため、協議会に負担金を支出し運営に参画した。

④葛城高原まつり補助金
・森林に親しみを持ち、コミュニケーションの活性化につなげるためのイベントの開催を支援するため、実行委員会に補助金を交付した。

⑤間伐材流通支援補助金
・紀の川市産間伐材の販売量を向上させ、間伐を促進することにより山林の荒廃を解消し、地球温暖化防止及び災害防止を図ることを目的に補助金を交付した。
　搬出材積　1,300㎥（2団体の計）

⑥森林保全対策
・森林法に定められている次の届出を受け、県に提出した。
　伐採関係：11件
　所有者届出関係：44件

⑦森林台帳整備・管理
・財産区物件管理及び収納管理システムを新システムへの更新を行った。

⑧林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金
・林業事業体の体質強化を図り、林業労働者の社会保障の充実を促進し、労働力の確保ため、事業主が負担しなければならない社会保険料等に補助金を交付した。

⑨和歌山県森林クラウドシステム運用負担金
・県内の森林管理や事務手続きの簡素化等のため構築されたシステムで、その利活用や運用のために負担金を支出した。

⑩ハイランドパーク粉河イベント補助金
・森林に親しみを持ち、コミュニケーションの活性化につなげるためのイベントの開催を支援するため、実行委員会に補助金を交付した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・林業経営体の所得向上を促し、担い手確保を図ることは、自然環境を保全し森林の持つ水源の涵養、土砂災害防止等の多目的機能の発揮に繋がることから、市が関与することの妥当性は大きいといえる。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・林業労働者の社会保障の充実や木材利用の啓発等、担い手の育成、確保に努めているが、依然として厳しい状況にあり、顕著な効果は現れていない。
・森林病害虫防除による森林環境の維持や間伐の促進対策など、森林の維持管理に繋がる取組みは荒廃を防止する効果が見込まれる。
・森林環境の維持や間伐の促進対策などによって、林業の産業成長化や森林の適正な維持管理、木材利用の普及が見込まれる。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・補助金や負担金を効率よく支出できているため、改善の余地はない

事務事業の概要

事務事業名	森林経営管理事業	担当課	林務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1126

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	6	農林業費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
	項	2	林　業　費		施策目標	3	自然環境
	目	2	林業振興費		基本施策	1	豊かな自然環境の保全
					取組方針	1	森林環境の保全

事業概要	経営管理が行われていない森林について、市が所有者の委託を受け経営管理したり、意欲と能力のある林業経営者に再委託することにより、森林管理の適正化を促進する事業

事務事業を構成する細事業					
①	意向調査業務	⑤		⑨	
②	経営管理集積計画の作成	⑥		⑩	
③	経営管理伐採業務	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 森林経営管理意向調査面積	ha	目標	100	100	100		60	集積計画面積に対し間伐の実施が伸び悩んでおり、進捗状況を調整して間伐を重点的に行いたいため、Ｒ８は意向調査を実施しないこととなった。
		実績	55.7	102.41	44.7			
＜指標の計算方法＞	意向調査を行った人工林の面積合計							
成果指標 森林経営管理権集積計画面積	ha	目標	35	35	35	35	35	調査区域が密集していたこと及びＲ６意向調査の際、ある程度の調査範囲を精査していたため、効率よく集積計画を進められたので集積面積が増加した。
		実績	6.96	17.66	54.98			
＜指標の計算方法＞	経営管理権集積計画を公告・縦覧した面積							
成果指標 森林経営管理事業伐採面積	ha	目標	50	35	35	35	35	Ｒ６で実施した集積計画面積17.66haを、Ｒ７で全て間伐することが出来た。
		実績	13.12	22.92	17.66			
＜指標の計算方法＞	経営管理権集積計画に則り間伐等を実施した面積							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
25,939				9,000		16,939

事業の実績

①意向調査業務
調査実施面積：44.70ha
調査実施者：24名（35筆）
回答率：87.5%（内、市に経営管理を委託することを検討すると回答した割合：85.7%）

②経営管理集積計画の作成
計画作成面積：　54.98ha
計画作成件数：　　58件

③経営管理伐採業務
実施面積：17.66ha

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・実施主体は市町村と定められており、森林経営管理法において制度概要が制定されている。県内自治体の状況を見つつ、県の指導を仰ぎながら事業を進めていく必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・法に定められたとおりに実施しなければならないが、山林所有者（相続など）が誰か分からないなどの問題があり、進捗については、遅れている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・令和5年度から会計年度任用職員を活用し、業務を進めている。所有者調査のための登記簿謄本の取得や相続人の追跡など、外部に委託できない事務が多く、現状の進め方が最善と考えている。

事務事業の概要

事務事業名	有害鳥獣捕獲対策事業	担当課	林務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	737

会計	一般会計	長期総合計画体系		
予算科目 款	6 農林業費	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	2 林　業　費	施策目標	3	自然環境
予算科目 目	2 林業振興費	基本施策	1	豊かな自然環境の保全
		取組方針	2	有害鳥獣の捕獲対策

事業概要	農業従事者等の農作物被害の軽減を図るために、猟友会等と有害鳥獣対策を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	鳥獣被害防止対策協議会運営	⑤		⑨	
②	鳥獣被害対策実施隊運営	⑥		⑩	
③	有害鳥獣捕獲事業等補助金	⑦		⑪	
④	猟友会補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 実施隊捕獲出動回数	回	目標	15	15	35	35	35	紀の川市鳥獣被害対策実施隊の協力のもと目標を達成することができた。回数が令和6年度より大幅に増加した理由は、少人数体制により実施したためでる。
		実績	37	43	70			
＜指標の計算方法＞	実施隊が捕獲活動に出動した回数							
活動指標 有害鳥獣捕獲数	頭(羽)	目標	1,800	1,800	1,800	2,100	2,100	目標に達成しなかったが、シカ、カラスについては鳥獣被害防止計画で目標としている捕獲数に達成している。令和6年度のカラスの生息状況が異常であったと考えられる。
		実績	1,396	2,190	1,470			
＜指標の計算方法＞	年間の有害鳥獣（イノシシ・シカ・カラス・アライグマ）の捕獲頭（羽）数							
活動指標 狩猟免許取得者の補助人数	人	目標	20	20	20	20	20	目標を達成できなかった。今後は、狩猟免許取得に向けた啓発が必要である。
		実績	15	7	4			
＜指標の計算方法＞	補助金申請者数							
成果指標 有害獣による農作物被害額（イノシシ）	千円	目標	11,209	10,619	10,029	11,235	10,644	目標額を下回ったが生息数が把握できないため、引き続き被害減少に努めていきたい。
		実績	19,907	11,827	7,377			
＜指標の計算方法＞	野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
17,462		7,063			2,500	7,899

事業の実績

①鳥獣被害防止対策協議会運営
　協議会総会　　1 回

②鳥獣被害対策実施隊運営
　捕獲活動　　70回

③有害鳥獣捕獲事業等補助金
　イノシシ　　400頭
　シカ　　321頭
　アライグマ　　516頭
　カラス　　233羽

④猟友会補助金
・市内6分会で構成される猟友会の団体活動支援として補助金を交付した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・有害鳥獣の捕獲対策を実施し、農作物の被害を軽減することにより、農業経営の安定化を図るものである。
・近年では、民家付近へのイノシシの出没が増加しており、市民生活の安全・安心のため市が積極的に関与する必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・有害鳥獣捕獲や実施隊での捕獲を実施し、相当数（豚熱の影響でイノシシの捕獲数は減っている。）の捕獲を行っているが、農作物被害額には顕著に現れていない状況である。
・捕獲従事者の増加を図るため、引き続き狩猟免許取得支援を実施するとともに、狩猟免許の取得者に対して狩猟登録を継続してもらう対策を併せて実施していく必要がある。
・さらなる成果を向上させるためには、実施隊及び有害捕獲従事者の高齢化対策が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・事業を実施するには猟友会との連携・協力が不可欠な事業であり、今後も猟友会の協力を得て進めていく。
・今後、国、県と連携できる事業等を模索していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	森林公園管理運営事業	担当課	林務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	729

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	2 林　業　費		施策目標	3	自然環境
予算科目 目	3 林業施設費		基本施策	1	豊かな自然環境の保全
			取組方針	4	山村振興施設と林道の適正な維持管理

事業概要	市民、観光客が自然公園等を安全に利用できるようにするために、自然環境を保護し、管理・清掃を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 葛城山公衆トイレ施設管理	⑤ 和泉葛城山保全活用対策協議会負担金	⑨		
	② 龍門山ハイキングコース施設管理	⑥ 自然公園管理	⑩		
	③ ハイランドパーク粉河管理運営委託	⑦ ハイランドパーク粉河施設管理	⑪		
	④ 葛城高原環境保全委託	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 ハイランドパーク粉河　年間訪問者数	人	目標	25,000	25,000	25,000	15,000	15,000	Ｒ６より微減しており、目標の達成には至らなかった。なお、過去３年の実績から、Ｒ８及びＲ９の目標を実績に近い１５０００人に変更した。
		実績	13,323	14,143	13,753			
＜指標の計算方法＞	ハイランドパーク粉河における年間の訪問者数							
成果指標 葛城高原環境保全活動日数	日	目標	50	50	50	50	50	週に1回程度清掃活動が実施されており、良好な状態に保たれている。
		実績	62	54	65			
＜指標の計算方法＞	中尾町内会等に委託している葛城高原環境保全活動が年間に実施された日数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
19,442			1,800		739	16,903

事業の実績

①葛城山公衆トイレ施設管理

②龍門山ハイキングコース施設管理
・苦情・要望がなかったため雑草除去実施なし

③ハイランドパーク粉河管理運営委託
・鎌垣財産区にハイランドパーク粉河の管理運営を委託した。
・管理運営委託施設
管理棟、展望台、イベント広場、野外ステージ、トイレ、キャンプ場、バーベキュー場、遊歩道、遊具
・年間訪問者数　13,753人

④葛城高原環境保全委託
・中尾町内会に委託し、葛城山周辺施設の環境保全（清掃）を実施した。
・葛城山山頂周辺、公衆便所、駐車場、展望台等の清掃管理を実施した。
・林道重谷線（L=3,365m W=4.0m）の維持管理を実施した。

⑤和泉葛城山保全活用対策協議会負担金
・国の天然記念物であるブナ林及びその周辺の豊かな自然環境を保護・保全するため、和泉葛城山を管轄する府・県・市で構成された協議会に負担金を支出した。

⑥自然公園管理
・自然保護監視員として、所管する地域の県自然環境保全地域（金剛生駒紀泉国定公園、龍門山県立自然公園）を巡視等により状況把握に努めた。

⑦ハイランドパーク粉河施設管理
・ハイランドパーク管理棟改修工事設計業務
・ハイランドパーク粉河管理棟空調設備改修工事
・ハイランドパーク粉河防犯カメラ設置工事
・ハイランドパーク粉河野外ステージトイレ改修工事

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・葛城山、龍門山はそれぞれ国定公園、県立自然公園の指定地となっており、自然環境保全の観点から市が関与することは妥当である。
・ハイランドパーク粉河は、森林に関する知識の普及及び自然保護の意識高揚を図ることを主な目的として設置している施設であり、その維持管理については市が実施することが妥当な施設である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・葛城山と龍門山は、自治会や森林組合を通じて必要な維持管理を実施しており、自然環境の保全は図られていると考えている。
・ハイランドパーク粉河は、利用者数が伸び悩んでいることから、新たな視点での集客策や活性化策等を模索していく必要がある。
・建設から年数が経過し老朽化による修繕等が発生しており、その対応に要する業務量が増加傾向にあるため、対応策を検討していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・葛城山と龍門山周辺の維持管理については、地元の自治会や森林組合に委託しており、管理面では効率的な運用が行えている。
・ハイランドパーク粉河は、令和4年度から施設管理業務に関して鎌垣財産区に委託しており、効果的な運用が行えている。

事務事業の概要

事務事業名	治山林道管理事業	担当課	林務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	728

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	6 農林業費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	2 林　業　費	施策目標	3	自然環境	
予算科目 目	3 林業施設費	基本施策	1	豊かな自然環境の保全	
		取組方針	4	山村振興施設と林道の適正な維持管理	

事業概要	市民、林業従事者等が森林へのアクセス道路を安全に走行できるように、林道のパトロールを強化し、林業施設の異変を早急に発見し、現状復旧を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	治山林道管理事業	⑤		⑨	
②	林道施設整備事業補助金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 パトロール活動	回	目標	60	60	60	60	60	目標を達成していないが、パトロール以外の目的時も目を配ることで、林道施設の異変を早期発見、対処することができた。積雪時には業者委託に加えて、寒波が予想された時には職員も迅速に巡視して融解作業を実施した。
		実績	24	48	55			
＜指標の計算方法＞	林道パトロールを行った回数							
成果指標 事故報告件数	回	目標	0	0	0	0	0	対人事故・対物事故は発生しなかった。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	林道の管理不足による事故の報告があった件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
14,724			6,200			8,524

事業の実績

①治山林道管理事業
【雑草除去】
・林道紀泉高原線
　雑草除去10,569㎡
・林道粉河中央線
　雑草除去5,829㎡

【水路清掃】
・林道粉河中央線
　側溝清掃　469m

・林道紀泉高原線
　側溝清掃　639m

・林道真国野田原
　側溝清掃　400m

【林道凍結防止融解作業】
　林道紀泉高原線・林道粉河中央線・林道重谷線
　凍結防止融解作業
　作業回数：1回

【維持管理委託】
・林道勝神線
　維持管理委託 1,655m

【林道維持管理・補修】
・林道粉河中央線
　崩土除去1箇所
・林道紀泉高原線
　崩土除去1箇所
※同時に崩土除去が発生したため、契約は1つ

【工事】
・林道真国野田原線水路改修工事
　L＝11m　縦断側溝及び横断側溝の改修
・林道真国野田原線道路舗装工事
　L＝63m　舗装工(打換え及びオーバーレイ)
・林道粉河中央線舗装工事
　L＝98m　舗装工(打換え及びオーバーレイ)
・林道紀泉高原線舗装工事
　L＝54m　舗装工(打換え)

②林道施設整備事業補助金
・補助金交付件数　2件
・整備実績
　林道鎌垣線
　崩土・倒木除去
　　作業距離　2,000m
　林道彦谷線
　コンクリート舗装
　　施工距離　62m

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・林道を安全かつ快適に通行できるように維持管理が必要である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・林道パトロールを定期的に行うことにより、道路施設、道路周辺の状況を確認することができ、側溝の土砂の堆積、枝打ち箇所など維持修繕箇所を早期発見することで、林道の安全性を高め未然に災害防止に繋がっている。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・林道を維持管理するにあたり、草刈り、崩土除去、道路清掃に費用がかかっているが、林道を通行する人が増え、安全かつ快適に利用されている。
・生活環境課の不法投棄パトロール時に道路施設の確認、道路周辺の状況確認を行ってもらうことで効率よく、施設の状態を把握できている。
・パトロールに時間を要するため人員配置に考慮する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	消費者安全対策事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	727

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 商　工　費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	1 商工総務費		基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進
			取組方針	5	消費者の安全対策の推進

事業概要：市民が消費者被害にあわないように、啓発や相談窓口を開設する事業

事務事業を構成する細事業

①	消費者問題啓発事業	⑤		⑨	
②	消費者問題相談事業	⑥		⑩	
③	県都市消費生活対策連絡協議会負担金	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 消費者問題相談件数	件	目標	90	110	120	120	120	岩出市265件 橋本市468件 通信機器の普及に伴いインターネット通販に関する相談が増えている。
		実績	104	158	193			
＜指標の計算方法＞ 市の消費相談窓口で受付した年間の相談件数								
成果指標 消費者問題相談解決率	%	目標	80	80	80	80	80	インターネット通販はクーリングオフが適用されないため販売者の裁量に委ねる部分が大きく解決に至らないケースが多かった。
		実績	86	85	76			
＜指標の計算方法＞ 相談を受付した件数のうち、問題解決に至った件数の割合								
活動指標 啓発活動回数	回	目標	12	12	12	12	12	岩出市12回 橋本市47回 計画どおり啓発活動を実施した。
		実績	14	14	19			
＜指標の計算方法＞ 年間に実施した消費問題に関する啓発活動の回数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,154						2,154

事業の実績

①消費者問題啓発事業
啓発活動を19回実施した。
5月14日 ライン配信による啓発
5月24日 消費者月間街頭啓発
5月27日 立地企業総会
6月 9日 ライン配信による啓発
6月21日 シルバー人材センター定時総会
7月14日 ライン配信による啓発
8月14日 ライン配信による啓発
9月 4日 ライン配信による啓発
10月10日 ライン配信による啓発
11月13日 ライン配信による啓発
11月23日 産業まつり
12月 9日 高校生市内企業見学ツアー
12月15日 ライン配信による啓発
1月11日 はたちのつどい
1月14日 ライン配信による啓発
2月 9日 ライン配信による啓発
3月13日 ライン配信による啓発
3月15日 ママジョブマルシェ
3月25日 立地企業役員会

・出前講座を1回実施した。
1月26日 19人

・公開学習会
10月11日 73人 粉河ふるさとセンター
共催 消費者ネットワークわかやま

②消費者問題相談事業
・相談窓口を開設した。
年142回 専門相談員(毎週月水金曜日)
相談件数 193件
解決率 76%
主な相談内訳
訪問販売 16件(内13件解決)
通信販売 86件(内64件解決)
架空請求 2件(内 2件解決)
クーリングオフ 5件(内 5件解決)

・消費者教育チラシを配付した。
1,346部(市内中学生)

・スキルアップ研修に5回参加した。
4月15日 初任者研修
6月26日 実地研修(1回目)
9月26日 実地研修(2回目)
11月28日 専門講座
2月 5日 消費生活サポーター研修会

③県都市消費生活対策連絡協議会負担金
7月15日 総会 前年度事業・決算報告
・本年度予算・事業計画
12月16日 第1回定例会
2月 9日 第2回定例会

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・消費者基本法や消費者安全法に定める基本理念に則り、自治体は消費者安全の確保に関する施策を推進する責務があるため、消費者庁をはじめ県消費生活センターと緊密に連携を保ちながら消費者行政全般に対して、市が関与することが妥当である。
・インターネット通販の普及に伴い相談内容は複雑化しており専門的な相談窓口の必要性は年々高まっている。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・消費者相談窓口を週3回に増加させたことにより相談体制を整備することができている。
・市公式LINEを新たに活用することで、啓発を効率的に実施することができている。
・引き続き若年層に対する啓発を行う必要がある。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・消費者トラブルを防ぐために市のSNSで情報発信するなど、経費を抑えて啓発活動をする事ができている。

事務事業の概要

事務事業名	商工振興事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1016

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 商　工　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
予算科目 目	2 商工振興費		基本施策	3	商工業の振興
			取組方針	1	市内商工業者の振興・活性化

事業概要

商工業者の経営安定化につなげるために、運営、事業に対する支援や補助を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	中小企業支援対策(セーフティネット)	⑤	小規模事業者経営資金利子補給金	⑨	こども未来応援デジタル商品券事業
②	商工会補助金	⑥	DX導入支援事業	⑩	ローカル10000（地域経済循環創造事業交付金）
③	商工会商品券補助金	⑦	買い物環境支援事業	⑪	
④	プレミアム付デジタル商品券事業	⑧	ATTO！MARCHE開催事業	⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	商工会会員数	人	目標	1,243	1,245	1,245	1,245	1,245	会員の高齢化が進み廃業する事業者が増加しているが、新規創業等の要因により前年度より増加した。
			実績	1,231	1,217	1,219			
	＜指標の計算方法＞	毎年度4月1日時点の紀の川市商工会及び那賀町商工会の会員数							
活動指標	経営改善相談・指導件数	件	目標	8,000	7,000	7,000	7,000	7,000	新規創業が増加したことにより前年度に比べ相談指導が増加した。
			実績	6,489	5,282	5,468			
	＜指標の計算方法＞	各商工会が実施した年間の経営改善相談及び指導件数の合計							
活動指標	後継者の育っている事業所数	人	目標	40	42	42	42	42	若年層の新規会員の加入に対し年齢到達による青年部からの異動が多かった。
			実績	30	29	26			
	＜指標の計算方法＞	毎年度4月1日時点の各商工会青年部会員数							
成果指標	商工会商品券利用率	%	目標	100	100	100	100	100	高い利用率を維持しており市内の消費喚起に繋がった。
			実績	99.4	99.5	99.7			
	＜指標の計算方法＞	各商工会が発行したプレミアム商品券のうち、利用（換金）された割合							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
256,515	170,255			10,000		76,260

事業の実績

①中小企業支援対策(セーフティネット)
　書類審査(5号) 9件
②商工会補助金
・紀の川市商工会
　補助金額　26,880,000円
　会員数　1015人(内青年部会員数23人)
　職員　14人(局長1人/職員9人/嘱託4人)
　経営改善相談並びに指導相談件数4833件
・那賀町商工会
　補助金額　5,000,000円
　会員数　204人(内青年部会員数3人)
　職員　4人(職員2人/嘱託2人)
　経営改善相談並びに指導相談件数635件
③商工会商品券補助金
　補助額　12,975,181円
　プレミアム率 10%
　当選者数　2,876人(当選率65%)
　予約申込口数　11,968口
　当選口数　7,973口(当選率66.6%)
　利用店舗数　384店舗
　利用枚数　87,727枚(利用率99.7%)
④プレミアム付デジタル商品券事業
　プレミアム率　30%
　販売額　195,000,000円
　　(29,889口×6,500円)
　利用額　194,070,863円(利用率99.5%)
　申込者　19,102人/38,057口(当選率100%)
　1次繰上 670人 / 加盟店舗数　370店舗
⑤小規模事業者経営資金利子補給金
　申請件数 155件/利子補給額 3,551,600円
⑥DX導入支援事業
　申請件数 12件/交付決定額 1,263,000円
⑦買い物環境支援事業
　広報紙6月号でチラシ折込/HP登録19件
⑧ATTO！MARCHE開催事業
　8月30日 大国主神社夏祭り
　11月 8日 那賀病院健康フェスタ
　12月13日 平池イルミネーション
　3月 8日 八朔フェスティバル
　3月15日 ハンドメイドマルシェ
⑨こども未来応援デジタル商品券事業
　対象者1人につき10,000円分のきのかわPay
　ポイント付与　対象者　7,994人
　デジタル商品券　申請者　7,945人
　　利用額　79,043,024円
　　利用率　99.5%
　非デジタル商品券申請者　31人
⑩ローカル10000
・国庫補助事業
　申請者　㈱山崎屋
　対象事業費80,022,000円（補31,677,000円
　　うち市一般財源　5,279,500円）
　事業内容　加工施設の新設及び濃縮果汁加工設備導入
・市単独事業
　申請者　㈱山崎屋
　対象事業費29,005,000円（補14,502,000円
　　うち一般財源　7,251,000円）
　事業内容　加工施設改修・米加工機器導入

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市内商工業者の経営基盤強化を図り、地域経済を活性化させることが目的であるため、市が関与することが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・小規模事業者の高齢化や労働人口の減少、事業承継が進んでいないなど商工業を取り巻く課題は多いため、長期的で多面的な施策が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・国や県の支援策をメール配信するなど市内企業が積極的に活用できるよう情報発信に取り組むなど効率性を追及しているが、事業が多岐に渡るためスクラップアンドビルドにより整理統合していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	創業支援事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1088

予算科目				長期総合計画体系			
会計		一般会計			政策目標	3	産業・交流
	款	7	商　工　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
	項	1	商　工　費		基本施策	3	商工業の振興
	目	2	商工振興費		取組方針	3	創業・事業承継の支援

事業概要	創業者の経営の安定化を図り商工業を活性化させるため、創業に必要な知識を得るためのセミナーの開催や、創業に伴う必要経費等に対する支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	創業セミナー開催補助金	⑤		⑨	
②	創業支援補助金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 創業セミナー受講者数	人	目標	10	40	50	50	50	R6よりオンデマンド形式を追加し通年受講可能としたため急激に増加したが、R7はセミナーのコマ数を増やしたことにより受講者が減少した。
		実績	36	66	42			
＜指標の計算方法＞	創業セミナーへの年間受講者							
成果指標 創業支援補助金交付決定数	件	目標	6	6	6	12	12	R6セミナー受講者が特別に多かったため、比例して翌年度に創業する受講者も増加した。
		実績	8	11	16			
＜指標の計算方法＞	創業支援補助金交付要綱に基づき補助金を交付した件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
8,199				7,000		1,199

事業の実績

①創業セミナー開催補助金
運営先 紀の川市商工会・那賀町商工会
補助金額 1,000,000円
　開催内容
　　講師 グローカルマーケティング㈱
　　　今井 進太郎 氏
　　第1回 6月 4日 経営
　　第2回 6月12日 販路開拓
　　第3回 6月19日 販路開拓
　　第4回 6月25日 財務
　　第5回 7月 3日 人材育成
　　第6回 7月10日 経営
　　第7回 7月17日 融資制度、事業計画指導
　　　他、オンデマンドで配信
　受講者数42名
　　会場15人、オンライン3人、
　　オンデマンド24人

②創業支援補助金
交付決定数　16名

打田地域　8名
粉河地域　4名
那賀地域　0名
桃山地域　2名
貴志川地域 2名

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・創業支援等事業計画に基づき、経済産業省ならびに県と連動した支援策は、持続可能な市内商業の基盤形成につながるため、市が関与することが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・セミナー受講者数の増加に伴い、創業者数も増加しているため、セミナーの開催は有効な手段となっている。
・創業者数は増加しており、補助金制度は有効な動機付けとなっている。
・補助金申請希望者が年々増加していることから、補助金申請対象者の適正化を行う必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・新規創業に関する機運が高まっており、創業を目指す市民が必要な知識やスキルを取得するためのセミナー開催、及び創業初期の支援に対するニーズは高まっている。

事務事業の概要

事務事業名	企業誘致促進事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	387

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 商　工　費		施策目標	2	雇用・就労
予算科目 目	2 商工振興費		基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興
			取組方針	1	企業誘致の促進による新たな雇用創出

事業概要	市民の雇用創出や市の税収拡大を図るために、進出を希望する企業に誘致活動を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 企業用地調査・情報提供	⑤ 企業誘致関連法事務	⑨		
	② 県企業立地連絡協議会負担金	⑥ 企業誘致活動	⑩		
	③ 企業立地促進助成金	⑦ 地域好循環型ビジネスモデル構築事業	⑪		
	④ 宿泊施設誘致奨励金	⑧ 雇用促進・就業支援体制整備	⑫		

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	フォローアップ訪問社数	社	目標	15	15	15	20	20	年度計画のとおり各企業へ助成金などの支援制度の周知や懸案事項に関する相談、解決等のフォローアップを実施した。
			実績	21	23	21			
	＜指標の計算方法＞	誘致後のフォローアップのために誘致企業を訪問した回数							
活動指標	助成金支出企業数	社	目標	5	2	2	2	2	奨励金の支援対象としていた進出企業へ助成金を交付した。
			実績	5	3	2			
	＜指標の計算方法＞	企業立地促進条例及び宿泊施設の誘致等に関する条例に基づき助成金を交付した企業件数							
成果指標	誘致企業地元雇用者数（全体）	人	目標	740	745	750	900	900	新設及び増設企業の操業が軌道に乗った事により、地元雇用者が増加したと思われる。
			実績	821	856	891			
	＜指標の計算方法＞	誘致企業対象に実施するアンケート調査（毎年4月1日時点））※R5より雇用率から雇用人数に変更（第2次後期計画による）							
成果指標	誘致企業地元雇用者数（正社員）	人	目標	500	510	520	520	520	雇用形態の多様化により正社員の雇用については若干減少した。
			実績	496	516	507			
	＜指標の計算方法＞	誘致企業対象に実施するアンケート調査（毎年4月1日時点）※R5より雇用率から雇用人数に変更（第2次後期計画による）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
18,815						18,815

事業の実績

①企業用地調査・情報提供
民間所有の企業用空き用地の調査を行い、所有者が希望する用地についてはデータベース化しホームページで情報提供した。

②県企業立地連絡協議会負担金
県企業立地連絡協議会において情報交換を行い、協議会負担金を負担した。

③企業立地促進助成金
条例に基づく協定企業の生産設備に関する新設及び増設に対し助成金を交付した。
・オーアイテック㈱
（増設助成2年目）　970千円

④宿泊施設誘致奨励金
新規誘致宿泊施設の開業により、条例に基づく奨励金を交付した。
・ルートインジャパン㈱
（ホテルルートイン紀の川）
宿泊施設立地奨励金　16,463千円
地域資源活用奨励金　300千円
合計　16,763千円

⑤企業誘致関連法事務
工場立地法による工場の新設及び増設の届出に対し、協議、指導し計画を受理した。
・工場立地法届出の受理　2社（変更2件）

⑥企業誘致活動
新規進出協定企業はなし

⑦地域好循環型ビジネスモデル構築事業
5/28　東洋大学　包括連携に基づく協議
6/10　UHA味覚糖　八朔商品協議
7/21　大阪関西万博 八朔商品PR活動
10/16-17　食品開発展（東京ビッグサイト）プロモーション
11/26-27　ウェルネスフードジャパン（東京ビッグサイト）　プロモーション
3/9　はっさくシンポジウム開催
3/12　ネタマッチ（室町三井ホール&カンファレンス）プロモーション

⑧雇用促進・就業支援体制整備
会員企業を紹介した「立地企業ガイドブック」を県内高校、専門学校、大学等に送付するなどの就職支援を行った。
・ガイドブック送付学校数　41校

将来の職業等についての参考、また市内企業の周知のため「立地企業ガイドブック」と「きのかわで働くダイジェスト版」の二次元コードを案内した。
・市内中学生　1,346人
・H19.4.2～H20.4.1生まれの紀の川市民（高校3年生相当）　552人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市外からの企業誘致は、自主財源の確保や住民の雇用機会の創出、地域経済の発展、人口流出防止策として最も即効性のある施策であるため、市独自の企業誘致活動を行政が行うことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・企業立地に伴う直接的な地元雇用の拡大、地域経済への波及効果の面からも有効性は高いと考える。
・現在市が管理する企業団地に用地の空きがなく、進出を検討している企業を誘致できていない状況である。
・条例の改正により市内の既存企業も助成対象となるよう事業要件を拡充したため、増設を計画する企業も現れてきたが、事業周知が十分でないため継続して広報していく必要がある。
・進出意欲があるが少子高齢化による人手不足を懸念し進出を躊躇することが無いよう、人材面でも企業をバックアップする対策が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・企業誘致に関して民間資金を活用した手法等、新たな手法による企業誘致について検討の余地がある。

事務事業の概要

事務事業名	立地企業連携事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	483

会計				長期総合計画体系			
予算科目	款	7	商　工　費		政策目標	3	産業・交流
	項	1	商　工　費		施策目標	1	農業振興・産業振興
	目	2	商工振興費		基本施策	3	商工業の振興
					取組方針	1	市内商工業者の振興・活性化

事業概要	立地企業連絡協議会会員企業の新製品や新技術の開発を促進するために、企業間交流や研修会の開催を行う事業

事務事業を構成する細事業						
①	立地企業連絡協議会運営	⑤		⑨		
②	企業間交流促進業務	⑥		⑩		
③	立地企業連絡協議会補助金	⑦		⑪		
④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	先進技術や産業振興に必要な制度等の研修会	回	目標	2	2	2	2	2	総会の年度計画どおりに年度２回の研修会を開催した。
			実績	2	2	2			
	＜指標の計算方法＞	立地企業連絡協議会が主催する会員企業対象の研修会回数							
活動指標	経営層だけでなく従業員も含めた活発な意見交換交流会	回	目標	1	1	1	1	1	総会と研修会の終了後、交流会を開催し、県市担当者を交えて意見交換を行った。
			実績	1	2	2			
	＜指標の計算方法＞	立地企業連絡協議会が主催する交流会の回数							
成果指標	会員企業連携による新製品や新技術開発検討会議	回	目標	1	1	1	1	1	協議会員による産官学連携による新商品、新技術開発協議は無かった。
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	立地企業連絡協議会会員企業が連携し、新たに産出する商品開発検討会議の回数							
成果指標	業務提携件数	件	目標	3	3	3	3	3	今年度は新たな提携事例は無かった。
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	立地企業連絡協議会会員企業が提携し実施した業務件数（累計）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
65						65

事業の実績

①立地企業連絡協議会運営
企業と地域の結びつきの促進、会員企業相互の連携と情報の収集・提供を目的とし、下記のとおり活動した。

・加入企業等　　33企業　1大学
　総　会　1 回
　役員会　1 回
　研修会　2 回
　（人権研修・労働災害に関する研修）

【その他実施事業】
以下のイベントに会員企業及び協議会事務局が参加しました。

・合併20周年記念企業見学バスツアー
　広く一般市民に市内企業を知っていただくための企業見学会

・高校生企業見学バスツアー
　就職を希望する市内高校生を対象とした企業見学会

・ママジョブマルシェ
　子育て世代の母親の就職活動を支援するためのカジュアルな企業説明会

・紀の川市合同企業説明会
　わかやま新卒応援ハローワークと合同主催した就職説明会

②企業間交流促進業務
会員企業相互の交流を目的とした交流会を実施。

③立地企業連絡協議会補助金
企業と地域の結びつきの促進、会員企業相互の連携と情報の収集・提供を目的とした立地企業連絡協議会に補助金を交付した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・産官学連携、農商工連携、異業種連携等新たな取組への投資、新商品の開発は、企業の投下固定資産の増加と新たな雇用の創出を期待することができる。このような取組が地域社会への貢献につながることから、市が関わる事は妥当と考える。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・全国的な人手不足の影響で新規雇用を課題としている企業も多いため、協議会として雇用対策を検討する必要がある。
・会員企業相互での企業間連携や業務提携に関し、なかなか実績事例に繋がらない理由の分析、及び改善対応を検討する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・今年度から会員企業が実施する各研修等に協議会の会計収入から一定の補助を行う事業を開始し、効率的に会費を支出するよう調整した。

事務事業の概要

事務事業名	工業団地維持管理事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	484

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費	政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 商　工　費	施策目標	2	雇用・就労
予算科目 目	2 商工振興費	基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興
		取組方針	1	企業誘致の促進による新たな雇用創出

事業概要：立地企業が安全、安心に操業できるようにするために、工業団地の施設の適切な維持管理と用地の有効活用を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	工業団地管理	⑤		⑨	
②	用地貸付(歳入)	⑥		⑩	
③	工業団地専用排水管内部調査業務	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 維持管理面積	㎡	目標	18,635	18,597	18,886	19,270	19,270	刈草区域の見直しにより管理面積が増加した。
		実績	18,597	18,886	19,310			
＜指標の計算方法＞ 草刈り等、維持管理している面積								
活動指標 維持管理箇所数	箇所	目標	6	6	6	6	6	予定していた工業団地について維持管理を実施することができた。
		実績	6	6	6			
＜指標の計算方法＞ 草刈り等、維持管理を実施した工業団地箇所数								
活動指標 工業団地専用排水管内部調査業務	m	目標	2,815	0	0	0	0	本年度の調査計画は無かった。
		実績	2,815	0	0			
＜指標の計算方法＞ 調査対象の桃山第1工業団地の専用排水管路の延長								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
15,392						15,392

事業の実績

①工業団地管理

【雑草等刈草委託】
市内6箇所の工業団地の市管理地において雑草除去、雑木伐採等の維持管理について業務委託にて実施した。雑草除去は年2回実施した。
・雑草除去業務委託　10件　19,310㎡
・支障木伐採委託　1件　90m
※管理(委託)面積は2回目の面積を計上

【設計監理委託】
桃山第２工業団地において、立地企業の案内看板を復旧するため、工事発注用資料の作成と工事監理業務を行った。
・看板設計監理業務　1件　1式

【維持管理工事】
桃山第２工業団地において、立地企業の案内看板を復旧した。
・看板設置工事　1件　1基

北勢田ハイテクパークにおいて、過年度の豪雨により被災した法面を復旧した。
・法面修繕工事　1件　2,010㎡

北勢田ハイテクパークと長田中工業用地において、各沈砂池の管理道路にコンクリート舗装を施工した。
・管理道路舗装工事　2件　60㎡

【施設器具修繕】
北勢田第２工業団地の調整池門扉が、外力によりひずみが生じ、開閉できない状態であったため、分解・調整による修繕を行った。
・調整池門扉修繕　1件　1式

②用地貸付(歳入)
平成19年度から賃貸借契約を締結している桃山第３工業団地の市管理地について、令和7年度も継続して貸付を行った。
目的：携帯電話基地局用地として
住所：紀の川市桃山町調月713-3・713-27
（桃山第３工業団地敷地内）
面積：200㎡

③工業団地専用排水管内部調査業務
本年度実績なし。

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・基本的に市所有地に対する事業であるため、市による維持管理を行う必要がある。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・草刈・水路管理等の維持管理を行うことで、立地企業の景観が維持できており、有効性がある。
・既存施設の老朽化が進行しており、今後も計画的な更新、長寿命化対策が必要である。

効率性
評価結果：改善の余地がややある
・緩傾斜地の草刈業務はシルバー人材センターを活用し高齢者に働く機会を提供することに努め、急傾斜地で重労働を伴う業務は、地元の土木業者や造園業者、森林組合を選定している。
・老朽化が進行した施設の現状調査結果に基づく対策を講じる必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	新事業用団地造成事業	担当課	商工労働課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 3 ～ R11）
				事業番号	1161

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 商　工　費		施策目標	2	雇用・就労
予算科目 目	2 商工振興費		基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興
			取組方針	1	企業誘致の促進による新たな雇用創出

事業概要	新事業用団地計画地区である曽山地区について、誘致企業の新設、及び既存企業の増設用地として整備することで市内に新な産業を導入し、また、既存企業の増設等の事業拡大を促すことで、市民の雇用機会の創出、市内産業の活性化及び市の自主財源を確保する事業				
事務事業を構成する細事業	① 用地等補償契約	⑤		⑨	
	② 測量設計業務	⑥		⑩	
	③ 環境整備工事	⑦		⑪	
	④ 用地維持管理業務	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 対象となる事業計画面積	ha	目標	9.7	7.8	7.99	7.99	7.99	過年度において事業計画区域の見直しを行っており変更無し。
		実績	9.7	7.99	7.99			
＜指標の計算方法＞	事業計画面積							
成果指標 用地補償等契約面積	ha	目標	7.5	3.1	0.2	0.2	0	海外移住の相続権者との用地交渉に時間を要しているなど、一部の用地について交渉が継続中であり目標値に達しなかった。
		実績	2.3	3	0.08			
＜指標の計算方法＞	用地等補償契約を締結した面積							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
122,072					72,735	49,337

事業の実績

①用地等補償契約
事業用地の取得のため計画区内の用地等補償契約を締結した。

・用地等補償契約件数　2件　795㎡
（累計　51件　68,580.79㎡）

②測量設計業務
過年度実施済みの造成基本設計に基づき、工事発注用図面等の作成を行った。

・造成実施設計　　1件 1式

③環境整備工事
事業用地の取得に伴い、隣接地が農地や用水路の市所有地について、雑木や竹の伐採を含む事業地法面の維持管理を行った。

・環境整備工事　　2件 958㎡

④用地維持管理業務
事業用地の取得に伴い、隣接地が農地や用水路の市所有地について、草刈り等の維持管理を行った。

・雑草等刈取業務　1件　1,530㎡

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・基本的に事業用団地を新規に造成する事業であるため、その造成に際し民間資金や技術力を活用するいわゆるPFI手法を検討する余地があるが、事業計画の規模、期間を考慮するに小規模、短期間という点や事業目的を考慮すると、市が実施することは妥当と考える。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・現在の進捗としては計画に沿っていると考えているが、事業効果の早期発現のため効率的な造成工事や工事施工を検討する必要があると考える。
・本計画地域は、「紀の川インターチェンジ周辺土地利用構想」に基づく先行開発地との位置づけであるため、構想に則した造成計画を検討する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・事業計画の規模、期間を考慮するに小規模、短期間という点や事業目的を考慮すると、費用対効果を常に検討しつつ市が事業を実施することが最も効率が高いと考える。

事務事業の概要

事務事業名	北勢田工業団地専用排水管移設事業	担当課	商工労働課		事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 3 ～ R12）	事業番号 1162

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 商　工　費		施策目標	2	雇用・就労
予算科目 目	2 商工振興費		基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興
			取組方針	1	企業誘致の促進による新たな雇用創出

事業概要	県道泉佐野打田線の4車線化拡幅工事に伴い、工事の支障となる北勢田工業団地からの専用排水管を移設することで県道工事後の専用排水管の安定的運用を確保する事業

事務事業を構成する細事業					
①	測量設計業務	⑤		⑨	
②	排水管路移設替工事	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 測量設計実施延長	m	目標	0	480	0	0	0	和歌山県と協議のうえ、専用排水管の移設工事を要する箇所は、過年度において設計を完了させた。
		実績	0	520	0			
＜指標の計算方法＞	測量設計業務を実施した延長							
成果指標 移設工事実施延長	m	目標	228	230	241	241	0	県工事の遅延により今年度は工事着手できたもの、現場は他工事との出合い丁場となり進捗せず、R8へ繰越措置を行っている。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	移設工事を実施した延長							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
12,716					12,700	16

事業の実績

①測量設計業務

和歌山県と協議のうえ今年度の測量設計業務の実施個所は無かった。

②排水管路移設替工事

和歌山県が実施する県道泉佐野打田線橋梁工事の実施に伴い設置される県仮設道に仮設排水管設置工事を発注した。しかしながら、県事業の進捗が大幅に遅れたため、本年度は工事完成に至らなかった。※R8へ繰越

工事区間は、県道泉佐野打田線と県管理河川の佐川交差部から北に約151m、南に約90mの延長計241m。

・排水管移設工事 L=241m
（ダクタイル鋳鉄管 φ250㎜ L=70m）
（硬質塩化ビニル管 φ250㎜ L=170m）
（ダクタイル鋳鉄管 φ100㎜ L=1m）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・移設工事の対象となる排水管は、県の施工により造成されたが現在市へ財産移管されており、県道に対する占用物となるため市による事業実施は妥当と考える。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・事業の性質上、県道拡幅工事計画に応じた排水管移設計画を検討する必要があるが、県工事の進捗状況が遅れたことにより市の事業実施も遅れている現状は致し方ないと考える。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・対象施設は市の占用物であるが、県道拡幅工事の支障となる一部区間の移設工事については公共補償に伴う受託事業であり、測量設計費及び仮設工事費は全額、移設工事費は既設施設の供用年数に応じた減耗額を差引いた工事額が公共補償対象のため、経費の面からも最も効果的と思われる。

事務事業の概要

事務事業名	紀の川はっさくプロジェクト推進事業	担当課	商工労働課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 3 ～ R 6）
				事業番号	1171

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費	政策目標	3	産業・交流	
予算科目 項	1 商　工　費	施策目標	1	農業振興・産業振興	
予算科目 目	2 商工振興費	基本施策	3	商工業の振興	
		取組方針	4	地域内経済循環の促進	

事業概要	「地域産業創出に向けた連携協定」に基づき、はっさく果皮含有成分による商品開発等を推進するとともに、「紀の川はっさく」のブランド化による地域経済の活性化を図る事業

事務事業を構成する細事業					
①	紀の川はっさくプロジェクト推進事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 紀の川はっさくのロゴ使用申請数	申請	目標	15	15	0	0	0	令和6年度で完了のため実績なし
		実績	17	4	0			
＜指標の計算方法＞	ロゴの使用に対し許認可した件数							
活動指標 開発した商品及び試供品の種類	商品	目標	2	3	0	0	0	令和6年度で完了のため実績なし
		実績	3	4	0			
＜指標の計算方法＞	開発した商品及び試供品の種類							
成果指標 含有成分の効能を表記した商品数	商品	目標	1	1	1	0	0	令和7年度への繰越により、含有成分を添加した「暑払飴」を民間企業が製造し、全国販売を行った。
		実績	0	0	1			
＜指標の計算方法＞	含有成分の効能を表記した商品数							
開発商品を活用した啓発回数	回	目標	0	0	5	0	0	万博や各イベントなど想定より機会が多く「暑払飴」を活用した啓発を実施することができた。
		実績	0	0	10			
＜指標の計算方法＞	開発商品を活用し、啓発を行った主要なイベント数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,472					1,472	

事業の実績

①(繰)紀の川はっさくプロジェクト推進事業
熱中症予防効果のあるはっさく由来成分「オーラプテン」を使用し民間企業と開発した「暑払飴」を活用し市内外でのイベントで配布し、紀の川はっさく及び熱中症に対する効能について啓発した。

「暑払飴」購入数　13,920個（106円/個）
※「暑払飴」はUHA味覚糖株式会社の製品
令和7年度は初夏から全国コンビニエンスストアを主に販売開始した。

主な配布先及び啓発イベント
・2025年　大阪・関西万博（2回）
　約3,000個（万博会場で配布）
　関西パビリオンでの和歌山ウィークなど
・県、市の各イベント（3回）
　約4,300個
　粉河祭、市民まつり、南紀白浜空港など
・市内企業や各団体等（2回）
　約2,300個
　シルバー人材センター、立地企業連絡協議会など
・はっさくシンポジウム等イベント（3回）
　約3,000個
　はっさくシンポジウム、食品開発展など

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川はっさくに対する付加価値を高め、企業誘致への動機付けとなり地域経済の好循環を目指していることから、市が関与することが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川はっさくは徐々に認知されてきており、企業とのコラボ製品の開発などの目途も立ったが、まだまだ一般に流通する商品が少ないことから引き続きはっさくプロジェクトに参画し企業との交渉に関与していく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・企業とのコラボ製品を活用し、市内外のイベントで紀の川はっさくや熱中症予防に効果が見込まれる含有成分の効能についての周知や、商用活用を進める必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	観光振興事業	担当課	観光振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	720
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流
予算科目 款	7 商　工　費		施策目標	3	観光・交流
予算科目 項	1 商　工　費		基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興
予算科目 目	3 観光振興費		取組方針	1	誘客・周遊化の促進
事業概要	市に訪れる観光客数の増加につなげるために、観光客への情報の発信（PR)や各観光団体への取組支援や運営への参画を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	観光振興事業	⑤	観光協会補助金	⑨	
②	まるごと桃のスタンプラリー事業	⑥	団体旅行誘致促進事業	⑩	
③	メイヤーズカップ補助金	⑦	スポーツ合宿誘致促進事業	⑪	
④	スカイグランプリ補助金	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	観光PR件数	件	目標	15	15	15	0	0	イベントでの誘客促進や、推奨土産品等の販売による観光PR活動を行った。観光PR件数については、目標値には届かなかったが、効率的な観光PR活動に努めた。
			実績	15	14	11			
	＜指標の計算方法＞	観光キャンペーンスタッフの参加イベント数（複数日あるイベントも1件とする）							
成果指標	観光協会会員数	名	目標	135	135	135	0	0	新規会員の勧誘による会員数増加に努めたが、会員数については、微減となった。
			実績	127	126	123			
	＜指標の計算方法＞	解散総会時点の紀の川市観光協会会員数（特別会員含む）							
成果指標	特産品推奨制度新規登録商品数	品	目標	10	10	0	0	0	令和7年度においては、特産品推奨制度への受付は行わなかった。また、令和7年12月31日に「紀の川市観光協会特産品推奨制度」が廃止された。
			実績	4	0	0			
	＜指標の計算方法＞	特産品推奨制度への新規登録商品数（変更・更新は除く）							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
25,418						25,418

事業の実績

①観光振興事業
・観光プロモーション活動
　大阪・関西万博出展(紀の川DAY)
　華岡青洲の妻 南座公演プロモーション
　ツーリズムEXPOジャパン2025出展
　京都市観光プロモーション
　名古屋市観光イベント出展
・観光ガイドブック増刷　10,000部

②まるごと桃のスタンプラリー事業
※()は万博でスタンプを取得した市外の方
スタンプラリー参加者数3,315人(1,888人)
応募条件達成者　517人(　251人)
応募者　511人(　250人)
スタンプ取得人数：3,315人(1,888人)
　内訳　・スタンプ1個 2,558人(1,550人)
　　・スタンプ2個　240人(　87人)
　　・スタンプ3個　517人(　251人)
スタンプ取得個数：4,589個(2,427個)
　内訳　・万博関連 2,262個(1,888個)
　　・直売所　1,032個(　240個)
　　・加盟店　1,295個(　299個)

③メイヤーズカップ補助金
メイヤーズカップは天候不順のため開催されなかった。

④スカイグランプリ補助金
スカイグランプリは天候不順のため開催されなかった。

⑤観光協会補助金
観光PR事業の実施
・特産品の販売と観光PRイベントへの参加
・ホームページの更新
・インスタグラム等を活用した情報発信
※令和8年2月10日に解散

⑥団体旅行誘致促進事業
紀の川市内にバスで訪れて宿泊し、市内周遊を1か所以上旅程に取り入れた旅行業者や団体等に対して補助を行った。
・バス1台につき10名以上　50,000円　1件
・バス1台につき15名以上　75,000円　5件
・バス1台につき20名以上 100,000円 23件
・バス2台以上かつ40名以上200,000円 0件

⑦スポーツ合宿誘致促進事業
市内のスポーツ施設において、合宿等を行い、市内の宿泊施設に宿泊した10名以上のスポーツ団体等に対して補助を行った。
・ハンドボール　6件
・ソフトボール　3件
※令和8年3月31日で事業を終了

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・交流人口を増やすことで、市の認知度を高める効果が期待できるため、市が観光振興に取り組むことについては、妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・積極的に観光プロモーション活動や、SNS等を活用した情報発信を実施していくことは、本市の観光振興に有効性がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・観光ガイドブックや、パンフレット等の紙媒体を必要最小限の作成にとどめ、観光客の利便性を高めるために、デジタル化を進め、更なる効率的な取り組みを推進する。

事務事業の概要

事務事業名	まつり開催支援事業	担当課	観光振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	88

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 商　工　費		施策目標	3	観光・交流
予算科目 目	3 観光振興費		基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興
			取組方針	1	誘客・周遊化の促進

事業概要	市の交流人口の拡大と活性化につなげるために、実行委員会との協働により、まつりや各種イベントの開催を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	市民まつり補助金	⑤	まつり開催支援	⑨	
②	粉河祭補助金	⑥		⑩	
③	青洲まつり補助金	⑦		⑪	
④	桃山まつり補助金	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	まつり関係構成員数	名	目標	208	208	210	210	210	役員改選等により、令和6年度と比較して増加した。
			実績	197	195	199			
	＜指標の計算方法＞	市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり主催団体構成員数の合計							
成果指標	まつり集客数	人	目標	113,000	130,000	130,000	130,000	130,000	令和7年度は、令和6年度と比較して集客数は増加した。市民まつりの集客数が大きく増加したことが要因である。
			実績	141,000	133,000	146,000			
	＜指標の計算方法＞	主催団体からの報告値の合計							
活動指標	まつり関係会議回数	回	目標	55	55	50	50	50	令和6年度と比較して、事業内容等の変更により、会議回数は微増した。
			実績	57	44	45			
	＜指標の計算方法＞	市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり開催準備等会議数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
34,693						34,693

事業の実績

①市民まつり補助金
開 催 日：令和7年8月24日
来場者数：70,000人
主催団体：紀の川市民まつり実行委員会
構成員数：34名
会議開催回数：10回

②粉河祭補助金
開 催 日：令和7年7月26日～27日
来場者数：50,000人
主催団体：粉河祭保存会
構成員数：89名
会議開催回数：16回
そ の 他：「粉河祭写真展」を次のとおり開催する。
・令和7年6月21日～7月28日
・粉河ふるさとセンター　エントランスホール

③青洲まつり補助金
開 催 日：令和7年10月26日
来場者数：8,000人
主催団体：青洲まつり実行委員会
構成員数：50名
会議開催回数：11回
そ の 他：青洲まつりプレイベントとして、ゲートボール大会を令和7年10月11日に愛宕池公園多目的グラウンドで開催（18チーム参加）

④桃山まつり補助金
開 催 日：令和7年4月5日
来場者数：18,000人
主催団体：紀の川市桃山まつり実行委員会
構成員数：26名
会議開催回数：8回

⑤まつり開催支援
まつり開催に伴う、PR活動を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・まつりの開催にあたっては、実行委員会等が自ら考え、自らの運営により魅力のあるイベントをつくりあげることで、それぞれのまつりの集客や、地域の活性化に繋げることが大切である。一方で実行委員会等が主体となってまつりを運営できるよう組織づくりをし、それぞれのまつりが安全かつ円滑に開催されるためには、市の側面からのサポートが必要であることから、市がまつり運営に関与することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・それぞれのまつりは、それぞれの地で培われた魅力・歴史・伝統を広く参加者に伝え、地域の活性化に繋がるものである。また、まつりは市外からの誘客のきっかけとなり、交流人口の増加や、市民交流に繋げる事業であることから有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・まつりの会場運営に関する業務は、実行委員会等が外部委託しており、効率化が図られている。
・今後は、実行委員会等とともに、「持続可能なまつりの開催」について、検討等を進める必要性がある。

事務事業の概要

事務事業名	ほたる保護事業	担当課	観光振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	722

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流
予算科目 款	7 商　工　費		施策目標	3	観光・交流
予算科目 項	1 商　工　費		基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興
予算科目 目	3 観光振興費		取組方針	1	誘客・周遊化の促進

事業概要：市民に環境保全の大切さについて理解を深めてもらうために、ほたる保護団体への活動支援、全国ほたるのまち交流会や観賞会等の開催を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	ほたるの館施設管理	⑤	源氏ボタルを育てる会補助金	⑨	
②	ほたる観賞会	⑥		⑩	
③	全国ほたるのまち交流会	⑦		⑪	
④	ホタル保存会補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 ほたる観賞地数	箇所	目標	4	3	3	3	3	ほたる観賞地数については、増減はなかった。
		実績	3	3	3			
＜指標の計算方法＞	紀の川市がほたる観賞地として周知等を行っている箇所数							
活動指標 全国ほたるのまち交流会構成市町村数	団体	目標	6	6	6	5	5	「全国ほたるのまち交流会」構成市町村については、令和7年度末で北九州市が退会したため、構成市町数は減少した。
		実績	6	6	5			
＜指標の計算方法＞	全国ほたるのまち交流会規約に基づく構成市町村数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,322						2,322

事業の実績

①ほたるの館施設管理
ほたるの館等の施設管理を行った。

②ほたる観賞会
・きしべの里（源氏ボタルを育てる会）
令和7年6月1日から8日
・江川中地区（江川中ホタルを守る会）
令和7年6月2日から13日
・ほたる祭（細野渓流キャンプ場）
令和7年6月7日

③全国ほたるのまち交流会
「全国ほたるのまち交流会」は、豊かな自然環境を生かしたほたるのまちづくりに取り組む、愛知県阿久比町、滋賀県米原市、岡山県真庭市、山口県下関市、福岡県北九州市、紀の川市の6市町が参加している。
令和7年度は、紀の川市において「輝く未来へ　とどけ　ほたるの灯」をテーマにオンライン形式で開催した。
・主　催：紀の川市
・開催日：令和7年6月14日（土）
・場　所：粉河ふるさとセンター小ホール
・参加者：
（紀の川市）
紀の川市長・江川中ホタルを守る会
貴志川ゲンジボタルを育てる会・
農林商工部長・観光振興課
（現地参加）岡山県真庭市

④ホタル保存会補助金
「江川中ホタルを守る会」に対し、重谷川の自然に育ったほたるを保護するため生育環境保護と自然環境美化のための活動に対する補助を行った。

⑤源氏ボタルを育てる会補助金
「貴志川ゲンジボタルを育てる会」に対し、源氏ボタルの人工飼育による保護活動や、水質保全をはじめとする自然環境保護及び、生物について学ぶ活動に対する補助を行った。

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・市内のほたる保護団体に、ほたるの保護活動を行っていただくことで、市内外の方に対して、広く自然環境保護のメッセージを発信していくことに繋がるため、市が関与することは妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・ほたるの観賞地は、飛翔時期には、観光資源のひとつとなり、交流人口の増加などに寄与しており、効果的な事業である。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・ほたる保護団体については、保護団体ごとに、人工飼育、自然飼育という活動方針に違いがあるものの、効率的かつ、自主的に活動している。

事務事業の概要

事務事業名	地域おこし促進事業	担当課	観光振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	991

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費		政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 商　工　費		施策目標	3	観光・交流
予算科目 目	3 観光振興費		基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興
			取組方針	3	観光振興体制の整備

事業概要：「フルーツのまち　紀の川市」の魅力を内外に広め、紀の川市への定住・定着を図るために、地域おこしの支援や地域活動を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	地域おこし協力隊募集	⑤		⑨	
②	活動支援	⑥		⑩	
③	定住・定着のための情報収集・技術取得	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 地域おこし協力隊員数	名	目標	2	2	1	1	1	令和7年度においては、予定どおり1名の地域おこし協力隊員を継続任用した。
		実績	2	1	1			
＜指標の計算方法＞ 各年度に地域おこし協力隊として任用した隊員数（継続任用を含む）								
成果指標 定住・定着者数	名	目標	1	0	0	1	0	令和7年度で任用期間が終了する地域おこし協力隊員については、定住予定であるが、実績値については、令和8年度において計上する。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞ 任用期間終了後、紀の川市に定住した地域おこし協力隊員数								
活動指標 地域おこし活動件数	件	目標	20	20	20	5	10	令和7年度においては、大阪・関西万博での活動をはじめ、農家と桃の収穫体験を実施するなどの活動を支援することができた。また、活動件数については、令和6年度と比較して増減はなかった。
		実績	7	15	15			
＜指標の計算方法＞ 地域おこし協力隊が行った地域おこし活動件数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,125						5,125

事業の実績

①地域おこし協力隊募集
新たな地域おこし協力隊員の募集を行った結果、2名の応募があり、そのうち1名を令和8年5月1日から任用する予定である。
・地域おこし協力隊員数：
1名（令和8年3月31日時点）
宮崎県出身　女性
※令和7年度末で任用期間終了

②活動支援
地域農家団体等で農業体験や伝統食の調理体験等を通じて都市と農村交流を図るための活動を支援した。
・大阪・関西万博紀の川DAYの通訳支援
・観蓮会貴志川茶道サークル活動支援
・MOMOYAMA STAND桃収穫体験実施
・しごと暮らし体験受入れ支援
・桃の農作業動画制作
・オーストリア青年団受入れ支援
・奈良漬け体験実施
・援農者受入れ支援
・はっさくCM動画制作

③定住・定着のための情報収集・技術取得
・地域の英会話サークル受講
・貴志川茶道サークル受講
・むぎたぶカフェ参加
・JNTO特別顧問講演聴講
・国内旅行業務取扱管理者資格取得
・きのかわ市民クリエイター養成塾受講

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・地域おこし協力隊は、「フルーツのまち紀の川市」の情報発信や地域の魅力を活かしたまちの活性化を担う人材であり、地域おこし促進事業を通じて、紀の川市での生きがいや、生業の発見をもって、任期満了後には、紀の川市への定住などを支援することで、紀の川市の関係人口の増加に努めることができることからも、市が関与することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・地域おこし協力隊は、若年層が地域に移住し、日常的に行政が携わりにくい地域の活動などに直接参加しながら地域住民と深いつながりを持ち、課題等に取り組むことは、高く評価されており、有効な事業である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・地域おこし協力隊は、国の制度であり、市において地域の活性化に取り組む際に、地域おこし協力隊制度を活用することで、事業費の大部分について、特別地方交付税措置の対象となるため効率性の高い事業である。

事務事業の概要

事務事業名	観光交流創造事業	担当課	観光振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1014

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費	政策目標	3	産業・交流	
予算科目 項	1 商　工　費	施策目標	3	観光・交流	
予算科目 目	3 観光振興費	基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興	
		取組方針	3	観光振興体制の整備	

事業概要	観光客、市民がフルーツのまちとしての魅力・イメージアップにつなげるために、地域資源であるフルーツと他の魅力ある地域資源を結びつける取組を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	紀の川フルーツ・ツーリズム補助金	⑤		⑨	
②	（一社）紀の川フルーツ観光局運営支援	⑥		⑩	
③	観光交流拠点の運営	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 体験交流人口	人	目標	9,300	9,300	9,300	9,300	9,300	ほんまもん体験イベントの参加者数が93人増加し、ぷる博への参加者数が200人増加した。 ・ほんまもん体験イベント　1,315人 ・ぷる博10　1,451人
		実績	2,760	2,473	2,766			
＜指標の計算方法＞	ほんまもん体験及び、ぷる博体験催しへの参加者数の合算							
成果指標 年間外国人観光客数	人	目標	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	令和6年度と比較して、外国人観光客数は、大きく減少した。特に、観光交流拠点の来場者数や、ルートイン紀の川への宿泊者数が大きく減少した。
		実績	25,662	32,656	24,300			
＜指標の計算方法＞	各観光施設等への調査による							
成果指標 ぷる博参加人数	人	目標	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	ぷる博10については、ぷる博9と比較して、体験催しが14種類減少したが、参加者数は200人増加した。
		実績	1,676	1,251	1,451			
＜指標の計算方法＞	ぷる博において体験催しに参加した人数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
27,322						27,322

事業の実績

①紀の川フルーツ・ツーリズム補助金
「フルーツのまち紀の川市」をPRする市民団体である（一社）紀の川フルーツ･ツーリズムが開催する「第10回 紀の川フルーツ体験!ぶるぶる博覧会」への支援を行った。
・ぷる博10 令和8年2月22日から開催
（体験催し26種類、参加者数1,451人）

②（一社）紀の川フルーツ観光局運営支援
観光を用いたまちづくりを推進していく取組を支援した。
・総　　会（1回）
・臨時総会（1回）
・理事会（5回）
・イベント出展（15回）
・販促PR出張（6回）
・視察研修（3回）

③観光交流拠点の運営
観光交流拠点「紀楽里(きらり)」を指定管理事業者である「（一社）紀の川フルーツ観光局」において管理運営を行った。
観光案内、土産物の紹介、体験交流などを通じて紀の川市の魅力を発信した。
・来客数（R7.4～R8.3）
14,688人（内外国人9,669人）
・外国人のエリア別内訳
中　国　4,386人
台　湾　2,574人
香　港　1,012人
その他　1,697人
・施設利用状況（R7.4～R8.3）
イベント広場（26回）
体験交流スペース（1回）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市民と協働して地域のブランド化や、新たな観光資源を創出する取組であるため、市が関与することが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・（一社）紀の川フルーツ観光局については、市民団体、民間企業及び大学等、観光まちづくりに携わる関係団体が多種多様であるため、それぞれの役割を明確にして、それぞれの事業を円滑進めて行く必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・（一社）紀の川フルーツ観光局に対しては、専門人材の派遣を行うなどの事業の効率化を行っていたが、今後は、観光客の継続的な誘客のため、収益面において、市の財政支援に依存しない運営を進めていく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	観光施設管理運営事業	担当課	観光振興課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	89

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	7 商　工　費	政策目標	3	産業・交流
予算科目 項	1 商　工　費	施策目標	3	観光・交流
予算科目 目	4 観光施設費	基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興
		取組方針	2	観光施設の適切な管理と充実

事業概要	観光客、市民が観光施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 観光施設管理（トイレ等諸施設）	⑤ 市営大門橋駐車場施設管理	⑨	
	② 百合山緑化施設管理	⑥ 貴志川観光物産センター施設管理	⑩	
	③ 細野渓流キャンプ場施設管理	⑦ 桃山産業振興館施設管理	⑪	
	④ きしべの里施設管理	⑧	⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 細野渓流キャンプ場入場者数	人	目標	11,000	11,000	11,000	8,000	8,000	週末の天候不良に加え、全国的な熊の出没状況などに影響され、令和6年度と比較して入場者数は減少した。
		実績	8,125	7,717	7,263			
＜指標の計算方法＞	実績報告による（キャンプ場の入場者数）							
成果指標 市営大門橋駐車場利用台数	台	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	令和6年度と比較して、利用台数は、増加した。特に普通乗用車に区分される車両の利用が大きく増加した。
		実績	922	1,012	1,113			
＜指標の計算方法＞	実績報告による（普通車・マイクロバス・大型バスの利用台数合計）							
成果指標 桃山産業振興館利用者数	人	目標	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	令和6年度と比較して、利用者数は増加した。
		実績	22,385	20,890	21,579			
＜指標の計算方法＞	実績報告による（レジ通過人数）							
成果指標 貴志川観光物産センター利用者数	人	目標	70,000	70,000	70,000	60,000	60,000	令和6年度と比較して、利用者数は、減少した。
		実績	53,814	52,429	49,692			
＜指標の計算方法＞	実績報告による（レジ通過人数）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
6,879					1,014	5,865

事業の実績

①観光施設管理（トイレ等諸施設）
　窪ちびっこ広場　　施設清掃委託
　山田ダム公衆便所　施設清掃委託
　大池遊園公衆便所　施設清掃委託

②百合山緑化施設管理
　施設管理・仮設トイレ清掃管理・樹木等維持管理・散水委託

③細野渓流キャンプ場施設管理
　指定管理
　入場者数　7,263人

④きしべの里施設管理
　施設管理・清掃管理・雑草処理・植木保守委託

⑤市営大門橋駐車場施設管理
　施設管理委託
　利用台数　1,113台

⑥貴志川観光物産センター施設管理
　施設管理運営
　利用者数　49,692人

⑦桃山産業振興館施設管理
　施設管理運営
　利用者数　21,579人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市が管理する観光施設を快適に利用していただくために維持管理を行う事業であるため、市の事業実施は妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・施設利用者から施設利用に関する事故や怪我等の報告もなく、安全に利用されていることから事業は有効に実施できている。
・観光看板の設置個所、効率性について精査する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・トイレや植栽、駐車場など主として管理に関する業務は委託契約を行い、民間の能力を活用しサービスと満足度向上、コスト削減を目指す業務は指定管理の契約を行っていることから効率的な施設運営ができている。

事務事業の概要

事務事業名	土木管理事業	担当課	建設総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	717

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	1 土木管理費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 土木総務費	基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備	
		取組方針	9	その他	

事業概要：土木一般事務並びに法定外公共物を適正に管理する事業

事務事業を構成する細事業

①	土木総務管理	⑤		⑨	
②	地形図整備・管理・販売	⑥		⑩	
③	法定外公共物管理	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 法定外公共物許認可件数	件	目標						・法定外公共物施行承認件数 ・同占用許可申請 ・同用途廃止件数 ・公有財産使用（借用）件数
		実績	70	67	70			
＜指標の計算方法＞	法定外公共物許認可件数							
活動指標 白地図販売枚数	枚	目標						・紀の川市管内図販売数
		実績	64	57	53			
＜指標の計算方法＞	枚数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
634					18	616

事業の実績

①土木総務管理
・土木管理事業に関する総務
・管理に関する住民相談等

②地形図整備・管理・販売
・白地図販売枚数　53枚

③法定外公共物管理
・施行承認件数　24件
・占用許可件数　27件
・用途廃止件数　4件
・公有財産使用(借用)許可件数　15件

開発や個人住宅建築また電気通信線路維持に伴う法定許認可事務を行った。

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・法定外公共物の管理については、機能管理及び財産管理であるため妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・許認可申請を適切に処理出来ている。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・通年の業務状況を見極めて予算確保する。

事務事業の概要

事務事業名	道路管理事業	担当課	建設総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1047

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	1 土木管理費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 土木総務費	基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備	
		取組方針	1	道路・橋梁の適正な維持管理	

事業概要	市の道路が適正に機能するように、道路の認定・廃止に基づく道路台帳の整備や道路の占用管理等を行う、また市民による清掃活動を実施し、道路の愛護活動を通じて、道路の役割や重要性を改めて認識してもらう事業

事務事業を構成する細事業					
	① 許認可（占用管理・通行規制）	⑤ 道路管理	⑨		
	② 市道認定・廃止	⑥ 訴訟・事故・苦情対応	⑩		
	③ 道路美化・愛護	⑦	⑪		
	④ 道路台帳整備	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 許認可件数	件	目標						道路法等、法令に基づき適正に処理する。
		実績	286	258	304			
＜指標の計算方法＞	許認可件数							
活動指標 市道認定路線数	路線	目標						市道認定基準に基づき議会の議決を得る。
		実績	11	6	2			
＜指標の計算方法＞	市道認定路線数							
活動指標 道路一斉清掃参加人数	人	目標						国の示す道路愛護を認識してもらうために管内一斉清掃を市民ボランティアと実施している。
		実績		532	509			
＜指標の計算方法＞	道路一斉清掃参加人数							
活動指標 事故対応件数	件	目標	0	0	0	0	0	迅速かつ適正な判断のもと対応する。
		実績	4	3	2			
＜指標の計算方法＞	市道における事故対応件数（保険対応分）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
15,462						15,462

事業の実績

①許認可（占用管理・通行規制）
・占用許可件数　111件
・掘削許可件数　120件
・施行承認件数　69件
・幅員証明・通行協議　4件
　許認可件数　合計　304件
（通行手続き）
・特殊車両通行協議　214件

開発や個人住宅建築また電気通信路線維持に伴う法定許認可事務を行った。

②市道認定・廃止
・市道認定　2路線
・延長　1,038km　路線数　2,924路線

③道路美化・愛護
・道路清掃参加人数　509人

④道路台帳整備
・紀の川市道路台帳整備業務　4,169,000円

新設及び改良等により区域変更された道路について台帳整備並びにシステム更新を行った。

⑤道路管理
・道路パトロール(幹線道路)　月2回実施

主に2車線の主要幹線道路を定期パトロールし、道路を安全に通行できるよう管理・保全に努めた。

⑥訴訟・事故・苦情対応
・被害対応　25件・加害対応　2件

市道敷における事故対応や、市道敷に張り出している樹木の伐採等の依頼を行った。

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・市道の管理を行うことは妥当である。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・許認可申請を適切に処理出来ている。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・通年の状況を見極めて必要な予算を確保する。	

事務事業の概要

事務事業名	登記事業	担当課	建設総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	415

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土木費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	1 土木管理費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	2 土地登記費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備	
		取組方針	9	その他	

事業概要：登記異動した際のデータ修正としての図形異動及び市が取得した土地を市有名義として登記するために、所有権移転の手続きを行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	登記	⑤		⑨	
②	相続調査	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 地籍調査事業に基づく登記筆数	筆	目標						登記が完了したことにより市道等の境界が明確化し、所有権移転が円滑に実施できた。
		実績	29	31	14			
＜指標の計算方法＞	地籍調査完了地区における、道路・水路敷の所有権を市名義に移転登記した筆数							
活動指標 道路改良事業等に伴う登記筆数	筆	目標						道路の整備が進み、地域住民の利便性の向上に寄与することができた。
		実績	228	346	353			
＜指標の計算方法＞	道路事業等で所有権を市名義に移転登記した筆数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
19,817						19,817

事業の実績

①登記
・地籍調査事業に基づく登記筆数： 14筆
・道路改良事業等に伴う登記筆数：353筆

②相続調査
・道路改良事業に伴う所有者死亡による相続調査
・空き家対策事業における相続調査
・固定資産所有者の死亡による相続調査（随時）

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・公共事業に伴う用地買収に必要な手続きであり、妥当性がある。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・本事業は他部署からの依頼もあり、市の土地に関する事務事業において必要不可欠である。

効率性
評価結果：改善の余地がややある
・所有権移転登記業務を外注すれば、通常であれば件数も相当数あり多額の費用が発生するが、地籍調査事業が終結したことで業務量も減少していることから外注も検討の余地はある。

事務事業の概要

事務事業名	道路行政推進事業	担当課	建設総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1048

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	2 道路橋りょう費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 道路橋りょう総務費	基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備	
		取組方針	3	国道・県道の整備促進	

事業概要	市の計画的な道路行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業

事務事業を構成する細事業					
①	日本道路協会負担金	⑤	県国道連絡会負担金	⑨	
②	県高規格道路建設促進委員会負担金	⑥	県用地対策連絡協議会負担金	⑩	
③	県道路協会負担金	⑦	県建設技術協会負担金	⑪	
④	無電柱化を推進する市区町村長の会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 総会参加回数	回	目標	5	5	5	5	5	幹線道路等の整備促進のためには、各団体への活動及び総会への参画は必要である。
		実績	5	5	5			
＜指標の計算方法＞	総会参加回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,189					293	896

事業の実績

①日本道路協会負担金
・30,000円
国内外の道路の果たす多様な役割を通じて、国民生活に不可欠な道路政策のあり方を研究し、道路に関する知識の普及啓発に努め、道路及び交通の発達を推進し、もって公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。

②県高規格道路建設促進委員会負担金
・20,000円
近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、東海南海自動車道、紀伊半島縦貫道等の早期整備を図るため、国等への要望活動を実施し、事業促進に必要な啓発等、目的達成に必要な事業を行い、もって本県産業経済の発展に寄与することを目的とする。

③県道路協会負担金
・296,800円
(管内県道等整備による事業費割)
和歌山県の道路利用者の総意に基づき、道路整備を促進するとともに、道路交通の発展に寄与することを目的とする。

④無電柱化を推進する市区町村長の会負担金
・3,000円
政府や民間等との連携・協力を図り、無電柱化のより一層の推進を進めることを目的とする。

⑤県国道連絡会負担金
・23,000円
和歌山県内の地方道路の整備促進及びその適切な維持管理を支援することにより、快適な道路環境を実現し、住民の安全の確保、生活の安定向上を図ることを目的とする。

⑥県用地対策連絡協議会負担金
・22,500円
公共用地の取得に関し、会員相互間の連絡調整及び損失補償に関する調査研究等を行い、もって公共用地取得の適正化とその円滑な推進に寄与することを目的とする。

⑦県建設技術協会負担金
・79,200円
建設関係施策の確立を促進するため、建設技術関係者の技術水準の向上とその処遇改善を図り、もって建設技術の向上発展に資することを目的とする。

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は妥当である。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・道路の整備促進については実現に向けて継続的な要望活動は有効である。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・周辺自治体と共に要望活動を行うことで効率的に実施出来ている。	

事務事業の概要

事務事業名	国・県道整備促進事業	担当課	建設総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	714

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	2 道路橋りょう費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 道路橋りょう総務費	基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備	
		取組方針	3	国道・県道の整備促進	

事業概要	市が国道・県道の整備を促進するために、関連団体への整備要望や活動に参画する事業				
事務事業を構成する細事業	① 整備促進・要望活動	⑤		⑨	
	② 県京奈和自動車道建設促進協議会負担金	⑥		⑩	
	③ 県道整備期成同盟会補助金	⑦		⑪	
	④	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 整備促進・要望活動回数	回	目標	3	3	3	3	3	国道・県道の整備促進のためには、各団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。
		実績	3	3	3			
＜指標の計算方法＞	整備促進・要望活動回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
390						390

事業の実績

①整備促進・要望活動
京奈和自動車道、県道関係事業に関する要望活動の実施

②県京奈和自動車道建設促進協議会負担金
・49,000円
京奈和自動車道の延伸及び4車線化を目指す団体。

③県道整備期成同盟会補助金
地域の福祉を増進するために、生活の根幹である県道の整備要望活動及び改修協力に対する補助金。
・200,000円
県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会
野田原谷道路委員会

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・国・県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・国・県道整備については、実現に向けて継続的に要望活動を行うのは有効である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・周辺自治体と共に要望活動を行うことで効率的に実施出来ている。

事務事業の概要

事務事業名	京奈和関空連絡道路整備促進事業	担当課	京奈和関空連絡道路推進室	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	713

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	2 道路橋りょう費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 道路橋りょう総務費	基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備	
		取組方針	4	京奈和関空連絡道路の整備促進	

事業概要	市が京奈和関空連絡道路の早期事業化を目指すために、関係団体への要望活動及び事業認定を受けるための活動を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	整備促進・要望活動	⑤		⑨	
②	京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会負担金	⑥		⑩	
③	京奈和関空連絡道路調査業務委託	⑦		⑪	
④	京奈和関空連絡道路の集いin紀の川市	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 要望活動回数	回	目標	4	4	4	4	4	府県間を繋ぐ高規格道路である本道路の整備促進のためには、関係機関への要望活動は必要不可欠である。
		実績	4	4	4			
＜指標の計算方法＞	要望活動回数							
活動指標 総会開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	同盟会規則に基づき会員市町村首長並びに議長出席による総会を年１回開催する。
		実績	2	1	1			
＜指標の計算方法＞	総会開催回数							
活動指標 検討会開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	本道路の整備効果を検証する担当者会を年２回開催した。
		実績	1	1	2			
＜指標の計算方法＞	検討会開催回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
10,701						10,701

事業の実績

①整備促進・要望活動
・国会議員、国土交通省、近畿地方整備局、大阪府への要望活動を行った。

②京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会負担金
・負担金　149,875円
・総会（通常総会）
・啓発用物品作製(ポケットティッシュ作製)

③京奈和関空連絡道路調査業務委託
・調査業務委託費
　本市負担金　1,650,000円

調査業務内容について、国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所・大阪府・和歌山県・泉佐野市・紀の川市にて担当者会を開催した。

④京奈和関空連絡道路の集いin紀の川市
・開催委託料　7,249,231円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・地域活性化や災害対策として効果の高い京奈和関空連絡道路の早期実現のため、要望・啓発を市が実施することは妥当性がある。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・本道路構想実現に向けた要望活動は有効である。
・本道路構想実現に向けて、広報活動を継続する必要がある。
・本道路の整備効果検証を実施するには、専門知識を有するコンサルタントに委託することが適当である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・本道路構想実現に向け関係市町とともに要望活動を行うことで、効率的に実施できている。

事務事業の概要

事務事業名	市道等維持修繕事業	担当課	道路河川課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	92

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	2 道路橋りょう費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	2 道路橋りょう維持費	基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備	
		取組方針	1	道路・橋梁の適正な維持管理	

事業概要	市道利用者が安全快適に利用できるように、市道の適切な維持管理や修繕を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	市道維持修繕	⑤	道路付属施設管理	⑨	
②	融解作業委託	⑥		⑩	
③	道路管理清掃委託	⑦		⑪	
④	舗装メンテナンス	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 草刈清掃業務路線数	路線	目標						草刈業務については、継続的に実施している。
		実績	52	48	51			
＜指標の計算方法＞	年間草刈業務及び清掃委託路線数							
活動指標 要望による道路修繕箇所数	箇所	目標						緊急性の高いところから修繕を優先的に実施している。R5年度に発生した激甚災害の復旧事業がR6年度に完了したため、R7年度の要望対応件数は平時の規模に戻っている。
		実績	50	62	114			
＜指標の計算方法＞	地元要望による道路維持修繕箇所数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
375,043	37,681		140,500	84,000		112,862

事業の実績

①市道維持修繕
- 道路修繕　114箇所　198,134,970円
- 維持修繕　33箇所　7,998,936円
- 防草対策　1箇所　15,387,900円
- 舗装修繕　1箇所　26,972,000円

②融解作業委託
- ・融解作業
  - 8件32路線　5,343,580円

③道路管理清掃委託
- ・草刈清掃業務
  - 28件51路線　22,879,080円

④舗装メンテナンス
- ・工事（１路線）　51,773,700円

⑤道路付属施設管理
- ・道路灯修繕20件　1,034,825円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・委託と直営施工により市道の維持管理や修繕を行い、利用者が安全、安心に利用できるよう市が主体となり実施することは妥当といえる。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・市道の維持管理及び修繕をすることは、道路を安全に利用してもらうには有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・維持管理や簡易修繕は会計年度任用職員で直営施工し、また発注する修繕については、工法選定によりコスト縮減に努めることは効率的である。
・簡易的な修繕については、各支所で対応可能な範囲でお願いし作業効率の向上を図る必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	橋りょう維持修繕事業	担当課	道路河川課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	706

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	2 道路橋りょう費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	2 道路橋りょう維持費	基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備	
		取組方針	1	道路・橋梁の適正な維持管理	

事業概要	橋りょう利用者が橋りょうを安全に利用できるように、5年毎に点検を行い、その結果を基に修繕を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	橋りょう維持修繕	⑤		⑨	
②	調査業務	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 橋りょう点検箇所数	橋	目標	239	86	123	129	235	目標通り点検を実施している。管理橋梁は、806橋となっている。定期点検（回／5年）は、令和6年より三巡目の点検を実施している。
		実績	235	85	123			
＜指標の計算方法＞	計画による橋りょう点検箇所数							
活動指標 橋りょう点検進捗率	%	目標	100	11	26	42	71	目標通り点検を実施している。管理橋梁は、806橋となっている。定期点検（回／5年）は、令和6年より三巡目の点検を実施している。
		実績	100	11	26			
＜指標の計算方法＞	橋りょう点検に対する進捗率							
活動指標 橋りょう修繕件数	橋	目標	2	2	2	2	2	橋梁点検により早期の対応が必要な橋梁から補修を実施している。海神橋・名手川橋については、関係機関との協議に時間を要したため工事を繰越した。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	橋りょう点検に伴う修繕済み件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
77,800	33,728		31,700		297	12,075

事業の実績

【R6繰】
①橋りょう維持修繕
・補修工事(1橋)　31,223,600円
（八幡橋）
・境界地負担金(1橋)　5,901,217円
（星子橋）

【R7】
①橋りょう維持修繕
・設計業務(2橋) 8,670,200円
（小田井橋・桜池橋）

・補修工事(3橋) 15,515,000円
（海神橋・名手川橋・麻生津橋）

②調査業務
・橋梁定期点検(123橋) 16,465,900円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・橋梁個別施設計画に基づき橋梁の点検と修繕を計画的に進めることで橋梁を安全に利用できるように市が実施することは妥当といえる。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・橋梁個別施設計画に基づき橋梁の点検と修繕計画を計画的に進めることは橋梁の安全性確保に有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・橋梁の損傷を早期に発見し従来の対処療法的な維持管理から損傷が軽微な段階で予防的に対策を講じる予防保全型の維持管理を行うことで安全、安心を確保しつつライフサイクルコスト及び工法の検討によるコスト縮減を図る。

事務事業の概要

事務事業名	市道等改良事業	担当課	道路河川課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	689

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	2 道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	3 道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備
			取組方針	2	市道の整備・充実

事業概要	市道利用者の利便性、安全性の向上を図るために、市道の改良工事を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	市道改良	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 市道改良箇所数	箇所	目標						継続的に事業を実施している。R5年度に発生した激甚災害の復旧事業がR6年度に完了したため、R7年度の要望対応件数は平時の規模に戻っている。
		実績	12	14	25			
＜指標の計算方法＞	道路改良箇所数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
218,724	4,800		105,900			108,024

事業の実績

①市道改良
- 委託　15箇所　21,236,600円
- 工事　25箇所　165,814,000円
- 土地購入　12件　1,041,000円
- 補償　12件　21,387,020円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所は、利便性の向上を図る必要があり、市が事業主体になることは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所を改良することにより、利便性の向上を図っており有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・使用部材、工法選定を検討しコスト縮減に努め、より多くの工事に対応し少しでも道路の安全性、通行性を向上させる。

事務事業の概要

事務事業名	道路整備等補助事業	担当課	道路河川課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	694

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	8	土　木　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
	項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
	目	3	道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備
					取組方針	2	市道の整備・充実

事業概要	市民の住生活の改善を図るために、自治区の集落道や排水路の改修への補助を行う事業

事務事業を構成する細事業							
	①	道路整備等事業補助金	⑤		⑨		
	②	生活環境施設整備事業補助金	⑥		⑩		
	③		⑦		⑪		
	④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 補助金交付指令件数	件	目標						地元要望により毎年増減がある。
		実績	12	9	12			
＜指標の計算方法＞	地元要望に対する補助金件数							
活動指標 整備率	%	目標	100	100	100			要望に伴う整備工事については、目標通り実施、完成している。
		実績	100	100	100			
＜指標の計算方法＞	補助金交付に対する整備率							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,138						1,138

事業の実績

①道路整備等事業補助金
・補助金(補助率50%)　8件　942,500円

②生活環境施設整備事業補助金
・補助金(補助率50%)　4件　196,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市道以外の集落道路、集落排水については、地元（受益者）において機能管理している。住生活環境の向上を図るために市が工事費の一部を補助する事は妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・自治区が事業主体で、毎年度申請があることもあり住生活環境には有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・自治区が事業主体であり、コスト縮減に努め業務を効率的に進めるよう協議を行っている。

事務事業の概要

事務事業名	主要幹線道路整備事業	担当課	道路河川課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	696

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	2 道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	3 道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備
			取組方針	2	市道の整備・充実

事業概要	市道利用者の利便性の向上を図るために、市道（主要幹線道路）の整備、改良を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	市道東国分赤尾線	⑤		⑨	
②	市道丸85号線	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 市道東国分赤尾線道路整備率	%	目標			50	100		R4年度より事業に着手しており、工事はR7年度に着手した。用地交渉に時間を要し工事発注が遅れたため工事をR8年度へ繰越した。
		実績			37			
＜指標の計算方法＞	整備による進捗率							
活動指標 市道丸85号線道路整備率	%	目標			50	100		R4年度より事業に着手しており、工事はR7年度に着手した。用地交渉に時間を要し工事発注が遅れたため工事をR8年度へ繰越した。
		実績			23			
＜指標の計算方法＞	整備による進捗率							
活動指標	%	目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞	整備による進捗率							
活動指標	%	目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞	整備による進捗率							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
65,202	32,064		21,500		2,246	9,392

事業の実績

①市道東国分赤尾線
- 【R6繰】土地購入　1件　453,300円
  補償　1件　1,515,200円
- 【R7】　工事　2件　25,457,200円
  土地購入　1件　2,473,400円
  補償　2件　2,437,280円

②市道丸85号線
- 【R6繰】土地購入　18件　5,037,600円
- 【R7】　工事　2件　25,700,000円
  土地購入　3件　858,200円
  補償　2件　1,269,800円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・主要幹線市道を整備することにより利用者の利便性が大きく向上することから妥当といえる。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・主要幹線市道を整備するとともに歩道整備も視野に入れ計画することで歩行者の安全性が向上するため有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・コスト縮減に向けた部材、工法選定の検討が必要である。
・国の補助事業を活用し市の財政負担の軽減を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	交通安全施設整備事業	担当課	道路河川課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	94

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	8	土　木　費		政策目標	1	安全・安心
	項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	防災・防犯
	目	4	交通安全施設費		基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進
					取組方針	4	交通安全施設の整備

事業概要	市道利用者の安全確保を図るために交通安全施設の整備を行う事業

事務事業を構成する細事業							
①	交通安全施設整備	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 交通安全施設工事・修繕箇所数	箇所	目標						損傷の激しい箇所から随時修繕を実施している。
		実績	134	113	133			
＜指標の計算方法＞	交通安全施設の設置箇所数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
29,144						29,144

事業の実績

①交通安全施設整備
・工事、修繕　28,158,078円
　カーブミラー　88箇所
　防護柵　16箇所
　区画線　29箇所

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市道利用者の安全性を図るため交通安全施設の整備を市が実施することは妥当といえる。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・日常的な業務内での道路パトロールにより、施設の老朽化、損傷を早期に発見、修繕し安全性の向上を図ることは有効である。
・施設の損傷度、緊急度、地域性を基に整備することは有効といえる。
・全ての施設について、状態把握出来ないことから地区からの要望を受け確認施工することは有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・ミラー取替等、簡易な施工については、会計年度任用職員で施工することによりコスト縮減にもなり早急に対応できている。
・他の現場を確認する際に併せてパトロールを行うことにより、業務量の増大を抑制している。

事務事業の概要

事務事業名	国・県河川行政推進事業	担当課	建設総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	95

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	8 土　木　費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 項	3 河　川　費		基本施策	3	災害に強いまちの形成
予算科目 目	1 河川総務費		取組方針	1	治水・排水対策の推進

事業概要：計画的な河川行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業

事務事業を構成する細事業					
①	日本河川協会負担金	⑤	河川管理事務	⑨	
②	紀の川改修促進期成同盟会負担金	⑥		⑩	
③	紀の川水質汚濁防止連絡協議会	⑦		⑪	
④	河川愛護・美化保全	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 総会参加回数（和歌山県河川協会）	回	目標	1	1	1	1	1	河川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠であり、毎年参加している。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	総会参加回数（和歌山県河川協会）							
活動指標 総会参加回数（紀の川改修促進期成同盟会）	回	目標	1	1	1	1	1	紀の川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠であり、毎年参加している。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	総会参加回数（紀の川改修促進期成同盟会）							
活動指標 総会参加回数（紀の川水質汚濁防止連絡協議会）	回	目標	1	1	1	1	1	紀の川水質汚濁防止のためには、本団体総会への参画は必要不可欠であり、毎年参加している。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	総会参加回数（紀の川水質汚濁防止連絡協議会）							
活動指標 河川美化保全啓発	月	目標	1	1	1	1	1	国の示す河川愛護月間に、紀の川河川敷の河川美化保全の啓発を行った。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	河川美化保全啓発							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
372						372

事業の実績

①日本河川協会負担金
・321,000円
治水利水防災事業の促進を図ることを目的とする。

②紀の川改修促進期成同盟会負担金
・48,000円
紀の川改修の促進を期し、流域住民が洪水による災禍を永遠に被らないよう努めることを目的とする。

③紀の川水質汚濁防止連絡協議会
協議会内で水質汚濁による情報を共有することで早期対応を目的とする。

④河川愛護・美化保全
国の示す河川愛護月間に、紀の川河川敷の河川美化保全の啓発を行った。

⑤河川管理事務
・（許認可事務・法令に基づく規制等）

その他各種事業に関する協議・要望
・藤崎狭窄部対策事業に関する協議・調整
・麻生津無堤防地区に関する協議・調整
・貴志川浚渫要望
・海神川土砂埋め立てに関する協議・調整
・佐川改修事業に関する協議

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・総会等の参画に関しては、会員市としての責務であるため妥当である。
・市民の水辺環境の美化保全を啓発により考えてもらう。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・個別事業に関する要望や協議事案については、専門的知識を有する人材配置が有効である。
・河川美化保全の啓発を河川愛護月間に合わせることで、より多く市民の意識向上につながっている。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・国・県においては、河川整備計画に基づき事業を実施しているため効率性がある。
・費用的には河川美化保全の啓発であるため、過大費用でない事業である。

事務事業の概要

事務事業名	砂防行政推進事業	担当課	建設総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1050

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	3 河　川　費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	1 河川総務費	基本施策	3	災害に強いまちの形成	
		取組方針	2	土砂災害防止対策の推進	

事業概要	砂防行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業

事務事業を構成する細事業					
①	砂防行政事業	⑤		⑨	
②	全国治水砂防協会負担金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 総会参加回数	回	目標	1	1	1	1	1	土砂災害から市民の生命、財産を守るため、国や県と連携して防災機能の強化を図るため、総会等に参画した。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	総会参加回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
317						317

事業の実績

①砂防行政事業
全国治水砂防協会総会へ参加することで、治水・砂防施設の整備促進に向け関係省庁に対して要望活動を展開。

②全国治水砂防協会負担金
・317,000円
和歌山県が実施する管内砂防整備事業について負担金として負担するもの。
細野地区及び神通地区砂防事業地元調整を実施。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・治水砂防事業については、市民生活の安全性が向上されると見込まれるため妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・治水砂防事業に伴う協議等については、継続して専門的知識を有する職員の配置が有効である。
・治水砂防事業については、市民生活の安全性が向上するため有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・定められた負担額に基づくものなので改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	県営急傾斜地崩壊対策事業	担当課	建設総務課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1141

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	3 河　川　費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	1 河川総務費	基本施策	3	災害に強いまちの形成	
		取組方針	2	土砂災害防止対策の推進	

事業概要	急傾斜地崩壊対策として和歌山県が実施する事業に対し、市が費用を負担する事業

事務事業を構成する細事業					
①	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金	⑤		⑨	
②	災害緊急がけ崩れ対策事業負担金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率（寺垣内、小松原地区）	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険地として指定された地区の事業実施に伴う負担金2.5%を担う。（公共施設避難関連かつ大規模斜面）
		実績	2.5	2.5	2.5			
＜指標の計算方法＞	全体事業費×負担率							
活動指標 県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率（寺長、西脇地区）	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険地として指定された地区の事業実施に伴う負担金10%を担う。
		実績	10	10	10			
＜指標の計算方法＞	全体事業費×負担率							
活動指標 災害緊急がけ崩れ対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県災害緊急がけ崩れ危険地として指定された箇所の事業実施に伴う負担金10%を担う。令和6年度は被害無し。
		実績	10		10			
＜指標の計算方法＞	全体事業費×負担率							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
19,156			17,900			1,256

事業の実績

①県営急傾斜地崩壊対策事業負担金
・寺長地区（法面工）
　事業費　96,150,000円
　負担金　 9,615,000円(10%)
・寺垣内地区（法面工）
　事業費　81,601,000円
　負担金　 2,039,000円(2.5%)
・小松原地区（法面工）
　事業費　10,899,000円
　負担金　　272,000円(2.5%)
・西脇地区（法面工）
　事業費　69,300,000円
　負担金　 6,930,000円(10%)

②災害緊急がけ崩れ対策事業負担金
・上鞆渕地区（かご枠工）
　事業費　 3,000,000円
　負担金　　300,000円(10%)

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・和歌山県が急傾斜地崩壊危険地区及び災害緊急がけ崩れ危険箇所として指定した地区について、対策事業に対する負担金であり妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・和歌山県の計画に基づいた災害対策効果に結びついている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・定められた負担割合に基づくものなので改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	県営小規模土砂災害対策事業	担当課	建設総務課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1142

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土木費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	3 河川費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	1 河川総務費	基本施策	3	災害に強いまちの形成	
		取組方針	2	土砂災害防止対策の推進	

事業概要	小規模土砂災害対策として和歌山県が実施する事業に対し、市が費用を負担する事業

事務事業を構成する細事業					
①	県営小規模土砂災害対策事業負担金	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 県営小規模土砂災害対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県小規模土砂災害危険地として指定された箇所の事業実施に伴う負担金10%を担う。
		実績	10	10	10			
＜指標の計算方法＞	全体事業費×負担率							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
550						550

事業の実績

①県営小規模土砂災害対策事業負担金

・北山地区（法面工）
　事業費　3,850,000円
　負担金　　385,000円(10%)
・西脇地区（法面工）
　事業費　1,650,000円
　負担金　　165,000円(10%)

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・和歌山県が小規模土砂災害危険地として指定された箇所について、対策事業に対する負担金であり妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・和歌山県の計画に基づく災害対策効果に結びついている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・定められた負担割合に基づくものなので改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	河川管理保全事業	担当課	道路河川課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	687

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	3 河　川　費	施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	2 河川管理費	基本施策	3	災害に強いまちの形成
		取組方針	1	治水・排水対策の推進

事業概要：市が治水機能の維持と水辺環境の美化保全を図るために、河川、河川公園の維持管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	河川公園管理	⑤		⑨	
②	河川管理保全	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 河川維持管理件数	件	目標						2箇所の浚渫工事を実施した。 5箇所の改修工事を実施した。
		実績	2	3	7			
＜指標の計算方法＞	河川維持管理件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
17,537			13,600			3,937

事業の実績

①河川公園管理（河川公園）
・草刈清掃

②河川管理保全
・準用河川　浚渫（2河川）　1,281,280円
・普通河川　改修（5河川）14,713,270円
・物件補償（1河川）　233,687円

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・準用河川、普通河川を維持することは、河川の氾濫、浸水被害を未然に防ぐ目的から妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・堆積土の浚渫や河川構造物の修繕をすることは、治水上有効である。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・計画的に河川の浚渫や護岸補修を進める事でコストを最小限に抑えて維持管理ができている。

事務事業の概要

事務事業名	急傾斜地崩壊対策事業	担当課	道路河川課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	682

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	3 河　川　費	施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	2 河川管理費	基本施策	3	災害に強いまちの形成
		取組方針	2	土砂災害防止対策の推進

事業概要：市民の安全性を確保するために、急傾斜対策を行った施設の維持管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業					
① 急傾斜地管理（調月北部）	⑤		⑨	
②	⑥		⑩	
③	⑦		⑪	
④	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 急傾斜地の維持管理箇所数	箇所	目標	1	1	1	1	1	調月北部の急傾斜対策済箇所について維持管理を行っている。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	急傾斜地の維持管理箇所数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,244						2,244

事業の実績

①急傾斜地管理（調月北部）
・草刈業務　2,244,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・急傾斜対策済箇所の維持管理を市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・急傾斜対策済箇所の除草をすることで法面の状態を把握するには有効である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・急傾斜対策済箇所の除草を民間委託することで法面を効率的に管理している。

事務事業の概要

事務事業名	都市計画推進事業	担当課	都市計画課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	681

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	4 都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	1 都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備
			取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進

事業概要	計画的な土地利用と都市基盤の整備を図るため、計画の策定・推進や都市計画審議会の運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 都市計画審議会運営	⑤ 屋外広告物管理	⑨		
	② 全国都市計画協会負担金	⑥ 都市計画マスタープラン更新	⑩		
	③ 全国都市計画街路事業促進協議会負担金	⑦	⑪		
	④ 県都市計画協会負担金	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 都市計画審議会開催件数	件	目標						都市計画審議会開催件数は、計画案件の有無により変動する。
		実績	1	1	2			
＜指標の計算方法＞ 都市計画審議会開催件数								
成果指標 屋外広告物の更新率	%	目標	80	100	100	100	100	郵送で更新依頼し、申請が来なかった者に対して、電話等で再度更新手続きを依頼し、更新率100%を維持できた。
		実績	94.4	100	100			
＜指標の計算方法＞ 更新した件数÷更新予定件数（除却件数は除く）								
活動指標 都市計画マスタープラン策定委員会開催回数	回	目標		2	3			令和8年9月からの都市計画マスタープラン改定に向けて、進捗に合わせて策定委員会を開催した。
		実績		2	2			
＜指標の計算方法＞ 当該年度中に策定委員会を開催した回数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
20,275					1,007	19,268

事業の実績

①都市計画審議会運営
令和7年8月28日
【報告事項】
・桃源郷運動公園再整備基本計画について

令和7年10月7日
【審議事項】
・一般廃棄物処理施設の用途に供する敷地の位置について
【報告事項】
・特定都市河川の指定について

②全国都市計画協会負担金
・全国都市計画協会事業費を負担した。

③全国都市計画街路事業促進協議会負担金
・全国都市計画街路事業促進協議会事業費を負担した。

④県都市計画協会負担金
・和歌山県都市計画協会事業費を負担した。
・研修支援制度を活用し、1名が研修受講した。（国土交通大学　R7.8.25～R7.9.5）

⑤屋外広告物管理
・屋外広告物許可申請
　新規　17件　更新　54件　変更4件
・違反広告物の簡易撤去　30件
・パトロールを実施

⑥都市計画マスタープラン更新
・都市計画マスタープラン策定委員会
　委員　18名
　開催回数　2回
・都市計画マスタープラン検討委員会
　委員　17名
　開催回数　4回

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・都市計画法によって市は都市計画マスタープランを策定するなど主体的な役割を担うことが定められている。
・都市の良好な景観を維持するため、市が屋外広告物を管理することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・都市計画の案件に対して、適宜、都市計画審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取することで、都市の健全な発展と秩序ある整備を図ることができている。
・屋外広告物の許可申請書の審査や違反広告物のパトロールを行うことにより、良好な景観を守っている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・屋外広告物の許可の更新依頼を郵送で行うことにより、問合せや相談に要する時間が短縮できている。
・都市計画マスタープラン策定委員会は大学教授をはじめとする学識経験者や各種団体の代表者など、高い専門性を有する有識者によって構成され、円滑かつ効果的な運営を行っている。

事務事業の概要

事務事業名	開発指導事業	担当課	都市計画課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	677

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	4 都市計画費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 都市計画総務費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備	
		取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進	

事業概要	市民に住みよいまちを提供するために、開発事業者に適正な開発指導を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	開発計画審議会運営	⑤		⑨	
②	開発指導	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 無届開発摘発件数	件	目標	0	0	0	0	0	令和7年度も摘発案件はなかった。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	無届開発摘発件数							
活動指標 開発計画審議会開催件数	件	目標						開発許可案件数に応じて開催し、令和7年度は1回の開催であり、令和6年度より1回減少した。
		実績	2	2	1			
＜指標の計算方法＞	開発計画審議会開催件数							
成果指標 開発許可件数	件	目標						令和7年度の開発許可件数は1件であり、令和6年度より1件減少した。
		実績	2	2	1			
＜指標の計算方法＞	開発許可の件数							
成果指標 開発指導要綱協議協定件数	件	目標						令和7年度の開発指導要綱協議協定件数は11件であり、令和6年度より5件減少した。
		実績	16	16	11			
＜指標の計算方法＞	開発指導要綱協議協定の件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
80					80	

事業の実績

①開発計画審議会運営
　委員　11名
　開催回数　1回

②開発指導
・都市計画法及び紀の川市開発指導要綱等の関係法令に基づき、住宅地等の適正な開発指導を行った。

　開発許可(3000㎡以上)　1件
　(貸工場　1件(打田地区))

　開発指導要綱協議　11件
　(3000㎡未満　10件、3000㎡以上　1件)
　(分譲住宅　6件(打田地区　5件、
　　桃山地区　1件)、
　工場　1件(桃山地区)、
　駐車場　2件(貴志川地区)、
　貸施設(社会福祉施設)　1件(桃山地区)、
　事務所・倉庫　1件(貴志川地区))

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・無秩序な開発事業を防止し、適正な住宅地等の開発の指導を行うことが法令上定められている。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・開発許可申請に対して、地域特性に通ずる委員で構成された開発計画審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・法令に基づき、適正に業務を処理しており、市が直接行うことで不必要な費用の発生を抑えている状態であり、コスト削減の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	都市施設管理運営事業	担当課	都市計画課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	680

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	8	土　木　費		政策目標	4	都市基盤・生活環境
	項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
	目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備
					取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進

事業概要	市民が都市施設（JR粉河駅南広場及び南北連絡地下道）を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業						
①	JR粉河駅周辺都市施設管理	⑤		⑨		
②		⑥		⑩		
③		⑦		⑪		
④		⑧		⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 管理不十分による問い合わせ件数	件	目標	0	0	0	0	0	問い合わせ等なく、適切な管理が行えているものと判断します。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	問い合わせ件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,150						2,150

事業の実績

①JR粉河駅周辺都市施設管理
・年間を通し、植栽の手入れを行った。
・毎週月曜日と木曜日にトイレの日常管理を行った。
・月に１回程度、職員による定期巡回を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・JR粉河駅南広場及び南北連絡地下道は、駅利用者等に必要な施設であり、市が適正に維持管理を行う必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・市が適正に維持管理を行うことで、利用者の安全確保・快適性の向上及び景観の維持につながっている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・粉河駅南の植栽管理や、トイレの日常管理を民間委託している。

事務事業の概要

事務事業名	被災建築物・宅地危険度判定事業	担当課	都市計画課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	676

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	4 都市計画費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 都市計画総務費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備	
		取組方針	9	その他	

事業概要	迅速な災害復旧を図るとともに、市民に被災後の安全・安心な暮らしを提供するため、被災建築物や被災宅地の危険度判定を円滑に行なう事業

事務事業を構成する細事業					
①	判定士研修・育成	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	地震被災建築物応急危険度判定士認定講習会参加者数	人	目標	2	2	2	2	2	目標を達成できた。
			実績	1	1	2			
	＜指標の計算方法＞	認定講習会の参加者のうち市役所職員の人数							
成果指標	地震被災建築物応急危険度判定士登録者数	人	目標	90	90	90	90	90	前年度と同じ登録者を確保した。
			実績	90	87	87			
	＜指標の計算方法＞	判定士登録者のうち市役所職員の人数							
活動指標	被災宅地危険度判定士認定講習会参加者数	人	目標	2	2	2	2	2	資格要件を満たした者から順次依頼しているが、令和7年度は、該当者なし。
			実績	0	0	0			
	＜指標の計算方法＞	認定講習会の参加者のうち市役所職員の人数							
成果指標	被災宅地危険度判定士登録者数	人	目標	52	50	50	50	50	退職に伴い登録人数は減少した。
			実績	52	50	49			
	＜指標の計算方法＞	判定士登録者のうち市役所職員の人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
108						108

事業の実績

①判定士研修・育成
・地震被災建築物応急危険度判定士認定講習会（和歌山市）に2名参加。

・被災宅地危険度判定士養成講習会資格要件を満たしている者がないため参加者なし。

・近畿被災建築物応急危険度判定協議会研修会（三重県松阪市）に2名参加。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・判定士の登録者数を増やすことは、大規模災害時に迅速な判定活動を行うことにつながるため、市が判定士を育成することの必要性は高い。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・近年、被災宅地危険度判定士の受講資格を満たしている者がなく、新規登録者が増えていない。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・登録者数を確保していくため、県が実施する判定士養成講習会への参加に必要な予算を計上している。
・応急危険度判定に使用する事務用品や機材について、不足を補充する予算を計上している。

事務事業の概要

事務事業名	都市公園管理運営事業	担当課	都市計画課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	101

会計			一般会計
予算科目	款	8	土　木　費
	項	4	都市計画費
	目	2	都市公園費

長期総合計画体系			
政策目標	4	都市基盤・生活環境
施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備
取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進

事業概要	市民が都市公園を安全で快適に利用できるように、都市公園の適切な維持管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	西井阪公園（南児童公園）施設管理	⑤	王子公園施設管理	⑨	
②	東国分公園（中児童公園）施設管理	⑥	名手公園施設管理	⑩	
③	古和田公園（北児童公園）施設管理	⑦	粉河河南緑地公園施設管理	⑪	
④	秋葉山公園施設管理	⑧	平池緑地公園施設管理	⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 遊具等の定期点検実施回数	回	目標	2	2	2	2	2	職員により遊具等の定期点検を実施した。
		実績	2	2	2			
＜指標の計算方法＞	職員による遊具等の定期点検を実施した回数							
成果指標 管理不足での事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	遊具の安全点検等の安全面を重視した管理を行った結果、事故なく管理できた。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	年間事故件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
20,511					9	20,502

事業の実績

①～⑧各公園施設管理
・施設、器具の点検を行った。
・植栽、トイレ等の日常管理を行った。
・公園の定期点検を実施した。
②東国分公園（中児童公園）施設管理
・複合遊具（1基）の撤去を行った。
・ベンチ座面（2脚）の修繕を行った。
③古和田公園（北児童公園）施設管理
・トイレに1箇所、洋式便器を設置した。
④秋葉山公園施設管理
・ローラーすべり台のローラーが劣化していたため、交換を行った。
・倒木の危険性のある木の伐採を行った。
⑤王子公園施設管理
・倒木の危険性のある木の伐採を行った。
⑧平池緑地公園施設管理
・健康遊具（2基）の設置を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・レクリエーション、災害時の避難、環境の保全及び景観の向上のための公共空地として、市が公園・緑地を整備・維持管理することは適切である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・自治会や地域の団体に、維持管理を委託することによって、より住民ニーズに合った事業内容にすることができている。
・公園の遊具等の定期点検を職員用スマホで記録できるよう改善した。
・市職員による目視を中心とした定期点検だけでなく、より安全性を担保するため、専門技術者による定期点検もあわせて実施していけるようにする必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・自治会や地域の団体、シルバー人材センターに維持管理を委託することによって、コストを削減できている。

事務事業の概要

事務事業名	都市公園活性化事業	担当課	都市計画課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	837

会計			一般会計
予算科目	款	8	土　木　費
	項	4	都市計画費
	目	2	都市公園費

長期総合計画体系			
政策目標	4	都市基盤・生活環境
施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備
取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進

事業概要	市民の都市公園利用の促進を図るために、都市公園でイベント開催等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	貴志川イルミネーション	⑤		⑨	
②	大賀ハス観蓮会	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 イベント開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	天候に恵まれ、目標通り達成できた。
		実績	1	1	2			
＜指標の計算方法＞	イベント開催回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
795						795

事業の実績

①貴志川イルミネーション
・貴志川イルミネーション実行委員会に補助金を支出し、イベントの開催を支援した。
開催期間　令和7年12月6日
～令和8年1月30日

②大賀ハス観蓮会
・天候に恵まれ、6月29日に6年ぶりに大賀ハス観蓮会を実施でき、約250人の来場者があった。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・都市公園は、幅広い年齢層の人たちが自然とふれあい、レクリエーション活動や文化活動などを行う多様な活動拠点となっており、さらなる利用を促進する必要があるため、市が主体となるべき事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・イベントが開催されることにより、普段はあまり公園を利用しない市民が公園に足を運ぶきっかけとなっている。
・イベント主催団体の高齢化に伴い、市の支援方法やイベントの実施方法について、検討をしていく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・実施主体となっている団体への補助等については、必要最小限の費用支出であり効率性は高いものと考える。

事務事業の概要

事務事業名	運動公園管理運営事業	担当課	生涯スポーツ課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	873

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 都市計画費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	3 運動公園費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実
			取組方針	3	スポーツ施設の充実と適切な管理

事業概要	市民が運動公園施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 桃源郷運動公園陸上競技場施設管理	⑤ 市民公園(打田若もの広場)施設管理	⑨ 市民公園（トレーニングルーム）施設管理
	② 愛宕池公園施設管理	⑥ 市民公園(市民プール)施設管理	⑩
	③ 粉河運動場施設管理	⑦ 市民公園(テニスコート)施設管理	⑪
	④ 市民公園(市民体育館)施設管理	⑧ 市民公園（ゲートボール場）施設管理	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 年間利用者数	人	目標	198,000	198,000	198,000	198,000	198,000	主に市民公園や粉河運動場で利用者数が増加しており、市民等がスポーツに触れる機会や活動の場が増加している。ゲートボール場など利用がない施設については、主な利用者であるシニア層のライフスタイルの変化や他競技への移行が原因と考えられる。
		実績	223,664	260,007	301,996			
＜指標の計算方法＞	運動公園施設全体の年間利用者数							
成果指標 施設使用料	円	目標	3,500,000	3,500,000	3,500,000	3,500,000	3,500,000	主に桃源郷運動公園における利用者数減少に伴い、施設使用料収入が減少している。
		実績	3,054,335	3,215,320	2,797,200			
＜指標の計算方法＞	運動公園施設の使用料							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
190,668			23,100		20,398	147,170

事業の実績

施設利用状況

①桃源郷運動公園陸上競技場施設管理
・サッカー　105件　9,407人
・陸上　120件　6,284人
・その他　30件　739人

②愛宕池公園施設管理
・多目的グラウンド　40件　1,979人
・テニスコート　0件　0人
・ゲートボール場　0件　0人

③粉河運動場施設管理
・野球場　133件　5,087人
・ソフトボール場　168件　6,671人
・多目的広場　160件　6,405人
・テニスコート　443件　3,696人

④市民公園(市民体育館)施設管理
3,089件　102,567人

⑤市民公園(多目的(打田若もの)広場)施設管理
585件　90,843人

⑥市民公園(市民プール)施設管理
8,933人

⑦市民公園(テニスコート)施設管理
2,883件　33,297人

⑧市民公園(ゲートボール場)施設管理
0件　0人

⑨市民公園(トレーニングルーム)施設管理
26,088人

※④～⑨はR4.4.1から指定管理者による施設の管理・運営を実施
指定管理分利用者数：261,728人

指定管理分使用料収入：10,538,040円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・多くの市民等が利用する施設であるため、備品や設備等の充実を図るなど環境を整えたうえで適正な管理が必要である。
・市民公園施設を指定管理者による管理運営を実施している。他の施設についても、利用者数の増加と運営効率の観点から、民間活力の導入を検討していく必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

安全に快適に利用できる施設を目指し、市民ニーズを的確に把握していく必要がある。また、年間を通して利用がない施設については、別の用途への転換などを検討する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・市民公園施設を指定管理者による管理運営を実施している。他の施設についても、利用者数の増加と運営効率の観点から、民間活力の導入を検討していく必要がある。
・施設使用料の減免にかかる市の統一基準を精査し、運用に向けた庁内での調整が必要である。

事務事業の概要

事務事業名	市営住宅施設管理事業	担当課	住宅政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	655

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	5 住　宅　費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 住　宅　費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備	
		取組方針	9	その他	

事業概要	市営住宅入居者が快適に市営住宅を利用できるように、施設管理や入居者管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	市営住宅施設管理	⑤		⑨	
②	入居者管理	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 修繕戸数	戸	目標						修繕については、入居者からの連絡により受動的に対応することが多いので、目標設定するにはそぐわない。
		実績	116	108	83			
＜指標の計算方法＞	修繕戸数							
活動指標 公募による入居戸数	戸	目標	7	6	11	10		11戸を公募し、2戸に入居者が入った。目標値と比較し少ない結果となった。令和8年度以降については、入居状況により変動するため未定。
		実績	4	1	2			
＜指標の計算方法＞	公募戸数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
18,108					18,078	30

事業の実績

①市営住宅施設管理
・適切な施設の維持管理を行い、不具合等については修繕対応を行った。

修繕箇所　83件実施

②入居者管理
・11戸の公募を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市営住宅に対するニーズは少なからずある。住宅に困窮している低額所得者のためのものであり、修繕していくことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・一定数の公募をする必要はあると思われるが、住宅に困窮している低額所得者のための住宅確保が目的であるため、必ずしも入居者が増えることが有効性を示すものではない。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・施設管理の一部に関して、業務分担や委託するなど検討の余地はある。

事務事業の概要

事務事業名	市営住宅改修事業	担当課	住宅政策課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	654

会計			一般会計
予算科目	款	8	土　木　費
	項	5	住　宅　費
	目	1	住　宅　費

長期総合計画体系			
政策目標	4	都市基盤・生活環境
施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備
取組方針	9	その他

事業概要	市営住宅入居者が市営住宅で安全、安心に生活できるように、耐震診断や改修を行う事業 ※社会資本金整備総合交付金対象事業（国庫補助事業）

事務事業を構成する細事業							
①	改修	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	長寿命化改修	棟	目標	10	6	2	0	0	長寿命化計画を基に、中野井公営住宅２棟10戸について、屋根、ベランダ等の防水改修及び外壁改修。
			実績	10	6	2			
	＜指標の計算方法＞	改修棟数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
31,712	13,633		18,000			79

事業の実績

①改修
・中野井公営住宅2棟10戸分の屋根、ベランダ等の防水改修及び外壁改修した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市営住宅の長寿命化を図る事業であり、市が実施主体となり継続的に進めることが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・市営住宅の改修や修繕について、専門部署からの助言・応援体制がなされているが、担当部署に建築の知識などを有する職員を配置することで正確且つ迅速に対応できる。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・市営住宅の整備は一定水準以上の品質を有する必要があり、建築の知識などがある専門職員を配置することで、経費削減を図ることができる。

事務事業の概要

事務事業名	住宅用地管理運営事業	担当課	住宅政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	419

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	1	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	5 住　宅　費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 住　宅　費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備	
		取組方針	9	その他	

事業概要：旧町において販売した住宅用地にかかる債権の管理・徴収を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	住宅用地管理	⑤		⑨	
②	徴収	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 売買金の徴収金額	円	目標	1,030,000	630,000	360,000	380,000	380,000	目標を達成するため、返済に滞りがないよう随時交渉を進めている。
		実績	980,000	630,000	380,000			
＜指標の計算方法＞	個別の徴収金額の積上げ							
成果指標 売買金の残額	円	目標	12,821,000	12,241,000	11,881,000	11,481,000	11,101,000	随時契約者を訪問し、生活状況を調査、増額などの納付交渉をしている。
		実績	12,871,000	12,241,000	11,861,000			
＜指標の計算方法＞	個別の残額の積上げ							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績

①住宅用地管理
・契約金額完済の該当なし。

②徴収
・契約金未納6件の内、4名から集金。

1．　50,000円
2．　60,000円
3．240,000円
4．　30,000円
計　380,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

同和対策事業に関連して立ち退きを余儀なくされた地権者への土地販売であることから妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

契約者の死亡や交渉不調によって解決困難な懸案も残っているが、適正な解決及び事業終了に向けて方策を立てることが有効である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

費用の大半が人件費となっているので、早期に事業を終了させることが一番の費用削減になるが、内部事情に精通している人員を配置することは適正である。

事務事業の概要

事務事業名	市営住宅使用料等徴収事業	担当課	住宅政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	657

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	5 住　宅　費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 住　宅　費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備	
		取組方針	2	市営住宅の長寿命化の推進	

事業概要：市営住宅入居者の公平性を確保し、市営住宅の適正管理を行うために、住宅使用料の適正な徴収を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	住宅管理指導員設置	⑤		⑨	
②	徴収	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 市営住宅（現年）収納金額	千円	目標	3,644	3,453	3,636	3,636	3,636	新たな滞納をつくらないように指導する。
		実績	3,498	3,397	3,290			
＜指標の計算方法＞	実績を元に計算							
活動指標 市営住宅（過年）収納金額	千円	目標	156	174	228	228	228	新たな滞納をつくらないように指導し、滞納額は分納計画などにより納付してもらう。
		実績	173	242	129			
＜指標の計算方法＞	実績を元に計算							
活動指標 改良住宅（現年）収納金額	千円	目標	23,532	24,195	25,138	25,138	25,138	新たな滞納をつくらないように指導する。
		実績	23,428	24,132	23,392			
＜指標の計算方法＞	実績を元に計算							
活動指標 改良住宅（過年）収納金額	千円	目標	1,930	1,248	459	459	459	新たな滞納をつくらないように指導し、滞納分は分納計画などにより納付してもらう。
		実績	1,239	470	319			
＜指標の計算方法＞	実績を元に計算							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,129						5,129

事業の実績

①住宅管理指導員設置
・住宅管理指導員１名を配置して、助言をもらった。
②徴収
・駐車場使用料　　1,503,000円
・市営住宅使用料　3,418,800円
・改良住宅使用料 23,710,600円
を徴収しました。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

公営住宅法に則り、住宅に困窮している低額所得者に住宅を提供しているため妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

他の料金を徴収している部署と連携を取ることで有効性を高めることも可能である。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

入居者の大半が低額所得者で、収入状況の変化による相談が多いことから、コストを最小限に抑えて運営しており、市が実施することが適正ではあるが、滞納整理や徴収業務に関して委託も視野に入れる余地はある。

事務事業の概要

事務事業名	建築指導事業	担当課	住宅政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1070

会計	一般会計	長期総合計画体系		
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	5 住　宅　費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	1 住　宅　費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備
		取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進

事業概要	市民に無秩序な建築等が防止された住みよいまちに居住してもらうために、市民（施工事業者）からの建築確認申請等の審査や受付を行なう事業

事務事業を構成する細事業					
①	建築確認審査	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 建築確認申請経由進達	件	目標						建築確認申請の審査を的確に行うことで、速やかに経由進達が出来た。民間検査機関へ申請が普及してきたため当市への経由進達数が減少しているとともに、受動的な業務であるため、目標設定することはそぐわない。
		実績	23	15	12			
＜指標の計算方法＞	経由進達件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,766						3,766

事業の実績

①建築確認審査
・建築確認申請等が紀の川市の各種規制に適合しているか審査して、建築主事に経由進達した。

経由進達数12件

また、進達と同等事務内容の民間検査機関からの照会書についても当市の各種規制に適合しているか審査して回答した。

照会書回答206件

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・建築確認申請内容が、紀の川市各種規制に適合しているか審査し、建築主事に進達する事業である。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・建築主事を補うため、紀の川市各種規制の情報を提供している。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・建築主事を補うため、紀の川市各種規制の情報を提供している。	

事務事業の概要

事務事業名	住宅耐震化促進事業	担当課	住宅政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	673

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	5 住　宅　費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	1 住　宅　費	基本施策	3	災害に強いまちの形成	
		取組方針	4	住宅耐震化の促進	

事業概要	市民が耐震基準の満たされた住宅に居住できるように、耐震基準を満たさない民間住宅の耐震化の促進と診断、改修に対する補助を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	木造住宅耐震診断事業	⑤		⑨	
②	住宅耐震改修事業補助金交付事業	⑥		⑩	
③	耐震化促進啓発	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標	木造住宅耐震診断件数	件	目標	60	60	60	60	60	当初の目標通りの申込件数があった一方で令和6年度に比べ、申込件数が減少したことから市民の住宅耐震化への関心が低下しているといえる。市民生活の安全のためにも平時から住宅耐震化の必要性について啓発強化に務める必要がある。
			実績	39	82	60			
	＜指標の計算方法＞	件数							
成果指標	住宅耐震改修事業費補助	件	目標	20	20	20	20	20	令和6年度の耐震診断件数増加の影響もあり、住宅耐震改修事業補助件数が増加した。耐震診断から耐震改修への導線を強化し、引き続き耐震化への普及啓発強化に努める。
			実績	10	10	18			
	＜指標の計算方法＞	補助件数							
活動指標	戸別訪問	件	目標	350	350	350	350	350	令和7年度については、対象地域を絞り、事前準備を行ったことで令和6年度に比べ、訪問戸数が増加した。今後も県や建築士会との連携を強化しながら住宅耐震化の必要性についての啓発強化に務める。
			実績	110	61	305			
	＜指標の計算方法＞	訪問戸数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
25,890	8,883	7,308				9,699

事業の実績

①木造住宅耐震診断事業
・県建築士会への委託により、診断士を派遣して、申請者に診断結果を報告した。

②住宅耐震改修事業補助金交付事業
・耐震補強設計、耐震改修工事の補助金を交付した。

③耐震化促進啓発
・県、県建築士会と連携し戸別訪問及び広報による啓発を実施した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地震発生時における住宅の倒壊等の被害を未然防止することで、市民の安全・安心した生活に繋げることができることから、市が実施主体となり継続的に進めることが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・補助制度を活用した耐震診断、耐震改修を行うことで、耐震化が図られていることは有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・国・県の交付金や補助金を活用しての事業実施であることから効率性はある。
会計年度任用職員による訪問啓発、技術職員による検査対応ができている。

事務事業の概要

事務事業名	空家等対策事業	担当課	住宅政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	678

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	5 住　宅　費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 住　宅　費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備	
		取組方針	3	空き家対策の推進	

事業概要：空家の倒壊による事故を防ぎ、景観、環境面の保全を図るために、空家所有者に空家の適正管理等を促す事業

事務事業を構成する細事業					
①	空家等対策協議会運営	⑤		⑨	
②	空家等指導	⑥		⑩	
③	特別措置法に基づく措置	⑦		⑪	
④	不良空家等除去補助金交付事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 空家除却件数	戸	目標	1	1	1	1	1	除却にかかわらず、適切な管理に努める助言・指導を行う。建材の飛散防止などの対応がされている場合もある。
		実績	2	0	0			
＜指標の計算方法＞ 危険性の高い空家等の除却件数								
活動指標 特別措置法に基づく指導件数	件	目標	5	3	3	3	3	特定空家の所有者に対して、特別措置法に基づく段階的な指導を行う。 助言・指導３件
		実績	5	3	3			
＜指標の計算方法＞ 指導等の件数								
成果指標 不良空家等除却件数	戸	目標	0	10	10	10	10	不良空家等除却補助金交付事業を実施。９件の空き家が認定調査を経て、不良空家等に認定され、所有者（権利者含む）からの申請により除却された。
		実績	0	8	9			
＜指標の計算方法＞ 不良空家に認定された危険性の高い空き家の除却件数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
12,483	3,890					8,593

事業の実績

①空家等対策協議会運営
・協議会において、特定空家所有者に対する指導状況及び不良空家等除却補助金交付事業に伴う実績件数において報告を行った。

②空家等指導
・空家等の所有者に対し、対策や除却などの対応をとるように助言・指導を行った。

③特別措置法に基づく措置
・特定空家の所有者に対して、法に基づく「助言・指導」を行った。

④不良空家等除去補助金交付事業
・不良空家に認定された空き家に対して、補助金を交付した。

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・特別措置法に基づく措置等、市が実施主体になることが妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・市からの助言で対応に至ることもあるので、行政からの助言・指導は有効な手段である。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・コスト削減の余地がない。

事務事業の概要

事務事業名	住宅新築資金等貸付事業	担当課	住宅政策課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1217

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境	
予算科目 項	5 住　宅　費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通	
予算科目 目	1 住　宅　費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備	
		取組方針	9	その他	

事業概要	歴史的・社会的理由によって、生活環境等の安定向上が阻害されている地域の住環境改善対策の一環として、住宅の改修や住宅新築促進のため、国の施策に基づき市が貸し付けた資金の収納事務を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	住宅新築資金等貸付	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 住宅新築資金等貸付収納率	%	目標	3	3	2	2	2	残債については債務者の事情により納付が困難であり、債務者との交渉及び債務者の特定などの債権整理が必要な状態である。
		実績	2.45	3.22	1.9			
＜指標の計算方法＞	収納額÷調定額×100							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,870		362				4,508

事業の実績

①住宅新築資金等貸付
※令和3年度まで住宅新築資金等貸付事業特別会計で実施してきた事業であるが、令和4年度より一般会計で事業を実施している。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・当該事業は、市町村の負担を軽減し貸付事業の円滑な実施を目的として国と県が財政的な助成を行う制度であり、昭和42年度から住宅改修資金貸付事業、昭和48年度に宅地取得事業、昭和49年度に住宅新築資金貸付事業が創設され、旧町（那賀町・桃山町・打田町）での貸付事業が運営されて個人への貸付償還事務がされていた。平成17年度の市町村合併後、引続き債権が残ている個人に対して回収が続いており、事業を引続き実施することは妥当性がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・適正に債権を管理、回収していく必要があるため、当該事業の有効性は高いが、債権回収に係る事務には高い知識や債権者の状況及び事業内容の熟知が必要であるため、債権管理専門員を含めた職員のスキルアップなどにより有効性を高める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・事務経験や知識が豊富な会計年度任用職員の派遣を行うことで、円滑な納付交渉を実現している。
・今後は、回収困難な債権を整理するため、県や国の補助金を最大限活用しながら、債権管理に努めていく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	市営住宅整備事業	担当課	住宅政策課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 3 ～ R10）	事業番号	1165

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	8 土　木　費	政策目標	4	都市基盤・生活環境
予算科目 項	5 住　宅　費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通
予算科目 目	2 住宅建設費	基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備
		取組方針	2	市営住宅の長寿命化の推進

事業概要	耐用年数が過ぎ、耐震基準に適合していない市営住宅については、入居者の安全性が確保できないため市営住宅の建替えを行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	市営住宅整備	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 市営住宅建設設計業務契約件数	件	目標	1					市営住宅建設 令和5年度　設計 令和6年度　工事着工から、補正後工事着工へ変更 令和7年度　工事完了から、工事中へ変更 令和8年度　工事完了
		実績	1					
＜指標の計算方法＞	市営住宅建設設計業務契約件数							
活動指標 市営住宅建設工事の進捗率	%	目標	0	10	38.8	100	0	令和7年度工事進捗率目標38.8%に対して、実績値下方修正により請負工事費の一部繰越措置実施。令和8年度には目標実績を達成予定。
		実績	0	0	24.6			
＜指標の計算方法＞	市営住宅建設工事の出来高率							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
259,126	105,982		146,400			6,744

事業の実績

①市営住宅整備
・市営住宅建設工事工事請負
契約金額：1,537,800,000円

令和6年度　出来高　0%
令和7年度　出来高　24.6%

・市営住宅建設工事に伴う附帯工事等
契約金額：13,274,250円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市営住宅建設は、耐震性のない住宅の建替えであり、入居者の安全性を確保することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・耐震性のない市営住宅を整備することにより、入居者が住み替えることで安全性が上がることから有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・市営住宅を集約することにより維持管理業務の効率化及び建築の知識などがある専門職員を配置することで経費削減を図ることができる。

事務事業の概要

事務事業名	危機管理対策事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	946

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	9 消　防　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 消　防　費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	1 消防総務費		基本施策	1	地域防災力の向上
			取組方針	3	行政の防災対応力の強化

事業概要	市の危機発生時における防災力の強化につなげるために、市民、職員、協力機関が災害に備えて防災体制の整備を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 防災会議運営	⑤ 災害時応援協定	⑨		
	② 国民保護協議会運営	⑥ 職員防災力強化	⑩		
	③ 災害対策本部運営	⑦ 県総合防災情報システム運営負担金	⑪		
	④ 地域防災計画・ハザードマップ管理	⑧ 県防災ヘリコプター運航連絡協議会負担金	⑫		

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	職員避難所開設等訓練	回	目標	3	3	3	3	3	R7.6.18 模擬連絡調整会議 R8.2.15 市防災総合訓練 R8.3.18 新規採用職員防災研修
			実績	3	3	3			
	＜指標の計算方法＞	避難所の開設運営に係る職員の訓練等の回数							
成果指標	災害協定締結件数	件	目標	50	61	63	64	66	各種団体や事業者等と、必要な災害協定を締結しており協定数は増加している。
			実績	59	61	62			
	＜指標の計算方法＞	協定件数（累計）							
成果指標	職員防災訓練回数	回	目標	25	25	25	25	25	国県等が主体となって実施する訓練も含まれるが、令和7年度に導入した防災総合支援システムの浸透を図るため、職員向けの研修が増加したことが主な増加要因となっている。
			実績	22	22	34			
	＜指標の計算方法＞	職員が参加した訓練等の回数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
27,640						27,640

事業の実績

①防災会議運営
・3月13日実施（委員25人出席）

②国民保護協議会運営
・市国民保護計画の修正なしの為、開催なし

③災害対策本部運営
・6月18日模擬連絡調整会議
・2月15日市防災総合訓練机上訓練

④地域防災計画・ハザードマップ管理
・ハザードマップ配布業務委託（令和6年度予算繰越事業）25,595冊配布

⑤災害時応援協定
・災害発生時の物資調達に係る協定締結により1団体増加

⑥職員防災力強化
・国：Jアラートテスト実行6回、Jアラート情報伝達訓練4回、Jアラート緊急地震速報訓練2回、大滝ダム管理演習2回
・県：物資調達・輸送調整等支援システム（新物資システムB-PLo）訓練2回、孤立集落通信訓練1回、非常通信訓練（那賀振興局）1回、衛星通信トランシーバー訓練（各支所・出張所）1回
・市：防災総合訓練1回、新規採用職員研修訓練1回、水防情報伝達訓練1回、総合防災支援システム操作研修11回
・その他：無線訓練（岩出警察署）1回

⑦県総合防災情報システム運営負担金
・県防災システム（震度情報ネットワークシステム含む）　918,883円
・きのくにe-ねっと　470,184円

⑧県防災ヘリコプター運航連絡協議会負担金
7,368,559円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

市民のニーズが年々増加している分野であり、防災力強化に取り組むことは市として妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

成果指標に示される避難所開設訓練や災害協定締結件数、職員防災研修を達成できるように計画的に事務事業を進める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

災害復旧をより円滑に進めるためには、災害協定を締結する民間団体や事業者の協力のもと災害対応を行う必要がある。したがって、連携強化のため、平時の訓練を計画的に実施することが必要である。また、人件費に関わらずコスト全体を軽減させるために、委託以外にもＤＸ化など、より良い方法を常に研究する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	地域防災力強化事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	644

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	9 消　防　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 消　防　費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	1 消防総務費	基本施策	1	地域防災力の向上	
		取組方針	1	防災意識の啓発、普及	

事業概要	市民、自治区の防災意識の向上と地域防災力の向上につなげるために、防災に関する啓発や訓練の支援、または、資機材整備の補助を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 防災総合訓練	⑤ 防災ボランティア活動負担金	⑨		
	② 小学生防災教室	⑥ 防災ボランティア活動補助金	⑩		
	③ 防災啓発研修会	⑦ 自主防災組織育成事業補助金	⑪		
	④ 防災リーダー会	⑧ 自主防災組織の研修及び訓練	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 自主防災組織率（世帯割）	%	目標	100	100	100	100	100	新たに2自治区で自主防災組織の設立があり、組織率がやや上昇している。今後も未設立の自治区に対し、継続して啓発を行う。
		実績	88.3	87.3	88.3			
＜指標の計算方法＞	自主防災組織設立自治区世帯数÷全自治区世帯数×100							
成果指標 市や地域での防災訓練への参加者数	人	目標	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	令和７年度の防災総合訓練は、物的受援訓練として、県等から届く支援物資を避難所まで運搬する訓練を実施したが、市職員、防災リーダー会及び災害時応援協定を締結する運送業者等、参加者が限定されたため、例年の訓練に比べ減少している。
		実績	1,372	1,624	253			
＜指標の計算方法＞	防災総合訓練への参加者数							
成果指標 自主防災組織の活動に参加している市民の割合	%	目標	50	50	50	50	50	令和7年度の防災総合訓練では、一部の集落を除き、一般市民の参加を求めなかったことにより、減少したものと考察します。
		実績	11.1	20	14.2			
＜指標の計算方法＞	市民意識調査でお住まいの地域における防災研修や防災訓練に「参加している」と回答した市民の割合							
成果指標 水や食料などを備蓄している市民の割合	%	目標	70	70	70	70	70	大分市の大規模火災や、熊本県、青森県での地震などが発生し、市民の防災に対する関心は上昇しているが、令和7年度は警報が発令されなかったこともあり、備蓄の割合は減少していると思われる。
		実績	45	57.4	54.3			
＜指標の計算方法＞	市民意識調査で「一週間分以上の備蓄をしている」「3日分程度の備蓄をしている」と回答した市民の割合							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,855						2,855

事業の実績

①防災総合訓練
第15回紀の川市防災総合訓練
実施日：2月15日
・机上訓練(35名)
・実働訓練(218名参加)
内訳：自治区(123名)　民間団体(33名)
防災リーダー会(16名)
実行委員会(10名)
市職員関係(36名)

②小学生防災教室
市内5校(4～6年生児童)…261名参加
※麻生津小学校3年生含む
各小学校単位で家庭や地域の防災につなげることを目的として、対象校の体育館等において、4つのコーナーを設け防災啓発を行った。実施後は、参加者及び関係教職員に対しアンケートを実施した。

③防災啓発研修会
研修回数…19回　参加者　829名
訓練回数…20回　参加者　935名
合計　　…39回　参加者　1,764名

④防災リーダー会
総会1回・役員会…4回
訓練・研修…3回
県外研修…0回
補助金…30,000円

⑤防災ボランティア活動負担金
3団体（86名）の防災ボランティア活動保険加入

⑥防災ボランティア活動補助金（精算後）
打田福祉防災ボランティア会…73,000円
粉河福祉防災ボランティア会…78,000円
那賀福祉防災ボランティア会…98,000円
桃山福祉防災ボランティア会…103,000円
貴志川福祉防災ボランティア会…80,000円

⑦自主防災組織育成事業補助金
20組織…1,664,700円

⑧自主防災組織の研修及び訓練（③の内数）
研修回数　… 5回　参加者数167名
訓練回数　…16回　参加者数706名
合計　　…21回　参加者数873名

・紀の川市防災育成事業補助金
市町村推薦（職員）　2名
一般公募　　3名
合計　　5名

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

自主防災組織を中心に市民が主体となり訓練や研修を行えるように、市が防災の啓発推進を行うことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・消火活動や救急救助の分野では、専門的な知識を持つ那賀消防組合や消防団と連携し効果的に訓練を実施できている。
・防災分野では、新たな啓発資機材の導入や講義内容の更新、また市職員のスキルアップを図り、地域における主体的な取組を促進しながら、より効果的に実施できるよう取り組む必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・自主防災組織の訓練時に那賀消防組合や消防団等の専門的知識を有する団体や機関等と連携することで、効率化が図れている。
・地域団体等からの研修や訓練の依頼は増加傾向にあり、今後、新たな資機材の導入や外部委託など効率化に向けて取り組む必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	家具転倒防止対策促進事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1005

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	9 消　防　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 消　防　費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	1 消防総務費	基本施策	1	地域防災力の向上	
		取組方針	1	防災意識の啓発、普及	

事業概要	市民の災害発生時の被害を軽減するために、家具転倒防止対策に支援を行う事業				
事務事業を構成する細事業	① 金具取付委託	⑤		⑨	
	②	⑥		⑩	
	③	⑦		⑪	
	④	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	家具転倒防止金具取付支援事業	件	目標	45	45	50	45	45	市公式LINEやメール配信サービス、ホームページ、広報紙への掲載に加え、各自主防災訓練などでも周知を行いました。１件あたり３台を上限に実施しており、固定した家具は合計で107台と、目標の150台（50件×３台）に達しませんでした。
			実績	47	46	37			
	＜指標の計算方法＞	申請件数							
成果指標	家具固定を行っている市民の割合	%	目標	50	50	50	50	50	市民意識調査の結果であるため、多少のばらつきはあるが、適時的確な周知に努めていることにより、おおむね3割の市民に家具固定の有効性を認識頂いているものと考えます。
			実績	28.4	38.7	35			
	＜指標の計算方法＞	市民意識調査で「固定している」「固定が必要な家具類がない」と回答した市民の割合							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,324		1,157				1,167

事業の実績

①金具取付委託
・1申請あたり家具等3台を上限に金具取付
・37世帯実施

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・家具転倒防止については、個人や各家庭で出来る有効な防災対策ではあるが、高齢者世帯や要配慮者のいる世帯では、個人による対策が難しい状況にあると思われるため、市が支援を行う必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・南海トラフ臨時情報の影響等により自主防災組織やその他団体からの防災訓練や研修への職員派遣依頼が増加しており、同時に啓発を行う機会も増えたことで、家具固定の有効性を理解する世帯は増加しつつある。
・今後も継続して家具固定の有効性の周知を図ることで、補助対象以外の市民の防災意識の向上につながることは有効であると考える。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・固定金具等の材料費や人件費など取付コストは上昇している中で、取付業者とは、令和7年度と同様の単価で契約できており、効率的に事業を実施できているものと考える。

事務事業の概要

事務事業名	消防防火対策事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	647

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	9 消　防　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 消　防　費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	1 消防総務費	基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備	
		取組方針	2	火災予防対策の推進	

事業概要	市民の防火意識の向上と防火体制の強化を図るために、協力機関・団体へ補助等の支援や運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	消防防火対策業務	⑤		⑨	
②	阪和林野消防協議会負担金	⑥		⑩	
③	消防協会負担金	⑦		⑪	
④	女性防火クラブ補助金	⑧		⑫	

指標の実績

	指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	地区研修等活動数	回	目標	30	30	30	30	30	昨年度と活動数は同じ回数である。しかし実情としては昨年度に1度活動を行った団体が活動数を増加させた一方で、活動実施団体数は減少した。
			実績	23	18	18			
	＜指標の計算方法＞	年間活動数							
活動指標	市主催行事開催数	回	目標	4	4	4	4	4	昨年度と行事開催数は同じであり、計画していた行事を全て実施出来たため、目標の回数を達成できた。
			実績	3	3	4			
	＜指標の計算方法＞	年間開催数							
活動指標	女性防火クラブ活動補助金申請地区数	地区	目標	35	34	34	32	32	昨年度までは、活動を行った団体は増加傾向であったが、本年度は少し減少した。
			実績	16	22	21			
	＜指標の計算方法＞	申請地区数							
成果指標	活動への参加者数	人	目標	800	800	800	800	800	昨年度までは、活動の参加者数は増加傾向であったが、本年度は減少傾向にある。
			実績	327	407	301			
	＜指標の計算方法＞	参加者数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,197					400	797

事業の実績

①消防防火対策業務
・無線従事者講習会受講　1名
・緊急自動車ドライバー安全運転研修
　受講1名
・消防大学校　消防団活性化推進コース
　受講1名
・防火防災訓練用資機材整備　404,800円
②阪和林野消防協議会負担金　15,000円
③消防協会負担金　390,600円
④女性防火クラブ補助金
　21地区　185,280円

＜女性防火クラブ地区研修訓練＞
・地区研修訓練回数（18回）

＜女性防火クラブ活動実績＞
【市主催行事】
・7/3　令和7年度紀の川市女性防火クラブ
　連絡協議会総会開催
・8/24 紀の川市民まつり（啓発活動）
・1/11 那賀消防組合出初式（啓発活動）
・2/15 紀の川市防災総合訓練
・2/22 紀の川市女性防火クラブ救命講習会
　計5回

＜活動への参加者数＞
◆地区活動参加数　246人
◆協議会活動参加数　55人
　計301人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・女性防火クラブには、公的な法令はないが、家庭の防火をはじめ、防火・防災のため幅広い実践活動や、災害時の後方支援活動等を行うことができ、地域住民の生命・身体及び財産を守るための事業であることから、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・専門知識や技能を持った那賀消防組合と連携を図り充実した研修等になるよう計画していくことが必要と考える。また、自主防災組織等との連携や働きかけにより、活動を市内全域に広げられるような仕組みの検討を行う必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・高齢化、人口減少に伴い、会員確保や地域単位のクラブの結成やクラブを統合するなど、紀の川市全体としての女性防火クラブ運営ができるように検討する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	ハザードマップ更新事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ	事業番号	1091

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	9 消　防　費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 消　防　費	施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	1 消防総務費	基本施策	1	地域防災力の向上
		取組方針	1	防災意識の啓発、普及

事業概要：ハザードマップを見直された浸水想定区域や土砂災害警戒区域の情報に更新し、市民に対して危険箇所を注意喚起する事業

事務事業を構成する細事業					
①	ハザードマップ更新業務	⑤		⑨	
②	防災啓発業務	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 ハザードマップ更新業務	部	目標		30,000				令和６年度に市内全戸配布及び配布後約３年間の転入世帯用として計30,000部作成した。
		実績		30,000				
＜指標の計算方法＞	ハザードマップの作成部数							
活動指標 防災啓発業務	世帯	目標			25,595			令和7年5月に市内全戸への配布を完了した。
		実績			25,595			
＜指標の計算方法＞	市内各戸配布数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,786					4,786	

事業の実績

①ハザードマップ更新業務
・更新業務は無し

②防災啓発業務
・令和7年5月に全世帯への配布完了。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・水防法において、国・県又は市町村は想定し得る最大規模の降雨に対応した浸水想定を実施し、市町村はこれに応じた避難方法等を住民等に適切に周知するためにハザードマップの作成が義務付けられているため妥当である。
・今回の更新は、県が令和5年度に中小河川の浸水エリアを新たに指定したこと等により、市民への周知が必要となったため妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・ハザードマップを最新の情報に更新し、市内全戸への配布とその後の転入世帯に個別配布することで、周知徹底を図っていることは有効と考えます。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・ハザードマップの更新・作成について、実績のある業者への委託により、効率よく作成することが出来ている。
・現在の冊子はページ数も多く配布委託料も高額となる為、次回更新時には形式の変更やデジタル化など他の周知方法を検討する余地がある。

事務事業の概要

事務事業名	那賀消防組合事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	一部事務組合
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	106

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	9 消　防　費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 項	1 消　防　費		基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備
予算科目 目	2 常備消防費		取組方針	3	消防・救急・救助体制の充実

事業概要	市民に安全、安心な消防、救急体制を提供するために、那賀消防組合の運営に参画する事業

事務事業を構成する細事業					
①	消防指令車等更新	⑤		⑨	
②	消防組合職員確保	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 消防指令車等更新	台	目標	2	4	4	2	4	緊急自動車購入計画に従い、令和7年度は4台の更新を行った。
		実績	4	3	4			
＜指標の計算方法＞ 更新台数								
活動指標 消防組合職員確保	人	目標	128	130	132	132	132	定数132人に達していないが、計画通り新規5名を採用した。
		実績	127	130	131			
＜指標の計算方法＞ 職員人数								
成果指標 消防、救急体制に対して満足と感じている市民の割合	%	目標	70	70	70	70	70	地域の消防訓練指導や、火災想定訓練等を実施・啓発したが、令和6年度より実績が下がった。
		実績	37.2	44.7	39.2			
＜指標の計算方法＞ 市民意識調査で「満足」「まあ満足」と回答した市民の割合								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
803,160			21,200			781,960

事業の実績

〈令和 7年度事業実施内容〉
①消防指令車等更新
・緊急車両等　4台

（参考）
保有車両台数
43台

②消防組合職員確保
職員数　131名（うち新規採用5名）

（参考）

出動回数		（うち紀の川市）
火災	51回	(38回)
救助	123回	(69回)
警戒等	396回	(229回)
救急	6,081回	(3,299回)

○東消防署移転事業
・移転場所用地取得　4,665㎡

※紀の川市粉河、井田地内の洪水浸水想定区域外で市道井田中ノ才線に接し、京奈和自動車道「紀の川東IC」が近隣にある位置。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市民の生命財産を災害等から守るために、一部事務組合への負担金を負担し、事業経営に参画することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・一部事務組合への負担金を負担し、一部事務組合において車両の更新や職員数を計画的に確保することは、多様化する災害に迅速、的確に対応ができ、市民の生命財産を守ることに直結する。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・広域的に紀の川市と岩出市が連携し、一部事務組合を運営することは効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	消防団運営事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	107

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	9 消　防　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 消　防　費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	3 非常備消防費	基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備	
		取組方針	1	持続可能な消防団体制の構築	

事業概要	消防団員の消防力を強化するために、消防団員に研修や訓練の実施、装備品の充実、福利厚生を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 消防委員会運営	⑤ 消防団員報酬・福利厚生	⑨		
	② 消防団活動	⑥ 消防団活動補助金	⑩		
	③ 消防団出初式・訓練	⑦	⑪		
	④ ポンプ操法大会参加	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 消防団員数	人	目標	220	220	220	220	220	市の人口が減少、消防団員数も減少傾向にあるが、定員に対する実団員の充足率は全国平均より高い水準で維持できている。
		実績	222	219	217			
＜指標の計算方法＞	紀の川市の人口1万人あたりの消防団員数（全国と比較）							
活動指標 消防団活動回数	回	目標	50	50	50	80	50	和歌山県消防操法大会の開催年でなかったため、減少しているが、隣接する部や分団、方面隊間及び市域を越えて他の消防団との連携強化のための合同訓練等に新たに取り組んだ結果、通年の活動は増加している。
		実績	57	110	90			
＜指標の計算方法＞	訓練、会議等の回数							
活動指標 女性分団活動回数	回	目標	30	30	30	30	30	例年と同じ水準で活動が実施されている。手話通訳士と地元の聴覚障害の方の協力のもと、活きた手話を学び、災害時に活用できるよう取り組んでいる。
		実績	69	42	39			
＜指標の計算方法＞	訓練及び指導、会議等の回数							
成果指標 消防団活動が地域の防災力向上に貢献していると感じている市民の割合	%	目標	100	100	100	100	100	市民意識調査で地域防災力に貢献していると感じている市民の割合は65%前後を維持しており、消防団活動への一定の理解が得られている。
		実績	69.1	67.7	66.8			
＜指標の計算方法＞	市民意識調査で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
147,902					28,562	119,340

事業の実績

①消防委員会運営
消防委員会開催　4/25, 12/19
消防委員会委員報酬（168,000円）

②消防団活動
訓練、会議等の回数　90回

③消防団出初式・訓練
年末特別警戒12/28～30
消防団出初式1/4
火災・風雪水害・捜索活動
その他会議・方面隊会議

④ポンプ操法大会参加
第31回和歌山県消防操法大会参加に伴う出場選手選出10名

⑤消防団員報酬・福利厚生
【報酬】
・消防団員年額報酬（48,162,903円）
・消防団員出動報酬（1,711,000円）
・消防団員退職報償金（28,762,000円）
【福利厚生】
・消防団応援の店事業委託料（1,113,630円）
・消防団員公務災害補償掛金負担金（2,673,300円）
・消防団員退職報償金掛金負担金（27,014,400円）
・消防団員福祉共済掛金負担金（4,221,000円）
・消防作業従事者掛金（117,632円）

⑥消防団活動補助金　（11,591,628円）
本部、方面隊（5）、分団（23）
捜索活動・消防学校入校補助等

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・消防組織法に基づき消防団を設置し、住民の身体及び財産を守るための事業であり、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・災害対策の一翼を担う消防団組織を維持・拡充していくことは有効性がある。常備消防と連携し消防力向上を図る。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・専門的な知識を持つ常備消防職員の関与を増やしていくことで、消防防災力強化の取組みを導入できる体制を整える。

事務事業の概要

事務事業名	消防施設管理事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	637

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	9 消　防　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 消　防　費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	4 消防施設費	基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備	
		取組方針	4	消防施設の計画的な整備	

事業概要：消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の維持管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	消防器具庫管理	⑤		⑨	
②	防火水槽管理	⑥		⑩	
③	小型動力ポンプ付積載車管理	⑦		⑪	
④	消火栓管理	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 消防器具庫修繕箇所	箇所	目標	1	10	10	15	15	過年度に要望があった修繕等も完了し、今年度緊急的にあった修繕等も持ち越しなく対応できている。　※令和6年度より規模の大きい修繕以外も目標・実績に含める。
		実績	1	16	19			
＜指標の計算方法＞	修繕箇所数							
活動指標 防火水槽修繕箇所	箇所	目標	3	3	3	5	5	過年度に要望があった修繕等も完了し、今年度緊急的にあった修繕等も即対応できるもの、予算要求必要なものと分けることができている。
		実績	7	9	7			
＜指標の計算方法＞	修繕箇所数							
活動指標 小型動力ポンプ積載車点検修繕台数	台	目標	124	123	123	123	123	消防団本部の指令車、消防団各部の積載車の車検や点検、修繕を漏れなく実施している。
		実績	124	123	123			
＜指標の計算方法＞	必要台数							
活動指標 消火栓修繕箇所	箇所	目標	4	4	4	4	4	消火栓の漏水や、消火栓ボックスのがたつき等、発見、連絡があり次第対応している。
		実績	4	5	10			
＜指標の計算方法＞	修繕箇所数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
36,167						36,167

事業の実績

①消防器具庫管理
●整備（修繕）1箇所
・穴伏（1箇所）
●器具庫シャッター　6箇所
・風市（1箇所）・神領（1箇所）
・西井阪（1箇所）・上野（1箇所）
・桃山町段（1箇所）
・貴志川町神戸（1箇所）
●器具庫舗装　2箇所
・名手市場（那賀本部）（1箇所）
・中三谷（1箇所）
●設備　9箇所
・南志野（1箇所）・藤井（1箇所）
・上鞆渕（1箇所）・五百谷（1箇所）
・打田（1箇所）
・桃山町調月中部（1箇所）
・貴志川町井ノ口上（1箇所）
・貴志川町丸栖北（1箇所）
・貴志川町国主（1箇所）
●撤去　1箇所
・貴志川町北（1箇所）

②防火水槽管理
●修繕　6箇所
・名手市場（1箇所）・切畑（1箇所）
・東川原（1箇所）・野上（1箇所）
・東国分（1箇所）
・貴志川町井ノ口（1箇所）
●撤去　1箇所
・下丹生谷（1箇所）

③小型動力ポンプ付積載車管理
123台

④消火栓管理
●取替修繕　10箇所
・赤沼田（1箇所）・猪垣（1箇所）
・花野（1箇所）・. 下井阪（1箇所）
・南中（1箇所）
・貴志川町神戸（1箇所）
・貴志川町岸小野（1箇所）
・貴志川町尼寺（1箇所）
・貴志川町前田（1箇所）
・貴志川町北（1箇所）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・火災や災害等有事の際に使えなければ意味のない施設を多く管理しているので、要望があれば緊急性が高いか低いかを判断し、対応にあたっている。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・修繕は予定しているものより、突発的なものが多いため、当初予定していた計画よりは毎年多くの修繕を行うことが多い。
・職員の能力開発という部分では、事務的な処理能力は修繕の数が多ければ身につくが、技術職に必要な知識はなかなか身につけることは難しい。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・技術職ならばもっとコスト面を削減することは可能かもしれないが、技術職ではない事務職ではコスト面の削減は難しい部分があるので、公共施設マネジメント課営繕班に積極的に支援を受け実施している。

事務事業の概要

事務事業名	消防施設整備事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	108

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	9 消　防　費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 項	1 消　防　費		基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備
予算科目 目	4 消防施設費		取組方針	4	消防施設の計画的な整備

事業概要	消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の整備を計画的に行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	消防器具庫整備	⑤		⑨	
②	防火水槽整備	⑥		⑩	
③	小型動力ポンプ付積載車整備	⑦		⑪	
④	消火栓整備	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 消防器具庫新築件数	棟	目標	1	1	2	1	1	消防器具庫建築は、計画どおり実施できている。
		実績	1	1	2			
＜指標の計算方法＞ 新築件数								
活動指標 防火水槽新設基数	基	目標	2	2	5	1	1	防火水槽の新規建設は、計画どおり実施できている。
		実績	1	2	5			
＜指標の計算方法＞ 新設基数								
活動指標 積載車購入台数	台	目標	5	5	5	5	5	小型動力ポンプ付積載車は、計画どおり更新できている。
		実績	5	5	5			
＜指標の計算方法＞ 購入台数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
137,472	2,838		123,700		1,057	9,877

事業の実績

①消防器具庫整備
・猪垣消防器具庫
・調月南部消防器具庫
※中鞆渕消防器具庫
※前年度設計　野上消防器具庫

②防火水槽整備
・赤沼田防火水槽
・杉原防火水槽
・上鞆渕防火水槽
・下井阪防火水槽
・貴志川町尼寺防火水槽
※前年度設計　東大井防火水槽

③小型動力ポンプ付積載車整備
・小型動力ポンプ付積載車　5台

④消火栓整備
・自治区要望による新設箇所なし

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・火災、災害時等による被害を最小限にとどめ、活動の拠点となる施設を設置することで地域防災力の強化につながるため妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・地域の消防活動、災害時における活動拠点となる施設整備であるため計画的な整備が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・建築工事については、技術職員の採用など建築工事の専門知識を持った人材を用いることで効率性が高まる。
※公共施設マネジメント課営繕班に積極的に支援を受け実施している。

事務事業の概要

事務事業名	防災施設管理運営事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	639

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	9 消　防　費	政策目標	1	安全・安心	
予算科目 項	1 消　防　費	施策目標	1	防災・防犯	
予算科目 目	4 消防施設費	基本施策	1	地域防災力の向上	
		取組方針	2	防災施設などの計画的な整備	

事業概要：市民の災害発生時の被害を軽減するために、防災施設の計画的な整備や適切な維持管理を行う事業

事務事業を構成する細事業					
① 備蓄物資管理	⑤		⑨		
② 資機材整備管理	⑥		⑩		
③ 防災行政無線管理運営	⑦		⑪		
④ 戸別受信機設置	⑧		⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 備蓄食糧（アルファ米・パン）	%	目標	100	100	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人1日3食として3日分を計画。目標が達成しているため、今後はそれぞれの期限等を確認しつつ維持する必要がある。
		実績	100	100	100			
＜指標の計算方法＞	保有数合計÷（4,500人×3食×3日分）							
活動指標 備蓄水	%	目標	100	100	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人1日3ℓとして3日分を計画。500mlペットボトルで保管。目標が達成しているため、今後はそれぞれの期限等を確認しつつ維持する必要がある。
		実績	100	100	100			
＜指標の計算方法＞	保有本数合計÷（4,500人×6本×3日分）							
活動指標 備蓄携帯トイレ	%	目標	100	100	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人1日5回の排泄として3日分を計画。5個入りパックで保管。目標が達成しているため、今後はそれぞれの期限等を確認しつつ維持する必要がある。
		実績	100	100	100			
＜指標の計算方法＞	保有数合計÷（4,500人×3日分）							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
33,080		1,431	4,900			26,749

事業の実績

①備蓄物資管理
　アルファ米　　4,000食
　備蓄パン　　1,500本

②資機材整備管理
　AED付属消耗品取替　70か所
　本庁舎、中貴志コミュニティセンターへAEDボックスを設置
　発電機　　1台

③防災行政無線管理運営
　保守管理　親局1局、操作卓6台、中継局2局、簡易中継局3局、再送信局14局、子局268局

④戸別受信機設置
　19台
　内訳 65歳以上の高齢者18台、障害（肢体不自由）のある方1台

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・市が防災力強化に向けて取り組むことは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・令和7年度に策定した備蓄5か年計画をもとに、令和8年度からは計画的に備蓄物資を購入する。
・購入する備蓄物資の種類が増加することで、内部温度等により全ての保管場所で備蓄出来ない物資もあり、災害時の供給体制も含め検討の余地がある。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

備蓄物資の保管場所が多く品揃えも増えつつある中、消費期限等による物資の更新や効率化を図るため、外部委託を含め、検討する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	水防事業	担当課	危機管理消防課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	109

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	9 消　防　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 消　防　費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	5 水　防　費		基本施策	3	災害に強いまちの形成
			取組方針	1	治水・排水対策の推進

事業概要	市民の水害による被害を抑制するために、排水機場等の維持管理や運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	水防計画管理	⑤	水防活動	⑨	
②	樋門・排水機場操作委託	⑥		⑩	
③	排水機場施設管理	⑦		⑪	
④	水防資機材管理	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	水防訓練・講習会	回	目標	4	4	4	4	4	水防訓練、講習会は継続的に実施できている。
			実績	4	4	4			
	＜指標の計算方法＞	水防訓練・講習会実績							
活動指標	排水機場保守点検実施	回	目標	7	8	9	10	10	保守点検については出水期前に9箇所すべて実施できている。 ※丸栖排水機場については、令和7年度内に引渡しなし。令和8年度で引渡し。
			実績	7	8	9			
	＜指標の計算方法＞	実績箇所数							
活動指標	樋門・排水機場修繕実施	回	目標	20	20	20	10	10	樋門、排水機場の修繕については、老朽化や被災により増減はあるが、緊急性の高いものから随時実施できている。
			実績	17	14	8			
	＜指標の計算方法＞	修繕実施回数							
成果指標	水防訓練・講習会参加者数	人	目標	112	112	112	112	112	参加者数は、講習会の欠席者数が多かったため減少しましたが、講習会（樋門操作要領・避難要領等）・一斉操作訓練（開閉操作・情報伝達訓練）を行い、有事に備える事ができた。
			実績	103	108	103			
	＜指標の計算方法＞	水防訓練・講習会参加実績							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
134,839	16,004	746				118,089

事業の実績

①水防計画管理
地域防災計画のうち、水防に係る部分の改定を行った。

②樋門・排水機場操作委託
委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動

③排水機場施設管理
委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動

④水防資機材管理
出水期に点検・管理を行う。

⑤水防活動
樋門操作員出動（自宅待機要請含む）回数
0回
※出動要請なし。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・水害を警戒し、被害を軽減させることで、公共の安全性を保持することを目的とし、市が水防施設を管理し、樋門操作員に施設点検、水防活動を行ってもらうことは妥当であり、併せて市の管理体制の強化が必要である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・大雨や増水による出水期は、被害が発生することがあるが、水防施設の維持管理及び水防出動により被害を防止または軽減できている。
・雨水量が想定以上の場合に備え、浸水被害の軽減・抑制につながる対策が必要である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・随時修繕を行い、また保守点検による不具合箇所の改善を行っている。機械が老朽化しているので、設備の改修や入替等の対策が必要である。

事務事業の概要

事務事業名	教育委員会運営事業	担当課	教育総務課	事業区分	内部管理事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	110

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 款	10 教　育　費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	1 教育総務費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	1 教育委員会費		取組方針	9	その他

事業概要：教育委員会が効率的、効果的な教育行政を進めるために、教育委員、市長、関係者が教育行政における重要課題や方針について、検討や協議を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	教育委員会運営	⑤		⑨	
②	総合教育会議運営	⑥		⑩	
③	外部評価	⑦		⑪	
④	市町村教育委員会連絡協議会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数	件	目標						教育委員会定例会・臨時会において審議及び協議された件数 議案34件、報告事項29件、その他27件
			実績	80	98	90			
	＜指標の計算方法＞	教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数							
活動指標	学校訪問の日数	日	目標						教育委員の学校訪問21日
			実績	42	42	21			
	＜指標の計算方法＞	学校訪問の日数							
活動指標	教育委員会定例会・臨時会議決案件数	件	目標						定例会31件、臨時会3件
			実績	30	39	34			
	＜指標の計算方法＞	教育委員会定例会・臨時会での議決案件数							
活動指標	総合教育会議の議題件数	件	目標						市長と教育委員会が連携を図りつつ、より一層教育行政を推進していくため開催
			実績	1		3			
	＜指標の計算方法＞	総合教育会議の議題件数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,679						2,679

事業の実績

①教育委員会運営
・定例会12回、臨時会3回

②総合教育会議運営
・桃源郷運動公園再整備について
・紀の川市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について
・紀の川市学校施設等長寿命化計画の改訂について
（上記3件の議題について協議）

③外部評価
・令和6年度予算編成事業ごとに事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うため外部評価委員会に評価を依頼
（年3回開催）

④市町村教育委員会連絡協議会負担金
88,000円（当初）

（人口割）56,808人×0.5円　28,000円
（教育委員会数割）
1市町村の教育委員会ごとに15,000円
（市町村割）
1市町村ごとに　45,000円

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・教育委員会は地域における学校教育・社会教育・文化・スポーツ等に関する事務を担当する行政機関である。
・教育長を含む5名で構成された教育委員会が、教育行政や学校運営における具体的な施策を客観的に審議し総括して推進を図る事業である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・教育委員会定例会において、教育の基本方針や教育・文化・スポーツの振興など教育全般についての諸問題や検討課題及び計画等の審議を行い、市の教育行政の根幹を支えている。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・教育委員会定例会等の各種会議の議事録作成について、業者委託を行っているため、大幅に事務作業時間を短縮できている。

事務事業の概要

事務事業名	教育委員会事務局運営事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	630

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 項	1 教育総務費		施策目標	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
予算科目 目	2 事務局費		基本施策	99	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
			取組方針	9	その他

事業概要	教育委員会が円滑な運営を行えるように、教育長、教育委員の活動に支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 教育委員会事務局運営事業	⑤ 近畿都市教育長協議会負担金	⑨		
	② 栄典・表彰業務（教育功労）	⑥ 県都市教育長協議会会負担金	⑩		
	③ 教育長秘書	⑦ 県公立学校施設整備期成会負担金	⑪		
	④ 全国都市教育長会負担金	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 後援名義許可件数	件	目標						教育総務課26件、生涯学習課17件、生涯スポーツ課10件
		実績	49	57	53			
＜指標の計算方法＞	後援名義許可件数							
活動指標 叙位・叙勲・栄典等受章件数	件	目標						秋の生存者叙勲として推薦したが、内閣府における令和7年度の受章は見送りとなった。
		実績		2				
＜指標の計算方法＞	叙位・叙勲・栄典等受章件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,463						1,463

事業の実績

①教育委員会事務局運営事業
・教育や文化の向上振興に寄与する事業への「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可

②栄典・表彰業務（教育功労）
・永年に亘って教育の振興に貢献された教育関係者の栄典授与に関する事務を行う。

③教育長秘書
・教育長の公務の日程調整や教育部内の行事予定のとりまとめ

④全国都市教育長会負担金
・全国都市の連絡を緊密にし、相協力して民主的な教育行政の進展を図り全国の教育向上に尽くすことを目的とした組織。
負担金　21,000円

⑤近畿都市教育長協議会負担金
・上記の近畿都市を対象とした組織。
負担金　25,000円

⑥県都市教育長協議会負担金
・④の県都市を対象とした組織。
負担金　20,000円

⑦県公立学校施設整備期成会負担金
・公立学校施設及び体育・給食施設の完全整備の早期実現を期することをはじめ、公立学校施設の整備を推進していくことを目的とした組織。
負担金　23,100円
補助金割　52,908,000円×0.03%　15,872円
学校数割　300円×24校　7,200円
へき地校割　該当なし

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・教育委員会の権限に属する事務であり、市が主体となり実施すべき事業である。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可審査や教育の振興に貢献された方の功績の確認など、適切に事務処理を行い、事業目的を達成している。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・許可審査など判断が必要な事務に職員が従事することで円滑に実施できている。外部委託できる業務はない。	

事務事業の概要

事務事業名	学校教育総務管理事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1084

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	1 教育総務費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	3 教育諸費		基本施策	2	子供の力をのばす教育
			取組方針	9	その他

事業概要	児童、生徒が安全で円滑な学校生活が行えるように、安全面及び学校運営に係る必要な支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	学校安全対策協議会負担金	⑤		⑨	
②	那賀地方教育研究会補助金	⑥		⑩	
③	学校安全対策・通学路安全対策	⑦		⑪	
④	学校運営協議会	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 スクールサポーター登録者数	人	目標	450	450	450	450	450	令和6・7年度の目標超過は広報活動による一時的効果であり、目標値450人は予算や体制面からの適正規模のため、高齢化や自然減を見据え次期も同目標を維持し、今後は量の拡大ではなくニーズに応じた配置の最適化や研修の充実による事業の質的向上に注力する。
		実績	414	485	485			
＜指標の計算方法＞	スクールサポーター登録者数							
活動指標 通学路安全対策実施済箇所	箇所	目標	4	5	10	10	10	国・県・警察等の関係機関と連携し年次的に交通安全対策を行っており、令和7年度においては、より多くの対策を講じることができた。
		実績	4	5	10			
＜指標の計算方法＞	学校から危険箇所の報告があったもののうち、対策を講じた件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
27,181	7,382	59				19,740

事業の実績

①学校安全対策協議会負担金　310,000円
学校安全対策協議会の設置
・市内在住の児童及び生徒の安全確保を図るため、学校長やPTA、青少年健全育成推進員、民生委員児童委員連絡協議会委員等の代表で組織し、協議した。
・スクールサポーターの保険加入や活動費の補助、横断旗の配布などを行った。

②那賀地方教育研究会補助金
紀の川市、岩出市管内小中学校の教科別研究会に対し、岩出市とともに補助を行い、研究活動を支援した。

③学校安全対策・通学路安全対策
通学路交通安全点検プログラム等により、危険箇所の改修を行った。

④学校運営協議会
・全小学校に学校運営協議会を設置し、年間3回程度開催した。
・全中学校に学校運営協議会を設置し、年間3回程度開催した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・通学路における児童生徒の安全確保を図るとともに円滑な学校生活が行えるよう、学校運営に関する支援を行っており継続することが妥当な事業であるため。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・学校から通学路等の危険箇所改修の要望を県や警察等の関係機関と連携して点検や改修を行っており、児童生徒の安全確保に大変有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・県や警察と連携していることで危険箇所の情報共有を図ることができ、改修までに要する時間が短縮できており効率的に進められている。

事務事業の概要

事務事業名	学校教育推進事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	615

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	1 教育総務費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	3 教育諸費		基本施策	2	子供の力をのばす教育
			取組方針	1	「確かな学力」の向上と「豊かな心」・「たくましい体」の育成

事業概要	児童、生徒の力をのばすために、学力・体力の向上につながる取組を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 教職員研修	⑤ 職員等研修参加負担金	⑨		
	② 英語教育	⑥ 研究指定校補助金	⑩		
	③ 学力調査	⑦	⑪		
	④ 学力向上	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 市主催の研修を実施した回数	回	目標	4	4	4	4	4	目標通りに実施できている。
		実績	4	4	4			
＜指標の計算方法＞	研修開催回数（講師等謝礼支出分のみ対象）							
活動指標 ALTの配置人数	時間	目標	2	2	4	4	4	目標通りに実施できている。
		実績	2	2	4			
＜指標の計算方法＞	各校に配置する全ALTの人数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
21,411						21,411

事業の実績

①教職員研修
紀の川市立学校の教職員の授業改善を図るため、研究主任を対象として、研修を2回実施した。
・受講率（%）： 21人／21人＝100%

②英語教育
・ALT(外国語指導助手）を4名配置し、児童生徒のコミュニケーション活動を充実させた。

③学力調査
4月17日に全国学力・学習状況調査を実施し、市として結果分析を行った。

④学力向上
・小学校3年生及び4年生外国語活動担当、中学校2年生の英語科担当教員を対象に、授業力向上を図るため、年間2回研修を実施した。
・受講率（%）： 23人／23人＝100%

⑤職員等研修参加負担金
職員の初任者研修として行う人権研修について、西光万吉邸の見学に際し負担する費用の補助を行った。

⑥研究指定校補助金
・瞳きらめく学校推進事業
教育の質の向上を図り、創意と活力に満ちた学校づくりに資する実践研究を行う2校に対し補助を行った。
・粉河小学校
・粉河中学校
・ふるさと教育推進事業
ふるさとに誇りと愛着を持ち、将来紀の川市の発展に貢献できる人材の育成を目指す特色ある教育実践を行う3校に対し補助を行った。
・丸栖小学校
・荒川中学校
・貴志川中学校

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・教職員の資質向上を目指した各種研修会やALT（外国語指導助手）の派遣等、児童生徒の学力向上につながる事業であり、継続していくことが妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・教職員の資質向上を目指した各種研修会やALT（外国語指導助手）の派遣等によって、児童生徒の学力が向上している。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・ALT（外国語指導助手）派遣については、費用面に加えて効果が担保される必要性からプロポーザル方式による業者選定を実施し総合的な判断ができている。

事務事業の概要

事務事業名	学校図書館教育推進事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1132

会計	一般会計	長期総合計画体系		
予算科目 款	10 教　育　費	政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	1 教育総務費	施策目標	2	学校教育
予算科目 目	3 教育諸費	基本施策	2	子供の力をのばす教育
		取組方針	1	「確かな学力」の向上と「豊かな心」・「たくましい体」の育成

事業概要：子供や教員が活用しやすい環境づくりと教員の授業支援を進めるため、学校図書館の環境整備と学校司書を配置する事業

事務事業を構成する細事業

①	学校司書配置	⑤		⑨	
②	学校図書館のICT化	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 授業での年間図書館活用回数	回	目標	45	45	45	45	45	ICTを活用した調べ学習や探究学習の取り組み機会が増加したことにより、図書を利用した同学習の機会が減少している。
		実績	31	29	24			
＜指標の計算方法＞	各学校での活用回数の平均							
成果指標 1ヶ月あたりの児童生徒の図書貸出冊数	冊	目標	3.2	3.4	3.6	3.6	3.6	貸出冊数は横ばいであるため学校図書の果たす役割は依然として大きく、今後も蔵書数の維持が必要である。
		実績	3.3	3.5	3.5			
＜指標の計算方法＞	1ヶ月の貸出冊数の平均							
	回	目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
成果指標	冊	目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
39,703			17,800			21,903

事業の実績

①学校司書配置
　全ての小中学校に学校司書を配置できたことで、古い本や傷んだ本の整理につながり、蔵書数は増えにくい状況となっています。しかし、教員や児童生徒の意見を参考に新しく図書を購入しているため貸出冊数を増やすことができている。

②学校図書館のICT化
　ICT化したことにより蔵書検索もできるようになった他、児童生徒の貸出履歴も把握できることから、児童生徒のニーズに合った図書の購入もできるようになった。

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」により、学校図書館が果たす役割が重要視され、継続する必要がある事業である。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・学校図書館の整備とICT化により、児童生徒及び教員の学校図書館の活用が広がり、学びの質を高めることができている。
・学校図書館を活用した授業を推進するためにも、公立図書館とのシステム連携を検討する必要があることから、連携についての調査研究を行う必要がある。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・学校司書の配置により、月1回の学校司書定例会で選書情報を共有し、できるだけ重複しないよう、図書を購入することができた。

事務事業の概要

事務事業名	教育相談事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	619

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	1 教育総務費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	3 教育諸費		基本施策	1	学校教育環境の充実
			取組方針	4	一人一人に応じた学びの機会の保障

事業概要	児童、生徒、保護者が不登校、いじめ等の問題解決を図り、教育に対する不安を解消できるように、相談の実施や教育支援センターの運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	教育相談	⑤		⑨	
②	教育支援センター運営	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 教育支援センター指導員数	人	目標	9	9	9	9	9	目標どおり配置することができた。
		実績	9	9	9			
＜指標の計算方法＞ 配置人数								
成果指標 教育相談員配置事業相談指導者数	人	目標	5	8	8	9	9	目標どおり配置することができた。 ・教育相談員（市費）6名 ・スクールソーシャルワーカー（県費）3名
		実績	6	8	9			
＜指標の計算方法＞ 市費の教育相談員と県費のスクールソーシャルワーカーの合計配置人数								
成果指標 教育支援センター在籍児童生徒数	人	目標						毎年一定数の児童生徒が在籍している。
		実績	16	23	27			
＜指標の計算方法＞ 年度内での実在籍者数								
成果指標 教育相談員相談指導件数	件	目標						不登校児童生徒数、また、悩みをかかえる児童生徒数は増加傾向にあり、相談件数も増加傾向にある。 ＜不登校児童生徒数＞ R5　123名（小学生39名　中学生84名） R6　115名（小学生37名　中学生78名） R7　126名（小学生43名　中学生83名）
		実績	2,299	4,001	5,168			
＜指標の計算方法＞ 相談員の延べ相談指導件数の合計								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
31,359						31,359

事業の実績

①教育相談
・市費の教育相談員6人と県費のSSW（スクールソーシャルワーカー）3人及び県費のSC（スクールカウンセラー）12人を配置し、児童生徒の不登校や就学指導等の問題解決にあたった。
・教育相談員の対応数（3月末）
　相談、指導件数：5,168件（延べ件数）
　　保護者・児童生徒：3,660件
　　学校関係等　　：1,508件
・スクールソーシャルワーカーの対応数
　相談件数：1,273件（延べ件数）（3月末）
・スクールカウンセラーの対応数
　相談件数：3,223件（延べ件数）（3月末）

②教育支援センター運営
・主に不登校児童生徒を対象に貴志川生涯学習センター（火～金）、貴志川支所（月）及び旧粉河中学校校舎内に設置し、午前9時から午後3時まで開室した。
・貴志川教室：9人、粉河教室：18人
うち高校進学：11人、学校復帰：9人
　在学中：7名

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・児童生徒や保護者、教職員が持つ様々な悩みや問題の解決を図るため教育相談を実施している。
・不登校児童生徒の集団生活への適応や基礎学力の補充等の指導を行い、学校への復帰や進学に関する支援を行う教育支援センターを開設している。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・児童生徒の悩みや問題の解決を図る。
・不登校児童生徒に支援を行うことで、学校への復帰や進学につながる有効な事業である。
・不登校児童生徒の増加により、子どもたちを支援する教育相談員が不足しており、増員する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・県費のスクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラーを含め、児童生徒やその保護者、教職員が抱える悩みや問題の解決に向け、相談体制が構築されて機能している。
・教育支援センターについては、粉河、貴志川どちらの教室も毎日運営することができている。

事務事業の概要

事務事業名	特別支援教育推進事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	937

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	1 教育総務費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	3 教育諸費		基本施策	2	子供の力をのばす教育
			取組方針	3	特別支援教育の充実

事業概要	教育上配慮が必要な児童、生徒が安心して学校に通えるように相談の実施、特別支援教育支援員等の配置を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	学齢期発達相談	⑤		⑨	
②	早期支援コーディネーター設置	⑥		⑩	
③	就学相談	⑦		⑪	
④	特別支援教育支援員設置	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 保護者に特別支援教育の理解啓発を行った小学校数	校	目標	15	15	15	15	15	就学前健診で実施しているので、新入生がいない上名手小学校及び麻生津小学校では実施しなかった。
		実績	15	13	13			
＜指標の計算方法＞	就学時健診で保護者に特別支援教育の理解啓発を行った小学校数							
活動指標 就学指導対象園児の延べ観察回数	回	目標	100	100	100	100	100	本年度は川原小学校の統合をみすえ粉河小学校で就学時健診を行ったため。
		実績	69	53	51			
＜指標の計算方法＞	保育所・幼稚園等を訪問し、対象児童の状況を把握するために要する回数（延べ回数）							
成果指標 就学園児で学校教育法施行令第22条の3判断で支援学校を選択した割合	%	目標						本年度は支援学校を選択した保護者が減っているため。
		実績	61.5	88.8	57.9			
＜指標の計算方法＞	就学園児で教育支援委員会での判断が２２条の３に該当する園児のうち支援学校を選択した割合							
活動指標 早期支援コーディネーター活動回数	回	目標						相談件数の増加や、学校見学・体験を希望する保護者が増加傾向にある。本年度は学校見学を2,3人を同じ日程に設定し、対応することで学校見学の回数が増えないようにした。学校の負担を減らすことにもつながった。
		実績	234	243	234			
＜指標の計算方法＞	学校等の訪問回数や教育相談回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
120,250	216					120,034

事業の実績

①学齢期発達相談
・教員や保護者に対し、特別支援学級に在籍する児童生徒、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒への日常の関わり方や発達上の課題、適切な教育環境の選択等について相談活動を実施した。

②早期支援コーディネーター設置
・支援を必要とする園児とその保護者に対し、就学前から就学後まで切れ目ない支援を行うため早期支援コーディネーター2人を配置した。
【令和7年度対象者：93人】
・学校訪問　延べ100回（実態調査、学校見学、体験学習の同行、個別の教育支援計画作成）
・就学相談　延べ92回（未就学児の保護者）
・保育所等訪問　延べ42回（実態調査、保護者説明会）

③就学相談
・次年度就学予定の園児の保護者に対して、こども課が実施する発達相談に同席し就学に関する相談を受けたり、学校見学やつなぎ愛シート作成の場に同席して保護者や学校に対してアドバイスを行った。

④特別支援教育支援員設置
・介助が必要な児童生徒のいる対象校12校に36人の特別支援教育支援員を配置した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・文部科学省の「切れ目ない支援体制整備充実事業」の実施において、一貫した支援を行うためには、地域で支援体制を構築する必要があり、市が取り組むことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・早期支援コーディネーターを配置し、こども課、保育課や保育所・幼稚園等の各関係機関と連携し、未就学児童の就学に関する相談や支援を行うことで、児童や保護者が安心して就学できるようにしている。
・小学校入学後の本人の困り感やそれに対しての支援について、早期支援コーディネーターから保育所や幼稚園等の先生や保護者の方に対し、具体的なアドバイスを行う事が出来ている。
・丁寧な支援を必要とする児童生徒に特別支援教育支援員を配置し、安全安心な学習環境の提供を行っている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・指導主事を中心に早期支援コーディネーターや各関係機関との情報共有が図れており、効率的な支援を行うことができている。
・曜日を分けての定期的な勤務体制からスケジュールに合わせた勤務体制に変更したことにより、支援体制の質を下げることなく人件費等の費用負担の削減が図られた。

事務事業の概要

事務事業名	遠距離通学対策事業	担当課	学校再編推進室	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	112

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費	政策目標	2	子育て・教育	
予算科目 項	1 教育総務費	施策目標	2	学校教育	
予算科目 目	3 教育諸費	基本施策	1	学校教育環境の充実	
		取組方針	3	安全な通学環境の整備	

事業概要	遠距離通学児童、生徒が安全に通学できるように、登下校時にスクールバスの運行を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	スクールバス運行	⑤		⑨	
②	スクールバス車両管理	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 巡回路線数	コース	目標	5	5	5	5	5	安楽川小学校3コース（黒川・善田）（野田原・銚子ノ口）（鞆渕）、荒川中学校2コース（黒川・善田）（野田原・銚子ノ口）の全5コースを運行している。
		実績	5	5	5			
＜指標の計算方法＞	巡回路線数							
活動指標 運行回数	回	目標						乗車児童の減少に伴い、運行回数が減少した。
		実績	2,358	2,144	2,100			
＜指標の計算方法＞	各コースの合計運行回数							
成果指標 乗車児童・生徒数	名	目標						乗車すべき児童生徒を漏れることなく乗車させることができている。
		実績	22	20	18			
＜指標の計算方法＞	各コースの合計乗車実人数							
活動指標 スクールバス購入台数	台	目標	0	0	0	0	6	令和9年度に6台の新規購入を予定、また今後学校再編を進める中で購入台数は増加していく予定である。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	更新（買い替え）・新規購入							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
18,824			16,400			2,424

事業の実績

①スクールバス運行
・学校、委託業者とともに、授業時間・クラブ活動を考慮した効率的な運行を計画し、乗車人数を調整した。
（桃山管内小中学校18名）
安小(黒川・善田)コース　394回
安小(野田原・銚子ノ口)コース　201回
安小(鞆渕)コース　386回
荒中(黒川・善田)コース　556回
荒中(野田原・銚子ノ口)コース　563回
・安全に運行業務を委託できる業者を選定するとともに、低価格で契約できている。
桃山・鞆渕管内委託料：16,445,000円

②スクールバス車両管理
燃料費　1,679,586円
使用料及び賃借料　552,552円
自動車損害保険料　57,650円
公課費　73,800円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・少子化による学校再編によって遠距離通学となる児童生徒の通学手段として、市が実施することの妥当性は高い。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・乗車人数については、教育委員会が保有するスクールバス5台にて対象地区内で希望する児童生徒全員が乗車できている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・委託業者を1社とすることにより、運行管理が一元化でき、コスト削減を意識した効率的な運行ができている。
・スクールバス運行は、社会的責務のため無償運行が望ましく、受益者負担を求めない。

事務事業の概要

事務事業名	教職員人事管理事業	担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業	
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1083
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育		
予算科目 款	10 教　育　費		施策目標	2	学校教育		
予算科目 項	1 教育総務費		基本施策	2	子供の力をのばす教育		
予算科目 目	3 教育諸費		取組方針	9	その他		
事業概要	教職員が円滑に授業を進められるように、教職員の健康管理、人事管理を行う事業						

事務事業を構成する細事業					
①	教職員検診	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 教職員健診受診率	%	目標	80	80	100	100		本来、週20時間未満の職員は健診の対象者ではないが、結核予防の観点から胸部X線のみを受診出来るようにしている。令和7年度から教職員健診の受診者数から市の教職員健診以外を受診した者の数を除外したため、数値が変更になっている。週20時間未満の職員以外はいずれかの健診を受診していることは例年確認している。
		実績	75.1	73.3	100			
＜指標の計算方法＞	教職員健診の受診者数÷対象者数							
成果指標 教職員のストレスチェック受診率	%	目標	100	100	100	100		昨年度と比較して受診率が向上した。
		実績	96.44	95.77	98.08			
＜指標の計算方法＞	ストレスチェック受診者数÷対象者数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,507						5,507

事業の実績

①教職員健診
教職員健診とストレスチェックを実施した。

・教職員健診
　対象者数　426名
　受診者数　426名
　市の教職員健診以外（人間ドック等）を受診した者の数　164名

・ストレスチェック
　対象者数　522名
　受診者数　512名
※公立学校共済組合に加入していない非常勤職員も教職員健診の胸部X線のみ受診しているため、教職員健診とストレスチェックで対象者数が異なっている。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施しており、今後も継続しなければならない事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施しており、教職員が心身の健康を保持するために有効である。
・ストレスチェックについては、今後もその必要性を周知に努め、受診率の向上を図る。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施している。
・効率的に受診できるよう、日程を数日確保した上、日割りを行う等、受診しやすい環境づくりを行った。

事務事業の概要

事務事業名	学校施設長寿命化計画策定事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 6 ～ R 7）
				事業番号	1135

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	1 教育総務費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	3 教育諸費		基本施策	1	学校教育環境の充実
			取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実

事業概要	小中学校校舎等の中長期的な維持管理・更新にかかるトータルコストの縮減や予算の平準化を図るために策定した長寿命化計画を更新する事業

事務事業を構成する細事業					
①	老朽化状況調査	⑤		⑨	
②	紀の川市学校施設等長寿命化計画改訂	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 老朽化状況調査に係る打ち合わせ	回	目標		4				老朽化状況調査については令和6年度で完了している。
		実績		4				
＜指標の計算方法＞	老朽化状況調査に係る打ち合わせ回数							
活動指標 長寿命化計画改訂に係る打ち合わせ	回	目標			4			長寿命化計画改訂に係る打ち合わせ回数を予定通り行った。
		実績			4			
＜指標の計算方法＞	長寿命化計画改訂に係る打ち合わせ回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,950						4,950

事業の実績

①老朽化状況調査
　令和6年度で完了。

②紀の川市学校施設等長寿命化計画改訂
・長寿命化改修事業に係るコスト及び工事内容の分析
・コストシミュレーションを実施し、コスト平準化等の実施計画の再計画を行う
・長寿命化計画運用方法の再検討
・学校施設維持管理データベースの再構築
・以上の観点から、紀の川市学校施設等長寿命化計画の改訂を行った。

事業の事後評価

妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・令和2年度に策定した紀の川市学校施設等長寿命化計画は、5年間を目途に見直すこととなっており令和7年度に改訂を行うことは妥当である。	

有効性	評価結果	改善の余地がない
	・改修等の優先順位、改修内容及び改修時期を定め学校施設に求められる機能・性能を確保するとともに、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び平準化を図る学校施設等長寿命化計画を改訂することは有効である。	

効率性	評価結果	改善の余地がない
	・学校施設等長寿命化計画の改訂を専門業者に委託することで、迅速かつ正確に計画改訂を行うことができた。	

事務事業の概要

事務事業名	学校適正規模適正配置推進事業	担当課	学校再編推進室	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1146

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	1 教育総務費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	3 教育諸費		基本施策	1	学校教育環境の充実
			取組方針	2	学校の適正規模適正配置の推進

事業概要	次代を担う子供たちのためにより良い教育環境の確保及びその向上を図ることを目的に、保護者・市民等の意見聴取を通じて、小中学校の適正規模適正配置を推進するための事業

事務事業を構成する細事業					
①	住民説明会等開催	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 検討委員会開催回数	回	目標	0	0	0	5	0	令和4年度の基本計画策定時に開催し、令和5～7年度は実施なし。今後、基本計画を改訂する必要がある場合等に再び実施する可能性があり、令和8年度の基本計画改訂時に開催する予定である。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会の開催回数							
活動指標 作業部会開催回数	回	目標	5	5	5	5	5	紀の川市立学校適正規模適正配置第一次実施計画の推進及び第二次実施計画の策定に向け、必要に応じて課題等の解決に向けて協議を行った。
		実績	4	5	4			
＜指標の計算方法＞	紀の川市立学校適正規模適正配置検討作業部会の開催回数							
活動指標 住民説明会等開催回数	回	目標	10	10	5	3	17	紀の川市立学校適正規模適正配置第一次実施計画の推進に向け、統合が予定されている学校区の保護者を対象に計3回の保護者相談会を開催し、保護者の不安払拭に努めることができた。
		実績	5	3	3			
＜指標の計算方法＞	児童及び就学前児童の保護者の方や地域住民の方等を対象に行った住民説明会及び意見交換会等の開催回数							
活動指標 学校運営協議会説明会等開催回数	回	目標	5	5	3	0	14	紀の川市立学校適正規模適正配置を適切に進めていくにあたり、学校のあり方など運営について最も熟知している学校運営協議会委員の方から意見をいただいた。
		実績	10	5	3			
＜指標の計算方法＞	学校再編対象校の学校運営協議会へ説明会を開催した回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
829						829

事業の実績

①住民説明会等開催　計3回
　第一次実施計画の保護者を対象に、統合後の小学校区単位で、相談会を開催した。
・粉河小学校区　：令和7年10月3日
・名手小学校区　：令和7年10月20日
・両校区（夜間）：令和7年10月21日

学校運営協議会への説明　計3回
・麻生津小学校：令和7年6月13日
・上名手小学校：令和7年6月19日
・川原小学校　：令和7年6月20日

教育委員会における協議検討　計3回
・第10回教育委員会定例会
・第11回教育委員会定例会
・第12回教育委員会定例会

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川市立学校の今後のあり方について検討する事業であり、市（教育委員会）が所管し、事業を継続することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・全国的に少子化が進み、紀の川市においても児童生徒数が減少し、紀の川市立学校、特に小学校において学校規模に差が生じてきている現状を踏まえ、また、今後においてもさらに減少することが予測される中、学校規模による教育環境・条件に不均衡を生じさせないための対策を行っていくことは有効である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・紀の川市立学校に通う児童生徒には、単に教科等の知識や技術を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決力などを育み、社会性や規範性を身に付け、急激な社会の変化にも対応できる力を身に付けてもらうことに重点を置いているため、学校規模による不均衡の是正や教育上の課題の改善を行い、子供たちにとってより良い教育環境を構築していくことは効率性がある。

事務事業の概要

事務事業名	小学校運営事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	606

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 小学校費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	1 小学校管理費		基本施策	2	子供の力をのばす教育
			取組方針	9	その他

事業概要	児童が円滑に学校生活が行えるように、小学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	校務員配置	⑤		⑨	
②	ICT支援員配置	⑥		⑩	
③	学校備品整備	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 校務員配置校数	校	目標	15	15	15	15	15	全小学校に校務員を配置している。
		実績	15	15	15			
＜指標の計算方法＞ 校務員を配置している小学校数								
活動指標 備品購入費決算額	千円	目標						
		実績	37,339	39,904				
＜指標の計算方法＞ 全小学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額								
成果指標 ICT支援員配置数	人	目標	8	11	11	9	9	文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」の水準（ICT支援員は4校に1人配置）以上の人数を配置することができた。
		実績	11	11	11			
＜指標の計算方法＞ 市内全小中学校へのICT支援員配置人数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
310,619					1,040	309,579

事業の実績

①校務員配置
全小学校15校に1人ずつ配置した。

②ＩＣＴ支援員配置
市内の小中学校全体で11名のICT支援員を配置した。

③学校備品整備
職員室用事務机などの備品を購入した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・小学校の運営に必要な経費であり、継続して行うことが妥当な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・小学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導している。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・支払事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。
・人材確保や労務管理の観点から校務員や特別支援教育支援員の外部委託の検討を行う必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	小学校施設管理事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	599

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 小学校費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	1 小学校管理費		基本施策	1	学校教育環境の充実
			取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実

事業概要	児童、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、小学校施設の適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	小学校施設管理	⑤		⑨	
②	小学校施設改修	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 施設改修工事実施個所数	箇所	目標						令和6年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、必要に応じた改修工事を実施した。
		実績	3	2	3			
＜指標の計算方法＞	防水工事や機能改善に係る工事の実施個所数							
活動指標 施設管理業務委託件数	件	目標						施設を維持するうえで、専門知識や資格が必要な業務を委託し、適切な管理を行った。また、教職員の働き方改革として、敷地管理上必要な業務を外部に委託し、教職員の業務負担軽減を図った。
		実績	128	154	166			
＜指標の計算方法＞	施設管理上必要な業務の委託件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
85,280			10,100		431	74,749

事業の実績

①小学校施設管理
・施設管理に伴う各種業務委託
・使用料及び賃借料（土地借上げ、電柱共架料）の契約事務及び支払い
・施設設備修繕

②小学校施設改修
（改修工事に伴う設計監理業務委託を含む）
・粉河小学校教室棚改修工事
・上名手小学校職員室エアコン取替工事
・西貴志小学校特別支援教室改修工事（令和8年度へ繰越）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・児童及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。
・施設の改修を要する場合は、緊急性、安全性を優先し、改修工事等を行う。
・施設長寿命化の推進及び学校適正規模適正配置の観点からも適切な維持管理に努めている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・保守点検結果や令和6年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査したうえで必要に応じた時期に修繕または改修工事を実施し、また補助金等を活用することで、支出を最小限に抑制しながら実施できている。

事務事業の概要

事務事業名	小学校施設長寿命化事業	担当課	教育総務課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1218

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 小学校費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	1 小学校管理費		基本施策	1	学校教育環境の充実
			取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実

事業概要	学校施設の劣化状況や状態の変化を把握し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び平準化を図りつつ、改修等の優先順位、改修内容、実施時期等を定め、学校施設に求められる機能・性能を確保する事業

事務事業を構成する細事業					
①	設計監理業務委託	⑤		⑨	
②	設計業務委託	⑥		⑩	
③	工事請負費	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 設計及び設計監理業務実施件数	件	目標	1	5	2	2	0	学校施設等長寿命化計画に基づき実施した。東貴志小学校10棟屋上防水他改修工事設計監理業務及び中貴志小学校屋内運動場照明器具改修工事設計業務を令和7年度へ前倒しし、令和8年度へ繰越した。
		実績	1	5	2			
＜指標の計算方法＞	工事を実施するための設計業務及び設計監理業務の実施件数							
活動指標 工事実施件数	件	目標	5	1	2	1	1	学校施設等長寿命化計画に基づき実施した。東貴志小学校10棟屋上防水他改修工事を令和7年度へ前倒しし、令和8年度へ繰越した。
		実績	5	1	2			
＜指標の計算方法＞	長寿命化工事を実施した件数							
成果指標 小学校施設の長寿命化計画に基づく工事進捗率	%	目標	9	9.7	16.4	18.9	22.9	個別施設ごとの実施計画は、公共施設マネジメント検討委員会において毎年度ローリングにて事業を精査しているため、事業総量に変動があるが、目標値を達成した。
		実績	9	9.5	16.8			
＜指標の計算方法＞	学校施設等長寿命化計画の対象となる施設において整備が完了した割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
129,702	38,878		89,900		50	874

事業の実績

①設計監理業務委託
・東貴志小学校10棟屋上防水他改修工事設計監理業務（令和8年度へ繰越）

②設計業務委託
・中貴志小学校屋内運動場照明器具改修工事設計業務（令和8年度へ繰越）

③工事請負費
・西貴志小学校11棟屋上防水改修工事
・東貴志小学校10棟屋上防水他改修工事（令和8年度へ繰越）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・児童にとって必要な学校施設の環境整備は、学校設置者として市が実施すべき事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・学校施設については、施設数が多く規模や経過年数などにより既存施設の劣化状況は様々であり、抜本的な対策がない限り、年数を重ねるごとに保全改修箇所は増加していく。
・老朽化した施設が多く存在することから、学校施設等長寿命化計画の実効性を確保するにあたり、財政部局との調整が課題となるが、公共施設マネジメント検討委員会において審議の上、予算要求の可否を判断している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・学校施設等長寿命化計画に基づき、必要な時期に計画的な保全を行うことで費用の支出抑制に努めている。
・国庫補助金を活用し、市の財政負担の軽減及び平準化を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	小学校教育活動事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	595

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 小学校費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	2 小学校教育振興費		基本施策	2	子供の力をのばす教育
			取組方針	1	「確かな学力」の向上と「豊かな心」・「たくましい体」の育成

事業概要	児童の学力向上と豊かな心や感性をはぐくむために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	教材器具・教科書整備	⑤		⑨	
②	学校教育振興補助金	⑥		⑩	
③	緑育推進事業補助金	⑦		⑪	
④	宿泊体験活動推進事業補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 図書充足率	%	目標	82	83	85	87		年次計画的に図書の購入を行っているが、古い本の入れ替え等、蔵書整理をしているため、充足率は上がりにくい。
		実績	82	84	84			
＜指標の計算方法＞	文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
24,867		1,427				23,440

事業の実績

①教材器具・教科書整備
6,946,219円

②学校教育振興補助金
研修に参加する教員の参加費や、校内研修の費用を補助した。

修学旅行や現場学習に係る教員の費用を補助した。

学校農園の運営に係る種苗や土、機材の費用を補助した。

③緑育推進事業補助金
森林学習や間伐体験を通し、森林の持つ様々な機能や大切さを学び、間伐材を利用した木工クラフト等を行った。

実施校及び参加人数
田中小　：97人　650,000円
長田小　：11人　227,614円
竜門小　：24人　358,885円
上名手小：26人　190,958円
合計　4校　158人

④宿泊体験活動推進事業補助金
共同生活を通して豊かな心や感性を育むために行う集団宿泊体験に対し補助を行った。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・教育活動に必要不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続することが妥当な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・図書充足率を満たしている学校数については、年次計画に基づき図書を購入しているため、計画どおりに購入を継続していく。
・研究授業や各種体験などに係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるように支援できている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・次年度の予算策定にあたり、学校から要望を聴取した上で査定したり、日常的に購入事務などについて指導していることで効率的な事業及び予算の執行が行えている。
・教育活動に必要不可欠な教材や備品、図書などの購入にあたり、数社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。

事務事業の概要

事務事業名	児童就学援助事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	589
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育
予算科目 款	10 教　育　費		施策目標	2	学校教育
予算科目 項	2 小学校費		基本施策	1	学校教育環境の充実
予算科目 目	2 小学校教育振興費		取組方針	4	一人一人に応じた学びの機会の保障

事業概要：経済的理由により就学が困難となる児童が就学できるように、保護者に学用品費用等の一部を支援する事業

事務事業を構成する細事業

①	要保護及び準要保護児童生徒就学援助費	⑤		⑨	
②	特別支援教育就学奨励費	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 就学援助費認定者数	人	目標						児童数は減少傾向にあるため、就学援助を必要とする児童及び保護者も減少した。
		実績	327	333	301			
＜指標の計算方法＞ 年度内認定者数								
活動指標 特別支援教育就学奨励費認定者数	人	目標						児童数は減少傾向にあるが、特別支援を要するまたは医療的ケアを要する児童が増加傾向にあり、認定児童数が増加した。
		実績	153	155	174			
＜指標の計算方法＞ 年度内の認定者数								
成果指標 市立小学校における就学援助認定者の割合	%	目標						就学援助費認定者数が減少し、特別支援教育就学奨励費認定者数が増加したため、就学援助認定者の割合は減少した。
		実績	11.9	12.5	11.6			
＜指標の計算方法＞ 年度内市内認定者数÷3月1日現在児童数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
10,651	991					9,660

事業の実績

①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費
・経済的に就学が困難な児童の保護者に対し、学用品費・修学旅行費等の必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図った。
・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数
　市内14小学校　297人
　市外 3小学校　　4人　　支給者数　301人
　市内小学校の認定率　11.6%
　※認定者のうち要保護者（生活保護受給者）5名の修学旅行費の支給を含む。
・令和8年度に新小学1年生になる児童に対し新入学学用品費等の入学前支給を行った。（生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準ずる程度に困窮している保護者）支給者数：44人

②特別支援教育就学奨励費
・特別支援学級に就学する児童の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図った。
・特別支援教育就学奨励費認定者数
　市内15小学校　174人
　支給者数　174人

事業の事後評価

妥当性　評価結果：改善の余地がない

・就学援助費は、経済的に就学が困難な家庭の児童を就学させるために必要な事業である。
・特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に入級している児童の保護者のうち、世帯所得が一定の額より低い保護者に支給しており、保護者負担の軽減に必要な事業である。

有効性　評価結果：改善の余地がない

・就学援助費、特別支援教育就学奨励費ともに就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、児童の適正な就学に有効な事業である。

効率性　評価結果：改善の余地がややある

・就学援助システム導入により業務等の効率化は図られているが、一部システムでは対応できない項目があるため、システムとエクセルの二重管理となっている。
・就学援助費、特別支援教育就学奨励費ともに、教育総務課から学校の指定口座へ振込後、学校から対象保護者へ支給している。

事務事業の概要

事務事業名	田中小学校改築事業	担当課	教育総務課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 5 ～ R10）	事業番号	1229

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	2 小学校費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	3 学校建設費		基本施策	1	学校教育環境の充実
			取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実

事業概要	児童、教職員が校舎を安全で快適に利用できるように、田中小学校の校舎等の改築を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	田中小学校改築工事	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 設計業務進捗率	%	目標	100					令和5年度において目標どおり完成した。
		実績	100					
＜指標の計算方法＞	設計業務進捗率							
成果指標 1期工事進捗率	%	目標		100				令和6年度において目標どおり完成した。
		実績		100				
＜指標の計算方法＞	1期工事進捗率							
成果指標 2期工事進捗率	%	目標		30	90	100		令和6年度の地盤改良工事において地中障害物が確認され、その撤去等に時間を要したため、工期は3か月延長となったが、新校舎は完成した。
		実績		17.51	86.71			
＜指標の計算方法＞	2期工事進捗率							
成果指標 3期工事進捗率	%	目標				30	30	令和8年度からの指標である。
		実績						
＜指標の計算方法＞	3期工事進捗率							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,899,297	150,716	15,000	1,259,900	310,000	73,850	89,831

事業の実績

①田中小学校改築工事
・田中小学校改築2期工事
　内容：新校舎建設、現校舎解体、グラウンド部分整備
（令和8年度へ繰越）

【別途工事】
・ミマモルメ設置工事に伴う付属工事
他10件

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・児童及び教職員が安全かつ快適に使用できるように市が施設整備することは妥当である。
・学習環境の多様化への対応など、現代の教育ニーズに適合した施設整備を行うものである。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・設計から、工期を3回に分けての工事実施は、同一敷地内での建て替えで技術的にも困難な中、児童・教職員及び地域住民の安全確保を図りながら適正に実施している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・一時的なコストはかかるものの、建物の損傷が軽微な段階で予防保全的な改修を約25年周期で実施し、建物の機能回復を行うことで目標使用年数の約80年の使用を見込むため効率的な利用に繋がる事業である。
・設計段階からコスト縮減を意識した仕様の検討や、施工方法の工夫により、限られた財源の中で効率的な事業執行に努めた。

事務事業の概要

事務事業名	中学校運営事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	583

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	3 中学校費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	1 中学校管理費		基本施策	2	子供の力をのばす教育
			取組方針	9	その他

事業概要	生徒が円滑に学校生活が行えるように、中学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	校務員配置	⑤		⑨	
②	ICT支援員配置	⑥		⑩	
③	学校備品整備	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 校務員配置校数	校	目標	5	5	5	5	5	全中学校に校務員を配置している。
		実績	5	5	5			
＜指標の計算方法＞ 校務員を配置している中学校数								
活動指標 備品購入費決算額	千円	目標						
		実績	10,886	6,520				
＜指標の計算方法＞ 全中学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額								
成果指標 ICT支援員配置数	人	目標	8	11	11	9	9	文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」の水準（ICT支援員は4校に1人配置）以上の人数を配置することができた。
		実績	11	11	11			
＜指標の計算方法＞ 市内全小中学校へのICT支援員配置人数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
144,755		3,958			528	140,269

事業の実績

①校務員配置
　中学校5校（打田中学校仙渓分校除く）に校務員を配置した。

②ICT支援員配置
　市内の小中学校全体で11名のICT支援員を配置した。

③学校備品整備
　体育館用折りたたみ椅子などの備品を購入した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・中学校の運営に必要な経常経費であり、継続して行うことが妥当な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・中学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導をしている。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・支払い事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。
・急速な労働人口の減少に伴う「なり手不足・欠員問題」という危機的状況に対し、子どもたちの安全・安心な学び舎の維持と、教職員の働き方の環境改革を進めるうえで、民間専門業者のノウハウ・組織力を活用するため校務員の外部委託の検討を行う必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	中学校施設管理事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	580

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	3 中学校費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	1 中学校管理費		基本施策	1	学校教育環境の充実
			取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実

事業概要	生徒、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、中学校施設の適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	中学校施設管理	⑤		⑨	
②	中学校施設改修	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 施設改修工事実施箇所数	箇所	目標						令和6年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、必要に応じた改修工事を実施した。
		実績	2	5	1			
＜指標の計算方法＞	防水工事や機能改善等に係る工事の実施箇所数							
活動指標 施設管理業務委託件数	件	目標						施設を維持するうえで、専門知識や資格が必要な業務を委託し、適切な管理を行った。また、教職員の働き方改革として、敷地管理上必要な業務を外部に委託し、教職員の業務負担軽減を図った。
		実績	55	63	68			
＜指標の計算方法＞	施設管理上必要な業務の委託件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
38,455			7,000		330	31,125

事業の実績

①中学校施設管理
・施設管理に伴う各種業務委託
・使用料及び賃借料（土地借上げ、電柱共架料）の契約事務及び支払
・施設設備修繕

②中学校施設改修
（改修工事に伴う設計監理業務委託を含む）
・粉河中学校高圧ケーブル・気中開閉器取替工事

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・生徒及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。
・施設の改修を要する場合は、緊急性、安全性を優先し、改修工事等を行う。
・施設長寿命化の推進及び学校適正規模適正配置の観点からも適切な維持管理に努めている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・保守点検結果や令和6年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査したうえで必要に応じた時期に修繕または改修工事を実施し、また補助金等を活用することで、支出を最小限に抑制しながら実施できている。

事務事業の概要

事務事業名	中学校施設長寿命化事業	担当課	教育総務課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1219

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	3 中学校費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	1 中学校管理費		基本施策	1	学校教育環境の充実
			取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実

事業概要	学校施設の劣化状況や状態の変化を把握し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び平準化を図りつつ、改修等の優先順位、改修内容、実施時期等を定め、学校施設に求められる機能・性能を確保する事業

事務事業を構成する細事業					
①	設計監理業務委託	⑤		⑨	
②	設計業務委託	⑥		⑩	
③	工事請負費	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 設計及び設計監理業務実施件数	件	目標	1	0	3	1	0	令和７年度における事業は、計画どおり完了した。
		実績	1	0	3			
＜指標の計算方法＞	工事を実施するための設計業務及び設計監理業務の実施件数							
活動指標 工事実施件数	件	目標	4	1	3	3	1	学校施設等長寿命化計画に基づき実施できている。国庫補助金を有利に獲得するため、打田、粉河及び那賀中学校照明器具改修工事を令和7年度へ前倒しし、令和8年度へ繰越した。
		実績	4	1	3			
＜指標の計算方法＞	工事を実施した件数							
成果指標 学校施設の長寿命化計画に基づく工事進捗率	%	目標	13.4	15.3	16.9	28.3	30.1	個別施設ごとの実施計画は、公共施設マネジメント検討委員会において毎年度ローリングにて事業を精査しているため、事業総量に変動があるが目標値を達成した。
		実績	13.4	15	16.9			
＜指標の計算方法＞	学校施設等長寿命化計画の対象となる施設において整備が完了した割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
17,458	2,819		10,400		19	4,220

事業の実績

①設計監理業務委託
・令和7年度なし

②設計業務委託
・打田中学校照明器具改修工事設計業務
・粉河中学校照明器具改修工事設計業務
・那賀中学校照明器具改修工事設計業務

③工事請負費
・打田中学校照明器具改修工事（令和8年度へ繰越）
・粉河中学校照明器具改修工事（令和8年度へ繰越）
・那賀中学校照明器具改修工事（令和8年度へ繰越）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・生徒にとって必要な学校施設の環境整備は、学校設置者として市が実施すべき事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・学校施設については、施設数が多く規模や経過年数などにより既存施設の劣化状況は様々であり、抜本的な対策がない限り、年数を重ねるごとに保全改修箇所は増加していく。
・老朽化した施設が多く存在することから、学校施設等長寿命化計画の実効性を確保するにあたり、財政部局との調整が課題となるが、公共施設マネジメント検討委員会において審議の上、予算要求の可否を判断している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・学校施設等長寿命化計画に基づき、計画的な保全を行い既存施設を効果的に活用する。
・国庫補助金を活用し、市の財政負担の軽減及び平準化を図っている。

事務事業の概要

事務事業名	中学校教育活動事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	576

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育
予算科目 款	10 教　育　費		施策目標	2	学校教育
予算科目 項	3 中学校費		基本施策	2	子供の力をのばす教育
予算科目 目	2 中学校教育振興費		取組方針	1	「確かな学力」の向上と「豊かな心」・「たくましい体」の育成

事業概要	生徒の学力向上と豊かな心や感性をはぐくむために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	教材器具・教科書整備	⑤		⑨	
②	生徒派遣費補助金	⑥		⑩	
③	学校教育振興補助金	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 図書充足率	%	目標	77	78	80	82		年次計画的に図書の購入を行っているが、古い本の入れ替え等、蔵書整理をしているため、充足率は上がりにくい。
		実績	77	78	80			
＜指標の計算方法＞	文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
45,639						45,639

事業の実績

①教材器具・教科書整備
5,978,435円

②生徒派遣費補助金
体育の振興及び文化の向上を図るため、市立中学校がクラブ活動において全国大会を始めとする各種大会に選手を派遣する際の交通費、宿泊費等の経費について補助した。

③学校教育振興補助金
研修に参加する教員の参加費や、校内研修の費用を補助した。

修学旅行や現場学習に係る教員の費用を補助した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・教育活動に必要不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続することが妥当な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・研究授業や各種大会派遣などに係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるように支援できている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・次年度の予算策定にあたり、学校から要望を聴取したうえで査定し、日常的に購入事務などについて指導していることで効率的な事業の執行が行えており、また、適正な予算の執行に結びついている。
・教育活動に必要不可欠な教材や備品、図書などの購入にあたり、数社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。

事務事業の概要

事務事業名	生徒就学援助事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	571

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費	政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	3 中学校費	施策目標	2	学校教育
予算科目 目	2 中学校教育振興費	基本施策	1	学校教育環境の充実
		取組方針	4	一人一人に応じた学びの機会の保障

事業概要	経済的理由により就学が困難となる生徒が就学できるように、保護者に学用品費用等の一部を支援する事業

事務事業を構成する細事業					
①	要保護及び準要保護児童生徒就学援助費	⑤		⑨	
②	特別支援教育就学奨励費	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 就学援助費認定者数	人	目標						生徒数はR6年度からR7年度において若干数の増加は見られたが、全体的には減少傾向にあるため、就学援助を必要とする生徒及び保護者も減少した。
		実績	195	194	190			
＜指標の計算方法＞	年度内認定者数							
活動指標 特別支援教育就学奨励費認定者数	人	目標						生徒数はR6年度からR7年度においては若干数の増加が見られましたが、全体的には減少傾向にある中で、特別支援を要するまたは医療的ケアを要する生徒が増加傾向にあり、認定生徒数が増加した。
		実績	56	60	70			
＜指標の計算方法＞	年度内認定者数							
成果指標 市立中学校における就学援助認定者の割合	%	目標						就学援助費認定者数が減少し、特別支援教育就学奨励費認定者数が増加したため、就学援助認定者の割合は減少した。
		実績	14.3	13.8	13.5			
＜指標の計算方法＞	年度内市内認定者数÷3月1日現在生徒数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
13,679	1,100					12,579

事業の実績

①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費
・経済的に就学が困難な生徒に対し、学用品費、修学旅行費等必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図った。
・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数
　市内5中学校　183人
　市外6中学校　　7人　　支給者数　190人
　市内中学校の認定率 13.5%
　※支給者のうち要保護者（生活保護受給者）1人 の修学旅行費支給含む。
・令和8年度に新中学1年生になる生徒に対し新入学学用品費等の入学前支給を行った。（生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準ずる程度に困窮している保護者）支給者数：47人

②特別支援教育就学奨励費
・特別支援学級に就学する生徒の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図った。
・特別支援教育就学奨励費認定者数
　市内5中学校　70人
　支給者数　70人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・就学援助費は、経済的に就学が困難な家庭の生徒を就学させるために必要な事業である。
・特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に入級している生徒の保護者のうち、世帯所得が一定の額より低い保護者に支給しており、保護者負担の軽減に必要な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・就学援助費、特別支援教育就学奨励費ともに就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、生徒の適正な就学に有効な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・就学援助システム導入により業務等の効率化は図られているが、一部システムでは対応できない項目があるため、システムとエクセルの二重管理となっている。
・就学援助費、特別支援教育就学奨励費ともに、教育総務課から学校の指定口座へ振込後、学校から対象保護者へ支給している。

事務事業の概要

事務事業名	社会教育推進事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	567

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	1 社会教育総務費		基本施策	1	生涯学習の推進
			取組方針	1	生涯学習機会の提供

事業概要：市が適切に社会教育施策を推進するために、関係機関との連携、協力や支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	社会教育委員会運営	⑤	社会教育主事育成・研修	⑨	
②	社会教育指導員設置	⑥		⑩	
③	県社会教育委員連絡協議会負担金	⑦		⑪	
④	県社会教育主事等連絡協議会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 社会教育委員会及び研修会の開催回数	回	目標	6	6	6	6	6	社会教育委員会は1回、社会教育委員研修会を5回実施し、目標値である計6回を実施した。
		実績	6	6	6			
＜指標の計算方法＞	社会教育委員会及び研修会の開催回数							
活動指標 社会教育指導員連絡会の開催回数	回	目標	6	6	6	6	5	公民館事業や地域事業への参画増加により、指導員のスケジュール調整ができず、目標が達成できなかった。
		実績	6	6	5			
＜指標の計算方法＞	社会教育指導員連絡会の開催回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
14,976						14,976

事業の実績

①社会教育委員会運営
●社会教育委員会議　1回
●社会教育委員研修会　5回

●第67回全国社会教育研究大会
10月29日～31日
「共に学び支えあう社会教育の実践　～ウェルビーイングの実現に向けた社会教育の役割とは～」
●令和7年度近畿地区社会教育研究大会和歌山大会（台風15号の近畿地方への接近に伴い中止）

②社会教育指導員設置
指導員数　5人
指導員連絡会5回
第1回　4月15日
第2回　6月 5日
第3回　9月24日
第4回　11月19日
第5回　2月10日

③県社会教育委員連絡協議会負担金
29,000円

④県社会教育主事等連絡協議会負担金
0円
令和8年3月31日付けで解散。

⑤社会教育主事育成・研修
社会教育主事講習受講0名
（実施機関 神戸大学：通勤困難な為受講者無し）

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・社会教育法に基づき社会教育委員を委嘱し、教育委員会の諮問機関として調査研究や計画立案、提言などを行うことは極めて重要である。これにより、地域住民の多様な意見を社会教育行政へ反映できるようになる。また、学校・家庭・地域の連携強化や、地域課題に対応した持続可能な社会教育を推進する観点からも、社会教育委員を設置することは妥当である。
・社会教育指導員が、各地区公民館において各地域における社会教育についての直接指導、学習相談、社会教育団体の育成、また市全体の社会教育を推進することは妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・社会教育委員の立案や提言を求めながら市の社会教育のあるべき姿をモデル化し、各種計画を策定する実施方法は有効である。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・社会教育法に基づき社会教育委員を委嘱している。
・社会教育指導員については、学識経験者を各地区公民館に会計年度任用職員として配置しているため、現状の実施方法は効率的である。

事務事業の概要

事務事業名	文化振興事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	565

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	1 社会教育総務費		基本施策	1	生涯学習の推進
			取組方針	1	生涯学習機会の提供

事業概要	市民の芸術文化への関心を高めるために、関連団体への支援やイベント、啓発を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	文化協会運営補助金	⑤		⑨	
②	自主文化事業（粉河ふるさとセンター）	⑥		⑩	
③	自主文化事業（貴志川生涯学習センター）	⑦		⑪	
④	劇団運営補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	自主文化事業開催回数	回	目標	8	8	8	8	8	自主文化事業の開催回数は、当初予定していた事業の一部が実施に至らなかったことから、前年度を下回る結果となった。
			実績	6	6	4			
	＜指標の計算方法＞	自主文化事業開催回数							
成果指標	自主文化事業入場者数	人	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	自主文化事業入場者数は、自主文化事業開催回数が減ったことにより、目標値を下回った。
			実績	3,092	3,320	2,088			
	＜指標の計算方法＞	自主文化事業入場者数							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
10,888					14	10,874

事業の実績

①文化協会運営補助金
加盟団体　103団体
（打田支部 26団体、粉河支部 26団体、那賀支部 12団体、桃山支部 11団体、貴志川支部 28団体）

文化祭の開催
・10月25日(土)～26日(日)
粉河支部

・11月1日(土)～2日(日)
打田支部・那賀支部・桃山支部・貴志川支部

②自主文化事業（粉河ふるさとセンター）
・12月14日(日)
「彩・恋・歌コンサート～伍代夏子・香西かおり・石原詢子～」
入場者数1,142人

③自主文化事業（貴志川生涯学習センター）
・9月21日(日)
「合併20周年記念公演　ＪＲ西日本吹奏楽団　かがやきコンサート」
入場者数455人

・2月14日(土)、15日(日)
スタインウェイ×ヤマハ　弾き比べ体験会
入場者数39人

・2月21日(土)
「合併20周年記念事業
青い翼からうぐいすへの贈り物」
入場者数452人

④劇団運営補助金
・令和7年度は申請なし

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

・文化協会各支部のさまざまな文化芸術活動や文化祭の開催、また地域の子供への文化芸術に関する指導を通じた交流活動に対して、市が支援するのは妥当である。
・あらゆる世代の市民が、心豊かな生活を送れるように、市が音楽や演劇ほか幅広く優れた文化芸術に触れる機会を提供することは妥当である。
・文化祭のあり方及び一本化について検討する必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・自主文化事業については、一般職の職員が催事企画を行っており、市民の芸術文化に関する関心を高めるためにも、市民のニーズや時代のニーズを捉えた魅力的な事業を行っていく必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・自主文化事業については、限られた人員で公益性を目的とする企業及び団体と連携を図り、コスト削減を図りながら事業実施できていることから、改善の余地はない。
・文化協会については、最小限度の補助であり、改善の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	家庭教育推進事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	562

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	1 社会教育総務費		基本施策	3	家庭と地域による子供の健全育成の推進
			取組方針	4	家庭教育支援の推進

事業概要	市民（保護者）に家庭教育の大切さを理解してもらうために、家庭教育の重要性の啓発を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	子供読書活動推進	⑤		⑨	
②	PTA連絡協議会補助金	⑥		⑩	
③	家庭教育講座	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 読み聞かせ回数	回	目標	50	50	50	50	50	読み聞かせボランティア等との日程調整を行いながら事業を実施し、実施回数は前年度並みを維持した。
		実績	46	41	43			
＜指標の計算方法＞	河北・河南図書館での開催回数　定例（月2回程度）＋夏休み期間中分							
成果指標 読み聞かせ参加者数	人	目標	900	900	500	500	500	参加者は60人程度減少したが、開催回数は前年並みを維持しており、事業は現状維持できている。減少は人口動態や参加状況の変化によるものと考えている。
		実績	408	473	414			
＜指標の計算方法＞	河北・河南図書館での参加人数　定例（月2回程度）＋夏休み期間中分							
活動指標 家庭教育講座回数	回	目標		24	24	24	24	2歳6か月健康相談の実施回数が当初予定より2回少なかったことに伴い、家庭教育講座の実施回数も計画値には達しなかったものの、前年度と同程度の実施回数を維持した。
		実績		22	22			
＜指標の計算方法＞	2歳6カ月健康相談時に開催した講座回数							
成果指標 家庭教育講座参加者数	人	目標		100	100	100	100	対象となる親子に直接参加を呼びかけ、こども課とも連携した結果、目標を達成し前年よりも参加者が増加した。
		実績		109	126			
＜指標の計算方法＞	2歳6カ月健康相談時に開催した講座参加人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
507						507

事業の実績

①子供読書活動推進
・学校司書との連携、学校図書館訪問
・読み聞かせ

	〔河北図書館〕		〔河南図書館〕	
4月	2回	19人	2回	33人
5月	2回	18人	1回	5人
6月	2回	22人	2回	10人
7月	3回	33人	1回	7人
8月	2回	14人	2回	14人
9月	3回	37人	1回	10人
10月	2回	34人	2回	18人
11月	2回	29人	1回	2人
12月	1回	11人	2回	9人
1月	3回	23人	1回	17人
2月	1回	7人	2回	11人
3月	2回	28人	1回	3人
計	25回	275人	18回	139人

②PTA連絡協議会補助金　150,000円

③家庭教育講座
2歳6カ月児健康相談時家庭教育講座　22回
126人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・子供読書活動推進は、未来を担う子供たちが読書をして自ら学び、自ら考え、自らの力で成長するための礎を作ることができ、市が実施することは妥当である。
・PTA連絡協議会については、単位PTAとの緊密な連絡と相互の協力によって、児童生徒の福祉の増進を図り、教育の振興に寄与する活動に対して市が支援することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・子供読書活動の推進や家庭教育講座は乳幼児期から学齢期の重要な時期に、親子の基本的信頼関係と愛着形成を育み、保護者同士の交流につながる事業であるため、より多くの方に参加していただけるよう事業の内容を工夫していく必要がある。
・乳幼児期から学齢期まで、切れ目のない家庭教育支援の推進を図るため関係各課の連携による推進体制の構築を図り、成果を向上させる必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・読み聞かせについては図書館ボランティアの協力で事業を実施していることから、効率的でコスト削減の余地はない。

事務事業の概要

事務事業名	生涯学習推進事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	848

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	1 社会教育総務費		基本施策	1	生涯学習の推進
			取組方針	1	生涯学習機会の提供

事業概要	市民に生涯学習の推進をするために、生涯学習活動に支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	はたちのつどい実行委員会運営	⑤		⑨	
②	はたちのつどい開催	⑥		⑩	
③	ユネスコ連絡協議会補助金	⑦		⑪	
④	婦人会補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 はたちのつどい実行委員会委員数	人	目標	12	12	12	12	12	令和7年度のはたちのつどい実行委員会について、広報等での周知や地域の協力を得ながら募集を行った結果、目標を達成できた。
		実績	7	5	12			
＜指標の計算方法＞	はたちのつどい実行委員会委員数							
成果指標 はたちのつどい出席率	%	目標	80	80	80	80	80	令和7年度はたちのつどいの出席率は、感染症の大きな流行による影響がなく、参加しやすい環境であったことから、目標値には達しなかったものの、前年度を上回る結果となった。
		実績	78.41	70.38	73.21			
＜指標の計算方法＞	当日の出席者を対象者（住登外で出席申込希望者含）で除した割合							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,922						1,922

事業の実績

①はたちのつどい実行委員会運営
第1回　7月11日
第2回　8月 6日
第3回　9月12日
第4回　10月17日
第5回　11月14日
第6回　12月19日

②はたちのつどい開催
1月11日
・開会式典
・イベント
1. スライドショー上映
（自主イベント）
2. ゆってぃによるお笑いライブ
（芸能イベント）

③ユネスコ連絡協議会補助金　90,000円

④婦人会補助金　100,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・個人の学習活動が人との交流を生み、地域の連帯感や自治意識の向上を図り、地域意識の活性化につなげることができる生涯学習を市が推進することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・例年募集している「はたちのつどい実行委員会」は、はたちのつどい式典の進行及びイベントの企画・運営を行うことにより、社会の一員として活動する意識や責任感、達成感を得ることができ有効性が高い。
・「はたちのつどい実行委員会」の人数については、毎年増減があるが、あらゆる知り合いを通じて人伝が有効であるとの調査結果に基づいた広報活動及び募集活動が必要である。
・ユネスコ連絡協議会及び婦人会の活動については、自主運営ができており事業の有効性が高い。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・事業内容を精査し、適正な補助額で事業を展開しており、効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	公民館活動推進事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	564

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	2 公民館費		基本施策	1	生涯学習の推進
			取組方針	1	生涯学習機会の提供

事業概要	市民の交流機会の創出や教養を高めてもらうために、公民館でのイベントや講座の開催を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	公民館講座・各種教室開催	⑤		⑨	
②	公民館運営審議会	⑥		⑩	
③	公民館へ行こらフェア	⑦		⑪	
④	県公民館連絡協議会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	公民館講座教室数	教室	目標	45	45	50	60	60	公民館講座・教室については、多様な学習ニーズに対応した講座を実施した結果、開設数が目標値を上回った。
			実績	60	58	68			
	＜指標の計算方法＞	各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室数							
成果指標	公民館講座出席率	%	目標	80	80	80	90	90	受講者のニーズを把握し、参加者と講座内容について話し合うことで講座への参加意欲が増し、各地区公民館やコミセンで開催される講座において、平均出席率の目標値を超えることができた。
			実績	75.2	85.8	93.5			
	＜指標の計算方法＞	各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室申込者の平均出席率							
活動指標	公民館へ行こらフェア開催日数	日	目標	15	15	15	25	25	公民館へ行こらフェアは、各公民館の積極的な取組により、開催日数が目標値を超えて実施された。
			実績	23	25	31			
	＜指標の計算方法＞	公民館へ行こらフェア開催日数							
成果指標	公民館へ行こらフェア参加人数	人	目標	500	500	800	1,000	1,000	公民館へ行こらフェアの参加人数は、フェアメニューの見直しや、前年度に人気のあったメニューを続けて開催することなど工夫をすることで目標値を超えることができた。
			実績	744	1,068	1,216			
	＜指標の計算方法＞	公民館へ行こらフェア参加人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
31,963					959	31,004

事業の実績

①公民館講座・各種教室開催
公民館講座（人数は延べ数）
打田地区公民館 21講座　2,077人
粉河地区公民館 10講座　1,158人
那賀地区公民館 7講座　1,134人
桃山地区公民館 6講座　880人
桃山1コミセン　3講座　213人
貴志川地区公民館 9講座　388人
貴志川4コミセン 12講座　1,717人
各種教室（高齢者教室）（人数は延べ数）
打田地区公民館（いきいき交流教室）
12講座　449人
桃山地区公民館　7講座　731人
貴志川地区公民館 8講座 212人
②公民館運営審議会　1回開催
③公民館へ行こらフェア
打田地区公民館
“ジオ”って何？(47人)
「南極の氷」を体感！(71人)
自衛隊から学ぶロープワーク(33人)
クレンズヨガ体験教室（18人）
「災害時の避難方法について考えよう！」(27人)
「避難所の運営について考えよう！」（23人）
「超絶！チョークアート」体験教室(24人)
「おとなの“科学”講演会　宇宙へ行こう！」(65人)
クリスマスコンサート(120人)
夏に疲れた体を癒す健康時短レシピ！（15人）
市民企画「オトナの光る泥団子づくり」（34人）
「ドローン」に挑戦！(6人)
粉河地区公民館
生き物の不思議を調べよう
第1回(3人)　第2回(5人)
夏休みふれあいコンサート(61人)
防災と備蓄講座(16人)
お菓子作り体験(19人)
那賀地区公民館
押し花体験教室(23人)
太極拳＆練功十八法(8人)
己書体験教室(6人)
書道アート教室(5人)
桃山地区公民館
ステンドグラス風絵手紙（11人）
ズンバ(ダンス系フィットネス)(28人)
ウッドバーニング(15人)
韓国語(9人)
多肉植物寄せ植え(15人)
貴志川地区公民館
インド式ヨガ(10人)
「いのち」「人権」について一緒に考えてみませんか（34人）
食品サンプルを作ろう（18人）
お箏を鑑賞しよう(104人)
「ふるさと学習発表会」（343人）
④県公民館連絡協議会負担金　30,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・公民館の利用は、各種団体に加盟している高齢者の割合が多く、高齢者以外の子育て世代など若年層の利用が少ない傾向があり、誰もが気軽に立ち寄る事ができる公民館づくりを進めていくことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・公民館の利用は、各種団体に加盟している高齢者の割合が多く、高齢者以外の子育て世代など若年層の利用が少ない傾向があり、誰もが気軽に立ち寄る事ができる公民館づくりを進める必要がある。
・社会的課題や地域課題解決のための講座やイベントを積極的に開設することで、一部の地区公民館で老若男女（障害の有無に関係なく）を問わず参加者が増加傾向にある。一部ではなくすべての地区公民館で相乗効果による成果向上の余地がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・公民館講座及び公民館へ行こらフェア等の参加者には材料費等を徴収していることから効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	公民館管理運営事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	121

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育
予算科目 款	10 教　育　費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 項	4 社会教育費		基本施策	1	生涯学習の推進
予算科目 目	2 公民館費		取組方針	3	生涯学習施設の適切な管理

事業概要：市民が公民館を安全で快適に利用できるように、公民館の適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	中貴志コミュニティセンター施設管理	⑤	ふれあいコミュニティセンター施設管理	⑨	
②	東貴志コミュニティセンター施設管理	⑥	竜門コミュニティセンター施設管理	⑩	
③	西貴志コミュニティセンター施設管理	⑦	東大井コミュニティセンター施設管理	⑪	
④	丸栖コミュニティセンター施設管理	⑧	粉河・那賀3分館(上名手、麻生津、鞆渕)	⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 コミュニティ施設等利用団体数	団体	目標	1,200	1,200	2,000	2,000	2,000	コミュニティ施設及び公民館分館施設の利用団体数である。中貴志コミュニティセンター改修工事に伴う長期の臨時休館に伴い減少している。
		実績	1,920	1,668	1,397			
＜指標の計算方法＞	コミュニティ施設等利用団体数							
成果指標 コミュニティ施設等利用人数	人	目標	50,000	50,000	60,000	60,000	60,000	コミュニティ施設及び公民館分館施設の利用人数である。中貴志コミュニティセンター改修工事に伴う長期の臨時休館に伴い減少している。
		実績	67,651	64,738	58,238			
＜指標の計算方法＞	コミュニティ施設等利用人数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
173,309			109,700		5,132	58,477

事業の実績

①中貴志コミュニティセンター施設管理
〔修繕〕機械警備機器修繕
　エレベーター電磁接触器取替修繕
〔工事〕耐震改修工事
　照明器具LED化改修工事

②東貴志コミュニティセンター施設管理
〔工事〕照明器具LED化改修工事（6年度繰越分）

③西貴志コミュニティセンター施設管理
〔修繕〕天文台望遠鏡制御システム等修繕
　非常用発電機蓄電池交換修繕
〔工事〕照明器具LED化改修工事（6年度繰越分）

④丸栖コミュニティセンター施設管理
〔修繕〕屋外遊具修繕
〔工事〕照明器具LED化改修工事

⑤ふれあいコミュニティセンター施設管理
〔修繕〕駐車場区画線施工修繕
　正面ガラス取替修繕
　高架水槽パネル取替修繕
　外階段他修繕

⑥竜門コミュニティセンター施設管理
〔修繕〕自動ドア装置修繕

⑦東大井コミュニティセンター施設管理
〔修繕〕電気設備漏電修繕
〔工事〕照明器具LED化改修工事
〔新設〕調理室空調設置

⑧粉河・那賀3分館(上名手、麻生津、鞆渕)施設管理

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・地域と密接に関わるコミュニティセンターや地区公民館分館施設は、地域の生涯学習の拠点であり、市計画（公共施設マネジメント計画、公共施設個別施設計画）に基づき、維持管理や集約化等を進める必要があり、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・市計画（公共施設マネジメント計画、公共施設個別施設計画）に基づき稼働率が低く老朽化の著しい施設は、周辺の耐震化された公共施設や集会機能を有する施設などへの集約化を進め、一定の成果が上がっている。
・各施設とも老朽化に伴う修繕・改修工事が多い状況だが、計画的な維持管理に努め、利用者が安全安心に、また快適に利用できるよう努める必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がややある

・受益者負担の公平性の観点から、施設利用料のあり方について、関係課と引き続き検討していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	人権教育推進事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	561
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営
予算科目 款	10 教　育　費		施策目標	1	人権尊重
予算科目 項	4 社会教育費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現
予算科目 目	3 人権教育費		取組方針	2	人権啓発・教育の推進
事業概要	市民の人権意識の高揚を図るために、講座の開催や啓発、関係機関の補助を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	人権学習講座開催	⑤		⑨	
②	保護者学級補助金	⑥		⑩	
③	識字学級を支援	⑦		⑪	
④	人権ポスター・カレンダー・標語作成	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 じんけん学習カレッジ開催回数	回	目標	5	5	5	5	5	年間5地区公民館で開催する講座等の回数。令和7年度は5地区公民館の内、1地区で人権啓発ポスター展を3日間開催したため増加。
		実績	5	5	7			
＜指標の計算方法＞	じんけん学習カレッジ開催回数							
成果指標 じんけん学習カレッジ参加者数	人	目標	200	200	200	500	500	じんけん学習カレッジの開催回数増加に伴い、参加人数も増加した。
		実績	168	184	509			
＜指標の計算方法＞	じんけん学習カレッジ参加者数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,959		425				3,534

事業の実績

①人権学習カレッジ開催
5地区公民館で開催。参加者509名。

②保護者学級補助金
小学校に在籍する児童の保護者の人権意識を高めるため、様々な人権について学ぶ保護者学級の運営補助を行った。

③識字学級を支援
定例学級開催、交流会や研修会への参加を支援した。

④人権ポスター・カレンダー・標語作成
啓発物資・啓発資料作成
除菌ウェットティッシュ　4,800個
人権啓発カレンダー　400冊
※標語は3年に1回作成のため、令和7年度は実績なし。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・本事業の人権教育推進に関する様々な取組は、児童生徒をはじめ広く市民の人権意識の高揚を図る効果があることから市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・公民館にて入賞作品以外の人権啓発ポスター応募作品の展示会を行い、多くの来場者が見られたため、人権意識の向上に有効であった。
・じんけん学習カレッジの講師料が年々上がってきているが、コスト面を考えると近隣で高額でない講師を探す必要があり、講座のバリエーションを広げるのが難しい状況になってきている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・県からの補助金もあり、費用面での効率性は高いと考えられる。

事務事業の概要

事務事業名	文化財保護事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	558

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	4 文化財保護費		基本施策	2	歴史資産の保護・活用
			取組方針	1	歴史文化の保存・継承

事業概要	市内の文化財を後世に残すために、文化財の保護や活用を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 文化財保護審議会運営	⑤ 全国史跡整備市町村協議会負担金	⑨ 文化財保存活用地域計画協議会運営
	② 発掘調査・研究	⑥ 文化財等保存整備事業補助金	⑩ 文化財の指定
	③ 文化財保護管理委託	⑦ 指定文化財管理費補助金	⑪
	④ 活用事業（講演・企画展等）・啓発	⑧ 無形民俗文化財等保存団体補助金	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 歴史体験教室・企画展等の参加者数	人	目標	600	600	600	600	600	多くの企画展や講演会等の事業を開催したことにより目標を上回ることができた。
		実績	958	521	907			
＜指標の計算方法＞	参加者名簿から算出							
活動指標 歴史体験教室・企画展等の開催数	回	目標	5	5	5	5	5	通常の企画展に加え合併20周年記念事業企画展を開催したこと、隔年開催の華岡青洲講演会を開催したことにより目標を上回ることができた。
		実績	6	5	7			
＜指標の計算方法＞	歴史体験教室・企画展等の開催数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
15,573	3,797	120			6	11,650

事業の実績

①文化財保護審議会運営
・第1回（審議会）5月27日
・第2回（審議会）2月4日
・調査（天然記念物）5月19日
・調査（民俗文化財）10月19日

②発掘調査・研究
・開発事業に伴う発掘調査22件を実施
・昨年度の調査内容をまとめた市内遺跡発掘調査概要報告書を300部作成

③文化財保護管理委託
・指定文化財の内、8件について所有者に保護管理委託を行った。

④活用事業（講演・企画展等）・啓発
・歴史民俗資料館
『第2回紀伊国分寺「鬼瓦」グランプリ』
（製作7月26日～8月11日　参加者42人）
（展示8月19日～9月28日打田生涯学習センター　投票数442票）
歴史体験教室　ワクワクれきし体験『自然の色を楽しもう！草木染め体験』
8月3日　参加者 小学生17人
紀の川市合併20周年記念事業企画展『紀の川市のあゆみ』
8月27日～9月28日　期間中来館者215人
企画展『粉河祭の祭礼具』
11月19日～12月21日　期間中来館者360人
（講演会11月29日　参加者29人）
・旧南丘家住宅
特別開館10月18日～20日、3月1日～3日
来館者は37人
「旧南丘家住宅寄席」10月24日参加者18人
・道の駅青洲の里
講演会「華岡青洲の偉業と全国への伝搬」12月7日　参加者54人
・橋本市教育文化会館
「日本遺産構成自治体3市１町合同葛城修験公開講座」2月22日参加者164人

⑤全国史跡整備市町村協議会負担金
・補助事業について国への要望に関する事務を行った。

⑥文化財等保存整備事業補助金
・百合山の自然と遺跡を生かす会の活動、鞆淵八幡神社本殿ほか１棟防災設備修繕事業、大井邸のイブキ保護管理事業、粉河祭礼整備事業、華岡青洲顕彰事業に補助を行った。

⑦指定文化財管理費補助金
・対象　粉河寺、鞆淵八幡神社、三船神社

⑧無形民俗文化財等保存団体補助金
・対象　2保存団体

⑨文化財保存活用地域計画協議会運営
・第1回（協議会）　7月1日
・第2回（協議会）10月28日
・第3回（協議会）　3月10日

⑩文化財の指定
3月26日付けで九頭神社のクロガネモチ（麻生津中）を市指定文化財として指定した。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・文化財は市の財産であり、後世に文化財を残すためには継続的に保存・活用を行い、市民にその価値を伝えていくことが重要である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・企画展や講演会等、文化財を活用した事業を目標どおり行うことができた。少子高齢化等のため文化財の保護が困難となってきている。地域の文化財を地域住民を含めた市全体で守っていく必要があり、文化財を活用した事業を通じて、市民の文化財への関心を高めることは重要である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・企画展や講演会は、専門の有識者の協力を得て開催を行った。資料を職員で作成しコストを削減している。また歴史体験教室や文化財の説明を紀の川市文化財サポーターの会との協働で行っており、効率よく実施できている。

事務事業の概要

事務事業名	文化財施設管理運営事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	553

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育
予算科目 款	10 教　育　費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 項	4 社会教育費		基本施策	2	歴史資産の保護・活用
予算科目 目	4 文化財保護費		取組方針	1	歴史文化の保存・継承

事業概要	市民が文化財施設を快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 歴史民俗資料館・体験館施設管理	⑤ 旧南丘家住宅管理	⑨		
	② 紀伊国分寺公園管理	⑥ 藤崎弁天管理	⑩		
	③ 西行法師像モニュメント管理	⑦ 文化財看板修繕	⑪		
	④ 旧名手本陣管理	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 旧名手宿本陣利用者数	人	目標	3,000	3,000	5,500	5,500	5,500	令和6年度より第2期整備が開始され、整備が進むことで、本史跡の本来の姿や価値に近づいている。また、雛人形の展示などのイベントや学校教育に利用されることで目標値を上回ることができている。
		実績	3,538	5,226	6,636			
＜指標の計算方法＞	芳名録へ記載されている人数							
成果指標 歴史民俗資料館利用者数	人	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	企画展や講演会等の事業を多く実施したことにより利用者が増加し目標値に近づいた。
		実績	2,022	1,421	2,499			
＜指標の計算方法＞	芳名録へ記載されている人数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
22,625		144	8,400			14,081

事業の実績

①歴史民俗資料館・体験館施設管理
歴史民俗資料館トイレ修繕
歴史民俗資料館浄化槽放流ポンプ取替修繕
体験館空調冷媒ガス漏れ修繕
施設の管理を委託
②紀伊国分寺公園管理
トイレ修繕
駐車場及びスロープ修繕
南門基壇木製階段修繕
③西行法師像モニュメント管理
西行法師像モニュメント用地の借用に関する事務を行った。
④旧名手本陣管理
障子修理
施設の管理を委託
⑤旧南丘家住宅管理
主屋ほか2棟耐震・保存修理工事実施設計
水栓取出修繕
⑥藤崎弁天管理
整備報告書を発行（200部）
⑦文化財看板修繕
八幡塚古墳（下井阪）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・重要文化財や市指定文化財など歴史的な建造物を含む文化財施設は、市民の文化財に対する保護意識や愛着を醸成するために不可欠な施設である。適切に管理し、後世に受け継ぐべきものである。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・歴史民俗資料館で企画展や講演会を開催し、他の施設でも活用事業を開催することで、来館者の増加につなげている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・一部の施設管理や国分寺公園の草刈りを個人に委託し経費を抑えている。国分寺公園や歴史民俗資料館等、施設の状況を把握し、計画的に改修等を進めている。

事務事業の概要

事務事業名	旧名手宿本陣整備事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	552

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費	政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費	施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	4 文化財保護費	基本施策	2	歴史資産の保護・活用
		取組方針	1	歴史文化の保存・継承

事業概要	旧名手宿本陣を後世に残すために、整備や活用を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	紀の川市名手本陣保存整備委員会運営	⑤		⑨	
②	保存整備計画進捗管理	⑥		⑩	
③	保存整備・保存修理	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 旧名手宿本陣利用者数	人	目標	3,000	3,000	5,500	5,500	5,500	令和6年度より第2期整備が開始され、整備が進むことで、本史跡の本来の姿や価値に近づいている。また、雛人形の展示などのイベントや学校教育に利用されることで目標値を上回ることができている。
		実績	3,538	5,226	6,636			
＜指標の計算方法＞	芳名録へ記載されている人数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳				
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
44,724	22,318	2,231	20,000			175

事業の実績

①紀の川市名手本陣保存整備委員会運営
第1回　7月18日、第2回　3月12日

②保存整備計画進捗管理
保存整備委員会や県に指導助言をもらい計画の進捗管理を実施。

③保存整備・保存修理
第2期整備として名手役所外周土塀等復旧工事を実施。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・旧名手宿本陣は市所有の文化財であり、敷地は国史跡、建物3棟は重要文化財に指定されている。地域の歴史を伝える重要な文化財であり、後世に受け継がなければならない。国や県、有識者で構成される保存整備委員会の指導や助言を得て、計画的に事業を実施している。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・関係機関や有識者の指導や助言を受けながら整備を実施しており、本史跡の本来の姿や本質的な価値へ近づいている。適切な整備事業を行うことにより様々な利用者があり、また、学校教育に活用されるなど、利用者数が増加している。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・整備事業は国や県の補助を受け、計画的に実施している。施設管理は地元の個人に委託するなどコストを抑えている。

事務事業の概要

事務事業名	青少年健全育成事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	551

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	5 青少年育成費		基本施策	3	家庭と地域による子供の健全育成の推進
			取組方針	3	地域との交流・活動の推進

事業概要	青少年の健全育成を図るために、関係団体への活動支援や啓発活動を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	青少年育成市民会議活動	⑤		⑨	
②	青少年健全育成事業	⑥		⑩	
③	ガールスカウト補助金	⑦		⑪	
④	少年少女発明クラブ補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 紀の川市少年メッセージ参加者数	人	目標	340	340	250	250	250	生涯学習課所管団体だけでなく、他課所管の団体等に対しても積極的な周知を行い、広報活動の範囲を広げた結果、参加者数の大幅な増加につながった。
		実績	0	203	241			
＜指標の計算方法＞	紀の川市少年メッセージ参加者数（主催者、来賓、発表者、スタッフ含む）							
活動指標 紀の川市青少年健全育成推進員人数	人	目標	100	100	100	100	100	高齢化の進行や社会・労働環境の変化により担い手不足が懸念される中、青少年健全育成推進員の人数は大きな増減なく推移しており、一定の人材確保が図られている。
		実績	98	99	97			
＜指標の計算方法＞	紀の川市青少年健全育成推進員総数							
活動指標 紀の川市少年少女発明クラブ開催日数	日	目標	12	12	12	12	12	紀の川市少年少女発明クラブは、年間を通じて計画どおり12回開催し、参加者に継続した学習機会を提供することで、目標を達成することができた。
		実績	12	12	12			
＜指標の計算方法＞	紀の川市少年少女発明クラブ開催日数							
成果指標 紀の川市少年少女発明クラブ参加人数	人	目標	330	330	330	330	330	紀の川市少年少女発明クラブの参加人数は、開催日が小学校の運動会と重なった等の理由により、目標は達成できなかった。
		実績	241	314	307			
＜指標の計算方法＞	紀の川市少年少女発明クラブ参加人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
3,734						3,734

事業の実績

①青少年育成市民会議活動
「紀の川市少年メッセージ2025」
内容：市内の中学校5校より提出のあった作文1,232作品から8作品を選定し、作文審査及び発表審査を行った。
最優秀賞（1点）、優秀賞（2点）、佳作（5点）及び入選（37点）として表彰を行った。
記念冊子配布部数： 220冊

100,000円

②青少年健全育成事業
紀の川市青少年健全育成推進協議会を中心に、地域・学校・家庭と連携し、各地区での地区事業を実施した。

100,000円
創造性豊かな少年少女を育成するために、科学的な興味・関心を追究する場を提供し、自由な環境の下で創造活動を行った。
紀の川市内の小学4年生から6年生の児童が対象で、令和7年度は定員以上の応募があり、抽選により選ばれた30人がクラブ員として活動を行った。
開催回数：12回

③ガールスカウト補助金
ガールスカウト　粉河・貴志川　2団体
35,000円×2団体

④少年少女発明クラブ補助金

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市内の各種団体から構成されている青少年育成市民会議と市内各地域の推進員で構成されている青少年健全育成推進協議会は、それぞれの役割を果たしているが、次代を担う青少年の健全な育成を目的とした活動であるため、市が事業を委託して実施することは妥当である。
・青少年健全育成団体であるガールスカウト及び紀の川市少年少女発明クラブに対し、補助金を交付して支援することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・青少年が地域においてさまざまな学習体験を行うことができ、有効性が高い。
・地域に根ざした青少年健全育成事業を市内各地で開催することは、市内すべての子供たちに学習の機会を与えるため有効性は高いが、地域独自の活動が多いため市内すべての子供たちが市内のどこに住んでいても各地域の事業を平等に体験し、学ぶ機会を得るためには地域相互の情報共有や意見交換の連携強化、あるいは協力体制の構築を図ることが必要である。
・青少年健全育成団体の支援と育成のために補助金を交付することは、様々な学習体験の企画につながり有効性が高い。
・市民に青少年健全育成の理解を深め、次世代の育成を図る機運を高めてもらうために、青少年育成市民会議活動の啓発を推進し、加盟団体や会員の増加を図ることで、更なる効果を期待できる。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・青少年育成市民会議と青少年健全育成推進協議会の活動形態は全域的な活動と地域に密着した活動に分かれていて、それぞれの団体に事業委託しているため効率性が高い。
・上記２団体（青少年育成市民会議、青少年健全育成推進協議会）の節減努力により事業費については必要最小限で実施しており、効率性は非常に高い。

事務事業の概要

事務事業名	地域子ども会活動支援事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	124

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	5 青少年育成費		基本施策	3	家庭と地域による子供の健全育成の推進
			取組方針	3	地域との交流・活動の推進

事業概要	生徒・児童・幼児の健全育成を図るために、子ども会への活動支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	子ども会活動支援	⑤		⑨	
②	地域子ども会活動支援事業補助金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数	団体	目標	30	30	25	25	25	少子化及び子ども会加入者は、減少しているが、子ども会数は維持できた。
		実績	28	24	24			
＜指標の計算方法＞	紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数							
成果指標 公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数	人	目標	1,600	1,600	1,000	1,000	1,000	少子化及び子ども会加入者減少により、安全共済会の入会者数は減少している。
		実績	925	907	821			
＜指標の計算方法＞	公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数（当初加入者人数）							
成果指標 子ども会活動支援参加者数	人	目標		120	120	120	120	人数は、ほぼ横ばいであるが、指導者研修会の内容について、事前にニーズをつかむことができたことで微増につながった。
		実績	121	122	129			
＜指標の計算方法＞	子ども会活動支援参加者数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,271		540				731

事業の実績

①子ども会活動支援
紀の川市ソフトドッジボール大会開催
開催日：令和7年7月5日（土）
参加チーム：6チーム
参加者：105人
指導者研修会
開催日：令和7年6月15日（日）
参加者：24人

②地域子ども会活動支援事業補助金
（地域総合活動）：市および県補助金
会員数40人以上、活動日数50日以上
補助金額　240,000円
補助子ども会数：0団体
地域子ども会活動支援事業補助金
（地域集団活動）：市および県補助金
会員数20人以上、活動日数12日以上
補助金額　120,000円
補助子ども会数：9団体
地域活動事業補助金（A）：市単独補助金
会員数15人以上、活動日数6日以上
補助金額　60,000円
補助子ども会数：1団体
地域活動事業補助金（B）：市単独補助金
会員数10人以上、活動日数3日以上
補助金額　30,000円
補助子ども会数：0団体

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・子ども会活動は各地域で子供が健やかに成長できるよう地域ぐるみで見守り育てる活動であるため、市が支援することは妥当である。
・子ども会が実施する集団活動や地域活動などを通じて、子供たちの生きる力を育て、地域の教育力を高める活動であるため、事務事業の目的は妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・保護者及び指導者が生徒、児童及び幼児に様々な体験をさせ、子供たちが成長していくうえで、地域と共につながることができる本事業は有効である。
・少子化による子供の減少や地域社会へのつながりの希薄化が要因であり、単位子ども会及び加入人数、市地域活動連絡協議会への加入子ども会数は減少傾向にある。
・地域活動連絡協議会に加盟する単位子ども会が少ないのは、主が少子化が原因であるが、これ以上に子ども会指導者の単年での役員交代や、共働き家庭の増加、また本協議会事業への参加を厭う指導者が多いことも理由となっている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・県からの補助金があるため、費用面での効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	共育コミュニティ推進事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	549

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	5 青少年育成費		基本施策	3	家庭と地域による子供の健全育成の推進
			取組方針	1	共育コミュニティの推進

事業概要：地域社会の活性化と学校を核とした地域づくりを図るために、地域と協働し、子供たちの成長を支える活動を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	地域と学校の連携・協働体制推進事業	⑤		⑨	
②	共育コミュニティ推進	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 地域と学校の連携・協働体制推進事業開催日数	日	目標	119	119	119	100	100	打田地区においては開催場所の変更に伴う準備・周知期間の確保、貴志川地区においては開催場所の工事期間の延長により、地域と学校の連携・協働体制推進事業の開催日数が減少した。
		実績	130	123	61			
＜指標の計算方法＞	地域と学校の連携・協働体制推進事業年間の開催日数							
成果指標 地域と学校の連携・協働体制推進事業参加人数	人	目標	2,000	2,000	1,500	1,000	1,000	打田地区では、開催場所の変更に伴う準備・周知期間の確保等により、開催日数及び参加人数が減少した。貴志川地区では、開催場所の工事期間延長による開催日数の減少や、新たな「こども食堂」の開設による参加者の分散により、参加人数が減少した。
		実績	1,499	1,401	122			
＜指標の計算方法＞	年間の参加人数							
活動指標 共育コミュニティ事業実施回数	回	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	回数は、ほぼ現状維持である。学校ごとの課題や地域住民のニーズが年度ごとに異なるため、実施する活動内容や回数に変動が生じる。
		実績	2,307	1,828	1,964			
＜指標の計算方法＞	年間の実施日数							
成果指標 共育コミュニティボランティア活動人数	人	目標	6,000	6,000	6,000	8,000	8,000	学校ごとの課題や地域住民のニーズが年度ごとに異なるため、実施する活動内容により参加人数に変動が生じる。
		実績	10,549	9,899	8,501			
＜指標の計算方法＞	年間の延べ活動人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,055		451				604

事業の実績

①地域と学校の連携・協働体制推進事業
放課後等、公民館施設などで、安全・安心な子供達の居場所を設け、地域の人々の協力を得て、一緒に過ごすことでコミュニケーション力の向上や学習習慣を身につけられるよう支援している。

・みんなの家（NPO法人　ロッツ）
　活動日数　平日55日
　　土曜日等休日0日　計55日
　参加人数　延べ人数　110人
・こ・はうすきしがわ
　活動日数　平日3日
　　土曜日等休日3日　計6日
　参加人数　延べ人数　12人

②共育コミュニティ推進
　打田地区 実施回数　363回
　　ボランティア延べ人数　1,684人
　粉河地区 実施回数　588回
　　ボランティア延べ人数　1,416人
　那賀地区 実施回数　137回
　　ボランティア延べ人数　469人
　桃山地区 実施回数　315回
　　ボランティア延べ人数　2,380人
　貴志川地区 実施回数　561回
　　ボランティア延べ人数　2,552人

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・社会情勢が急速に変化する中で子供たちを育てる環境を学校と地域で整えていく活動を行うことに市が支援していくことは妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・地域創生の観点からも必要な事業であり、短期的な結果を求めるのではなく長期的な事業展開を進めていく必要がある。
・コミュニティスクールと連携することで、地域の課題と学校の課題に取り組む環境を進めていくことが必要である。

効率性
評価結果：改善の余地がややある
・共育コミュニティボランティアについては無償であるため、コスト面においては改善の余地がない。
・ボランティア、コーディネーター、指導員の負担軽減や次の担い手と人材の発掘と育成が当面の課題となっている。

事務事業の概要

事務事業名	青少年センター運営事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	550

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス
予算科目 目	5 青少年育成費		基本施策	3	家庭と地域による子供の健全育成の推進
			取組方針	2	子供の安全確保と環境の整備

事業概要：青少年の非行防止及び健全育成を図るために、青少年センターの円滑な運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	青少年センター運営	⑤	関係機関との連携業務	⑨	
②	青少年センター施設管理	⑥		⑩	
③	啓発・広報・補導活動	⑦		⑪	
④	青少年防犯業務	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 街頭補導事業実施回数	回	目標	320	320	320	320	320	街頭補導事業実施回数は、目標値を達成することができた。
		実績	346	346	331			
＜指標の計算方法＞ 街頭補導事業年間実施回数								
活動指標 広報啓発事業実施回数	回	目標	90	90	90	90	90	広報啓発事業実施回数は、目標を達成することができた。
		実績	106	109	106			
＜指標の計算方法＞ 街頭啓発、各種教室開催回数及びチラシ配布回数の合計								
活動指標 環境浄化事業実施回数	回	目標	140	140	120	220	220	環境浄化事業実施回数について、これまでは複数個所の回収を1回とまとめてカウントしていたところを、集計方法を統一するために見直し、それぞれ個別に１箇所を１カウントとする方法へ基準を変更したため、大幅に増加した。※従来の集計方法では、127回であり、R7年度の目標は達成している。
		実績	117	106	223			
＜指標の計算方法＞ 書店等立入回数及び自販機調査数の合計								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
18,489		55				18,434

事業の実績

①青少年センター運営
・青少年補導委員会
総会　1回
役員会　4回

②青少年センター施設管理
・相談室のエアコンが故障していたため、取替工事を行った。

③啓発・広報・補導活動
青少年の健全育成を目的とし、非行防止・事故防止のため、広報活動や補導活動を実施した。
・広報啓発事業
街頭啓発　74回
各種教室（講座）　18回
チラシ等配布　14回
計　106回
・環境浄化事業
販売・レンタル　3回
コンビニ・スーパー　88回
その他書店等　132回
計　223回

④青少年防犯業務
年間を通じ地域・学校・警察・関係施設などと連携協力し、不審者情報等の共有に努めた。

⑤関係機関との連携業務
年間を通じ地域・学校・警察・関係施設などと連携協力し、青少年の健全育成に努めた。

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・青少年防犯業務及び啓発・補導活動について一部民間団体とも連携を図っているが、触法少年の個人情報や不審者の判断をも扱う業務であるため、行政において実施するのが妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がややある
・青少年に関する問題は常に社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化してきており、事業実施の有効性が高い。
・社会情勢の変化に対応しながら、より関係機関と連携を密にし、啓発・広報・補導活動などに取り組む必要がある。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・青少年センターは委託事業に適さないが、現在4名の会計年度任用職員を専任で配置しているためコスト面での効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	図書館運営事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	546

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	6 図書館費		基本施策	1	生涯学習の推進
			取組方針	4	図書館の充実

事業概要	市民に文化や教養を高めてもらうために、図書館の蔵書購入やイベントの開催等を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 図書館運営	⑤ 読書活動推進	⑨		
	② 利用促進（講演会・イベント開催）	⑥ 移動図書館事業	⑩		
	③ 図書・雑誌購入	⑦ 図書館パワーアップ事業	⑪		
	④ システム・図書データ管理	⑧	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 図書館利用者登録率（人口比）	%	目標	48	49	52	53	54	登録推進の効果により、登録率は増加した。
		実績	48	50	51.9			
＜指標の計算方法＞ 図書館利用者登録率（人口比）								
成果指標 図書館貸出冊数（年間）	冊	目標	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	R6年度までは個人への貸出冊数を実績値としていたが、R7年度からは個人および団体等を含む貸出冊数を実績とすることに変更。そのため、前年度までの方法で算出した数値より大幅に増加した。※従来の集計方法では268,394冊であり、前年度比微減となった。
		実績	255,853	269,458	285,024			
＜指標の計算方法＞ 図書館貸出冊数（年間）								
活動指標 イベント実施回数	回	目標	50	50	50	50	50	前年度と同程度のイベント数を計画どおり実施したため、開催回数は横ばいとなった。
		実績	41	52	52			
＜指標の計算方法＞ イベント実施回数（年間）								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
100,294						100,294

事業の実績

①図書館運営
- 開館日数　河北図書館　296日
  河南図書館　292日
- 来館者数　河北図書館　116,432人
  河南図書館　104,664人
- 貸出者数　78,085人
  （内訳）河北図書館　38,372人
  河南図書館　32,345人
  移動図書館　1,697人
  支所・公民館　5,671人
- 貸出冊数　285,024冊
  （内訳）　河北図書館　147,631冊
  河南図書館　120,892冊
  移動図書館　8,188冊
  支所・公民館　8,313冊
- 1日当たり貸出者数　河北図書館　130人
  河南図書館　111人
- 1日当たり貸出冊数　河北図書館　499冊
  河南図書館　414冊

②利用促進（講演会・イベント開催）
- イベント実施回数　河北図書館　32回
  河南図書館　20回
- イベント参加人数　河北図書館 3,013人
  河南図書館 1,046人

③図書・雑誌購入
- 蔵書冊数　河北図書館　111,295冊
  河南図書館　95,264冊
- 購入雑誌種数　河北図書館　73種
  河南図書館　72種
- 購入新聞種数　河北図書館　8種
  河南図書館　8種

④システム・図書データ管理
- 図書館システム管理に係る契約件数 6件
- 資料購入契約件数 7件
- 移動図書館運営管理に係る契約件数 1件

⑤読書活動推進
- サードブック事業の実施
- 紀の川市中高生ビブリオバトル大会開催
- 市内小中学校司書との連携・協働
- 市内小中学校図書館支援
- おはなし会の実施
  河北図書館25回　参加人数　275人
  河南図書館18回　参加人数　139人
- 読書推進に係るイベントの実施
  河北図書館 6回
  河南図書館 5回

⑥移動図書館事業
- 来館者数　4,698人
- 貸出者数　1,697人
- 貸出冊数　8,188冊
- 蔵書冊数　6,613冊

⑦
- 絵本架改修
- 個別ブース設置
- ロビー什器設置
- ウッドデッキ什器設置
- 閲覧用ハイチェア設置
- 絵本架「つみ木ばこ」設置
- ブックリターンカート設置

事業の事後評価

妥当性
評価結果　改善の余地がない

・多様化する市民ニーズを把握し、利便性やサービスの向上を目指した図書館運営を市が実施することは妥当である。

有効性
評価結果　改善の余地がややある

・データ分析を活用してさらなる図書館運営の向上を目指す必要がある。

効率性
評価結果　改善の余地がない

・図書館職員12名のうち、正職員2名で、残りの10名が会計年度任用職員であることから、効率性は高い。

事務事業の概要

事務事業名	図書館施設管理事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	987

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	6 図書館費		基本施策	1	生涯学習の推進
			取組方針	4	図書館の充実

事業概要：市民が図書館を安全で快適に利用できるように、維持管理を適正に行う事業

事務事業を構成する細事業

①	河北図書館施設管理	⑤	鞆渕出張所図書コーナー設置	⑨	
②	河南図書館施設管理	⑥		⑩	
③	蔵書拠点管理	⑦		⑪	
④	移動図書館管理	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 図書館施設管理業務	件	目標	14	14	14	14	14	設備保守にかかる業務委託契約に加え、図書館パワーアップ事業にかかる施設改修等の契約が増加した。
		実績	16	10	26			
＜指標の計算方法＞ 施設維持管理に必要な業務委託・修繕等の件数								
成果指標 図書館利用者数	人	目標	80,000	85,000	78,000	78,000	78,000	R6年度までは個人利用者数を実績値としていたが、R7年度からは個人および団体等を含む利用者数を実績とすることに変更。そのため、前年度までの方法で算出した数値から大幅に増加した。※従来の集計方法では72,771人であり、前年度より増加した。
		実績	66,242	72,436	78,085			
＜指標の計算方法＞ 図書館利用者数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
15,025						15,025

事業の実績

①河北図書館施設管理
図書館パワーアップ事業
・ウォーターサーバー設置工事
・ウォーターサーバー賃貸借契約

修繕
・防犯カメラ増設
・温水器修繕
・温水器取替修繕

②河南図書館施設管理
業務委託
・清掃業務（日常清掃）
・貯水槽清掃業務
・機械警備業務
・電気保安管理業務
・空調設備保守点検業務
・エレベーター保守点検業務
・消防設備保守点検業務
・浄化槽保守点検業務
・植木管理業務
・フロン漏えい点検業務

図書館パワーアップ事業
・ウォーターサーバー設置工事
・ウォーターサーバー賃貸借契約

修繕
・防犯カメラ入替

③蔵書拠点管理
委託、修繕実績なし

④移動図書館管理
業務委託
・移動図書館運営管理業務

修繕
・ベアリンググリスアップ
・タイヤ交換
・車検整備

⑤鞆渕出張所図書コーナー設置
・面積　約13.99㎡
・書架数　7段5連
・蔵書冊数　1,013冊
・その他設備　Wi-Fi整備　新聞配架
インターネット用タブレット1台

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・利用者の多様なニーズに対応するための施設づくり、図書館運営事業と連動させながらの維持管理を適正に行うことが望ましく、現在の事業実施方法が妥当である。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・各施設ともに、利用者が安全安心に、またより快適に利用できるよう適正に管理されている。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・移動図書館業務を委託することで効率性を図り、他部署とも協力しながら適切な施設管理が行われている。

事務事業の概要

事務事業名	生涯学習施設管理運営事業	担当課	生涯学習課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	543

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	4 社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	7 生涯学習施設費		基本施策	1	生涯学習の推進
			取組方針	3	生涯学習施設の適切な管理

事業概要	市民が生涯学習施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 打田生涯学習センター施設管理	⑤ 那賀総合センター施設管理	⑨		
	② 東国分教育集会所施設管理	⑥ 西元町教育集会所施設管理	⑩		
	③ 古和田教育集会所施設管理	⑦ 桃山会館施設管理	⑪		
	④ 粉河ふるさとセンター施設管理	⑧ 貴志川生涯学習センター施設管理	⑫		

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 生涯学習施設使用団体数	団体	目標	1,800	1,800	2,500	2,500	2,500	生涯学習施設の利用団体数である。那賀地区公民館所管の分館3館を集約したことに伴い増加している。
		実績	2,494	2,726	3,071			
＜指標の計算方法＞	生涯学習施設使用団体数							
成果指標 生涯学習施設利用人数	人	目標	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	生涯学習施設の利用人数である。粉河地区所管の分館3館及び那賀地区公民館所管の分館3館を集約したことに伴い増加している。
		実績	121,354	123,036	139,642			
＜指標の計算方法＞	生涯学習施設利用人数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
298,577			153,600		6,581	138,396

事業の実績

①打田生涯学習センター施設管理
〔修繕〕太鼓張替修繕
　　空調設備修繕(機械室送風機取替等)
〔工事〕電気高圧機器更新工事

②東国分教育集会所施設管理
（　修繕及び工事なし　）

③古和田教育集会所施設管理
（　修繕及び工事なし　）

④粉河ふるさとセンター施設管理
〔修繕〕煙感知器及び消火器取替修繕
　　駐車場インターロッキング陥没修繕
　　湧水ポンプ取替修繕
〔工事〕トイレ改修工事

⑤那賀総合センター施設管理
〔修繕〕浄化槽ブロワー修繕
〔工事〕エレベーター新設工事

⑥西元町教育集会所施設管理
（　修繕及び工事なし　）

⑦桃山会館施設管理
〔修繕〕散水栓増設
〔工事〕玄関ホール空調設備改修工事

⑧貴志川生涯学習センター施設管理
〔修繕〕文化ホール緞帳修繕
〔工事〕照明器具ＬＥＤ化改修工事
　　非常用発電機更新工事

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・地域と密接に関わる生涯学習施設は、地域の生涯学習の拠点であり、市計画（公共施設マネジメント計画、公共施設個別施設計画）に基づき、維持管理を進める必要があり、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・市計画（公共施設マネジメント計画、公共施設個別施設計画）に基づき稼働率が低く老朽化の著しい施設は、周辺の耐震化された公共施設や集会機能を有する施設などへの集約化を進め、一定の成果が上がっている。
・各施設とも老朽化に伴う修繕工事等が多い状況だが、計画的な維持管理に努め、利用者が安全安心に、また快適に利用できるよう努める必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・受益者負担の公平性の観点から、施設使用料のあり方について関係課と引き続き検討していく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	スポーツ推進委員協議会運営事業	担当課	生涯スポーツ課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	542

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	5 保健体育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	1 保健体育総務費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実
			取組方針	1	スポーツ推進体制の充実

事業概要	市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ推進委員に行政と地域住民のパイプ役となってもらうための支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	スポーツ推進委員協議会運営	⑤		⑨	
②	全国スポーツ推進委員連合会負担金	⑥		⑩	
③	県スポーツ推進委員協議会負担金	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 研修等参加回数	回	目標	3	3	3	3	3	全国・近畿スポーツ推進委員研究協議会・和歌山県新任スポーツ推進委員研修会に参加した。和歌山県スポーツ推進委員研究協議会は、近畿スポーツ推進委員研究協議会和歌山大会に含まれる。
		実績	4	2	3			
＜指標の計算方法＞	スポーツ推進委員関係の研修等への参加回数							
成果指標 研修等参加人数	人	目標	30	30	30	30	30	近畿スポーツ推進委員研究協議会が和歌山県（田辺市）開催であったことや、県主催の研修会への参加者が増えたが、目標に大きく届いていない。今後は、参加人数増加のため全国・近畿・県研究協議会に積極的に参加していく。
		実績	8	6	15			
＜指標の計算方法＞	スポーツ推進委員関係の研修等への参加人数							
成果指標 スポーツ推進委員数	人	目標	43	43	43	43	43	定員数が43人。近畿大学生物理工学部と連携し、9人の大学生が新規加入となっている。
		実績	36	43	43			
＜指標の計算方法＞	スポーツ推進委員の人数（基準日：年度末）							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
1,474						1,474

事業の実績

①スポーツ推進委員協議会運営
・スポーツ推進委員　43人
・スポーツ推進委員研修等参加人数
　国　　1人
　近畿　　6人
　県　　0人
　県新任　8人

②全国スポーツ推進委員連合会負担金
　43人　21,500円

③県スポーツ推進委員協議会負担金
　43人　43,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・スポーツ基本法により市教育委員会が委嘱することとなっているため、市が実施することが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・近畿大学生物理工学部と連携することで、女性委員や若年層の委員が全体の4割程度まで増加したが、割合としては低いままなので、これらの層の加入を今後も促していきたい。
・地域に密着した教室等を開催し、スポーツ振興に努めている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・年間28,000円の報酬。委員については、会議・イベント等に参加してもらっている。

事務事業の概要

事務事業名	生涯スポーツ振興事業	担当課	生涯スポーツ課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	130

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	5 保健体育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	2 生涯スポーツ振興費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実
			取組方針	2	生涯を通じたスポーツ活動の推進

事業概要	市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、関係機関等への運営の参画や補助金の交付等の支援を行う事業

事務事業を構成する細事業			
① スポーツ振興・啓発	⑤ 県スポーツ施設協会負担金	⑨ 総合型地域スポーツクラブ事業補助金
② スポーツ賞表彰	⑥ 県レクリエーション協会負担金	⑩ スポーツ大会派遣費補助金
③ スポーツインストラクター派遣委託料	⑦ 県B&G地域海洋センター連絡協議会負担金	⑪ スポーツキャンプサポート実行委員会負担金
④ 近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会負担金	⑧ 体育協会補助金	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 事業実施数	事業	目標	88	88	88	88	88	スポーツ人口の高齢化もあり、事業数が前年度を下回り、目標値にもまだまだ下回っている。
		実績	47	48	46			
＜指標の計算方法＞ 体育協会加盟団体が実施した事業数（年間）								
活動指標 加盟団体数	団体	目標	34	34	34	34	34	加盟団体数は、横這いで現状維持している。
		実績	32	33	33			
＜指標の計算方法＞ 体育協会に加盟している団体数（競技種目別連盟等）								
活動指標 登録人数	人	目標	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	加盟団体数が、現状維持で、登録人数も現状維持している。
		実績	2,842	2,707	2,745			
＜指標の計算方法＞ 体育協会の加盟団体（競技種目別連盟等）に加入している人数								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
9,327						9,327

事業の実績

①スポーツ振興・啓発
・市広報、市HP、LINEを活用し、イベントや各教室等の周知を行った。

②スポーツ賞表彰
・表彰式開催日：11月22日（土）
・推薦依頼件数：410件
・推薦件数：個人　20件、団体　4件
・選考委員会開催数：1回（10月1日）
・スポーツ賞受賞者
　個人：スポーツ顕彰　3人
　　スポーツ奨励賞　11人
　団体：スポーツ賞　1団体
　　スポーツ奨励賞　2団体
　　特別賞　1団体

③スポーツインストラクター派遣委託料
・委託料：761,400円
　貴志川トレーニングプラザ（24回）
　那賀体育館トレーニングルーム（23回）

④近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会
・負担金：0円
　令和6年度で脱退したため

⑤県スポーツ施設協会負担金
・負担金：15,000円

⑥県レクリエーション協会負担金
・負担金：3,000円

⑦県B&G地域海洋センター連絡協議会負担金
・負担金：0円
　令和6年度で脱退したため

⑧体育協会補助金
・補助金：2,951,044円
　加盟団体数：33団体、加盟チーム：160チーム、事業数：46

⑨総合型地域スポーツクラブ事業補助金
・補助金：60,000円
　桃山体育王国スポーツクラブ

⑩スポーツ大会派遣費補助金
・補助金：967,530円
　スポーツ少年団加盟団体：23団体
　体育協会加盟団体：5団体
　その他：2団体

⑪スポーツキャンプサポート実行委員会負担金
・負担金：0円
　ハンドボールナショナルチームを誘致できなかったため

事業の事後評価

妥当性
評価結果　改善の余地がない
・市のスポーツ振興を担う団体や個人等の育成及び発掘を行っていくには、市が実施することが妥当といえる。

有効性
評価結果　改善の余地がややある
・市民ニーズに合わせたスポーツを対象に、初心者でも気軽に参加できる教室等を開催していくには、各種団体の専門性に頼らなければならないので、各団体と協議をし実施種目の検討を行う必要がある。

効率性
評価結果　改善の余地がややある
・各種団体の専門知識やノウハウを活用することで、効率よく事業の充実を図ることができ、補助金の見直しや、精査することでコスト削減につながる。

事務事業の概要

事務事業名	スポーツイベント開催事業	担当課	生涯スポーツ課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	539

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	5 保健体育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	2 生涯スポーツ振興費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実
			取組方針	2	生涯を通じたスポーツ活動の推進

事業概要	市民（大会参加者）にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ教室やイベント等の開催を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	スポーツフェスティバル開催	⑤	桃源郷マラソン大会補助金	⑨	
②	市町村対抗ジュニア駅伝参加支援	⑥	教室開催（B&G事業）	⑩	
③	スポーツ教室開催	⑦		⑪	
④	市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	スポーツ教室・大会等事業数	事業	目標	10	10	10	10	10	昨年度と同数の教室・大会等は、開催することができたが、教室を開催する講師獲得が難しい。
			実績	7	10	10			
	＜指標の計算方法＞	実施したスポーツ教室・大会等の事業数の合計							
成果指標	スポーツ教室・大会等事業参加人数	人	目標	4,450	4,450	4,450	4,450	4,450	参加人数は、増加傾向。市民ニーズに寄り添えた教室・大会等が開催できたが、目標を大きく下回っている。
			実績	1,971	2,288	2,886			
	＜指標の計算方法＞	実施したスポーツ教室・大会等の参加人数の合計							
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								
			目標						
			実績						
	＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
6,373		5			25	6,343

事業の実績

①スポーツフェスティバル開催
・実施日：10月12日
・実施内容：リレーマラソン、フルーツかるた、運動遊び、健康体操&健康体力測定、歩行測定、トレーニングルーム無料開放（参加者：1,078人）

②市町村対抗ジュニア駅伝参加支援
・選考会：11月23日、11月29日、12月3日
・練習：12月17日～2月7日
・大会当日：2月8日　29チーム中　8位

③スポーツ教室開催
・スポーツ教室：4月～3月実施
・実施内容：健康体操、親子体操、キッズ体操、ジュニア体操、卓球、ピックルボール、スポーツウエルネス吹矢　（参加者：740人）

④市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金
・補助金：1,233,218円
・選手：20人　　指導者：4人

⑤桃源郷マラソン大会補助金
・補助金：4,365,697円
・第17回紀の川市桃源郷ハーフマラソン
・開催日：令和7年4月6日（参加人数：1,044人）

⑥教室開催（B&G事業）
・紀の川市那賀B&G海洋センター解体に伴い事業終了

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市民ニーズの把握等、民間や各種団体を活かすためにも、市の関与が必要であり、市が実施することが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・「心身ともに健康な生活を送る」という目的に合った事業を遂行できており、有効である。
・参加人数が目標値を大きく下回っているので、より効果のある増加策を検討する必要がある。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・専門知識やノウハウを持った講師や団体を活用し、事業の幅を拡げていく必要がある。
・ジュニア駅伝選手送迎に伴う職員の負担軽減する必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	スポーツ少年団運営事業	担当課	生涯スポーツ課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	540

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	5 保健体育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	2 生涯スポーツ振興費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実
			取組方針	1	スポーツ推進体制の充実

事業概要	青少年がスポーツを通じて健康な身体をつくり、よりよい社会人となってもらうために、スポーツ少年団の運営に支援を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	スポーツ少年団運営	⑤		⑨	
②	スポーツ少年団指導者協議会負担金	⑥		⑩	
③	スポーツ少年団運営費補助金	⑦		⑪	
④	スポーツ少年団資格取得費補助金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	スポーツ少年団募集チラシ発行回数	回	目標	1	1	1	1	1	各団が用意した要項等を市で取りまとめて作成したチラシを令和7年度末に配布。
			実績	1	1	1			
	＜指標の計算方法＞	市内の保育所（園）年長、小学校1～6年生、中学校1・2年生に団員募集チラシを配布する回数							
成果指標	スポーツ少年団加入率	%	目標	17.35	17.35	17.35	17.35	17.35	スポーツ少年団の加入率は、年によって増減はあるものの、スポーツに対する意欲は高く、ほぼ横這いで推移している。
			実績	18.78	18.5	19.4			
	＜指標の計算方法＞	市スポーツ少年団の市内小中学生の加入率							
成果指標	スポーツ少年団団数	団	目標	55	55	55	55	55	少子化の影響による児童の減少により団活動を継続していくため、団の統合が続いている。
			実績	50	49	48			
	＜指標の計算方法＞	市スポーツ少年団の団数							
成果指標	スポーツ少年団団員数	人	目標	750	750	750	750	750	令和7年度は、団員数は微増傾向であるが、今後は少子化の影響により団員減少が予想される。
			実績	764	737	753			
	＜指標の計算方法＞	市スポーツ少年団に所属する小中学生の人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,770						2,770

事業の実績

①スポーツ少年団運営
・本部総会：5月21日
・指導者協議会：5月9日、3月4日
・入団式、体力テスト：4月19日

②スポーツ少年団指導者協議会負担金
・負担金：44,730円

③スポーツ少年団運営費補助金
・補助金：2,589,245円
48団体　指導者数：126人
役員・スタッフ数：141人
団員数：753人

④スポーツ少年団資格取得費補助金
・補助金：136,500円（12人分）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・スポーツを通じて青少年の健全育成を図り、その活動を実施するため、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

・少子化の影響により団体数が減少している中、スポーツ少年団への加入率は目標値を上回っているため、事業については有効であるが、今後、団活動を継続していくために団の統合が進むと予想される。

効率性

評価結果　改善の余地がない

指導者がボランティアで指導や団運営に携わっているためコスト削減の余地がない。

事務事業の概要

事務事業名	スポーツ交流事業	担当課	生涯スポーツ課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	983

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	5 保健体育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	2 生涯スポーツ振興費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実
			取組方針	2	生涯を通じたスポーツ活動の推進

事業概要	市民のスポーツ振興と健康づくりを図るために、関係機関と相互協定に基づく交流を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	児童派遣	⑤		⑨	
②	体育・スポーツ推進協議会運営	⑥		⑩	
③	指導講師招へい	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 紀の川市体育・スポーツ推進協議会開催数	回	目標	2	2	2	2	2	2回の協議会を開催し、審議を行った。
		実績	2	2	2			
＜指標の計算方法＞	年間協議会開催数							
成果指標 児童派遣人数	人	目標	30	30	30	30	30	市内小学6年生30人を派遣することができた。
		実績	30	30	30			
＜指標の計算方法＞	日体大への児童派遣人数							
成果指標 講師招へい・講座開催数	回	目標	1	1	1	1	1	年中児・年長児とその保護者を対象とし、身体を動かすチカラを楽しみながら高める運動プログラムを学ぶための講習会を開催した。
		実績	1	1	1			
＜指標の計算方法＞	日体大からの講師招へいによる講座開催回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
2,263				1,000	150	1,113

事業の実績

①児童派遣
・日体大への児童派遣(市内小学6年生30人)
・8月21日～22日

②体育・スポーツ推進協議会運営
・2回開催（R7.5月、R8.2月）
・日体大主催事業（NITTAIDAI×自治体フォーラム2025）教育部長参加（11月14日）

③指導講師招へい
・12月6日、日体大から講師を招へいし、「アクティブチャイルドプログラム」に基づく運動プログラムを実施
・保育園児とその保護者を対象として、75人が参加

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・日本体育大学と市の協定に基づく事業のため、市が実施することは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

日本体育大学の専門性を活用し、事業を効果的に継続できており、今後も充実した内容を日本体育大学と調整していく。

効率性

評価結果　改善の余地がない

コストは削減の余地がないものの旅費が大半を占めるので、現状が適切である。

事務事業の概要

事務事業名	体育施設管理運営事業	担当課	生涯スポーツ課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	131

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	5 保健体育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ
予算科目 目	3 体育施設費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実
			取組方針	3	スポーツ施設の充実と適切な管理

事業概要	市民が体育施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業					
	① 体育館施設管理	⑤ 夜間照明施設管理	⑨ 貴志川スポーツ公園施設管理
	② 粉河武道館施設管理	⑥ 粉河西部・中部運動場施設管理	⑩
	③ パークゴルフ場施設管理	⑦ 奥安楽川広場施設管理	⑪
	④ トレーニング施設管理	⑧ 長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理	⑫

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 年間利用者数	人	目標	232,000	232,000	232,000	232,000	232,000	利用者数は前年とほぼ同数であり、市民等がスポーツに触れる機会や活動の場が提供できている。
		実績	193,683	213,368	210,216			
＜指標の計算方法＞	社会体育施設全体の年間利用者数							
成果指標 施設使用料	円	目標	14,006,000	14,006,000	14,006,000	14,006,000	14,006,000	主に貴志川スポーツ公園における利用者数増加に伴い、施設使用料収入が増加している。
		実績	12,078,745	11,279,465	11,676,495			
＜指標の計算方法＞	社会体育施設全体の使用料							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
129,510			54,300		11,676	63,534

事業の実績

施設利用状況

①体育館施設管理
- 粉河体育館　804件　21,053人
- 那賀体育館　666件　14,499人
- 桃山勤労者体育館　784件　16,484人
- 貴志川体育館　1,084件　15,415人

②粉河武道館施設管理
340件　3,279人

③パークゴルフ場施設管理
2,839組　13,780人

④トレーニング施設管理
- 那賀体育館トレーニングルーム　4,818人
- 貴志川トレーニングプラザ　17,666人

⑤夜間照明施設管理
- 粉河西部・中部運動場夜間照明施設管理
  - 西部運動場　35件　612人
  - 中部運動場　177件　4,691人
- 那賀中学校・調月小学校夜間照明施設管理
  - 那賀中学校　37件　540人
  - 調月小学校　105件　2,889人
- 貴志川スポーツ公園夜間照明施設管理
  - ソフトボール場　101件　1,831人
  - テニスコート　311件　1,546人

⑥粉河西部・中部運動場施設管理
- 西部運動場　69件　1,277人
- 中部運動場　133件　1,975人

⑦奥安楽川広場施設管理
17件　520人

⑧長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理
405件　11,331人

⑨貴志川スポーツ公園施設管理
- 野球場　202件　10,902人
- ソフトボール場　376件　16,680人
- テニスコート　2,449件　48,428人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がややある

- 市民が利用する施設であるため、備品や設備等の充実を図るなど環境を整えたうえで適正な管理が必要である。
- 運動公園施設も含め老朽化した施設が多いため、施設の再配置や集約化などについて検討する必要がある。

有効性

評価結果　改善の余地がややある

- 安全で快適に利用できる施設を目指し、備品や設備等の充実を図るなど市民のニーズと合致した環境整備をおこなう。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

- 利用者の増加と運営効率の観点から、指定管理者制度等の民間活力の導入も検討していく必要がある。
- 施設使用料の減免にかかる市の統一基準を精査し、運用に向けた庁内での調整が必要である。

事務事業の概要

事務事業名	学校給食運営事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	533
会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育
予算科目 款	10 教　育　費		施策目標	2	学校教育
予算科目 項	5 保健体育費		基本施策	1	学校教育環境の充実
予算科目 目	4 学校給食費		取組方針	5	学校給食の充実
事業概要	児童、生徒に安全、安心な給食を提供するために、調理配送委託先への指導監督や給食の管理運営を行う事業				

事務事業を構成する細事業					
①	学校給食運営・安全対策	⑤	県学校栄養士研究会負担金	⑨	
②	学校給食委託	⑥	栄養教諭設置期成会負担金	⑩	
③	給食配送車管理	⑦		⑪	
④	全国学校栄養士協議会負担金	⑧		⑫	

指標の実績

指標名		単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標	年間給食実施日数	日	目標	202	202	202	202	202	粉河学校給食センターが粉河、那賀管内7小学校及び2中学校。河南学校給食センターが打田、桃山、貴志川管内8小学校う及び3中学校に給食を調理、配送。
			実績	201	201	202			
	＜指標の計算方法＞	粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食実施日数の平均							
成果指標	年間給食実食数	食	目標	900,000	900,000	900,000	900,000	850,000	安全・安心な学校給食を粉河学校給食センターが1日約1,200食。河南学校給食センターが1日約3,300食を調理した。
			実績	869,323	849,233	843,536			
	＜指標の計算方法＞	粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食食数の合計							
活動指標	フルーツ給食の実施回数	回	目標	34	34	34	34	34	学校給食に紀の川市産フルーツを食材として使用し、食育の一環として活用する。令和7年度のフルーツ給食実施回数は年間を通じて粉河学校給食センターで18回、河南学校給食センターで18回の合計36回実施した。
			実績	40	40	36			
	＜指標の計算方法＞	粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した回数							
成果指標	年間フルーツ給食の実食数	食	目標	67,000	67,000	67,000	67,000	67,000	地産地消を推奨し、児童・生徒に郷土の産業について理解を深めてもらう。
			実績	85,476	81,856	73,580			
	＜指標の計算方法＞	粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した実食数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
563,249		95,728	14,100		33,248	420,173

事業の実績

①学校給食運営・安全対策

・学校給食食材費
粉河学校給食センター　72,069,893円
河南学校給食センター　204,026,587円

学校給食に紀の川市産のフルーツを食材として使用し、食育の一環として活用した。
・フルーツ給食食材費
粉河学校給食センター　690,250円
河南学校給食センター　1,900,730円

②学校給食委託
・粉河、河南学校給食センター
（給食調理・配送・施設管理）
177,579,600円

③給食配送車管理
・粉河学校給食センター
配送車：2ｔ車　3台、軽貨物車1台
・河南学校給食センター
配送車：2ｔ車　5台

④全国学校栄養士協議会負担金
・7,000円×3名分（粉河1名、河南2名）
21,000円

⑤県学校栄養士研究会負担金
・一律5,000円
・2,000円×3名分（粉河1名、河南2名）
6,000円

⑥栄養教諭設置期成会負担金
・5,000円×3名分（粉河1名、河南2名）
15,000円

※参考（④～⑥について）
共同調理場における栄養士の配置人数
（文部科学省教職員定数より）

1,500食以下　1名（粉河）
1,501食～6,000食　2名（河南）

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

安全安心な学校給食を提供するために今後も市が実施していくことが妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

適切な栄養の摂取による心身の発達、健康の保持推進のために、栄養バランスを考えた安全安心な給食を提供するだけでなく、地産地消の積極的な推進や地元産果物を使用したフルーツ給食など、食育、シビックプライドの醸成など様々な観点から大変有意義な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

学校給食の調理、配送、施設の保守及び衛生管理業務を委託しており、効率化が図られている。

事務事業の概要

事務事業名	学校給食センター管理事業	担当課	教育総務課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	1087

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	10 教　育　費		政策目標	2	子育て・教育
予算科目 項	5 保健体育費		施策目標	2	学校教育
予算科目 目	4 学校給食費		基本施策	1	学校教育環境の充実
			取組方針	5	学校給食の充実

事業概要：児童、生徒に安全な給食を滞りなく提供するために、学校給食センター維持管理を適切に行う事業

事務事業を構成する細事業

①	粉河学校給食センター施設管理	⑤		⑨	
②	河南学校給食センター施設管理	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 施設設備の点検、メンテナンス、改良工事件数	件	目標	15	15	15	15	15	定期的なメンテナンス修繕や法定検査を実施することにより、施設の不備による原因で学校給食を提供できなくなる事態を防ぐ。
		実績	12	16	14			
＜指標の計算方法＞	粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備（厨房設備除く）のメンテナンス修繕件数、法定検査、委託点検、改良工事の合計件数（予算計上分）							
活動指標 施設設備の緊急を要する修繕・工事件数	件	目標	25	25	25	25	25	施設の経年劣化により年々増加する突発的な修繕等について、随時適正に対応することにより、学校給食が提供できなくなる事態を防ぐ。
		実績	32	34	38			
＜指標の計算方法＞	粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備（厨房設備除く）の予定していない修繕と工事の合計件数（予算計上していないもの）							
成果指標 施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数	日	目標	0	0	0	0	0	令和7年度において、突発的な事故や故障等による給食の停止は無かった。
		実績	0	0	0			
＜指標の計算方法＞	施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
33,691			18,000			15,691

事業の実績

①粉河学校給食センター施設管理

- 法定及び定期検査　3件　548,900円
- 改良工事　2件　15,876,300円
- 緊急修繕　13件　2,071,355円

②河南学校給食センター施設管理

- 法定及び定期検査　2件　1,679,700円
- メンテナンス修繕　7件　3,368,354円
- 緊急修繕　25件　3,834,930円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

学校給食センターの施設、設備等の保守及び管理を行う業務であり、市が継続していくことが妥当な事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

施設や設備等の老朽化及び経年劣化による修繕等が発生する中、定期的なメンテナンスや修繕を行うことで、設備の不備に起因する学校給食の提供中止の事態を避けることができている。

効率性

評価結果：改善の余地がない

施設管理に特化した事業であり、施設の保守及び衛生管理業務も包括的外部委託を実施、またメンテナンスは学校が長期休業中に計画的に実施することで支出を最小限に抑えている。

事務事業の概要

事務事業名	農地災害復旧事業	担当課	農地整備課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	134

会計	一般会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	11 災害復旧費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 農林施設災害復旧費	施策目標	1	防災・防犯
予算科目 目	1 農地災害復旧費	基本施策	3	災害に強いまちの形成
		取組方針	3	農地・農業用施設の災害対策の推進

事業概要	農業従事者等が地域の農業の維持を図り、併せてその経営の安定に寄与できるように、災害により被災した農地を農業経営が維持できるように復旧する事業

事務事業を構成する細事業					
①	農地災害復旧	⑤		⑨	
②	県土地改良事業団体連合会負担金	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 災害復旧	箇所	目標						該当する災害復旧事業がなかった。
		実績	6	5				
＜指標の計算方法＞ 復旧箇所								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
7,674		4,641			3,033	

事業の実績

①農地災害復旧
　令和7年度は該当する災害復旧事業がなかった。

②県土地改良事業団体連合会負担金
　負担金の支出はなかった。

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・市が実施主体となる国庫補助事業を活用し、緊急性に対応しつつ、厳格なルールの中で最適な災害復旧を行うことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・激甚指定を受けた場合、国庫補助率の増高申請を行うことで地元負担金の軽減を図る等、専門性を用いた対策で災害復旧に取り組むことが出来ている。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・専門性を持った職員により災害査定や地元調整等を行う体制が出来ている。

事務事業の概要

事務事業名	農業用施設災害復旧事業	担当課	農地整備課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	135

会計			一般会計	長期総合計画体系			
予算科目	款	11	災害復旧費	政策目標	1	安全・安心	
	項	1	農林施設災害復旧費	施策目標	1	防災・防犯	
	目	2	農業用施設災害復旧費	基本施策	3	災害に強いまちの形成	
				取組方針	3	農地・農業用施設の災害対策の推進	

事業概要	農業従事者等が地域の農業の維持を図り、併せてその経営の安定に寄与できるように、災害により被災した農業用施設を農業経営が維持できるように復旧する事業

事務事業を構成する細事業					
①	農業施設災害復旧	⑤		⑨	
②	県土地改良事業団体連合会負担金	⑥		⑩	
③	農業用施設災害復旧補助金	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 災害復旧	箇所	目標						該当する災害がなかった。
		実績	5	9				
＜指標の計算方法＞ 復旧箇所								
成果指標 災害現場復旧補助金交付	箇所	目標						該当する災害がなかった。
		実績	393	91				
＜指標の計算方法＞ 交付箇所								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績

①農業施設災害復旧
令和7年度は該当する災害がなかった。

②県土地改良事業団体連合会負担金
負担金の支出はなかった。

③農業用施設災害復旧補助金
令和7年度は該当する災害がなかった。

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・市が実施主体となる国庫補助事業を活用し、緊急性に対応しつつ、厳格なルールの中で最適な災害復旧を行うことは妥当といえる。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・激甚指定を受けた場合、国庫補助率の増高申請を行うことで地元負担金の軽減を図る等、専門性を用いた対策で災害復旧に取り組むこと体制をとることが出来た。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・災害規模により問合せや現地確認の件数が異なるが、業務分担に関わらず課全体で、事業対象の振り分けや災害査定、地元調整等の対応する体制を維持することが出来た。

事務事業の概要

事務事業名	土木施設災害復旧事業	担当課	道路河川課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	137

会計	一般会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	11 災害復旧費		施策目標	1	防災・防犯
予算科目 項	2 公共土木施設災害復旧費		基本施策	3	災害に強いまちの形成
予算科目 目	1 道路橋りょう災害復旧費		取組方針	9	その他

事業概要	市民の安全性を確保するために、被災箇所の復旧工事を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	土木施設災害復旧	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 災害復旧箇所数	箇所	目標						例年、発達する梅雨前線豪雨や台風による施設災害が発生している。R5年度に発生した激甚災害の復旧事業がR6年度に完了したため、R7年度の対応件数は大幅に減少した。
		実績	42	141	2			
＜指標の計算方法＞	被災箇所の復旧箇所数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
72,394	34,573		20,500			17,321

事業の実績

①土木施設災害復旧
・委託
測量設計　2件　4,958,800円
雑草等刈取　2件　9,786,700円
調査業務　1件　496,100円

・工事
2箇所完成　15,639,800円
2箇所繰越　37,600,000円

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・被災した公共土木施設（市道・河川）の復旧を市が行うことは妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・被災箇所を早期に復旧する事は二次被害防止につながり効果的である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法に基づき申請し、国の負担金、補助事業を活用し被災箇所の復旧を行うため、効率的である。

１０．特別会計主要施策の成果

国民健康保険事業勘定特別会計

［歳入］

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
1－1－1 国民健康保険税	国保年金課	1,320,100,000	1,352,849,439	

◎国民健康保険税　現年課税分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
医療給付分	980,921,100	946,850,084	96.5%	—	—
後期支援分	314,250,000	303,426,648	96.6%		
介護納付分	107,617,500	102,572,707	95.3%		
合　　計	1,402,788,600	1,352,849,439	96.4%		

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
医療給付分	941,201,450	911,508,685	96.8%	—	—
後期支援分	317,058,050	307,135,513	96.9%		
介護納付分	109,224,000	104,349,628	95.5%		
合　　計	1,367,483,500	1,322,993,826	96.7%		

◎1人当たりの国民健康保険税

被保険者数（年度平均）	13,101人
調定額（現年課税分）	1,402,788,600
1人当たり調定額	107,075
収入済額（現年課税分）	1,352,849,439
1人当たり収納額	103,263

◎1人当たりの国民健康保険税課税標準額

課税標準額	7,668,466,012
被保険者数	13,285人
1人当たり課税標準額	577,227

注）当初賦課時基礎課税額

◎国民健康保険税収納未済額

現年	世帯数	670世帯
	件　数	2,869件
	収入未済額	50,458,427

◎保険基盤安定軽減

区分		7割	5割	2割	計
医療給付分	世帯	2,650世帯	1,409世帯	983世帯	
	被保険者	3,569人	2,560人	1,770人	
	均等割	78,696,450	40,320,000	11,151,000	130,167,450
	平等割	39,458,650	14,069,000	3,939,100	57,466,750
	軽減税額	118,155,100	54,389,000	15,090,100	187,634,200
後期支援分	世帯	2,650世帯	1,409世帯	983世帯	
	被保険者	3,569人	2,560人	1,770人	
	均等割	24,983,000	12,800,000	3,540,000	41,323,000
	平等割	12,555,025	4,476,500	1,253,350	18,284,875
	軽減税額	37,538,025	17,276,500	4,793,350	59,607,875
介護納付分	世帯	1,246世帯	582世帯	383世帯	
	被保険者	1,390人	754人	475人	
	均等割	10,216,500	3,958,500	997,500	15,172,500
	平等割	4,797,100	1,600,500	421,300	6,818,900
	軽減税額	15,013,600	5,559,000	1,418,800	21,991,400
均等割軽減税額		113,895,950	57,078,500	15,688,500	186,662,950
平等割軽減税額		56,810,775	20,146,000	5,613,750	82,570,525
軽減税額計		170,706,725	77,224,500	21,302,250	269,233,475

注）10月末保険基盤安定繰入金算定時

◎未就学児均等割保険料軽減

医療給付分	世　帯	230世帯
	被保険者	305人
	軽減税額	2,784,844
後期支援分	世　帯	230世帯
	被保険者	305人
	軽減税額	884,071
軽減税額計		3,668,915

注）10月末未就学児均等割保険料繰入金算定時

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
	収納対策課	38,000,000	39,827,216	

◎産前産後保険料軽減

医療給付分	世　帯	23世帯
	被保険者	23人
	軽減税額	653,376
後期支援分	世　帯	23世帯
	被保険者	23人
	軽減税額	205,975
介護納付分	世　帯	1世帯
	被保険者	1人
	軽減税額	21,763
軽減税額計		881,114

注）10月末産前産後保険料繰入金算定時

◎賦課割合

賦課区分	応能割			応益割		
		所得割	資産割		均等割	平等割
医療給付分	51.74%	51.74%	0.00%	48.26%	34.09%	14.17%
後期支援分	51.44%	51.44%	0.00%	48.56%	34.28%	14.28%
介護納付分	51.56%	51.56%	0.00%	48.44%	33.80%	14.64%
区分全体	51.58%	51.58%	0.00%	48.42%	34.06%	14.36%

注）当初賦課時

◎国民健康保険税　滞納繰越分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
医療給付分	100,255,261	27,217,258	27.1%	7,931,480	573件
後期支援分	28,190,869	8,312,693	29.5%		
介護納付分	16,752,187	4,297,265	25.7%		
合　計	145,198,317	39,827,216	27.4%		

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
医療給付分	108,035,772	26,000,993	24.1%	14,437,937	1,265件
後期支援分	28,660,824	7,788,550	27.2%		
介護納付分	17,716,429	3,761,502	21.2%		
合　計	154,413,025	37,551,045	24.3%		

◎国民健康保険税収納未済額

滞納繰越	世帯数	454世帯
	件　数	7,357件
	収入未済額	97,451,921

◎国民健康保険税不納欠損

区　分	件数	金　額
地方税法第15条の7第4項 執行停止後3年経過	144件	1,956,092
地方税法第15条の7第5項 即時消滅	243件	4,219,177
地方税法第18条第1項 5年の時効消滅	186件	1,756,211
計	573件	7,931,480
不納欠損世帯数	42世帯	

◎国民健康保険税減免

区　分		世帯数	減免金額
災害	現年分	0世帯	0
	滞繰分	0世帯	0
刑事施設への入所等	現年分	5世帯	151,800
	滞繰分	2世帯	32,300
計			184,100

注）世帯数は現年分と滞繰分で重複有

事務事業の概要

事務事業名	総務費（国保）	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	7001

会計	国民健康保険事業勘定特別会計
予算科目 款	1 総　務　費
予算科目 項	
予算科目 目	

長期総合計画体系			
政策目標	1	安全・安心	
施策目標	2	健康・医療	
基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実	
取組方針	5	国民健康保険制度の安定的運営	

事業概要：国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう管理を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	総務管理費	⑤		⑨	
②	徴税費	⑥		⑩	
③	運営協議会費	⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 国民健康保険税（現年課税分）の収納率	%	目標	97	97	97	97	97.3	収納率は高水準を維持しているが、下降傾向にあるため原因を分析し、対策を講じる必要がある。
		実績	96.8	96.7	96.4			
＜指標の計算方法＞	現年分収納済額÷現年度調定額							
活動指標 資格確認書（資格情報のお知らせ）の交付（年度更新）	枚	目標						後期高齢者医療制度への移行、被用者保険の適用拡大により被保険者数は減少傾向にある。
		実績	14,210	13,399	12,964			
＜指標の計算方法＞	資格確認書（資格情報のお知らせ）の一斉更新対象の被保険者数							
活動指標 国民健康保険事業の運営に関する協議会の開催	回	目標						税率改正などの協議を定年通りスムーズに行い、令和6年度と同様に開催した。
		実績	3	3	3			
＜指標の計算方法＞	実施回数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
45,689	6,314	15,807			34	23,534

事業の実績

①総務管理費
【被保険者の状況（年度平均）】
世帯数　8,322世帯
被保険者数　13,101人
（再掲）介護保険第2号世帯数　3,649世帯
介護保険第2号被保険者　4,408人
◎紀の川市国民健康保険運営
・資格確認書、資格情報のお知らせの更新
・保険者事務電算共同処理委託
・事務システムの保守・開発
・マイナ保険証利用率 R8.2月診　72.3%
・被保険者の年齢構成（R8.3月末）
未成年　1,065人　8.35%
18歳～64歳　5,923人　46.43%
65歳以上　5,768人　45.22%
・職権による資格喪失状況
実施回数 1回　資格喪失通知者 78人
職権喪失者 27人
・特定疾病療養受療証発行 R8.3月末 36件
・県国民健康保険団体連合会負担金
保険者均等割　380,000円
被保険者割　3,343,240円
・保健事業等保険者支援負担金
保険者均等割　39,966円
被保険者割　220,101円
※当該年度の4月末現在での被保険者数に応じて算出（R7.4月末 13,380人）

②徴税費
◎国民健康保険税賦課徴収
・納税通知書等作成・送付
窓口納付 4,532通　口座振替 2,816通
特別徴収 1,237通
・所得分布（当初賦課時）
43万円以下　3,717世帯 42.37%
43超～100万円以下　1,336世帯 15.23%
100超～200万円以下　1,998世帯 22.78%
200超～300万円以下　906世帯 10.33%
300超～400万円以下　359世帯 4.09%
400超～500万円以下　171世帯 1.95%
500万円超　285世帯 3.25%
・賦課限度額超過世帯数（当初賦課時）
医療分　127世帯
後期支援分　76世帯
介護分　78世帯
・口座振替手数料費用
199,826円（単価：10円【税別】）
・コンビニ収納手数料費用
1,816,496円（単価：80円【税別】）
・収納率向上のための徴収員（収納対策課配属）の雇用
・納付相談機会の確保（通知者数）
R7.9月　347人　R8.3月　450人
・特別療養費支給対象者　（R8.3月末）
37世帯 42人 うち18歳未満　7世帯 14人

③運営協議会費
◎紀の川市の国民健康保険事業の運営に関する協議会（委員数17名）
・開催回数　3回

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・保険者として法令に基づき実施する事業であり、すべての人が安心して医療を受けられる国民皆保険制度の基盤となるため妥当性がある。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・保険者として法令に基づき実施する事業であり、安定した国民健康保険運営のための税率設定や資格確認は有効性がある。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・大量印刷（資格確認書、納税通知書等）の印刷、封入などを外部委託しており、事務効率の改善については余地がない状況である。

事務事業の概要

事務事業名	保険給付費（国保）	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	7002

予算科目			長期総合計画体系			
会計		国民健康保険事業勘定特別会計		政策目標	1	安全・安心
	款	2 保険給付費		施策目標	2	健康・医療
	項			基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
	目			取組方針	5	国民健康保険制度の安定的運営

事業概要	国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
① 療養諸費	⑤ 移送費	⑨			
② 高額療養費	⑥ 傷病諸費	⑩			
③ 出産育児諸費	⑦	⑪			
④ 葬祭諸費	⑧	⑫			

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 出産育児一時金支給件数	件	目標	35	35	35	35	35	被保険者数は減少傾向にあり、支給件数は令和6年度と比較して4件の減少となった。
		実績	30	32	28			
＜指標の計算方法＞ 支給実績件数								
活動指標 葬祭費支給件数	件	目標	95	95	95	95	95	被保険者数は減少傾向にあるが、支給件数は令和6年度と比較して11件の増加となった。
		実績	102	90	101			
＜指標の計算方法＞ 支給実績件数								
活動指標 1人あたり費用額	円	目標						1人あたり費用額は増加傾向にある。要因として、医療技術と医薬品の発展及び医療施設の充実による診療機会の増加などが考えられる。
		実績	437,088	443,993	449,731			
＜指標の計算方法＞ 療養給付費・療養費の費用額÷平均被保険者数								
活動指標 1人あたり保険者負担額	円	目標						1人あたり保険者負担額は増加傾向にある。要因として、医療技術と医薬品の発展及び医療施設の充実による診療機会の増加などが考えられる
		実績	320,752	325,413	329,742			
＜指標の計算方法＞ 療養給付費・療養費の保険者負担額÷平均被保険者数								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
5,073,989		5,062,391				11,598

事業の実績

①療養諸費
- ◎給付件数（療養給付費） 249,206件
- ◎給付件数（療養費） 10,197件
- ◎審査支払件数 259,375件

②高額療養費
- ◎給付件数（高額療養費） 13,194件
  - うち算定誤り分
  - 115世帯 733件 4,588,542円 93.8%
- ◎給付件数（高額介護合算療養費） 33件

③出産育児諸費
- ◎支給件数
  - ・500,000円 28件
  - ・488,000円 0件

④葬祭諸費
- ◎支給件数 101件

⑤移送費
- ◎支給件数 0件

⑥傷病諸費
- ◎相談件数 0件
- ◎申請件数 0件
- ◎支給件数 0件

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・国民健康保険法に基づき、都道府県及び市町村が保険者となり、被保険者の疾病、負傷、出産及び死亡に関して必要な保険給付を行う事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費などの支給を行うことで、被保険者が必要な医療等を２～３割の自己負担で利用することができる。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・国民健康保険団体連合会へ事務委託をすることにより、膨大な量のレセプトや療養費申請の審査、高額療養費の算定、交付金申請のための各種帳票作成などの作業が効率化されている。

事務事業の概要

事務事業名	保健事業（国保）	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	7006

会計	国民健康保険事業勘定特別会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	5 保健事業費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項			施策目標	2	健康・医療
予算科目 目			基本施策	1	健康づくりと疾病予防
			取組方針	5	特定健診・特定保健指導の充実

事業概要：特定健康診査等事業や保健事業を通して、被保険者の健康寿命を延伸できるようにする事業

事務事業を構成する細事業

①	特定健康診査等事業	⑤		⑨	
②	保健事業	⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 特定健診受診率	%	目標	42	43.2	43.2	43.2	45.7	対象者数、受診者数ともに減少傾向にあり、受診率も令和6年度よりやや低下した。引き続き特定健診未受診者に対し、電話やハガキ等による受診勧奨等、受診率向上に向けた取組を実施していく必要がある。
		実績	40.7	40.4	39.5			
＜指標の計算方法＞	特定健診受診者数÷特定健診対象者数							
成果指標 特定保健指導利用率	%	目標	36.1	38	50	50	52	令和6年度同様、個別特定健診受診者の内、積極的支援対象者や40歳代及び50歳代の動機付け支援対象者に対し、訪問指導を実施したことにより、目標値には達しなかったが特定保健指導利用率が上昇した。
		実績	36	47.9	48.9			
＜指標の計算方法＞	特定保健指導利用者数÷特定保健指導対象者数							
成果指標 未受診者受診勧奨による受診率	%	目標	70	71.5	74	84	84.5	受診勧奨対象者に対し、勧奨通知に加え、電話や訪問による勧奨を行った結果、目標を達成することが出来た。引き続き受診率向上に向け、医療機関と連携する。
		実績	71	73.5	83.6			
＜指標の計算方法＞	受診者数÷対象者数（糖尿病性腎症重症化予防事業）							
活動指標 医療費通知の通知回数	回	目標	6	6	6	6	6	被保険者が自身の医療費や受診状況等を把握できるよう、年6回定期的に通知することが出来た。
		実績	6	6	6			
＜指標の計算方法＞	医療費通知の通知回数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
100,232		75,916				24,316

事業の実績

①特定健康診査等事業
◎特定健康診査
・対象者:10,694人
受診者: 4,223人 受診率:39.5%
（特定健診受診者内訳）
集団健診受診者: 965人
個別健診受診者:2,999人
脳ドック検診の特定健診受診者:259人

◎特定保健指導
・対象者:313人
利用者:153人 利用率:48.9%
（保健指導内訳）
動機付け支援:対象者247人
利用者123人(49.8%)
積極的支援 :対象者 66人
利用者 30人(45.5%)

◎糖尿病性腎症重症化予防事業
・受診勧奨
対象者: 55人 受診者:46人(83.6%)
・保健指導
対象者:316人 利用者:24人 (7.6%)

◎生活習慣病重症化予防事業
・受診勧奨
対象者: 84人 受診者:63人(75.0%)

②保健事業
◎重複・多剤対策事業
対象者:567人
多剤解消者:172人
重複解消者: 31人

◎スマホdeドック事業
対象者:825人 申込者:125人
受診者:104人(12.6%)

◎脳ドック事業
申込者:363人
承認者:323人 受診者:323人(100%)

事業の事後評価

妥当性
評価結果：改善の余地がない
・特定健康診査及び特定保健指導は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて実施しており、その他保健事業についても、被保険者の健康の保持増進、生活習慣病の早期発見及び重症化予防を図ることを目的に実施する事業で妥当性がある。

有効性
評価結果：改善の余地がない
・被保険者の健康の保持増進、生活習慣病の早期発見及び重症化予防のため、特定健康診査、特定保健指導及びその他保健事業に取り組むことは有効である。

効率性
評価結果：改善の余地がない
・個別特定健康診査受診券印刷業務や、関係課と連携し各種検診案内通知（集団検診申込票含む）作成業務を委託することにより、事務の効率化を図っている。また、集団特定健康診査や保健指導等の申込みにおいて、WEBによる申込方法を追加し、効率性を高めた。

国民健康保険直営診療施設勘定特別会計

事務事業の概要

事務事業名	一般管理事業（直診）	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	186

会計	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	1 施　設　費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 項	1 施設管理費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
予算科目 目	1 一般管理費		取組方針	4	へき地医療体制の充実

事業概要：国民健康保険直営診療施設において適切な医療が提供できるよう、管理運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	一般管理事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 診療日数	日	目標						診療所移転に伴い令和7年12月23日から令和8年1月5日まで休診したが、1年間通じて診察時間（月曜日、火曜日、金曜日は全日、水曜日は午前のみ）通り診察することができ、前年度より診療日数は増加した。
		実績	185	169	184			
＜指標の計算方法＞	診療日数							
成果指標 受診者数	人	目標						鞆渕地区の人口減少に伴い、年間受診者数は減少傾向にある。
		実績	1,123	1,015	890			
＜指標の計算方法＞	延べ受診者数							
成果指標 レセプト請求件数	件	目標						受診者数の減少に伴い、レセプト請求件数も減少傾向にある。
		実績	1,062	941	842			
＜指標の計算方法＞	レセプト請求件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
28,610						28,610

事業の実績

①一般管理事業
・直営診療施設受診者数
　838人（鞆渕診療所）
　52人（細野診療所）
・レセプト請求件数
　790件（鞆渕診療所）
　52件（細野診療所）
※細野診療所は令和7年12月31日で廃止
・管理運営委託料
　鞆渕診療所指定管理事業者への管理運営委託料
　25,635千円
・鞆渕診療所送迎サービス（直営診療施設管理運営委託料に含む）
　高齢者などの交通弱者が鞆渕診療所へ来院できるよう送迎サービスの運行を行う。
【利用状況】
　運行回数　81回
　利用人数　161人
　運行本数は患者を迎えて送り届ける行為を1回として記載する。
・消耗品費（スリッパ、ゴミ箱等）
34,336円
・手数料
浄化槽最終清掃　58,700円
プロパンガス撤去　16,500円
・委託料
鞆渕診療施設等解体工事事前調査業務（アスベスト調査）　1,204,500円
鞆渕診療施設等解体工事設計業務
913,000円
ビジネスフォン保守点検　7,636円
・使用料及び賃借料
鞆渕診療所デジタルカラー複合機賃借料　54,780円
・機械器具費
医師用パソコン　1台　199,980円

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・診療所を設置している地域は山間部など道路交通事情などにより医療の確保が困難なへき地であり、民間の医療機関の参入・進出が見込めない地域であり、また、交通弱者である高齢者が多い地域でもあるため、直営診療施設での医療の提供は、妥当な事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・地域の人口が減少していくことに伴い、受診者数などは減少傾向にあるが、へき地に直営診療施設で医療を提供することは、市が実施する有効な事業である。
・施設をできる限り活用し、令和8年4月から通所リハビリ業務を開始するなど持続可能な診療所の運営ができるよう取り組んでいる。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・令和元年度から指定管理者制度を実施しており、運営の効率化及びコスト削減に取り組んでいる。また、鞆渕地区複合施設に診療所を集約し、施設管理の維持費削減に繋げる。

事務事業の概要

事務事業名	診療施設再編事業（直診）	担当課	国保年金課	事業区分	ハード事業
		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R 1 ～ R 7）
				事業番号	1138

会計	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	1 施　設　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 施設管理費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 目	1 一般管理費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
			取組方針	4	へき地医療体制の充実

事業概要	機能性及び利便性が向上した診療所（施設）において、適切な医療が受診できるよう、鞆渕地区の公共施設（鞆渕出張所・鞆渕診療所・消防詰所）を複合施設などに再編する事業

事務事業を構成する細事業					
①	診療施設再編事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 再編する診療施設数	施設	目標	1	1	1	0	0	建設工事が完了し、鞆渕地区複合施設に診療所を集約し、令和8年1月から新診療所で診察を開始することができた。
		実績	0	0	1			
＜指標の計算方法＞	再編を行った診療施設数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
68,460			39,600			28,860

事業の実績

①診療施設再編事業
・鞆渕地区複合施設建設工事
工事金額　48,450,990円　出来高率100%
面積比：出張所5　消防施設2　診療施設3
内　訳：工事請負費　45,728,490円
監理委託料　2,722,500円

・手数料
県証紙(鞆渕診療所開設許可申請)18,000円

・機械器具等移設業務委託
シュレッダー、プリンター、診察台など診療所内備品及びカルテ等を旧診療所から新診療所への移設業務委託　330,000円

・医療機器購入
レントゲン　8,470,000円
エコー、心電計、診察台等　7,458,000円

・什器購入
事務机、書棚、ソファー等　1,733,600円

・電気機器購入
電話機(ビジネスフォン一式)　1,109,680円
無停電装置、テレビ等　889,680円

【鞆渕診療所　施設概要】
診療室・処置室　51.25㎡　待合室　20㎡
Ｘ線撮影室　6.75㎡　操作室　5.25㎡
診療事務所　25㎡　トイレ　3.82㎡　他
延床面積　184.00㎡
※鞆渕複合施設1階部分延床面積468.00㎡

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・鞆渕出張所及び鞆渕診療所は老朽化しているだけでなく、災害時の立地環境を考慮すると、新たな移転先に両施設と消防施設を集約し、再編することは妥当な事業である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・老朽化した旧診療所では最新の医療サービスを市民に提供することは難しく、また、高齢者が多い地域であるが診療所がバリアフリー化されていないこともあり、通院時にも問題点があったため、新診療所で医療環境を充実させるとともに、通院しやすい施設を建設することは、市民へのよりよい医療サービスの提供に有効な事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、公共施設の維持管理費のコスト削減に繋がるだけでなく、行政事務も今までより効率的に行うことができる。また、補助金や起債を十分に活用し、財源の確保にも努めた。

後期高齢者医療特別会計

［歳入］

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
1－1－1 後期高齢者医療保険料	国保年金課	954,427,000	946,401,552	◎後期高齢者医療保険料　現年度分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
特別徴収分	540,233,700	540,233,700	100%	—	—
普通徴収分	409,912,400	406,167,852	99.1%	—	—
合　　計	950,146,100	946,401,552	99.6%	—	—

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
特別徴収分	497,504,800	497,504,800	100%	—	—
普通徴収分	373,317,900	369,860,109	99.1%	—	—
合　　計	870,822,700	867,364,909	99.6%	—	—

◎1人当たりの後期高齢者医療保険料

被保険者数（年度平均）	11,628人
調定額（現年課税分）	950,146,100
1人当たり調定額	81,712
収入済額（現年課税分）	946,401,552
1人当たり収納額	81,390

◎後期高齢者医療保険料収納未済額

現年	人　数	83人
	件　数	318件
	収入未済額	4,072,548

◎保険基盤安定軽減

区分		医療給付分
7割	被保険者	5,283人
	軽減額	194,579,875
5割	被保険者	1,699人
	軽減額	45,240,965
2割	被保険者	1,374人
	軽減額	14,581,755
被扶養者	被保険者	36人
	軽減額	759,715
計	被保険者	8,392人
	軽減額	255,162,310

注）10月20日現在保険基盤安定繰入金算定時

	2,347,000	2,037,155	◎後期高齢者医療保険料　滞納繰越分	

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	4,767,694	2,037,155	42.7%	420,200	27件
令和6年度	3,374,116	1,993,913	59.1%	288,200	56件

◎後期高齢者医療保険料不納欠損

区　　分	件数	金　　額
地方税法第15条の7第5項 即時消滅	0件	0
高齢者の医療の確保に関する法律 第160条第1項（2年の時効消滅）	27件	420,200
計	27件	420,200
不納欠損人数	8人	

◎後期高齢者医療保険料収納未済額

滞納繰越	人　数	30人
	件　数	186件
	収入未済額	2,391,439

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事　業　等　実　施　内　容
				◎後期高齢者医療保険料減免

区　　分		減額率	人数	減免金額
災害	現年分	10割	4人	168,900
		5割	0人	0
	滞繰分	10割	0人	0
		5割	0人	0
刑事施設への入所等	現年分	10割	1人	40,600
	滞繰分	10割	0人	0
計			5人	209,500

事務事業の概要

事務事業名	一般管理事業（後期）	担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業		
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	391
会計	後期高齢者医療特別会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
予算科目 款	1 総　務　費		施策目標	2	健康・医療			
予算科目 項	1 総務管理費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実			
予算科目 目	1 一般管理費		取組方針	9	その他			
事業概要	後期高齢者医療制度に基づき、被保険者が医療保険を利用できるよう、受付等の業務を行う事業							

事務事業を構成する細事業					
①	一般管理事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 被保険者数	人	目標						団塊の世代が75歳に到達し、それ以降の方々も団塊の世代ほどではないが一定数あるため、被保険者数は増加傾向になる。
		実績	11,239	11,486	11,767			
＜指標の計算方法＞	紀の川市の被保険者数（年度末）							
活動指標 被保険者証（新規）送付件数	件	目標						団塊の世代が75歳に達しているが、ピークが過ぎ、新規で資格確認書を送付する件数が前年度より減少した。
		実績	1,146	1,007	964			
＜指標の計算方法＞	新規取得の被保険者証送付件数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,442						4,442

事業の実績

①一般管理事業
◎被保険者の状況
・被保険者の年齢構成（R8.3月末）
65歳～69歳　68人　0.58%
70歳～74歳　125人　1.06%
75歳～79歳　4,860人　41.30%
80歳～84歳　3,025人　25.71%
85歳～89歳　2,054人　17.46%
90歳～94歳　1,183人　10.05%
95歳～99歳　394人　3.35%
100歳～　58人　0.49%
計　11,767人
・被保険者の負担割合（R8.3月末）
1割負担　8,877人　75.44%
2割負担　2,276人　19.34%
3割負担　614人　5.22%
・マイナ保険証利用率 R8.1月診　45.9%
・特定疾病療養受療証の発行件数
R8.3月末　108件
・被保険者新規加入者数
年齢到達　964人
障害認定　29人
計　993人
・特別療養費支給対象者（R8.3月末）　0人
◎郵送件数
・資格確認書(年次更新)郵送　11,453通
・資格確認書(新規)郵送　964通
・高額介護合算通知書郵送　982通
・高額療養費支給勧奨通知　970通
※減額証・限度証は、令和6年12月2日で廃止となり、資格確認書に限度額区分を併記

事業の事後評価

妥当性
評価結果　改善の余地がない
・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業であるため、妥当性がある。

有効性
評価結果　改善の余地がない
・被保険者に資格確認書や高額療養費などの支給勧奨通知を郵送することは、医療保険を利用するにあたり有効性がある。

効率性
評価結果　改善の余地がない
・資格確認書は和歌山県後期高齢者医療広域連合から封入封緘された状態で納品されており、事業効率の改善については余地がない状況である。

事務事業の概要

事務事業名	徴収事業（後期）	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	392

会計	後期高齢者医療特別会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	1 総　務　費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	2 徴　収　費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 目	1 徴　収　費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
			取組方針	9	その他

事業概要	後期高齢者医療制度に基づき、保険料徴収等の業務を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	徴収事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 現年度分保険料収納率	%	目標	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	収納率は高水準を維持している。
		実績	99.7	99.6	99.6			
＜指標の計算方法＞	現年度保険料収納率							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
8,024	3,113				5	4,906

事業の実績

①徴収事業
◎保険料の納付書、督促状等の作成・発送
・当初額決定通知書作成・送付
窓口納付　1,430通　口座振替　1,563通
特別徴収　8,665通
・督促状作成・送付　1,424通
・納付済証明書作成・送付　3,956通
・更正通知作成・送付　1,510通
・賦課限度額超過被保険者数（R8.3月末）
84人（緩和措置0人）
◎システム開発委託料
子ども・子育て支援金制度施行に伴う後期高齢者医療システム改修　3,113,000円
◎帳票印刷等業務委託料
本算定・月次更正等の作成、帳票印字、封入封緘委託料　2,497,900円
◎保険料徴収関係件数
・口座振替依頼件数　9,323件
・口座振替手数料費用
101,061円（単価：10円【税別】）
・コンビニ収納件数　3,938件
・コンビニ収納手数料費用
346,544円（単価：80円【税別】）
・催告（通知者数）
R7.9月　61人　R8.3月　133人
・納付相談機会の確保（通知者数）
R7.12月　153人

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するため妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・後期高齢者医療の運営に必要な保険料の徴収に係る事務であり有効性がある。

効率性

評価結果　改善の余地がない

・保険料額決定（変更）通知書や納入通知書等の大量印刷物の印刷や封入封緘を外部委託しており、事務効率の改善については余地がない状況である。

事務事業の概要

事務事業名	保健事業（後期）	担当課	国保年金課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	428
会計	後期高齢者医療特別会計	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心
予算科目 款	3 保健事業費		施策目標	2	健康・医療
予算科目 項	1 保健事業費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実
予算科目 目	1 保健事業費		取組方針	9	その他
事業概要	脳ドック検診を受診することで、高齢者の健康維持、疾病を早期発見し、健康寿命を延伸するための事業				

事務事業を構成する細事業					
①	保健事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 脳ドック検診の受診者数	人	目標	80	90	100	110	110	被保険者数の増加や国民健康保険加入者の申込者数などを考慮し受診者数を増加させている。
		実績	84	95	110			
＜指標の計算方法＞	脳ドック検診の受診者数							
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
4,519					1,658	2,861

事業の実績

①保健事業
◎被保険者の脳ドック検診に要した費用の一部を助成
申込者 ： 179人
承認者 ： 110人
受診者 ： 110人（100%）

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・脳ドック助成は、脳血管疾患等の発症又は進行を防止することによる高齢者の健康保持のために、妥当な事業である。

有効性

評価結果：改善の余地がややある

・脳ドック助成は、脳血管疾患等の発症又は進行を防止することによる高齢者の健康保持のために、有効な事業である。
・毎年、多数の脳ドック検診申込者があり、また今後の被保険者数の増加や国民健康保険加入者の申し込み状況を考慮して、関係医療機関との調整を図りながら助成対象者数の増加を検討する必要がある。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・脳ドック助成対象者の募集、抽選をいずれも国民健康保険被保険者分と同時に行うことで、事業の効率化を図っている。

介護保険事業勘定特別会計

［歳入］

（単位：円）

款　項　目	担当課	予算現額	収入済額	事業等実施内容
1－1－1 第１号被保険者保険料	高齢介護課	1,497,005,000	1,548,002,683	◎介護保険料段階別人数（令和8年3月末現在） ・65歳以上の方の保険料は、所得段階によって分かれます。

所得段階	被保険者数	所得段階	被保険者数
第1段階	3,504	第9段階	509
第2段階	1,796	第10段階	238
第3段階	1,528	第11段階	111
第4段階	2,210	第12段階	70
第5段階	2,336	第13段階	44
第6段階	3,066	第14段階	28
第7段階	3,239	第15段階	147
第8段階	1,323	合計	20,149

◎介護保険料　現年度分

令和7年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
特別徴収分	1,418,025,000	1,418,025,000	100.0%	—	—
普通徴収分	134,373,200	129,977,683	96.7%	—	—
合　　計	1,552,398,200	1,548,002,683	99.7%	—	—

令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
特別徴収分	1,387,955,900	1,387,955,900	100.0%	—	—
普通徴収分	142,313,000	137,691,214	96.8%	—	—
合　　計	1,530,268,900	1,525,647,114	99.7%	—	—

	4,500,000	2,901,251	◎介護保険料　滞納繰越分

年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
				額	件数
令和7年度	8,145,920	2,901,251	35.6%	1,274,854	35件
令和6年度	7,304,813	3,408,419	46.7%	1,696,009	35件

［歳出］

事務事業の概要

事務事業名	総務費（介護）	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	8001

会計	介護保険事業勘定特別会計
予算科目 款	1 総　務　費
予算科目 項	
予算科目 目	

長期総合計画体系			
政策目標	1	安全・安心
施策目標	3	福祉
基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
取組方針	4	介護保険制度の持続可能性の確保

事業概要	介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業

事務事業を構成する細事業					
①	一般管理事業	⑤	介護保険事業計画策定事業	⑨	
②	賦課徴収事業	⑥		⑩	
③	介護認定審査会運営事業	⑦		⑪	
④	認定調査事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 介護保険料収納率	%	目標	96.8	98.8	98.8	98.8	98.8	保険料収納率は目標値を上回り、高水準を維持している。
		実績	99.4	99.4	99.4			
＜指標の計算方法＞	特別徴収・普通徴収・滞納繰越分の合計収納率							
活動指標 要介護（支援）認定者数	人	目標	4,703	4,488	4,510	4,538	4,248	要介護（支援）認定者数は、目標値と比べ93.7%とほぼ目標どおりであった。 被保険者数・認定者数ともにここ数年は減少傾向にあり、認定率も低下傾向にある。
		実績	4,354	4,269	4,226			
＜指標の計算方法＞	各年度末認定者数							
活動指標 介護認定審査会開催回数	件	目標	190	190	190	150	150	審査会開催件数については令和6年度と比較して減少している。令和5年度の審査会から認定期間の延長を最大48箇月にした効果が表れているものと考えられる。
		実績	149	115	108			
＜指標の計算方法＞	認定審査会の開催回数							
	日	目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
109,455						109,455

事業の実績

①一般管理事業
被保険者の状況（令和8年3月末現在）
65歳以上75歳未満　8,343人
75歳以上85歳未満　8,016人
85歳以上　3,790人
うち外国人被保険者　40人
うち住所地特例被保険者　140人
合計　20,149人

②賦課徴収事業
・介護保険料の過誤納による還付金
還付件数　253件

・介護保険料の過誤納による還付加算金
加算件数　3件

・減免件数　8件

③介護認定審査会運営事業
・介護認定審査会の開催
審査回数　108回
審査件数　3,188件
・要介護（要支援）認定者数

	第1号被保険者	第2号被保険者
要支援1	525人	4人
要支援2	685人	9人
要介護1	702人	5人
要介護2	673人	8人
要介護3	600人	6人
要介護4	633人	10人
要介護5	356人	10人
小計	4,174人	52人
合計	4,226人	

④認定調査事業
認定調査件数　3,189件

⑤介護保険事業計画策定事業
第10期介護保険事業計画（令和9～11年度）
・策定委員数　16人
・策定委員会実施回数　2回
・策定委員会協議等内容
高齢者実態調査の実施、結果報告等

事業の事後評価

妥当性

評価結果　改善の余地がない

・介護保険法等により市に義務付けられた事業であり、妥当である。

有効性

評価結果　改善の余地がない

・指標の性質上、目標値は介護保険事業計画における計画値である。
・介護保険財源を適切に確保し、公正な要介護認定を行い、介護保険制度の円滑かつ適正な運営を図ることで、適正な介護サービスを提供する事業である。

効率性

評価結果　改善の余地がややある

・認定審査会事業の一部委託、認定審査会のオンライン開催、認定調査システムの導入による平準化を進め、業務の効率化を図っている。
・DX等の活用や事務見直しを行いながら、事務効率化を図っていく必要がある。

事務事業の概要

事務事業名	保険給付費（介護）	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し
				事業番号	8002

会計	介護保険事業勘定特別会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	2 保険給付費		政策目標	1	安全・安心
予算科目 項			施策目標	3	福祉
予算科目 目			基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
			取組方針	4	介護保険制度の持続可能性の確保

事業概要：介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業

事務事業を構成する細事業

①	居宅介護(予防）サービス等給付事業	⑤	特定入所者介護(予防）サービス等事業	⑨	
②	地域密着型介護(予防）サービス給付事業	⑥		⑩	
③	施設介護サービス給付事業	⑦		⑪	
④	高額介護(予防）サービス等事業	⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 第1号被保険者数	人	目標	20,023	20,229	20,192	20,148	19,986	第１号被保険者は令和2年度以降、20,200人前後で推移していたが、今後も減少し、令和17（2035）年には20,000人を下回ると推計している。
		実績	20,229	20,184	20,149			
＜指標の計算方法＞	65歳以上・住所地特例者含む（目標値は計画値）							
活動指標 居宅介護（介護予防）サービス受給者数	人	目標	27,852	28,188	28,152	28,284	28,218	令和6年度と比較して、訪問看護、居宅療養管理指導が増加した。在宅で介護サービスを受ける方が増加したと分析している。
		実績	28,663	28,358	28,393			
＜指標の計算方法＞	第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）							
活動指標 施設介護サービス受給者数	件	目標	8,364	8,400	8,400	8,400	8,400	在宅での生活をする方が増加したため、施設利用者が減少したと分析している。
		実績	8,460	8,531	8,350			
＜指標の計算方法＞	第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）							
活動指標 地域密着型介護（介護予防）サービス受給者数	件	目標	4,428	4,740	5,028	5,172	5,100	令和7年度中に地域密着型通所介護事業所が1箇所廃止した影響により、サービス受給者が減少したと分析している。
		実績	4,380	4,256	3,898			
＜指標の計算方法＞	第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
6,878,755	1,686,286	994,723			1,846,138	2,351,608

事業の実績

①居宅介護(予防）サービス等給付事業
訪問介護サービスや通所介護サービスなど居宅において利用するサービスへの給付を行う

要支援者　5,131人
要介護者　23,262人
合計　28,393人

②地域密着型介護(予防）サービス給付事業
地域密着型事業所等を利用するサービスへの給付を行う

要支援者　5人
要介護者　3,893人
合計　3,898人

③施設介護サービス給付事業
介護保険施設において利用するサービスへの給付を行う

介護老人福祉施設　5,636人
介護老人保健施設　1,933人
介護医療院　781人

④高額介護(予防）サービス等事業
利用した介護サービス費用が基準を超えた分について利用者に給付を行う

高額介護（予防）サービス　13,767件
高額医療合算介護（予防）サービス　919件

⑤特定入所者介護(予防）サービス等事業
低所得者が施設利用したときに食費・居住費等の利用負担が限度額を超えた分への給付を行う

【食費】
介護老人福祉施設　3,054件
介護老人保健施設　780件
介護医療院　374件
地域密着型介護老人福祉施設　195件
短期入所生活・療養介護　897件
【居住費】
介護老人福祉施設　3,129件
介護老人保健施設　780件
介護医療院　395件
地域密着型介護老人福祉施設　195件
短期入所生活・療養介護　919件

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・介護保険法第3条の規定により、市が行う事業であり妥当である。
・介護保険法の各規定に基づき、介護（予防）給付の対象者及びサービス給付費等は全国で同じである。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・介護保険法等により市に義務付けられた各事業であり、適正に実施している。
・高齢者人口及び介護サービス受給者は微減であるが、給付費は増加傾向である。今後も制度の持続性を図るため、介護サービスの質の向上に加え、介護給付費の適正化が求められている。
・介護サービスを利用することで、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができる。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・介護保険法等関係法令に基づき市に実施を義務付けられた事業であり、給付に関する事務等について効率化を図り実施している。
・制度の趣旨の普及やケアプラン点検等の介護給付費適正化事業を継続的に実施していく。

事務事業の概要

事務事業名	地域支援事業費（介護）	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	8003

予算科目			長期総合計画体系			
会計	介護保険事業勘定特別会計		政策目標	1	安全・安心
款	4	地域支援事業費	施策目標	3	福祉
項			基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
目			取組方針	4	介護保険制度の持続可能性の確保

事業概要：被保険者が、要介護状態等になることを予防し、社会に参加しつつ、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援する事業

事務事業を構成する細事業

①	介護予防・生活支援サービス事業	⑤	地域リハビリテーション活動支援事業	⑨	
②	介護予防ケアマネジメント事業	⑥	介護予防把握事業	⑩	
③	介護予防普及啓発事業	⑦	包括的支援事業	⑪	
④	地域介護予防活動支援事業	⑧	任意事業	⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
活動指標 要介護（要支援）認定率	%	目標	23	23	23	23	22	要介護（要支援）認定率は、低下傾向にある。
		実績	21.2	20.9	20.7			
＜指標の計算方法＞	要介護（要支援）認定者÷第1号被保険者数（65歳以上）							
活動指標 紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数	拠点	目標	120	120	120	120	120	新たに6箇所で体操拠点が立ち上がった。拠点数がコロナ以前の数値にまで戻った。
		実績	86	87	93			
＜指標の計算方法＞	紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数							
活動指標 フレイルチェック実施回数	回	目標	145	60	60	60	60	週1回程度を目標とし、ほぼ目標どおり実施した。また、市内のまつりやイベントにも参加し、体操拠点参加者以外への周知も図った。
		実績	53	47	51			
＜指標の計算方法＞	紀の川歩（てくてく）体操活動拠点等においてフレイルチェックを実施した回数							
活動指標 認知症サポーター数	人	目標	5,700	6,200	6,700	7,200	7,700	市民や市内中学校・団体など幅広い年代に講座を実施し、サポーター数を増やすことができた。また、ステップアップ講座も実施できた。
		実績	6,193	6,638	7,123			
＜指標の計算方法＞	認知症サポーター養成講座参加者累計人数							

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
330,271	106,606	44,465			59,358	119,842

事業の実績

①介護予防・生活支援サービス事業
- 訪問型サービス給付…1,571件
- 通所型サービス給付…3,769件
- 高額介護予防サービス費給付…113件
- 事業対象者数（年度末）…84人
- 自立支援型介護予防通所介護事業所認定…5件

②介護予防ケアマネジメント事業…1,871件

③介護予防普及啓発事業
- 予防教室等開催数…250回
- 予防教室等延べ参加人数…3,563人
- 通所型予防教室開催数、延べ参加人数…5箇所で年49回開催、954人

④地域介護予防活動支援事業
- 介護予防自主活動支援…31箇所/87回/延べ815人
- フォローアップ教室開催数、実参加人数…5箇所で年5回開催、98人

⑤地域リハビリテーション活動支援事業
- てくてく体操参加人数…874人
- 専門職（PT等）派遣回数…290回
- フレイルサポーター登録者数…87人

⑥介護予防把握事業
令和7年度は未実施

⑦包括的支援事業
地域包括支援センターの運営
- 総合相談支援事業…6,253件
- 権利擁護事業…1,390件
- 包括・継続的ケアマネジメント支援事業…276件
- 介護予防ケアマネジメント事業…4,993件

認知症施策推進事業の実施
医療と介護の連携推進事業の実施
自立支援、重度化防止推進事業の実施
- 就労的活動支援事業
介護事業所等に高齢者等の雇用ニーズや介護助手・ボランティアの受入調査委託マッチング実績…2件

⑧任意事業
家族介護交流事業の実施
- 実施回数…36回/参加人数…92人

徘徊高齢者対策事業の実施
- 高齢者徘徊早期発見ネットワーク登録者数…94人（年度末時点）
- ＧＰＳ利用者数…15人（年度末時点）

高齢者見守り事業の実施
- 利用者…月平均80人(延回数7,265回)

家族介護慰労事業の実施
- 慰労金支給人数…1人

介護給付費適正化事業の実施
成年後見人制度利用支援事業の実施
- 市長申立…3件
- 後見人報酬助成…5人

事業の事後評価

妥当性

評価結果：改善の余地がない

・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため妥当である。
・令和6年1月認知症基本法施行により、基本的施策である認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深める活動に認知症サポーターの育成は妥当である。

有効性

評価結果：改善の余地がない

・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため適正に実施している。
・「紀の川歩（てくてく）体操」を市内各拠点で実施し、自主的活動への拠点創設、継続に対する支援を行っている。また活動により要介護状態への移行を遅らせることで、自立支援・重度化防止に有効であり、自立状態を継続できるよう地域資源として周知し、活用を促進している。
・フレイルサポーターによるフレイルチェックを実施することでフレイル予防の周知を行い、参加者だけでなくサポーターのフレイル予防に有効である。また広くフレイル予防を周知することは要介護認定率の低下と介護保険給付費の抑制につながる。
・認知症基本法施行において、基本的施策である認知症の人に関する正しい理解を深める取り組みとして認知症サポーター養成講座は有効である。

効率性

評価結果：改善の余地がない

・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため適正に実施している。
・要介護（要支援）認定率の低下と介護保険給付費の抑制を目指し、地域ボランティア（フレイルサポーター等）を育成することで、ボランティアを中心に市民自ら主体となり、積極的に介護予防・健康づくり活動を実践しているため効率性は高い。
・認知症サポーター等に対するステップアップ講座の実施により、地域において見守りや啓発活動を行うチームオレンジの育成につながる。

事務事業の概要

事務事業名	保健福祉事業費（介護）	担当課	高齢介護課	事業区分	ソフト事業
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	8004

会計	介護保険事業勘定特別会計	長期総合計画体系			
予算科目 款	5 保健福祉事業費	政策目標	1	安全・安心
予算科目 項	1 保健福祉事業費	施策目標	3	福祉
予算科目 目	1 保健福祉事業費	基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
		取組方針	4	介護保険制度の持続可能性の確保

事業概要	寝たきりや認知症等により日常生活において常時紙おむつ等を必要とする要介護認定を受けた高齢者等に対し、紙おむつ又は尿取りパッドの購入の助成を行い、高齢者及びその家族の介護に係る肉体的、精神的及び経済的負担の軽減を図る事業

事務事業を構成する細事業					
①	保健福祉事業	⑤		⑨	
②		⑥		⑩	
③		⑦		⑪	
④		⑧		⑫	

指標の実績

指標名	単位		R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	指標の分析
成果指標 紙おむつ助成券交付数	人	目標						助成した件数は令和6年度と比較してほぼ横ばいである。
		実績	604	600	559			
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								
		目標						
		実績						
＜指標の計算方法＞								

コストの実績

R 7年度決算額（単位：千円）	財源内訳					
	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
20,815						20,815

事業の実績

①保健福祉事業
地域支援事業の任意事業で実施してきた紙おむつ購入助成事業は、令和6年度より保健福祉事業を新設し、任意事業から移行し事業を継続

紙おむつ購入助成事業の実施
・交付数（要介護１・２）…203人
・交付数（要介護３～５）…356人

助成額
・要介護1-2
上限年30,000円(月額2,500円)
・要介護3-5
上限年55,200円(月額4,600円)

事業の事後評価

妥当性

評価結果 改善の余地がない

・常時紙おむつ等を必要とする要介護認定を受けた高齢者等に対して、紙おむつ等の購入費の一部を助成することは、高齢者福祉の増進につながり、経済的負担の軽減を図ることが出来ている。
・第9期紀の川市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画に基づき実施する事業であるため妥当である。

有効性

評価結果 改善の余地がない

・在宅で常時紙おむつ等を使用する高齢者及びその家族の介護に係る肉体的、精神的及び経済的負担の軽減を図るものであり、第9期紀の川市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の取組の方向性に合致している。

効率性

評価結果 改善の余地がややある

・今後も高齢化が進むと推測されるため、この事業を続けていく必要があるが、保健福祉事業の財源は、第1号被保険者の保険料100%で賄うため、助成対象者が増加すると保険料の増額につながる事も踏まえ、次期の計画に向け対象者の支給要件等の見直しが必要である。

財産区特別会計

［歳入・歳出］

（単位：円）

<table>
<tr><th>財産区名</th><th>担当課</th><th>歳入総額</th><th>歳出総額</th><th>事業等実施内容</th></tr>
<tr><td>池田財産区</td><td>林務課</td><td>4,083,769</td><td>2,810,403</td><td>◎歳入の主なものは土地賃貸料及び採掘権収入。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金、地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。
<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人（ほか取締人1人、看守人1人）</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>3回管理会開催（巡視2回）</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>358件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>867.9</td></tr><tr><td>地域活動事業補助金</td><td>中畑集会所床修繕工事、北大井集会所エアコン購入事業</td></tr><tr><td>有害鳥獣防除補助金</td><td>猟友会打田分会への補助金</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>田中財産区</td><td>林務課</td><td>4,596,577</td><td>2,954,814</td><td>◎歳入の主なものは土地賃貸料。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金、森林保育委託費及び地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。
<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人（ほか取締人1人、看守人1人）</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>3回管理会開催（巡視2回）</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>80件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>250.0</td></tr><tr><td>森林保育委託事業</td><td>伐採・下刈り業務</td></tr><tr><td>地域活動事業補助金</td><td>打田地区集会所防火カーペット取替・サッシ取替</td></tr><tr><td>有害鳥獣防除補助金</td><td>猟友会打田分会への補助金</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>長田竜門財産区</td><td>林務課</td><td>761,898</td><td>735,170</td><td>◎歳入の主なものは土地賃貸料。歳出では地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。
<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>6人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>34件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>114.7</td></tr><tr><td>地域活動事業補助金</td><td>長田竜門6ケ字区有山管理事業への補助金</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>竜門財産区</td><td>林務課</td><td>107,679</td><td>36,740</td><td>◎主な事業内容等は次のとおりです。
<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>6件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>192.2</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>南北志野財産区</td><td>林務課</td><td>436,777</td><td>59,960</td><td>◎主な事業内容等は次のとおりです。
<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>5人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>24件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>61.8</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>飯盛財産区</td><td>林務課</td><td>251,047</td><td>104,250</td><td>◎主な事業内容等は次のとおりです。
<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>6人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>2件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>163.5</td></tr><tr><td>雑草等刈取業務</td><td>麻生津中草刈業務</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>静川財産区</td><td>林務課</td><td>337,789</td><td>89,350</td><td>◎主な事業内容等は次のとおりです。
<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>8件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>45.0</td></tr></table></td></tr>
</table>

（単位：円）

<table>
<tr><th>財産区名</th><th>担当課</th><th>歳入総額</th><th>歳出総額</th><th>事業等実施内容</th></tr>
<tr><td>最上、神田、市場、元財産区</td><td>林務課</td><td>1,166,795</td><td>747,402</td><td>◎主な事業内容等は次のとおりです。<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>187.5</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>調月財産区</td><td>林務課</td><td>710,396</td><td>696,528</td><td>◎主な事業内容等は次のとおりです。<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>38.3</td></tr><tr><td>地域活動事業補助金</td><td>調月地域活性化事業への補助金</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>丸栖財産区</td><td>林務課</td><td>863,752</td><td>509,650</td><td>◎主な事業内容等は次のとおりです。<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>1件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>23.9</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>平池財産区</td><td>林務課</td><td>1,363,617</td><td>1,112,113</td><td>◎主な事業内容等は次のとおりです。<table><tr><th>事業等</th><th>内容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>1件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>11.2</td></tr><tr><td>雑草等刈取委託事業</td><td>平池堤防草刈り</td></tr><tr><td>神戸区平池水利管理事業補助金</td><td>平池水路斜樋修繕事業への補助金</td></tr></table></td></tr>
</table>